



**PUBLIC (公開)**

SAP BusinessObjects Business Intelligence Suite

ドキュメントバージョン: 4.3 Support Package 4 – 2023-12-07

# **Business Intelligence Suite エラーメッセージの説明**

# 目次

<b>1</b>	<b>ドキュメント履歴.....</b>	<b>50</b>
<b>2</b>	<b>アドミニストレーションおよびセキュリティエラーメッセージ.....</b>	<b>51</b>
2.1	アドミニストレーション (ADM) エラー.....	51
2.2	アドミニストレーションウィザード (ADW) エラーメッセージ.....	51
2.3	BIP フレームワークミドルウェア (FWM) エラーメッセージ.....	51
	FWM 00001 ~ FWM 00012.....	52
	FWM 01001 ~ FWM 01014.....	56
	FWM 02001 ~ FWM 02137.....	60
	FWM 03002 ~ FWM 03012.....	89
	FWM 04002 ~ FWM 04038.....	92
	FWM 05001 ~ FWM 05003.....	104
	FWM 08001 ~ FWM 08006.....	105
	FWM 10001 ~ FWM 10007.....	107
	FWM 12001 ~ FWM 12013.....	109
	FWM 14001 ~ FWM 14009.....	113
	FWM 16001 ~ FWM 16005.....	117
	FWM 17001 ~ FWM 17003.....	118
	FWM 20030 ~ FWM 20032.....	119
	FWM 22001 ~ FWM 22024.....	121
	FWM 23000 ~ FWM 23066.....	126
	FWM 24001.....	149
	FWM 25001.....	150
2.4	BI プラットフォームサーバ (FWB) に関するエラーメッセージ.....	150
	FWB 00001 - FWB 00999.....	151
	FWB 01000 - FWB 01999.....	184
	FWB 02000 - FWB 02999.....	186
	FWB 06001 - FWB 06005.....	187
	FWB 07001 - FWB 07004.....	188
2.5	セキュリティ (USR) エラー.....	189
	Designer を使用する権限がありません。(USR0006).....	189
<b>3</b>	<b>Analysis, edition for OLAP のエラー.....</b>	<b>190</b>
3.1	AOC 00000 - 09999.....	190
	元のワークスペースを置き換える際に問題が発生しました。もう一度実行するか、[名前を付けて保存] を使用してください。(AOC00001).....	190
	Analysis, edition for OLAP は不明な理由によりワークスペースを保存できませんでした。[名前を付けて保存] を使用してワークスペースを保存し、すべてのエントリフィールドが	

入力されていることを確認してください。問題が解決しない場合は、管理者に連絡してください。(AOC00002).....	190
Analysis, edition for OLAP はワークスペースを保存できませんでした。多くの原因が考えられます。セッションがタイムアウトしたか、ネットワークで問題が発生したか、Enterprise Server がオフラインである可能性があります。問題の原因がセッションのタイムアウトの場合は、ワークスペースがお気に入りフォルダに保存されていることがあります。問題が解決しない場合は、ログオフしてもう一度ログオンしてください。(AOC00003).....	191
Analysis, edition for OLAP がワークスペースを開けませんでした。ワークスペースが破損しました。管理者に問い合わせてください。(AOC00005).....	191
Analysis, edition for OLAP が要求されたワークスペースを見つけられませんでした。削除された可能性があります。(AOC00006).....	192
ワークスペースの復元中にエラーが発生しました。管理者に連絡してください。(AOC00007).....	192
SAP BusinessObjects Analysis, edition for OLAP がワークスペースを保存できませんでした。名前がありません。有効な名前を入力してから再試行してください。(AOC00008).....	192
Analysis, edition for OLAP はワークスペースを保存できませんでした。ワークスペースフォルダがありません。有効なフォルダを選択してから再試行してください。(AOC00009).....	193
このフォルダを保存する権限がありません。この権限を有効にする必要がある場合は、管理者に連絡してください。(AOC00011).....	193
BI プラットフォームサーバから接続を取得しようとして、エラーが発生しました。サーバが実行中であることを管理者に確認してください。(AOC00012).....	193
接続を取得しようとして、エラーが発生しました。すべての接続は使用できませんでした。問題が解決しない場合は、管理者に連絡してください。(AOC00013).....	194
要求された操作を実行する権限がありません。サポートが必要な場合は、システム管理者に連絡してください。(AOC00018).....	194
利用可能な OLAP 接続がありません。セントラル管理コンソールで定義された接続がないか、既存の OLAP 接続を表示する権限を持っていない可能性があります。詳細は管理者に問い合わせてください。(AOC00020).....	194
Analysis, edition for OLAP が最後のアクションを完了できませんでした。Please try again. 問題が解決しない場合は、管理者に連絡してください。(AOC00021).....	195
Analysis, edition for OLAP は "{0}" を削除できませんでした。分析は接続を失いました。接続を再確立するには、ワークスペースを閉じてもう一度開く必要があります。(AOC00022).....	195
レポートパラメータの取得中にエラーが発生しました。この操作をもう一度実行してください。問題が解決しない場合は、管理者に連絡してください。(AOC00023).....	196
Analysis, edition for OLAP クライアントが MDAS サービスに接続できないため、要求された操作は正常に完了しませんでした。この操作をもう一度実行してください。問題が解決しない場合は、管理者に連絡してください。(AOC00040).....	196
Analysis, edition for OLAP からの要求を処理中に MDAS サービスでエラーが発生しました。この操作をもう一度実行してください。問題が解決しない場合は、管理者に連絡してください。(AOC00041).....	196
Analysis, edition for OLAP が接続を開けませんでした。ユーザ名とパスワードが正しいことを確認してもう一度実行してください。問題が解決しない場合は、管理者に連絡してください。(AOC00044).....	197

	Analysis, edition for OLAP からの要求がクエリを無効な状態にするため、この要求の処理中に MDAS サービスでエラーが発生しました。このエラーは、すべての階層を同じ軸に設定しようとしたために発生した可能性があります。問題が解決しない場合は、管理者に連絡してください。(AOC00045).....	197
	階層の競合があるため、Analysis, edition for OLAP からの要求を処理中に MDAS サービスでエラーが発生しました。この競合は、2 つの相互に排他的な階層を同じ軸に設定しようとしたために発生した可能性があります。問題が解決しない場合は、管理者に連絡してください。(AOC00046).....	198
	最終的なクエリがデータセルに許可されている最大量を超えたため、要求された操作を完了できませんでした。管理者に連絡して、MDAS サービスの最大データセルの制限を CMC で変更してください。(AOC00047).....	198
	この階層の選択メンバーがなくなるため、このメンバーは削除できません。(AOC00048).....	198
<b>4</b>	<b>BI セマンティックレイヤ Java SDK (SLS) のエラーメッセージ.....</b>	<b>200</b>
4.1	ファイル "{0}" が見つからなかったか、アクセスできない状態です。あるいは、パスがフォルダを示しています。(SLS 10001).....	200
4.2	フォルダ "{0}" が見つからなかったか、アクセスできない状態です。あるいは、パスがファイルを示しています。(SLS 10002).....	200
4.3	ファイル "{0}" がリポジトリで見つかりません。(SLS 10003).....	200
4.4	フォルダ "{0}" がリポジトリで見つかりません。(SLS 10004).....	201
4.5	ファイル "{0}" はすでに存在します。(SLS 10005).....	201
4.6	リポジトリのパスが無効です。"{0}" は "{1} + [/sub folders/resource name]" のようにする必要があります。(SLS 10006).....	201
4.7	リポジトリのパスが無効です。"{0}" は "{1} + [/サブフォルダ/リソース名] または {2} + [/サブフォルダ/リソース名]" のようにする必要があります。(SLS 10007).....	202
4.8	無効なリソース "{0}" が "{1}" にリンクされています。.....	202
4.9	サービス "{1}" でセッションを CMS "{0}" に設定してください。(SLS 11002).....	202
4.10	データファンデーションが無効です。(SLS 11003).....	203
4.11	データベーステーブルが無効です。(SLS 11004).....	203
4.12	他のビューが存在しない場合、マスタビューを非表示にすることはできません。(SLS 11005).....	203
4.13	コンテキスト "{1}" からの結合 "{0}" がデータファンデーション "{2}" に存在しません。(SLS 11006).....	204
4.14	データファンデーションビュー "{1}" のテーブル {0} はデータファンデーション "{2}" に属さないため削除されます。(SLS 11007).....	204
4.15	データファンデーションのマスタビューの名前 {0} を変更できません。(SLS 11007).....	204
4.16	データファンデーションビューが無効です。(SLS 11008).....	205
4.17	データファンデーションビュー "{0}" では、テーブル {1} を複数回使用できません。(SLS 11009).....	205
4.18	座標 "{0}" はマイナスにできません (テーブル "{1}"、データファンデーションビュー "{2}"、データファンデーション "{3}")。(SLS 11010).....	205
4.19	データファンデーションビュー "{0}" では、null テーブルを含むテーブルビューを使用できません。(SLS 11011).....	206
4.20	データファンデーション "{0}" では、データファンデーションビュー {1} を複数回使用できません。(SLS 11012).....	206

4.21	データファンデーションのマスタビューの説明 "{0}" を変更できません。(SLS 11013).....	206
4.22	{0} はこのコンテキストには登録されていません。(SLS 12002).....	207
4.23	リソース "{0}" は "{1}" に属する必要がありますが、"{2}" に属しています。(SLS 12003) .....	207
4.24	名前が無効です: "{0}"。(SLS 12004).....	207
4.25	名前が無効です: "{0}"。名前を空にしたり、最初または最後の文字をスペースにしたり、文字数を {1} にしたりすることはできません。(SLS 12004).....	208
4.26	テーブル名 ("{0}") は NULL または空白にすることはできません。派生テーブルまたはエイリアステーブルの名前に引用符を含めることはできません。有効なテーブル名を設定してください。(SLS 12004).....	208
4.27	列名を NULL または空にすることはできません。有効な列名を設定してください。(SLS 12004) .....	209
4.28	ビジネスアイテム名 ("{0}") は NULL または空白にすることはできません。最初または最後の文字をスペースにすることはできません。有効なビジネスアイテム名を設定してください。(SLS 12004).....	209
4.29	リソース名 ("{0}") は NULL または空白にすることはできません。{1} 文字を含めたり、最初または最後の文字をスペースにすることはできません。有効なリソース名を設定してください。(SLS 12004).....	209
4.30	プロファイル名 ("{0}") は NULL または空白にすることはできません。{1} 文字を含めたり、最初または最後の文字をスペースにすることはできません。有効なプロファイル名を設定してください。(SLS 12004).....	210
4.31	ビジネスレイヤ "{0}" は公開できません。(SLS 12005).....	210
4.32	ユニバース "{0}" は取得できません。破損している可能性があります。(SLS 12006).....	210
4.33	"{0}" のファイル名の形式は "non_empty_name.{1}" にする必要があります。(SLS 12007) .....	211
4.34	オブジェクト "{0}" は 2 回検出されました。(SLS 12008).....	211
4.35	項目 "{1}" の名前 "{0}" が重複しています。(SLS 12010).....	211
4.36	オブジェクト "{0}" に無効な識別子 "{1}" が含まれています。(SLS 12012).....	212
4.37	オブジェクトが無効です。(SLS 12012).....	212
4.38	項目 "{0}" と "{1}" に同じ識別子 "{2}" が含まれています。(SLS 12013).....	212
4.39	項目 "{0}" には、タイプが "{2}" であるオブジェクト "{1}" を含めることはできません。(SLS 12014).....	213
4.40	エイリアステーブル {0} がデータファンデーションの一部でないテーブル {1} にリンクされません。有効なテーブルを使用してエイリアステーブルを編集してください。(SLS 12015).....	213
4.41	エイリアステーブル {0} に列を含めることはできません。テーブルから列を削除してください。(SLS 12016).....	214
4.42	修飾子を指定する必要があります。(SLS 12017).....	214
4.43	所有者を指定する必要があります。(SLS 12018).....	214
4.44	テーブル {0} の 1 次キーは空の列リストを参照できません。列を 1 次キーに追加してください。(SLS 12020).....	215
4.45	テーブル {0} の 1 次キーはテーブルに存在しない列 {1} を参照しています。有効な列を使用して 1 次キーを編集してください。(SLS 12021).....	215
4.46	リレーショナルフィルタ "{0}" の SELECT 句は設定できません。(SLS 12023).....	215
4.47	リレーショナルフィルタ "{1}" の WHERE 句 "{0}" は無効です。(SLS 12024).....	216



4.48	ビジネスレイヤビュー "{1}" の項目 "{0}" は存在しません。(SLS 12025).....	216
4.49	セキュリティのステータスが "{1}" であるため、セキュリティ保護された要素のリスト "{0}" を空にする必要があります。(SLS 12026).....	216
4.50	オブジェクト "{0}" をビューに明示的に追加することはできません。ディメンション、メジャーおよびフィルタのみを追加できます。影響を受けるフォルダおよび属性は暗黙的に追加されます。(SLS 12027).....	217
4.51	テーブル {0} の 1 次キーはすでに存在しています。既存のキーを使用してください。(SLS 12028).....	217
4.52	テーブル {0} に 1 次キーがありません。有効な 1 次キーを設定してください。(SLS 12029).....	217
4.53	"{0}" という名前のビジネスレイヤビューはすでに存在します。(SLS 12030).....	218
4.54	ビジネスレイヤビューの名前は NULL または空にすることはできません。(SLS 12031).....	218
4.55	ビジネスアイテム "{0}" はビジネスレイヤビュー "{1}" にすでに存在します。(SLS 12032).....	218
4.56	名前が空のカスタムプロパティを次に追加することはできません: "{0}"。(SLS 12033).....	219
4.57	プロパティ "{0}" は次にすでに存在します: "{1}"。(SLS 12034).....	219
4.58	データファンデーションビューの名前は NULL または空にすることはできません。(SLS 12037).....	219
4.59	"{0}" という名前のデータファンデーションビューはすでに存在します。(SLS 12038).....	220
4.60	パラメータの名前は NULL または空にすることはできません。(SLS 12039).....	220
4.61	"{0}" という名前のパラメータはすでに存在します。(SLS 12040).....	220
4.62	パラメータ "{0}" のプロンプト文は NULL または空にすることはできません。(SLS 12041).....	221
4.63	パラメータ "{0}" は値の一覧のみに関連付けることができます。(SLS 12042).....	221
4.64	パラメータ "{0}" は値の一覧、ディメンション、または属性のみに関連付けることができます。(SLS 12043).....	221
4.65	パラメータ "{1}" の回答値 "{0}" がデータ型 "{2}" と一致しません。(SLS 12044).....	222
4.66	"{0}" という名前の値の一覧はすでに存在します。(SLS 12045).....	222
4.67	値の一覧 "{1}" の列 "{0}" を値の一覧 "{2}" から移動することはできません。(SLS 12047).....	222
4.68	値の一覧 "{1}" の "{0}" という名前の列はすでに存在します。(SLS 12048).....	223
4.69	パラメータ "{0}" の回答値のタイプは "{1}" にする必要があります。(SLS 12049).....	223
4.70	パラメータ "{0}" の回答値は NULL にすることはできません。(SLS 12050).....	223
4.71	値の一覧の名前は NULL または空にすることはできません。(SLS 12051).....	224
4.72	キー列 "{0}" が値の一覧 "{1}" に存在しません。(SLS 12052).....	224
4.73	値の一覧 "{1}" の列 "{0}" を独自のキー列にすることはできません。(SLS 12053).....	224
4.74	値の一覧 "{0}" では、クエリ実行のタイムアウトに負数または 9999999 を超える値を指定することはできません。(SLS 12054).....	225
4.75	値の一覧 "{0}" では、最大行数に負数または 9999999 を超える値を指定することはできません。(SLS 12055).....	225
4.76	値の一覧 "{1}" のディメンション "{0}" は存在しません。(SLS 12056).....	225
4.77	値の一覧 "{0}" がデータファンデーションに属していません。(SLS 12057).....	226
4.78	値の一覧 "{0}" がビジネスレイヤに属していません。(SLS 12058).....	226

4.79	値の一覧 "{1}" の非表示の列 "{0}" を関連する値の一覧として使用することはできません。 (SLS 12059).....	226
4.80	値の一覧 "{0}" の列は NULL または空にすることはできません。(SLS 12060).....	227
4.81	タイプ "{1}" の項目 "{0}" をフォルダ "{2}" に複数回含めることはできません。(SLS 12061).....	227
4.82	値の一覧 "{0}" の SQL 式は NULL にすることはできません。(SLS 12062).....	227
4.83	値の一覧 "{1}" の SQL 式 "{0}" が正しくありません。(SLS 12063).....	228
4.84	値の一覧 "{1}" でディメンション "{0}" が重複しています。(SLS 12064).....	228
4.85	パラメータ "{0}" に関連付けられた値の一覧のタイプが正しくありません。(SLS 12065).....	228
4.86	ビジネスアイテムの名前は NULL または空にすることはできません。(SLS 12066).....	229
4.87	プロンプト "{0}" の階層型回答値には、関連する値の一覧の列の深さとして "{1}" つのレベル が必要です。(SLS 12067).....	229
4.88	値の一覧 "{1}" の SQL 式 "{0}" の評価中にエラーが発生しました。SQL 式構文を確認して ください。(SLS 12068).....	229
4.89	値の一覧 "{1}" のクエリ式 "{0}" の評価中にエラーが発生しました XML 式構文を確認して ください。(SLS 12068).....	230
4.90	ナビゲーションパスの名前は NULL または空にすることはできません。(SLS 12069).....	230
4.91	{0} という名前のナビゲーションパスはすでに存在します。(SLS 12070).....	230
4.92	ナビゲーションパス "{1}" のディメンション "{0}" はビジネスレイヤに属していないため、削除 されました。(SLS 12071).....	231
4.93	連合テーブル "{0}" を削除できません。(SLS 12072).....	231
4.94	連合テーブルの名前と説明 "{0}" を変更できません。(SLS 12073).....	231
4.95	連合テーブルの列 "{0}" を変更できません。(SLS 12074).....	232
4.96	オブジェクト "{1}" のプロパティ "{0}" は NULL にできません。(SLS 12075).....	232
4.97	オブジェクト "{1}" のプロパティ "{0}" は空にできません。(SLS 12075).....	232
4.98	名前が null または空のクエリスクリプトプロパティを次に追加することはできません: "{0}"。 (SLS 12076).....	233
4.99	クエリスクリプトプロパティ "{0}" は次にすでに存在します: "{1}"。(SLS 12077).....	233
4.100	ブール値クエリスクリプトプロパティ "{0}" の値 "{1}" は "{2}" で無効です。"はい" また は "いいえ" (大文字/小文字の区別なし) にする必要があります。(SLS 12078).....	233
4.101	整数クエリスクリプトプロパティ "{0}" の値 "{1}" は "{2}" で無効です。数字のみが含ま れている必要があります。(SLS 12079).....	234
4.102	クエリスクリプトプロパティ "{0}" は、"{1}" で null 値を持つことはできません。(SLS 12080).....	234
4.103	事前定義済みクエリスクリプトプロパティ "{0}" は "{1}" で削除できません。(SLS 12081) .....	234
4.104	フィルタ "{0}" のフィルタ部分は無効です。(SLS 12082).....	235
4.105	ビジネスクエリに基づく値の一覧 "{0}" のクエリ指定は無効です。(SLS 12083).....	235
4.106	プロパティは読み取り専用です (SLS 12084).....	235
4.107	リソースがリポジトリで同じロケーション "{0}" にすでに存在します。(SLS 13002).....	236
4.108	依存関係 "{1}" が存在しないため、"{0}" をロードできません。(SLS 13003).....	236
4.109	セキュリティ保護された接続 "{0}" をリポジトリからロードできません。(SLS 13004).....	236
4.110	接続 "{0}" をセキュリティ保護する必要があります。(SLS 13005).....	237

4.111	複数ソース有効ユニバース "{0}" をローカルで公開することは禁止されています。(SLS 13006).....	237
4.112	接続ショートカット "{1}" を使用してユニバース "{0}" をローカルで公開することは禁止されています。(SLS 13007).....	237
4.113	権限が拒否されました。このアクションの実行は許可されません: "{0}" (SLS 15000).....	238
4.114	接続 "{0}" のダウンロード権限は無効になりました。(SLS 15001).....	238
4.115	接続ドライバ "{0}" は不明です。別の接続ドライバを使用してください。(SLS 16000).....	238
4.116	接続ドライバの一覧の取得中にエラーが発生しました¥n"{0}"。(SLS 16002).....	239
4.117	接続は使用できません。(SLS 16003).....	239
4.118	接続パラメータ "{0}" は不明です。有効なパラメータを使用してください。(SLS 16005).....	239
4.119	接続パラメータ "{1}" の値 "{0}" は無効です。(SLS 16006).....	240
4.120	パラメータ "{0}" の設定中にエラーが発生しました。¥n"{1}" (SLS 16007).....	240
4.121	接続パス "{0}" は無効です。(SLS 16008).....	240
4.122	パラメータ "{0}" を読み込めません。(SLS 16009).....	241
4.123	パラメータ "{0}" を変更できません。(SLS 16010).....	241
4.124	接続 "{0}" のテストが失敗しました。理由: "{1}"。(SLS 16012).....	241
4.125	複数ソース有効データファンデーション "{1}" で使用されるその他の接続ではなく、接続 "{0}" が同じ CMS リポジトリに属している必要があります。(SLS 16013).....	242
4.126	データファンデーション "{0}" は、1 つ以上の接続によって接続される必要があります。(SLS 16014).....	242
4.127	複数ソース有効データファンデーションで使用されるようにするには、接続 "{0}" を Data Federator クエリサーバにデプロイする必要があります。(SLS 16015).....	243
4.128	識別子 {1} のビジネスアイテム "{0}" が不明です。有効なビジネスアイテムを使用してください。(SLS 16016).....	243
4.129	ユニバースのパス "{0}" は無効です。(SLS 17001).....	243
4.130	リポジトリ識別子 "{0}" は無効であるか、タイプがサポートされていません。.unx リソースのみが許可されます。(SLS 17002).....	244
4.131	データファンデーションにテーブル {0} が含まれていません。テーブル名を訂正してください。(SLS 18001).....	244
4.132	WHERE 句が無効です。NULL または空にすることはできません。(SLS 18003).....	244
4.133	プロファイル名 "{0}" は無効です。(SLS 18004).....	245
4.134	ユーザ名またはグループ名の "{0}" は無効です。(SLS 18005).....	245
4.135	複数のテーブルに同じ名前 {0} が含まれています。別の名前を使用してください。(SLS 18006).....	245
4.136	テーブル {0} の複数の列に同じ名前 {1} が含まれています。別の名前を使用してください。(SLS 18007).....	246
4.137	結合式 "{0}" は無効です。空であるか、重複している可能性があります。(SLS 18008).....	246
4.138	追加テーブルが見つかりません: "{0}"。(SLS 18009).....	246
4.139	追加テーブルが複数回登録されました: "{0}"。(SLS 18010).....	247
4.140	派生テーブル {0} で無効な式 "{1}" が使用されています。式を訂正してください。(SLS 18011).....	247
4.141	ビジネスレイビューが不明です: "{0}"。(SLS 18012).....	247
4.142	結合 "{0}" は、コンテキスト "{1}" の含まれる結合で重複させることはできません。(SLS 18013).....	248



4.143	結合 "{0}" は、コンテキスト "{1}" の除外結合で重複させることはできません。(SLS 18014).....	248
4.144	結合 "{0}" は、コンテキスト "{1}" の含まれる結合と除外結合の両方に含めることはできません。(SLS 18015).....	248
4.145	プロファイル名 "{0}" はすでに存在します。(SLS 18016).....	249
4.146	プロファイル名 "{0}" は存在しません。(SLS 18016).....	249
4.147	プロファイル "{0}" はユニバースにアタッチされていません。(SLS 18017).....	249
4.148	プロファイル "{0}" はすでにユニバースにアタッチされています。(SLS 18018).....	250
4.149	プロファイル "{0}" は最後の削除以降使用できません。(SLS 18019).....	250
4.150	リポジトリ "{0}" から取得された接続がユニバースで定義されていません。(SLS 19000).....	250
4.151	接続 "{0}" を複数ソース有効ユニバース "{1}" に割り当てることができません。 changeUniverseConnections メソッドを使用してください。(SLS 19001).....	251
4.152	リレーショナル接続 "{0}" を SAP BW または SAS 接続 "{1}" に置換できません。元の接続 を同じタイプの接続に置き換えてください。(SLS 19002).....	251
4.153	リレーショナル接続 "{0}" を OLAP 接続 "{1}" と置き換えることはできません。(SLS 19003).....	251
4.154	SAP BW または SAS 接続 "{0}" をリレーショナル接続 "{1}" に置換できません。元の接続 を同じタイプの接続に置き換えてください。(SLS 19004).....	252
4.155	SAP BW または SAS 接続 "{0}" を OLAP 接続 "{1}" と置き換えることはできません。 (SLS 19005).....	252
4.156	OLAP 接続 "{0}" をリレーショナル接続 "{1}" と置き換えることはできません。(SLS 19006).....	252
4.157	OLAP 接続 "{0}" を SAP BW または SAS 接続 "{1}" と置き換えることはできません。 (SLS 19007).....	253
4.158	タイプ "{0}" の接続をタイプ "{1}" の接続に置換できません。元の接続を同じタイプの接続に 置き換えてください。(SLS 19008).....	253
4.159	OLAP 接続 "{0}" を BICS 接続 "{1}" に置換できません。置換接続は BICS 接続にするこ とはできません。(SLS 19009).....	254
4.160	接続 "{0}" がリポジトリに存在しないか、この接続の表示権限が拒否されました。(SLS 19010) .....	254
4.161	置換接続 "{0}" はすでにユニバースで定義されています。ユニバースで定義されていない新しい 接続を選択してください。(SLS 19011).....	254
4.162	置換接続 "{0}" を登録できません。管理者に連絡して、Data Federator クエリサービスを使 用できるかどうかを確認してください。(SLS 19013).....	255
4.163	ローカル接続 "{0}" は複数ソース有効データファウンデーション {1} に設定できません。(SLS 19014).....	255
4.164	接続パスのマップにはユニバース "{0}" で定義されている接続以外のエントリも含まれていま す。(SLS 19014).....	255
4.165	ユニバースファイルには拡張子 .unv が必要です。(SLS 20000).....	256
4.166	ユニバース "{0}" の変換が失敗しました。(SLS 20001).....	256
4.167	OLAP タイプのコンテンツを含むユニバースは変換できません。(SLS 20003).....	256
4.168	ローカルリソース "{0}" をロードできません。(SLS 22000).....	257
4.169	ドキュメント "{0}" の保存が失敗しました。(SLS 22001).....	257
4.170	メソッドでファイル拡張子またはコンテンツ "{0}" がサポートされていません。(SLS 23001) .....	257

4.171	接続をロードできません。(SLS 23002).....	258
4.172	静的な値の一覧 "{0}" で、行 #{1} の値の数 ({2}) が列の数 ({3}) 未満になっています。 (SLS 24001).....	258
4.173	静的な値の一覧 "{0}" で、行 #{1} の値の数 (" {2} ") が列の数 (" {3} ") を上回っていま す。(SLS 24002).....	258
4.174	静的な値の一覧 "{0}" で、行 #{2} の値 #{1} のタイプ (" {3} ") が一致列のタイプ (" {4} ") と異なります。(SLS 24003).....	259
4.175	パラメータ "{0}" で、関連する値の一覧のデータ型 "{1}" をパラメータのデータ型と同じ "{2}" にする必要があります。(SLS 24004).....	259
4.176	パラメータ "{0}" では、選択したインデックス認識プロンプトは使用できません。これは、キー を含む値の一覧をリストから選択する必要があります。(SLS 24005).....	260
4.177	結合 "{0}" の SQL 式の評価中にエラーが発生しました。SQL 式構文を確認してください。 (SLS 24006).....	260
4.178	集計テーブルの自動参照ではフォルダはサポートされていません。(SLS 24007).....	260
4.179	集計テーブルの自動参照でテーブル名は NULL または空にできません。(SLS 24008).....	261
4.180	テーブル "{0}" の計算列の式 "{1}" は NULL または空にすることはできません。(SLS 24009).....	261
4.181	テーブル "{0}" の計算列 "{2}" の式 "{1}" は無効です。有効な計算列を設定してください。 (SLS 24010).....	261
4.182	"{0}" という名前のコンテキストはすでに存在します。コンテキストに別の名前を付けてくださ い。(SLS 24011).....	262
4.183	コンテキスト名は NULL または空にすることはできません。(SLS 24012).....	262
4.184	列のデータ型は NULL または空にすることはできません。(SLS 24013).....	262
4.185	DataFedoratorSourceInfo に無効なショート名 "{0}" が含まれています。有効なショ ート名を設定してください。(SLS 24014).....	263
4.186	複数の DataFedoratorSourceInfo に同じショート名 "{0}" が含まれています。一意のショ ート名を設定してください。(SLS 24015).....	263
4.187	ビジネスアイテム "{1}" の形式 "{0}" では、テキストプロパティではなくいろプロパティで色 を設定する必要があります (SLS 24017).....	263
4.188	リポジトリ識別子 "{0}" は無効です。(SLS 24018).....	264
4.189	CUID "{0}" は無効であるか、タイプがサポートされていません。 .unx、.unv、および .cnx リソースのみが許可されます。(SLS 24018).....	264
4.190	パス "{0}" が無効であるか、またはそのタイプがサポートされていません。 .unx、.unv、およ び .cnx リソースのみが許可されます。(SLS 24018).....	264
4.191	リソース "{0}" は使用できません。リレーショナル単一ソースユニバースのみがサポートされて います。(SLS 24019).....	265
4.192	ユニバース "{0}" には、セキュリティ保護された接続が含まれていません。(SLS 24020).....	265
4.193	コアユニバース "{0}" は、リンクされたユニバース "{1}" にすでに存在します。(SLS 24021).....	265
4.194	コアユニバース "{0}" は、リンクされたユニバース "{1}" に存在しません。(SLS 24022) .....	266
4.195	コアユニバース "{0}" の接続がリンクされたユニバース "{1}" の 1 つと異なります。(SLS 24022).....	266
4.196	コアユニバース "{1}" から継承された "{0}" のプロパティは、BlItem オブジェクトの状態プ ロパティ以外は変更できません。(SLS 24023).....	266

4.197	コアユニバース "{2}" から継承された "{1}" のプロパティ "{0}"は変更できません。 BlItem オブジェクトの状態プロパティのみを変更できます。(SLS 24023).....	267
4.198	コアユニバース "{2}" から継承された "{1}" のプロパティ "{0}"は、"{3}" から "{4}" に 変更できません。BlItem オブジェクトの状態プロパティのみを変更できます。(SLS 24023) .....	267
<b>5</b>	<b>BI セマンティックレイヤ RESTful Web サービス (WSR) のエラーメッセージ.....</b>	<b>268</b>
5.1	WSR 00080 ~ WSR 00999.....	268
	ドキュメント ({0}) は存在しないか、セキュリティプロファイルによってアクセスが許可され ていません。(WSR 00080).....	268
	予期しないエラーです。(WSR 00999).....	268
5.2	WSR 02000 ~ WSR 02005.....	269
	無効なクエリ id: {0}。(WSR 02000).....	269
	クエリ仕様要素が見つからない。(WSR 02002).....	269
	無効なクエリ仕様のバージョン: {0}。(WSR 02003).....	270
	無効な比較演算子: "{0}"。(WSR 02004).....	270
	無効な相関関係の種類: "{0}"。(WSR 02005).....	270
5.3	WSR 03000 ~ WSR 03004.....	271
	重複クエリオプション: {0}。(WSR 03000).....	271
	サポートされていないクエリオプション: {0}。(WSR 03001).....	271
	クエリオプション "{0}" を設定する必要があります。(WSR 03002).....	271
	"{0}" クエリオプションの無効な値: "{1}"。論理値 (true/false) にする必要がありま す。(WSR 03003).....	272
	"{0}" クエリオプションの無効な値: "{1}"。整数値にする必要があります。(WSR 03004).....	272
5.4	WSR 05000 ~ WSR 05005.....	272
	無効なフロー ID: {0}。(WSR 05000).....	272
	{0} 行のみ使用できます。(WSR 05001).....	273
	無効なエンティティ名: {0}。(WSR 05002).....	273
	無効な行インデックス: {0}。(WSR 05003).....	273
	順位フィルタが無効です。レベルとプロンプトがありません。そのいずれかを追加してくださ い。(WSR 05004).....	274
	The analytical function {0} is invalid. Please use a valid function in the ranking filter. (WSR 05005).....	274
<b>6</b>	<b>BIP サーバ (FWR) エラーメッセージ.....</b>	<b>275</b>
6.1	FWR 000001 ~ 000007.....	275
	_a_内部エラーが発生しました。システム管理者に連絡してください。(FWR 000001)_z_ .....	275
	_a_プロパティ {0} に値がありません。(FWR 000002)_z_.....	275
	_a_プロパティ {0} に無効な値 {1} があります。(FWR 000003)_z_.....	276
	_a_引数 {0} に無効な値 {1} があります。(FWR 000004)_z_.....	276
	_a_オブジェクトの非シリアル化中にエラーが発生しました。(FWR 000005)_z_.....	276
	_a_プロパティ {0} のシリアル化中にエラーが発生しました。(FWR 000006)_z_.....	277

	_a_{0} の値の範囲は {1} から {2} である必要があります。(FWR 000007)_z_	277
6.2	FWR 100001 ~ 100002	277
	内部エラーが発生しました。システム管理者に連絡してください。(FWR 100001)	277
	メモリ不足エラー。システム管理者に連絡してください。(FWR 100002)	278
<b>7</b>	<b>Crystal Reports Server (CRS) エラーメッセージ</b>	<b>279</b>
7.1	CRS 200001 ~ CRS 200005	279
	内部エラーが発生しました。システム管理者にお問い合わせください。(CRS 200001)	279
	メモリ不足エラー。システム管理者にお問い合わせください。(CRS 200002)	279
	ユーザに次の動作を実行する権限がないため、リクエストに失敗しました: {0}。(CRS 200003)	280
	サポートされていないランタイムの更新が検出されました。ユーザ固有のコンテンツをランタイムで追加することはできません。(CRS 200004)	280
	ドリルダウンできません。(CRS 200004) (CRS 200005)	280
7.2	CRS 300001 ~ CRS 300024	281
	内部エラーが発生しました。システム管理者にお問い合わせください。(CRS 300001)	281
	{0} (CRS 300002)	281
	{0} (CRS 300003)	281
	ディスクへエクスポートされたレポートの書き込み中にエラーが発生しました。(CRS 300004)	282
	BOE との通信中にエラーが発生しました: {0} (CRS 300005)	282
	バッチジョブの処理が失敗しました。(CRS 300006)	282
	グローバル配信ルールアラートの処理が失敗しました。(CRS 300007)	283
	ドキュメントを出力先に配信できません。(CRS 300008)	283
	パーソナライゼーションターゲットフィールド: {0} がレポートで見つかりません。(CRS 300009)	283
	BOE プロファイル値を非文字列パラメータフィールド: {0} にマッピングできません (CRS 300010)	284
	プロファイル式を非文字列パラメータフィールド: {0} にマッピングできません (CRS 300011)	284
	パラメータフィールド: {0} はオプションではありません。値の設定は必須です。(CRS 300012)	284
	パラメータフィールド: {0} には複数の値を入力できません。(CRS 300013)	285
	パラメータフィールド: {0} は使用されており、値が必要です。(CRS 300014)	285
	パラメータフィールド: {0} には NULL 値を入力できません。(CRS 300015)	285
	パブリケーションソースドキュメントに保存データがありませんが、保存データは必須です。(CRS 300016)	286
	プロファイル値タイプをフィールド: {0} のレポートフィールドタイプに変換できません (CRS 300017)	286
	データパラメータ: {0} でパーソナライズを行うと、潜在的にパフォーマンスが低下して、受信者ごとに 1 データベースが最新表示されます。(CRS 300018)	286
	論理値グループパラメータ: {0} をパーソナライズできません。論理値グループのパラメータのパーソナライズはサポートされていません。(CRS 300019)	287
	ユーザにドキュメントの印刷権限がありません。(CRS 300020)	287

	ユーザにはドキュメントのダウンロード権限がなく、デフォルトの Enterprise の場所と受信ボックス出力先に対するスケジュール権限しかありません。(CRS 300021).....	287
	多言語レポートをスケジュールできませんでした。(CRS 300022).....	288
	レポート内のアラートを生成できませんでした。(CRS 300023).....	288
	ドキュメントが、ユーザ固有のセキュリティを持つセマンティクレイヤに基づいているため、パブリケーションを実行できません。また、パブリケーションは受信者ごとのバーストモードを使用していません。(CRS 300024).....	288
<b>8</b>	<b>データアクセスエラーメッセージ.....</b>	<b>289</b>
8.1	データプロバイダ (DMA) エラーメッセージ.....	289
	階層構造名が不正です (DMA0002) .....	289
	エクスポート失敗 (DMA0005) .....	290
	このデータプロバイダの編集には、BusinessObjects のインストールされていないコンポーネントが必要です。システム管理者に連絡してください (DMA0006) .....	291
	次のデータプロバイダを最新表示できませんでした：(DMA0007) .....	291
	変数が原因で、データプロバイダを最新表示できませんでした。(DMA0008) .....	292
8.2	ファイル (DPP) に関するエラーメッセージ.....	292
	ファイルを開くことができません。(DPP0001) .....	293
	ストアドプロシージャを使用する権限がありません。(DPP0002) .....	293
8.3	接続 (DPQ) に関するエラーメッセージ.....	293
	接続が定義されていません。(DPQ0001) .....	294
	サーバが応答しません。(DPQ0003) .....	294
	接続の問題：(DPQ0005) .....	294
	が存在しません。(DPQ0006) .....	295
8.4	ストアドプロシージャ (DPS) エラーメッセージ.....	295
	このストアドプロシージャは削除されました。(DPS0001) .....	296
	ストアドプロシージャを使用する権限がありません。(DPS0002) .....	296
8.5	SQL (QPF) エラーメッセージ.....	296
	承認されている SQL コマンドは「選択」のみです。(QPF0001) .....	297
8.6	SQL クエリ (QP) に関するエラーメッセージ.....	297
	SQL 文生成中にエラーが発生しました。(QP0001) .....	297
	SQL 文生成中に内部メモリエラーが発生しました。(QP0002) .....	298
	SQL 文の生成中にメモリエラーが発生しました。(QP0003) .....	298
	オブジェクトのこの組み合わせは成立しません。(QP0004) .....	298
	外部結合に整合性がありません。(QP0005) .....	299
	デカルト積は使用できません。(QP0006) .....	299
	クエリがテーブルを参照していません。(QP0007) .....	299
	削除されたテーブルへの参照があります。(QP0008) .....	300
	クエリ内に無効なオブジェクトがあります。(QP0009) .....	300
	クエリ内に無効なプロパティがあります。(QP0010) .....	300
	.PRM ファイルが見つかりません。(QP0011) .....	301
	複合条件によりデカルト積が作成されました。(QP0013) .....	301



複合条件内にループがあります。(QP0014)	301
クエリが複雑すぎます。互換性のないオブジェクトを含んだサブクエリがあります。(QP0015)	302
サーバが応答しません。(QP0016)	302
SELECT 句の列が結果オブジェクトと一致しません。(QP0017)	303
変数に構文エラーがあります。(QP0018)	303
オブジェクトを使う権限がありません。(QP0019)	304
アグリゲート認識の解決に失敗しました。(QP0020)	304
メジャーの条件が曖昧です。削除するか分析範囲を取り消してください。(QP0021)	305
結果オブジェクトが少なくとも 1 つ含まれるまでは新規タブを作成できません。(QP0022)	306
サブクエリ同士は組み合わせられません。(QP0023)	306
このクエリは削除できません。まず条件を削除してください。(QP0025)	306
使用されていないオブジェクトをクエリから削除しました。(QP0027)	306
<b>9 データフェデレーション (DFA) のエラーメッセージ</b>	<b>308</b>
9.1 データフェデレーションドライバが見つかりません。(DFA 0003)	308
9.2 カタログのメタデータの取得中に問題が発生しました。(DFA 00010)	308
9.3 次の URL のドライバプロパティを取得できません: '{0}' (DFA 0030)	309
9.4 内部エラーが発生しました。(DFA 20001)	309
9.5 カタログのメタデータの取得中に問題が発生しました。(DFA 30001)	309
9.6 データフェデレーションサービスをホストするサーバに接続できません。(DFA 40001)	310
9.7 データフェデレーションドライバが見つかりません。(DFA 40002)	310
9.8 次の URL のドライバプロパティを取得できません: '{0}' (DFA 40003)	310
9.9 接続 ID の取得中にエラーが発生しました。(DFA 40004)	311
9.10 データフェデレーションクエリエンジンでクエリの説明中にエラーが発生しました。(DFA 50001)	311
9.11 データフェデレーションサービスから関数の一覧を取得できません。(DFA 50002)	311
9.12 データフェデレーションクエリエンジンでクエリの実行中にエラーが発生しました。(DFA 50003)	312
9.13 データフェデレーションサービスから返された XML 結果で XPath クエリを実行中にエラーが発生しました。(DFA 50004)	312
9.14 データフェデレーションサービスから返された XML の解析中にエラーが発生しました。(DFA 50005)	312
9.15 クエリの準備中にエラーが発生しました。(DFA 50006)	313
9.16 システムプロパティを取得できません。(DFA 60001)	313
9.17 クエリのキャンセル中にエラーが発生しました。(DFA 50007)	313
9.18 表示する行が多すぎます。表示できる最大数は '999' です。(DFA 50008)	314
9.19 コネクタ '{0}' の設定をリセットできません。(DFA 60002)	314
9.20 コネクタ '{0}' の設定を取得できません。(DFA 60003)	314
9.21 コネクタ '{0}' の設定を更新できません。(DFA 60004)	315
9.22 コネクタ '{0}' を Ping できません。(DFA 60005)	315
9.23 コネクタ '{0}' 機能を取得できません。(DFA 60006)	315

9.24	データフェデレーションサービスから統計情報を取得できません。(DFA 70001).....	316
9.25	統計情報を更新できません。(DFA 70002).....	316
9.26	システムパラメータを取得できません。(DFA 80002).....	316
9.27	セッションパラメータを取得できません。(DFA 80003).....	317
9.28	スタートアップパラメータを取得できません。(DFA 80004).....	317
9.29	システムパラメータ '{0}' を更新できません。(DFA 80005).....	317
9.30	セッションパラメータ '{0}' を更新できません。(DFA 80006).....	318
9.31	システムパラメータのデフォルト値を復元できません。(DFA 80007).....	318
<b>10</b>	<b>ドキュメントとユニバース交換エラーメッセージ.....</b>	<b>319</b>
10.1	カテゴリ (CAT) に関するエラーメッセージ.....	319
	カテゴリ名に無効な文字が含まれています。有効な文字は次のとおりです。(CAT0001) .....	319
10.2	ドキュメント交換 (DX) エラーメッセージ.....	319
	一時ファイルを作成できません。(DX0001) .....	320
	このワークステーションのファイルにはセキュリティ設定を適用できません。(DX0002) .....	320
	RSS ファイルにアクセスできません。(DX0003) .....	321
	不正な SQL 文が使用されました。(DX0004) .....	321
	インポート中にエラーが発生しました。(DX0005) .....	321
	インポート中にエラーが発生しました。(DX0007) .....	322
	<ドキュメント>のインポート中に不明なエラーが発生しました。インポートはキャンセルされました。<ドキュメント> をインポートできません。(DX0009) .....	322
	<ドキュメント> を閉じることができません。インポートはキャンセルされました。<ドキュメント> をインポートできません。(DX0010) .....	323
	<ドキュメント> に関連したファイルを作成できません。インポートはキャンセルされました。<ドキュメント> をインポートできません。(DX0011) .....	323
	以前のファイルを削除できません。インポートはキャンセルされました。<ドキュメント> をインポートできません。(DX0012) .....	324
	<ドキュメント> に書き込めません。インポートはキャンセルされました。<ドキュメント> をインポートできません。(DX0014) .....	324
	ファイルは削除できません。(DX0017) .....	325
	ファイル名はこのワークステーションでは使えないファイル名です。変更してください。(DX0018) .....	325
	セキュリティファイル <ドキュメント> のエクスポートが要求されましたが、この操作は許可されていません。<ドキュメント>のエクスポートは中止されました。(DX0022) .....	326
	<ドキュメント> のエクスポート中に不明なエラーが発生しました。処理を中止しました。<ドキュメント>はエクスポートされませんでした。(DX0024) .....	326
	<ドキュメント> のエクスポート中にデータベースエラーが発生しました。処理を中止しました。<ドキュメント>はエクスポートされませんでした。(DX0025) .....	327
	<ドキュメント> のエクスポート中にブレークが発生しました。<ドキュメント> はエクスポートされませんでした。(DX0026) .....	328
	<ドキュメント> に関連付けられたファイルを開くことができません。<ドキュメント> はエクスポートされませんでした。(DX0027) .....	328
	dll をロードできません。Microsoft Exchange が正しくインストールされているかチェックしてください。(DX0037) .....	328

	<ドキュメント> に関連付けられたファイルを開くことができません。(DX0040)	329
	メッセージを送信できません。(DX0041)	329
	このドキュメントのプロパティを取得できませんでした。(DX0044)	330
	DB エラー (DX0045)	330
	ドキュメントドメインが応答しません。(DX0046)	330
	このドキュメントをインポートするには新しいバージョンの BusinessObjects が必要です。 (DX0047)	331
	ドキュメントの削除に失敗しました。(DX 00050)	331
10.3	ユニバース交換 (UX) エラーメッセージ	332
	UX0001 - UX0019	332
	UX0020 - UX0039	335
	UX0040 - UX0049	339
	UX0050 - UX0059	344
	UX0060 - UX0071	349
<b>11</b>	<b>Enterprise アプリケーション エラー</b>	<b>354</b>
11.1	Enterprise アプリケーション - SAP (EAS) エラー	354
	EAS 10001 ~ 10010	354
	EAS 30001	358
<b>12</b>	<b>BI プラットフォームクライアントフレームワーク (FWC) に関するエラーメッセージ</b>	<b>359</b>
12.1	(FWC 00001) embedToken URL パラメータは無効か、または logon.embed.secret 設定と一致しないパスワードを使用して暗号化されています。	359
12.2	(FWC 00002) 必須オプション {0} が {1} で見つかりません。	359
12.3	(FWC 00003) ファイル {1} で設定されたオプション {0} の値が無効です。	360
12.4	(FWC 00004) <予約済み>	360
12.5	(FWC 00005) global.properties ファイルの設定 logon.embed.timeout オプションに従い、embedToken URL パラメータの期限が切れました。	360
12.6	(FWC 00006) This page has expired. Please enter your user information and try again.	361
12.7	(FWC 00007) 必須の embedSecret パラメータが設定されていません。このパラメータは、BOE.war で設定された logon.embed.secret オプションと同じ値に設定する必要があります。	361
12.8	(FWC 00008) embedToken の処理中にポータルで内部エラーが発生しました。	362
12.9	(FWC 00009) エイリアス {0} のシステムで EmbedSecret プロパティが設定されていません。	362
<b>13</b>	<b>公開 (FBE) エラー</b>	<b>363</b>
13.1	FBE 40000 - 49999	363
	メソッド {0} は NULL に設定されたパラメータ {1} で呼び出されました。このパラメータを初期化してください。(FBE42001)	363
	クラス {0} のポスト処理プラグインが見つかりませんでした。パブリケーションを適切に設定しましたか?(FBE42003)	363
	アーティファクトファイルをダウンロードできません。FRS がアクセス可能で、ファイルアクセス権限が適切に設定されていますか?(FBE42008)	364

パブリケーションの OnPostProcessPersonalizedDocs プラグインがマージ形式 (CeMergedFormat) に対して定義されていません: {0}。パブリケーションを適切に設定しましたか?(FBE42009).....	364
アーティファクトを ZIP ファイル {0} にマージしようとして IO エラーが発生しました。ファイルアクセス権限が適切に設定されていますか?(FBE42014).....	364
ID {0} のパブリケーションインスタンスはすでに処理され、最初の実行が完了するまで再起動できません。(FBE42016).....	365
空のグローバル配信ルール式が指定されています。パブリケーションを正しく設定していますか?(FBE42017).....	365
CUID {0} のグローバル配信ルールドキュメントは無効です。パブリケーションを正しく設定していますか?(FBE42018).....	366
ID {0} のパブリケーションがソースドキュメントにアクセスできません。パブリケーションを適切に設定しましたか?(FBE42033).....	366
ID {0} のドキュメントは IPublicationInfo インタフェースを使用せず、このパブリケーションと共に処理できません。(FBE42034).....	366
BusinessObjects レポートエンジンは指定されたレポートタイプ {0} を処理できませんでした。(FBE42042).....	367
配布中に CUID {0} の静的ドキュメントが見つかりません。パブリケーションを適切に設定しましたか?(FBE42044).....	367
配布中に ID {0} のパブリケーション アーティファクトが見つかりません。(FBE42045).....	367
prog ID {0} の出力先プラグインが見つかりません。パブリケーションを適切に設定しましたか?(FBE42046).....	368
データプロバイダのデータに最後に処理された受信者 {0} が見つかりません。最後に実行されてからデータベースが変更された場合は、パブリケーションを再スケジュールしてください。(FBE42048).....	368
クラス {0} のポスト配布プラグインを実行できませんでした。プラグインを適切に設定しましたか?(FBE42049).....	368
MHTML ドキュメントをマージできません。(FBE42050).....	369
MHTML ドキュメントの HTML 部分が見つかりません。(FBE42051).....	369
ID {1} のプロファイルに対して ID {0} のプリンシパルから有効なプロファイル値を見つけることができませんでした。(FBE42052).....	369
グローバル配信ルールドキュメントのスケジューリングに失敗しました。(FBE42055).....	370
ソースドキュメントへのアクセス権限が不十分なため、ID {1} のパブリケーションの ID {0} のドキュメントをスケジュールできません。(FBE42056).....	370
ユーザまたはグループ ID {1} およびプロファイル ID {2} のドキュメントタイプ "{0}" のプロファイルフィルタ式が見つかりません。管理者がセントラル管理コンソールのプロファイルのドキュメントタイプ "{0}" のフィルタ式を設定していることを確認してください。(FBE42057).....	371
MHTML ドキュメントをダウンロードできません。管理者に連絡して、Central Management Server と Input/Output File Repository Server サーバが正しく実行されていることを確認してください。(FBE42058).....	371
CMS に管理ログをアップロードできませんでした: {0} (FBE42059).....	371
Enterprise ユーザ名 "{1}" が動的受信者 "{0}" に指定されていましたが、このユーザ名の Enterprise ユーザは存在しません。(FBE42060).....	372

ID "{0}" の動的受信者として複数の Enterprise ユーザ名が指定されていました。1 つの動的受信者に対しては、1 つの Enterprise ユーザ名しか指定できません。(FBE42061)	372
ID {0} のパブリケーション処理の待機中に、予期せずタスクが中断されました。(FBE42062)	372
ID "{0}"、名前 "{1}"、種類 "{2}" のドキュメントのプロセスに対するサービスインスタンスが見つかりませんでした。(FBE42063)	373
ID "{2}" のサーバでホストされる ID "{0}"、名前 "{1}" のサービスで、maxJobs プロパティが指定されません。(FBE42064)	373
ID "{0}"、名前 "{1}" のサービスのサービスホストが見つかりません。(FBE42066)	373
ジョブステータスの StatusMonitor クエリは ID "{0}" のジョブの結果を返しません。オブジェクトは削除されていますか?(FBE42067)	374
13.2 FBE 60000 - 69999	374
InfoStore サービスが見つかりません。CMS は実行され、正しく設定されていますか?(FBE 60002)	374
SDKException がキャッチされました。CMS は実行され、正しく設定されていますか?(FBE 60003)	375
パブリケーションインスタンス '{0}' のパブリケーション送信元 ID を決定できません (ID: {1}) - 処理を続行できません。パブリケーションを適切に設定しましたか?(FBE 60004)	375
パブリケーションインスタンス '{0}' (ID: {1}) のパブリケーション所有者 ID を決定できません (ID: ¥{1¥}) - 処理を続行できません。パブリケーションを適切に設定しましたか? (FBE 60005)	375
送信先 {0} への配布は失敗しました。受信者: {1}、ドキュメントスコープ: {2}。{3} (FBE 60013)	376
ID {0} のスコープバッチ内で配布可能なドキュメントが見つかりません。パブリケーションの設定をチェックし、CMS が実行されているか確認してください。(FBE 60016)	376
サポートされない出力先の種類: {0}。パブリケーションを正しく設定していますか?(FBE 60019)	376
SI_ID {0} のスコープバッチでポスト配布イベントハンドラを完了できませんでした。パブリケーションを正しく設定していますか?(FBE 60022)	377
SI_ID {1}、スコープ {2} のスコープバッチの ID {0} の静的ドキュメントが見つかりません。(FBE 60025)	377
ID {2} で、スコープ {3} のスコープバッチでソースドキュメント SI_ID が {0}、フォーマットが {1} のパブリケーションドキュメントは見つかりません。(FBE 60026)	377
プラグイン {0} のプラグイン設定が無効です。パブリケーションを正しく設定していますか?(FBE 60027)	378
スコープバッチ {1} のポスト配布プラグイン {0} が実行できませんでした。[受信者 "{2}" ~ "{3}"]。(FBE 60029)	378
ID {1} のスコープバッチオブジェクトの ID {0} のアーティファクトには、View/ViewInstance 権限を付与できません。すべて正しく設定されていますか?(FBE 60033)	378
ID {0} で、スコープ {1} のスコープバッチ内で配布ドキュメントは見つかりません。(FBE 60034)	379
Enterprise 受信者 "{0}¥" (ID {1}) にパブリケーションを購読する権限がないため、アーティファクトを配布できません。この権限が与えられるように、BusinessObjects	



Business Intelligence プラットフォーム管理者に問い合わせてください。(FBE 60036)	379
配布ジョブの完了を待機しています。ジョブ ID: %1、名前: %2、種類: %4 の状態の %3 (FBE 60037).....	380
SMTP オプションの宛先アドレスと CC アドレスが指定されていません。アドレスを指定せずに電子メールを配信すると失敗します。宛先アドレスと CC アドレスには、電子メールアドレスまたは %SI_EMAIL_ADDRESS% プレースホルダのいずれかを含める必要があります。(FBE 60038).....	380
%SI_EMAIL_ADDRESS% プレースホルダを置き換えようとしたが、ユーザ名が "{0}" の受信者の電子メールアドレスが空であるか見つかりません。(FBE 60039).....	380
監査が有効であるため、スコープバッチとアーティファクトのクリーンアップをスキップしています。(FBE 60040) .....	381
MHTML ドキュメントをダウンロードできません。管理者に連絡して、Central Management Server と Input/Output File Repository Server サーバが正しく実行されていることを確認してください。(FBE 60041).....	381
ID {1} のグローバル配信ルールドキュメントに指定された式 {0} が無効です。グローバル配信ルールチェックを続行できません。パブリケーションは正しく設定されていますか?(FBE 60100).....	382
ID {0} のパブリケーショングローバル配信ルールドキュメントが無効です。パブリケーションは正しく設定されていますか?(FBE 60101).....	382
ID {0} のグローバル配信ルールドキュメントをスケジュールできませんでした: {1} (FBE 60105).....	382
ID {0} のグローバル配信ドキュメントをクエリできません。(FBE 60106).....	383
グローバル配信ルールジョブの完了を待機しています。ジョブ ID: %1、名前: %2、種類: %4 の状態の %3 (FBE 60107).....	383
ポスト処理プラグインでエラーが発生しました。プラグインクラス {0} をインスタンス化できません。(FBE 60208).....	383
公開サービスは開始されていないか、パブリケーションジョブの実行中に再開されています。(FBE 60211).....	384
WebI パブリケーションでは、“すべての受信者のデータベース フェッチ”および“受信者ごとのデータベース フェッチ”のバースト方法のみサポートされます。(FBE 60212) .....	384
このパブリケーションは、システムにはもう存在しない ID {0} のプロファイルオブジェクトを参照します。(FBE 60213).....	384
ID {1}、スコープ {2} のスコープバッチの ID {0} の静的ドキュメントが見つかりません。(FBE 60216).....	385
ID {2} で、スコープ {3} のスコープバッチでソースドキュメント ID が {0}、フォーマットが {1} のパブリケーションドキュメントは見つかりません。(FBE 60217).....	385
ID {2} で、ID {1} のスコープバッチのプラグインアーティファクト {0} は、出力先を指定していません。(FBE 60218).....	386
ID {2} のスコープバッチに対する ID {1} のアーティファクト {0} には、配布するのに十分な情報が含まれていません。(FBE 60219).....	386
ID {0} のスコープバッチのドキュメントオブジェクトを取得中にエラーが発生しました。(FBE 60220).....	386
このパブリケーションでサポートされていないバーストモードが選択されました。(FBE 60224).....	387

{0} パブリケーションは、"すべての受信者のデータベースフェッチ" バースト方法をサポートしていません。(FBE 60225).....	387
{0} パブリケーションは、"受信者のバッチごとのデータベースフェッチ" バースト方法をサポートしていません。(FBE 60226).....	387
{0} パブリケーションは、"受信者ごとのデータベースフェッチ" バースト方法をサポートしていません。(FBE 60227).....	388
{0} パブリケーションは、選択したバースト方法をサポートしていません。(FBE 60228).....	388
プリンシパル {0} の再配布を実行できません。このプリンシパルは元のパブリケーション受信者ではありません。(FBE 60314).....	388
動的受信者 {0} の再配布を実行できません。これらの受信者は元のパブリケーション受信者ではありません。(FBE 60315).....	389
ユーザまたはグループ '{1}' (ID: {2}) とプロファイル '{3}' (ID: {4}) に対して、ドキュメントの種類 "{0}" のプロファイルフィルタ式が見つかりません。管理者がセントラル管理コンソールで、プロファイルのドキュメントの種類 "{0}" に対するフィルタ式を設定したか確認してください。(FBE 60317).....	389
パブリケーションをスケジュールしたユーザは、ID が {0} の Enterprise 受信者主体に対する表示権限がありません。(FBE 60318).....	390
パブリケーションをスケジュールしたユーザには、ID が {0} の除外された Enterprise 受信者主体に対する表示権限がありません。(FBE 60319).....	390
パブリケーションをスケジュールしたユーザには、ID が {0} のプロファイルに対する表示権限がありません。(FBE 60320).....	390
パブリケーションをスケジュールしたユーザには、主体 '{1}' (ID {2}) の親グループである、ID が {0} のグループに対する表示権限がありません。このグループおよびその親グループのプロファイル値は適用されません。(FBE 60321).....	391
パブリケーションごとの受信者制限 {0} に達しました。ID {2} のユーザ {1} は処理されませんでした。(FBE 60322).....	391
アーティファクトがデフォルトの Enterprise の場所に配布されなかったため、ID {0} のパブリケーションインスタンスを再配布できません。(FBE 60323).....	392
SI_ID {0} の正確なパブリケーションまたは SI_ID {1} の正確なスコープバッチ (あるいはその両方) が見つかりません。パブリケーションは正しく設定され、CMS は実行されていますか?(FBE 60400).....	392
ポスト処理中に例外がキャッチされました。(FBE 60401).....	392
ポスト処理パブリケーションイベントハンドラを取得できません。ポスト処理はスキップされます。(FBE 60402).....	393
SI_ID {0} のスコープバッチ内でスコープが見つかりません。すべて正しく設定されていますか?(FBE 60404).....	393
ポスト処理プラグインでエラーが発生しました。プラグインクラス {0} は例外をスローしました。(FBE 60405).....	394
ポスト処理プラグインクラス {0} は NULL またはゼロの info オブジェクトのセットを返しました。(FBE 60406).....	394
指定されたクラス名 {0} と一致するポスト処理プラグインが見つかりません。(FBE 60408).....	394
プラグイン生成のアーティファクトが作成されましたが、IPublicationInfo を実装していません。アーティファクトは適切に配布されない可能性があります: タイトル = '{0}'、種類 = '{1}' (FBE 60409).....	395

ポスト処理プラグインクラス {0} で作成されたプラグイン生成のアーティファクトをコミット中に例外がキャッチされました。(FBE 60410).....	395
ポスト処理プラグインクラス {1} の progID {0} のプラグインで生成したアーティファクトを作成中に例外がキャッチされました。(FBE 60411).....	395
次のコンテキストのアーティファクトと静的ドキュメントを取得中に例外が発生しました: ScopeBatch = {0}、送信先 = {1}、プラグインクラス = {2} (FBE 60412).....	396
次のコンテキストでアーティファクトと静的ドキュメントをソースドキュメントの順序に従って並べ替えているときに例外が発生しました: ScopeBatch = {0}、出力先 = {1}、プラグインクラス = {2} (FBE 60413).....	396
パブリケーションのソースドキュメントを取得しようとしたときに例外が発生しました。(FBE 60414) .....	397
パブリケーションのソースドキュメントとしてリストされていない、SI_ID: {0} のスコープレベルのドキュメントをポスト処理はスキップしています。パブリケーションを正しく設定していますか?(FBE 60415).....	397
ドキュメントジョブ "{2}" (ID: {0}) のスケジュールに失敗しました: {1} (FBE 60502).....	397
パブリケーション内にはスケジュール可能なドキュメントがありません。(FBE 60503).....	398
パブリケーションのドキュメントの一覧には空の値が含まれています。すべて正しく設定されていますか?(FBE 60504).....	398
ドキュメント '{0}' は、無効なパブリケーションドキュメントなので公開できません。(FBE 60505).....	399
ドキュメントのフィールドマッピングをターゲットドキュメントに追加できません。すべて正しく設定されていますか?(FBE 60506).....	399
ドキュメント '{0}' には、状態情報を含む 1 つのインスタンスが含まれていません。インスタンスが 0 または 1 より大きいのか、インスタンスを取得できません。(FBE 60507).....	399
スケジューリングジョブの完了を待機しています。ジョブ ID: %1、名前: %2、種類: %4 の状態の %3 (FBE 60509).....	400
ドキュメントジョブ "{0}" (ID {1}) の実行中の警告: {2} (FBE 60510).....	400
ドキュメント "{0}" (ID {1}): {2} の処理中にエラーが発生しました (FBE 60512) .....	400
ドキュメント処理中の警告 "{0}" (ID {1}): {2} (FBE 60513).....	401
パラメータが無効なため、ドキュメント処理を開始できませんでした (FBE 60600).....	401
プラグインの種類 {0} はパブリケーションの処理を実行できませんでした。(FBE 60601) .....	401
{0} 例外、メッセージ: {1} (FBE 60602).....	402
<b>14   GUI エラーメッセージ.....</b>	<b>403</b>
14.1   GUI (GUI) に関するエラーメッセージ.....	403
ファイル名に使えない文字が含まれています。(GUI0003) .....	403
ファイルが見つかりません。ファイル名が正しいかどうか確認してください。(GUI0005) .....	403
<名前> パスが見つかりません。パス名が正しいかどうか確認してください。(GUI0006) .....	404
14.2   GUI (GUI) に関するエラーメッセージ.....	404
<名前>が見つかりません。コンポーネントがすべて正しくインストールされているかどうか確認してください。(USU0001) .....	404

<b>15</b>	<b>インフォメーションデザインツールのメッセージ</b>	<b>406</b>
15.1	インフォメーションデザインツール (IDT) のエラーメッセージ	406
	IDT095...ユニバースの変換	406
	IDT15...接続	410
	IDT022...ユニバースの管理	412
	IDT 022112-022130 セキュリティおよび権限	416
	IDT 23100-23150 ファイル、フォルダ、およびリポジトリ	427
15.2	整合性のチェックのマッピング (CIM) エラーメッセージ	437
	CIM 01100... テーブルと列	437
	CIM 01120...変数	442
	CIM 01140...入力列	443
	CIM 01200...接続	444
	CIM 01300...結合	445
	CIM 01400...オブジェクト式	446
	CIM 01500...コンテキスト	456
	CIM 01600...パラメータおよび値の一覧	459
	CIM 01700...クエリ定義	465
	CIM 01800...リソースの依存関係	467
15.3	チェックセキュリティマッピング (CSM) のエラーメッセージ	468
	CSM 00001...データセキュリティプロファイル	468
	CSM 00100...ビジネスセキュリティプロファイル	474
<b>16</b>	<b>Information Engine Services (IES) のエラーメッセージ</b>	<b>481</b>
16.1	IES 00001 ~ IES 01031 クエリ実行エラー	481
	ユニバースで使用できなくなったオブジェクトがあります。(IES 00001)	481
	クエリを最新表示する権限がありません。現在のユーザプロファイルでは利用できないオブジェクトがあります。管理者に連絡して必要な権限を要求してください。(IES 00002)	481
	ユニバースで使用できなくなった定義済みのフィルタがあります。(IES 00003)	482
	ユニバースで使用できなくなったデータベーステーブルがあります。(IES 00004)	482
	プロンプトの定義が無効です。(IES 00005)	482
	アグリゲート認識の定義が無効です。(IES 00006)	483
	フィルタに不正な値があるので、クエリを実行できません。(IES 00007)	483
	このクエリには互換性のないテーブルを参照するオブジェクトが含まれているため、実行できません。(IES 00008)	483
	詳細フィルタに互換性のないオブジェクトが含まれているので、クエリを実行できません。フィルタセットを簡略化してクエリをもう一度実行してください。(IES 00009)	484
	ユニバースの GROUP BY 文に複雑な表現式を使用することができないので、このクエリを実行できません。(IES 00010)	484
	式 "{0}" に複数の属性が含まれています。この構文は、このバージョンではサポートされなくなりました。(IES 00011)	485
	このクエリはデカルト積を作成するため実行することができません。(IES 00012)	485
	クエリスクリプトの生成に失敗しました。管理者に連絡してください。{0} (IES 00013)	486

アグリゲート認識の解決に失敗しました。(IES 00014).....	486
同じテキストにもかかわらず、プロンプトは、異なる値のオペランド、または演算子の引数を使用しています。(IES 00015).....	486
クエリにサポートされない @script() 関数が含まれています。(IES 00016).....	487
次のオブジェクトを結果オブジェクトとして使用することはできません: {0}。管理者に連絡してください。(IES 00017).....	487
次のオブジェクトはクエリフィルタとして使用できません: {0}。管理者に連絡してください。(IES 00018).....	487
クエリフィルタオブジェクトに含まれている、クエリフィルタで使用するオブジェクトの値が多すぎます。(IES 00019).....	488
唯一許可されている SQL 文は SELECT です。{0} (IES 00020).....	488
クエリの 1 つに互換性のないオブジェクトが含まれているため、この複合クエリを実行することができません。(IES 00021).....	488
クエリが WHERE 句を構築中にテーブルを参照していません。(IES 00022).....	489
サブクエリフィルタが無効です。データを取得できないか (null) または結果オブジェクトが定義されていません。(IES 00023).....	489
サブクエリフィルタのオブジェクトタイプに互換性がありません。(IES 00024).....	489
クエリは複雑すぎるため、サンプリング関数を適用できません。関数が適用されると、SQL が生成されないため、クエリは中止されます。クエリ (複合クエリ、または JOIN あるいは SYNCHRO 演算子を持つクエリなど) を単純化してください。(IES 00025).....	490
オプションプロンプトの SQL を再生成できませんでした。次の必須プロンプトはスキップされました: {0}。(IES 00026).....	490
クエリからオプションプロンプトを削除すると、新しいプロンプトが生成されます。これにより、サポートできない複雑さが生じます。(IES 00027).....	490
キー日付パラメータに値が指定されていません。(IES 00028).....	491
書き込み権のあるユーザーがすでにこのユニバースを開いています。(IES 00029).....	491
メジャーを含んでいないクエリはこのユニバースで実行することができません。(IES 00030).....	491
直接入力 SQL クエリに有効な実行可能命令が含まれていません: {detail_message} (IES 00031).....	492
ユニバースが見つかりませんでした。ユニバースがリポジトリから削除されたか、またはリポジトリのユニバースを照会するために十分な権限がありません。(IES 00501).....	492
適切なユーザ権限が見つかりませんでした。 管理者に連絡してください。(IES 00502).....	492
ユニバース {0} にアクセスする権限がありません。 適切な権限を申請するには、管理者に連絡してください。(IES 00503).....	493
このユニバースのデータにアクセスする権限がありません。 適切な権限を申請するには、管理者に連絡してください。(IES 00504).....	493
このユニバース接続のデータにアクセスする権限がありません。 適切な権限を申請するには、管理者に連絡してください。(IES 00505).....	493
ユニバース {0} をリポジトリ {1} からダウンロードできませんでした。使用可能なメモリ容量が十分であることを確認し、再試行してください。(IES 00506).....	494
このコアユニバースのデータにアクセスする権限がありません。 適切な権限を申請するには、管理者に連絡してください。(IES 00507).....	494



ユニバースデータ接続が見つかりませんでした。接続が削除されたか、その接続を使用する権限がありません。(IES 00509).....	494
オブジェクトのいずれかが定義にループを含む派生テーブル (table_name) に基づいているため、このクエリの SQL を生成できません。(IES 00510).....	495
オブジェクトのいずれかが不明な派生テーブル (table_name) に基づいているため、このクエリの SQL を生成できません。(IES 00511).....	495
オブジェクトのいずれかが不正な定義を持つ派生テーブル (table_name) に基づいているため、このクエリの SQL を生成できません。(IES 00512).....	495
構文エラーが原因でクエリステートメントを生成できません。@Variable 関数を使用するステートメントの構文を確認してください。(IES 00513).....	496
SQL 生成パラメータのデータベースファイルをロードできませんでした ({database_name}, {network_layer})。(IES 00514).....	496
予期しない列挙形 {0} です。(IES 01001).....	496
ネストされた @aggregate_aware 関数はサポートされていません。(IES 01002).....	497
循環参照: 式の中の他のビジネスレイヤオブジェクトへの参照を確認してください。(IES 01003).....	497
@Select 参照が無効です。@Select 宣言の定義を確認してください。(IES 01004).....	497
@Where 参照が無効です。@Where 宣言の定義を確認してください。(IES 01005).....	498
ユニバースで使用できなくなったプロンプトパラメータがあります。(IES 01006).....	498
階層参照が正しくありません。(IES 01007).....	498
ソース "{0}" のカタログを取得できません。データファンデーションの接続を確認してください。(IES 01008).....	499
プロンプトは検証することはできませんが、正しい可能性があります。値の一覧または少なくとも 1 つのデフォルト値をプロンプトに関連付けてください。(IES 01010).....	499
100 レベルを超えるネストされた派生テーブルはサポートされていません。(IES 01015).....	499
値の一覧 {0} の定義は無効です。一覧または現在の列が非表示になります。(IES 01025).....	500
16.2 IES 01501 ~ IES 01513 グラフ実行エラー.....	500
データファンデーションにサイクルが含まれているため、検出を実行できません。[ループの表示] コマンドを使用して、サイクルを表示してください。エイリアスまたはコンテキストを検出する前に、サイクルに関連する結合のカーディナリティを変更してください。(IES 01501).....	500
一部のテーブルにカーディナリティが逆の結合が 2 つ以上含まれているため、検出を実行できません: {0}。これらのテーブル間の結合を変更してください。(IES 01502).....	500
すべての結合カーディナリティが設定されていないため、検出を実行できません。すべての結合カーディナリティを設定してください。(IES 01504).....	501
一部のカーディナリティが多対多のため、自動検出は失敗します。(IES 01505).....	501
ファクトテーブルが検出されなかったため、検出を実行できません。ファクトテーブルは、結合の '多' の側がファクトテーブルに接続された '多対一' 結合によって常に他のテーブルに結合されます... (IES 01510).....	502
スキーマ内にループが存在するため、検出を実行できません。[エイリアスの検出] コマンドを使用して、ループを解決するエイリアステーブルを検出してください。(IES 01512).....	502
16.3 IES 10001 ~ IES 10903 クエリ実行エラー (Web Intelligence のみ).....	503
式 '%1%' (場所 %2%) で構文エラーが発生しました。(IES 10001).....	503

関数辞書の初期化中にエラーが発生しました。(IES 10002).....	503
オブジェクト '%1%' (場所: '%2%') がレポート内で一意ではありません。(IES 10005).....	503
オブジェクト '%1%' (場所: '%2%') がレポートに存在しません。(IES 10006).....	504
'=' の後に予期しない空の式があります。(IES 10009).....	504
整数 '%1%' (場所 '%2%') が長すぎます。(IES 10013).....	504
数 '%1%' (場所 '%2%') に、使用している地域設定と互換性のない形式が含まれています。(IES 10014).....	505
'%1%' (場所 '%2%') の後に引用符がありません。(IES 10016).....	505
入力または出力コンテキストでディメンションの一覧が空です。(IES 10032).....	505
変数 '%1%' は、依存式または '%2%' にリンクされている変数を持っているため、削除できません。(IES 10033).....	506
すでに存在する変数名を使用して、変数を作成、または変数名を更新しようとしました。(IES 10034).....	506
日付または時刻の形式 '%1%' (場所 '%2%') が有効ではありません。(IES 10035).....	506
式、または部分式 (場所 '%2%') が有効ではありません。(IES 10036).....	507
'%1%' 関数の式または部分式 (場所 '%2%') で、無効なデータ型が使用されています。(IES 10037).....	507
変数名に、無効な文字 '%1%' (場所: '%2%') が見つかりました。(IES 10038).....	507
変数 '%1%' の数式に、同じショート名を持つ変数への参照が含まれています。(IES 10040).....	508
場所 '%2%' に、誤った比較演算子 (<, >, <>, <=, >=, =) が複数使用されています。(IES 10041).....	508
式が '%1%' を参照している変数をその変数 '%1%' 自体の式が参照しているため、循環参照が発生しています。(IES 10042).....	508
関数 '%1%' (場所 %2%) の後に、開いた括弧がありません。(IES 10060).....	509
関数 '%1%' には引数がないか、または場所 %2% で閉じる括弧がありません。(IES 10061).....	509
関数 '%1%' (場所 %2%) の引数の前に ';' がありません。(IES 10062).....	509
関数 '%1%' (場所 %2%) に ';' または閉じる括弧がありません。(IES 10063).....	510
リスト '%1%' (場所 %2%) に ';' または閉じる括弧がありません。(IES 10064).....	510
関数 '%1%' (場所: %2%) に閉じる括弧がありません。(IES 10065).....	510
関数 '%1%' (場所 %2%) に集計演算子または閉じる括弧がありません。(IES 10066).....	511
'%1%' (場所 %2%) に演算子または閉じる括弧がありません。(IES 10067).....	511
'%1%' (場所 %2%) にリスト要素がありません。(IES 10068).....	511
'%1%' (場所 %2%) にオブジェクト識別子がありません。(IES 10069).....	512
式 '%1%' (場所 %2%) にオペランドがないか、または不適切なオペランドがあります。(IES 10070).....	512
場所 %2% の計算コンテキスト %1% が正しくありません。(IES 10071).....	512
場所 %2% のリセットコンテキストが正しくありません。(IES 10072).....	513
関数 '%1%' の where 句が無効です: 場所 %2% にディメンションが見つかりません。(IES 10073).....	513
オブジェクト '%1%' (場所 %2%) に互換性がありません。(IES 10076).....	513

オブジェクト '%1%' (場所 %2%) に互換性がありません。(IES 10077).....	514
文字 '%1%' (場所 %2%) が無効です。(IES 10080).....	514
文字列 '%1%' (場所 %2%) が無効です。(IES 10082).....	514
変数 '%1%' の資格を変更できません。(IES 10083).....	515
'%1%' (場所 %2%) にはオブジェクトメンバーが必要です。(IES 10084).....	515
メンバー '%1%' (場所 %2%) が無効です。(IES 10085).....	515
定義の設定が無効です。(IES 10086).....	516
カスタム関数をロードできませんでした。(IES 10100).....	516
ソースドキュメントは使用できません。(IES 10501).....	516
リポジトリからソースドキュメントを取得できません。(IES 10502).....	517
ドキュメントを読み取ることができません。アプリケーションではドキュメント形式を認識できません。(IES 10503).....	517
ソースドキュメント '{DocName}' はソースとして使用できません。(IES 10510).....	518
ソースドキュメント '{DocName}' は '起動時に最新表示' されます。ソースとして使用できません。(IES 10511).....	518
ソースドキュメント '{DocName}' は 'オンライン' です。ソースとして使用できません。(IES 10512).....	519
ソースドキュメント '{DocName}' は無効です。循環依存はサポートされていません。(IES 10513).....	519
クエリオブジェクト '{ObjName}' はソースドキュメントにありません。(IES 10520).....	519
使用するデータベースサーバは Both および Except 演算子をサポートしていません。(IES 10701).....	520
フィルタが結果オブジェクトと互換性のないオブジェクトで定義されています。(IES 10702).....	520
'{object}' に基づくクエリフィルタの数値が無効です。(IES 10703).....	520
プロンプト '{prompt}' のデータが無効です。(IES 1070) (IES 10704).....	521
プロンプト '{prompt}' には無効な数値が含まれています。(IES 10705).....	521
プロンプト '{prompt}' のデータが無効です。(IES 10706).....	521
サーバがクエリの SQL を構築できません。(IES 10707).....	522
プロンプト '{PromptName}' のオブジェクト '{ObjName}' は値の一覧を表示できません。クエリをプロンプトから削除するか、管理者に連絡して、オブジェクトのプロパティタブの [一覧から選択] オプションをクリアしてください。(IES 10708).....	522
この名前のクラスがすでに存在します: '{ClassName}'。(IES 10709).....	522
このドキュメントを最新表示する権限がありません。(IES 10801).....	523
このドキュメントのデータソースが更新されました。次回ドキュメントを最新表示するときのパフォーマンスを向上させるために、ドキュメントを保存することをお奨めします。(IES 10805).....	523
クエリ SQL には {nbWanted} 列ではなく {nbHaving} 列があります。(IES 10810).....	523
クエリの列のデータ型が正しくありません。データ型を変更してからもう一度実行してください。(IES 10811).....	524
カスタム SQL とオプションプロンプトの互換性がありません。オプションプロンプトを削除してからもう一度実行してください。(IES 10812).....	524

複合クエリでは互換性のないオブジェクトがサポートされていません。クエリから互換性のないオブジェクトを削除してください。(IES 10820).....	524
'{dp_name}' データプロバイダ内のサブクエリに、見つからないオブジェクトがあります。(IES 10830).....	525
{dp_name}' データプロバイダ内の順位に、フィルタが適用されたオブジェクトが見つかりません。(IES 10831).....	525
'{dp_name}' データプロバイダ内の順位に、順位に基づくオブジェクトが見つかりません。(IES 10832).....	525
ドキュメントをロードできません。(IES 10833).....	526
追加のコンテキスト解決はオプションのプロンプトでサポートされません。(IES 10834).....	526
列 "{col_name}" に無効なデータがあります。(IES 10840).....	526
列 "{col_name}" に無効な UTF-8 文字列があります。(IES 10841).....	527
データ最新表示アクションを完了することができません。これは、最大数の同時データ最新表示アクションがサーバ {nb_thread} / {nb_max_thread} で処理中であるためです。後でもう一度実行してください。(IES 10845).....	527
DB エラー: {error_db}。(IES 10846).....	527
クエリが固定時間制限を超過: {error_db}。(IES 10847).....	528
クエリの作成や更新に必要なファイルがファイルシステムにありません。ファイル "{filename}" が見つかりません。(IES 10850).....	528
クエリの最新表示に必要なファイルがファイルシステムにありません。ファイル "{filename}" が見つかりません。(IES 10851).....	528
このファイルでクエリを最新表示できません。ファイルシステムにファイル "{filename}" がありません。(IES 10852).....	529
個人用データプロバイダでエラーが発生しました: {message}。(IES 10853).....	529
クエリを最新表示できません。"{dpName}" の構造が一致しません。(IES 10854).....	529
Excel 個人用データプロバイダを作成したり、更新したりできません: ファイルパスが無効です。(IES 10870).....	530
Excel 個人用データプロバイダを作成したり、更新したりできません: 指定範囲を取得できません。(IES 10872) (IES 10871).....	530
Excel 個人用データプロバイダを作成したり、更新したりできません: ワークブックを開くことができません。(IES 10872).....	530
Excel 個人用データプロバイダを作成したり、更新したりできません: 指定範囲を取得できません。(IES 10873).....	531
Excel 個人用データプロバイダを作成したり、更新したりできません: ファイルからデータを取得できません。(IES 10874).....	531
Excel 個人用データプロバイダを作成したり、更新したりできません: ファイルからデータを取得できません。(IES 10875).....	531
Excel 個人用データプロバイダを作成したり、更新したりできません: データセットでの反復子を構築できません。(IES 10876).....	532
Excel 個人用データプロバイダを作成したり、更新したりできません: 利用できるワークシートがありません。(IES 10877).....	532
Excel 個人用データプロバイダを作成したり、更新したりできません: ワークシートのリストを取得できません。(IES 10878).....	532

Excel	個人用データプロバイダを作成したり、更新したりできません: 選択した範囲から無効なデータを取得しました。(IES 10879).....	533
Excel	個人用データプロバイダを作成したり、更新したりできません: 選択したワークシートが無効です。(IES 10880).....	533
Excel	個人用データプロバイダを作成したり、更新したりできません: データサンプリングの取得中にエラーが発生しました。(IES 10881).....	533
Excel	個人用データプロバイダを作成したり、更新したりできません: データ反復子の作成中にエラーが発生しました。(IES 10882).....	534
Excel	個人用データプロバイダを作成したり、更新したりできません: データの取得中にエラーが発生しました。(IES 10883).....	534
Excel	個人用データプロバイダを作成したり、更新したりできません: 内部エラーが発生しました。(IES 10884).....	534
Excel	個人用データプロバイダを作成したり、更新したりできません: 範囲選択が無効です。(IES 10885).....	535
Excel	個人用データプロバイダを作成したり、更新したりできません: 範囲選択がワークシートと一致していません。(IES 10886).....	535
	異なる種類を持つ別のクエリのオブジェクトを参照するオブジェクトの条件。(IES 10887).....	535
	存在しない別のクエリのオブジェクトを参照するオブジェクトの条件。(IES 10888).....	536
	クエリに循環依存があります。(IES 10889).....	536
	ユニバースが更新されています。ドキュメントを保存して同期してください。(IES 10901).....	536
	クエリが固定時間制限を超過: {error_db}。(IES 10902).....	537
	無効なデータベースフィールドタイプ: {db_fieldname}。(IES 10903).....	537
<b>17</b>	<b>インストール (INS) エラーメッセージ.....</b>	<b>538</b>
17.1	INS 00000 ~ 00002.....	538
	管理権限を持つユーザアカウントを使用してください。(INS00001).....	538
17.2	INS 00286 ~ 00293.....	538
	この製品を BI プラットフォームサービスと同じマシンにインストールすることはできません。INS000286 (INS00286).....	538
	管理権限を持つユーザアカウントを使用してください。INS00287.....	539
	この製品をルートユーザとしてインストールすることはできません。INS00288.....	539
	前に実行したインストールを完了するには再起動が必要です。Windows を再起動してからインストーラを再実行してください。INS00289.....	539
	先に SAP Crystal Reports Server をアンインストールしてから、同じマシンに #product.boe64_name# をインストールしてください。INS00290.....	540
	このマシンには #product.boe64_name# をインストールできません。INS00291.....	540
	この製品は、64 ビットオペレーティングシステム (OS) にインストールする必要があります。使用している OS がこの要件を満たしていることを確認してください。INS00292.....	541
	localhost (127.0.0.1) またはマシンのホスト名が PING に応答しません。INS00293.....	541
	/tmp フォルダに十分な空きディスク領域がありません。(INS00295).....	541
	UID および GID は 65536 以下である必要があります。INS000296 (INS00296).....	542



	Microsoft .NET Framework 3.5 以上をインストールしてください。(INS00297).....	542
	Microsoft Visual Studio 2005 Tools for Office Second Edition Runtime が 検出されませんでした。インストールしてください。(INS00299).....	542
	Microsoft Office 2003 以上をインストールしてください。(INS00300).....	543
17.3	INS 00301 ~ 00340.....	543
	Microsoft SharePoint 2007 以上または Windows SharePoint Services 3.0 があ りません (INS00301).....	543
	#productname# #product_version# はこの更新より新しいバージョンのため適用できま せん。継続しないことを推奨します。(INS00302).....	543
	Microsoft Office 2007 以上のアップデート (KB907417) が見つかりません (INS00304).....	544
	この製品をインストールする前に、Microsoft Visual Studio 2010 をインストールしてく ださい。(INS00305).....	544
	インストールを続行できません。インストールプログラムが、環境で定義された ODBC システ ム情報ファイルへの書き込みを実行できません: [OdbcIniPath]。バンドルされたデータベ ースに接続するには、インストールプログラムがこのファイルに DSN エントリを書き込む必要 があります。(INS00340).....	545
18	プロモーションマネジメントコンソールのエラーメッセージ.....	546
18.1	ライフサイクルマネジメントのエラーメッセージ.....	546
	LCM CMS が NULL か、ログインされていません (LMC 00001).....	546
	CMS が NULL か、ログインされていません。CMS はソースと出力先のどちらかになります (LMC 00002).....	546
	ユーザ名が NULL または空です (LMC 00003).....	547
	パスワードが NULL または空です (LMC 00004).....	547
	エクスポートするリソースがありません (LMC 00005).....	547
	ソース CMS が NULL か、ログインされていません (LMC 00006).....	548
	出力先 CMS が NULL か、ログインされていません (LMC 00007).....	548
	出力先はソースと同じ場所にはできません。(LMC 00008).....	548
	BusinessObjects LifeCycle Manager へのログインに失敗しました。(LMS 00001) .....	549
	SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォームライフサイクルマネ ジメントコンソールからのログオフに失敗しました。(LMS 00002).....	549
	ジョブにゼロより小さい親 ID が含まれています。このジョブは無効です。(LMS 00003) .....	549
	ジョブを作成できませんでした。スタックトレースを参照してください (LMS 00004).....	550
	ジョブを保存できませんでした (LMS 00005).....	550
	既存のジョブからジョブを作成できませんでした (LMS 00006).....	550
	CMS (ソース/出力先) にログインできませんでした (LMS 00007).....	551
	CMS (ソース/出力先) からログオフできませんでした (LMS 00008).....	551
	ジョブが正常に進行しませんでした (LMS 00009).....	551
	ジョブが実行できなかった理由を特定するため、スタックトレースをチェックしてください (LMS 00010).....	552
	ジョブをスケジュールできませんでした (LMS 00011).....	552

ジョブを取得できません。有効な LCM ジョブを選択してください。(LMS 00012).....	552
名前でジョブを取得できません (LMS 00013).....	553
ジョブ履歴を取得できませんでした。(LMS 00014).....	553
指定された一連の依存関係から一意のリソースを取得できません。(LMS 00015).....	553
CUID = {0} の InfoObject を取得できません。(LMS 00016).....	554
クエリ {0} が失敗しました。(VDS 00013) (LMS 00017).....	554
リソースの一覧をジョブから削除できません。(LMS 00018).....	554
有効なイベントの設定中にエラーが発生しました。スタックトレースを参照してください。 (LMS 00019).....	555
サポートされている監査イベントを取得中にエラーが発生しました。スタックトレースを参照 してください (LMS 00020).....	555
有効な監査イベントを取得中にエラーが発生しました。スタックトレースを参照してください (LMS 00021).....	555
LCM アプリケーションで一般的な例外が発生しました。詳細については、スタックトレースを参 照してください。(LMS 00022).....	556
管理者によってユーザアクセスが拒否されたため、ソース CMS にログインできませんでした。 (LMS 00023).....	556
ユーザが管理者によってアクセスを拒否されたため、出力先 CMS にログインできませんでした (LMS 00024).....	556
リソースをインポートするための LCMBIAR ファイルの場所が存在しないか無効です。(LMS 00025).....	557
LCMBIAR ファイルへのリソースのエクスポート先が見つからないか無効です。(LMS 00026) .....	557
選択したジョブは NULL または無効です。有効な LCM ジョブを選択してください。(LMS 00027) .....	557
バージョン管理ツールにリソースを追加できませんでした (LMS 00101).....	558
リソースのチェックアウトに失敗しました。(LMS 00103).....	558
改訂履歴を取得できませんでした。(LMS 00104).....	558
バージョン管理から改訂を取得できませんでした。(LMS 00105).....	559
最新の改訂を取得できませんでした (LMS 00106).....	559
ワークスペースの改訂を取得できませんでした。(LMS 00107).....	559
バージョン管理システムを取得できませんでした。スタックトレースを参照してください。 (LMS 00108).....	560
リポジトリバージョンを取得できませんでした (LMS 00109).....	560
有効な監査イベントをクリア中にエラーが発生しました。スタックトレースを参照してくださ い。(LMS 0022).....	560
18.2 Visual Difference のエラーメッセージ.....	561
SAP BusinessObjects Visual Difference Server にログインできませんでした。 (VDS 00001).....	561
BusinessObjects Visual Difference からログオフできませんでした。(VDS 00002) .....	561
CMS の一覧の取得中にエラーが発生しました。(VDS 00003).....	561
CMS (ソースまたは出力先) にログインできませんでした。(VDS 00004).....	562
CMS (ソースまたは出力先) からログオフできませんでした。(VDS 00005).....	562

ジョブのスケジュール中にエラーが発生しました (VDS 00006).....	562
Visual Difference Server で一般的な例外が発生しました。詳細については、スタックトレースを参照してください。(VDS 00007).....	563
比較アクションに失敗しました。(VDS 00008).....	563
ファイル " {0} " の初期化に失敗しました。(VDS 00009).....	563
ファイル " {0} " へのオブジェクト一覧の設定に失敗しました。(VDS 00010).....	564
プログラム ID = {0} の Info オブジェクトの作成に失敗しました。(VDS 00012).....	564
CUID = {0} の InfoObject を取得できません。(VDS 00013).....	564
si_id = {0} の Info オブジェクトの作成に失敗しました。(VDS 00014).....	565
プロパティ {0} に値 {1} を設定できませんでした。(VDS 00015).....	565
プロパティ {0} の値を取得できませんでした。(VDS 00016).....	565
監査ハンドラを取得中にエラーが発生しました。スタックトレースを参照してください。(VDS 00017).....	566
監査イベントを追加中にエラーが発生しました。スタックトレースを参照してください。(VDS 00018).....	566
監査イベント詳細を追加中にエラーが発生しました。スタックトレースを参照してください。(VDS 00019).....	566
監査イベントのコミット中にエラーが発生しました。スタックトレースを参照してください。(VDS 00020).....	567
有効なイベントの設定中にエラーが発生しました。スタックトレースを参照してください。(VDS 00021).....	567
サポートされている監査イベントを取得中にエラーが発生しました。スタックトレースを参照してください。(VDS 00022).....	567
有効な監査イベントを取得中にエラーが発生しました。スタックトレースを参照してください。(VDS 00023).....	568
監視イベントの種類の確認中にエラーが発生しました。スタックトレースを参照してください。(VDS 00024).....	568
イベントオブジェクトを取得中にエラーが発生しました。スタックトレースを参照してください。(VDS 00025).....	568
有効な監査イベントをクリア中にエラーが発生しました。スタックトレースを参照してください。(VDS 00026).....	569
ログオントークンの生成中にエラーが発生しました。スタックトレースを参照してください。(VDS 00027).....	569
管理者がユーザへのアクセスを拒否したため、ソース CMS にログインできませんでした。(VDS 00028).....	569
管理者がユーザへのアクセスを拒否したため、出力先 CMS にログインできませんでした。(VDS 00029).....	570
VisualDiff CMS が NULL か、ログインされていません。(VDC 00001).....	570
ユーザ名が NULL または空です。(VDC 00002).....	570
パスワードが NULL または空です。(VDC 00003).....	571
認証が NULL または空です。(VDC 00004).....	571
フォルダ名はすでに存在しています。(VDC 00005).....	571
CMS が NULL か、ログインされていません。CMS はソースと出力先のどちらかになります。(VDC 00007).....	572

	ソース CMS が NULL か、ログインされていません。(VDC 00008).....	572
	出力先 CMS が NULL か、ログインされていません。(VDC 00009).....	572
	指定された形式ごとに日付を解析中にエラーが発生しました。(VDC 00010).....	573
<b>19</b>	<b>値の一覧に関するエラーメッセージ.....</b>	<b>574</b>
19.1	値の一覧 (LOV) に関するエラーメッセージ.....	574
	選択した値が多すぎます。(LOV0001) .....	574
	このユニバースを使用する権限がありません。(LOV0002) .....	575
19.2	値の一覧 (VAR) に関するエラーメッセージ.....	575
	構文エラー (VAR0001) .....	575
<b>20</b>	<b>Live Office (LO) エラー.....</b>	<b>576</b>
20.1	LO 01000 - LO 01999.....	576
	アプリケーションの準備ができていません。後でもう一度実行してください。(LO 01001) .....	576
	最新表示時にエラーが発生しました。(LO 01003).....	576
	このドキュメントをアップグレードできませんでした。(LO 01004).....	577
	データの損失を防ぐために、Microsoft Excel ではワークシートからコンテンツを含むセルをシフトできません。(LO 01005).....	577
20.2	LO 02000 - LO 02999.....	578
	セッションの作成に失敗しました。Web サービス接続を確認してください。(LO 02001).....	578
	Web サービスに接続するときにエラーが発生しました。(LO 02002).....	578
	Web サービスに接続するときにエラーが発生しました。(LO 02003).....	578
	Web サービスに接続するときにエラーが発生しました。(LO 02004).....	579
	Web サービスに接続するときにエラーが発生しました。(LO 02005).....	579
	ファイルを開くときにエラーが発生しました。(LO 02006).....	579
	ファイルを保存するときにエラーが発生しました。(LO 02007).....	580
	Crystal レポートのプロパティを探すときにエラーが発生しました。(LO 02008).....	580
	サーバが使用できません。ネットワーク接続とサーバのステータスを確認してください。(LO 02009).....	581
	レポートを開いているときにエラーが発生しました。このレポートは存在していないか、ユーザーがレポートを開くための十分な権限を持っていないか、または BusinessObjects Web サービスに接続できません。(LO 02010).....	581
	レポートを保存中にエラーが発生しました。レポートは存在しないか、BusinessObjects Web サービスに接続できません。(LO 02011).....	582
	レポートの最新表示中にエラーが発生しました。(LO 02012).....	582
	行セットデータを挿入したときにエラーが発生しました。(LO 02013).....	582
	レポートパーツを挿入したときにエラーが発生しました。(LO 02014).....	583
	ページセグメントを挿入したときにエラーが発生しました。(LO 02015).....	583
	クロスタブを挿入したときにエラーが発生しました。(LO 02016).....	584
	Microsoft Office ドキュメントでエラーが発生しました。(LO 02017).....	584
	BusinessObjects Business Intelligence プラットフォームのクエリでエラーが発生しました。(LO 02018).....	585

Web サービスに接続するときにエラーが発生しました。(LO 02019).....	585
Web サービスに接続するときにエラーが発生しました。(LO 02020).....	585
データソースが見つかりませんでした。(LO 02021).....	586
データソースが見つかりませんでした。(LO 02022).....	586
データソースが見つかりませんでした。(LO 02023).....	586
レポートの最新のインスタンスが見つかりませんでした。(LO 02024).....	587
レポートパーツビューアを初期化したときにエラーが発生しました。(LO 02025).....	587
レポートパーツビューアでオブジェクトを選択したときにエラーが発生しました。(LO 02026).....	588
レポートパーツを選択してください。(LO 02027).....	588
リポジトリエクスプローラを初期化したときにエラーが発生しました。(LO 02028).....	588
ビューアコントロールでエラーが発生しました。(LO 02029).....	589
パラメータコントロールでエラーが発生しました。(LO 02030).....	589
プロンプトダイアログからエラーが発生しました。(LO 02031).....	590
クエリパネルの指定でエラーが発生しました。(LO 02032).....	590
フィールドの値を参照するときにエラーが発生しました。(LO 02035).....	590
現在のドキュメントにオブジェクトがないため、Live Office オブジェクトのプロパティダイアログボックスを表示できません。(LO 02038).....	591
Web Intelligence ドキュメントのクエリの指定が無効です。(LO 02039).....	591
ログオン中にエラーが発生しました。(LO 02040).....	592
Live Office が正しくインストールされていません。AssemblyInfo.xml で {0} の定義が見つかりません。(LO 02041).....	592
Live Office が正しくインストールされていません。{0} のデフォルトコンストラクタの反映中にエラーが発生しました。(LO 02042).....	593
Live Office が正しくインストールされていません。クラス {0} のロード中にエラーが発生しました。(LO 02043).....	593
挿入ウィザードの初期化中にエラーが発生しました。Web サービス接続を確認してください。(LO 02044).....	593
パラメータの更新に失敗しました。(LO 02045).....	594
入力したパラメータは、必要なパラメータの種類と一致しません。(LO 02046).....	594
Live Office オブジェクトのレポートタイプに対応するインスタンスが見つかりません。(LO 02047).....	594
REST サービスからのトークンのリクエスト時にエラーが発生しました (LO 02049).....	595
コンテキストがネストされているプロンプトはサポートされていません (LO 02050).....	595
REST リクエストが BOE システムからのオブジェクト ID 抽出に失敗しました (LO 02052).....	595
20.3 LO 26000 - LO 26999.....	596
Live Office でエラーが発生しました。(LO 26000).....	596
SAP BusinessObjects Live Office を使用するための有効なライセンスがありません。SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォームのシステム管理者に連絡してください。(LO 26003).....	596
正しくないバージョンの SAP BusinessObjects Web サービスに接続しているか、または Web サービスの展開が壊れている可能性があります。(LO 26002).....	596



SAP BusinessObjects Live Office Web サービスでエラーが発生しました。(LO 26004).....	597
XML の解析に失敗しました。(LO 26005).....	597
クライアントの XML がサーバの XML よりも新しいバージョンです (LO 26006).....	597
BusinessObjects Business Intelligence プラットフォームへの接続が失われました。もう一度ログオンしてください。(LO 26007).....	598
現在の最新表示オプションには保存データが必要ですが、そのデータは存在しません。(LO 26008).....	598
Web サーバのメモリが不足しています。システム管理者に連絡してください。(LO 26009).....	598
検索サービスで問題が発生しました。検索操作が間違っています。(LO 26010).....	599
Live Office で問題が発生したため、要求されたアクションを完了できません。(LO 26300).....	599
現在の最新表示オプションにはレポートインスタンスが必要ですが、インスタンスはありません。(LO 26301).....	599
レポート接続 "{0}-{1}" が存在しません。(LO 26302).....	600
Web Intelligence レポートエンジン Web サービスに接続できません (LO 26303).....	600
Web Intelligence レポートエンジン Web サービスに接続できません (LO 26304).....	600
永続化ビューをロードできませんでした。(LO 26307).....	601
レポートパーツのタイプが {0} から {1} に変更されました。(LO 26310).....	601
クエリデータを取得できませんでした (LO 26312).....	601
Web Intelligence レポートパーツ出力データを取得できなかったか、データが無効です (LO 26313).....	602
指定されたレポートからデータを最新表示するための十分な権限がありません。(LO 26314).....	602
ドキュメント情報を取得できませんでした。(LO 26315).....	602
Live Office オブジェクトを取得できませんでした。オンラインピクチャはサポートされていません。(LO 26318).....	603
指定されたレポートからデータを取得する権限がありません。(LO 26604).....	603
Live Office ビューが破損しています。(LO 26605).....	603
最新表示に失敗しました。ビューの最新表示オプションは存在しません。(LO 26606).....	604
Crystal Reports Server にアクセスできません。Crystal Reports Server の接続を確認してください。(LO 26607).....	604
SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォームのオブジェクトが見つかりません。(LO 26608).....	605
レポート接続が存在しません。(LO 26610).....	605
パラメータ値 "{0}" を "{2}" ロケール内の "{1}" に解析できませんでした。(LO 26611).....	605
Crystal レポートを解析できませんでした。(LO 26612).....	606
お使いの Live Office クライアントのバージョンが、SAP BusinessObjects Web サービスのバージョンと一致していません。(LO 26613).....	606
Crystal Reports Server にアクセスできません。Crystal Reports Server の接続を確認してください。(LO 26614).....	606
ビューの表示に失敗しました。レポート CUID {0} が見つかりません。(LO 26615).....	607
セルはすでに存在します。(LO 26616).....	607

入力された値は必要なフィルタタイプではありません。(LO 26617).....	607
レポートを開けませんでした。(LO 26619).....	608
永続化ビューをロードできませんでした。(LO 26620).....	608
この種類のレポートオブジェクトはサポートされていません。(LO 26621) .....	608
指定されたレポートパーツを最新表示できませんでした。指定されたデータコンテキストが存在するか確認してください: {0}。(LO 26626).....	609
見つからないパーツ: (LO 26627).....	609
現在のバージョンは SAP KeyDate 機能をサポートしていません。(LO 26630).....	609
Crystal Reports Java 形式はサポートされていません。(LO 26631).....	610
<b>21 SAP BusinessObjects Mobile (MOB) のエラーメッセージ.....</b>	<b>611</b>
21.1 Mobile サーバのエラーメッセージ.....	611
認証情報: {0} が無効です。ログイン情報が正しいことを確認してください。(MOB 00001) .....	611
{0} 認証により、ログオンできませんでした。ログイン情報が正しいことを確認してください。(MOB 00002).....	611
{0} ドキュメントを開けませんでした。(MOB 00005).....	611
ドキュメントがサーバに存在しません。(MOB 00006).....	612
コマンドの作成中に内部サーバエラーが発生しました。管理者に連絡してください。(MOB 00009).....	612
クライアントから受信した情報に基づいてセッションを作成できませんでした。(MOB 00010) .....	612
ドキュメントのプロンプトが見つかりません。(MOB 00011).....	613
Central Management Server からの情報の取得中に内部サーバエラーが発生しました。(MOB 00012).....	613
クライアント要求の処理中に内部サーバエラーが発生しました。(MOB 00014).....	613
ドキュメントを開く際に内部サーバエラーが発生しました。サーバでクラス {0} が見つかりませんでした。(MOB 00015).....	614
内部エラーが発生しました。- {0} サービスが見つかりませんでした。(MOB 00018).....	614
内部エラーが発生しました。{0} サービスが見つかりませんでした。(MOB 10001).....	614
{0} サービスの作成中に内部エラーが発生しました。(MOB 00019).....	615
クライアント要求の処理中に内部サーバエラーが発生しました。(MOB 00020).....	615
クライアント要求の処理中に内部サーバエラーが発生しました。(MOB 00021).....	615
クライアント要求の処理中に内部サーバエラーが発生しました。(MOB 00022).....	616
クライアント要求の処理中に内部サーバエラーが発生しました。(MOB 00023).....	616
ドキュメントアラートを購読する権限がありません。(MOB 00024).....	616
デバイスのローカルストアにドキュメントを保存する権限がありません。[ローカルコピーの保存] オプションを選択せずに、アラートを購読することができます。(MOB 00026).....	617
デバイスのローカルストアにドキュメントを保存する権限がありません。(MOB 00027).....	617
検索の実行中に内部サーバエラーが発生しました。(MOB 00028).....	617
クライアント要求の処理中に内部サーバエラーが発生しました。(MOB 00029).....	618
セッションの期限が切れています。再度ログインしてください。(MOB 00030).....	618
セッションの期限が切れています。再度ログインしてください。(MOB 00031).....	618

受信したセッションデータの確認中に、メッセージプッシュが失敗しました。(MOB 00050)	619
クライアント要求の処理中に内部サーバエラーが発生しました。(MOB 00060)	619
クライアント要求の処理中に内部サーバエラーが発生しました。(MOB 00080)	619
クラス {0} のインスタンスの作成中に内部サーバエラーが発生しました。(MOB 00110)	620
クライアント要求の処理中に内部サーバエラーが発生しました。(MOB 00130)	620
内部サーバエラーが発生しました。ファイル {0} が見つからないか、サーバでファイルが破損しています。(MOB 00300)	620
セッションの期限が切れています。ドキュメントを開くには再ログインしてください。(MOB 02003)	621
パラメータの範囲が無効であるため、プロンプトの実行が失敗しました。(MOB 02017)	621
プロンプト値が無効です。適切な書式の日付を入力してください。(MOB 02100)	621
無効な <href> タグの構文のため、要求されたアクションを実行できません。(MOB 02120)	622
Mobile サーバ名または IP アドレスを解決できません。(MOB 20007)	622
設定を {0} ファイルに保存できませんでした。(MOB 20010)	622
セッションの期限が切れています。もう一度ログインしてください(MOB 00931)	623
クラス {0} でメソッド 'getEnterpriseSession' の呼び出しに失敗しました。(MOB 00929)	623
メソッド 'getEnterpriseSession' の呼び出しに失敗しました。(MOB 00930)	623
リモートアクションで内部サーバエラーが発生しました。クラス名を入力してください。(MOB 00401)	624
リモートアクションで内部サーバエラーが発生しました。{0} という名前のクラスが見つかりません。(MOB 00402)	624
リモートアクションで内部サーバエラーが発生しました。引数が一致しません - タイプ {0}、値 {1} (MOB 00403)	624
リモートアクションで内部サーバエラーが発生しました。{0} という名前のメソッドは存在しません。(MOB 00405)	625
InfoObject データを取得できませんでした。ID {0} のドキュメントが見つかりませんでした。(MOB 00801)	625
ID {0} のドキュメントを見つけて開くことができません。(MOB 00802)	625
購読を変更できませんでした。ID {0} のドキュメントが見つかりません。(MOB 00803)	626
ドキュメントを購読できませんでした。ID {0} のドキュメントが見つかりません。(MOB 00804)	626
システムオブジェクトデータを取得できませんでした。ID {0} のオブジェクトが見つかりません。(MOB 00805)	626
URL {0} に無効な文字が含まれているため、要求されたアクションを実行できません。(MOB 02090)	627
実装クラス {0} をインスタンス化できません。システム管理者に連絡してください。(MOB 00901)	627
認証スキーマ {0} は無効です。システム管理者に連絡してください。(MOB 00902)	627
ユーザアカウント ({0}) は現在無効です。(MOB 00903)	628
リクエストからユーザ名またはパスワードが見つかりません。(MOB 00910)	628
CMS アドレスの識別に失敗しました。(MOB 00912)	628

認証の種類の識別に失敗しました。(MOB 00913).	629
認証 Cookie の識別に失敗しました。(MOB 00914).	629
リクエストから {0} Cookie の取得に失敗しました。(MOB 00915).	629
リクエストから SAP チケットの取得に失敗しました。(MOB 00916).	630
SAP システムが見つかりませんでした。(MOB 00917).	630
リクエストからログオントークンの取得に失敗しました。(MOB 00918).	630
無効なユーザパラメータ名が設定されました。(MOB 00919).	631
リクエストからヘッダとしてのユーザが見つかりません。(MOB 00920).	631
クエリにユーザパラメータがありません。(MOB 00921).	631
セッションにユーザ属性がありません。(MOB 00922).	632
リクエストからユーザ X509 証明書が見つかりません。(MOB 00924).	632
カスタム実装クラス {0} のロードに失敗しました。(MOB 00925).	632
クラス {0} で 'getUser' を探して呼び出すことに失敗しました。(MOB 00926).	633
ログオンエラー: パスワードが無効です。(MOB 00927).	633
<b>22 マルチテナントエラーメッセージ</b>	<b>634</b>
22.1 MTM 00001 ~ MTM 00024 プロパティ設定ファイルエラー	634
(MTM 00001) アプリケーション設定ファイルが無効です。 エラー: {0}。 ログファイルを参照してください。	634
(MTM 00002) 予約済み。	634
(MTM 00003) 予期しないエラーが発生しました。 ログファイルを参照してください。	635
(MTM 00004) 予約済み。	635
(MTM 00005) 設定オプション "{3}" で指定された "{2}" のルートフォルダ "{1}" で、クエリ "{0}" を使用して一致するオブジェクトが見つかりませんでした。指定したテンプレートパスが正しいことを設定オプションで確認してください。	635
(MTM 00006) MTM でクエリ {0} によるオブジェクトの取得に失敗しました。 ログファイルを参照してください。	636
(MTM 00007) MTM で、ルートフォルダ "{0}" において設定オプション "{2}" で指定された "{1}" からのテンプレートオブジェクトの取得に失敗しました。 ログファイルを参照してください。	636
(MTM 00008) MTM でテンプレートオブジェクトのテナントオブジェクトへのマッピングに失敗しました。 ログファイルを参照してください。	637
(MTM 00009) MTM で以前にインポートされたテナントオブジェクトのバックアップの実行に失敗しました。 ログファイルを参照してください。	637
(MTM 00010) MTM でバックアップテナントオブジェクトの復元に失敗しました。 ログファイルを参照してください。	637
(MTM 00011) MTM でテナントオブジェクトの最新表示または共有オブジェクトの更新に失敗しました。ログファイルを参照してください。	638
(MTM 00012) MTM で種類 {0} のドキュメント最新表示プラグインのロードに失敗しました。ドキュメント最新表示プラグイン jar が存在しアクセス可能かどうかを確認してください。	638
(MTM 00013) 予約済み。	639
(MTM 00014) MTM でテナントのインポートの準備に失敗しました。 ログファイルを参照してください。	639

(MTM 00015) MTM はテナント {0} のテナントシステムオブジェクトの作成に失敗しました。テナントシステムオブジェクトが MTM によって CMC にデプロイされたこと、および MTM ユーザにテナントシステムオブジェクトの表示権限があることを確認してください。 . . . . .	639
(MTM 00016) MTM はテナント {0} のテナントシステムオブジェクトの取得に失敗しました。テナントシステムオブジェクトが存在していること、および MTM ユーザにテナントシステムオブジェクトの表示権限があることを確認してください。 . . . . .	640
(MTM 00017) MTM はテナント - オブジェクト関係オブジェクトの取得に失敗しました。テナント - オブジェクト関係オブジェクトが存在していること、および MTM ユーザにテナント - オブジェクト関係オブジェクトの表示権限があることを確認してください。 . . . . .	640
(MTM 00018) 定義ファイルの templateToken プロパティの値が無効です。templateToken プロパティの有効な値を入力してください。 . . . . .	640
(MTM 00019) 共有オブジェクト {0} では、非共有テンプレートオブジェクト {1} を使用しないでください。共有オブジェクトで非共有テンプレートオブジェクトが使用されていないことを確認してください。 . . . . .	641
(MTM 00020) 共有ユニバースフォルダ {0} は無効です。optionUseSharedUniverses を true に設定して、sharedUniverseFolder を有効なフォルダに設定してください。 . . . . .	641
(MTM 00021) MTM でクエリ {0} による MTM ツールアプリケーションオブジェクトの取得に失敗しました。ユーザには MTM ツールアプリケーションオブジェクトに関する権限が必要です。 . . . . .	642
(MTM 00022) MTM は CMS で MTM アプリケーションオブジェクトの編集に失敗しました。ユーザには MTM ツールアプリケーションオブジェクトでの編集権限が必要です。 . . . . .	642
(MTM 00023) MTM でオブジェクトの一時保存に使用するオブジェクトマネージャデータベースの設定に失敗しました。ログファイルを参照してください。 . . . . .	642
(MTM 00024) MTM でファイルパス {0} を作成に失敗しました。ユーザにはファイルパスを作成する完全な権限が必要です。 . . . . .	643
22.2 MTM 00101 ~ MTM 00104. . . . .	643
(MTM 00101) 設定ファイルおよびコマンドラインパラメータの解析中にエラーが発生しました。無効なパラメータが検出されました: "{0}" . . . . .	643
(MTM 00102) 設定ファイルの読み取り中にエラーが発生しました: "{0}"。 . . . . .	644
(MTM 00103) テンプレートトークンが見つかりません. . . . .	644
(MTM 00103) テナント名が見つかりません. . . . .	644
22.3 MTM 01001 ~ MTM 01009 データベース設定エラー. . . . .	645
(MTM 01001) テンプレートデータベース設定 {0} またはテナントデータベース設定 {1} がありません. . . . .	645
(MTM 01002) テンプレートデータベース設定が無効です。{0} の解析中のエラー。 . . . .	645
(MTM 01003) テナントデータベース設定が無効です。{0} の解析中のエラー。 . . . .	646
(MTM 01004) データベースサーバタイプ {0} が無効です。 . . . . .	646
(MTM 01005) 予約済み. . . . .	646
(MTM 01006) {0} と {1} のテーブルプレフィックスが一致しません。どちらかのプレフィックスが存在しないか、プレフィックスの数が一致しません. . . . .	647
(MTM 01007) データベース設定が無効です。詳細は、前のアイテムを参照してください。 . . . . .	647
(MTM 01008) CR ドキュメントの最新表示中に、予期しない例外が発生しました。 . . . .	647



	(MTM 01009) オプション {1} によって指定されたテンプレート接続 {0} は、インポートされたテナント接続に対応していません。 . . . . .	648
22.4	MTM 02000 ~ MTM 02002 ユーザグループおよび権限. . . . .	648
	(MTM 02000) ユーザ '<username>' はテナント '<tenantname>' に対して十分な権限がありません。 . . . . .	648
	(MTM 02001) データベース設定が無効です。詳細については、過去のエラーログを参照してください。 . . . . .	649
	(MTM 02002) 主体は同じテナントに属するユーザグループのみを結合できます。 関連する主体が同じテナントに属していません: {type1} '{name1}'(id={id1}, tenant={tenant 1 name(tenant 1 id)} and {type2} '{name2}'(id={id2}, tenant={tenant 2 name(tenant 2 id)}). . . . .	649
22.5	MTM Tool 警告メッセージ. . . . .	650
	(MTM ツール 1) タイプカテゴリのオブジェクトを取得しています。テンプレートパス templateCategoryFolder が指定されていません。 . . . . .	650
	(MTM ツール 2) 一致する種類 CCIS.DataConnection または CommonConnection の共有オブジェクトはありません。 . . . . .	650
	(MTM ツール 3) プラグイン CrystalReport のプラグイン固有設定の確認中に、エラー/警告が発生しました。 . . . . .	650
<b>23</b>	<b>Query as a Web Service (QWS) エラーメッセージ. . . . .</b>	<b>652</b>
23.1	ヘルプファイルが見つかりません:¥n{0} (QWS 00001). . . . .	652
23.2	サーバ名と証明書名が一致しません (QWS 00002). . . . .	652
23.3	HTTPS 証明書の発行者は信頼できません (QWS 00003). . . . .	653
23.4	指定した Web サービス URL は更新されていません。管理者に問い合わせるか、Query as a Web Service のマニュアルを参照してください。 (QWS 00004). . . . .	653
23.5	XML コンテンツのクエリの指定が無効です (QWS 00005). . . . .	653
23.6	結果オブジェクトのデータ型は認識されません: {0} (QWS 00006). . . . .	654
23.7	サーバにログオンする必要があります (QWS 00007). . . . .	654
23.8	レポートエンジン Web サービスのプロキシが使用できません。Web サービスの呼び出しは成功していません。 (QWS 00008). . . . .	654
23.9	プロンプト選択中のエラー (QWS 00009). . . . .	655
23.10	コンテキストの選択中に問題が発生しました (QWS 00010). . . . .	655
23.11	データソースのリストをロードできません (QWS 00011). . . . .	656
23.12	クエリを設計または編集する権限がありません。¥r¥n 管理者に連絡してください。 (QWS 02718) . . . . .	656
<b>24</b>	<b>RESTful Web サービス (RWS) のエラーメッセージ. . . . .</b>	<b>657</b>
24.1	RWS 00002 - RWS 00010. . . . .	657
	一般サーバエラー。 (RWS 00002). . . . .	657
	クライアント入力エラー。 (RWS 00003). . . . .	657
	禁止 (RWS 00004). . . . .	658
	見つかりません (RWS 00005). . . . .	658
	サービスを作成できません。詳細については、サーバログを参照してください。 (RWS 00006) . . . . .	658

	サービス呼び出し中に不明なエラーが発生しました。詳細については、サーバログを参照してください。(RWS 00007).....	659
	HTTP ヘッダには X-SAP-LogonToken 属性が含まれていません。(RWS 00008).....	659
	リソースが見つかりません: {0} (RWS 00009).....	659
	要求されたオブジェクトに対してリソースがサポートされていません。(RWS 00010).....	660
24.2	RWS 00011 ~ RWS 00026. ....	660
	セッショントークンのタイムアウト値 {0} は無効です。(RWS 000011).....	660
	ID {0} の Info オブジェクトが見つかりません。(RWS 000012).....	661
	重複するオブジェクト (RWS 000013).....	661
	{0} という名前の関係はありません。(RWS 000015).....	661
	サーバセッションは PJS Service Bean からは使用できません。(RWS 000016).....	662
	エンコードに失敗しました。(RWS 000017).....	662
	{0} が NULL です。(RWS 000018).....	662
	不正な引数: {0} (RWS 000019).....	663
	{0} 型の値はシリアル化できません。(RWS 000020).....	663
	終端がない文字列です。(RWS 000021).....	663
	不正な形式の日付: {0}。(RWS 000022).....	664
	不正な形式の時間: {0}。(RWS 000023).....	664
	不正な形式の日時: {0}。(RWS 000024).....	664
	{0} 型の値は非シリアル化できません。(RWS 000025).....	665
	属性名を取得できません。名前が null または空です。(RWS 000026).....	665
24.3	RWS 00031 ~ RWS 00051. ....	665
	モデルエラーです。(RWS 000031).....	665
	setter がありません。(RWS 000032).....	666
	getter にはパラメータ {0} を使用できません。(RWS 000033).....	666
	setter は 1 つのパラメータ {0} だけを持つ必要があります。(RWS 000034).....	666
	setter {0} は getter {1} のタイプと異なります。(RWS 000035).....	667
	ソース: {0} + 出力先: {1}。(RWS 000036).....	667
	参照型の等号は実装されていません。(RWS 000037).....	667
	ハッシュベースのコレクション形式の使用は実装されていません。(RWS 000038).....	668
	クラス {0} はモデルクラスではありません。(RWS 000039).....	668
	プロパティ '{0}' は次の 2 つのフィールドにバインドできません: {1} および {2}。 (RWS 000040).....	668
	属性 '{0}' は 2 つの get (set) メソッドにバインドできません: {1} および {2}。 (RWS 000041).....	669
	モデルに少なくとも 1 つの書き込み専用属性が含まれています。名前: {0}、メソッド: {1}。 (RWS 000042).....	669
	クラス {0} にはパラメータなしでアクセスできるコンストラクタはありません。(RWS 000043).....	670
	構成プロパティ {1} のオブジェクト {0} が null です。(RWS 000044).....	670
	プロパティ '{0}' を {2} 型のフィールド {1} に導入できませんでした。(RWS 000045) .....	670

プロパティ名はすでに存在します: {0} (RWS 000046).....	671
GUID にパス区切り '/' を含めることはできません (RWS 000047).....	671
クラス {0} に型がありません (RWS 000048).....	671
空のフィルタ。(RWS 000049).....	672
フィルタは他のフィルタ文字と共に '{0}' を使用できません。(RWS 000050).....	672
重複する {0} インスタンスが作成されました。(RWS 000051).....	672
24.4 RWS 00052 - RWS 00075. ....	673
リクエストを処理できません; 構文が正しくないため、サーバでリクエストを処理できませんでした (RWS 00052).....	673
このリクエストを実行する権限がありません (RWS 00053).....	673
支払が必要です (RWS 00054).....	673
リクエストの実行中にエラーが発生しました; サーバはこのリクエストを処理できません; このリクエストを繰り返さないでください (RWS 00055).....	674
要求の実行中にエラーが発生しました。サーバが要求 URI の一致を見つけられません (RWS 00056).....	674
メソッドは使用できません; リクエスト行で指定されているメソッドは、リクエスト URI によって特定されるリソースで使用できません (RWS 00057).....	674
要求を処理できません。要求によって特定されるリソースは、要求で送信された Accept ヘッダに従うと許容されないコンテンツ特性を持つ応答エンティティしか生成できません。(RWS 00058).....	675
プロキシ認証が必要です (RWS 00059).....	675
リクエストタイムアウト; リクエストは、サーバが待機している間に送信されませんでした; もう一度リクエストしてください (RWS 00060).....	675
リクエストは処理されませんでした; リソースの現在の状態に競合があるため、リクエストを完了できませんでした (RWS 00061).....	676
リクエストは処理されませんでした; 要求されたリソースはサーバで利用できないため、転送先アドレスが不明です (RWS 00062).....	676
要求は処理されませんでした。要求に Content-Length ヘッダが含まれていません。要求のメッセージ本文の長さを含む有効な Content-Length ヘッダフィールドデータを追加して、要求を作成してください。(RWS 00063).....	676
要求は処理されませんでした。要求に Content-Length ヘッダが含まれていません。要求のメッセージ本文の長さを含む有効な Content-Length ヘッダフィールドデータを追加して、要求を作成してください。(RWS 00063).....	677
前提条件に失敗しました (RWS 00064).....	677
要求エンティティが大きすぎます (RWS 00065).....	677
要求 URI が長すぎます (RWS 00066).....	678
サポートされていないメディアタイプです (RWS 00067).....	678
要求された範囲が完全ではありません (RWS 00068).....	678
要求に失敗しました。サーバは Expect 要求ヘッダフィールドで指定された要求を処理できませんでした。または、サーバがプロキシサーバである場合は、要求が次のホップサーバで処理できることは保証されていません。(RWS 00069).....	679
内部サーバエラーです (RWS 00070).....	679
リクエストは処理されませんでした; サーバは、このリクエストの完了に必要な機能をサポートしていません (RWS 00071).....	679

	要求は処理されませんでした。サーバがゲートウェイとして実行中であるか、プロキシが無効な 応答を受信しました (RWS 00072).....	680
	サービスは利用できません (RWS 00073).....	680
	ゲートウェイがタイムアウトしました (RWS 00074).....	680
	サポートされていない HTTP バージョンです (RWS 00075).....	681
24.5	RWS 00076 ~ RWS 00080.....	681
	セッションがすでにこのリクエストに関連付けられているためログオンを続行できません。 (RWS 000076).....	681
	選択した認証スキーマは現在サポートされていません。(RWS 000077).....	681
	認証情報をデコードできませんでした。(RWS 000078).....	682
	有効な入力値を入力してください (RWS 000079).....	682
	Cannot bind unknown attribute {0} to method {1}. (RWS00080).....	682
<b>25</b>	<b>トランスレーションツールエラーメッセージ (TMT).....</b>	<b>683</b>
25.1	トランスレーションマネジメントツール (TMT) のエラー.....	683
	このオブジェクトタイプで翻訳はできません (TMT10000).....	683
	タイプ "{0}" で翻訳プラグインは使用できません (TMT10010).....	683
	タイプ "{0}" の翻訳プラグインをロードできません (TMT10020).....	684
	タイプ "{0}" は読み取れません。読み取り専用オブジェクトです (TMT10030).....	684
	CMS URI、トランスレーションマネージャ、または翻訳にアクセス中に I/O 例外が発生しまし た (TMT10040).....	684
	タイプ "{0}" を翻訳する権限がありません (TMT10050).....	685
	CMS セッションにアクセスする権限がありません (TMT 20050).....	685
	このドキュメントを使用する権限がありません。ドキュメントのインポート元と同じ CMS に 接続している場合を除いて、ドキュメントを開くことはできません (TMT 20070).....	685
<b>26</b>	<b>ユニバースエラーメッセージ.....</b>	<b>687</b>
26.1	ユニバース管理 (UNM) に関するエラーメッセージ.....	687
	互換性のチェックが必要 (UNM0001) .....	687
	数値書式が不正です (UNM0002) .....	688
	クォーテーション " "... がありません (UNM0003) .....	688
	ダブルクォーテーション " "... がありません (UNM0004) .....	688
	閉じ括弧 {...} がありません (UNM0005) .....	689
	関数名の後に開き括弧がありません (UNM0006) .....	689
	閉じ括弧がありません (UNM0007) .....	689
	パラメータがありません (UNM0008) .....	690
	パラメータ数が不正です (UNM0009) .....	690
	不正な文字です (UNM0010) .....	690
	不正なインデントです (UNM0011) .....	691
	使用できないオペランドです (UNM0012) .....	691
	変数定義にループがあります (UNM0013) .....	691
	戻り値がユーザオブジェクトの型と対応しません。(UNM0014) .....	692
	構文エラー (UNM0015) .....	692

	同じ名前のユーザオブジェクトは作成できません。(UNM0016)	692
26.2	ユニバース (UNV) に関するエラーメッセージ	693
	サーバが応答しません。(UNV0017)	693
	サーバが応答しません。(UNV0018)	693
	このエイリアス名はテーブルで使われています (UNV0031)	694
	関連付けられたテーブルがありません。(UNV0032)	694
	このオブジェクトはすでに存在します (UNV0035)	694
	ストラテジー接続が見つかりません。(UNV0049)	695
<b>27</b>	<b>Web Intelligence エラー メッセージ</b>	<b>696</b>
27.1	Web Intelligence (WIJ) に関するエラーメッセージ	696
	式エディタを使って式を作成する必要があります。(エラー: WIJ 10000)	696
	このレポートコンポーネントを基準に配置されているブロック、セル、またはセクションを基準として、このレポートコンポーネントを配置することはできません。ドロップダウンリストから別のブロック、セル、またはセクションを選択するか、[基準] オプションを選択解除してください。(WIJ 10500)	697
	ドキュメントのデコード中にエラーが発生しました。BI ラウンチパッドでこのドキュメントを開いてみてください。開くことができない場合、詳細については管理者に連絡してください。(WIJ 20000)	697
	ドキュメントを最新表示する際、および開く際に予期しない問題が発生しました。データソースが変更または削除されているか、ドキュメントのプロンプトの値が選択されていません。(WIJ20001)	697
	予期しないエラーです。サーバに再接続できない場合、セッションを閉じてから再び開始します。(WIJ 20002)	698
	現在のレポートの最初のページを取得できません。レポートの有効性を確認してください。(ERR WIJ 20003)	698
	現在のクエリには解決不能なオブジェクトが含まれています。クエリは更新されます (WIJ 20004)	699
	現在のリクエストが、破損したデータを返しました。詳細については管理者に連絡してください (WIJ 20005)	699
	アプリケーションサーバにアクセスできません。追加情報については管理者に連絡してください (WIJ 20010)	699
	コピーしようとしている {0,number} MB のレポート要素は大きすぎて外部アプリケーションにエクスポートできません。使用できる最大サイズは {1,number} MB です。(エラー: WIJ 30004)	700
	現在のユーザプロファイルでは、ドキュメントドメインにアクセスして会社用ドキュメントを保存することはできません。このドキュメントを個人用ドキュメントとして保存するか、管理者に連絡してください。(エラー: WIJ 40000)	700
	このドキュメントのクエリは空です。[クエリ] タブの [結果オブジェクト] 枠にオブジェクトがあることを確認してからクエリを実行してください。(エラー: WIJ 30000)	700
	このドキュメントに、空のクエリが少なくとも 1 つ存在します。クエリを実行する前に、各 [クエリ] タブの [結果オブジェクト] 枠にオブジェクトが含まれているかどうか確認してください。(エラー: WIJ 30001)	701
	メモリが不足しています。ブラウザ ウィンドウのサイズを小さくするか、レポート パネルを再起動してください。(WIJ 30003)	701



	ユーザプロファイルにより、個人または会社用のドキュメントを保存することはできません。詳細については、管理者に連絡してください。(WIJ 40001) . . . . .	702
	予期しないエラーが発生しました。(WIJ 44444). . . . .	702
	お使いのバージョンの Web Intelligence リッチクライアントは最新ではないので、このシステムに接続できません (ERR WIJ 50003)。<a href="{0}">ここ</a>をクリックして Web Intelligence リッチクライアントをアップグレードする必要があります。 . . . .	702
	サーバに送信された情報には無効な文字が含まれています。[元に戻す] ボタンで最新の変更内容を取り消してから、再試行してください。(エラー: WIJ 55555). . . . .	703
	セッションがタイムアウトしました。ドキュメント {document_name}.wid は、お気に入り ¥~WebIntelligence フォルダに自動保存されました。ドキュメントを取得するには、[復元] をクリックしてください。(WIJ 60001). . . . .	703
	セッションはタイムアウトしましたが、次のセキュリティ権限が割り当てられていないため、ドキュメントを自動保存できませんでした。(WIJ 60002): {権限のリスト} . . . . .	703
	サーバの問題により、ドキュメントを受信できません (WIJ 77777)。 . . . .	704
	セッションがタイムアウトしました。Java インタフェースを閉じて、再度ログオンしてください。(WIJ 77778) . . . . .	704
	Central Management Server (CMS) が機能していません。詳細については、管理者にお問い合わせください。(WIJ 77779). . . . .	705
	このユーザプロファイルでは、直接入力 SQL に基づくドキュメントの編集または作成が許可されていません。この権限を付与するよう BI 管理者に連絡してください (WIJ 77780). . . . .	705
27.2	Web Intelligence デスクトップ (WIO) に関するエラーメッセージ. . . . .	705
	Web Intelligence デスクトップにログインできません。(WIO 00001) . . . . .	706
	ハイパーリンクを開くことができません (WIO 00002)。 . . . .	706
	使用できるメモリはこれ以上ありません。(WIS 30280) (WIO 30280). . . . .	706
	メモリが不足しているため続行できません。ドキュメントを閉じてメモリを解放してください。(WIO 30284). . . . .	707
27.3	Web Intelligence サーバー (WIS) に関するエラーメッセージ. . . . .	707
	このドキュメントのクエリは空です。(WIS30000) . . . . .	707
	ドキュメントに、空のクエリが少なくとも 1 つ存在します。(WIS 30001) . . . . .	708
	セキュリティプロファイルに、クエリを編集する権限が含まれていません (WIS 30251). . . . .	708
	セキュリティプロファイルに、ドキュメントを編集する権限が含まれていません。(WIS 30252) . . . . .	708
	セキュリティプロファイルに、ドキュメントを最新表示する権限が含まれていません。(WIS 30253) . . . . .	709
	セキュリティプロファイルに、値の一覧を最新表示する権限が含まれていません。(WIS 30254) . . . . .	709
	セキュリティプロファイルに、値の一覧を使用する権限が含まれていません。(WIS 30255) . . . . .	709
	セキュリティプロファイルに、クエリによって生成されたスクリプトを表示する権限が含まれていません。(WIS 30256) . . . . .	710
	セキュリティプロファイルに、式言語を使用する権限が含まれていません。(WIS 30257) . . . .	710
	セキュリティプロファイルに、ドリル分析を実行する権限が含まれていません。(WIS 30258) . . . . .	710

セキュリティプロファイルに、分析範囲を拡張する権限が含まれていません。(WIS 30259)	711
{api_name} API の呼び出し中に内部エラーが発生しました。(WIS 30270)	711
ドキュメントが大きすぎるため、サーバで処理できません。(WIS 30271)	711
ドキュメントが大きすぎるため、サーバで処理できません。(WIS 30272)	712
クエリまたはレポートを生成できませんでした。(WIS 30351)	712
この名前のクエリファイルは既に存在します。(WIS 30371)	712
Web Intelligence サーバのメモリ不足です。ログオフしてから、もう 1 度接続を実行してください。問題が解決しない場合は、管理者に連絡してください。(エラー: ERR_WIS_30280)	713
Web Intelligence サーバは使用中です。変更を保存して、後でもう一度実行してください。問題が解決しない場合は、管理者に連絡してください。(エラー: ERR_WIS_30284)	713
Web Intelligence サーバがメモリ不足で、ドキュメントが閉じられています。問題が解決しない場合は、管理者に連絡してください。(エラー: ERR_WIS_30285)	713
このドキュメントは移行されました。次回ドキュメントを開くときのパフォーマンスを向上させるために、ドキュメントを保存することをお奨めします。(WIS 30374)	714
このドキュメントには、以前のバージョンの Web Intelligence からの地理修飾データが含まれています。このデータの地理修飾をチェックして潜在的な不一致を修正し、地理マップチャートで情報が失われないようにすることを強くお奨めします (WIS 30375)。	714
このドキュメントを編集できません。これは、クエリのプロパティオプションである「ほかのユーザによるクエリ編集を許可」がこのドキュメントの作成時に有効になっていなかったためです。(WIS 30381)	715
WIQT で内部エラーが発生しました (WIS 30551)。	715
WIQT セッションがタイムアウトになりました。ログアウトし、再度 BI ラウンチパッドにログインしてください。(WIS 30553)	715
使用できる WIQT サーバはこれ以上ありません。同時にログインできるユーザの最大数に達しています。(WIS 30554)	716
セキュリティプロファイルに、会社用ドキュメントとしてドキュメントを保存、または BI ラウンチパッドを使用してドキュメントを送信する権限が含まれていません。(WIS 30555)	716
同じ名前の会社用ドキュメントがすでに存在します。セキュリティプロファイルに、他のユーザが所有する会社用ドキュメントを削除できません。(WIS 30556)	717
リポジトリにこの名前のドキュメントはありません。ほかの名前を指定してください。(WIS 30557)	717
このドキュメントには指定のアクションを実行できません。(WIS 30650)	717
サーバは XML ドキュメントをロードできませんでした。(WIS 30751)	718
このドキュメントの XML ファイルを開くことができません。管理者に連絡してください。(WIS 30752)	718
現在のユーザプロファイルでは、ドキュメントのドメインにアクセスして会社用ドキュメントを保存することはできません。このドキュメントを個人用ドキュメントとして保存するか、管理者に連絡してください。(WIS 40000)	719
27.4 Web Intelligence デスクトップ HTML インタフェース (WIH) に関するエラーメッセージ	719
無効なセッションです。ブラウザを閉じてもう一度ログオンしてください。(WIH 00013)	719
ドキュメントを保存できませんでした (WIH 00014)。	720

	セッションがタイムアウトしました。ドキュメント {ドキュメント名}.wid は お気に入り ¥~WebIntelligence フォルダに自動保存されました。取得するには「復元」をクリックし てください。(WIH 00015).....	720
	セッションはタイムアウトしましたが、次のセキュリティ権限が割り当てられていないため、ド キュメントを自動保存できませんでした。(WIH 00016): {権限のリスト}.....	720
	予期しないエラーが発生しました。このエラーの詳細については、SAP Support Portal の SAP ナレッジベース記事 2054722 を参照してください (WIH 44444).....	721
27.5	ReportEngine Web Intelligence (RWI) エラーメッセージ.....	721
	RWI 00000 - RWI 00314.....	722
	RWI 00315 - RWI 00605.....	729
	RWI 00606 - RWI 00850.....	736
27.6	カスタムデータソース (CDS) フレームワークのエラーメッセージ.....	743
	カスタムデータソースユーザインタフェースフレームワークのエラーメッセージ.....	744
	Web サービスカスタムデータソースプラグインのエラーメッセージ.....	748
	カスタムデータソースフレームワークのエラーメッセージ.....	752
<b>28</b>	<b>HTTP エラー.....</b>	<b>759</b>
28.1	HTTP 404 エラーのトラブルシューティング.....	759
28.2	HTTP 500 エラーの解決.....	759
<b>29</b>	<b>プラットフォーム検索エラーメッセージ.....</b>	<b>761</b>
29.1	新しいドキュメント抽出バージョンは実装されていません。システム管理者に連絡してください (PSS 00002).....	761
29.2	不明な理由のため {0} の抽出に失敗しました。システム管理者に連絡してください (PSS 00003).....	761
29.3	SI_ID {0} のオブジェクトの抽出中に、メモリ不足エラーが発生しました。ドキュメントのサイ ズを確認してください。(PSS 00004).....	762
29.4	複数のインデックスエンジンが有効になっているため、インデックス化に失敗しました (PSS 01001).....	762
29.5	インデックス化に失敗しました。インデックスエンジンがすべて無効な可能性があります (PSS 01002).....	762
29.6	インデックスの準備が完了していません。しばらくしてから実行してください (PSS 01004)。 .....	763
29.7	文字列が一般的です。具体的な文字列を指定してください (PSS 02001).....	763
29.8	検索文字列が空です。有効な空以外の検索文字列を入力してください (PSS 02003).....	764
29.9	検索文字列が無効です。有効な検索文字列を入力してください。有効な検索構文については、ユー ザガイドを参照してください (PSS 02004).....	764
29.10	サーバはビジー状態です。後でもう一度実行してください (PSS 02005).....	764
29.11	{0} のサマリの抽出に失敗しました。(PSS 03002).....	765
29.12	{0} のコンテンツの抽出に失敗しました。(PSS 03004).....	765
29.13	ドキュメントがコメントなしの PPT である、パスワード保護されている、またはドキュメントに 抽出不可能なコンテンツが含まれている可能性があるため、SI_ID {0} のオブジェクトを抽出で きません。(PSS 03007).....	765
29.14	PDF に抽出不可能なコンテンツが含まれている可能性があるため、SI_ID {0} のオブジェクトを 抽出できません。(PSS 03008).....	766

29.15	ドキュメントに抽出不可能なコンテンツが含まれている、またはドキュメントが大きすぎる可能性があるため、SI_ID {0} のオブジェクトを抽出できません。(PSS 03009)	766
29.16	RASFactory サービスが返されませんでした。(PSS 04001)	767
29.17	サポートされていない InfoObject {0} が Crystal Reports 抽出に送られました。(PSS 04003)	767
29.18	Crystal レポートドキュメント {0} を終了できませんでした (PSS 04005)。	767
29.19	RAS はドキュメント {0} を開くことができませんでした。(PSS 04006)	768
29.20	例外のため、ユニバースのコンテキストを作成できませんでした: {0}。(PSS 05001)	768
29.21	DataSourceElement の値を取得できませんでした。DataSourceName が作成され、接続が利用可能であることを確認してください (PSS 05002)。	768
29.22	ユニバース {0} のビジネスレイヤを作成できませんでした。コンテキストのエラーまたはコアサービスが使用できないことが原因である可能性があります。(PSS 05003)	769
29.23	Interactive Analysis 処理サーバがダウンしている可能性があります。ドキュメントインスタンスを作成できません。(PSS 06002)	769
29.24	新しいドキュメント抽出バージョンは実装されていません。システム管理者に連絡してください (PSS 06004)。	770
29.25	Web Intelligence ドキュメント {0} を終了できませんでした (PSS 06005)。	770
29.26	Web Intelligence サーバがドキュメント {0} を開けませんでした。(PSS 06006)	770
29.27	Web Intelligence レポートに適切なユニバース/接続情報が含まれていません。(PSS 06007)	771
29.28	Explorer 検索サーバがダウンしている可能性があります。結果を作成できません (PSS 07001)。	771
29.29	情報スペースの取得中に内部エラーが発生しました。(PSS 07002)	771
<b>30</b>	<b>モニタリングエラーメッセージ</b>	<b>773</b>
30.1	プローブの実行中にエラーが発生しました (MON00001)	773
30.2	プローブの一覧表示中にエラーが発生しました (MON00002)	773
30.3	ID {0} のファイルからプローブ結果を読み込み中にエラーが発生しました (MON00003)	774
30.4	プロパティ/スケジュール/履歴アクションの URL の取得中にエラーが発生しました (MON00004)	774
30.5	プローブの一覧のページ番号付け中にエラーが発生しました (MON00006)	774
30.6	{0} は有効な {1} 値ではありません (MON00007)	775
30.7	リクエストの実行中に例外が発生しました (MON00008)	775
30.8	データベースからトレンドデータの取得中にエラーが発生しました (MON00009)	775
30.9	監視の一覧作成中にエラーが発生しました (MON00010)	776
30.10	監視 {0} の詳細を取得中にエラーが発生しました (MON00011)	776
30.11	監視 {0} のステータスを取得中にエラーが発生しました。(MON00012)	776
30.12	監視 {0} の作成中にエラーが発生しました (MON00013)	777
30.13	監視 {0} の削除中にエラーが発生しました (MON00014)	777
30.14	監視 {0} のコピーを作成中にエラーが発生しました (MON00015)	777
30.15	監視 {0} を編集中にエラーが発生しました (MON00016)	778
30.16	監視の一覧のページ番号付け中にエラーが発生しました (MON00017)	778
30.17	監視 {0} をお気に入りとして登録中にエラーが発生しました (MON00018)	778

30.18	最近のアラートを取得中にエラーが発生しました (MON00019).....	779
30.19	監視 {0} のアラートを取得中にエラーが発生しました (MON00020).....	779
30.20	アラートの削除中にエラーが発生しました (MON00021).....	779
30.21	アラートの全ページ数を取得中にエラーが発生しました (MON00022).....	780
30.22	アラート数と共に監視を取得中にエラーが発生しました (MON00023).....	780
30.23	アラートが確認されたプロパティを設定中にエラーが発生しました (MON00024).....	780
30.24	既読に変更されたアラートの設定中にエラーが発生しました (MON00025).....	781
30.25	サーバは起動していません (MON00026).....	781
30.26	不明なエラーです (MON00027).....	781
30.27	KPI の取得中にエラーが発生しました (MON00028).....	782
30.28	マネージドエンティティの更新中にエラーが発生しました (MON00029).....	782
30.29	監視の有効化中にエラーが発生しました (MON00030).....	782
30.30	タイムアウト値をゼロまたは負の値にすることはできません (MON00031).....	783
30.31	タイムアウト値が正しくありません (MON00032).....	783
30.32	入力パラメータタイプ "{0}" が認識できません (MON00033).....	783
30.33	入力パラメータが正しくありません: {0} (MON00034).....	784
30.34	プローブ InfoObject の取得中にエラーが発生しました (MON00035).....	784
30.35	プローブ InfoObject が見つかりませんでした (MON00036).....	784
30.36	以下の引数には {0} がありません (MON00037).....	785
30.37	監視 {0} の無効化または有効化中にエラーが発生しました (MON00039).....	785
30.38	モニタリングサービスが開始されていないか、開始に失敗した可能性があります。サービスタ タスをチェックしてください (MON00041).....	785
30.39	プローブの実行中に例外が発生しました (MON00042).....	786
30.40	応答の書式設定中に例外が発生しました (MON00044).....	786
30.41	ユーザの一覧表示中にエラーが発生しました (MON00045).....	786
30.42	KPI の詳細の取得中にエラーが発生しました。(MON00046).....	787
30.43	同期されたライブデータの取得中にエラーが発生しました (MON00047).....	787
30.44	監視ステータスの取得中にエラーが発生しました (MON00048).....	787
30.45	プローブの実行結果レポートの取得中にエラーが発生しました (MON00049).....	788
30.46	プローブの保存中にエラーが発生しました (MON00050).....	788
30.47	プローブのプロパティの表示中にエラーが発生しました (MON00051).....	788
30.48	アプリケーションのプロパティの保存中にエラーが発生しました (MON00052).....	789
30.49	アプリケーションのプロパティを表示中にエラーが発生しました (MON00053).....	789
30.50	データベースバックアップタスクの実行中にエラーが発生しました (MON00054).....	789
30.51	派生メトリクスの詳細の取得中にエラーが発生しました (MON00055).....	790
30.52	派生メトリクスの編集中にエラーが発生しました (MON00056).....	790
30.53	監視の無効化中にエラーが発生しました (MON00057).....	790
30.54	アラートの取得中にエラーが発生しました。(MON00058).....	791
30.55	派生メトリクスの作成中にエラーが発生しました。(MON00059).....	791
30.56	ダッシュボードに表示するため KPI を設定中にエラーが発生しました。(MON00060).....	791
30.57	メトリクスでドリルダウンを取得中にエラーが発生しました。(MON00061).....	792



30.58	監視 {0} を KPI として登録中にエラーが発生しました。(MON00062).....	792
30.59	スクリプトファイルをプローブにアップロード中にエラーが発生しました。(MON00063).....	792
30.60	-scriptbased 引数の入力として、コマンドラインまたはスクリプトファイルのどちらかを選択してください。両方のオプションを選択することはできません。(MON00064).....	793
30.61	スクリプトベースプローブの引数: {0} が正しい形式で入力されていません (MON00065).....	793
30.62	スクリプトベースプローブの引数: {0} が見つかりません。(MON00066).....	793
30.63	入力パラメータ {0} の値が見つかりません。(MON00067).....	794
30.64	マネージドエンティティのヘルスステータスを取得できません。(MON00068).....	794
30.65	階層を取得できません。(MON00069).....	794
30.66	プローブの作成中にエラーが発生しました。(MON00070).....	795
30.67	プローブの削除中にエラーが発生しました。(MON00071).....	795
30.68	トポロジーノードの監視を取得できません。(MON00072).....	796
30.69	InfoStore の画像のクエリ中にエラーが発生しました (MON00073).....	796
30.70	同じ名前の監視がすでにあります {0} (MON00074).....	796

# 1 ドキュメント履歴

以下の表は、最も重要なドキュメント変更の概要です。

バージョン	日付	説明
SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム 4.3	2020 年 6 月	BI 4.3 では、SAP BusinessObjects Dashboards および Presentation Design、SAP Explorer、レポート変換ツール、ならびにアップグレード管理ツールは使用されなくなりました。これらの製品およびツールに関連するセクションがガイドから削除されました。

## 2 アドミニストレーションおよびセキュリティエラーメッセージ

アドミニストレーションエラーメッセージは、次のカテゴリに分類されます。

- アドミニストレーション (ADM) エラー
- アドミニストレーションウィザード (ADW) エラーメッセージ
- BI プラットフォームサーバ (FWB) に関するエラーメッセージ
- BIP フレームワークミドルウェア (FWM) エラーメッセージ
- セキュリティ (USR) エラー

### 2.1 アドミニストレーション (ADM) エラー

アドミニストレーションエラーメッセージは、次のカテゴリに分類されます。

範囲	カテゴリ
ADM0012 - ADM 00208	アドミニストレーションエラー

### 2.2 アドミニストレーションウィザード (ADW) エラーメッセージ

アドミニストレーションウィザードエラーメッセージは、次のカテゴリに分類されます。

範囲	カテゴリ
ADW0002 - ADW0025	アドミニストレーションセットアップウィザードのエラー

### 2.3 BIP フレームワークミドルウェア (FWM) エラーメッセージ

BIP フレームワークミドルウェア (FWM) は、次のエラーメッセージのカテゴリに分類されます。

範囲	カテゴリ
FWM 00001 ~ FWM 00009	BIP フレームワークミドルウェア (FWM)
FWM 01001 ~ FWM 01014	BIP フレームワークミドルウェア (FWM)
FWM 02001 - FWM 02140	BIP フレームワークミドルウェア (FWM)
FWM 04002 ~ FWM 04038	BIP フレームワークミドルウェア (FWM)
FWM 08001 ~ FWM 08006	BIP フレームワークミドルウェア (FWM)
FWM 10001 ~ FWM 10007	BIP フレームワークミドルウェア (FWM)
FWM 12001 ~ FWM 12013	BIP フレームワークミドルウェア (FWM)
FWM 14001 ~ FWM 14009	BIP フレームワークミドルウェア (FWM)
FWM 16001 ~ FWM 16005	BIP フレームワークミドルウェア (FWM)
FWM 17001 ~ FWM 17003	BIP フレームワークミドルウェア (FWM)

## 2.3.1 FWM 00001 ~ FWM 00012

### 2.3.1.1 (FWM 00001) 転送エラー: 通信に失敗しました

#### 原因

サーバがオフラインか、ネットワーク通信問題があるか、またはクライアントのリクエストがタイムアウトしたため、クライアントがサーバと通信できませんでした。

#### 対処方法

サーバがオンラインで、ネットワーク通信があり、リクエストがタイムアウトするまでの時間を増やします。

### 2.3.1.2 (FWM 00002) 転送エラー: リソース不足です

#### 原因

クライアントとサーバが相互に通信できません。

#### 対処方法

クライアントとサーバの両方が SSL を使用しているか、または両方が SSL を使用していないことを確認します。

### 2.3.1.3 (FWM 00003) Kerberos ターゲット名 %1 が不明です。システム管理者に連絡し、適切に設定されていることを確認してください

#### 原因

ターゲットアカウントまたはサービスプリンシパル名 (SPN) が認識できません。

#### 対処方法

ターゲットアカウントおよびターゲット SPN が存在することを確認します。

### 2.3.1.4 (FWM 00004) Active Directory サーバにコンタクトできませんでした

#### 原因

Active Directory サーバに接続できません。

#### 対処方法

ログからサーバ名を特定し、サーバが使用可能であることを確認します。

### 2.3.1.5 (FWM 00005) Active Directory 認証プラグインでの認証が行えません。Please try again. 問題が解決しない場合は、組織内のテクニカルサポート部門にお問い合わせください

#### 原因

Active Directory プラグインで、旧式のエイリアス形式が使用されています。

#### 対処方法

セントラル管理コンソールの [[Windows AD](#)] ページで、Active Directory プラグインを更新します。

### 2.3.1.6

(FWM 00006) Active Directory 認証でログオンできません。システム管理者に連絡して、マップされた有効なグループのメンバーであることを確認し、もう一度実行してください。デフォルトドメインのメンバーでない場合は、ユーザ名として `UserName@DNS_DomainName` を入力し、もう一度実行してください

#### 原因

ログオンコンテキストを作成できません。

#### 対処方法

設定ファイルのエントリが有効で、ログインコンテキストを作成するために必要な権限を持っていることを確認します。

### 2.3.1.7

(FWM 00007) 無効なユーザ名またはパスワードです。アカウントが %1 以外のルート直下にある場合は、DN (識別名) を入力する必要があります

#### 原因

ユーザ名を認証できませんでした。

#### 対処方法

有効なユーザ名とパスワードを入力します。

#### ① 注記

アカウントが他のシステムにある場合は、識別名 (DN) を入力する必要があります。

### 2.3.1.8

(FWM 00008) LDAP 認証はシングルサインオンを使用するように設定されていません。システム管理者に問い合わせてください

#### 原因

シングルサインオンが設定されていません。



## 対処方法

シングルサインオンを設定します。

### **2.3.1.9** (FWM 00009) シングルサインオンが無効になっているときに、パスワードを空にして LDAP 認証を行うことはできません

## 原因

パスワードが入力されていません。

## 対処方法

有効なパスワードを入力します。

### **2.3.1.10** (FWM 00010) 言語がありません

## 原因

SAP 認証の言語が指定されていません。

## 対処方法

有効な言語を入力します。無効な文字 (スペース、エンコードされた空白 ("%20")、または引用符 ("")) が含まれていないことを確認してください。

### **2.3.1.11** (FWM 00011) 負荷バランシングログオンの証明書が無効です

## 原因

SAP 認証負荷バランシングログオンの証明書に、無効な文字が含まれています。

## 対処方法

有効な証明書をを入力します。無効な文字 (スペース、エンコードされた空白 ("%20")、または引用符 (")) が含まれていないことを確認してください。

### **2.3.1.12** (FWM 00012) 直接アプリケーションホストログオンの証明書が無効です

## 原因

SAP 認証直接アプリケーションログオンに対して入力された証明書に、無効な文字が含まれています。

## 対処方法

有効な整数ホストを入力します。空白、エンコードされた空白 ("%20")、または引用符が含まれていないことを確認してください。

## **2.3.2 FWM 01001 ～ FWM 01014**

### **2.3.2.1** (FWM 01001) サーバとの通信中に次の問題が発生しました。 {0}

## 原因

サーバとの通信中に問題が発生しました。

## 対処方法

詳細については、問題の原因を参照してください。

### **2.3.2.2** (FWM 01002) CMS {0} に再接続できません。セッションはログオフされたか期限が切れました

## 原因

ログオフしているか、セッションの有効期限が切れています。

## 対処方法

再ログインしてください。

### **2.3.2.3** (FWM 01003) サーバ {0} が見つからないか、またはダウンしています

#### 原因

サーバが見つかりません。オフラインである可能性があります。

## 対処方法

Central Management Server のポート設定を確認し、サーバを起動して有効化します。

### **2.3.2.4** (FWM 01005) CMS {0} との通信にソケットを開くことができません

#### 原因

Central Management Server と通信するためのソケットを開けません。

## 対処方法

Central Management Server が実行されていることを確認します。

### **2.3.2.5** (FWM 01006) サービス {0} にサーバ {1} から CMS {2} を経由して接続できません

#### 原因

Central Management Server を通してサービスに接続できません。

## 対処方法

セントラル管理コンソールにログインして、適切なサーバでサービスが実行中であることを確認します。

### 2.3.2.6 (FWM 01007) サーバ {0} から CMS {1} を経由してサービスを一覧できません

#### 原因

指定した Central Management Server を通して、指定したサーバで実行中のサービスの一覧を作成できませんでした。

#### 対処方法

セントラル管理コンソールにログオンして、適切なサーバでサービスが実行中であることを確認します。

### 2.3.2.7 (FWM 01008) 種類 {2} で追加の条件が {3} の CMS {0} およびクラスタ {1} 内にサーバが見つかりません。このようなサーバはダウンしているか、管理者が無効にしている可能性があります

#### 原因

必要なサーバが見つかりません。オフラインであるか、無効化されている可能性があります。

#### 対処方法

必要なすべてのサーバが実行中で、有効になっていることを確認します。

### 2.3.2.8 (FWM 01009) サーバ {0} に接続しようとした際に、通信エラーが発生しました

#### 原因

サーバへの接続中に、表示されている通信エラーが発生しました。

#### 対処方法

詳細については、このエラーの原因を参照してください。

### 2.3.2.9 (FWM 01010) サーバグループ {0} が CMS {1} で見つかりません

#### 原因

表示されているサーバグループが Central Management Server 上で見つかりませんでした。

#### 対処方法

表示されているサーバグループを作成します。

### 2.3.2.10 (FWM 01011) サービス {0} がサーバ {1} 上に見つかりません

#### 原因

表示されているサービスが、表示されているサーバ上で見つかりません。

#### 対処方法

セントラル管理コンソールにログオンして、表示されているサーバで表示されているサービスが実行中であることを確認します。

### 2.3.2.11 (FWM 01012) SSL モードが要求されていますが、次の引数がありません: {0}

#### 原因

SSL モードのためのリクエストで引数が足りません。

#### 対処方法

すべての SSL 引数がリクエストに指定されていることを確認します。

**2.3.2.12** (FWM 01013) SSL モードが要求されています。{0} という名前のファイルを開くとき、またはこのファイルからデータを読み取ろうとして、エラーが発生しました。エラーメッセージは {1} です

#### 原因

表示されているファイルを開く、または読み取ることができませんでした。

#### 対処方法

SSL ファイルが存在し、読み取れることを確認します。

**2.3.2.13** (FWM 01014) 種類 {2} でサービスが {3} の CMS {0} およびクラスタ {1} 内にサーバが見つかりません。このようなサーバはダウンしているか、管理者が無効にしている可能性があります

#### 原因

必要なサービスのあるサーバが見つかりませんでした。オフラインであるか、システム管理者によって無効化されている可能性があります。

#### 対処方法

必要なサーバがすべてオンラインで、有効化され、必要なサービスが実行されていることを確認します。

## 2.3.3 FWM 02001 ～ FWM 02137

**2.3.3.1** (FWM 02001) {0}

#### 原因

表示された例外が発生しました。



## 対処方法

詳細については、表示されている例外の原因を参照してください。

### **2.3.3.2** (FWM 02002) サービス {0} をサーバ {1} から取得中に問題が発生しました

#### 原因

サーバ上のサービスにアクセスできませんでした。

#### 対処方法

サーバ上でサービスが実行され、有効になっていることを確認します。

### **2.3.3.3** (FWM 02003) URI {0} のフォーマットが不正です

#### 原因

URI のフォーマットが不正です。

#### 対処方法

URI をチェックし、有効であることを確認してください。

### **2.3.3.4** (FWM 02004) 予期しないエラーが発生しました

#### 原因

エラーが予期されていませんでした。

#### 対処方法

ログファイルを確認します。このエラーの前に、システムで他のエラーが発生していた可能性が高いです。

### 2.3.3.5 (FWM 02005) 有効なページインデックス情報を取得できませんでした。ページ処理を続行できません

#### 原因

最大試行回数に達しましたが、有効なページインデックス情報を取得できませんでした。ページ処理を続行できません。ページ処理インデックスを変更する InfoObject のセットが更新された可能性があります。

#### 対処方法

ページ処理インデックスが再計算されるよう、オブジェクトセットを最新表示します。

### 2.3.3.6 (FWM 02006) ファイル {0} をリポジトリに書き込む際に問題が発生しました

#### 原因

ファイルのリポジトリへの書き込み中に問題が発生しました。

#### 対処方法

この時点で、File Repository Server が応答していることを確認してください。

### 2.3.3.7 (FWM 02007) ファイル {0} をリポジトリから読み込む際に問題が発生しました

#### 原因

ファイルのリポジトリからの読み込み中に問題が発生しました。File Repository Server またはローカルファイル I/O にアクセスできないことが原因である可能性があります。

#### 対処方法

ファイルに対する適切な権限があり、この時点で File Repository Server が応答していることを確認してください。また、ローカルマシンをチェックし、エラーメッセージで指定されたファイルへのアクセスと書き込みが可能であることを確認してください。

### 2.3.3.8 (FWM 02008) リポジトリからストリームを読み込む際に問題が発生しました

#### 原因

ファイルのリポジトリからの読み込み中に問題が発生しました。この問題は、File Repository Server にアクセスできなくなっているか、またはファイルに対して作成されたファイルストリームの長さが小さく、ファイルコンテンツ全体を格納できない場合に発生する可能性があります。

#### 対処方法

ファイルに対する適切な権限があり、この時点で File Repository Server が応答していることを確認してください。また、ファイルコンテンツ全体を格納できるよう、ストリームバッファが適切に割り当てられていることも確認してください。

### 2.3.3.9 (FWM 02009) ストリームをリポジトリに書き込み中に問題が発生しました

#### 原因

ファイルのリポジトリへの書き込み中に問題が発生しました。File Repository Server にアクセスできないことが原因である可能性があります。

#### 対処方法

ファイルに対する適切な権限があり、この時点で File Repository Server が応答していることを確認してください。

### 2.3.3.10 (FWM 02010) {0} からリポジトリ内の {1} にコピー中に問題が発生しました

#### 原因

リポジトリにおけるファイルのコピー中に問題が発生しました。

#### 対処方法

この時点で、File Repository Server が応答していることを確認してください。

### **2.3.3.11** (FWM 02011) ファイルリーダーで問題が発生しました

#### **原因**

FRS ファイルリーダーインタフェースを経由した File Repository Server からの読み込み中に、問題が発生しました。

#### **対処方法**

この時点で、File Repository Server が応答していることを確認してください。

### **2.3.3.12** (FWM 02012) ファイルライターで問題が発生しました

#### **原因**

FRS ファイルライターインタフェースを経由した File Repository Server への書き込み中に、問題が発生しました。

#### **対処方法**

この時点で、File Repository Server が応答していることを確認してください。

### **2.3.3.13** (FWM 02013) FRS からファイルを削除しているときに問題が発生しました

#### **原因**

File Repository Server からのファイルの削除中に問題が発生しました。

#### **対処方法**

ファイルは、すべての参照ファイルが削除されるまで削除できません。

### **2.3.3.14** (FWM 02014) ストリーム内の特定の位置を探しているときに問題が発生しました

#### **原因**

ファイル内の特定の位置を探しているときに問題が発生しました。

#### **対処方法**

この時点で、File Repository Server が応答していることを確認してください。

### **2.3.3.15** (FWM 02015) ファイルストアでの操作中（ファイルが存在するかどうかの確認中など）に問題が発生しました

#### **原因**

ファイルストアでの操作中（ファイルが存在するかどうかの確認中など）に問題が発生しました。

#### **対処方法**

この時点で、File Repository Server が応答していることを確認してください。

### **2.3.3.16** (FWM 02016) プラグイン {0} がありません

#### **原因**

必要なプラグインが存在しません。

#### **対処方法**

プラグインがインストールされていることを確認してください。

### 2.3.3.17 (FWM 02017) {0} プラグインは CMS 内に存在しません

#### 原因

必要なプラグインが Central Management Server にインストールされていません。

#### 対処方法

プラグインがインストールされていることを確認します。

### 2.3.3.18 (FWM 02018) {0} プラグインは初期化できませんでした

#### 原因

必要なプラグインを初期化できませんでした。

#### 対処方法

このタイプの新しい InfoObjects を作成する権限を持っていることを確認します。

### 2.3.3.19 (FWM 02020) ID {0} のオブジェクトが CMS にないか、そのオブジェクトへのアクセス権がありません

#### 原因

必要なオブジェクトが Central Management Server (CMS) に存在しないか、必要なアクセス権がありません。

#### 対処方法

オブジェクトが CMS に存在し、そのオブジェクトにアクセスするのに必要な権限があることを確認します。



### **2.3.3.20** (FWM 02021) ID {0} のプロパティはオブジェクトにありません

#### **原因**

プロパティがオブジェクトに存在しません。

#### **対処方法**

クエリ選択リストにプロパティが含まれていることを確認してください。

### **2.3.3.21** (FWM 02022) ID {0} のプロパティは読み取り専用です

#### **原因**

プロパティが読み取り専用です。

#### **対処方法**

読み取り専用のプロパティは変更できません。

### **2.3.3.22** (FWM 02024) 引数の値 {0} が正しくありません

#### **原因**

引数の値が無効です。

#### **対処方法**

引数のタイプと値が一致しており、値が指定された範囲内であることを確認してください。

### 2.3.3.23 (FWM 02025) この操作はサポートされていません

#### 原因

操作がサポートされていません。

#### 対処方法

ログファイルを確認します。ログファイルには追加情報が含まれている場合があります。

### 2.3.3.24 (FWM 02026) ID {0} のプロパティに予期しない値 {1} が指定されています

#### 原因

プロパティに予期しない値が指定されています。

#### 対処方法

API の JavaDoc で、プロパティの値が許容できる値かどうかを確認します。

### 2.3.3.25 (FWM 02027) サービス {0} はクライアント側で見つかりませんでした

#### 原因

サービスがクライアント側で見つかりませんでした。

#### 対処方法

サービスが有効であり、実行中であることを確認してください。

### 2.3.3.26 (FWM 02028) オブジェクト {1} に対する権限 {0} がありません

#### 原因

オブジェクトに対する権限がありません。

#### 対処方法

オブジェクトに対する権限を取得してください。

### 2.3.3.27 (FWM 02031) システムプロパティ "{0}" の呼び出し時にエラーが発生しました。エラー発生時のこのプロパティの値: {1} この値は有効ではないと思われます

#### 原因

必要なシステムプロパティの値が無効です。

#### 対処方法

有効なシステムプロパティの値を指定してください。

### 2.3.3.28 (FWM 02042) 値 {0} は次の値のいずれかにする必要があります: {1}.

#### 原因

値は、指定された値の一覧の一つである必要があります。

#### 対処方法

指定された値の一覧から値を選択します。

### 2.3.3.29 (FWM 02045) 信頼できるプリンシパル設定ファイルからの共有シークレットの読み取り中に、エラーが発生しました

#### 原因

信頼できるプリンシパル設定ファイルから共有シークレットを読み取れませんでした。

#### 対処方法

信頼できるプリンシパル設定ファイルがあり、読み取れることを確認します。

### 2.3.3.30 (FWM 02050) ID {0}、タイトル "{1}"、種類 "{2}" のオブジェクトは、最後のクエリから変更されました

#### 原因

必要な InfoObjects オブジェクトが最後のクエリ以降、変更されました。

#### 対処方法

再度 InfoObject を照会します。

### 2.3.3.31 (FWM 02056) ID {0} のサービスは削除できません。サーバによって現在使用されています。

#### 原因

サーバが現在使用しているため、必要なサービスを削除できません。

#### 対処方法

サービスに関連するサーバがないことを確認します。

**2.3.3.32** (FWM 02057) ID {0} のサービスコンテナを削除できません。サーバによって現在使用されています。

#### 原因

サーバが現在使用しているため、必要なサービスコンテナを削除できません。

#### 対処方法

サービスコンテナに関連するサーバがないことを確認します。

**2.3.3.33** (FWM 02072) イベントの監査に失敗しました

#### 原因

必要なイベントを監査できませんでした。

#### 対処方法

Program Job Server が実行され、有効になっていることを確認します。

**2.3.3.34** (FWM 02073) イベントの種類 {0} が無効です

#### 原因

必要なイベントの種類が無効になっています。

#### 対処方法

監視するイベントの種類を有効にします。

### **2.3.3.35** (FWM 02077) このユーザに対して優先ビューアロケールが設定されていません: {1} ({0})

#### **原因**

このユーザには、優先表示ロケールが設定されていません。

#### **対処方法**

このユーザの優先表示ロケールを設定します。

### **2.3.3.36** (FWM 02078) このユーザに対してロケールが設定されていません: {1} ({0})

#### **原因**

このユーザには、デフォルトロケールが設定されていません。

#### **対処方法**

このユーザのデフォルトロケールを設定します。

### **2.3.3.37** (FWM 02079) サービス {0} は無効にされています

#### **原因**

必要なサービスが無効になっています。

#### **対処方法**

サービスが有効になっていることを確認します。



### **2.3.3.38** (FWM 02080) 無効なログオントークン: {0}

#### **原因**

無効なログオントークンが使用されました。

#### **対処方法**

有効なログオンチケットを入力します。

### **2.3.3.39** (FWM 02082) ファイルのプロパティは正しく構成されていません

#### **原因**

ファイルプロパティの構造が無効です。

#### **対処方法**

API が正しく使用されていることを確認します。

### **2.3.3.40** (FWM 02083) 監査サービスは無効です

#### **原因**

監査サービスが無効になっています。

#### **対処方法**

Central Management Server と監査サービスが動作していて、有効になっていることを確認します。

### 2.3.3.41 (FWM 02084) 監査イベントのソースオブジェクト CUID を設定してからその他の監査 API を呼び出す必要があります

#### 原因

アプリケーションオブジェクト CUID が設定されていません。

#### 対処方法

アプリケーションに対して監査を呼び出す前に、`IClientSideAuditing.setApplicationObjCUID(String appObjCUID)` でアプリケーションオブジェクト CUID が設定されていることを確認してください。

### 2.3.3.42 (FWM 02085) イベントの種類 {0} はアプリケーション {1} でサポートされていません

#### 原因

必要なイベントの種類がサポートされていません。

#### 対処方法

サポートされているイベントの種類しか監査できません。

### 2.3.3.43 (FWM 02086) 期間は 0 以上の値、オブジェクト CUID、セッション CUID およびユーザー CUID は空以外の文字列にする必要があります

#### 原因

一部のイベントオブジェクトパラメータが無効です。

#### 対処方法

有効なイベントオブジェクトパラメータを入力します。

### **2.3.3.44** (FWM 02087) 無効なロケールです。ロケールは定義されていないか、ユーザのデフォルトロケールに設定されているか、サポートされていません

#### 原因

このユーザアカウントのデフォルトロケールが無効です。

#### 対処方法

ユーザが有効なロケールを入力したことを確認します。

### **2.3.3.45** (FWM 02088) CMS システムデータベースは使用できません。エラーはエンドユーザによって修正できません。このエラーをシステム管理者またはデータベース管理者に報告してください

#### 原因

Central Management Server データベースが使用できません。

#### 対処方法

システム管理者に連絡してください。

### **2.3.3.46** (FWM 02091) 検索サービスは正しく初期化されていません

#### 原因

検索サービスが正しく初期化されていません。

#### 対処方法

Adaptive Processing Server を再起動します。

### **2.3.3.47** (FWM 02092) Adaptive Processing Server がシャットダウンしています

#### 原因

Adaptive Processing Server がシャットダウンしています。

#### 対処方法

Adaptive Processing Server を再起動します。

### **2.3.3.48** (FWM 02093) クエリ文字列 {0} が無効です。クエリパーサーは文字列を解析できませんで した

#### 原因

パーサーでクエリ文字列を解析できません。

#### 対処方法

クエリ文字列を変更します。

### **2.3.3.49** (FWM 02094) 現在の検索サービスはすでにインデックスを作成しています。後でもう一度実 行してください

#### 原因

検索サービスで一度に処理できるインデックス化要求は1つだけです。

#### 対処方法

さらに要求する前に、インデックス化要求が終了するまでお待ちください。

### **2.3.3.50** (FWM 02099) クエリ文字列が空です

#### **原因**

クエリ文字列が空です。

#### **対処方法**

クエリ文字列のコンテンツを入力します。

### **2.3.3.51** (FWM 02103) 次のクエリを解析できません: {0}

#### **原因**

Central Management Server (CMS) のクエリ文字列を解析できません。

#### **対処方法**

有効な CMS クエリ文字列を入力します。

### **2.3.3.52** (FWM 02104) 次の文字を解析できません: {0}

#### **原因**

Central Management Server (CMS) のクエリ文字列を解析できません。

#### **対処方法**

有効な CMS クエリ文字列を入力します。

### **2.3.3.53** (FWM 02105) イベントの種類 ID {0} が無効か、クエリに SI\_AUDIT\_EVENTS が含まれていません

#### 原因

イベントの種類が無効です。

#### 対処方法

イベントオブジェクト ID が有効で、クエリに SI\_AUDIT\_EVENTS が含まれることを確認します。

### **2.3.3.54** (FWM 02106) イベント詳細 ID {0} が無効か、クエリに SI\_AUDIT\_EVENT\_DETAILS が含まれていません

#### 原因

イベントの種類が無効です。

#### 対処方法

イベントオブジェクト ID が有効で、クエリに SI\_AUDIT\_EVENTS が含まれることを確認します。

### **2.3.3.55** (FWM 02107) ファイル {0} を読み取れません

#### 原因

ファイルを読み取れません。

#### 対処方法

ファイルを読み取れることを確認します。

### **2.3.3.56** (FWM 02108) ファイル {0} のサイズが {1} バイト制限を超えています。大きすぎて扱えません

#### 原因

ファイルサイズが提案されている値を超えています。

#### 対処方法

ファイルのサイズを小さくするか、サイズがより小さいファイルを選択します。

### **2.3.3.57** (FWM 02109) {0} のためファイル全体を読み取れませんでした

#### 原因

ファイルを完全に読み取れませんでした。

#### 対処方法

ファイルが壊れていないことを確認します。

### **2.3.3.58** (FWM 02110) 交換中のキーのみを一時停止できます

#### 原因

交換処理されていないキーを中断しようとしてしました。

#### 対処方法

交換処理中のキーの中断のみ実行できます。



### **2.3.3.59** (FWM 02111) 無効にされたキーをのみを交換できます

#### **原因**

無効化されたクラスタキーのみ実行できます。

#### **対処方法**

交換処理する前にキーが無効化されていることを確認します。

### **2.3.3.60** (FWM 02112) クラスタキーが無効です

#### **原因**

現在のキーは有効ではありません。

#### **対処方法**

現在のキーを有効化します。

### **2.3.3.61** (FWM 02113) 監査レベルがカスタムに設定されていません

#### **原因**

現在の監査レベルがカスタムでない場合は、監査イベントを有効化または無効化できません。

#### **対処方法**

現在の監査レベルがカスタムであることを確認します。

### 2.3.3.62 (FWM 02114) 指定できない監査詳細を有効化または無効化することはできません

#### 原因

指定されていない監査詳細は切り替えできません。

#### 対処方法

切り替える監査詳細が指定されていることを確認します。

### 2.3.3.63 (FWM 02115) 暗号化/解読キーを作成できません

#### 原因

ファイル暗号化キーまたは salt を生成できません。

#### 対処方法

必要な暗号化ライブラリがインストールされていることを確認します。

### 2.3.3.64 (FWM 02118) 各コレクションには同じ数の項目が含まれている必要があります。コレクション {0} はコレクション {1} と同じサイズではありません

#### 原因

正しい数の暗号化キーを使わずにファイルセットのダウンロードまたはアップロードを試みました。

#### 対処方法

暗号化キーの数が、ダウンロードまたはアップロードするファイルの数と等しいことを確認します。

### **2.3.3.65** (FWM 02119) コンフィデンシャルチャンネルを確立できませんでした

#### **原因**

コンフィデンシャルチャンネルを確立できませんでした。

#### **対処方法**

操作を再実行します。

### **2.3.3.66** (FWM 02120) 一時停止したキーのみを再開できます

#### **原因**

有効なキーを再開しようとしてしました。

#### **対処方法**

再開する前にキーが中断されていることを確認します。

### **2.3.3.67** (FWM 02121) クラスターキーが有効な場合、改ざんありにできません

#### **原因**

有効なキーを改ざんありとマーク付けしようとしてしました。

#### **対処方法**

改ざんありのマークを設定する前に、キーが無効であることを確認します。

### 2.3.3.68 (FWM 02122) {0} プラグインは公開をサポートしていません

#### 原因

選択されたプラグインは公開をサポートしません。

#### 対処方法

公開をサポートするプラグインの種類を選択します。

### 2.3.3.69 (FWM 02123) イベント詳細値は空にできません

#### 原因

イベント詳細にコンテンツがありません。

#### 対処方法

イベント詳細にコンテンツがあることを確認します。

### 2.3.3.70 (FWM 02124) コンフィデンシャルチャンネルは無効になりました

#### 原因

コンフィデンシャルチャンネルが無効化されているため、この操作を実行できません。

#### 対処方法

コンフィデンシャルチャンネルを有効化するには、`businessobjects.enterprise.cc` を `TRUE` に設定するか、Java システムプロパティからプロパティを削除します。

### **2.3.3.71** (FWM 02125) ホットバックアップの最長持続時間には、{0} より大きく {1} より小さい値を指定する必要があります

#### 原因

ホットバックアップの最長持続時間に対する値が無効です。

#### 対処方法

ホットバックアップの最長持続時間に対する値範囲を確認してください。

### **2.3.3.72** (FWM 02126) この操作は CMS で実行できません

#### 原因

使用できないCMSから操作が要求されました。誤ったCMSに接続しようとしていた可能性があります。

#### 対処方法

CMSでサポートされている操作を使用してください。

### **2.3.3.73** (FWM 02127) 証明書を生成できませんでした。理由: {0}

#### 原因

内部エラーが原因で、X509 証明書を生成できませんでした。

#### 対処方法

再試行してください。問題が解決しない場合は、管理者に連絡してください。

### **2.3.3.74** (FWM 02128) SAML アサーションを生成できませんでした。理由: {0}

#### **原因**

内部エラーが原因で、SAML アサーションを生成できませんでした。

#### **対処方法**

Please try again.問題が解決しない場合は、管理者に連絡してください。

### **2.3.3.75** (FWM 02129) SAP {1} 設定情報をロードできませんでした。理由: {0}

#### **原因**

設定の問題が原因で、コラボレーション設定情報をロードできませんでした。

#### **対処方法**

CMC アプリケーションページに移動し、コラボレーションアプリケーションオブジェクトを適切に設定してください。

### **2.3.3.76** (FWM 02130) SAP {0} は無効です。有効にするには CMC にジャンプしてください

#### **原因**

関連するコラボレーションが無効化されているため、SAML アサーションを生成できませんでした。

#### **対処方法**

CMC アプリケーションページに移動し、関連するコラボレーションを有効化してください。

### 2.3.3.77 (FWM 02132) SAML シングルログアウト要求を生成できませんでした。理由: {0}

#### 原因

内部エラーが原因で、SAML シングルログアウト要求を生成できませんでした。

#### 対処方法

再試行してください。問題が解決しない場合は、管理者に連絡してください。

### 2.3.3.78 (FWM 02133) HANA DB へのログオンに使用される HANA SSO チケットのテストに失敗しました。理由: {0}

#### 原因

特定の理由により、HANA SSO チケット生成のテストに失敗しました。

#### 対処方法

エラーメッセージに記載されている問題を解決します。

### 2.3.3.79 (FWM 02134) ポート {1} の {0} という名前のホストに接続できません

#### 原因

指定されたホストおよびポートの SAML サービスプロバイダが存在しません。

#### 対処方法

HANA 認証アプリケーションページに一覧表示された SAML サービスプロバイダのホストおよびポートを使用します。



### 2.3.3.80 (FWM 02135) SAML 接続をテストするには管理者としてログオンしている必要があります

#### 原因

特定のエラーが原因で、HANA SSO チケット生成のテストに失敗しました。

#### 対処方法

エラーメッセージで示されている問題を修正します。

### 2.3.3.81 (FWM 02136) ユーザ {0} には SAML サービスプロバイダ {2} で必要とされる {1} プロパティがありません

#### 原因

SAML サービスプロバイダが、ユーザプロパティに存在しない追加情報を必要としています。

#### 対処方法

CMC または BOE SDK から、必要な情報を含めるためにユーザ設定を変更します。

### 2.3.3.82 (FWM 02137) SAP HANA 認証設定をロードできませんでした。理由: {0}

#### 原因

設定の問題が原因で、HANA 認証設定情報をロードできませんでした。

#### 対処方法

CMC アプリケーションページに移動し、HANA 認証を適切に設定してください。

### **2.3.3.83** (FWM 02138) 指定されたホストまたは IP アドレスは無効です。 {0}.

#### 原因

指定された IP アドレスまたは ホスト名は無効です。

#### 対処方法

有効な IP アドレスまたはホスト名を入力してください。

### **2.3.3.84** (FWM 02139) 指定されたポートは無効です: {0}.

#### 原因

指定されたポートは無効か、範囲外です。

#### 対処方法

0 から 65535 の間のポート番号を入力します。

### **2.3.3.85** (FWM 02140) "{0}" 文字列の長さは {1} ～ {2} 文字の間にする必要があります。

#### 原因

文字列の長さが範囲外です。

#### 対処方法

文字列の長さが指定された範囲内であることを確認してください。

## 2.3.4 FWM 03002 ～ FWM 03012

### 2.3.4.1 (FWM 03002) プロトコル {0} はサポートされていません。サポートされているプロトコルは path、query、cuid、search です

#### 原因

URI のプロトコルセクションが適切に指定されていません。プロトコルセクションが存在しないか、または指定がサポートされていないことが原因です。

#### 対処方法

[プロトコル]:// の形式でプロトコルを指定します。プロトコルは、path、query、cuid、search のうちの 1 つです。

### 2.3.4.2 (FWM 03003) 次の URI は無効です: {0}

#### 原因

URI の一般構文が正しくありません。

#### 対処方法

URI の一般構文が正しくありません。構文には、プロトコルと追加パラメータが含まれている必要があります。各プロトコルの詳細な構文エラーについては、InvalidPathNode、MalformedQueryExpression、MalformedCuidExpression、および MalformedSearchExpression を参照してください。

### 2.3.4.3 (FWM 03004) ルート要素 {0} はサポートされていません。サポートされているルート要素は InfoObjects、AppObjects、SystemObjects、\* (ワイルドカード) です

#### 原因

プロトコルの後に続くルート要素の指定に関連する path URI の解析中に、エラーが発生しました。path URI の例として、path://[ルート] が挙げられます。ルートは InfoObjects、AppObjects、SystemObjects、\* のうちいずれかにする必要があります。

## 対処方法

path URI のルート要素を、`path://[ルート]`と指定します。ルートは、`InfoObjects`、`AppObjects`、`SystemObjects`、`*`のうちいずれかになります。

### 2.3.4.4 (FWM 03005) パスノード {0} はリポジトリに存在しません

#### 原因

URI のパスノードが、そのパスのオブジェクトに対するクエリを実行するよう適切に指定されていません。これは現在、`cuid`および`path URI`のみに関連します。

## 対処方法

オブジェクトを取得する必要がある有効な親オブジェクトを表すよう、適切なパスノードを指定します。適切な構文は、`path://AppObjects/**/MyFolder`または`cuid://<parentID>/MyFolder`です。

### 2.3.4.5 (FWM 03006) 条件式 {0} の形式が正しくありません

#### 原因

URI で指定された条件基準の形式が正しくありません。

## 対処方法

条件基準指定の適切な構文は、`[`で始まり、`]`で終わる必要があります。たとえば、`path://AppObjects/**+/[SI_PARENTID IN (95)]`のようになります。

### 2.3.4.6 (FWM 03007) CUID プロトコル URI {0} が正しくありません

#### 原因

`cuid URI`に構文エラーがあります。

## 対処方法

構文 `cuid://<[',' で区切られた ID または CUID]>..` を使用して、適切な cuid URI を指定します。

### 2.3.4.7 (FWM 03008) クエリプロトコル URI {0} の形式が正しくありません

## 原因

query URI に構文エラーがあります。

## 対処方法

構文 `query://{[クエリ文字列]}>...` を使用して、適切な query URI を指定します。

### 2.3.4.8 (FWM 03009) 検索プロトコル URI {0} の形式が正しくありません

## 原因

search URI に構文エラーがあります。

## 対処方法

構文 `search://{[テスト検索語]}>...` を使用して、適切な search URI を指定します。

### 2.3.4.9 (FWM 03010) CUID {0} が ID リストに見つかりました (指定できるのはいずれかのみです)

## 原因

cuid URI で、CUID と ID の混合リストが指定されています。

## 対処方法

cuid URI (cuid://<[CUID/ID リスト]>) の CUID/ID リスト指定を、ID と CUID の両方ではなく、そのどちらかが含まれるよう修正します。

### 2.3.4.10 (FWM 03011) ID {0} が CUID リストに見つかりました (指定できるのはいずれかのみです)

## 原因

cuid URI で、CUID と ID の混合リストが指定されています。

## 対処方法

cuid URI (cuid://<[CUID/ID リスト]>) の CUID/ID リスト指定を、ID と CUID の両方ではなく、そのどちらかが含まれるよう修正します。

### 2.3.4.11 (FWM 03012) 次の SQL クエリは有効ではありません: {0}

## 原因

query URI で指定されたクエリ文字列に構文エラーがあります。

## 対処方法

query URI query://[{クエリ文字列}]>... で指定されたクエリ文字列のクエリ構文を確認します。

## 2.3.5 FWM 04002 ～ FWM 04038

### 2.3.5.1 (FWM 04002) CE SDK 例外が発生しました: '{0}'

## 原因

CE SDK 例外が発生しました。

## 対処方法

詳細については、この例外の原因を参照してください。

### **2.3.5.2** (FWM 04003) インポートフォルダ CUID '{0}' がこの CMS 上にありません

#### 原因

同じ BIAR ファイルに解決できなかった CUID が含まれているか、出力先 CMS に存在しない CUID があります。

## 対処方法

BIAR ファイルが有効であることを確認してください。

### **2.3.5.3** (FWM 04004) エンタープライズセッションが無効です

#### 原因

セッションはログオフされたか期限が切れました。

## アクション

ログオンを再試行します。

### **2.3.5.4** (FWM 04005) ファイルパスへのエクスポートが無効です

#### 原因

エクスポートするファイルパスが無効です。

## アクション

有効なファイルパスを指定します。



### 2.3.5.5 (FWM 04007) インポートファイル '{0}' が存在しません

#### 原因

FRS にアップロードするファイルに、BIAR ファイルにないものがあります。

#### 対処方法

BIAR ファイルが有効であることを確認してください。

### 2.3.5.6 (FWM 04008) '{0}' は InfoObject ではないため、インポートは実行できません

#### 原因

InfoObject ではないオブジェクトが BIAR ファイルに含まれています。

#### 対処方法

BIAR ファイルが有効であることを確認してください。

### 2.3.5.7 (FWM 04009) インポートファイルの解析例外が発生しました: '{0}'

#### 原因

BIAR ファイル内の businessobjects.xml が無効です。

#### 対処方法

BIAR ファイルが有効であることを確認してください。

### 2.3.5.8 (FWM 04010) XML ファイル内の要素が無効です: '{0}'

#### 原因

BIAR ファイル内の businessobjects.xml ファイルに無効な要素が含まれています。

#### 対処方法

BIAR ファイルが有効であることを確認してください。

### 2.3.5.9 (FWM 04011) XSD ファイルの解析例外が発生しました: '{0}'

#### 原因

xsd の解析中にエラーが発生しました。

#### アクション

Business Objects Enterprise によってインストールされた xsd の場合は、Business Objects に連絡してください。

### 2.3.5.10 (FWM 04012) '{0}' の使用可能なスキーマ定義 (XSD) がありません

#### 原因

XSD ファイルが見つかりません。

#### 対処方法

XSD ファイルがインストールされていることを確認してください。

### 2.3.5.11 (FWM 04013) 入力/出力例外が発生しました: '{0}'

#### 原因

BIAR ファイルのインポート中またはエクスポート中に I/O 関連エラーが発生しました。より詳細な根本のエラーについては、原因を参照してください。

#### 対処方法

BIAR アーカイブが有効であり、有効な UTF-8 エンコード済みオブジェクト xml が含まれていることを確認してください。また、アーカイブ済みオブジェクトに関連する機能が適切にインストールされていることも確認してください。

### 2.3.5.12 (FWM 04014) ターゲットシステムに必要な依存関係が見つかりません: '{0}'

#### 原因

インポート済みオブジェクトのセットの依存関係の一部が見つからないため、これらのオブジェクトをインポートできません。

#### 対処方法

インポートオブジェクトのすべての依存関係がインポートセットに含まれているか、またはすでにシステムに存在することを確認してください。

### 2.3.5.13 (FWM 04016) 項目 '{1}' が列挙 '{0}' にありません

#### 原因

BIAR ファイルに無効な列挙項目が含まれています。

#### 対処方法

BIAR ファイルが有効であることを確認してください。

## 2.3.5.14 (FWM 04017) プラグインオブジェクトを作成できません

### 原因

CMS にプラグインがインストールされていないため、オブジェクトを作成できませんでした。

### 対処方法

CMS にプラグインが適切にインストールされていることを確認してください。プラグインが適切にインストールされている場合、関連するシステムプラグインオブジェクトが CMS に存在する必要があります。

## 2.3.5.15 (FWM 04018) preventCreate としてマークされ、IMPORT\_PREVENT\_CREATE オプションが指定されている、種類が '{0}' のオブジェクトを作成しようとしています

### 原因

XSD ファイルで preventCreate としてマークされ、インポートオプション IMPORT\_PREVENT\_CREATE が true に指定されている、指定された種類のオブジェクトを作成できませんでした。

### 対処方法

オブジェクトの作成が確実に必要である場合、インポートオプション IMPORT\_PREVENT\_CREATE を削除するか、または false に変更します。

## 2.3.5.16 (FWM 04019) preventUpdate としてマークされ、IMPORT\_PREVENT\_UPDATE オプションが指定されている種類 '{0}' のオブジェクトを更新しようとしています

### 原因

XSD ファイルで preventUpdate としてマークされ、インポートオプション IMPORT\_PREVENT\_UPDATE が true に指定されている、指定された種類のオブジェクトを更新できませんでした。

## 対処方法

オブジェクトの更新が確実に必要である場合、インポートオプション `IMPORT_PREVENT_UPDATE` を削除するか、または `false` に変更します。

### 2.3.5.17 (FWM 04020) preventMigrate としてマークされ、IMPORT\_PREVENT\_MIGRATE オプションが指定されている種類が '{0}' のオブジェクトを移行しようとしています

## 原因

XSD ファイルで `preventMigrate` としてマークされ、インポートオプション `IMPORT_PREVENT_MIGRATE` が `true` に指定されている、指定された種類のオブジェクトを移行できませんでした。

## 対処方法

オブジェクトの移行が確実に必要である場合、インポートオプション `IMPORT_PREVENT_MIGRATE` を削除するか、または `false` に変更します。

### 2.3.5.18 (FWM 02121) クラスターキーが有効な場合、改ざんありにできません

## 原因

有効なキーを改ざんありとマーク付けしようとしてしました。

## 対処方法

改ざんありのマークを設定する前に、キーが無効であることを確認します。

### 2.3.5.19 (FWM 04022) 無効な XSD が渡されました。ログファイルを参照してください

## 原因

無効な XSD が渡されました。

## アクション

Business Objects Enterprise によってインストールされた xsd の場合は、Business Objects に連絡してください。

### **2.3.5.20** (FWM 04023) リソース '{0}' が見つかりません。XSD がロードされていない可能性があります

#### 原因

リソースファイルのロード中にエラーが発生しました。

#### 対処方法

ロードされたバンドルにリソースファイルが適切に含まれていることを確認します。

### **2.3.5.21** (FWM 04024) エクスポート中、予期しないエラーが発生しました

#### 原因

エクスポート中に予期しないエラーが発生しました。

#### 対処方法

ログファイルでエラーの詳細を確認します。

### **2.3.5.22** (FWM 04025) インポート中、予期しないエラーが発生しました

#### 原因

インポート中に予期しないエラーが発生しました。

## 対処方法

ログファイルでエラーの詳細を確認します。

### **2.3.5.23** (FWM 04026) 見つからない CUID を持つ infoobject をインポートできません

#### 原因

インポートしている InfoObject の CUID がありません。

## 対処方法

BIAR ファイルが有効であることを確認してください。

### **2.3.5.24** (FWM 04027) 親 CUID が見つからない InfoObject CUID '{0}' はインポートできません

#### 原因

インポートする InfoObject の親 CUID が見つかりません。

## 対処方法

BIAR ファイルが有効であることを確認してください。

### **2.3.5.25** (FWM 04029) 名前空間 '{1}' および '{2}' に対して重複する名前空間前置記号 '{0}' が定義されています

#### 原因

重複した名前空間前置記号が定義されています。

## 対処方法

独自の xsd を定義している場合は、インストールされている xsd の名前空間前置記号と重複する名前空間前置記号がないことを確認してください。

### **2.3.5.26** (FWM 04030) 種類 '{0}' は CMS に存在しません

#### 原因

InfoObject の種類が CMS に存在しません。

## 対処方法

InfoObject の種類が適切にインストールされていることを確認してください。

### **2.3.5.27** (FWM 04031) プラグイン名前空間 URI '{0}' の書式が認識されません。詳細: '{1}'

#### 原因

プラグインの名前空間 URI の形式を認識できません。

## 対処方法

BIAR ファイルが有効であることを確認してください。

### **2.3.5.28** (FWM 04032) 種類 '{0}' は見つかりませんでした

#### 原因

種類がありません。



## 対処方法

この種類の InfoObject に対して xsd がインストールされていることを確認してください。

**2.3.5.29** (FWM 04033) '{0}' のスキーマ定義 (XSD) の 2 つの異なるバージョン (Version '{1}') を含めようとしています。プラグイン XSD の 1 つのバージョンのみ含める必要があります。詳細: '{2}'

## 原因

コードで何かが正しく実装されませんでした。

## 対処方法

この例外は自明であり、ユーザが修正のためにできることはあまりありません。

**2.3.5.30** (FWM 04034) 修復不可能な FRS エラーが発生しました: '{0}'

## 原因

FRS ファイルの書き込みなどの、FRS のアクセシビリティまたは FRS I/O 関連エラーに関係する FRS 操作を実行しているときに、エラーが発生しました。

## 対処方法

根本的原因を確認します。FRS が実行中で、アクセス可能であり、十分なディスク容量があることを確認してください。

**2.3.5.31** (FWM 04036) ソースシステムに必要な依存関係が見つかりません: '{0}'

## 原因

エクスポートされたオブジェクトが参照する ID を CUID に解決できません。

## 対処方法

エクスポート中の依存関係の強制を無効にするか、すべての ID が、エクスポート側ユーザーが表示できるソースシステム内の有効なオブジェクトを参照するようにします。

### **2.3.5.32** (FWM 04037) CE SDK ランタイム例外が発生しました: '{0}'

#### 原因

CE SDK 例外が発生しました。

## 対処方法

詳細については、この例外の原因を参照してください。

### **2.3.5.33** (FWM 04038) CUID '{1}' のオブジェクトでプロパティ配列 '{0}' が無効です

#### 原因

エクスポートしている InfoObject に、予期しない構造のプロパティ配列があります。

## 対処方法

このプロパティの InfoObject をチェックして、配列構造が正しいことを確認してください。

### **2.3.5.34** (FWM 04039) インポートはキャンセルされました

#### 原因

インポートはキャンセルされました。

## 対処方法

(なし)

### **2.3.5.35** (FWM 04040) 通常どおりか、キャンセルまたは他の例外によりエクスポートが中断されました

## 原因

通常どおりか、キャンセルまたは他の例外によりエクスポートが中断されました。

## 対処方法

(なし)

### **2.3.5.36** (FWM 04041) マニフェスト '{0}' の形式が正しくありません。詳細: '{1}'

## 原因

指定されたマニフェストファイルの形式が正しくありません。

## 対処方法

詳細で実際の形式エラーを確認します。

## **2.3.6 FWM 05001 ～ FWM 05003**

### **2.3.6.1** (FWM 05001) バッチの状態が不明です

## 原因

バッチの状態に不整合があるため、セキュリティ権限に関連する操作のバッチ処理を続行できません。主な原因として、新しいバッチ要求の実行前に、セキュリティバッチのコミット操作が適切にロールバックされていないことが考えられます。

## 対処方法

com.crystaldecisions.sdk.occa.security.IBatch.commit 操作で例外がスローされる場合、バッチの状態をリセットするために com.crystaldecisions.sdk.occa.security.IBatch.rollback が呼び出されるようにしてください。

### 2.3.6.2 (FWM 05002) セキュリティバッチのコミット中にサーバエラーが発生しました

#### 原因

セキュリティ権限に関連する操作のバッチ処理により、CMS からのエラーが発生します。

#### 対処方法

詳細エラーメッセージで詳細を確認します。

### 2.3.6.3 (FWM 05003) タイプ {1} のリクエスト {0} はサーバエラー {2} で失敗しました: {3}

#### 原因

これは、BatchFailure.getMessage における 1 つのエラーです。失敗した各セキュリティリクエストに対して返されたエラーの詳細が提供されます。

#### 対処方法

各エラーの詳細については、サーバ側エラーに関する注釈を参照してください。

## 2.3.7 FWM 08001 ～ FWM 08006

### 2.3.7.1 (FWM 08001) プロパティ - 値ペア ({0}、{1}) の設定が ({2}、{3}) と矛盾します。矛盾を解決します

#### 原因

2 つのプロパティと値の組の設定が矛盾します。

## 対処方法

2つのプロパティと値の組を正しく設定します。

### 2.3.7.2 (FWM 08002) ID {0} のオブジェクトはシステム内に存在しません

#### 原因

参照先オブジェクトがシステムに存在しません。

## 対処方法

正しい ID を使用し、同じ ID の対応するオブジェクトがシステムに存在することを確認します。

### 2.3.7.3 (FWM 08003) プロパティ {0} の値 {1} は、予期される範囲 {2} から {3} の間にありません

#### 原因

表示されたプロパティの値が範囲を超えています。

## 対処方法

値が正しい範囲内にあることを確認します。

### 2.3.7.4 (FWM 08004) {0} はインタフェース {1} に定義されている有効な値ではありません

#### 原因

表示されたパラメータ値が無効です。

## 対処方法

有効なパラメータ値を入力します。

### **2.3.7.5** (FWM 08005) 親のアクセス権を継承させるには、プリンシパルをオブジェクトから削除する必要があります

## 原因

主体がオブジェクトから削除されていません。

## 対処方法

親の権限が継承される前に主体をオブジェクトから削除します。

## **2.3.8 FWM 10001 ～ FWM 10007**

### **2.3.8.1** (FWM 10002) 例外が発生し、保存領域へのオブジェクトの読み込みまたは書き込みは実行できません

## 原因

ストレージレイヤでの例外のため、オブジェクトを処理できません。

## 対処方法

詳細については、表示されている例外の原因を参照してください。

### **2.3.8.2** (FWM 10004) BIAR エンジンで例外が発生しました

## 原因

BIAR エンジンで例外が発生しました。

## 対処方法

詳細については、表示されている例外の原因を参照してください。

### 2.3.8.3 (FWM 10005) {0} が発生しました。元の例外メッセージ {1}

#### 原因

例外が発生しました。

## 対処方法

詳細については、表示された例外の原因を参照してください。

### 2.3.8.4 (FWM 10006) クエリを解析中にエラーが発生しました: '{0}'

#### 原因

クエリを解析できませんでした。

## 対処方法

詳細については、表示されている例外の原因を確認し、クエリの構文が正しいことを確認します。

### 2.3.8.5 (FWM 10007) {0} 個の例外が発生しました

#### 原因

例外が発生しました。

## 対処方法

詳細については、表示されている各例外の原因を参照してください。

## 2.3.9 FWM 12001 ～ FWM 12013

### 2.3.9.1 (FWM 12001) {0} が発生しました。元の例外メッセージ {1}

#### 原因

例外が発生しました。

#### 対処方法

詳細については、表示されている例外の原因を参照してください。

### 2.3.9.2 (FWM 12002) インポートまたはエクスポートアクションが決定できません

#### 原因

この種類のアクションは指定できませんでした。

#### 対処方法

インポートまたはエクスポートアクションを入力します。

### 2.3.9.3 (FWM 12003) CMS ユーザ名が見つかりません

#### 原因

このエラーは、BOE システムにログオンするためのユーザ名またはトークン文字列が入力 .properties ファイルに含まれていない場合に発生します。

#### 対処方法

適切な "userName" または "token" プロパティが設定されるよう、入力 .properties ファイルを修正します。



## 2.3.9.4 (FWM 12004) CMS ユーザパスワードが見つかりません

### 原因

このエラーは、BOE システムにログオンするためのユーザ名が入力 .properties ファイルで設定されているものの、パスワードが設定されていない場合に発生します。

### 対処方法

"userName" プロパティが設定されている場合、適切な "password" プロパティが設定されるよう、入力 .properties ファイルを修正します。

## 2.3.9.5 (FWM 12005) CMS 名が見つかりません

### 原因

このエラーは、BOE システムにログオンするための CMS 名またはトークン文字列が入力 .properties ファイルに含まれていない場合に発生します。

### 対処方法

適切な "CMS" プロパティが設定されるよう、入力 .properties ファイルを修正します。

## 2.3.9.6 (FWM 12006) 認証方法が見つかりません

### 原因

このエラーは、BOE システムにログオンするための認証の種類またはトークン文字列が入力 .properties ファイルに含まれていない場合に発生します。

### 対処方法

適切な "authentication" プロパティが設定されるよう、入力 .properties ファイルを修正します。

### 2.3.9.7 (FWM 12007) インポート中の XML 検証はサポートされません

#### 原因

インポート中に要求した XML 検証はサポートされていません。

#### 対処方法

`validateXML` を **false** に設定します。

### 2.3.9.8 (FWM 12008) プロパティファイルにクエリ文字列がありません

#### 原因

このエラーは、1つ以上のオブジェクトを BIAR アーカイブにエクスポートするときに、オブジェクトを取得するために使用するクエリが `.properties` ファイルで指定されていない場合に発生します。

#### 対処方法

"`exportQuery`" プロパティ (1つのオブジェクトをエクスポートする場合) を指定するか、または "`exportQueriesTotal`" プロパティ (複数のオブジェクトをエクスポートする場合) に正の整数を指定するよう、入力 `.properties` ファイルを修正します。

### 2.3.9.9 (FWM 12009) インポートファイルの場所が見つかりません

#### 原因

このエラーは、BIAR アーカイブのインポート時に、インポートファイルの場所が入力 `.properties` ファイルで指定されていない場合に発生します。

#### 対処方法

"`importXmlLocation`" プロパティまたは "`importBiarLocation`" プロパティを、インポートされる `InfoObject` を記述する XML/BIAR ファイルへの完全パスに指定するよう、入力 `.properties` ファイルを修正します。

### 2.3.9.10 (FWM 12010) エクスポートファイルの場所が見つかりません

#### 原因

このエラーは、BIAR アーカイブへの1つ以上のオブジェクトのエクスポート時に、エクスポートファイルの場所が入力 .properties ファイルで指定されていない場合に発生します。

#### 対処方法

"exportXmlLocation" プロパティまたは "exportBiarLocation" プロパティを、InfoObject がエクスポートされる XML/BIAR ファイルへの完全パスに指定するよう、入力 .properties ファイルを修正します。

### 2.3.9.11 (FWM 12011) 次のクエリは BIAR エンジンで認識されません: '{0}'

#### 原因

BIAR エンジンではクエリを解析できません。

#### 対処方法

クエリの書式が正しいことを確認します。

### 2.3.9.12 (FWM 12012) 無効な BIAR ファイルです。バージョン {0} よりも古いファイルをインポートする場合は、アップグレードマネジメントツールを使用してください

#### 原因

旧バージョンのデプロイメントから BIAR ファイルはインポートできません。

#### 対処方法

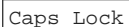
サポートされているバージョンにデプロイメントをアップグレードし、アップグレードマネジメントツールを使用して BIAR ファイルをインポートします。

### 2.3.9.13 (FWM 12013) BIAR ファイルを開けません。パスワードが無効です

#### 原因

不正なパスワードが入力されました。

#### 対処方法

 がオフになっていることを確認して、パスワードを再入力します。

### 2.3.9.14 (FWM 12014) BIAR ファイル形式が認識されません。互換性のある形式で BIAR ファイルを再エクスポートしてください

#### 原因

BIAR ファイルを開こうとしました。ファイルの内容を認識できません。

#### 対処方法

BIAR ファイルを再作成します。

## 2.3.10 FWM 14001 ～ FWM 14009

### 2.3.10.1 (FWM 14001) レプリケーション一覧にオブジェクトがありません

#### 原因

このジョブのレプリケーション一覧に、アカウントがレプリケート権限を持つオブジェクトが含まれていません。

#### 対処方法

レプリケーション一覧にオブジェクトがあること、リモートシステム接続で指定されたユーザに、そのレプリケーション一覧内のオブジェクトに対するレプリケート権限があることを確認します。

## 2.3.10.2 (FWM 14002) 元のサイトに CUID "{0}" のレプリケーション一覧がありません

### 原因

レプリケーションジョブが、無効な CUID を使ってレプリケーション一覧を要求しました。

### 対処方法

要求されたレプリケーション一覧がシステムに存在することを確認します。

## 2.3.10.3 (FWM 14003) フィルタ設定によりレプリケーションからすべてが除外されます

### 原因

レプリケーションフィルタの設定で、すべてのオブジェクトが除外されます。

### 対処方法

レプリケーションジョブ設定が正しいことを確認します。

## 2.3.10.4 (FWM 14004) 無効な最新表示モードの値: {0}

### 原因

現在の最新表示モードの値が無効です。

#### ① 注記

一方向レプリケーションでは、CeApplicationRefreshMode.REFRESH\_TO\_MASTER は無効です。

### 対処方法

レプリケーションジョブ設定が正しいことを確認します。設定できる値については、CeApplicationRefreshMode を参照してください。

## 2.3.10.5 (FWM 14005) 無効な競合解決モードの値: {0}

### 原因

現在の競合解決モードの値が無効です。

#### ① 注記

一方向レプリケーションでは、`CeConflictResolutionMode.SLAVE_WINS` は無効です。

### 対処方法

レプリケーションジョブ設定が正しいことを確認します。設定できる値については、`CeApplicationRefreshMode` を参照してください。

## 2.3.10.6 (FWM 14006) オブジェクトを更新しないとレプリケーションを最新表示できません

### 原因

レプリケーションジョブが最新表示モードで実行されましたが、オブジェクトが指定されていませんでした。

### 対処方法

レプリケーションジョブ設定によって、最新表示するオブジェクトが指定されていることを確認するか、通常のレプリケーションモードに切り替えます。

## 2.3.10.7 (FWM 14007) リモートシステム接続でローカルシステムを参照しています

### 原因

レプリケーションジョブの出力元と出力先が同じです。

## 対処方法

リモートクラスタ設定が、異なる SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォームデプロイメントを参照することを確認します。

### 2.3.10.8 (FWM 14008) 最新表示モード ({0}) と競合解決モード ({1}) の組み合わせが無効です

## 原因

最新表示モードと競合解決モードを組み合わせることはできません。

CeConflictResolutionMode.MASTER\_WINS は CeApplicationRefreshMode.REFRESH\_TO\_MASTER と共に使用できません。また、CeConflictResolutionMode.SLAVE\_WINS は CeApplicationRefreshMode.REFRESH\_FROM\_MASTER と共に使用できません。

## 対処方法

レプリケーションジョブ設定が正しいことを確認して CeConflictResolutionMode および CeApplicationRefreshMode の適切な値を参照しています。

### 2.3.10.9 (FWM 14009) 別のレプリケーションジョブが同じ元サイトからコンテンツをレプリケートしています。このジョブは、後でもう一度実行してください

## 原因

他のレプリケーションジョブの実行中にレプリケーションジョブを実行しようとしてしました。

## 対処方法

新しいレプリケーションジョブが再実行を試行します。

## 2.3.11 FWM 16001 ～ FWM 16005

### 2.3.11.1 (FWM 16001) CMS にログオンしていません。続行できません

#### 原因

Central Management Server (CMS) にログオンしていません。

#### 対処方法

コマンドを実行する前に、CMS にログオンします。

### 2.3.11.2 (FWM 16002) コマンド '{0}' に次の必要なパラメータがありません: {1}

#### 原因

ランタイムコマンドに必要なパラメータがありません。

#### 対処方法

使用できるパラメータについては、コマンドの説明を参照してください。

### 2.3.11.3 (FWM 16003) コマンド '{0}' は '{1}' を有効なパラメータとして認識しません

#### 原因

このランタイムコマンドには、無効な、または認識できないパラメータが含まれています。

#### 対処方法

使用できるパラメータについては、コマンドの説明を参照してください。



#### **2.3.11.4** (FWM 16004) コマンド '{0}' は有効なコマンドとして認識されません

##### **原因**

このランタイムコマンドは無効です。

##### **対処方法**

有効なランタイムコマンドについては、ドキュメンテーションを参照してください。

#### **2.3.11.5** (FWM 16005) ファイル '{0}' への書き込みに失敗しました

##### **原因**

指定されたファイルにコンテンツを書き込めませんでした。

##### **対処方法**

正しい書き込み権限が指定されていることを確認します。

### **2.3.12 FWM 17001 ～ FWM 17003**

#### **2.3.12.1** (FWM 17001) オプション {0} には値を入力する必要があります

##### **原因**

このオプションには値が必要です。値がありません。

##### **対処方法**

コマンドラインの構文が正しいことを確認してから、操作を再試行します。

### 2.3.12.2 (FWM 17002) オプション {0} には値を入力できません

#### 原因

このオプションでは値を使用できません。にもかかわらず、値が含まれています。

#### 対処方法

コマンドラインの構文が正しいことを確認してから、操作を再試行します。

### 2.3.12.3 (FWM 17003) オプション '{0}' は不明です

#### 原因

このオプションは無効です。

#### 対処方法

コマンドラインの構文が正しいことを確認してから、操作を再試行します。

## 2.3.13 FWM 20030 ～ FWM 20032

### 2.3.13.1 (FWM 20030) CMS '{0}' にアクセスできませんでした。正しいホストおよびポートを指定して、ネットワークの問題を確認してください。SAP Support Portal で SAP Knowledge Base Article 2151044 を参照してください。

#### 原因

CMS にログインできません。

## アクション

CMS サーバ名が <ホスト>:<ポート> の形式を使用して指定されていることを確認します。クライアントとサーバの間のネットワーク接続を確認します。サーバで CMS が正常に起動していることを確認します (CMS が停止しているか、クラッシュしているか、または応答しない可能性があります)。

詳細については、SAP Support Portal で SAP Knowledge Base Article [2151044](#)  を参照してください。

### 2.3.13.2 (FWM 20031) CMS "{0}" にアクセスできませんでした。マシン '{1}' 上の CMS は重大なエラーのため停止しました

#### 原因

CMS にログオンできません。

#### 対処方法

ローカル CMS は重大なエラーのためシャットダウンしました。詳細については、error\_cms<ポート>.log ファイルを参照してください。

### 2.3.13.3 (FWM 20032) CMS "{0}" にアクセスできませんでした。マシン '{1}' 上の CMS は複数の重大なエラーのため停止しました

#### 原因

CMS にログオンできません。

#### 対処方法

ローカル CMS は重大なエラーのためシャットダウンしました。詳細については、error\_cms<ポート>.log ファイルを参照してください。

## 2.3.14 FWM 22001 ～ FWM 22024

**2.3.14.1** (FWM 22001) オブジェクト ID {0} のサービスが見つかりません。インストールが実行中ではないことを確認してください。操作中にこのエラーが発生しました: {1}

### 原因

このインストールプログラムが、ノードを含むマシンの1つで実行されました。

### 対処方法

インストールを停止し、システム設定ウィザードを再実行します。

**2.3.14.2** (FWM 22002) オブジェクト ID {0} のサービスカテゴリが見つかりません。他のインストールが実行中ではないことを確認してください。操作中にこのエラーが発生しました: {1}

### 原因

インストールが、ノードを含むマシンの1つで実行されています。

### 対処方法

インストールを停止し、システム設定ウィザードを再実行します。

**2.3.14.3** (FWM 22003) オブジェクト ID {0} の Adaptive Processing Server が見つかりません。他のサーバ変更が実行されていないことを確認してください。操作中にこのエラーが発生しました: {1}

### 原因

この操作中に APS サーバが追加または削除されました。

## 対処方法

サーバの作成または削除操作を停止し、システム設定ウィザードを再実行します。

**2.3.14.4** (FWM 22004) Server の処理に時間がかかりすぎています。この操作を中止しています：  
{0}

## 原因

サーバをホストしているマシンに対して過剰な負荷が発生している可能性があります。

## 対処方法

サーバをホストしているマシン上の他のアプリケーションおよびサービスをシャットダウンするか、またはマシンに割り当てられるリソースを増やして、システム設定ウィザードを再実行します。

**2.3.14.5** (FWM 22005) フォルダ定義は通常の設定またはノード固有の設定のみ行うことができます。  
両方の設定を行うことはできません

## 原因

フォルダプロパティは、すべてのノードか、または明示的に指定されたノードのどちらかに対してのみ指定でき、両方に対して指定することはできません。

## 対処方法

通常の設定またはノード固有の設定を削除します。

**2.3.14.6** (FWM 22006) デフォルトのフォルダの場所を指定する必要があります

## 原因

デフォルトフォルダを定義するプロパティが存在しません。

## 対処方法

デフォルトフォルダのファイルの場所を指定するプロパティ定義を追加します。

### **2.3.14.7** (FWM 22007) 定義にプロパティ {0} がありません

#### 原因

定義にフォルダがありません。

## 対処方法

指定されたフォルダを定義する必要があります。

### **2.3.14.8** (FWM 22008) 行番号 {1} のプロパティ {0} はサポートされていません

#### 原因

不明なプロパティが指定されました。

## 対処方法

不明なプロパティを定義から削除します。

### **2.3.14.9** (FWM 22009) フォルダプロパティが指定されていません

#### 原因

フォルダプロパティが指定されていません。

## 対処方法

共通のケースに対してはプロパティ Folders.InputFileStore、Folders.OutputFileStore、Folders.Log、Folders.Data、Folders.Auditing、各ノードに対してはプロパティ Folders.<ノード>.InputFileStore、Folders.<ノード>.OutputFileStore、Folders.<ノード>.Log、Folders.<ノード>.Data、Folders.<ノード>.Auditing を定義する必要があります。

### **2.3.14.10** (FWM 22010) システムにノード {0} がありますが、定義がありません

#### 原因

定義にノードがありません。

#### 対処方法

指定されたノードを定義する必要があります。

### **2.3.14.11** (FWM 22020) プロパティに予期しない数のコンポーネントがあります

#### 原因

プロパティに予期しない数のコンポーネントがあります。

#### 対処方法

プロパティ名のスペルが正しいことを確認してください。

### **2.3.14.12** (FWM 22021) プロパティが複数回定義されています。複数の定義は許可されていません

#### 原因

プロパティが複数回定義されています。

## 対処方法

各プロパティが1回だけ定義されていることを確認してください。

### **2.3.14.13** (FWM 22022) プロパティを認識できません

## 原因

プロパティを認識できません。

## 対処方法

プロパティ名のスペルが正しいことを確認してください。

### **2.3.14.14** (FWM 22023) プロパティに無効な値があります。プロパティ値が正しい形式で指定されていません

## 原因

プロパティ値が正しい形式で指定されていません。

## 対処方法

プロパティの値の形式が正しくなるようにしてください。

### **2.3.14.15** (FWM 22024) 必須プロパティが見つかりません: {0}

## 原因

必須プロパティがありません。



## 対処方法

必須プロパティを追加します。

## 2.3.15 FWM 23000 ～ FWM 23066

### 2.3.15.1 (FWM 23000) エラー: AddNode - ノード名には、英数字と下線のみを含めることができます。 最初の文字を数字にすることはできません

#### 原因

AddNode に対して無効なノード名が指定されました。

## 対処方法

AddNode がコンソールから手動で起動される場合、エラーメッセージで示されたガイドラインに従い、`-name` 引数を変更します。AddNode がクライアント (CCM など) から起動される場合は、SAP テクニカルサポートに連絡してください。

### 2.3.15.2 (FWM 23001) エラー: AddNode - オペレーティングシステムが認識されません

#### 原因

AddNode に対して無効なオペレーティングシステムが指定されました。

## 対処方法

AddNode がコンソールから手動で起動される場合、`-platform` 引数に対して有効なオペレーティングシステム名を入力します。aix\_rs6000\_64、aix\_rs6000、linux\_x64、linux\_x86、solaris\_sparcv9、solaris\_sparc、win64\_x64、win32\_x86 のうちいずれかの値を使用します。AddNode がクライアント (CCM など) から起動される場合は、SAP テクニカルサポートに連絡してください。

### 2.3.15.3 (FWM 23002) エラー: AddNode - 指定された認証情報では、CMS "{0}" にログオンできませんでした。CMS 名、ポート番号、および認証情報が正しいことを確認してください

#### 原因

CMS サーバに対して指定された認証情報が正しくありません。

#### 対処方法

CMS 名、ポート番号、および認証情報が正しいことを確認してください。

### 2.3.15.4 (FWM 23003) エラー: AddNode - ファイル "{0}" にインストール情報を書き込めませんでした。十分なディスク領域を使用でき、書き込み権限が与えられていることを確認してください

#### 原因

I/O エラーにより、ファイルにインストール情報を書き込めませんでした。

#### 対処方法

十分なディスク領域を使用でき、書き込み権限が与えられていることを確認してください。

### 2.3.15.5 (FWM 23004) エラー: 予期しない内部エラーが発生しました。AddNode - ファイル "{0}" が見つかりませんでした。この場所では、Server Intelligence インストールが見つかりませんでした

#### 原因

インストールファイルが空か、または見つかりませんでした。

## 対処方法

SAP テクニカルサポートに連絡してください。

**2.3.15.6** (FWM 23005) エラー: 予期しない内部エラーが発生しました。AddNode - Server Intelligence インストールはこのリポジトリで初期化されていません

## 原因

リポジトリ内部エラーが発生しました。

## 対処方法

SAP テクニカルサポートに連絡してください。

**2.3.15.7** (FWM 23006) エラー: 予期しない内部エラーが発生しました。AddNode - 重複するインストールオブジェクトが見つかりました

## 原因

リポジトリ内部エラーが発生しました。

## 対処方法

SAP テクニカルサポートに連絡してください。

**2.3.15.8** (FWM 23007) エラー: 予期しない内部エラーが発生しました。AddNode - {0} の DFO ファイルのコミットをエラーのために中止しています

## 原因

AddNode 内部エラーが発生しました。

## 対処方法

SAP テクニカルサポートに連絡してください。

**2.3.15.9** (FWM 23008) エラー: 予期しない内部エラーが発生しました。AddNode - ノードを作成できませんでした

## 原因

ノードを作成できません。

## 対処方法

SAP テクニカルサポートに連絡してください。

**2.3.15.10** (FWM 23009) エラー: 予期しない内部エラーが発生しました。AddNode - ノードを更新できませんでした

## 原因

ノードを更新できません。

## 対処方法

SAP テクニカルサポートに連絡してください。

**2.3.15.11** (FWM 23010) エラー: 予期しない内部エラーが発生しました。AddNode - このマシンには、名前 {0} のノードに対し、すでにファイル "{1}" が存在します

## 原因

ファイルがすでに存在します。

## 対処方法

SAP テクニカルサポートに連絡してください。

**2.3.15.12** (FWM 23011) エラー: 予期しない内部エラーが発生しました。AddNode - 名前が {0} のノードがこのクラスタにすでに存在します

## 原因

ノードがこのクラスタにすでに存在します。

## 対処方法

SAP テクニカルサポートに連絡してください。

**2.3.15.13** (FWM 23012) エラー: 予期しない内部エラーが発生しました。AddNode - 名前が {0} でファイルが "{1}" のノードはこのマシンに存在しません

## 原因

ノードがこのマシンに存在しません。

## 対処方法

SAP テクニカルサポートに連絡してください。

**2.3.15.14** (FWM 23013) エラー: 予期しない内部エラーが発生しました。AddNode - このマシン上の、名前が {0} のノードは、接続先のクラスタに存在しません

## 原因

名前が {0} のノードが見つかりませんでした。

## 対処方法

SAP テクニカルサポートに連絡してください。

**2.3.15.15** (FWM 23014) エラー: 予期しない内部エラーが発生しました。AddNode - 予期しない重複ノードが見つかりました

## 原因

重複ノードが見つかりました。

## 対処方法

SAP テクニカルサポートに連絡してください。

**2.3.15.16** (FWM 23015) エラー: 予期しない内部エラーが発生しました。AddNode - ノードを削除できませんでした。ノードがリポジトリに存在しますが、ローカルマシンには存在しません

## 原因

ノードの削除中にエラーが発生しました。ノードがリポジトリに存在しますが、このマシンのローカルノードではありません。

## 対処方法

SAP テクニカルサポートに連絡してください。

**2.3.15.17** (FWM 23016) エラー: 内部エラーが発生しました。AddNode - ノードを削除できませんでした。ノードがリポジトリに存在しますが、ローカルマシンには存在しません

## 原因

ノードの削除中にエラーが発生しました。ノードがリポジトリに存在しますが、このマシンのローカルノードではありません。

## 対処方法

SAP テクニカルサポートに連絡してください。

**2.3.15.18** (FWM 23017) エラー: AddNode - ノードとそのサーバの両方、またはどちらかがまだ実行中です。ノードを停止してください

## 原因

ノードとそのサーバの両方、またはどちらかがまだ実行中です。

## 対処方法

ノードを停止してください。

**2.3.15.19** (FWM 23018) エラー: AddNode - ノードとそのサーバ [{0}] の両方、またはどちらかがまだ実行中です。ノードを停止してください

## 原因

ノードとそのサーバの両方、またはどちらかがまだ実行中です。

## 対処方法

ノードを停止してください。

**2.3.15.20** (FWM 23019) エラー: AddNode - -adopt オプションと -update オプションは同時に使用できません

## 原因

AddNode を起動するためにコマンドラインで使用されたパラメータに、-adopt と -update の両方が含まれています。

## 対処方法

AddNode がコンソールから手動で起動される場合、1つのオプションのみが使用されるようコマンドラインを変更します。AddNode がクライアント (CCM など) から起動される場合は、SAP テクニカルサポートに連絡してください。

### **2.3.15.21** (FWM 23020) エラー: AddNode - -devmode と -update は同時に使用できません

#### 原因

AddNode を起動するためにコマンドラインで使用されたパラメータに、-devmode と -update の両方が含まれています。

## 対処方法

AddNode がコンソールから手動で起動される場合、1つのオプションのみが使用されるようコマンドラインを変更します。AddNode がクライアント (CCM など) から起動される場合は、SAP テクニカルサポートに連絡してください。

### **2.3.15.22** (FWM 23021) エラー: AddNode - -devmode と -adopt は同時に使用できません

#### 原因

AddNode を起動するためにコマンドラインで使用されたパラメータに、-devmode と -adopt の両方が含まれています。

## 対処方法

AddNode がコンソールから手動で起動される場合、1つのオプションのみが使用されるようコマンドラインを変更します。AddNode がクライアント (CCM など) から起動される場合は、SAP テクニカルサポートに連絡してください。



**2.3.15.23** (FWM 23022) エラー: AddNode - ファイル "{0}" を書き込めませんでした。十分なディスク領域を使用でき、書き込み権限が与えられていることを確認してください

#### 原因

ファイル {0} を書き込めませんでした。

#### 対処方法

十分なディスク領域を使用でき、書き込み権限が与えられていることを確認してください。エラーが解決しない場合は、SAP テクニカルサポートに連絡してください。

**2.3.15.24** (FWM 23023) エラー: 予期しない内部エラーが発生しました。AddNode - リソースバンドル "{0}" が見つかりませんでした

#### 原因

内部エラーが発生しました。

#### 対処方法

SAP テクニカルサポートに連絡してください。

**2.3.15.25** (FWM 23024) エラー: 予期しない内部エラーが発生しました。AddNode - "{0}" という名前のリソースは見つかりませんでした。サーバ "{1}" の古いリソースを使用しています

#### 原因

内部エラーが発生しました。

#### 対処方法

SAP テクニカルサポートに連絡してください。

**2.3.15.26** (FWM 23025) エラー: 予期しない内部エラーが発生しました。CMS は予期せず終了コード {0} で終了しました

#### 原因

AddNode の失敗: CMS が予期せず終了しました。

#### 対処方法

SAP テクニカルサポートに連絡してください。

**2.3.15.27** (FWM 23026) エラー: 予期しない内部エラーが発生しました。CMS が起動しませんでした: {0}

#### 原因

CMS が起動しませんでした。

#### 対処方法

SAP テクニカルサポートに連絡してください。

**2.3.15.28** (FWM 23027) エラー: 予期しない内部エラーが発生しました。AddNode - ファイル {0} はどのフィルタでも受け入れられませんでした

#### 原因

内部エラーが発生しました。

#### 対処方法

SAP テクニカルサポートに連絡してください。

## 2.3.15.29 (FWM 23028) エラー: AddNode - 指定されたインポートディレクトリ "{0}" が存在しないか、Server Intelligence ファイルを含みません

### 原因

-importdir 引数で指定された一時ディレクトリが存在しないか、またはアクセスできません。

### 対処方法

AddNode がコマンドラインから起動される場合、-importdir 引数の値を変更してアクセス可能なディレクトリを指定します。AddNode がクライアント (CCM など) から起動される場合は、SAP テクニカルサポートに連絡してください。

## 2.3.15.30 (FWM 23029) エラー: AddNode - 指定された一時ディレクトリが存在しないか、アクセスできません

### 原因

-exportdir 引数で指定された一時ディレクトリが存在しないか、またはアクセスできません。

### 対処方法

AddNode がコマンドラインから起動される場合、-exportdir 引数の値を変更してアクセス可能なディレクトリを指定します。AddNode がクライアント (CCM など) から起動される場合は、SAP テクニカルサポートに連絡してください。

## 2.3.15.31 (FWM 23030) エラー: 予期しない内部エラーが発生しました。AddNode - ソースファイル "{0}" から XML を生成できませんでした。{1}

### 原因

内部エラーが発生しました。

## 対処方法

SAP テクニカルサポートに連絡してください。

**2.3.15.32** (FWM 23031) エラー: 予期しない内部エラーが発生しました。AddNode - XML ファイル  
"{0}" の読み込みまたは解析ができませんでした。{1}

## 原因

内部エラーが発生しました。

## 対処方法

SAP テクニカルサポートに連絡してください。

**2.3.15.33** (FWM 23032) エラー: 予期しない内部エラーが発生しました。AddNode - このファイル  
{0} の CUID が空です

## 原因

内部エラーが発生しました。

## 対処方法

SAP テクニカルサポートに連絡してください。

**2.3.15.34** (FWM 23033) エラー: 予期しない内部エラーが発生しました。AddNode - このサーバで  
は、複数の {0} サービスコンテナが使用されますが、1 つのサービスコンテナを使用する必  
要があります

## 原因

内部エラーが発生しました。

## 対処方法

SAP テクニカルサポートに連絡してください。

**2.3.15.35** (FWM 23034) エラー: 予期しない内部エラーが発生しました。AddNode - このサーバは {0} を直接使用するべきではありません。これはサービスまたはコンテナサポートサービスであるためです

## 原因

内部エラーが発生しました。

## 対処方法

SAP テクニカルサポートに連絡してください。

**2.3.15.36** (FWM 23035) エラー: 予期しない内部エラーが発生しました。AddNode - このサーバは CUID {0} のサービスコンテナを使用しようとしていますが、このマシンにはそのサービスコンテナの DFT がありません

## 原因

内部エラーが発生しました。

## 対処方法

SAP テクニカルサポートに連絡してください。

**2.3.15.37** (FWM 23036) エラー: 予期しない内部エラーが発生しました。AddNode - このサーバは CUID {1} のサービスをホストしようとしていますが、このマシンにはそのサービスの DFT がなく、{0} はそれをサポートしていません

#### 原因

内部エラーが発生しました。

#### 対処方法

SAP テクニカルサポートに連絡してください。

**2.3.15.38** (FWM 23037) エラー: 予期しない内部エラーが発生しました。AddNode - このサーバは {1} をホストしようとしていますが、{0} はそれをサポートしていません

#### 原因

内部エラーが発生しました。

#### 対処方法

SAP テクニカルサポートに連絡してください。

**2.3.15.39** (FWM 23038) エラー: 予期しない内部エラーが発生しました。AddNode - このサーバは CUID {0} のサービスを使用しようとしていますが、このマシンにはそのサービスの DFT がありません

#### 原因

内部エラーが発生しました。

## 対処方法

SAP テクニカルサポートに連絡してください。

**2.3.15.40** (FWM 23039) エラー: 予期しない内部エラーが発生しました。AddNode - {0} は CUID {1} のサービスをホストできますが、このマシンにはそのサービスの DFT がありません

## 原因

内部エラーが発生しました。

## 対処方法

SAP テクニカルサポートに連絡してください。

**2.3.15.41** (FWM 23040) エラー: 予期しない内部エラーが発生しました。AddNode - {0} は CUID {1} のサービスに依存しますが、このマシンにはそのサービスの DFT がありません

## 原因

内部エラーが発生しました。

## 対処方法

SAP テクニカルサポートに連絡してください。

**2.3.15.42** (FWM 23041) エラー: 予期しない内部エラーが発生しました。AddNode - {0} は {1} に依存するべきではありません。それはコンテナサポートサービスであるためです

## 原因

内部エラーが発生しました。

## 対処方法

SAP テクニカルサポートに連絡してください。

**2.3.15.43** (FWM 23042) エラー: 予期しない内部エラーが発生しました。AddNode - {0} は CUID {1} のサービスコンテナによってホストできますが、このマシンにはそのサービスコンテナの DFT がありません

## 原因

内部エラーが発生しました。

## 対処方法

SAP テクニカルサポートに連絡してください。

**2.3.15.44** (FWM 23043) エラー: 予期しない内部エラーが発生しました。AddNode - {0} は 1 つのサービスコンテナによってホストされる必要がありますが、{1} 個のサービスコンテナによってホストされている可能性があります

## 原因

内部エラーが発生しました。

## 対処方法

SAP テクニカルサポートに連絡してください。



### **2.3.15.45** (FWM 23044) エラー: 予期しない内部エラーが発生しました。AddNode - {0} はどのサービスコンテナでもホストできません

#### 原因

内部エラーが発生しました。

#### 対処方法

SAP テクニカルサポートに連絡してください。

### **2.3.15.46** (FWM 23045) エラー: 予期しない内部エラーが発生しました。AddNode - {0} はどのサービスでも必須とされていませんが、サポートサービスであるため必須である必要があります

#### 原因

内部エラーが発生しました。

#### 対処方法

SAP テクニカルサポートに連絡してください。

### **2.3.15.47** (FWM 23046) エラー: 予期しない内部エラーが発生しました。AddNode - {0} は認識されない SI\_SERVICE\_CLASS={1} に関連します

#### 原因

内部エラーが発生しました。

#### 対処方法

SAP テクニカルサポートに連絡してください。

**2.3.15.48** (FWM 23047) エラー: 予期しない内部エラーが発生しました。AddNode - {0} には {1} のサービスカテゴリが含まれているべきですが、サービスカテゴリ {2} があります

#### 原因

内部エラーが発生しました。

#### 対処方法

SAP テクニカルサポートに連絡してください。

**2.3.15.49** (FWM 23048) エラー: 予期しない内部エラーが発生しました。AddNode - 処理の必須サービスがありません。CUID {0} のサービスを使用しようとしていますが、このマシンにはその DFT がありません

#### 原因

内部エラーが発生しました。

#### 対処方法

SAP テクニカルサポートに連絡してください。

**2.3.15.50** (FWM 23049) エラー: 予期しない内部エラーが発生しました。AddNode - ファイルが見つかりませんでした: "{0}"

#### 原因

内部エラーが発生しました。

#### 対処方法

SAP テクニカルサポートに連絡してください。

**2.3.15.51** (FWM 23050) エラー: AddNode - ファイル "{0}" にアクセスできません。適切な権限が与えられていることを確認してください

#### 原因

ノードの削除中に、ファイルからの読み取りまたはファイルへの書き込みで問題が発生しました。

#### 対処方法

適切な権限が与えられていることを確認してください。

**2.3.15.52** (FWM 23051) エラー: AddNode - ノード "{0}" がまだ実行中です。ノードを停止してください

#### 原因

SIA の実行中にノードを削除しようとしてしました。

#### 対処方法

適切な権限が与えられていることを確認してください。

AddNode がコンソールから手動で起動される場合、最初にノードを停止します。AddNode がクライアント (CCM など) から起動される場合は、SAP テクニカルサポートに連絡してください。

**2.3.15.53** (FWM 23052) エラー: AddNode - サーバ "{0}" がまだ実行中です。サーバを停止してください

#### 原因

サーバ {0} の実行中にノードを削除しようとしてしました。

## 対処方法

AddNode がコンソールから手動で起動される場合、最初にノードおよびサーバを停止します。クライアント (CCM など) から起動される場合は、SAP テクニカルサポートに連絡してください。

### **2.3.15.54** (FWM 23053) エラー: AddNode - 名前 "{0}" のノードが存在しません。正しいノード名を指定してください

#### 原因

存在しないコードを削除できませんでした。

## 対処方法

正しいノード名を指定してください。

### **2.3.15.55** (FWM 23054) エラー: 予期しない内部エラーが発生しました。AddNode - ノード InfoObject およびデプロイメントファイルを削除できませんでした

#### 原因

ノードを削除できませんでした。

## 対処方法

SAP テクニカルサポートに連絡してください。

### **2.3.15.56** (FWM 23055) エラー: 予期しない内部エラーが発生しました。AddNode - ノードファイルを削除できませんでした

#### 原因

ノードの削除中に、ノード関連ファイルの1つを削除できませんでした。

## 対処方法

SAP テクニカルサポートに連絡してください。

**2.3.15.57** (FWM 23056) エラー: 予期しない内部エラーが発生しました。AddNode - CCM でノードを削除できませんでした

## 原因

ノードの削除中に CCM からノードを削除できませんでした。

## 対処方法

SAP テクニカルサポートに連絡してください。

**2.3.15.58** (FWM 23057) エラー: ファイル {0} は書き込み不可能です。適切な権限が与えられていることを確認してください

## 原因

{0} ({0} は -backup 引数の値から取得) で指定されたファイルが書き込み不可能か、またはディレクトリです。

## 対処方法

AddNode がコンソールから手動で起動される場合、-backup の指定されたファイルが書き込み可能になるようコマンドラインを変更します。AddNode がクライアント (CCM など) から起動される場合は、SAP テクニカルサポートに連絡してください。

**2.3.15.59** (FWM 23058) エラー: 予期しない内部エラーが発生しました。AddNode - {0} をバックアップできませんでした: {1}

## 原因

サーバ設定のバックアップが失敗しました。

## 対処方法

SAP テクニカルサポートに連絡してください。

**2.3.15.60** (FWM 23059) エラー: 予期しない内部エラーが発生しました。AddNode - {0} を処理できませんでした: {1}

## 原因

サーバ設定の復元が失敗しました。

## 対処方法

SAP テクニカルサポートに連絡してください。

**2.3.15.61** (FWM 23060) エラー: 予期しない内部エラーが発生しました。AddNode - [ノードの移動] アクションが失敗しました: {0}

## 原因

ノードを移動できませんでした。

## 対処方法

SAP テクニカルサポートに連絡してください。

**2.3.15.62** (FWM 23061) エラー: 予期しない内部エラーが発生しました。AddNode - オブジェクトの変更をコミットできませんでした: {0}

## 原因

リポジトリに問題があります。

## 対処方法

SAP テクニカルサポートに連絡してください。

**2.3.15.63** (FWM 23062) エラー: 予期しない内部エラーが発生しました。AddNode - ソースクラス  
タと出力先クラスタの両方またはいずれかを識別できませんでした

## 原因

ソースクラスタと出力先クラスタの両方またはいずれかに問題があります。

## 対処方法

SAP テクニカルサポートに連絡してください。

**2.3.15.64** (FWM 23063) エラー: 予期しない内部エラーが発生しました。AddNode - ソースクラス  
タと出力先クラスタは同じにできません

## 原因

ソースクラスタと出力先クラスタの両方またはいずれかに問題があります。

## 対処方法

SAP テクニカルサポートに連絡してください。

**2.3.15.65** (FWM 23064) エラー: 予期しない内部エラーが発生しました。AddNode - SLD: {0} を  
更新できませんでした

## 原因

SLD ランドスケープの更新中に BOBJ SLDDS を実行できませんでした。

## 対処方法

SAP テクニカルサポートに連絡してください。

### **2.3.15.66** (FWM 23065) エラー: 予期しない内部エラーが発生しました。AddNode - CMS システム データベース接続を設定できませんでした: {0}

## 原因

CMS システムデータベース接続を設定できませんでした。

## 対処方法

SAP テクニカルサポートに連絡してください。

### **2.3.15.67** (FWM 23066) エラー: 予期しない内部エラーが発生しました。AddNode - {0}

## 原因

一般的な例外が発生しました。

## 対処方法

SAP テクニカルサポートに連絡してください。

## **2.3.16 FWM 24001**

### **2.3.16.1** (FWM 24001) プラグイン内に内部の不一致が検出されました。プラグイン "{0}" および "{1}" は、同じ最上位フォルダ "{2}" で権限を変換しようとします

## 原因

2 つ以上の移行プラグインが、移行に対して無効な特定の最上位ルートフォルダで権限を処理しようとする、このエラーが発生します。このエラーは、他のドメインチームの移行プラグイン作成者に分かるようにする必要があります。



あります。それにより、これらのプラグイン作成者が他のプラグインとの間で衝突が発生していることを把握できます。

## 対処方法

別の最上位フォルダをポイントするよう、移行プラグイン実装を修正します。

## 2.3.17 FWM 25001

### 2.3.17.1 (FWM 25001) 対応する認証プラグイン "{0}" が出力先 CMS で見つからないため、このグループをマップできません

## 原因

ソースユーザグループで指定されたグループエイリアスが、出力先 CMS でサポートされていない認証の種類に対応します。

## 対処方法

指定された認証の種類で、出力先 CMS に該当するプラグインがインストールされているかどうかを確認します。インストールされていない場合は、プラグインをインストールし、デプロイします。

## 2.4 BI プラットフォームサーバ (FWB) に関するエラーメッセージ

BI プラットフォームサーバに関するエラーメッセージは、次のカテゴリに分類されます。

範囲	カテゴリ
FWB 00004 ~ FWB 200002	BI プラットフォームサーバ (FWB)

## 2.4.1 FWB 00001 - FWB 00999

**2.4.1.1** リクエストは現在の CMS に対するものではなく、%1 に対するリクエストです。(FWB 00001)

### 原因

リクエストが予想外の Central Management Server (CMS) に送信されました。

### 対処方法

正しい CMS にリクエストを送信していることを確認してください。

**2.4.1.2** %1 セキュリティプラグインは有効になっていません。詳細については、システム管理者に問い合わせてください。(FWB 00002)

### 原因

要求されたセキュリティプラグインは無効化されているか存在しません。

### 対処方法

要求されたセキュリティプラグインファイルが存在し、有効になっていることを確認します。

**2.4.1.3** ログオンのトークンが無効です。(FWB 00003)

### 原因

ログオントークンの有効期限が切れているか、認証情報が存在しないか、ユーザが無効です。

### 対処方法

有効なユーザに対して必要な認証情報を含むトークンを再生成し、もう一度ログインを試みます。

- 2.4.1.4** セキュリティサーバはクライアントから送信された Kerberos チケットの解読に失敗しました。システム管理者に連絡し、Kerberos 認証が適切に設定されていることを確認してください。(FWB 00004)

## 原因

サーバがクライアントの Kerberos 認証データの一部を解読できませんでした。

## 対処方法

有効な SPN がサービスアカウントにマップされていることを確認します。

- 2.4.1.5** トークンに指定されていないクライアントからのログオントークンが使用されたか、クライアントの IP アドレスの識別でエラーが発生しました。(FWB 00005)

## 原因

ログオントークンに異なるクライアントについての情報が含まれているか、またはクライアントの IP アドレスを特定できませんでした。

## 対処方法

トークンが正しいクライアントからのものであること、クライアントの IP アドレスにアクセスできることを確認するか、新しいトークンを作成します。

- 2.4.1.6** プラグインマネージャエラー: 要求されたプラグイン %1 がサーバ上に見つかりません。(FWB 00006)

## 原因

要求されたプラグインが存在しません。

## 対処方法

要求されたプラグインが存在し、正しくインストールされていることを確認します。

### **2.4.1.7** ユーザ "%1" が見つかりません。(FWB 00007)

## 原因

ユーザまたはユーザのエイリアスが存在しません。

## 対処方法

ユーザが存在し、有効なエイリアスを持っていることを確認します。

### **2.4.1.8** Enterprise 認証のログオンに失敗しました。ログオン情報が正しいかどうか確認してください。(FWB 00008)

## 原因

ユーザ名が見つからなかったか、パスワードが無効なためログオンできませんでした。

## 対処方法

ユーザ名とパスワードが正しいことを確認します。

### **2.4.1.9** この機能は使用できません。(FWB 00009)

## 原因

要求された機能が無効化されています。

## 対処方法

要求された機能を有効にします。

### **2.4.1.10** ユーザには、最低 1 つのエイリアスを作成してください。(FWB 00010)

## 原因

ユーザアカウントにエイリアスがありません。

## 対処方法

ユーザアカウントに1つ以上のエイリアスがあることを確認します。

### **2.4.1.11** セッション ID が無効です。(FWB 00011)

## 原因

セッションの期限が切れています。

## 対処方法

再ログオンしてください。

### **2.4.1.12** ユーザアカウントが無効です。(FWB 00012)

## 原因

ユーザアカウントが手動で無効化されているか、ユーザアカウントのエイリアスが無効化されているか、パスワードの期限が切れているか、ユーザがログオンに失敗した回数が多すぎます。

## 対処方法

ユーザアカウントを有効化し、ユーザのパスワードとエイリアスが有効であることを確認します。

**2.4.1.13** このユーザを指定ユーザにする指定ユーザライセンスが不足しています。現在の指定ユーザライセンス数は %1 個です。(FWB 00013)

## 原因

現在のライセンスキーで許可された、ログオンできる指定ユーザの最大数に達しました。

## 対処方法

他のユーザがログオフするのを待つか、ライセンスキーをアップグレードします。

**2.4.1.14** システムの %1 同時接続ライセンスがすべて使用中か、システムのライセンスキーの有効期限が切れています。しばらくしてからもう一度実行するか、管理者に連絡して追加のライセンスを取得してください。(FWB 00014)

## 原因

現在のライセンスキーで許可された、同時にログオンできる指定ユーザの最大数に達しました。

## 対処方法

他のユーザがログオフするのを待つか、ライセンスキーをアップグレードします。

**2.4.1.15** 現在のライセンスキーセットではこの操作は許可されていません。この操作が有効になるよう、ライセンスキーをアップグレードしてください。(FWB 00015)

## 原因

現在のライセンスキーではこの操作(サードパーティ認証の使用、サーバグループやイベントの変更など)は実行できません。

## 対処方法

ライセンスキーをアップグレードします。

**2.4.1.16** ライセンス キーが無効か、有効期限が切れています。別の SAP BusinessObjects 製品を購入して取得した一時的なライセンスキーをお使いの場合、SAP BusinessObjects BI プラットフォームの登録を行って、正規のライセンスキーを取得する必要があります。(FWB 00016)

## 原因

現在のライセンスキーは、無効または有効期限が切れています。

## 対処方法

有効なライセンスキーを入力します。

**2.4.1.17** 例外がプラグイン %1 から返されました。プラグインは無効になります。管理者に問い合わせてください。(FWB 00017)

## 原因

サードパーティのプラグインでエラーが発生しました。プラグインが無効化されました。

## 対処方法

サードパーティプラグインを削除、アップグレード、検証してから有効化します。

**2.4.1.18** このログオンセッションに関連付けられている認証プロバイダ（%1）では、プロセス間でのシングルサインオンをサポートしていません。詳細については、システム管理者に問い合わせてください。（FWB 00018）

#### 原因

このセッションの認証プロバイダは、シングルサインオンをサポートしていません。

#### 対処方法

他の認証プロバイダを使用するか、現在のプロバイダがシングルサインオンで機能するように設定します。

**2.4.1.19** このログオンセッションに関連付けられている認証プロバイダ（%1）では、プロセス間でのシングルサインオンが有効にされていません。詳細については、システム管理者に問い合わせてください。（FWB 00019）

#### 原因

このセッションの認証プロバイダは、シングルサインオンを有効にしていません。

#### 対処方法

この認証プロバイダにシングルサインオンを有効化します。

**2.4.1.20** シングルサインオンに失敗しました。詳細については、システム管理者に問い合わせてください。（FWB 00020）

#### 原因

シングルサインオン認証情報が無効であるか、認証プロバイダで内部エラーが発生した可能性があります。



## 対処方法

シングルサインオン認証情報が有効であることと、シングルサインオンが認証プロバイダで正しく機能していることを確認します。

### 2.4.1.21 関連するセッションを確認できなかったため、シングルサインオンに失敗しました。

BusinessObjects Business Intelligence プラットフォームに再ログインしてください。(FWB 00021)

## 原因

セッショントークンが無効または有効期限が切れている、認証情報が見つからない、元のセッションの有効期限が切れている、またはユーザアカウントが無効である可能性があります。

## 対処方法

有効なユーザに対して必要な認証情報を含むトークンを再生成し、もう一度ログインを試みます。

### 2.4.1.22 信用できる認証の共有シークレットの有効期限が切れています。(FWB 00022)

## 原因

信用できる認証共有シークレットの有効期限が切れています。

## 対処方法

信用できる認証共有シークレットを更新します。

### 2.4.1.23 クライアントクロックスキューが大きすぎます。(FWB 00023)

## 原因

信用できる認証リクエストがタイムアウトしたか、クライアントとサーバの時間差が大きすぎます (異なるタイムゾーンのため)。

## 対処方法

信用できる認証リクエストがタイムアウトしないことと、クライアントとサーバマシンの時間が同期していることを確認します。

**2.4.1.24** SAP BusinessObjects BI プラットフォーム CMS: CMS システムデータベース "%1" は使用できません。エラーはエンドユーザによって修正できません。このエラーをシステム管理者またはデータベース管理者に報告してください。(FWB 00024)

## 原因

Central Management Server (CMS) に使用できるデータベース接続がありません。

## 対処方法

データベースが実行中かつ使用可能で、CMS からの接続を受け付けていることを確認します。データベース接続の数を増やします。

**2.4.1.25** 有効なクエリではありません。(FWB 00025)

## 原因

クエリ文字列が無効です。

## 対処方法

クエリ文字列の構文が正しいことを確認します。

**2.4.1.26** オブジェクト名はすでに同じフォルダにあります。(FWB 00026)

## 原因

すでに存在している名前でオブジェクトを作成しようとしています。

## 対処方法

オブジェクトに一意の名前を付けます。

**2.4.1.27** CMS システムデータベースがオーバーロードされます。もう一度実行してみてください。問題が続く場合は、システム管理者に連絡してください。(FWB 00027)

## 原因

データベースリソースの待機中にリクエストがタイムアウトしました。

## 対処方法

デプロイメントが過負荷状態です。データベース接続の数を増やします。

**2.4.1.28** secLdap プラグインは、指定されたホストへの接続に失敗しました。(FWB 00028)

## 原因

LDAP サーバへの接続が確立できませんでした。

## 対処方法

LDAP サーバがオンラインで、接続を受け入れていることを確認します。

**2.4.1.29** ログオンに失敗しました。マップされた有効なグループのメンバーであることを確認してください。(FWB 00029)

## 原因

ユーザが SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォームにマップされているサードパーティグループに属していません。

## 対処方法

ユーザが最低1つのマップされたグループに属することを確認します。

### **2.4.1.30** ディレクトリサーバは、要求された操作を実行しません。追加情報: %1 (FWB 00030)

## 原因

ディレクトリサーバが要求された操作を実行できません。

## 対処方法

ユーザアカウントが有効化されていることを確認します。

### **2.4.1.31** 出力先が無効です。[%1]: [%2]。リクエストで使用する Job Server 名を書き留め、システム管理者に連絡して、指定の出力先が有効であることを確認してください。(FWB 00031)

## 原因

ジョブによって指定された出力先プラグインが、ジョブを処理したサーバ上で無効化されていたため、ジョブ結果を配信できませんでした。

## 対処方法

ジョブを処理した Job Server の名前を取得して、セントラル管理コンソールサーバリストで特定し、[出力先] 操作を使用して必要な出力先を追加、設定します。

### **2.4.1.32** コンフィデンシャルチャンネルが無効です。(FWB 00032)

## 原因

コンフィデンシャルチャンネルが確立されていません。

## 対処方法

コンフィデンシャルチャンネルを確立できる新しいバージョンの SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォームを使用するか、FIPS モードを無効化します。

### 2.4.1.33 インデックス化されたプロパティ %1 は暗号化できません。(FWB 00033)

#### 原因

Central Management Server データベースでインデックス化されているプロパティを暗号化できません。

## 対処方法

インデックス化されたプロパティの encrypted フラグを有効にしないでください。

### 2.4.1.34 FIPS モードがオンになっているため、FIPS に準拠していないクライアントは接続できません。(FWB 00034)

#### 原因

FIPS モードが有効化されているため、FIPS に準拠しないクライアントには接続できません。

## 対処方法

コンフィデンシャルチャンネルを確立できる新しいバージョンの SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォームをインストールするか、FIPS モードを無効化します。

### 2.4.1.35 暗号化キーを状態 %1 から状態 %2 に移動できません (FWB 00035)

#### 原因

キーステータス変更の一部が許可されていません。無効化されたキーは、キーの再暗号化ステータスのみに移行でき、そのステータスに一度なると、一時停止ステータスのみに移行できます。

## 対処方法

SI\_KEY\_STATE は許可された値にのみ変更できます。

### **2.4.1.36** 重要なシステムオブジェクトが見つかりません。名前: %1、CUID: %2。(FWB 00036)

#### 原因

インストールが壊れていて重要なファイルがデプロイメントに存在しないため、Central Management Server は初期化できません。

## 対処方法

SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォームを再インストールします。

### **2.4.1.37** 重要なシステムオブジェクトの種類が見つかりません。種類: %1。(FWB 00037)

#### 原因

インストールが壊れていて重要なファイルがデプロイメントに存在しないため、Central Management Server は初期化できません。

## 対処方法

SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォームを再インストールします。

### **2.4.1.38** デプロイメントファイルディレクトリ %1 は存在しないか、ファイルが含まれていません。 (FWB 00038)

#### 原因

デプロイメントのファイルを含むディレクトリが空であるか、特定できませんでした。

## 対処方法

デプロイメントファイルがディレクトリに含まれていることを確認するか、デプロイメントを再インストールします。

**2.4.1.39** デプロイメントファイルディレクトリ %1 は存在しないか、キーコードファイルが含まれていません。(FWB 00039)

## 原因

デプロイメントファイルを含むディレクトリを特定できないか、ディレクトリにキーコード初期化ファイルがありません。

## 対処方法

ディレクトリにキーコード初期化デプロイメントファイルが含まれていることを確認します。この問題を解決するにはデプロイメントを再インストールする必要がある場合があります。

**2.4.1.40** オブジェクトをコミットできません。オブジェクト "%1" (ID: %2) はセッション "%3" (ID: %4) によってロックされています。(FWB 00040)

## 原因

他のセッションによってロックされたオブジェクトを変更しようとしてしました。

## 対処方法

後で操作を再試行してください。問題が解消されない場合は、エラーメッセージに示されているセッションを削除します。

**2.4.1.41** オブジェクトをコミットできません。オブジェクト "%1" (ID: %2) はセッション "%3" (ID: %4) によってカスケードロックされています。(FWB 00041)

## 原因

祖先オブジェクトがカスケードロックされていたため、他のセッションによってロックされたオブジェクトを変更しようとした。

## 対処方法

後で操作を再試行してください。問題が解消されない場合は、エラーメッセージに示されているセッションを終了します。

**2.4.1.42** オブジェクトを削除できません。オブジェクト "%1" (ID: %2) はセッション "%3" (ID: %4) によってロックされています。(FWB 00042)

## 原因

他のセッションによってロックされたオブジェクトを削除しようとした。

## アクション

後で操作を再試行してください。エラーが再度発生する場合は、エラーメッセージに示されているセッションを終了します。

**2.4.1.43** オブジェクトを削除できません。オブジェクト "%1" (ID: %2) はセッション "%3" (ID: %4) によってカスケードロックされています。(FWB 00043)

## 原因

祖先オブジェクトがカスケードロックされていたため、他のセッションによってロックされたオブジェクトを削除しようとした。



## 対処方法

後で操作を再試行してください。問題が解消されない場合は、エラーメッセージに示されているセッションを終了します。

**2.4.1.44** オブジェクトをロックできません。オブジェクト "%1" (ID: %2) はセッション "%3" (ID: %4) によってロックされています。(FWB 00044)

## 原因

他のセッションによってすでにロックされたオブジェクトをロックしようとしています。

## 対処方法

後で操作を再試行してください。エラーが再度発生する場合は、エラーメッセージに示されているセッションを終了します。

**2.4.1.45** オブジェクトをロックできません。オブジェクト "%1" (ID: %2) はセッション "%3" (ID: %4) によってカスケードロックされています。(FWB 00045)

## 原因

祖先オブジェクトがカスケードロックされていたため、他のセッションによってロックされたオブジェクトをロックしようとしてしました。

## 対処方法

後で操作を再試行してください。問題が解消されない場合は、エラーメッセージに示されているセッションを終了します。

**2.4.1.46** オブジェクトをコミットできません。バージョン %3 のオブジェクト "%1" (ID: %2) をコミットすると、プロパティ "%5" に関して現在のバージョン %4 と競合が発生します。変更のマージに失敗しました。(FWB 00046)

#### 原因

他のコミットが同時に変更したプロパティを変更しようとしたため、先着順コミットが失敗しました。

#### 対処方法

オブジェクトを取得しなおし、操作を再試行します。

**2.4.1.47** リレーションシップ属性の変更をコミットできません。バージョン %4 の親 %2 と子 %3 のリレーションシップ %1 をコミットすると、プロパティ "%6" に関して現在のバージョン %5 と競合が発生します。変更のマージに失敗しました。(FWB 00047)

#### 原因

他のコミットが同時に変更した帰属関係プロパティを結合しようとしたため、先着順コミットが失敗しました。

#### 対処方法

オブジェクトを取得しなおし、操作を再試行します。

**2.4.1.48** リレーションシップ属性の変更をコミットできません。バージョン %4 の親 %2 と子 %3 のリレーションシップ %1 をコミットすると、現在のバージョン %5 と競合が発生します。(FWB 00048)

#### 原因

他のコミットが同時に変更した帰属関係を交換しようとしたため、先着順コミットが失敗しました。

## 対処方法

オブジェクトを取得しなおし、操作を再試行します。

**2.4.1.49** クエリとコミットの間で変更されたオブジェクトを削除できません。バージョン %3 のオブジェクト "%1" (ID: %2) を削除すると、現在のバージョン %4 と競合が発生します。(FWB 00049)

## 原因

他のコミットが同時に変更したオブジェクトを削除しようとしたため、先着順コミットが失敗しました。

## 対処方法

オブジェクトを取得しなおし、操作を再試行します。

**2.4.1.50** オブジェクトをコミットできません。オブジェクト "%2" (Id - %3) がクエリされてから、他のユーザがリレーションシップ "%1" を変更しました。(FWB 00050)

## 原因

他のコミットが同時に変更したリレーションシップエッジの明示リスト関係を更新しようとしたため、先着順コミットが失敗しました。

## 対処方法

オブジェクトを取得しなおし、操作を再試行します。

**2.4.1.51** オブジェクトをコミットできません。バージョン %3 のオブジェクト "%1" (Id - %2) は現在のバージョン %4 と比較して古すぎるため、正常なマージを実行できません。オブジェクトは %5 バージョン以内である必要があります。(FWB 00051)

## 原因

コミットされたオブジェクトがデータベースに含まれているバージョンに比較して古すぎるため、先着順コミットが失敗しました。

## 対処方法

オブジェクトを取得しなおし、操作を再試行します。

**2.4.1.52** 一部のプロパティはマージされませんでした。バージョン %3 のオブジェクト "%1" (Id - %2) をコミットすると、現在のバージョン %4 と競合します。次のプロパティはマージされた "%5" ではありません。(FWB 00052)

## 原因

コミットがすべての変更を結合できませんでした。他のコミットによって同時に実行された変更との競合が存在します。

## 対処方法

失敗した結合の結果が許容できるものか確認します。

**2.4.1.53** 同じクラスタ内のすべての CMS に同じ FIPS モードおよび SSL モードが設定されています (FWB 00053)

## 原因

非 FIPS 準拠 Central Management Server (CMS) が FIPS 準拠のクラスタに結合しようとしたか、または SSL が無効化された CMS が SSL が有効化されたクラスと結合しようとした。

## 対処方法

セントラル設定マネージャを使用するすべての Server Intelligence Agent ノードで FIPS モードまたは SSL を有効化します。

### **2.4.1.54** オブジェクト ID 番号 %1 に、無効な種類の %2 が含まれています。(FWB 00054)

## 原因

指定された SI\_KIND が存在しないオブジェクトを作成または更新しようとした。

## 対処方法

各 KIND について存在するオブジェクトの名前を指定します。

### **2.4.1.55** オブジェクト ID 番号 %1 に、無効なプログラム ID %2 が含まれています。(FWB 00055)

## 原因

指定された SI\_PROGID が存在しないオブジェクトを作成または更新しようとした。

## 対処方法

PROGID について存在するオブジェクトの名前を指定します。

### **2.4.1.56** このユーザを追加するためのロールベースユーザライセンスが不足しています。現在のロールベースユーザライセンス数は %1 個です。(FWB 00056)

## 原因

ロールベースのライセンスでのユーザ制限数に達しました。

## 対処方法

システムからユーザを削除するか、ライセンスキーをアップグレードします。

**2.4.1.57** システムにログオンするための指定ユーザライセンスが不足しています。現在の指定ユーザライセンス数は %1 個です。(FWB 00057)

## 原因

十分な指定ユーザライセンスがないため、指定ユーザがデプロイメントにログオンできません。

## 対処方法

ライセンスキーをアップグレードします。

**2.4.1.58** 認証情報が FRS に提供されませんでした。(FWB 00058)

## 原因

File Repository Server (FRS) への認証情報を入力していません。古い FRS クライアントを使用しているにもかかわらず、FRS コマンドラインに `-disablelegacyclients` を指定しました。

## 対処方法

最新バージョンの FRS を使用するか、`-disablelegacyclients` を指定しないでください。

**2.4.1.59** FRS に提供された認証情報が CMS によって拒否されました。(FWB 00059)

## 原因

ユーザを特定するログオントークンが無効か、その有効期限が切れているか、認証情報が存在しないか、あるいはユーザアカウントが無効です。

## 対処方法

有効なユーザに対して必要な認証情報を含むトークンを再生成し、操作を再試行します。

### **2.4.1.60** サードパーティのユーザグループへのユーザのリンクに問題があります。(FWB 00060)

#### 原因

サードパーティプラグインが正しく設定されていません。

#### アクション

詳細情報を取得するには、トレーシングを有効化してください。

### **2.4.1.61** 認証情報により、操作が許可されていません。(FWB 00061)

#### 原因

ユーザアカウントに、ファイル操作を実行するのに十分な認証情報がありません。

## 対処方法

ユーザアカウントに、十分な認証情報と、オブジェクトに対する権限があることを確認します。

### **2.4.1.62** FRS 認証情報が CMS によって拒否されました。(FWB 00062)

#### 原因

Central Management Server (CMS) が File Repository Server (FRS) の認証情報を拒否しました。

## 対処方法

CMS または FRS を再起動します。

### 2.4.1.63 ユーザが見つかりません (%1) (FWB 00063)

#### 原因

ユーザが見つからないか、ユーザのエイリアスが見つかりませんでした。

#### 対処方法

ユーザが存在し、有効なエイリアスを持っていることを確認します。

### 2.4.1.64 以前のバージョンからデータをコピーするには、アップグレードマネジメントツールを使用します。詳細については、アップグレードガイドを参照してください。(FWB 00064)

#### 原因

出力元と出力先データソースは同じバージョンである必要があります。

#### 対処方法

旧バージョンからデータをコピーするには、アップグレードマネジメントツールを使用します。

### 2.4.1.65 操作では、クラスタ内の CMS をすべて停止する必要があります。CMS %1 (ID: %2) を停止してください。(FWB 00065)

#### 原因

この操作を実行するには、クラスタ内のすべての Central Management Server を停止する必要があります。

#### 対処方法

クラスタ内のすべての CMS を停止します。



### **2.4.1.66** システム ID は空です。(FWB 00066)

#### 原因

システム ID が設定されていません。

#### 対処方法

システム ID を設定します。

### **2.4.1.67** Keystore は空です。(FWB 00067)

#### 原因

キーストアが設定されていません。

#### 対処方法

キーストアを設定します。

### **2.4.1.68** エイリアスは空です。(FWB 00068)

#### 原因

エイリアスが設定されていません。

#### 対処方法

エイリアスを設定します。

## 2.4.1.69 CUID（%1）が設定されているデフォルトオブジェクトの親 ID/CUID が、無効であるが見つかりません。（FWB 00069）

### 原因

デプロイメントファイルオブジェクトに、親オブジェクトに対する無効な参照があるか、または参照がないデフォルトオブジェクトが含まれています。

### 対処方法

デフォルトオブジェクトの仕様をチェックして SI\_PARENTID または SI\_PARENT\_CUID が有効なオブジェクトを参照することを確認します。

## 2.4.1.70 CUID（%1）が設定されているデフォルトオブジェクトのタイプ情報が、無効であるが見つかりません。SI\_KIND の値を確認してください。（FWB 00070）

### 原因

デプロイメントファイルオブジェクトに、無効なタイプ情報があるか、タイプ情報がないデフォルトオブジェクトが含まれています。

### 対処方法

デフォルトオブジェクトの仕様をチェックして、SI\_KIND があり、KIND がシステムに存在することを確認します。

## 2.4.1.71 CUID（%1）が設定されているオブジェクトは無効であるため処理できません。詳細については、アサートログを確認してください。（FWB 00071）

### 原因

デプロイメントファイルオブジェクトに、無効なデフォルトオブジェクトが含まれています。

## 対処方法

デフォルトオブジェクトの障害の詳細については、Central Management Server のアサートログを参照してください。

**2.4.1.72** 名前空間が設定されたデフォルトオブジェクトファイルのサブディレクトリの設定に失敗しました。名前: %1。エラー: %2。(FWB 00072)

## 原因

初期化中、Central Management Server は、Server Intelligence のデフォルトオブジェクトのための新しいオブジェクトを作成できませんでした。

## 対処方法

詳細については、ファイルシステムのエラーメッセージを参照してください。

**2.4.1.73** 信用できる認証を無効にする (FWB 00073)

## 原因

信用できる認証を有効化する必要のある機能を使用しようとしてしました。

## 対処方法

セントラル管理コンソールを使用して信用できる認証を有効化します。

**2.4.1.74** 無効なデータです (FWB 00074)

## 原因

無効なデータが Central Management Server に送信されました。

## 対処方法

信用できる認証を設定する必要があります。詳細については、*SAP BusinessObjects Business Intelligence* プラットフォーム管理者ガイドを参照してください。

**2.4.1.75** ファイル %1 からのデフォルトオブジェクトフラグメントをオブジェクト（名前: %2、CUID: %3）に適用できませんでした。詳細については、アサートログを確認してください。（FWB 00075）

## 原因

デフォルトオブジェクトフラグメントをデフォルトオブジェクトに適用できませんでした。

## 対処方法

Central Management Server のアサートログにあるデフォルトオブジェクトフラグメントの障害に関する詳細情報を確認します。

**2.4.1.76 セキュリティプラグイン: %1 は有効化されていないか属性バインディングをサポートしていません (FWB 00076)**

## 原因

セキュリティプラグインオブジェクトが有効化されていないか、属性バインディングをサポートしていません。

## 対処方法

セキュリティプラグインが属性バインディングをサポートしている場合は、CMC を使用し設定して有効化します。

### **2.4.1.77** オブジェクトの解読に失敗しました。最新のオブジェクトをクラスタから取得して、もう一度実行してください (FWB 00077)

#### 原因

現在の CMS では、オブジェクトのコンテンツを解読できません。これは、オブジェクトの暗号化に使用された暗号化キーが削除されているか、オブジェクトが別のクラスタに属していることが原因です。

#### アクション

処理を再試行します。オブジェクトが別のクラスタに属している場合は、LCM を使用してオブジェクトを現在のクラスタにインポートする必要があります。

### **2.4.1.78** レガシーアプリケーションのサポートは管理者によって無効化されています。(FWB 00078)

#### 原因

管理者が、FRS におけるレガシーアプリケーションのサポートを無効化しました。

#### アクション

レガシーアプリケーションのサポートを有効化するか、最新バージョンにアップグレードします。

### **2.4.1.79** 要求に指定されたカテゴリは **%1** ですが、ユーザオブジェクトはカテゴリを **%2** にする必要があることを示しています。要求は処理されません。(FWB 00079)

#### 原因

CMS 名のポート番号が無効です。

## 対処方法

CMS 名に数値 IPv6 アドレスが含まれている必要がある場合、数値 IPv6 アドレスの最初に開き中かっこ '['、末尾に閉じ中かっこ ']' を入力します。例: [fe80::6da9:75d9:ec31:d463]:6400

### **2.4.1.80 入力 %2 の引数の数 %1 が無効です。(FWB 00080)**

#### 原因

CMS データベース設定の設定ファイルが破損しています。

## 対処方法

セントラル設定マネージャを実行して、CMS データベース認証情報を再設定します。

### **2.4.1.81 %2 で重複したパラメータ %1 が見つかりました。(FWB 00081)**

#### 原因

CMS データベース設定の設定ファイルが破損しています。

## 対処方法

セントラル設定マネージャを実行して、CMS データベース認証情報を再設定します。

### **2.4.1.82 %2 で予期しないパラメータ %1 が見つかりました。(FWB 00082)**

#### 原因

CMS データベース設定の設定ファイルが破損しています。

## 対処方法

セントラル設定マネージャを実行して、CMS データベース認証情報を再設定します。

### **2.4.1.83 %2 に存在するはずのパラメータ %1 がありません。 (FWB 00083)**

## 原因

CMS データベース設定の設定ファイルが破損しています。

## 対処方法

セントラル設定マネージャを実行して、CMS データベース認証情報を再設定します。

### **2.4.1.84 パラメータ %1 で予期しない値です。(FWB 00084)**

## 原因

CMS データベース設定の設定ファイルが破損しています。

## 対処方法

セントラル設定マネージャを実行して、CMS データベース認証情報を再設定します。

### **2.4.1.85 dbinfo ファイル %1 のエラーです: %2。(FWB 00085)**

## 原因

CMS データベース設定の設定ファイルを読み込めません。ファイル権限または共有の問題が原因である可能性が高いです。

## 対処方法

インストール時と同じユーザで CMS を実行します。

### **2.4.1.86 CMS のメモリが不足しています。(FWB 00086)**

#### 原因

CMS のメモリが不足しています。

## 対処方法

CMS を実行中のマシンにメモリを追加します。

### **2.4.1.87 CMS が不安定で、直ちにシャットダウンされます。理由: %1 (FWB 00087)**

#### 原因

内部エラーが原因で、CMS がシャットダウンされます。メモリ不足や過剰な実行中プロセス数などの原因が考えられます。

## 対処方法

CMS を実行中のマシンに十分なリソースを割り当てます。問題が解決しない場合は、テクニカルサポートに問題について相談します。

### **2.4.1.88 DB2 は、HADR が有効な状態で実行中です。(FWB 00088)**

#### 原因

IBM DB2 の HADR 機能が有効であり、BLOB のロギングをサポートするにはバージョンが古すぎます。



## 対処方法

オプション 1: DB2 サーバを DB2 v9.5 fixpak 5、DB2 9.7 fixpak 1 以上にアップグレードします。

オプション 2: HADR を無効にします。データベース変更の前に、CMS をシャットダウンします。

### **2.4.1.89 データベースへのアクセスに失敗しました。(FWB 00089)**

#### 原因

CMS で CMS データベースへのアクセス中に問題が発生しました。

#### 対処方法

データベースマシンと CMS マシンの間のネットワーク接続が存在する場合、その接続が機能しており、データベースが稼働中であることを確認します。

### **2.4.1.90 データベース生成メッセージ %1 (FWB 00090)**

#### 原因

CMS データベースエラーが発生しました。

#### 対処方法

データベースエラーメッセージを参照し、必要に応じてデータベースベンダに問い合わせます。

#### **2.4.1.91 SAP BusinessObjects BI プラットフォーム CMS: CMS システムデータベースへの接続はすべて失われました。CMS は再起動を試行しています。(FWB 00091)**

##### **原因**

CMS が CMS データベースにアクセスできません。

##### **対処方法**

データベースマシンと CMS マシンの間のネットワーク接続が機能していることを確認します。

#### **2.4.1.92 サーバについて指定したポート番号はすでに使用されています。(FWB 00092)**

##### **原因**

指定したポートはすでに使用されています。

##### **対処方法**

別のポートを選択します。

#### **2.4.1.93 ID '%1' のテナントは見つかりませんでした。(FWB 00093)**

##### **原因**

指定された ID のテナントがシステムに存在しません。

##### **対処方法**

正しいテナント ID を使用していることを確認します。CMC > テナント > プロパティで、テナントプロパティを確認します。BOE BIP のインストールパス ¥java¥apps¥multitenancyManager¥jars¥ に格納された

tenant\_template\_def.properties ファイルで、tenantName プロパティを確認します。tenantName プロパティの適切な値を使用して、テナントプロビジョニングスクリプトを再実行します。

## 2.4.2 FWB 01000 - FWB 01999

### 2.4.2.1 InfoObject {0} が関連する InfoObject 間で見つかりませんでした。(FWB 01001)

#### 原因

InfoObject が存在しない InfoObject の ID を参照しました。

#### 対処方法

サーバコンテナ、サービス、サーバ、インストールおよびエンタープライズノード間の関係が正しいことを確認します。

### 2.4.2.2 サービス {0} の準備ができていません (FWB 01002)

#### 原因

サービスが正しく設定されていないため、サービスがリクエストを処理できません。

#### 対処方法

サービスを正しく設定し、サーバを再起動します (必要な場合)。

### 2.4.2.3 サービス {0} のリソースが一時的に使用できません。後からやり直してください。(FWB 01003)

#### 原因

サービスのリソースが最大限に達したため、サービスはリクエストを処理できません。

## 対処方法

他のユーザがリクエストの送信を停止するのを待って、他のサーバにリクエストを送信するか、サービスの限界を引き上げます。

**2.4.2.4** CMS は {0} という名前のサーバを見つけることができませんでした。このサーバの起動に使用されている名前が間違っている可能性があります。(FWB 01004)

## 原因

Adaptive Processing Server (APS) が Central Management Server (CMS) の設定を問い合わせ、CMS はこの APS インスタンスに対応するサーバ InfoObject がリポジトリに見つからなかったという応答を返しました。

## 対処方法

APS インスタンスを開始するために使用されるサーバフレンドリ名が正しくありません。リポジトリに存在する有効な名前を入力します。

**2.4.2.5** サービス {1} は、サービス {0} が開始できなかったために開始できませんでした (FWB 01005)

## 原因

このサービスが使用するいずれかのサービスを開始できなかったため、サービスを開始できませんでした。

## 対処方法

サービスが使用するプロセスが正しく開始されていることを確認します。

**2.4.2.6** サービス {0} は開始できませんでした (FWB 01006)

## 原因

このサービスが使用するいずれかのサービスを開始できなかったため、サービスを開始できませんでした。

## 対処方法

サービスのログファイルを確認しサービスを再設定します。

## 2.4.3 FWB 02000 - FWB 02999

### 2.4.3.1 `ClassNotFoundException` エラーが発生しました。(例外メッセージ: {0}) (FWB 02001)

#### 原因

クラスの定義が存在しないため、プログラムは指定された文字列名からクラスをロードできませんでした。

#### 対処方法

必要なすべての `.jar` ファイルが `classpath` に含まれていることを確認します。

### 2.4.3.2 `NoClassDefFoundError` が発生しました。例外メッセージ: {0} (FWB 02002)

#### 原因

Java 仮想マシンまたは `ClassLoader` インスタンスが存在しないクラス定義をロードしました。

#### 対処方法

必要なすべての `.jar` ファイルが `classpath` に含まれていることを確認します。

## 2.4.4 FWB 06001 - FWB 06005

### 2.4.4.1 (FWB 06001) モードが無効です

#### 原因

処理サブシステムですでにモードが確認されているため、この状況は発生しません。

#### 対処方法

<なし>

### 2.4.4.2 (FWB 06002) プラグイン名の引数が指定されていません

#### 原因

処理サブシステムですでに引数が確認されているため、この状況は発生しません。

#### 対処方法

<なし>

### 2.4.4.3 (FWB 06003) 認証プラグインの取得中に予期しないエラーが発生しました。

#### 原因

認証プラグインの取得中に予期しないエラーが発生しました。プラグインが削除されたか、またはユーザにプラグインに対する十分な権限がない可能性があります。

#### 対処方法

指定された認証の種類で、出力先 CMS に該当するプラグインがインストールされているかどうかを確認します。インストールされていない場合は、プラグインをインストールし、デプロイします。また、ユーザにプラグインに対する表示権限があるのかも確認します。

#### **2.4.4.4** (FWB 06004) 認証プラグインプロパティの取得中に予期しないエラーが発生しました

##### **原因**

認証プラグインプロパティの取得中に予期しないエラーが発生しました。

##### **対処方法**

指定された認証プラグインオブジェクトのデータが破損しているかどうかを確認します。

#### **2.4.4.5** (FWB 06005) 認証プラグインが有効ではないため、更新を続行できません

##### **原因**

この更新に必要な認証プラグインが、無効であるために使用できない可能性があります。

##### **対処方法**

CMC の [認証] ページに移動し、[プロパティ] ページから認証の種類を有効にします。

### **2.4.5 FWB 07001 - FWB 07004**

#### **2.4.5.1** (FWB 07001) プログラムを正しく実行できません。プログラムの入力引数を確認してください

##### **原因**

クライアントから提供されたプログラム引数に、主体 ID とクエリ WHERE 句がありません。

##### **対処方法**

クライアント実装をチェックし、主体 ID とクエリ WHERE 句の引数が WHERE のスケジュール前にセキュリティクエリ管理ツールオブジェクトに対して適切に設定されており、主体 ID がクエリが生成されている主体を表して

いることを確認してください。また、クエリ WHERE 句がエンコードされており、" 文字が &quot; 文字列として表されていることも確認してください。

## 2.4.5.2 (FWB 07002) I/O エラーのためクエリ結果をエクスポートできません

### 原因

クエリ結果のバッファストリームへのエクスポート中に、入出力エラーが発生しました。

### 対処方法

元の java.io.IOException の詳細については、根本的原因を参照し、それに応じた対処を行ってください。

## 2.5 セキュリティ (USR) エラー

セキュリティエラーメッセージは、次のカテゴリに分類されます。

範囲	カテゴリ
USR0006	セキュリティ

### 2.5.1 Designer を使用する権限がありません。(USR0006)

### 原因

Univserse Designer™ を起動しようとしたますが、必要な権限がありません

### 対処方法

管理者に必要な権限の許可を依頼します。



## 3 Analysis, edition for OLAP のエラー

Analysis のエラーメッセージは、以下のとおりです。

範囲	カテゴリ
AOC 00000 - AOC 09999	Analysis, edition for OLAP のエラー

### 3.1 AOC 00000 - 09999

#### 3.1.1 元のワークスペースを置き換える際に問題が発生しました。もう一度実行するか、[名前を付けて保存] を使用してください。(AOC00001)

##### 原因

元のワークスペースが見つかりませんでした。削除された可能性があります。

##### 対処方法

[名前を付けて保存] を使用してワークスペースを保存します。

#### 3.1.2 Analysis, edition for OLAP は不明な理由によりワークスペースを保存できませんでした。 [名前を付けて保存] を使用してワークスペースを保存し、すべてのエントリフィールドが入力されていることを確認してください。問題が解決しない場合は、管理者に連絡してください。 (AOC00002)

##### 原因

不明なエラーが発生しました。Analysis は、ユーザにワークスペースを保存する権限があり、ワークスペースが存在し、BI プラットフォームセッションが有効であることを確認しました。

## 対処方法

[名前を付けて保存] を使用してワークスペースを保存し、すべての入力フィールドが入力されていることを確認します。

**3.1.3** Analysis, edition for OLAP はワークスペースを保存できませんでした。多くの原因が考えられます。セッションがタイムアウトしたか、ネットワークで問題が発生したか、Enterprise Server がオフラインである可能性があります。問題の原因がセッションのタイムアウトの場合は、ワークスペースがお気に入りフォルダに保存されていることがあります。問題が解決しない場合は、ログオフしてもう一度ログオンしてください。(AOC00003)

## 原因

Analysis は有効な BI プラットフォームセッションを設定できませんでした。考えられる原因は次のとおりです。

- セッションの有効期限が切れている。
- ネットワークで問題が発生している。
- BI プラットフォームサーバがオフラインである。

## 対処方法

再ログオンしてください。問題の原因がセッションのタイムアウトの場合は、ワークスペースがお気に入りフォルダに保存されていることがあります。

**3.1.4** Analysis, edition for OLAP がワークスペースを開けませんでした。ワークスペースが破損しました。管理者に問い合わせてください。(AOC00005)

## 原因

ワークスペースが手動で編集されたか、壊れています。

## 対処方法

ワークスペースのバックアップを復元するよう管理者に依頼します。

### 3.1.5 Analysis, edition for OLAP が要求されたワークスペースを見つけられませんでした。削除された可能性があります。(AOC00006)

#### 原因

要求されたワークスペースは削除されたか、ユーザにワークスペースを表示するアクセス権がありません。

#### 対処方法

ワークスペースのバックアップを復元するか、ユーザのアクセス権を変更するよう管理者に依頼します。

### 3.1.6 ワークスペースの復元中にエラーが発生しました。管理者に連絡してください。(AOC00007)

#### 原因

ワークスペースが手動で編集されたか、壊れています。

#### 対処方法

ワークスペースのバックアップを復元するよう管理者に依頼します。

### 3.1.7 SAP BusinessObjects Analysis, edition for OLAP がワークスペースを保存できませんでした。名前がありません。有効な名前を入力してから再試行してください。(AOC00008)

#### 原因

ユーザが名前を入力しないでワークスペースを保存しようとした。

#### 対処方法

有効なワークスペース名を入力します。

**3.1.8** Analysis, edition for OLAP はワークスペースを保存できませんでした。ワークスペースフォルダがありません。有効なフォルダを選択してから再試行してください。(AOC00009)

#### 原因

ユーザがフォルダを選択しないでワークスペースを保存しようとしてしました。

#### 対処方法

ワークスペースを保存するフォルダを選択します。

**3.1.9** このフォルダを保存する権限がありません。この権限を有効にする必要がある場合は、管理者に連絡してください。(AOC00011)

#### 原因

ユーザがワークスペースをアクセス権のないフォルダに保存しようとしてしました。

#### 対処方法

このフォルダへの書き込み権限を管理者に依頼します。

**3.1.10** BI プラットフォームサーバから接続を取得しようとして、エラーが発生しました。サーバが実行中であることを管理者に確認してください。(AOC00012)

#### 原因

BI プラットフォームサーバが見つかりませんでした。

#### 対処方法

BI プラットフォームサーバが実行中であることを確認するよう管理者に依頼します。

**3.1.11** 接続を取得しようとして、エラーが発生しました。すべての接続は使用できませんでした。問題が解決しない場合は、管理者に連絡してください。(AOC00013)

## 原因

Analysis は、要求された接続の一部またはすべてを検索できませんでした。接続が削除された可能性があります。

## 対処方法

接続を復元するか、セントラル管理コンソールを使用して要求された接続を他の接続へマップするよう管理者に依頼します。

**3.1.12** 要求された操作を実行する権限がありません。サポートが必要な場合は、システム管理者に連絡してください。(AOC00018)

## 原因

ユーザが権限のないアクションを実行しようとしてしました。

## 対処方法

適切な権限を管理者に依頼します。

**3.1.13** 利用可能な OLAP 接続がありません。セントラル管理コンソールで定義された接続がないか、既存の OLAP 接続を表示する権限を持っていない可能性があります。詳細は管理者に問い合わせてください。(AOC00020)

## 原因

セントラル管理コンソールで接続が定義されていないため、選択できません。

## 対処方法

管理者は OLAP データソースへの接続を定義する必要があります。管理者はセントラル管理コンソールにログインし、[\[OLAP 接続\]](#) をクリックして、接続を定義します。

**3.1.14** Analysis, edition for OLAP が最後のアクションを完了できませんでした。Please try again. 問題が解決しない場合は、管理者に連絡してください。(AOC00021)

## 原因

メタデータエクスプローラは、サービスから渡された XML を解析できませんでした。

## 対処方法

このエラーは、ライブラリのバージョンの不一致など、深刻な問題を示しています。管理者は、mdas.log ファイルをチェックして、カスタマーサポートに連絡する必要があります。

**3.1.15** Analysis, edition for OLAP は "{0}" を削除できませんでした。分析は接続を失いました。接続を再確立するには、ワークスペースを閉じてもう一度開く必要があります。(AOC00022)

## 原因

分析により OLAP サーバが切断されました。

## 対処方法

ワークスペースを閉じてから再び開き、接続を再確立する必要があります。

**3.1.16** レポートパラメータの取得中にエラーが発生しました。この操作をもう一度実行してください。問題が解決しない場合は、管理者に連絡してください。(AOC00023)

## 原因

Analysis は、BI プラットフォームサーバまたは Web Intelligence レポートエンジンサーバを検索できませんでした。

## 対処方法

これらのサーバが使用可能であることを確認するよう管理者に依頼します。

**3.1.17** Analysis, edition for OLAP クライアントが MDAS サービスに接続できないため、要求された操作は正常に完了しませんでした。この操作をもう一度実行してください。問題が解決しない場合は、管理者に連絡してください。(AOC00040)

## 原因

クライアントと MDAS サービス間の通信でエラーが発生しました。たとえば、MDAS サービスがダウンしているか、接続できない状態か、再起動した可能性があります。

## 対処方法

MDAS サービスが実行中で、セントラル管理コンソールの [サーバ] ページから接続できることを確認します。MDAS サービスが再起動されると、Analysis のセッション状態は失われ、保存できません。

**3.1.18** Analysis, edition for OLAP からの要求を処理中に MDAS サービスでエラーが発生しました。この操作をもう一度実行してください。問題が解決しない場合は、管理者に連絡してください。(AOC00041)

## 原因

Analysis クライアントからの要求を処理中に、MDAS サービスでエラーが発生しました。理由として、OLAP サーバに関する問題や、ネットワークの問題が考えられます。

## 対処方法

もう一度試してみます。問題が解決しない場合は、管理者に連絡してください。

**3.1.19** Analysis, edition for OLAP が接続を開けませんでした。ユーザ名とパスワードが正しいことを確認してもう一度実行してください。問題が解決しない場合は、管理者に連絡してください。  
(AOC00044)

## 原因

接続を開くことができませんでした。一般的な理由は、認証エラーです。

## 対処方法

接続の認証情報が正しいことを確認します。認証情報が接続とともに保存されている場合、管理者が更新する必要がある場合があります。

**3.1.20** Analysis, edition for OLAP からの要求がクエリを無効な状態にするため、この要求の処理中に MDAS サービスでエラーが発生しました。このエラーは、すべての階層を同じ軸に設定しようとしたために発生した可能性があります。問題が解決しない場合は、管理者に連絡してください。  
(AOC00045)

## 原因

Analysis クライアントからの要求を処理中に、MDAS サービスでエラーが発生しました。理由として、すべての階層を同じ軸に配置しようとしたことが考えられます。

## 対処方法

操作によりクエリが無効な状態になっていないことを確認して、もう一度実行します。問題が解決しない場合は、管理者に連絡してください。



**3.1.21** 階層の競合があるため、Analysis, edition for OLAP からの要求を処理中に MDAS サービスでエラーが発生しました。この競合は、2 つの相互に排他的な階層を同じ軸に設定しようとしたために発生した可能性があります。問題が解決しない場合は、管理者に連絡してください。

(AOC00046)

## 原因

Analysis クライアントからの要求を処理中に、MDAS サービスでエラーが発生しました。理由として、相互に排他的な 2 つの階層を同じ軸に配置しようとしたことが考えられます。

## 対処方法

操作が競合の原因になっていないことを確認して、もう一度実行します。問題が解決しない場合は、管理者に連絡してください。

**3.1.22** 最終的なクエリがデータセルに許可されている最大量を超えたため、要求された操作を完了できませんでした。管理者に連絡して、MDAS サービスの最大データセルの制限を CMC で変更してください。(AOC00047)

## 原因

Analysis クライアントからの要求を処理中に、MDAS サービスでエラーが発生しました。理由として、データセルが多すぎるクエリを作成しようとしたことが考えられます。

## 対処方法

クエリサイズが OLAP サーバ限度を超えないようにしてください。問題が解決しない場合は、管理者に連絡してください。

**3.1.23** この階層の選択メンバーがなくなるため、このメンバーは削除できません。(AOC00048)

## 原因

このメンバーを削除すると、この階層に対してメンバーが選択されなくなるため、このアクションは禁止されています。

## 対処方法

メンバータスクパネルによるフィルタを使用して階層の選択を調整してください。

## 4 BI セマンティックレイヤ Java SDK (SLS) のエラーメッセージ

- 4.1** ファイル "{0}" が見つからなかったか、アクセスできない状態です。あるいは、パスがフォルダを示しています。(SLS 10001)

### 原因

ファイルが見つからなかったか、存在しません。あるいはファイルではありません。

### アクション

ファイルパスが存在し、アクセス可能であり、フォルダではないことを確認します。

- 4.2** フォルダ "{0}" が見つからなかったか、アクセスできない状態です。あるいは、パスがファイルを示しています。(SLS 10002)

### 原因

フォルダが見つからなかったか、存在しません。あるいはフォルダではありません。

### アクション

フォルダパスが存在し、アクセス可能であり、ファイルではないことを確認します。

- 4.3** ファイル "{0}" がリポジトリで見つかりません。(SLS 10003)

### 原因

ファイルがリポジトリに存在しません。

## アクション

ファイルが存在することを確認します。

### 4.4 フォルダ "{0}" がリポジトリで見つかりません。(SLS 10004)

#### 原因

フォルダがリポジトリに存在しません。

## アクション

フォルダが存在することを確認します。

### 4.5 ファイル "{0}" はすでに存在します。(SLS 10005)

#### 原因

指定されたパスにファイルがすでに存在します。

## アクション

既存のファイルを削除します。

### 4.6 リポジトリのパスが無効です。"{0}" は "{1}" + [ /sub folders/resource name] " のようにする必要があります。(SLS 10006)

#### 原因

パスが無効です。

## アクション

パスは /Connections または /Universes で始まる必要があります。

- 4.7** リポジトリのパスが無効です。"{0}" は {1} + [/サブフォルダ/リソース名] または {2} + [/サブフォルダ/リソース名] のようにする必要があります。(SLS 10007)

## 原因

パスが無効です。

## アクション

パスは /Connections または /Universes で始まる必要があります。

- 4.8** 無効なリソース "{0}" が "{1}" にリンクされています。

## 原因

ビジネスレイヤまたはデータファンデーションにリンクされているリソースが存在しません。

## アクション

リンクされているリソースが存在することを確認します。

- 4.9** サービス "{1}" でセッションを CMS "{0}" に設定してください。(SLS 11002)

## 原因

必要なセッションが登録されていません。

## アクション

CmsSessionService で CMS セッションを登録します。

### **4.10** データファンデーションが無効です。(SLS 11003)

#### 原因

データファンデーションが無効です。

## アクション

有効なデータファンデーションをパラメータとして渡します。

### **4.11** データベーステーブルが無効です。(SLS 11004)

#### 原因

データベーステーブルが無効です。

## アクション

有効なデータベーステーブルをパラメータとして渡します。

### **4.12** 他のビューが存在しない場合、マスタビューを非表示にすることはできません。(SLS 11005)

#### 原因

マスタビューが非表示で、他のビューが存在しません。

## アクション

マスタビューが表示されるように設定するか、別の表示ビューを追加します。

**4.13** コンテキスト "{1}" からの結合 "{0}" がデータファンデーション "{2}" に存在しません。  
(SLS 11006)

## 原因

データファンデーションに結合が存在しません。

## アクション

データファンデーションで結合を作成してからコンテキストで使用するか、既存の結合を使用します。

**4.14** データファンデーションビュー "{1}" のテーブル {0} はデータファンデーション "{2}" に属さないため削除されます。(SLS 11007)

## 原因

データファンデーションにテーブルが存在しません。

## アクション

データファンデーションでテーブルを作成してからデータファンデーションビューで使用するか、既存のテーブルを使用します。

**4.15** データファンデーションのマスタビューの名前 {0} を変更できません。(SLS 11007)

## 原因

マスタビューの名前が変更されました。

## アクション

マスタビューの名前を変更することはできません。

### 4.16 データファンデーションビューが無効です。(SLS 11008)

#### 原因

データファンデーションビューが無効です。

## アクション

有効なデータファンデーションビューをパラメータとして渡します。

### 4.17 データファンデーションビュー "{0}" では、テーブル {1} を複数回使用できません。(SLS 11009)

#### 原因

データファンデーションビューに重複するテーブルがあります。

## アクション

重複するテーブルを削除します。

### 4.18 座標 "{0}" はマイナスにできません (テーブル "{1}"、データファンデーションビュー "{2}"、データファンデーション "{3}")。(SLS 11010)

#### 原因

テーブルのテーブル座標が無効です。



## アクション

テーブルに有効な座標を設定します。

**4.19** データファンデーションビュー "{0}" では、null テーブルを含むテーブルビューを使用できません。(SLS 11011)

## 原因

テーブルビューに null テーブルが含まれています。

## アクション

テーブルビューで有効なテーブルを設定します。

**4.20** データファンデーション "{0}" では、データファンデーションビュー {1} を複数回使用できません。(SLS 11012)

## 原因

データファンデーションに重複するデータファンデーションビューがあります。

## アクション

重複するデータファンデーションビューを削除します。

**4.21** データファンデーションのマスタビューの説明 "{0}" を変更できません。(SLS 11013)

## 原因

マスタビューの説明が変更されました。

## アクション

マスタビューの説明を変更することはできません。

### 4.22 {0} はこのコンテキストには登録されていません。(SLS 12002)

## 原因

キャッシュにリソースがありません。

## アクション

作成されたリソースごとに1つのコンテキストのみが使用されていることを確認します。

### 4.23 リソース "{0}" は "{1}" に属する必要がありますが、"{2}" に属しています。(SLS 12003)

## 原因

利用可能なメソッドによってリソースがロードされませんでした。

## アクション

利用可能なサービスを使用してリソースをロードします。

### 4.24 名前が無効です: "{0}"。(SLS 12004)

## 原因

ビジネス名に無効な文字が含まれています。

## アクション

有効なビジネス名を設定します。

**4.25** 名前が無効です: "{0}"。名前を空にしたり、最初または最後の文字をスペースにしたり、文字数を {1} にしたりすることはできません。(SLS 12004)

## 原因

ビジネス名に無効な文字が含まれています。

## アクション

有効なビジネス名を設定します。

**4.26** テーブル名 (" {0} ") は NULL または空白にすることはできません。派生テーブルまたはエイリアステーブルの名前に引用符を含めることはできません。有効なテーブル名を設定してください。(SLS 12004)

## 原因

テーブル名が null または空白であるか、テーブル名に 1 つ以上の無効な文字が含まれています。

## アクション

有効なテーブル名を設定します。

## 4.27 列名を NULL または空にすることはできません。有効な列名を設定してください。(SLS 12004)

### 原因

列名が NULL または空であるか、あるいは列名に 1 つ以上の無効な文字が含まれています。

### アクション

有効な列名を設定します。

## 4.28 ビジネスアイテム名 ("{0}") は NULL または空白にすることはできません。最初または最後の文字をスペースにすることはできません。有効なビジネスアイテム名を設定してください。(SLS 12004)

### 原因

ビジネスアイテム名が null または空白であるか、ビジネスアイテム名に 1 つ以上の無効な文字が含まれています。

### アクション

有効なビジネスアイテム名を設定します。

## 4.29 リソース名 ("{0}") は NULL または空白にすることはできません。{1} 文字を含めたり、最初または最後の文字をスペースにすることはできません。有効なリソース名を設定してください。(SLS 12004)

### 原因

リソース名が NULL または空白であるか、リソース名に 1 つ以上の無効な文字が含まれています。

## アクション

有効なリソース名を設定します。

**4.30** プロファイル名 (" {0} ") は NULL または空白にすることはできません。{1} 文字を含めたり、最初または最後の文字をスペースにすることはできません。有効なプロファイル名を設定してください。  
(SLS 12004)

## 原因

プロファイル名が null または空白であるか、プロファイル名に1つ以上の無効な文字が含まれています。

## アクション

有効なプロファイル名を設定します。

**4.31** ビジネスレイヤ "{0}" は公開できません。(SLS 12005)

## 原因

ビジネスレイヤは公開できません。

## アクション

ビジネスレイヤを変更します。

**4.32** ユニバース "{0}" は取得できません。破損している可能性があります。(SLS 12006)

## 原因

ユニバースを取得することができません。

## アクション

ユニバースが壊れている可能性があります。

### 4.33 "{0}" のファイル名の形式は "non\_empty\_name.{1}" にする必要があります。(SLS 12007)

## 原因

拡張子は、指定されたコンテキストで使うことができません。

## アクション

拡張子を変更します。

### 4.34 オブジェクト "{0}" は 2 回検出されました。(SLS 12008)

## 原因

同じオブジェクトが2回使用されています。

## アクション

ファクトリを使用して、オブジェクトを複製してから使用します。

### 4.35 項目 "{1}" の名前 "{0}" が重複しています。(SLS 12010)

## 原因

現在のコンテキストにオブジェクトがすでに存在します。

## アクション

現在のコンテキストで別の名前を使用します。

### **4.36** オブジェクト "{0}" に無効な識別子 "{1}" が含まれています。(SLS 12012)

#### 原因

オブジェクトに無効な識別子が含まれています。

## アクション

オブジェクトに有効な識別子を設定します。

### **4.37** オブジェクトが無効です。(SLS 12012)

#### 原因

オブジェクトが無効です。

## アクション

有効なオブジェクトを設定します。

### **4.38** 項目 "{0}" と "{1}" に同じ識別子 "{2}" が含まれています。(SLS 12013)

#### 原因

項目に同じ識別子が含まれています。

## アクション

各項目に一意的識別子を設定します。

**4.39** 項目 "{0}" には、タイプが "{2}" であるオブジェクト "{1}" を含めることはできません。(SLS 12014)

## 原因

この項目にこのタイプのオブジェクトを含めることはできません。

## アクション

期待されるタイプのオブジェクトを使用します。

**4.40** エイリアステーブル {0} がデータファンデーションの一部でないテーブル {1} にリンクされます。  
有効なテーブルを使用してエイリアステーブルを編集してください。(SLS 12015)

## 原因

エイリアステーブルが編集されたデータファンデーションの一部ではありません。

## アクション

編集されたデータファンデーションのテーブルにリンクされているエイリアステーブルを使用します。



**4.41** エイリアステーブル {0} に列を含めることはできません。テーブルから列を削除してください。  
(SLS 12016)

#### 原因

エイリアステーブルに列が含まれています。

#### アクション

エイリアステーブルに追加された列を削除します。

**4.42** 修飾子を指定する必要があります。(SLS 12017)

#### 原因

修飾子が指定されていません。

#### アクション

修飾子を指定します。

**4.43** 所有者を指定する必要があります。(SLS 12018)

#### 原因

所有者が指定されていません。

#### アクション

所有者を指定します。

**4.44** テーブル {0} の 1 次キーは空の列リストを参照できません。列を 1 次キーに追加してください。  
(SLS 12020)

#### 原因

1 次キーに空の列リストが含まれています。

#### アクション

1 次キーの列リストに 1 つ以上の列を追加します。

**4.45** テーブル {0} の 1 次キーはテーブルに存在しない列 {1} を参照しています。有効な列を使用して 1 次キーを編集してください。(SLS 12021)

#### 原因

1 次キーに不明な列が含まれています。

#### アクション

1 次キーで既存の列を使用します。

**4.46** リレーショナルフィルタ "{0}" の SELECT 句は設定できません。(SLS 12023)

#### 原因

フィルタの SELECT 句が設定されています。

#### アクション

フィルタの SELECT 句を空にします。

## 4.47 リレーショナルフィルタ "{1}" の WHERE 句 "{0}" は無効です。(SLS 12024)

### 原因

フィルタの WHERE 句が無効です。

### アクション

フィルタに有効な WHERE 句を設定します。

## 4.48 ビジネスレイヤビュー "{1}" の項目 "{0}" は存在しません。(SLS 12025)

### 原因

ビジネスレイヤビューの項目が編集されたビジネスレイヤに存在しません。

### アクション

編集されたビジネスレイヤの項目を使用します。

## 4.49 セキュリティのステータスが "{1}" であるため、セキュリティ保護された要素のリスト "{0}" を空にする必要があります。(SLS 12026)

### 原因

すべての項目を拒否/許可する場合、拒否/許可された項目の一覧が空である必要があります。

### アクション

すべての項目を拒否/許可しないでください。または、空の拒否/許可された項目の一覧を設定してください。

**4.50** オブジェクト "{0}" をビューに明示的に追加することはできません。ディメンション、メジャーおよびフィルタのみを追加できます。影響を受けるフォルダおよび属性は暗黙的に追加されます。(SLS 12027)

#### 原因

ビジネスビューに無効なオブジェクトが追加されました。

#### アクション

ディメンション、メジャーおよびフィルタ以外のオブジェクトをすべて削除します。

**4.51** テーブル {0} の 1 次キーはすでに存在しています。既存のキーを使用してください。(SLS 12028)

#### 原因

テーブルの 1 次キーがすでに作成されています。

#### アクション

テーブルの作成済みの 1 次キーを使用します。

**4.52** テーブル {0} に 1 次キーがありません。有効な 1 次キーを設定してください。(SLS 12029)

#### 原因

1 次キーが存在せず、削除することができません。

## アクション

1 次キーが作成されていることを確認します。

### **4.53** "{0}" という名前のビジネスレイヤビューはすでに存在します。(SLS 12030)

#### 原因

ビジネスレイヤビューの名前が重複しています。

## アクション

ビジネスレイヤの各ビジネスビューに一意的名前を設定します。

### **4.54** ビジネスレイヤビューの名前は NULL または空にすることはできません。(SLS 12031)

#### 原因

ビジネスビューの名前が NULL または空です。

## アクション

ビジネスビューに有効な名前を設定します。

### **4.55** ビジネスアイテム "{0}" はビジネスレイヤビュー "{1}" にすでに存在します。(SLS 12032)

#### 原因

ビジネスレイヤビューのビジネスアイテムが重複しています。

## アクション

ビジネスビューに追加するビジネスアイテムを確認します。

### **4.56** 名前が空のカスタムプロパティを次に追加することはできません: "{0}"。(SLS 12033)

#### 原因

カスタムプロパティの名前が空です。

## アクション

カスタムプロパティに有効な名前を設定します。

### **4.57** プロパティ "{0}" は次にすでに存在します: "{1}"。(SLS 12034)

#### 原因

同じ名前の別のカスタムプロパティが存在します。

## アクション

各カスタムプロパティに一意の名前を設定します。

### **4.58** データファンデーションビューの名前は NULL または空にすることはできません。(SLS 12037)

#### 原因

データファンデーションビューの名前が NULL または空です。

## アクション

データファンデーションビューに有効な名前を設定します。

### **4.59** "{0}" という名前のデータファンデーションビューはすでに存在します。(SLS 12038)

#### 原因

データファンデーションビューの名前がすでに使用されています。

## アクション

各データファンデーションビューに一意の名前を設定します。

### **4.60** パラメータの名前は NULL または空にすることはできません。(SLS 12039)

#### 原因

パラメータの名前が NULL または空です。

## アクション

パラメータに有効な名前を設定します。

### **4.61** "{0}" という名前のパラメータはすでに存在します。(SLS 12040)

#### 原因

パラメータの名前がすでに使用されています。

## アクション

各パラメータに一意の名前を設定します。

### **4.62** パラメータ "{0}" のプロンプト文は NULL または空にすることはできません。(SLS 12041)

#### 原因

パラメータのプロンプト文が null または空です。

## アクション

パラメータに有効なプロンプト文を設定します。

### **4.63** パラメータ "{0}" は値の一覧のみに関連付けることができます。(SLS 12042)

#### 原因

パラメータが値の一覧に関連付けられていません。

## アクション

パラメータを値の一覧に関連付けます。

### **4.64** パラメータ "{0}" は値の一覧、ディメンション、または属性のみに関連付けることができます。(SLS 12043)

#### 原因

パラメータが値の一覧、ディメンション、または属性に関連付けられていません。



## アクション

パラメータを値の一覧、ディメンション、または属性に関連付けます。

### 4.65 パラメータ "{1}" の回答値 "{0}" がデータ型 "{2}" と一致しません。(SLS 12044)

#### 原因

回答値に予期しないタイプが指定されています。

## アクション

予期されているデータ型で回答値を設定します。

### 4.66 "{0}" という名前の値の一覧はすでに存在します。(SLS 12045)

#### 原因

修飾子が無効です。

## アクション

データファンデーションデータソースに登録されている有効な修飾子を設定します。

### 4.67 値の一覧 "{1}" の列 "{0}" を値の一覧 "{2}" から移動することはできません。(SLS 12047)

#### 原因

無効な修飾子です。

## アクション

データファンデーションデータソースに登録されている有効な修飾子を設定します。

### 4.68 値の一覧 "{1}" の "{0}" という名前の列はすでに存在します。(SLS 12048)

#### 原因

値の一覧の列が重複しています。

## アクション

値の一覧の列を確認します。

### 4.69 パラメータ "{0}" の回答値のタイプは "{1}" にする必要があります。(SLS 12049)

#### 原因

回答値に予期しないタイプが指定されています。

## アクション

回答値に有効なタイプを設定します。

### 4.70 パラメータ "{0}" の回答値は NULL にすることはできません。(SLS 12050)

#### 原因

パラメータの回答値が NULL です。

## アクション

パラメータに有効な回答値を設定します。

### **4.71** 値の一覧の名前は NULL または空にすることはできません。(SLS 12051)

#### 原因

値の一覧の名前が NULL または空です。

## アクション

有効な値の一覧名を設定します。

### **4.72** キー列 "{0}" が値の一覧 "{1}" に存在しません。(SLS 12052)

#### 原因

値の一覧のキー列が値の一覧に属していません。

## アクション

値の一覧の列をキー列として設定します。

### **4.73** 値の一覧 "{1}" の列 "{0}" を独自のキー列にすることはできません。(SLS 12053)

#### 原因

この列自体がキー列になっています。

## アクション

別の列をキー列として設定します。

**4.74** 値の一覧 "{0}" では、クエリ実行のタイムアウトに負数または 99999999 を超える値を指定することはできません。(SLS 12054)

## 原因

クエリ実行のタイムアウトが負数または 99999999 を超える値です。

## アクション

有効なクエリ実行のタイムアウトを設定します。

**4.75** 値の一覧 "{0}" では、最大行数に負数または 99999999 を超える値を指定することはできません。(SLS 12055)

## 原因

最大行数が負数または 99999999 を超える値です。

## アクション

最大行数を設定します。

**4.76** 値の一覧 "{1}" のディメンション "{0}" は存在しません。(SLS 12056)

## 原因

値の一覧に不明なディメンションが含まれています。

## アクション

値の一覧に有効なディメンションを設定します。

### **4.77** 値の一覧 "{0}" がデータファンデーションに属していません。(SLS 12057)

#### 原因

値の一覧がデータファンデーションに属していません。

## アクション

データファンデーションの値の一覧を設定します。

### **4.78** 値の一覧 "{0}" がビジネスレイヤに属していません。(SLS 12058)

#### 原因

値の一覧がビジネスレイヤに属していません。

## アクション

ビジネスレイヤの値の一覧を設定します。

### **4.79** 値の一覧 "{1}" の非表示の列 "{0}" を関連する値の一覧として使用することはできません。 (SLS 12059)

#### 原因

非表示の列が関連する値の一覧として使用されています。

## アクション

関連する値の一覧として表示列を選択します。

### **4.80** 値の一覧 "{0}" の列は NULL または空にすることはできません。(SLS 12060)

#### 原因

列の名前が NULL または空です。

## アクション

有効な列名を設定します。

### **4.81** タイプ "{1}" の項目 "{0}" をフォルダ "{2}" に複数回含めることはできません。(SLS 12061)

#### 原因

フォルダ内で項目が重複しています。

## アクション

重複項目を削除します。

### **4.82** 値の一覧 "{0}" の SQL 式は NULL にすることはできません。(SLS 12062)

#### 原因

SQL 式が null です。

## アクション

有効な SQL 式を設定します。

### 4.83 値の一覧 "{1}" の SQL 式 "{0}" が正しくありません。(SLS 12063)

#### 原因

SQL 式が正しくありません。

## アクション

正しい SQL 式を設定します。

### 4.84 値の一覧 "{1}" でディメンション "{0}" が重複しています。(SLS 12064)

#### 原因

値の一覧で一部のディメンションが重複しています。

## アクション

重複しているディメンションを削除します。

### 4.85 パラメータ "{0}" に関連付けられた値の一覧のタイプが正しくありません。(SLS 12065)

#### 原因

値の一覧が予期しないタイプです。

## アクション

予期されるタイプの値の一覧を設定します。

### 4.86 ビジネスアイテムの名前は NULL または空にすることはできません。(SLS 12066)

## 原因

ビジネスアイテムの名前が NULL または空です。

## アクション

ビジネスアイテムの有効な名前を設定します。

### 4.87 プロンプト "{0}" の階層型回答値には、関連する値の一覧の列の深さとして "{1}" つのレベルが必要です。(SLS 12067)

## 原因

回答値に予期しないレベル数が指定されています。

## アクション

予期されるレベル数で回答値を設定します。

### 4.88 値の一覧 "{1}" の SQL 式 "{0}" の評価中にエラーが発生しました。SQL 式構文を確認してください。(SLS 12068)

## 原因

SQL 式が正しくありません。



## アクション

有効な SQL 式を設定します。

**4.89** 値の一覧 "{1}" のクエリ式 "{0}" の評価中にエラーが発生しました XML 式構文を確認してください。(SLS 12068)

## 原因

XML 式が正しくありません。

## アクション

有効な XML 式を設定します。

**4.90** ナビゲーションパスの名前は NULL または空にすることはできません。(SLS 12069)

## 原因

ナビゲーションパスの名前が NULL または空です。

## アクション

ナビゲーションパスの有効な名前を設定します。

**4.91** {0} という名前のナビゲーションパスはすでに存在します。(SLS 12070)

## 原因

ナビゲーションパスの名前がすでに存在します。

## アクション

一意のナビゲーションパス名を設定します。

**4.92** ナビゲーションパス "{1}" のディメンション "{0}" はビジネスレイヤに属していないため、削除されました。(SLS 12071)

## 原因

ナビゲーションパスの名称に不明のディメンションが含まれています。

## アクション

ナビゲーションパスに有効なディメンションを設定してください。

**4.93** 連合テーブル "{0}" を削除できません。(SLS 12072)

## 原因

連合テーブルがデータファンデーションから削除されました。

## アクション

削除を元に戻します。

**4.94** 連合テーブルの名前と説明 "{0}" を変更できません。(SLS 12073)

## 原因

連合テーブルの一部のデータが変更されています。

## アクション

変更を元に戻します。

### **4.95** 連合テーブルの列 "{0}" を変更できません。(SLS 12074)

#### 原因

連合テーブルの一部の列が変更されています。

## アクション

変更を元に戻します。

### **4.96** オブジェクト "{1}" のプロパティ "{0}" は NULL にできません。(SLS 12075)

#### 原因

連合テーブルの一部の列が変更されています。

## アクション

変更を元に戻します。

### **4.97** オブジェクト "{1}" のプロパティ "{0}" は空にできません。(SLS 12075)

#### 原因

連合テーブルの一部の列が変更されています。

## アクション

変更を元に戻します。

**4.98** 名前が `null` または空のクエリスクリプトプロパティを次に追加することはできません: "{0}"。  
(SLS 12076)

## 原因

カスタムプロパティの名前が空です。

## アクション

カスタムプロパティに有効な名前を設定します。

**4.99** クエリスクリプトプロパティ "{0}" は次にすでに存在します: "{1}"。(SLS 12077)

## 原因

同じ名前の別のカスタムプロパティが存在します。

## アクション

各カスタムプロパティに一意の名前を設定します。

**4.100** ブール値クエリスクリプトプロパティ "{0}" の値 "{1}" は "{2}" で無効です。"はい" または "いいえ" (大文字/小文字の区別なし) にする必要があります。(SLS 12078)

## 原因

カスタムプロパティの名前が空です。

## アクション

カスタムプロパティに有効な名前を設定します。

**4.101** 整数クエリスクリプトプロパティ "{0}" の値 "{1}" は "{2}" で無効です。数字のみが含まれている必要があります。(SLS 12079)

## 原因

同じ名前の別のカスタムプロパティが存在します。

## アクション

各カスタムプロパティに一意の名前を設定します。

**4.102** クエリスクリプトプロパティ "{0}" は、"{1}" で null 値を持つことはできません。(SLS 12080)

## 原因

同じ名前の別のカスタムプロパティが存在します。

## アクション

各カスタムプロパティに一意の名前を設定します。

**4.103** 事前定義済みクエリスクリプトプロパティ "{0}" は "{1}" で削除できません。(SLS 12081)

## 原因

同じ名前の別のカスタムプロパティが存在します。

## アクション

各カスタムプロパティに一意の名前を設定します。

### **4.104** フィルタ "{0}" のフィルタ部分は無効です。(SLS 12082)

#### 原因

フィルタ部分が無効です。

## アクション

有効なフィルタ部分を設定します。

### **4.105** ビジネスクエリに基づく値の一覧 "{0}" のクエリ指定は無効です。(SLS 12083)

#### 原因

クエリ仕様が無効です。

## アクション

有効なクエリ仕様を設定します。

### **4.106** プロパティは読み取り専用です (SLS 12084)。

#### 原因

読み取り専用プロパティを編集しようとした。

## アクション

このプロパティを編集することはできません。

### **4.107** リソースがリポジトリで同じロケーション "{0}" にすでに存在します。(SLS 13002)

#### 原因

指定されたロケーションに公開されたリソースがすでに存在します。

## アクション

リポジトリの指定されたロケーションに公開されたリソースがすでに存在します。公開済みバージョンを削除する場合は、overwrite を true に設定した公開メソッド CmsResourceService を使用します。

### **4.108** 依存関係 "{1}" が存在しないため、"{0}" をロードできません。(SLS 13003)

#### 原因

依存関係が存在しないため、リソースをロードできません。

## アクション

依存関係を利用可能にします。

### **4.109** セキュリティ保護された接続 "{0}" をリポジトリからロードできません。(SLS 13004)

#### 原因

セキュリティ保護された接続をリポジトリからロードできません。

## アクション

接続がリポジトリに存在することを確認します。

### **4.110** 接続 "{0}" をセキュリティ保護する必要があります。(SLS 13005)

## 原因

参照接続がセキュリティ保護されていません。セキュリティ保護されていない接続に対してこのアクションを実行することはできません。

## アクション

セキュリティ接続を使用します。

### **4.111** 複数ソース有効ユニバース "{0}" をローカルで公開することは禁止されています。(SLS 13006)

## 原因

複数ソース有効ユニバースをローカルで公開することは禁止されています。

## アクション

### **4.112** 接続ショートカット "{1}" を使用してユニバース "{0}" をローカルで公開することは禁止されています。(SLS 13007)

## 原因

接続ショートカットを使用してユニバースをローカルで公開することは禁止されています。



## アクション

ユニバース接続をローカルのセキュリティ保護されていない接続に変更します。

### **4.113** 権限が拒否されました。このアクションの実行は許可されません: "{0}" (SLS 15000)

## 原因

権限が拒否されました。ユーザはこのアクションを実行することができません。

## アクション

セントラル管理コンソールで、このユーザに権限が設定されていることを確認します。

### **4.114** 接続 "{0}" のダウンロード権限は無効になりました。(SLS 15001)

## 原因

接続のダウンロード権限が無効になりました。

## アクション

セントラル管理コンソールで、ユーザの接続のダウンロード権限が適切に有効化されていることを確認します。

### **4.115** 接続ドライバ "{0}" は不明です。別の接続ドライバを使用してください。(SLS 16000)

## 原因

接続ドライバが不明です。

## アクション

接続ドライバを利用可能にするか、または別の接続ドライバを選択します。

### **4.116** 接続ドライバの一覧の取得中にエラーが発生しました¥n"{0}"。(SLS 16002)

## 原因

接続ドライバの一覧を復元することができません。

## アクション

接続ドライバを確認します。

### **4.117** 接続は使用できません。(SLS 16003)

## 原因

接続を使用することができません。

## アクション

接続を利用可能にします。

### **4.118** 接続パラメータ "{0}" は不明です。有効なパラメータを使用してください。(SLS 16005)

## 原因

接続パラメータが不明です。

## アクション

有効な接続パラメータを使用します。

### **4.119** 接続パラメータ "{1}" の値 "{0}" は無効です。(SLS 16006)

#### 原因

接続パラメータの値が無効です。

## アクション

接続パラメータに有効な値を使用します。

### **4.120** パラメータ "{0}" の設定中にエラーが発生しました。¥n"{1}" (SLS 16007)

#### 原因

パラメータを設定することができません。

## アクション

パラメータ値を確認します。

### **4.121** 接続パス "{0}" は無効です。(SLS 16008)

#### 原因

接続に無効なパスが含まれています。

## アクション

接続のパスを確認します。

### **4.122** パラメータ "{0}" を読み込めません。(SLS 16009)

#### 原因

読み取り不可能なパラメータを読み取ろうとしました。

## アクション

読み取り対象のパラメータを確認します。

### **4.123** パラメータ "{0}" を変更できません。(SLS 16010)

#### 原因

書き込み不可能なパラメータを変更しようとしてしました。

## アクション

書き込み対象のパラメータを確認します。

### **4.124** 接続 "{0}" のテストが失敗しました。理由: "{1}"。(SLS 16012)

#### 原因

テスト接続が失敗しました。

## アクション

接続を確認し、もう一度テストします。

**4.125** 複数ソース有効データファンデーション "{1}" で使用されるその他の接続ではなく、接続 "{0}" が同じ CMS リポジトリに属している必要があります。(SLS 16013)

## 原因

複数ソース有効ユニバースの一部の接続が同じ CMS に属していません。

## アクション

すべての接続が同じ CMS に属していることを確認します。

**4.126** データファンデーション "{0}" は、1 つ以上の接続によって接続される必要があります。(SLS 16014)

## 原因

データファンデーションに接続が指定されていません。

## アクション

データファンデーションに接続を設定します。

**4.127** 複数ソース有効データファンデーションで使用されるようにするには、接続 "{0}" を Data Federator クエリサーバにデプロイする必要があります。(SLS 16015)

## 原因

複数ソース有効データファンデーションの接続がデプロイされていません。

## アクション

Data Federator クエリサーバに接続をデプロイします。

**4.128** 識別子 {1} のビジネスアイテム "{0}" が不明です。有効なビジネスアイテムを使用してください。(SLS 16016)

## 原因

ビジネスアイテムがユニバースに属していません。

## アクション

ビジネスアイテムを確認します。

**4.129** ユニバースのパス "{0}" は無効です。(SLS 17001)

## 原因

ユニバースのパスが無効です。

## アクション

ユニバースのパスを確認します。

**4.130** リポジトリ識別子 "{0}" は無効であるか、タイプがサポートされていません。 .unx リソースのみが許可されます。(SLS 17002)

#### 原因

.unx ユニバースのみがサポートされています。

#### アクション

.unx ユニバース識別子を確認します。

**4.131** データファンデーションにテーブル {0} が含まれていません。テーブル名を訂正してください。(SLS 18001)

#### 原因

データファンデーションにその名前を持つテーブルがありません。

#### アクション

テーブルの名前を確認します。

**4.132** WHERE 句が無効です。NULL または空にすることはできません。(SLS 18003)

#### 原因

WHERE 句が無効です。

#### アクション

WHERE 句の式を確認します。

### 4.133 プロファイル名 "{0}" は無効です。(SLS 18004)

#### 原因

プロファイル名が無効です。

#### アクション

プロファイル名を確認します。

### 4.134 ユーザ名またはグループ名の "{0}" は無効です。(SLS 18005)

#### 原因

ユーザ名またはグループ名が無効です。

#### アクション

ユーザ名またはグループ名を確認します。

### 4.135 複数のテーブルに同じ名前 {0} が含まれています。別の名前を使用してください。(SLS 18006)

#### 原因

一部のテーブルの名前が競合しています。

#### アクション

テーブルの名前を確認します。



**4.136** テーブル {0} の複数の列に同じ名前 {1} が含まれています。別の名前を使用してください。  
(SLS 18007)

#### 原因

テーブルの複数の列に同じ名前が含まれています。

#### アクション

テーブルの各列に一意的な名前を設定します。

**4.137** 結合式 "{0}" は無効です。空であるか、重複している可能性があります。(SLS 18008)

#### 原因

結合式が無効です。

#### アクション

結合式を確認します。

**4.138** 追加テーブルが見つかりません: "{0}"。(SLS 18009)

#### 原因

追加テーブルが見つかりません。

#### アクション

追加テーブルを確認します。

## 4.139 追加テーブルが複数回登録されました: "{0}"。(SLS 18010)

### 原因

追加テーブルが重複しています。

### アクション

各追加テーブルが一意であることを確認します。

## 4.140 派生テーブル {0} で無効な式 "{1}" が使用されています。式を訂正してください。(SLS 18011)

### 原因

派生テーブルの式が無効です。

### アクション

派生テーブルの式を確認します。

## 4.141 ビジネスレイヤビューが不明です: "{0}"。(SLS 18012)

### 原因

ビジネスレイヤビューがビジネスレイヤに属していません。

### アクション

ビジネスレイヤビューの名前を確認します。

**4.142** 結合 "{0}" は、コンテキスト "{1}" の含まれる結合で重複させることはできません。(SLS 18013)

#### 原因

含まれる結合一覧で結合が重複しています。

#### アクション

各結合を一意に設定します。

**4.143** 結合 "{0}" は、コンテキスト "{1}" の除外結合で重複させることはできません。(SLS 18014)

#### 原因

除外結合一覧で結合が重複しています。

#### アクション

各結合を一意に設定します。

**4.144** 結合 "{0}" は、コンテキスト "{1}" の含まれる結合と除外結合の両方に含めることはできません。(SLS 18015)

#### 原因

結合が、含まれる結合と除外結合両方の一覧に含まれています。

#### アクション

いずれかの一覧から結合を削除します。

#### **4.145** プロファイル名 "{0}" はすでに存在します。(SLS 18016)

##### 原因

プロファイル名がリポジトリにすでに存在します。

##### アクション

プロファイル名を確認して、置き換えます。

#### **4.146** プロファイル名 "{0}" は存在しません。(SLS 18016)

##### 原因

このプロファイル名はリポジトリに存在しません。

##### アクション

プロファイル名を変更するか、プロファイルを作成します。

#### **4.147** プロファイル "{0}" はユニバースにアタッチされていません。(SLS 18017)

##### 原因

セキュリティプロファイルがユニバースにリンクされていません。

##### アクション

セキュリティプロファイルを切り離す前に、ユニバースにアタッチします。

## 4.148 プロファイル "{0}" はすでにユニバースにアタッチされています。(SLS 18018)

### 原因

セキュリティプロファイルがユニバースにリンクされています。

### アクション

セキュリティプロファイルをアタッチする前に、ユニバースから切り離します。

## 4.149 プロファイル "{0}" は最後の削除以降使用できません。(SLS 18019)

### 原因

セキュリティプロファイルが削除以降使用できません。

### アクション

削除後に、セキュリティプロファイルを再作成します。

## 4.150 リポジトリ "{0}" から取得された接続がユニバースで定義されていません。(SLS 19000)

### 原因

リポジトリから取得された接続がユニバースで定義されていません。

### アクション

ユニバースで定義されている別の接続を選択します。

## 4.151 接続 "{0}" を複数ソース有効ユニバース "{1}" に割り当てることができません。

`changeUniverseConnections` メソッドを使用してください。(SLS 19001)

### 原因

接続を複数ソース有効ユニバースに割り当てることができません。

### アクション

使用されている関数が、接続を複数ソース有効ユニバースに割り当てるために適切な関数ではありません。ソース接続および置換接続をマッピングするための接続の置換を定義します。

## 4.152 リレーショナル接続 "{0}" を SAP BW または SAS 接続 "{1}" に置換できません。元の接続

を同じタイプの接続に置き換えてください。(SLS 19002)

### 原因

リレーショナル接続を SAP BW または SAS 接続と置き換えることはできません。

### アクション

リレーショナル接続を同じタイプの接続に置き換えます。

## 4.153 リレーショナル接続 "{0}" を OLAP 接続 "{1}" と置き換えることはできません。(SLS

19003)

### 原因

リレーショナル接続を OLAP 接続と置き換えることはできません。

## アクション

リレーショナル接続で接続を置き換えます。

**4.154** SAP BW または SAS 接続 "{0}" をリレーショナル接続 "{1}" に置換できません。元の接続を同じタイプの接続に置き換えてください。(SLS 19004)

## 原因

SAP BW または SAS 接続を指定されたリレーショナル接続と置き換えることはできません。

## アクション

接続を同じタイプの接続に置き換えます。

**4.155** SAP BW または SAS 接続 "{0}" を OLAP 接続 "{1}" と置き換えることはできません。(SLS 19005)

## 原因

SAP BW または SAS 接続を OLAP 接続と置き換えることはできません。

## アクション

接続を同じタイプの接続に置き換えます。

**4.156** OLAP 接続 "{0}" をリレーショナル接続 "{1}" と置き換えることはできません。(SLS 19006)

## 原因

OLAP 接続をリレーショナル接続と置き換えることはできません。

## アクション

OLAP 接続で接続を置き換えます。

**4.157** OLAP 接続 "{0}" を SAP BW または SAS 接続 "{1}" と置き換えることはできません。(SLS 19007)

## 原因

OLAP 接続を SAP BW または SAS 接続と置き換えることはできません。

## アクション

OLAP 接続で接続を置き換えます。

**4.158** タイプ "{0}" の接続をタイプ "{1}" の接続に置換できません。元の接続を同じタイプの接続に置き換えてください。(SLS 19008)

## 原因

SAP BW または SAS 接続を異なるタイプの接続に置き換えることはできません。

## アクション

接続を同じタイプの接続に置き換えます。



**4.159** OLAP 接続 "{0}" を BICS 接続 "{1}" に置換できません。置換接続は BICS 接続にすることはできません。(SLS 19009)

#### 原因

OLAP 接続を BICS 接続と置き換えることはできません。

#### アクション

置換接続は BICS 接続にすることはできません。

**4.160** 接続 "{0}" がリポジトリに存在しないか、この接続の表示権限が拒否されました。(SLS 19010)

#### 原因

接続がリポジトリに存在しないか、接続の表示権限が拒否されました。

#### アクション

管理者にお問い合わせください。

**4.161** 置換接続 "{0}" はすでにユニバースで定義されています。ユニバースで定義されていない新しい接続を選択してください。(SLS 19011)

#### 原因

接続を置換することができません。置換接続がすでにユニバースで定義されています。

#### アクション

ユニバースで定義されていない新しい接続を選択します。

**4.162** 置換接続 "{0}" を登録できません。管理者に連絡して、Data Federator クエリサービスを使用できるかどうかを確認してください。(SLS 19013)

## 原因

置換接続を登録できません。

## アクション

管理者にお問い合わせください。

**4.163** ローカル接続 "{0}" は複数ソース有効データファンデーション {1} に設定できません。(SLS 19014)

## 原因

ローカル接続を設定できません。

## アクション

管理者にお問い合わせください。

**4.164** 接続パスのマップにはユニバース "{0}" で定義されている接続以外のエントリも含まれています。(SLS 19014)

## 原因

接続パスのマップにはユニバースで定義されているよりも多数のエントリが含まれています。

## アクション

マップエントリ数は、ユニバースで定義されているソースの数未満である必要があります。

### **4.165** ユニバースファイルには拡張子 `.unv` が必要です。(SLS 20000)

#### 原因

ユニバースファイルに拡張子 `.unv` がありません。

## アクション

ユニバースファイルに拡張子 `.unv` があることを確認します。

### **4.166** ユニバース "{0}" の変換が失敗しました。(SLS 20001)

#### 原因

ユニバース `.unv` ファイルを変換することができません。

## アクション

ユニバースコンテンツおよびユニバース接続がサポートされていることを確認します。

### **4.167** OLAP タイプのコンテンツを含むユニバースは変換できません。(SLS 20003)

#### 原因

ユニバースのコンテンツタイプが OLAP です。

## アクション

ユニバースデザインツールを使用してユニバースのコンテンツを確認します。

### **4.168** ローカルリソース "{0}" をロードできません。(SLS 22000)

#### 原因

ローカルリソースをロードできません。

## アクション

ローカルリソースが読み取り可能ではありません。壊れている可能性があります。

### **4.169** ドキュメント "{0}" の保存が失敗しました。(SLS 22001)

#### 原因

リソースを保存することができません。

## アクション

保存するリソースが破損している可能性があります。

### **4.170** メソッドでファイル拡張子またはコンテンツ "{0}" がサポートされていません。(SLS 23001)

#### 原因

メソッドでファイル拡張子またはコンテンツがサポートされていません。この操作をサポートしていないファイルでメソッドが呼び出された可能性があります。

## アクション

このファイルでその操作が利用可能であることを確認します。

### **4.171** 接続をロードできません。(SLS 23002)

## 原因

接続のロード中にエラーが発生しました。

## アクション

接続をロードできることを確認します。

### **4.172** 静的な値の一覧 "{0}" で、行 #{1} の値の数 ({2}) が列の数 ({3}) 未満になっています。 (SLS 24001)

## 原因

静的な値の一覧で、行の値の数が列の数未満になっています。

## アクション

行の値の数を、列の数と同じに設定します。

### **4.173** 静的な値の一覧 "{0}" で、行 #{1} の値の数 (" {2} ") が列の数 (" {3} ") を上回っています。 (SLS 24002)

## 原因

静的な値の一覧で、行の値の数が列の数を上回っています。

## アクション

行の値の数を、列の数と同じに設定します。

**4.174** 静的な値の一覧 "{0}" で、行 #{2} の値 #{1} のタイプ (" {3} ") が一致列のタイプ (" {4} ") と異なります。(SLS 24003)

## 原因

静的な値の一覧で、行の値のタイプがその列のタイプと異なります。

## アクション

行の値をその列のタイプと同じタイプに設定します。

**4.175** パラメータ "{0}" で、関連する値の一覧のデータ型 "{1}" をパラメータのデータ型と同じ "{2}" にする必要があります。(SLS 24004)

## 原因

パラメータで、関連する値の一覧のデータ型がそのパラメータの型と異なります。

## アクション

関連する値の一覧にそのパラメータと同じ型を設定します。

**4.176** パラメータ "{0}" では、選択したインデックス認識プロンプトは使用できません。これは、キーを含む値の一覧をリストから選択する必要があるためです。(SLS 24005)

#### 原因

パラメータで、選択したインデックス認識プロンプトを使用できません。

#### アクション

キーを含む値の一覧を設定し、リストから選択します。

**4.177** 結合 "{0}" の SQL 式の評価中にエラーが発生しました。SQL 式構文を確認してください。(SLS 24006)

#### 原因

結合の SQL 式の評価中にエラーが発生しました。

#### アクション

結合の SQL 式を確認します。

**4.178** 集計テーブルの自動参照ではフォルダはサポートされていません。(SLS 24007)

#### 原因

フォルダが非互換アイテムに含まれています。

#### アクション

非互換アイテムからフォルダを削除します。

## 4.179 集計テーブルの自動参照でテーブル名は NULL または空にできません。(SLS 24008)

### 原因

テーブル名が空または NULL です。

### アクション

有効なテーブル名を設定します。

## 4.180 テーブル "{0}" の計算列の式 "{1}" は NULL または空にすることはできません。(SLS 24009)

### 原因

計算列の式が NULL または空です。

### アクション

式を NULL または空以外に設定します。

## 4.181 テーブル "{0}" の計算列 "{2}" の式 "{1}" は無効です。有効な計算列を設定してください。(SLS 24010)

### 原因

計算列に無効な式が含まれています。

### アクション

有効な計算列の式を設定してください。



**4.182** "{0}" という名前のコンテキストはすでに存在します。コンテキストに別の名前を付けてください。(SLS 24011)

#### 原因

複数のコンテキストが同じ名前を持っています。

#### アクション

各コンテキストに異なる名前を設定します。

**4.183** コンテキスト名は NULL または空にすることはできません。(SLS 24012)

#### 原因

コンテキスト名が NULL または空です。

#### アクション

コンテキストに有効な名前を設定します。

**4.184** 列のデータ型は NULL または空にすることはできません。(SLS 24013)

#### 原因

列のデータ型が NULL または空です。

#### アクション

データベース列に NULL ではないデータ型を設定します。

**4.185** DataFederatorSourceInfo に無効なショート名 "{0}" が含まれています。有効なショート名を設定してください。(SLS 24014)

## 原因

DataFederatorSourceInfo に無効なショート名が含まれています。

## アクション

有効なショート名を設定します。

**4.186** 複数の DataFederatorSourceInfo に同じショート名 "{0}" が含まれています。一意のショート名を設定してください。(SLS 24015)

## 原因

複数の DataFederatorSourceInfo に同じショート名が含まれています。

## アクション

一意のショート名を設定します。

**4.187** ビジネスアイテム "{1}" の形式 "{0}" では、テキストプロパティではなくいろプロパティで色を設定する必要があります (SLS 24017)

## 原因

書式のテキストプロパティではなく色プロパティに色を設定する必要があります。

## アクション

書式オブジェクトの適切な場所に色を設定します。

### **4.188** リポジトリ識別子 "{0}" は無効です。(SLS 24018)

## 原因

ユーザが無効な識別子を指定しました。

## アクション

識別子はパスまたは CUID である必要があります。

### **4.189** CUID "{0}" は無効であるか、タイプがサポートされていません。.unx、.unv、および .cnx リソースのみが許可されます。(SLS 24018)

## 原因

ユーザが無効な CUID を指定しました。

## アクション

CUID は有効である必要があります。

### **4.190** パス "{0}" が無効であるか、またはそのタイプがサポートされていません。.unx、.unv、および .cnx リソースのみが許可されます。(SLS 24018)

## 原因

ユーザが無効なパスを指定しました。

## アクション

パスは有効である必要があります。

**4.191** リソース "{0}" は使用できません。リレーショナル単一ソースユニバースのみがサポートされています。(SLS 24019)

## 原因

OLAP および複数ソース有効ユニバースはサポートされていません。

## アクション

有効なリソースを使用します。

**4.192** ユニバース "{0}" には、セキュリティ保護された接続が含まれていません。(SLS 24020)

## 原因

ユニバースにセキュリティ保護された接続が含まれていません。

## アクション

ユニバースにセキュリティ保護された接続が含まれていません。ユニバースは、セキュリティ保護された接続(.cns)を利用する必要があります。

**4.193** コアユニバース "{0}" は、リンクされたユニバース "{1}" にすでに存在します。(SLS 24021)

## 原因

コアユニバースを追加することができません。

## アクション

コアユニバースを追加することができません。リンクされたユニバースにコアユニバースがすでに存在します。

### **4.194** コアユニバース "{0}" は、リンクされたユニバース "{1}" に存在しません。(SLS 24022)

## 原因

コアユニバースを削除することができません。

## アクション

コアユニバースを削除することができません。リンクされたユニバースにコアユニバースが存在しません。

### **4.195** コアユニバース "{0}" の接続がリンクされたユニバース "{1}" の 1 つと異なります。(SLS 24022)

## 原因

コアユニバースの接続がリンクされているユニバースの接続と異なります。

## アクション

コアユニバースとリンクされているユニバースが同じ接続を共有していることを確認します。これらは、同じデータソースへの異なる接続を使用している場合があります。これは警告メッセージです。

### **4.196** コアユニバース "{1}" から継承された "{0}" のプロパティは、BlItem オブジェクトの状態プロパティ以外は変更できません。(SLS 24023)

## 原因

オブジェクトのステータス以外の継承されたプロパティを変更することはできません。

## アクション

変更を元に戻します。

**4.197** コアユニバース "{2}" から継承された "{1}" のプロパティ "{0}"は変更できません。BlItem オブジェクトの状態プロパティのみを変更できます。(SLS 24023)

## 原因

オブジェクトのステータス以外の継承されたプロパティを変更することはできません。

## アクション

変更を元に戻します。

**4.198** コアユニバース "{2}" から継承された "{1}" のプロパティ "{0}"は、"{3}" から "{4}" に変更できません。BlItem オブジェクトの状態プロパティのみを変更できます。(SLS 24023)

## 原因

オブジェクトのステータス以外の継承されたプロパティを変更することはできません。

## アクション

変更を元に戻します。

## 5 BI セマンティックレイヤ RESTful Web サービス (WSR) のエラーメッセージ

BI セマンティックレイヤ RESTful Web サービスのエラーメッセージは、次のカテゴリに分類されます。

範囲	カテゴリ
WSR 00080 ～ WSR 00999	BI セマンティックレイヤ RESTful Web サービス
WSR 02002 ～ WSR 02005	BI セマンティックレイヤ RESTful Web サービス
WSR 03000 ～ WSR 03004	BI セマンティックレイヤ RESTful Web サービス
WSR 05000 ～ WSR 05005	BI セマンティックレイヤ RESTful Web サービス

### 5.1 WSR 00080 ～ WSR 00999

#### 5.1.1 ドキュメント（{0}）は存在しないか、セキュリティプロファイルによってアクセスが許可されていません。（WSR 00080）

##### 原因

特定のドキュメントが見つかりませんでした。リソースが存在していないか、リソースを表示する権限がありません。

##### 対処方法

システム管理者に連絡してください。

#### 5.1.2 予期しないエラーです。（WSR 00999）

##### 原因

内部エラーが発生しました。

## アクション

システム管理者に連絡してください。

## 5.2 WSR 02000 ～ WSR 02005

### 5.2.1 無効なクエリ id: {0}。 (WSR 02000)

#### 原因

クエリ ID が無効です。

## アクション

クエリ仕様が正しく投稿されたか確認してください。

### 5.2.2 クエリ仕様要素が見つからない。 (WSR 02002)

#### 原因

クエリ仕様が無効です。

## アクション

XML クエリ仕様が定義されているか確認してください。



### 5.2.3 無効なクエリ仕様のバージョン: {0}。 (WSR 02003)

#### 原因

クエリ仕様のバージョンが無効です。

#### 対処方法

XML クエリ仕様のバージョンを 1.0 に設定します。

### 5.2.4 無効な比較演算子: "{0}"。 (WSR 02004)

#### 原因

クエリ比較演算子が無効です。

#### 対処方法

*Web Intelligence* および *BI セマンティックレイヤ*向け *SAP BusinessObjects RESTful Web サービス SDK ユーザガイド*を参照して、サポートされているクエリ比較演算子を選択します。

### 5.2.5 無効な相関関係の種類 : "{0}"。 (WSR 02005)

#### 原因

相関関係の種類が無効です。

#### 対処方法

*Web Intelligence* および *BI セマンティックレイヤ*向け *SAP BusinessObjects RESTful Web サービス SDK ユーザガイド*を参照して、サポートされている相関関係の種類を選択します。

## 5.3 WSR 03000 ～ WSR 03004

### 5.3.1 重複クエリオプション: {0}。 (WSR 03000)

#### 原因

重複するクエリオプションが検出されました。

#### 対処方法

このエラーは、カスタマ環境では発生しません。 インストールが適切で破損していないことを確認済みの場合は、この問題を解決するために SAP サポートに問い合わせてください。

### 5.3.2 サポートされていないクエリオプション: {0}。 (WSR 03001)

#### 原因

クエリオプションがサポートされていません。

#### 対処方法

*Web Intelligence* および *BI セマンティックレイヤ*向け *SAP BusinessObjects RESTful Web サービス SDK* ユーザガイドを参照して、サポートされているクエリオプションを選択します。

### 5.3.3 クエリオプション "{0}" を設定する必要があります。 (WSR 03002)

#### 原因

クエリオプションがありません。

#### 対処方法

必要なクエリオプションを適切に設定する必要があります。

### 5.3.4 "{0}" クエリオプションの無効な値: "{1}"。 論理値 (true/false) にする必要があります。 (WSR 03003)

#### 原因

クエリオプション値が無効です。

#### 対処方法

クエリオプション値は true または false に設定する必要があります。

### 5.3.5 "{0}" クエリオプションの無効な値: "{1}"。 整数値にする必要があります。 (WSR 03004)

#### 原因

クエリオプション値が無効です。

#### 対処方法

クエリオプション値は整数にする必要があります。

## 5.4 WSR 05000 ～ WSR 05005

### 5.4.1 無効なフロー ID: {0}。 (WSR 05000)

#### 原因

データフローの識別子が無効です。

#### アクション

正しいデータフロー識別子を選択してください。

## 5.4.2 {0} 行のみ使用できます。(WSR 05001)

### 原因

スキップクエリパラメータ値が、受信行数以上です。

### 対処方法

データフロー URL 要求に適切なスキップ値を設定します。

## 5.4.3 無効なエンティティ名: {0}。(WSR 05002)

### 原因

エンティティ名が無効です。

### 対処方法

データフロー URL 要求に適切なデータフロー名を設定します。

## 5.4.4 無効な行インデックス: {0}。(WSR 05003)

### 原因

行インデックスがデータフロー内にありません。

### 対処方法

正しい行インデックスをデータフロー範囲から選択します。

### **5.4.5** 順位フィルタが無効です。レベルとプロンプトがありません。 そのいずれかを追加してください。

(WSR 05004)

#### 原因

レベルとプロンプトがないため、順位フィルタが無効です。

#### 対処方法

順位フィルタにレベルまたはプロンプトを追加します。

### **5.4.6 The analytical function {0} is invalid. Please use a valid function in the ranking filter. (WSR 05005)**

#### 原因

使用されている分析関数が無効であるため、順位フィルタが無効です。

#### アクション

正しい分析関数を入力します。

## 6 BIP サーバ (FWR) エラーメッセージ

BIP サーバ (FWR) には、以下のエラーメッセージカテゴリが含まれています。

範囲	カテゴリ
FWR 00000 ~ 00999	BIP サーバ (FWR)
FWR 100001 ~ 100002	BIP サーバ (FWR)

### 6.1 FWR 000001 ~ 000007

#### 6.1.1 \_a\_内部エラーが発生しました。システム管理者に連絡してください。(FWR 000001)\_z\_

##### 原因

内部エラーが発生しました。

##### 対処方法

システム管理者に連絡してください。

#### 6.1.2 \_a\_プロパティ {0} に値がありません。(FWR 000002)\_z\_

##### 原因

指定されたプロパティの値がありません。

##### 対処方法

システム管理者に連絡してください。

### 6.1.3 \_a\_プロパティ {0} に無効な値 {1} があります。(FWR 000003)\_z\_

#### 原因

指定されたプロパティの値が無効です。

#### 対処方法

システム管理者に連絡してください。

### 6.1.4 \_a\_引数 {0} に無効な値 {1} があります。(FWR 000004)\_z\_

#### 原因

指定された引数の値が無効です。

#### 対処方法

システム管理者に連絡してください。

### 6.1.5 \_a\_オブジェクトの非シリアル化中にエラーが発生しました。(FWR 000005)\_z\_

#### 原因

オブジェクトを非シリアル化できませんでした。

#### 対処方法

システム管理者に連絡してください。

### 6.1.6 \_a\_プロパティ {0} のシリアル化中にエラーが発生しました。(FWR 000006)\_z\_

#### 原因

プロパティをシリアル化できませんでした。

#### 対処方法

システム管理者に連絡してください。

### 6.1.7 \_a\_{0} の値の範囲は {1} から {2} である必要があります。(FWR 000007)\_z\_

#### 原因

設定プロパティ値が許容範囲外です。

#### 対処方法

システム管理者に連絡してください。

## 6.2 FWR 100001 ~ 100002

### 6.2.1 内部エラーが発生しました。システム管理者に連絡してください。(FWR 100001)

#### 原因

内部エラーが発生しました。

#### 対処方法

システム管理者に連絡してください。



## 6.2.2 メモリ不足エラー。システム管理者に連絡してください。(FWR 100002)

### 原因

システムのメモリがなくなりました。

### 対処方法

システム管理者に連絡してください。

## 7 Crystal Reports Server (CRS) エラーメッセージ

Crystal Reports Server (CRS) エラーメッセージには以下のとおりです。

範囲	カテゴリ
CRS 200001 ~ CRS 200005	Crystal Reports Server エラー
CRS 300001 ~ CRS 300024	Crystal Reports Server エラー

### 7.1 CRS 200001 ~ CRS 200005

#### 7.1.1 内部エラーが発生しました。システム管理者にお問い合わせください。(CRS 200001)

##### 原因

内部エラーが発生しました。

##### 対処方法

システム管理者にお問い合わせください。

#### 7.1.2 メモリ不足エラー。システム管理者にお問い合わせください。(CRS 200002)

##### 原因

システムのメモリ不足です。

##### 対処方法

システム管理者にお問い合わせください。

### 7.1.3 ユーザに次の動作を実行する権限がないため、リクエストに失敗しました: {0}。(CRS 200003)

#### 原因

ユーザ権限が不十分です。

#### 対処方法

システム管理者にお問い合わせください。

### 7.1.4 サポートされていないランタイムの更新が検出されました。ユーザ固有のコンテンツをランタイムで追加することはできません。(CRS 200004)

#### 原因

サポートされていない実行時変更です。

#### 対処方法

システム管理者にお問い合わせください。

### 7.1.5 ドリルダウンできません。(CRS 200004) (CRS 200005)

#### 原因

ドリルダウンできません。

#### 対処方法

他のドリルダウン場所を選択します。

## 7.2 CRS 300001 ～ CRS 300024

### 7.2.1 内部エラーが発生しました。システム管理者にお問い合わせください。(CRS 300001)

#### 原因

内部エラーが発生しました。

#### 対処方法

システム管理者にお問い合わせください。

### 7.2.2 {0} (CRS 300002)

#### 原因

コード生成エラー。

#### 対処方法

システム管理者にお問い合わせください。

### 7.2.3 {0} (CRS 300003)

#### 原因

レポート例外が投げられました。

#### 対処方法

システム管理者にお問い合わせください。

## 7.2.4 ディスクへエクスポートされたレポートの書き込み中にエラーが発生しました。(CRS 300004)

### 原因

エクスポートされたレポートをディスクに書き込み中にエラーが発生しました。

### 対処方法

システム管理者にお問い合わせください。

## 7.2.5 BOE との通信中にエラーが発生しました: {0} (CRS 300005)

### 原因

BOE との通信中にエラーが発生しました。

### 対処方法

システム管理者にお問い合わせください。

## 7.2.6 バッチジョブの処理が失敗しました。(CRS 300006)

### 原因

バッチジョブの処理が失敗しました。

### 対処方法

システム管理者にお問い合わせください。

## **7.2.7** グローバル配信ルールアラートの処理が失敗しました。(CRS 300007)

### **原因**

グローバル配信ルールアラートの処理が失敗しました。

### **対処方法**

システム管理者にお問い合わせください。

## **7.2.8** ドキュメントを出力先に配信できません。(CRS 300008)

### **原因**

ドキュメントを出力先に配信できません。

### **対処方法**

システム管理者にお問い合わせください。

## **7.2.9** パーソナライゼーションターゲットフィールド: {0} がレポートで見つかりません。(CRS 300009)

### **原因**

パーソナライゼーションターゲットフィールドが見つかりません。

### **対処方法**

システム管理者にお問い合わせください。

### **7.2.10** BOE プロファイル値を非文字列パラメータフィールド: {0} にマッピングできません (CRS 300010)

#### **原因**

BOE プロファイル値を非文字列パラメータフィールドにマッピングできません。

#### **対処方法**

BOE プロファイル値が、文字列パラメータフィールドにマップされていることを確認します。

### **7.2.11** プロファイル式を非文字列パラメータフィールド: {0} にマッピングできません (CRS 300011)

#### **原因**

プロファイル式をパラメータフィールドにマッピングできません。

#### **対処方法**

システム管理者にお問い合わせください。

### **7.2.12** パラメータフィールド: {0} はオプションではありません。値の設定は必須です。(CRS 300012)

#### **原因**

一部のパラメータフィールドはオプションではありません。

#### **対処方法**

オプションでないパラメータには、値が含まれている必要があります。

### **7.2.13** パラメータフィールド: {0} には複数の値を入力できません。(CRS 300013)

#### **原因**

値の数が多すぎるパラメータフィールドがあります。

#### **対処方法**

パラメータの値の数を減らします。

### **7.2.14** パラメータフィールド: {0} は使用されており、値が必要です。(CRS 300014)

#### **原因**

値のないパラメータフィールドがあります。

#### **対処方法**

パラメータに値を設定します。

### **7.2.15** パラメータフィールド: {0} には NULL 値を入力できません。(CRS 300015)

#### **原因**

一部のパラメータフィールドには NULL 値を入力できません。

#### **対処方法**

システム管理者にお問い合わせください。



## 7.2.16 パブリケーションソースドキュメントに保存データがありませんが、保存データは必須です。(CRS 300016)

### 原因

パブリケーションソースドキュメントに保存データがありません。

### 対処方法

ソースドキュメントに保存データがあることを確認します。

## 7.2.17 プロファイル値タイプをフィールド: {0} のレポートフィールドタイプに変換できません (CRS 300017)

### 原因

型変換に失敗しました。

### 対処方法

システム管理者にお問い合わせください。

## 7.2.18 データパラメータ: {0} でパーソナライズを行うと、潜在的にパフォーマンスが低下して、受信者ごとに 1 データベースが最新表示されます。(CRS 300018)

### 原因

データパラメータをパーソナライズすると、データが最新表示されます。

### 対処方法

パフォーマンスを改善するためには、データパラメータのパーソナライズを避けてください。

## **7.2.19** 論理値グループパラメータ: {0} をパーソナライズできません。論理値グループのパラメータのパーソナライズはサポートされていません。(CRS 300019)

### 原因

論理値グループパラメータはパーソナライズできません。

### 対処方法

論理値グループのパラメータのパーソナライズはサポートされていません。

## **7.2.20** ユーザにドキュメントの印刷権限がありません。(CRS 300020)

### 原因

ユーザにこのドキュメントの印刷権限がありません。

### 対処方法

システム管理者にお問い合わせください。

## **7.2.21** ユーザにはドキュメントのダウンロード権限がなく、デフォルトの Enterprise の場所と受信ボックス出力先に対するスケジュール権限しかありません。(CRS 300021)

### 原因

ユーザにはこのドキュメントのダウンロード権限がありません。

### 対処方法

システム管理者にお問い合わせください。

## 7.2.22 多言語レポートをスケジュールできませんでした。(CRS 300022)

### 原因

多言語レポートをスケジュールできませんでした。

### 対処方法

システム管理者にお問い合わせください。

## 7.2.23 レポート内のアラートを生成できませんでした。(CRS 300023)

### 原因

アラートを生成できませんでした。

### 対処方法

システム管理者にお問い合わせください。

## 7.2.24 ドキュメントが、ユーザ固有のセキュリティを持つセマンティックレイヤに基づいているため、パブリケーションを実行できません。また、パブリケーションは受信者ごとのバーストモードを使用していません。(CRS 300024)

### 原因

Crystal Report は、ユーザ固有のセキュリティを持つセマンティックレイヤに基づいており、パブリケーションは受信者ごとのバーストモードを使用していません。

### 対処方法

受信者ごとのバーストモードに切り替えます。

## 8 データアクセスエラーメッセージ

データアクセスエラーメッセージは、次のカテゴリに分類されます。

- データベース (DA) エラーメッセージ
- データプロバイダ (DMA) エラーメッセージ
- ファイル (DPP) に関するエラーメッセージ
- 接続 (DPQ) に関するエラーメッセージ
- ストアドプロシージャ (DPS) エラーメッセージ
- SQL (QPF) エラーメッセージ
- サーバ (DWZ) エラーメッセージ
- SQL クエリ (QP) に関するエラーメッセージ
- データプロバイダ (VBA) に関するエラーメッセージ

### 8.1 データプロバイダ (DMA) エラーメッセージ

データプロバイダエラーメッセージは、次のカテゴリに分類されます。

範囲	カテゴリ
DMA0002 - DMA 0008	データプロバイダ

#### 8.1.1 階層構造名が不正です (DMA0002)

##### 原因

階層の名前に既存の階層名を指定すると、このメッセージが表示されます。

##### 対処方法

新しい階層に一意の名前を指定します。

## 8.1.2 エクスポート失敗 (DMA0005)

### 原因

このエラーメッセージは、次のファイルエクスポートオプションを選択した時に、操作が失敗すると表示されます。

- [ローカルファイル形式にエクスポート] -- dBase または Excel ファイルへのエクスポートでは、エクスポート先のファイルが使用できない、Microsoft DAO の内部エラー (ISAM ドライバの不在など)、空き容量の不足、などが原因となる一般的なエクスポートエラーが考えられます。  
テキストファイルへのエクスポートでは、エクスポート先のファイルが使用できない、空き容量の不足、などが原因となる一般的なエクスポートエラーが考えられます。
- [DDE にコピー] -- DDE (Windows クリップボード) へのエクスポートでは、ほとんどがメモリの不足による一般的なエクスポートエラーです。
- [RDBMS にエクスポート] -- BusinessObjects 接続を使ったエクスポートでは、不適切なミドルウェア設定または接続、データベースサーバの停止、接続するデータベースのテーブルに対する変更権がない、などが原因となる一般的なエクスポートエラーが考えられます。[RDBMS にエクスポート] の場合は、詳細エラー情報を示すミドルウェアからのメッセージに続いて、このエラーメッセージが表示されます。

### 対処方法

選択したエクスポートオプションをチェックし、次の中から対応する措置を行います。

チェックしたオプション	措置
ローカルファイル形式にエクスポート	エクスポート先ファイルが使用できること、空き容量が十分にあることを確認します。問題がなければ、ISAM ドライバがない、など Microsoft DAO の内部エラーを調べてください。
DDE にコピー	メモリが十分にあることを確認します。
RDBMS にエクスポート	先に表示されるミドルウェアのエラーメッセージで、より詳しい情報を参照します。

### 原因

BusinessObjects から Microsoft Excel にデータをエクスポートしようとしたましたが、データに Microsoft Excel の予約語となる特殊文字を使った名前のオブジェクトが含まれています。

### 対処方法

次の方法で、データをエクスポートします。

1. [ローカルファイル形式にエクスポート] オプションの代わりに、[DDE にコピー] をクリックします。  
この操作で、Microsoft Windows のクリップボードにデータがコピーされます。
2. Excel を起動し、[形式を選択して貼り付け] コマンドを使って、目的のセルにデータを貼り付けます。  
これで、オブジェクト名が正しく表示されます。

また、可能な場合には BusinessQuery を使用することもできます。BusinessObjects データも受け付け、正しく表示します。

**8.1.3** このデータプロバイダの編集には、BusinessObjects のインストールされていないコンポーネントが必要です。システム管理者に連絡してください (DMA0006)

## 原因

BusinessObjects レポートで、コンピュータにインストールされていないコンポーネントを必要とするデータプロバイダを編集しようとすると、このエラーメッセージが表示されます。

## 対処方法

システム管理者に、不足しているコンポーネントを特定し、インストールするよう依頼します。

## 例

OLAP サーバを使用するデータプロバイダを編集しようとしたが、専用の OLAP アクセスパックがコンピュータにインストールされていません。

**8.1.4** 次のデータプロバイダを最新表示できませんでした：(DMA0007)

## 原因

Essbase 製品：使用するテーブルの別名に括弧がついている場合。

## 対処方法

テーブルの別名に括弧を使用することはできません。システム管理者に連絡してください。

## 原因

他のすべての BusinessObjects 製品: 値を選択するプロンプトを持つドキュメントを最新表示すると、[値を入力または選択]ダイアログボックスが表示されます。値を選択しないで、[値を入力または選択]ダイアログボックスで[キャンセル]をクリックし、データプロバイダの最新表示を中止した場合にメッセージが表示されます。

## 対処方法

これはエラーではありません。データプロバイダの最新表示を中止したため、レポートに新しいデータを表示できないことを知らせるメッセージです。

### 8.1.5 変数が原因で、データプロバイダを最新表示できませんでした。(DMA0008)

## 原因

このエラーメッセージは次の場合に表示されます。ドキュメントの最新表示を開始後、データプロバイダに含まれる変数(@Variable、@Prompt、@Script)が解決できないと、このメッセージが表示されます。この場合、データプロバイダの最新表示は完了できません。

## 対処方法

クエリの変数を調べ、必要に応じて変更します。この操作は[SQL 文の直接入力]エディタを使って、またはユニバースデザイナーの場合は Designer で行います。変数の正しい構文についての詳細は、ユニバースデザインツールユーザガイドを参照してください。

## 8.2 ファイル (DPP) に関するエラーメッセージ

ファイルエラーメッセージは、次のカテゴリに分類されます。

範囲	カテゴリ
DPP0001 - DPP0002	ファイルエラー

## 8.2.1 ファイルを開くことができません。(DPP0001)

### 原因

個人用データファイルとして指定した次のファイルが開けない場合に、このエラーメッセージが表示されます。

- dBase
- Excel
- テキスト

ファイルが削除または移動されたか、名前が変更されたか、破損しています。また、ファイルがアクセスが制限されたフォルダにあるなどの理由で、使用できない可能性があります。

### 対処方法

ファイルの状態をチェックします。

## 8.2.2 ストアドプロシージャを使用する権限がありません。(DPP0002)

### 原因

ストアドプロシージャの削除後に、ストアドプロシージャを使って作成したドキュメントを開こうとしました。

### 対処方法

ストアドプロシージャが再作成された場合は、ドキュメントのみを使用できます。

## 8.3 接続（DPQ）に関するエラーメッセージ

接続エラーメッセージは、次のカテゴリに分類されます。

範囲	カテゴリ
DPQ0001 - DPQ0006	接続



### 8.3.1 接続が定義されていません。(DPQ0001)

#### 原因

[SQL 文の直接入力]エディタで作成したクエリを実行しようとする、このエラーメッセージが表示されます。これは、クエリを使ってアクセスするデータベースと BusinessObjects との接続が定義されていないために、レポートのデータにアクセスできないことが原因です。

#### 対処方法

[SQL 文の直接入力] エディタからデータベース接続を作成するか、Designer または Supervisor でデータベースへの接続を新たに定義するようデータベース管理者に依頼する必要があります。

新規接続は、[SQL 文の直接入力]エディタで[新規接続の作成]ボタンをクリックし、表示される[接続の追加]ダイアログボックスを使って作成できます。

### 8.3.2 サーバが応答しません。(DPQ0003)

#### 原因

このエラーメッセージは、ドキュメントを最新表示したときに表示されます。考えられる原因は次の 3 つです。

- ミドルウェアが正しく設定されていない。
- 接続パラメータが無効です。
- データベースサーバが停止している。

#### 対処方法

[接続テスト]ダイアログボックスの[詳細]ボタンをクリックします。データベースまたはミドルウェアのエラーメッセージを書き留めて、データベース管理者に連絡します。

### 8.3.3 接続の問題：(DPQ0005)

#### 原因

[SQL 文の直接入力]エディタで作成したクエリを実行しようとする、このエラーメッセージが表示されます。接続とは、データベースへのアクセスを供給する一連のパラメータのことです。接続が正しく定義されていない場合に、このエラーメッセージが表示されます。

## 対処方法

[SQL 文の直接入力]エディタを使ってデータベースへの接続を定義した場合には、これを編集する必要があります。接続の定義は、[SQL 文の直接入力]エディタの[接続]一覧から接続を選択し、[接続の編集]ボタンをクリックして行います。

[SQL 文の直接入力]エディタで定義した接続以外を使用している場合は、Designer または Supervisor でデータベースへの接続を編集するようデータベース管理者に依頼する必要があります。

### 8.3.4 が存在しません。(DPQ0006)

## 原因

[SQL 文の直接入力]エディタで作成した SQL スクリプトを実行しようとする、このエラーが発生します。SQL データプロバイダが使用するデータベースへの接続情報を見つけられないため、このエラーメッセージを表示します。

## 対処方法

SQL スクリプトが使用するデータベース接続を調べ、接続が正しく定義され、有効であることを確認します。

データベース接続が存在しない場合は、[SQL 文の直接入力]エディタで接続を定義できます。

データベース接続が[SQL 文の直接入力]エディタで定義した接続の場合は、必要に応じて[SQL 文の直接入力]エディタの[接続]一覧から接続を選択し、[接続の編集]ボタンをクリックして接続を編集します。

自分で定義した接続でない場合は、Designer でデータベースへの接続を編集するようデータベース管理者に依頼する必要があります。

## 8.4 ストアドプロシージャ (DPS) エラーメッセージ

ストアドプロシージャエラーメッセージは、次のカテゴリに分類されます。

範囲	カテゴリ
DPS0001 - DPS0002	ストアドプロシージャ

### 8.4.1 このストアードプロシージャは削除されました。(DPS0001)

#### 原因

このエラーメッセージは、削除されたストアードプロシージャを使用しようとしたとき、またはストアードプロシージャを使用するためのアクセス権がないときに表示されます。ストアードプロシージャは、次のように使用できます。

- データを返す RDBMS に保存された SQL スクリプト
- データを返す JavaBean で定義されたプロシージャ

システム管理者は、ストアードプロシージャへの接続を定義し、その接続をユーザに割り当てることができます。

#### 対処方法

接続定義を更新または置き換える必要があります。

### 8.4.2 ストアドプロシージャを使用する権限がありません。(DPS0002)

#### 原因

このエラーメッセージは、システム管理者が許可していないストアードプロシージャをデータプロバイダとして使用しようとしたときに表示されます。ストアードプロシージャは、データを返す RDBMS に保存された SQL スクリプトです。

#### 対処方法

システム管理者に連絡して、このストアードプロシージャの使用許可を依頼します。

## 8.5 SQL (QPF) エラーメッセージ

SQL エラーメッセージは、次のカテゴリに分類されます。

範囲	カテゴリ
QPF0001	SQL

### 8.5.1 承認されている SQL コマンドは「選択」のみです。(QPF0001)

#### 原因

SQL が(おそらく手動で)変更され、Select コマンドが別のコマンドに置き換えられていると、このエラーが発生します。レポートの生成には SQL の Select コマンドが必要です。

#### 対処方法

SQL に Select コマンドを追加して、レポートを再生成する必要があります。この操作は、[クエリパネル]または[SQL 文の直接入力]エディタで行うことができます。BusinessObjects は、コメントを最初の SQL コマンドとして受け付けません。

## 8.6 SQL クエリ (QP) に関するエラーメッセージ

SQL クエリエラーメッセージは、次のカテゴリに分類されます。

範囲	カテゴリ
QP0001 - QP0027	SQL クエリ

### 8.6.1 SQL 文生成中にエラーが発生しました。(QP0001)

#### 原因

このエラーはクエリの実行中に起こります。SQL 内のエラーまたはデータベースとの接続の問題が原因と考えられます。

#### 対処方法

SQL をチェックします。SQL が正しい場合は、接続をテストします。

## 8.6.2 SQL 文生成中に内部メモリエラーが発生しました。(QP0002)

### 原因

このエラーは、SQL の生成に十分なメモリがないときに発生します。

### 対処方法

開いている他のアプリケーションをすべて閉じ、クエリを再度実行します。

## 8.6.3 SQL 文の生成中にメモリエラーが発生しました。(QP0003)

### 原因

このエラーは、SQL の生成に十分なメモリがないときに発生します。

### 対処方法

開いている他のアプリケーションをすべて閉じ、クエリを再度実行します。

## 8.6.4 オブジェクトのこの組み合わせは成立しません。(QP0004)

### 原因

ユニバースの定義に次のいずれかの問題があると、このエラーメッセージが表示されます。

- 互換性のないオブジェクトがあるユニバースで、ユニバースデザイナーが各コンテキストに対し複数の SQL 文を許可するオプションを設定しない。
- ユニバースにコンテキストがなく、クエリがグループを生成した。
- クエリオブジェクトで、Aggregate Aware 関数に必要な可能なすべての SQL が除外されました。
- ユニバースに各コンテキストに対して複数のテーブルを参照するオブジェクトが含まれている。

### 対処方法

ユニバースデザイナーが、Designer を使ってユニバースに適切な変更を行う必要があります。

## 8.6.5 外部結合に整合性がありません。(QP0005)

### 原因

このエラーメッセージは、ユニバース定義に問題がある場合に表示されます。データベース内のテーブル間の外部結合の組み合わせが間違っています。

### 対処方法

ユニバースデザイナーが、Designer を使ってユニバースに適切な変更を行う必要があります。

## 8.6.6 デカルト積は使用できません。(QP0006)

### 原因

デカルト積とは、複数のテーブルが結合によってリンクされていないクエリの結果です。実行した場合には、レポートに各テーブル行の可能な組み合わせの結果が表示されます。ユニバース作成者が、ユニバースの作成時にデカルト積を許可しないよう設定しました。

### 対処方法

ユニバースデザイナーが、Designer を使ってユニバースに適切な変更を行う必要があります。デカルト積を許可するか、データベース内のテーブル間に必要なリンクを作成することができます。

## 8.6.7 クエリがテーブルを参照していません。(QP0007)

### 原因

このエラーメッセージは、ユニバース定義に問題がある場合に表示されます。ユニバースに単体では使用できないオブジェクトがあり、このオブジェクトを認識できる SQL 文がありません。

### 対処方法

ユニバースデザイナーが、Designer を使ってユニバースに適切な変更を行う必要があります。詳しい説明は、*Designer* ガイドを参照してください。

## 8.6.8 削除されたテーブルへの参照があります。(QP0008)

### 原因

データベースの更新後に SQL 文を再生成したとき、ユニバースが変更されていると、このエラーが発生します。ユニバースが削除されたテーブルを参照しているため、SQL 文を実行できません。

### 対処方法

ユニバースのデザイナーは、Designer を使ってユニバース内のすべてのオブジェクトがテーブルにリンクされるよう、ユニバースを変更する必要があります。

## 8.6.9 クエリ内に無効なオブジェクトがあります。(QP0009)

### 原因

クエリ内のオブジェクトがユニバースから削除されていると、このエラーメッセージが表示されます。

### 対処方法

ユニバースのデザイナーが、Designer を使ってオブジェクトをユニバースに戻すか、オブジェクトをクエリから削除することで対処できます。

## 8.6.10 クエリ内に無効なプロパティがあります。(QP0010)

### 原因

このエラーメッセージは、定義済み条件を含んだクエリを[クエリパネル]から実行したときに表示されます。クエリの条件オブジェクトの 1 つがユニバースに存在しないため、クエリが実行できず、エラーメッセージが表示されます。

### 対処方法

ユニバースとその条件オブジェクトについて、ユニバースのデザイナーに問い合わせます。ユニバースのデザイナーは、Designer を使って、定義済み条件として動作するオブジェクトをクラスごとに定義できます。ユニバースの

デザイナに条件オブジェクトを再定義するよう依頼するか、条件をクエリから削除する必要があります。条件オブジェクトの定義に関する詳細は、*Designer* ガイドを参照してください。

### 8.6.11 .PRM ファイルが見つかりません。(QP0011)

#### 原因

.prm ファイルが見つかりません。.prm ファイルには、ユニバースの作成と管理、およびクエリの生成に必要なパラメータがすべて保存されています。このエラーは、製品が正しくインストールされていないことを示しています。

#### 対処方法

製品を再インストールします。

### 8.6.12 複合条件によりデカルト積が作成されました。(QP0013)

#### 原因

このエラーは、複合条件の一部として計算を挿入したときに発生します。計算に、リンクされていないテーブルを参照するオブジェクトが使用されています。デカルト積とは、複数のテーブルが結合によってリンクされていないクエリの結果です。実行した場合には、レポートに各テーブル行の可能な組み合わせの結果が表示されます。

#### 対処方法

ユニバースのデザイナは、*Designer* を使って計算内のオブジェクトが参照するテーブルをリンクすることができます。また、クエリから条件を削除することでも対処できます。

### 8.6.13 複合条件内にループがあります。(QP0014)

#### 原因

このエラーは、複合条件の一部として計算を挿入したときに発生します。計算に、ループを形成するテーブルオブジェクトが使用されています。



## 対処方法

ユニバースのデザイナーは、Designer を使って、ループが形成されないようクエリ内のオブジェクトが参照するテーブルをリンクする必要があります。また、クエリから条件を削除することでも対処できます。

### 8.6.14 クエリが複雑すぎます。互換性のないオブジェクトを含んだサブクエリがあります。(QP0015)

## 原因

複数のサブクエリを含む複合クエリで、サブクエリ内のオブジェクトが他のサブクエリ内のオブジェクトと互換性がない場合に、このエラーが発生します。

## 対処方法

複合クエリのサブクエリを調べ、すべてのサブクエリのすべてのオブジェクトに互換性があることを確認します。

### 8.6.15 サーバが応答しません。(QP0016)

## 原因

[クエリパネル]からクエリを実行した時に、サーバからデータが何も返されないと、このエラーメッセージが表示されます。考えられる原因は次の 3 つです。

- ミドルウェアが正しく設定されていない。
- 接続パラメータが無効です。
- データベースサーバが停止している。

## 対処方法

[接続テスト]ダイアログボックスの[詳細]ボタンをクリックします。データベースまたはミドルウェアのエラーメッセージを書き留めて、データベース管理者に連絡します。

## 8.6.16 SELECT 句の列が結果オブジェクトと一致しません。(QP0017)

### 原因

このエラーは通常、[SQL 文の直接入力]エディタで SQL を手動で変更したあとに発生します。Select 句のフィールド数が、[クエリパネル]内のオブジェクト数と比較して、多すぎるか少なすぎるのが原因です。

### 対処方法

Select 句内のフィールド数と[クエリパネル]内のオブジェクト数が一致するよう、SQL を編集する必要があります。

## 8.6.17 変数に構文エラーがあります。(QP0018)

### 原因

このエラーは、ユニバースに正しく定義されていない @Prompt または @Variable がクエリのオブジェクトに含まれている場合に発生します。

### 対処方法

ユニバースのデザイナーは、Designer を使ってユニバース内の @Prompt または @Variable を再定義する必要があります。

## @Prompt の構文

構文は、次の通りです。

```
@Prompt( 'message' , [ 'type' ] , [ lov ] , [ MONO | MULTI ] , [ FREE | CONSTRAIN ] )
```

以下は各要素の説明です。

- message：メッセージボックスに表示するテキストを一重引用符で囲んで指定します。
- type：'A'（英数字）、'N'（数値）、'D'（日付）のいずれかの型を指定します。
- lov：次のどちらかの方法で値の一覧を指定します。
  - 値を直接指定する場合は単一引用符で囲み、カンマで区切ります。
  - クラスとオブジェクトを指定する場合は、単一引用符で囲み、¥ で区切ります。

- MONO：唯一の値だけを受け付けます。MULTI：複数の値を受け付けます。
- FREE：自由に値を入力できます。これに対し、CONSTRAIN は一覧からの選択しかできません。

#### ① 注記

最後の 4 つの引数は省略できますが、引数を指定しない場合でも区切り記号のカンマは入力する必要があります。

## @Variable の構文

構文は、次の通りです。

```
@Variable('myname')
```

変数名は次のいずれかです。

- @Prompt 関数を使って作成された対話型オブジェクトのメッセージテキスト、つまり @Prompt 関数の 1 番目の引数
- BOUSER などの BusinessObjects システム変数。この変数は、ユーザ ID を構成するユーザ名とパスワードをそれぞれ返します。これ以外にも、RDBMS との接続に使用するシステム変数があります。

@Prompt または@Variable の正しい構文に関する詳しい説明は、*Designer* ガイドを参照してください。

### 8.6.18 オブジェクトを使う権限がありません。(QP0019)

#### 原因

他のユーザが作成したドキュメントを開こうとしたときに、アクセス権のないオブジェクトがドキュメントに含まれていると、このエラーが発生します。

#### 対処方法

オブジェクトへのアクセス権は、スーパーバイザまたは管理者が設定します。

### 8.6.19 アグリゲート認識の解決に失敗しました。(QP0020)

#### 原因

@Aggregate\_Aware 関数を使って定義したメジャーオブジェクトの定義が正しくないと、SQL の生成中にこのエラーが発生します。アグリゲート認識を設定するには、メジャーオブジェクトが正しく定義されている必要があ

ります。アグリゲート認識により、SQL トランザクションのパフォーマンスが向上します。定義が正しくないと、SQL を生成できません。

## 対処方法

ユニバースのデザイナーが、@Aggregate\_Aware 関数を使って定義したメジャーオブジェクトをチェックし、構文が正しいことを確認する必要があります。

### @Aggregate\_Aware の構文

@Aggregate\_Aware 関数の構文は、次の通りです。

```
@Aggregate_Aware (sum(agg_table_1, ... sum(agg_table_n))
```

agg\_table\_1 が最高位レベルの集計を設定するテーブルで、agg\_table\_n は最下位レベルのテーブルです。引数には、すべての集計テーブルの名前を入力する必要があります。また、テーブル名の順序にも注意してください。優先順位は、左から右です。

またデザイナーは、ユニバースに各集計テーブルの非互換オブジェクトおよび非互換定義済み条件の一覧があることも確認しておく必要があります。

アグリゲート認識と@Aggregate\_Aware 関数の詳しい説明は、*Designer* ガイドを参照してください。

## 8.6.20 メジャーの条件が曖昧です。削除するか分析範囲を取り消してください。(QP0021)

### 原因

分析範囲をより詳細なレベルまで拡張するには、階層の下位レベルのオブジェクトをクエリに追加します。SQL は、Group By 句を使って同期したサブクエリを生成します。演算子[等しい(=)]、[以外]、[より大きい(>)]、[より小さい(<)]、[以上(≥)]、[以下(≤)]は、同期したサブクエリを生成できますが、演算子[範囲内]、[パターンと一致]、[リスト内]では、同期したサブクエリを生成できません。この場合、SQL を生成できません。

## 対処方法

クエリを変更するか、分析範囲を削除します。

## 8.6.21 結果オブジェクトが少なくとも 1 つ含まれるまでは新規タブを作成できません。(QP0022)

### 原因

2 つのクエリを組み合わせる場合、1 つ目のクエリから結果オブジェクトがすべて削除されていると、このエラーメッセージが表示されます。

### 対処方法

1 つ目のクエリに、少なくとも 1 つの結果オブジェクトを配置する必要があります。

## 8.6.22 サブクエリ同士は組み合わせられません。(QP0023)

### 原因

クエリのサブクエリを別のクエリのサブクエリと組み合わせようとすると、このエラーメッセージが表示されます。この操作は許可されていません。

## 8.6.23 このクエリは削除できません。まず条件を削除してください。(QP0025)

### 原因

サブクエリを持ったクエリを、サブクエリを削除せずに削除しようとすると、このメッセージが表示されます。

### 対処方法

このクエリを削除するには、まずサブクエリを削除しなければなりません。

## 8.6.24 使用されていないオブジェクトをクエリから削除しました。(QP0027)

### 原因

このエラーメッセージは、ユニバースデザイナーが削除したオブジェクトを含むクエリから、SQL を生成しようとしたときに表示されます。

## 対処方法

削除されたオブジェクトを除外して、クエリを再構築します。

## 9 データフェデレーション (DFA) のエラーメッセージ

データフェデレーションのエラーメッセージには、以下が含まれます。

範囲	カテゴリ
DFA0003 - DFA80007	データフェデレーションエラー

### 9.1 データフェデレーションドライバが見つかりません。(DFA 0003)

#### 原因

データフェデレーションドライバが見つかりません。

#### 対処方法

インストール時の問題データフェデレーション管理ツールを再インストールします。

### 9.2 カタログのメタデータの取得中に問題が発生しました。(DFA 00010)

#### 原因

カタログ取得時に問題が発生しました。

#### 対処方法

データフェデレーションサービスをホスト中の Adaptive Processing Server のログファイルのトレースをチェックします。

### 9.3 次の URL のドライバプロパティを取得できません: '{0}' (DFA 0030)

#### 原因

URL のドライバプロパティを取得できません。

#### 対処方法

インストール時の問題データフェデレーション管理ツールを再インストールします。

### 9.4 内部エラーが発生しました。(DFA 20001)

#### 原因

不明なエラーが発生しました。

#### 対処方法

```
//components/datafederator/trunk/PI/query_server/src/com/businessobjects/  
datafederator/server/params/resource/messages_parameters_dev.properties
```

### 9.5 カタログのメタデータの取得中に問題が発生しました。(DFA 30001)

#### 原因

カタログ取得時に問題が発生しました。

#### 対処方法

データフェデレーションサービスをホスト中の Adaptive Processing Server のログファイルのトレースをチェックします。



## 9.6 データフェデレーションサービスをホストするサーバに接続できません。(DFA 40001)

### 原因

データフェデレーションサービスをホストするサーバに接続できません。

### 対処方法

データフェデレーションサービスとネットワークに問題がないことを確認します。

## 9.7 データフェデレーションドライバが見つかりません。(DFA 40002)

### 原因

データフェデレーションドライバが見つかりません。

### 対処方法

インストール時の問題データフェデレーション管理ツールを再インストールします。

## 9.8 次の URL のドライバプロパティを取得できません: '{0}' (DFA 40003)

### 原因

インストールが壊れている可能性があります。

### 対処方法

インストール時の問題データフェデレーション管理ツールを再インストールします。

## 9.9 接続 ID の取得中にエラーが発生しました。(DFA 40004)

### 原因

接続 ID を取得できません。

### 対処方法

データフェデレーションサービスへの接続を確認してください。

## 9.10 データフェデレーションクエリエンジンでクエリの説明中にエラーが発生しました。(DFA 50001)

### 原因

データフェデレーションサービスでエラーが発生しました。

### 対処方法

クエリを実行できるかどうかを確認してください。詳細については、データフェデレーションのログファイルを参照してください。

## 9.11 データフェデレーションサービスから関数の一覧を取得できません。(DFA 50002)

### 原因

データフェデレーションサービスでエラーが発生しました。

### 対処方法

データフェデレーションサービスに再接続してみます。詳細については、データフェデレーションのログファイルを参照してください。

## 9.12 データフェデレーションクエリエンジンでクエリの実行中にエラーが発生しました。(DFA 50003)

### 原因

データフェデレーションサービスでエラーが発生しました。

### 対処方法

クエリが正しいかどうかを確認します。

## 9.13 データフェデレーションサービスから返された XML 結果で XPath クエリを実行中にエラーが発生しました。(DFA 50004)

### 原因

データフェデレーションサービスが読み取りできない XML 結果を返しました。

### 対処方法

データフェデレーション管理ツールとデータフェデレーションサービスのバージョンに互換性があることを確認します。詳細については、データフェデレーションのログファイルを参照してください。

## 9.14 データフェデレーションサービスから返された XML の解析中にエラーが発生しました。(DFA 50005)

### 原因

データフェデレーションサービスが不正な XML 結果を返しました。

### 対処方法

詳細については、データフェデレーションのログファイルを参照してください。

## 9.15 クエリの準備中にエラーが発生しました。(DFA 50006)

### 原因

データフェデレーションサービスでエラーが発生しました。

### 対処方法

データフェデレーションサービスへの接続を確認します。詳細については、データフェデレーションのログファイルを参照してください。

## 9.16 システムプロパティを取得できません。(DFA 60001)

### 原因

接続取得時の問題。

### 対処方法

データフェデレーションサービスをホスト中の Adaptive Processing Server のログファイルのトレースをチェックします。

## 9.17 クエリのキャンセル中にエラーが発生しました。(DFA 50007)

### 原因

データフェデレーションサービスでエラーが発生しました。

### 対処方法

データフェデレーションサービスへの接続を確認します。詳細については、データフェデレーションのログファイルを参照してください。

## 9.18 表示する行が多すぎます。表示できる最大数は '999' です。(DFA 50008)

### 原因

入力したクエリ履歴サイズ数が大きすぎます。

### 対処方法

"QUERY\_HISTORY\_SIZE" システムパラメータを 999 より小さい数値に設定してください。

## 9.19 コネクタ '{0}' の設定をリセットできません。(DFA 60002)

### 原因

データフェデレーションサービスでエラーが発生しました。

### 対処方法

データフェデレーションサービスへの接続を確認します。詳細については、データフェデレーションのログファイルを参照してください。

## 9.20 コネクタ '{0}' の設定を取得できません。(DFA 60003)

### 原因

データフェデレーションサービスでエラーが発生しました。

### 対処方法

データフェデレーションサービスへの接続を確認します。詳細については、データフェデレーションのログファイルを参照してください。

## 9.21 コネクタ '{0}' の設定を更新できません。(DFA 60004)

### 原因

データフェデレーションサービスでエラーが発生しました。

### 対処方法

データフェデレーションサービスへの接続を確認します。詳細については、データフェデレーションのログファイルを参照してください。

## 9.22 コネクタ '{0}' を Ping できません。(DFA 60005)

### 原因

データフェデレーションサービスでエラーが発生しました。

### 対処方法

データフェデレーションサービスへの接続を確認します。詳細については、データフェデレーションのログファイルを参照してください。

## 9.23 コネクタ '{0}' 機能を取得できません。(DFA 60006)

### 原因

データフェデレーションサービスでエラーが発生しました。

### 対処方法

データフェデレーションサービスへの接続を確認します。詳細については、データフェデレーションのログファイルを参照してください。

## 9.24 データフェデレーションサービスから統計情報を取得できません。(DFA 70001)

### 原因

データフェデレーションサービスでエラーが発生しました。

### 対処方法

データフェデレーションサービスへの接続を確認します。詳細については、データフェデレーションのログファイルを参照してください。

## 9.25 統計情報を更新できません。(DFA 70002)

### 原因

データフェデレーションサービスでエラーが発生しました。

### 対処方法

データフェデレーションサービスへの接続を確認します。詳細については、データフェデレーションのログファイルを参照してください。

## 9.26 システムパラメータを取得できません。(DFA 80002)

### 原因

データフェデレーションサービスでエラーが発生しました。

### 対処方法

データフェデレーションサービスへの接続を確認します。詳細については、データフェデレーションのログファイルを参照してください。

## 9.27 セッションパラメータを取得できません。(DFA 80003)

### 原因

データフェデレーションサービスでエラーが発生しました。

### 対処方法

データフェデレーションサービスへの接続を確認します。詳細については、データフェデレーションのログファイルを参照してください。

## 9.28 スタートアップパラメータを取得できません。(DFA 80004)

### 原因

データフェデレーションサービスでエラーが発生しました。

### 対処方法

データフェデレーションサービスへの接続を確認します。詳細については、データフェデレーションのログファイルを参照してください。

## 9.29 システムパラメータ '{0}' を更新できません。(DFA 80005)

### 原因

システムパラメータ更新時に、データフェデレーションサービスでエラーが発生しました。

### 対処方法

システムパラメータ値の有効性を確認してください。詳細については、データフェデレーションのログファイルを参照してください。



### 9.30 セッションパラメータ '{0}' を更新できません。(DFA 80006)

#### 原因

セッションパラメータ更新時に、データフェデレーションサービスでエラーが発生しました。

#### 対処方法

セッションパラメータ値の有効性を確認してください。詳細については、データフェデレーションのログファイルを参照してください。

### 9.31 システムパラメータのデフォルト値を復元できません。(DFA 80007)

#### 原因

デフォルト値リストア時に、データフェデレーションサービスでエラーが発生しました。

#### 対処方法

データフェデレーションサービスへの接続を確認します。詳細については、データフェデレーションのログファイルを参照してください。

## 10 ドキュメントとユニバース交換エラーメッセージ

ドキュメントとユニバース交換エラーメッセージは、次のカテゴリに分類されます。

- カテゴリ（CAT）に関するエラーメッセージ
- ドキュメント交換（DX）エラーメッセージ
- ユニバース交換（UX）エラーメッセージ

### 10.1 カテゴリ（CAT）に関するエラーメッセージ

カテゴリエラーメッセージは、次のカテゴリに分類されます。

範囲	カテゴリ
CAT0001	カテゴリエラー

#### 10.1.1 カテゴリ名に無効な文字が含まれています。有効な文字は次のとおりです。（CAT0001）

##### 原因

新しいカテゴリに名前をつけようとしたが、無効な文字が含まれています。

##### 対処方法

有効な文字だけを使用して、カテゴリ名を再入力します。使用できる文字は、a-z、A-Z、0-9、¥、-、\_、\$、日本語（ひらがな、全角カタカナ、半角カタカナ、漢字、ただし特殊文字を除く）、および半角スペース（先頭を除く）です。

### 10.2 ドキュメント交換（DX）エラーメッセージ

ドキュメント交換エラーメッセージは、次のカテゴリに分類されます。

範囲	カテゴリ
DX0001 - DX 00050	ドキュメント交換エラー

## 10.2.1 一時ファイルを作成できません。(DX0001)

### 原因

このエラーメッセージは、ドキュメントをリポジトリに送信しようとした時に表示されます。BusinessObjects は常に、ファイルをローカルコンピュータに一時的に保存してからリポジトリに送信します。一時ファイルは、次のフォルダに保存されます。

My Documents¥BusinessObjects Documents¥UserDocs

このディスクへの書き込み権がないか、ディスクがいっぱいになっています。

### 対処方法

[ごみ箱]を空にします。必要に応じて余分なファイルまたは不要なファイルを削除して、再び[ごみ箱]を空にします。ルートドライブ C:¥ に対して読み取り権しか許可されていない場合は、システムまたはネットワーク管理者に、ルートドライブ C:¥ に対するフルコントロールのアクセス権を許可するよう依頼します。

## 10.2.2 このワークステーションのファイルにはセキュリティ設定を適用できません。(DX0002)

### 原因

ドキュメントを保存する前に会社用ドキュメントに公開しようとしてしました。ローカルバージョンのドキュメントをセキュリティ保護するには、まずドキュメントを保存する必要があります。保存しない場合は、リポジトリに送信したバージョンでローカルドキュメントを上書きしない限り、そのドキュメントのセキュリティ設定は適用されません。

### 対処方法

公開前に、ドキュメントをローカルに保存します。

### 10.2.3 RSS ファイルにアクセスできません。(DX0003)

#### 原因

このエラーは、セキュリティドメインテーブルが別のデータベースに移行されたときに発生します。結果として、ユニバースの接続パラメータが無効になっています。

#### 対処方法

デザイナーが、以下の操作で接続を復元します。

1. [ツール]>[接続]を選択し、ユニバースに新しい接続を作成します。
2. [ファイル]>[パラメータ]を選択し、作成した接続をユニバースに割り当てます。
3. ユニバースを保存します。
4. [ファイル]>[エクスポート]コマンドで、ユニバースをリポジトリにエクスポートします。

### 10.2.4 不正な SQL 文が使用されました。(DX0004)

#### 原因

会社用データベースへのアクセス中に、BusinessObjects に例外エラーが発生しました。

#### 対処方法

BusinessObjects のカスタマサポートにお問い合わせください。

### 10.2.5 インポート中にエラーが発生しました。(DX0005)

#### 原因

リポジトリからドキュメントを取得中にエラーが発生しました。インポートは以下のいずれかの理由で中止されました。

- ネットワークエラーが発生した。
- ドキュメントドメインのあるサーバが停止している。

## 対処方法

リポジトリのあるサーバに"ping"を実行し、ネットワーク接続を検証します。ネットワークが正常なら、データベース管理者がデータベースミドルウェア (Net8 for Oracle など) を使ってリポジトリデータベースが応答するかをチェックします。

### 10.2.6 インポート中にエラーが発生しました。(DX0007)

#### 原因

リポジトリからドキュメントを取得中にエラーが発生しました。インポートは以下のいずれかの理由で中止されました。

- ネットワークエラーが発生した。
- ドキュメントドメインのあるサーバが停止している。

## 対処方法

リポジトリのあるサーバに"ping"を実行し、ネットワーク接続を検証します。ネットワークが正常なら、データベース管理者がデータベースミドルウェア (Net8 for Oracle など) を使ってリポジトリデータベースが応答するかをチェックします。

### 10.2.7 <ドキュメント>のインポート中に不明なエラーが発生しました。インポートはキャンセルされました。<ドキュメント> をインポートできません。(DX0009)

#### 原因

正常にリポジトリにエクスポートされ、ユーザが問題なく受信できるドキュメントを開こうとすると、このエラーメッセージが表示されることがあります。このエラーは、クライアントコンピュータの文字セットが、データベースと異なる場合に発生します。ミドルウェアの設定だけでなく、文字セットを環境変数として定義する必要があります。

## 対処方法

クライアントコンピュータの文字セットを、データベースと同じにします。

データベースの設定に合わせ、クライアントコンピュータに DB2CODEPAGE 変数を設定します。変数と設定内容については、データベース管理者に問い合わせてください。最も一般的な値は 850 ですが、特定の言語を使用している場合は値が異なることがあります。

サーバではなく、クライアント側の設定を変更する点に注意してください。環境変数に DB2CODEPAGE を追加する場所は、お使いのオペレーティングシステムにより異なります。

- Windows 2000 の場合：環境変数は、[マイコンピュータ] > [プロパティ] > [詳細] > [環境変数] にあります。
- Windows NT (3.51 および 4.0) の場合：環境変数は、[マイコンピュータ] > [プロパティ] > [環境] タブにあります。

設定が終了したら、再度ドキュメントをリポジトリにエクスポートし、それをインポートします。これで、エクスポートされたドキュメントと同じ状態で情報を読み取れます。

## 10.2.8 <ドキュメント> を閉じることができません。インポートはキャンセルされました。<ドキュメント> をインポートできません。(DX0010)

### 原因

このメッセージは、値の一覧(LOV)を持つユニバースを開こうとしたときに表示される場合があります。LOV はオブジェクトに関連付けられたデータ値が入っているファイルです。

LOV ファイルが開かれたまま、ドキュメントドメインの接続が切断されました。

### 対処方法

ドキュメントドメインのあるサーバが異なる場合は、そのサーバに"ping"を実行し、ネットワーク接続を検証します。ネットワークが正常に動作している場合は、データベース管理者がデータベースミドルウェア(Oracle 用 Net8 など)を使用して、リポジトリデータベースの応答をチェックする必要があります。

ドキュメントドメインが壊れています。Supervisor に連絡してください。

## 10.2.9 <ドキュメント> に関連したファイルを作成できません。インポートはキャンセルされました。<ドキュメント> をインポートできません。(DX0011)

### 原因

リポジトリからドキュメントをインポートしようとしたましたが、ファイルをローカルディスクに書き込めませんでした。以下の原因が考えられます。

- Windows アクセス権。Windows 管理者が、ドキュメントをインポートするフォルダに必要な読み取り/書き込み権を許可していない可能性があります。
- ファイルをインポートするのに十分なディスク空き容量がない。

## 対処方法

次の操作を行います。

- Windows 管理者に依頼し、ファイルをインポートするシステム上のフォルダへのフルコントロールのアクセス権を許可してもらいます。
- アプリケーションを終了し、ディスク容量を確保し、不要なファイルを削除して、[ごみ箱]を空にします。ファイルを再インポートします。
- ドキュメントのインポート先を変更します。

**10.2.10** 以前のファイルを削除できません。インポートはキャンセルされました。＜ドキュメント＞をインポートできません。(DX0012)

## 原因

リポジトリからドキュメントを再インポートしようとした場合に、このエラーメッセージが表示される場合があります。システムにドキュメントの古いバージョンが存在する場合は、新しいバージョンをエクスポートする前に古いバージョンを削除する必要がありますが、ドキュメントの古いバージョンを削除できませんでした。次の原因が考えられます。

- ファイルまたはフォルダへの書き込み権がない。
- ファイルが開いているか、他のアプリケーションで使用されている。

## 対処方法

次の操作を行います。

- 実行中のアプリケーションをすべて終了し、もう一度ドキュメントをインポートします。
- Windows 管理者に、ファイルまたはフォルダへのフルコントロールのアクセス権を許可するよう依頼します。

**10.2.11** ＜ドキュメント＞に書き込めません。インポートはキャンセルされました。＜ドキュメント＞をインポートできません。(DX0014)

## 原因

データベースを変換したり、セーフリカバリを実行して新しいキーファイルを作成した後にレポートをインポートしようすると、このメッセージが表示される場合があります。

## 対処方法

キーファイルを再作成すると、セキュリティドメインへの接続だけが再構築されます。ドキュメントドメインとユニバースドメインへの接続は変更されません。したがって、以下のいずれかの操作が必要になります。

- 新しいデータベースにアクセスするよう、接続を編集する。
- 新しいデータベースにアクセスするよう、エイリアスを編集する。
- 新しいドキュメントドメインとユニバースドメインを作成し、そこに情報をインポートする。新しいドメインが正常に動作することが確認できたら、古いドメインを削除します。

### 10.2.12 ファイルは削除できません。(DX0017)

#### 原因

リポジトリからドキュメントを削除またはインポートするときに、このメッセージが表示される場合があります。

## 対処方法

ドキュメントファイル(.rep)が開かれていると考えられます。ドキュメントを閉じ、もう一度操作を行います。

### 10.2.13 ファイル名はこのワークステーションでは使えないファイル名です。変更してください。 (DX0018)

#### 原因

リポジトリからドキュメントを受信しようとしたましたが、使用中のプラットフォームとは互換性がないファイル名が使われています。

## 対処方法

ドキュメント名を、使用するプラットフォームに対応した名前に変更して再度エクスポートします。その後、再度ドキュメントを取得します。



## 10.2.14 セキュリティファイル <ドキュメント> のエクスポートが要求されましたが、この操作は許可されていません。<ドキュメント>のエクスポートは中止されました。(DX0022)

### 原因

ドキュメントをリポジトリに送信しようとしたときに、このメッセージが表示される場合があります。

### 対処方法

自分のプロファイルに特に制限がない場合は、「c:\temp」フォルダをチェックします。

1. 「c:\temp」フォルダ内の不要なドキュメントを削除します（可能な場合には、「Temp」フォルダを空にします）。
2. コンピュータを再起動します。
3. ドキュメントをリポジトリに再送信します。

## 10.2.15 <ドキュメント> のエクスポート中に不明なエラーが発生しました。処理を中止しました。<ドキュメント>はエクスポートされませんでした。(DX0024)

### 原因

リポジトリのテーブル容量が不足しています。ドキュメントを保存する空き容量がありません。

### 対処方法

データベース管理者にテーブル容量を増加するよう依頼します。

### 原因

リポジトリのあるシステムの空きディスク容量が不足しています。

### 対処方法

ネットワーク管理者またはシステム管理者が、システムのディスク空き容量を確保する必要があります。

**10.2.16** <ドキュメント> のエクスポート中にデータベースエラーが発生しました。処理を中止しました。  
<ドキュメント>はエクスポートされませんでした。(DX0025)

## 原因

リポジトリのテーブル容量が不足しています。ドキュメントを保存する空き容量がありません。

## 対処方法

データベース管理者にテーブル容量を増加するよう依頼します。

## 原因

リポジトリのあるシステムの空きディスク容量が不足しています。

## 対処方法

システム管理者またはネットワーク管理者が、システムのディスク空き容量を確保する必要があります。

## 原因

obj\_x\_ドキュメントに対してテーブルが小さすぎます。

## 対処方法

データベース管理者に obj\_x\_ドキュメント用のテーブルを大きくするよう依頼します。

**10.2.17** <ドキュメント> のエクスポート中にブレークが発生しました。<ドキュメント> はエクスポートされませんでした。(DX0026)

## 原因

リポジトリへのドキュメントのエクスポート中に、ネットワークエラーまたはリポジトリサーバの問題によりエクスポートが中断されました。

## 対処方法

リポジトリのあるサーバに"ping"を実行し、ネットワーク接続を検証します。ネットワークが正常なら、データベース管理者がデータベースミドルウェア (Net8 for Oracle など) を使ってリポジトリデータベースが応答するかをチェックします。

エラーの修正後、ドキュメントを再エクスポートします。

**10.2.18** <ドキュメント> に関連付けられたファイルを開くことができません。<ドキュメント> はエクスポートされませんでした。(DX0027)

## 原因

ドキュメントをリポジトリにエクスポートしようとしたますが、ファイルを開くことができません。ファイルが破損している可能性があります。

## 対処方法

別のファイルをエクスポートしてみます。エクスポートできない場合、使用しているリポジトリの詳細を、スーパーバイザに問い合わせてください。

**10.2.19** dll をロードできません。Microsoft Exchange が正しくインストールされているかチェックしてください。(DX0037)

## 原因

要求された.dll ファイルは削除されたか、破損しています。

## 対処方法

Microsoft Exchange が正しくインストールされているかチェックしてください。問題が解消しない場合は、Microsoft Exchange の再インストールが必要になる場合があります。

### 10.2.20 <ドキュメント> に関連付けられたファイルを開くことができません。(DX0040)

#### 原因

メールでドキュメントを送信しようとしたますが、送信するファイルを開くことができません。次の原因が考えられます。

- ファイルが破損している。
- ファイルが、停止もしくはネットワークに接続していないコンピュータ上にある。
- 共有ディスク上にあるファイルを、他のユーザまたはアプリケーションが使用している。

#### 対処方法

送信するファイルがアクセスできる場所にあるか、ファイルを実際に関開くことができるかを送信前にチェックします。

### 10.2.21 メッセージを送信できません。(DX0041)

#### 原因

メール(MAPI)でドキュメントを送信しようとしたますが、BusinessObjects はメーリングアプリケーションを起動できませんでした。

#### 対処方法

メーリングアプリケーションが起動しない理由として、.dll ファイルが見つからないか、設定が不完全なことが考えられます。アプリケーションを再インストールします。

## 10.2.22 このドキュメントのプロパティを取得できませんでした。(DX0044)

### 原因

ドキュメントはドキュメントドメインに保存されていますが、プロパティがセキュリティドメインに保存されています。ドキュメントをインポートまたはエクスポートする場合には、ドキュメントとドキュメントのプロパティを両方とも転送する必要があります。このエラーメッセージは、セキュリティドメインのあるコンピュータへの接続が動作していないか、コンピュータ自体が停止している場合に表示されることがあります。

### 対処方法

セキュリティドメインが異なるサーバ上にある場合、そのサーバに"ping"を実行し、ネットワーク接続を検証します。ネットワークが正常なら、データベース管理者がデータベースミドルウェア (Net8 for Oracle など) を使ってリポジトリデータベースが応答するかをチェックします。

## 10.2.23 DB エラー (DX0045)

### 原因

このエラーは、ドキュメントをインポート、エクスポート、または最新表示したときに発生することがあります。データウェアハウスに問題があります。

### 対処方法

このメッセージのエラー情報を書き留め、使用するデータベースの供給元から提供されるトラブルシューティングに関する資料を参照してください。

## 10.2.24 ドキュメントドメインが応答しません。(DX0046)

### 原因

Windows に、設定されたさまざまなサーバシステムを実行する十分なメモリがありません。

## 対処方法

システム要件を確認し、BusinessObjects に十分なメモリ容量があるかチェックします。他のアプリケーションを終了し、メモリを解放することもできます。不要なファイルを削除し、[ごみ箱]を空にします。

## 原因

リポジトリにエラーが発生しているか、破損しています。

## 対処方法

BusinessObjects 管理者に連絡してください。

**10.2.25** このドキュメントをインポートするには新しいバージョンの BusinessObjects が必要です。  
(DX0047)

## 原因

BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム 6 より前のバージョンの BusinessObjects を使用しています。そのため、バージョン 6 で作成したドキュメントをインポートできません。

## 対処方法

BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム 6 のドキュメントを使用するには、BusinessObjects をバージョン 6.x に更新する必要があります。

**10.2.26** ドキュメントの削除に失敗しました。(DX 00050)

## 原因

ドキュメント交換または会社用リポジトリでドキュメントを削除しようとしたましたが、プロセスが中断されたか、サーバが応答していません。

## 対処方法

再度ドキュメントの削除を行います。再度エラーメッセージが表示される場合は、ログアウトしてからログインし直して、プロセスを再試行します。

## 10.3 ユニバース交換（UX）エラーメッセージ

ユニバース交換エラーメッセージは、次のカテゴリに分類されます。

範囲	カテゴリ
UX0001 - UX0071	ユニバース交換エラー

### 10.3.1 UX0001 - UX0019

#### 10.3.1.1 ユニバースをエクスポートしましたが、エラーを含んでいる可能性があります。このユニバースのデザイナーに連絡してください。（UX0001）

## 原因

ユニバースは正常にエクスポートされましたが、BusinessObjects がユニバースの構造またはコンテンツに矛盾を検出しました。

## 対処方法

ユニバースの整合性をチェックして問題を解決し、ユニバースを再エクスポートします。

#### 10.3.1.2 使用できるユニバースドメインがありません。スーパーバイザに連絡してください。（UX0010）

## 原因

OBJ\_M\_RESLINK テーブル内に接続情報行がないため、リポジトリにドキュメントまたはユニバースをエクスポートできませんでした。

## 対処方法

エラーの修正後、ドキュメントを再エクスポートします。それでも問題が解決しない場合は、BusinessObjects のカスタマサポートに連絡してください。

### 10.3.1.3 このユニバースドメインにはユニバース <ユニバース> がありません。(UX0011)

#### 原因

派生ユニバース(他のユニバースにリンクされたユニバース)をインポートしようとしてしました。

リンクユニバースとは、パラメータ、クラス、オブジェクト、結合を共通コンポーネントとして共有するユニバースです。リンクされた複数のユニバースの内、1つはカーネルユニバースと呼ばれ、ほかは派生ユニバースと呼ばれます。

このメッセージは、カーネルユニバースがユニバースドメインから削除され、セキュリティドメインでは削除されていない場合に表示されます。

## 対処方法

カーネルユニバースの場所を確認して、ユニバースドメインに再エクスポートします。リンクユニバースの詳細説明は、*Designer* ガイドを参照してください。

### 10.3.1.4 ファイル<名前>がローカルフォルダにありません。(UX0012)

#### 原因

リポジトリから派生ユニバースを再インポートしようとしてしましたが、ローカルシステムにこのユニバースの古いバージョンだけが見つかり、マスタユニバースの古いバージョンを見つけることができませんでした。マスタユニバースがローカルシステムから削除されたのが原因だと考えられます。

## 対処方法

システムから古いバージョンのユニバースを削除し、ユニバースをもう一度インポートします。



### 10.3.1.5 「ユニバーステーブルの列を受信できませんでした。関連付けられたユニバース接続が無効です。」が表示されることがあります。(UX0013)

#### 原因

ユニバースをインポートしようとしたましたが、接続が無効なため Designer は必要な列を受信できませんでした。

#### 対処方法

サーバが応答しません。接続をチェックし、必要があれば設定を変更してユニバースの構造を最新表示します。

#### 原因

ユニバースをインポートしようとしたましたが、現在の Designer セッションの開始以降に、スーパーバイザがこのユニバースを削除しました。

#### 対処方法

ユニバースをインポートするには、ユニバースデザイナーがユニバースをリポジトリに再エクスポートする必要があります。

### 10.3.1.6 ユニバースに関連付けられた接続が定義されていません。接続を定義してください。(UX0015)

#### 原因

リポジトリ内のデータにアクセスしようとしたましたが、ユニバースドメインとセキュリティドメインとのリンクが壊れています。ユニバースドメインには、もうアクセスできません。

#### 対処方法

システム管理者に連絡してください。

### 10.3.1.7 ローカルの接続を更新できませんでした。(UX0016)

#### 原因

リポジトリへの接続を更新しようとしたが、ネットワークエラーが発生したか、リポジトリデータベースのあるコンピュータが停止しています。このメッセージは、ドキュメントの送受信など、リポジトリへの接続を初期化する操作でも、表示される場合があります。

#### 対処方法

リポジトリのあるサーバに"ping"を実行し、ネットワーク接続を検証します。ネットワークが正常なら、データベース管理者がデータベースミドルウェア (Net8 for Oracle など) を使ってリポジトリデータベースが応答するかをチェックします。

## 10.3.2 UX0020 - UX0039

### 10.3.2.1 ユニバースを開くことができません。(UX0023)

#### 原因

ユニバースをインポートしようとしたが、ユニバースが破損しています。

#### 対処方法

ユニバースのローカルバージョンを削除し、リポジトリからユニバースをもう一度インポートして開いてみます。

#### 原因

ユニバースのコンポーネントが破損しています。

#### 対処方法

この問題を解決するには、ユニバースデザイナーが正常に作動するバージョンのユニバースをリポジトリにエクスポートする必要があります。

### 10.3.2.2 リポジトリをロードできません。(UX0028)

#### 原因

リポジトリ内のデータにアクセスしようとしたが、BusinessObjects はファイル kgtrep50.dll をロードできませんでした。セキュリティドメインへの接続に問題があります。

#### 対処方法

リポジトリのあるサーバに"ping"を実行し、ネットワーク接続を検証します。ネットワークが正常なら、データベース管理者がデータベースミドルウェア (Net8 for Oracle など) を使ってリポジトリデータベースが応答するかをチェックします。

### 10.3.2.3 現在のリポジトリを解放できません。(UX0029)

#### 原因

Designer は、リポジトリに接続するために初期化したリソースの一部を解放することができません。

#### 対処方法

Designer を再起動します。

### 10.3.2.4 このユニバースファイル名は存在しません。(UX0032)

#### 原因

ユニバースをインポートしようとしたが、ユニバースファイルがユニバースフォルダから移動、削除されたか、名前が変更されています。このフォルダは次のフォルダにあります。

\$INSTALLDIR¥BusinessObjects 6.0¥Universes

#### 対処方法

「Universe」フォルダ内のユニバースファイルにアクセスできるか、ファイルを実際に開くことができるかをチェックします。ユニバースが見つからない場合は、他のデザイナーにも問い合わせ、可能性のある場所を探します。

### 10.3.2.5 このユニバースドメインは存在しません。(UX0033)

#### 原因

ユニバースをインポートしようとしたが、スーパーバイザによりユニバースドメインが削除されています。

#### 対処方法

リポジトリに関する情報をスーパーバイザに問い合わせます。ユニバースドメインを作り直す必要があるかもしれません。

### 10.3.2.6 このユニバース ID はリポジトリに存在しません。(UX0034)

#### 原因

派生ユニバース(他のユニバースにリンクされたユニバース)をインポートしようとした。

リンクユニバースとは、パラメータ、クラス、オブジェクト、結合を共通コンポーネントとして共有するユニバースです。リンクされた複数のユニバースの内、1つはカーネルユニバースと呼ばれ、ほかは派生ユニバースと呼ばれます。

このメッセージは、カーネルユニバースがリポジトリから削除されている場合に表示されます。

#### 対処方法

カーネルユニバースの場所をチェックし、このユニバースをリポジトリに再エクスポートします。リンクユニバースの詳しい説明は、*Designer* ガイドを参照してください。

### 10.3.2.7 このユニバース名は存在しません。(UX0036)

#### 原因

ユニバースをインポートしようとしたが、このユニバースはスーパーバイザまたは該当する権限のあるデザイナーにより移動、削除されたか、名前が変更されています。

## 対処方法

スーパーバイザ、および該当する権限を持ったデザイナーに問い合わせます。リポジトリにユニバースを再エクスポートする必要があるかもしれません。

### 10.3.2.8 リポジトリが応答しません。(UX0037)

## 原因

リポジトリへの接続に問題があると、このメッセージが表示されます。ネットワークエラーが発生したか、リポジトリデータベースのあるコンピュータが停止しています。このメッセージは、ドキュメントの送受信や Broadcast Agent への送信など、リポジトリへの接続を初期化する操作でも、表示される場合があります。

## 対処方法

リポジトリのあるサーバに"ping"を実行し、ネットワーク接続を検証します。ネットワークが正常なら、データベース管理者がデータベースミドルウェア (Net8 for Oracle など) を使ってリポジトリデータベースが応答するかをチェックします。

### 10.3.2.9 ユニバースドメインが応答しません。(UX0038)

## 原因

リポジトリのユニバースドメインのあるサーバが停止しているか、ネットワーク接続が動作していません。

## 対処方法

リポジトリのあるサーバに"ping"を実行し、ネットワーク接続を検証します。ネットワークが正常なら、データベース管理者がデータベースミドルウェア (Net8 for Oracle など) を使ってリポジトリデータベースが応答するかをチェックします。

## 原因

リポジトリのユニバースドメインに情報交換に関する問題がある場合に、このメッセージが表示されます。これはリポジトリデータベースのテーブルが破損しているためです。

## 対処方法

スーパーバイザがリポジトリを作成し直す必要があります。

### 10.3.2.10 このコンテキスト名は存在しません。(UX0039)

## 原因

Designer の実行中にユニバースをインポートまたはエクスポートしようとしたましたが、ユニバース内のコンテキストにアクセスできませんでした。

## 対処方法

この問題を解決するには、以下の手順を行います。

1. ユニバースのソースを開きます。
2. [ツール]>[コンテキストの検出]コマンドを選択して、ユニバースのコンテキストの候補を一覧表示します。
3. ユニバースに[整合性のチェック]を実行します。
4. リポジトリに修正したバージョンをエクスポートします。

## 10.3.3 UX0040 - UX0049

### 10.3.3.1 同一のデータアカウントにドキュメントドメインがありません。値の一覧をエクスポートできません。(UX0040)

## 原因

ドキュメントドメインとユニバースドメインは同一のデータアカウントに定義されていますが、値の一覧(LOV)テーブルに問題があります。

LOV はオブジェクトに関連付けられたデータ値が入っているファイルです。

LOV は、ドキュメントドメインの OBJ\_X\_DOCUMENTS テーブルに保存されます。ドキュメントをエクスポートするには、ユニバースドメインにも同じテーブルが必要ですが、ユニバースドメインにこのテーブルがありません。

## 対処方法

LOV テーブルを手動で作成するか、スーパーバイザが同一データベースのユニバースドメインにテーブルを作成します。

## 例

開発、テスト、本稼働ドメインと、開発、テスト、本稼働リポジトリがあるとします。LOV ファイルのあるオブジェクトを使用して、ユニバースを作成しました。すべてのオブジェクトを、使用前に最新表示して、ユニバースと一緒にエクスポートします。Designer では LOV は正常に表示されますが、ユニバースをエクスポートする場合に上記のエラーメッセージが表示されます。

### 10.3.3.2 ドキュメントドメインのアカウントが異なります。値の一覧をインポートできません。 (UX0041)

## 原因

Designer では、ユニバースをインポートする場合にこのメッセージが表示される場合があります。BusinessObjects では、ユニバースをインポートした場合（[ツール] > [ユニバース] をクリック）や [値の一覧]（LOV）を表示しようとした場合（[ツール] > [ユニバース] > [値の一覧] をクリック）にこのメッセージが表示される場合があります。

ユニバースとともにリポジトリに存在するはずの LOV を検出できないと、このメッセージが表示されます。

## 対処方法

このエラーを解消するには、ユニバースの LOV をひとつだけエクスポートします。つまり、エクスポート前にどれか 1 つの LOV を最新表示し、その lov ファイルを作成します。これにより、LOV に関連付けられたユニバース ID がドキュメントドメインに保存され、認識されるようになります。

LOV をユニバースと一緒にインポートできるようにするには、[ユニバースと一緒にエクスポート] オプションを設定したオブジェクトの LOV をすべてエクスポートする必要があります。

### 10.3.3.3 値の一覧をエクスポートできません。(UX0042)

#### 原因

一部のデータベースではデータの種類の制限があるため、ドキュメントドメイン（ドキュメント交換）、ドキュメント（.rep）ファイルのインポートやエクスポートはサポートされていません。このため、リポジトリのドキュメントドメインに保存されている値の一覧(LOV)を持つユニバースをリポジトリにエクスポートできません。

#### 対処方法

電子メールやフロッピーディスクなど、別の方法で LOV ファイルを配布し、ユニバースに関連付けられている LOV ファイルを以下のフォルダにコピーします。

\$INSTALLDIR\BusinessObjects 6.0\Universes¥<ユニバースドメイン名>¥<ユニバース名>

またスーパーバイザは、現在のデータベースにあるセキュリティドメインを削除せずに、他のデータベース (Oracle、SQL Server、MS Access など) にユニバースドメインやドキュメントドメインを作成することができます。

### 10.3.3.4 ユニバースドメイン内の値の一覧を更新できません。(UX0043)

#### 原因

値の一覧(LOV)は、オブジェクトに関連付けられたデータ値が含まれているファイルで、ドキュメントドメイン内のテーブルに保存されます。このメッセージは、オブジェクトに関連付けられた LOV (Designer で[[ユニバースと一緒にエクスポート](#)]オプションを設定された LOV)を持つユニバースをエクスポートしたときに、ユニバースドメインとドキュメントドメインのデータアカウントが異なると、表示されます。

#### 対処方法

ユニバースと一緒に LOV をエクスポートするには、ユニバースドメインとドキュメントドメインが同じデータアカウントになければなりません。ユニバースドメインと同じデータアカウントにドキュメントドメインを作成する必要があります。



### 10.3.3.5 値の一覧をインポートできません。(UX0044)

#### 原因

値の一覧(LOV)はオブジェクトと関連付けられたデータ値を含むファイルで、ドキュメントドメインに保存されます。このメッセージは、ユニバースと一緒に LOV をインポートしようとしたときに、ユニバースドメインとドキュメントドメインのデータアカウントが異なると、表示されます。

#### 対処方法

ユニバースと一緒に LOV をインポートするには、ユニバースドメインとドキュメントドメインが同じデータアカウントになればなりません。スーパーバイザが、ユニバースドメインと同じデータアカウントにドキュメントドメインを作成する必要があります。

### 10.3.3.6 インクリメンタルエクスポートは使用できません。ユニバース全体をエクスポートしますか？(UX0045)

#### 原因

大幅な変更を加えたユニバースをリポジトリにエクスポートしようとしたが、一部の変更に正しく保存またはエクスポートされませんでした。

#### 対処方法

[はい]をクリックし、ユニバース全体をリポジトリにエクスポートします。

### 10.3.3.7 ユニバースをロックできません。(UX0046)

#### 原因

通常、ユニバースのロックは Designer の[インポート/エクスポート]ダイアログボックスで設定します。ユニバースをロックすると、1人のデザイナーだけがユニバースを更新、編集できるようになります。このエラーメッセージは、ユニバースをロックできない場合に表示されます。次の原因が考えられます。

- すでに他のデザイナーがユニバースをロックしている。
- ユニバースドメインにアクセスできない。

## 対処方法

このユニバースへのアクセス権を持つ他のデザイナを探し、ユニバースのロックを解除するよう依頼します。

ユニバースドメインをホストするサーバが異なる場合、そのサーバに"ping"を実行し、ネットワーク接続を検証します。ネットワークが正常なら、データベース管理者がデータベースミドルウェア (Net8 for Oracle など) を使ってリポジトリデータベースが応答するかをチェックします。

### 10.3.3.8 ユニバースを保存できません。(UX0047)

#### 原因

Designer でエクスポートする前に、あらかじめユニバースを保存する必要がありますが、ユニバースを保存するディスクへのアクセス権が読み取り専用であるか、ディスクがいっぱいになっています。

## 対処方法

以下の操作を行います。

- [ごみ箱]を空にします。必要に応じて余分なファイルまたは不要なファイルを削除して、再び[ごみ箱]を空にします。
- 読み取り権しか許可されていない場合は、Windows 管理者にフルコントロールのアクセス権を許可するよう依頼します。
- 書き込み権を持つ他のフォルダまたはコンピュータに、ユニバースを保存します。Designer の[ファイル]>[名前を付けて保存]コマンドを選択し、ユニバースを他の場所に保存します。

### 10.3.3.9 以前の<ユニバース>を削除できません。(UX0048)

#### 原因

リポジトリにユニバースを再エクスポートしようとしたとき、またはリポジトリからユニバースを再インポートしようとしたときに、このメッセージが表示されることがあります。リポジトリにユニバースの古いバージョンが存在する場合は、新しいバージョンをエクスポートまたはインポートする前に古いバージョンを削除する必要がありますが、以下の場所にあるユニバースの古いバージョンにアクセスできない場合に、このメッセージが表示されます。

- リポジトリ (エクスポート)
- ローカルシステム (インポート)

## 対処方法

エクスポートの場合は、以下の操作を行います。

- ユニバースドメインが他のユーザによってロックされている可能性がある場合は、エクスポートをもう一度実行します。この問題が頻繁に起こる場合は、リポジトリデータベースが行レベルでのロックをサポートしているかどうか確認します。サポートしている場合、データベース管理者は手動でこの機能を有効にする必要があります。
- サーバに"ping"を実行し、ユニバースドメインのあるコンピュータが応答するか確認します。ネットワークが正常に動作している場合は、データベース管理者がデータベースミドルウェア(Net8 など)を使用して、リポジトリデータベースの応答をチェックする必要があります。

インポートの場合は、ディスクへの権限をチェックします。読み取り権しか許可されていない場合は、Windows 管理者にフルコントロールのアクセス権を許可するよう依頼します。

### 10.3.3.10 <文字>を<文字>と置換しました。(UX0049)

## 原因

ユニバースをインポートしましたが、ユニバースのクラス、コンテキスト、またはオブジェクト定義に不正な文字が含まれています。デフォルトでは、BusinessObjects は自動的に不正な文字を空白と置き換えます。

## 対処方法

作業を続けることはできますが、インポートしたユニバースは、リポジトリ内のユニバースと同一ではないことに注意してください。

## 10.3.4 UX0050 - UX0059

### 10.3.4.1 ターゲットフォルダまたはユニバースファイルを作成できません。(UX0050)

## 原因

リポジトリからユニバースをインポートしようとしたましたが、ローカルディスクへの書き込み権がないか、ディスクがいっぱいになっています。

## 対処方法

[ごみ箱]を空にします。必要に応じて余分なファイルまたは不要なファイルを削除して、再び[ごみ箱]を空にします。ルートドライブ C:¥ に対して読み取り権しか許可されていない場合は、Windows 管理者に、ルートドライブ C:¥ に対するフルコントロールのアクセス権を許可するよう依頼します。

### 10.3.4.2 DB エラー (UX0051)

#### 原因

このエラーは、ユニバースをインポートまたはエクスポートしようとしたときに、発生する場合があります。BusinessObjects ではなく、使用するデータウェアハウスに問題があります。

## 対処方法

このメッセージのエラー情報を書き留め、使用するデータベースの供給元から提供されるトラブルシューティングに関する資料を参照してください。

### 10.3.4.3 値の一覧ファイルを作成できません。(UX0052)

#### 原因

値の一覧(LOV)は、オブジェクトに関連付けられたデータ値が含まれているファイルで、ドキュメントドメイン内のテーブルに保存されます。このメッセージは、オブジェクトに関連付けられた LOV ([[ユニバースと一緒にエクスポート](#)])オプションを設定された LOV)を持つユニバースをエクスポートしたときに、ユニバースドメインとドキュメントドメインのデータアカウントが異なると、表示されます。

## 対処方法

ユニバースと一緒に LOV をエクスポートするには、ユニバースドメインとドキュメントドメインが同じデータアカウントになければなりません。ユニバースドメインと同じデータアカウントにドキュメントドメインを作成する必要があります。

## 原因

BusinessObjects は、ドキュメントドメインに LOV を作成できませんでした。ドキュメントドメインのあるサーバが停止しているか、ネットワーク接続が動作していないことが考えられます。ドキュメントドメインテーブルが破損しているか、ディスクの空き容量が不足していることも考えられます。

## 対処方法

ドキュメントドメインのあるコンピュータに十分なディスク空き容量があるかどうかをチェックします。不要なファイルを削除し、[ごみ箱]を空にします。

それ以外の場合は、スーパーバイザがドキュメントドメインとの接続をテストする必要があります。それでも問題が解決しない場合は、スーパーバイザがリポジトリを作成し直す必要があります。

### 10.3.4.4 値の一覧ファイルを開くことができません。(UX0053)

## 原因

値の一覧(LOV)はオブジェクトと関連付けられたデータ値を含むファイルで、ドキュメントドメインに保存されます。このメッセージは、LOV を持つユニバースを開こうとしたときに表示される場合があります。ドキュメントドメインテーブルが壊れている可能性があります。

## 対処方法

システム管理者に連絡してください。

### 10.3.4.5 値の一覧ファイルを閉じることができません。(UX0054)

## 原因

値の一覧(LOV)はオブジェクトと関連付けられたデータ値を含むファイルで、ドキュメントドメインに保存されます。このメッセージは、LOV を持つユニバースを開いた後で表示される場合があります。LOV ファイルが開かれたまま、ドキュメントドメインの接続が切断されました。

## 対処方法

ドキュメントドメインが異なるサーバ上にある場合、そのサーバに"ping"を実行し、ネットワーク接続を検証します。ネットワークが正常なら、データベース管理者がデータベースミドルウェア (Net8 for Oracle など) を使ってリポジトリデータベースが応答するかをチェックします。

システム管理者に連絡してください。ドキュメントドメインが破損している可能性があります。

### 10.3.4.6 以前の値の一覧ファイルを削除できません。(UX0055)

#### 原因

値の一覧(LOV)はオブジェクトと関連付けられたデータ値を含むファイルで、ドキュメントドメインに保存されます。リポジトリにユニバースを再エクスポートしようとしたときに、このメッセージが表示されることがあります。リポジトリにユニバースの古いバージョンが存在する場合は、LOV ファイルの新しいバージョンをエクスポートする前に古いバージョンを削除する必要がありますが、ドキュメントドメインにアクセスできないため、LOV ファイルの古いバージョンを削除できませんでした。

## 対処方法

次の操作を行います。

- ドキュメントドメインが現在他のユーザによってロックされている可能性がある場合、もう一度スケジュールされているタスクを実行します。この問題が頻繁に起こる場合は、リポジトリデータベースが行レベルでのロックをサポートしているかどうか確認します。行レベルのロックをサポートしている場合、手動でこの機能を有効にする必要があります。
- サーバに"ping"を実行し、ネットワーク接続を検証します。ネットワークが正常なら、データベース管理者がデータベースミドルウェア (Net8 for Oracle など) を使ってリポジトリデータベースが応答するかをチェックします。

### 10.3.4.7 値の一覧ファイルに書き込めません。(UX0057)

#### 原因

値の一覧(LOV)はオブジェクトと関連付けられたデータ値を含むファイルで、ドキュメントドメインに保存されます。リポジトリにユニバースをエクスポートしようとしたときに、このメッセージが表示されることがあります。LOV ファイルに書き込めないことが原因です。書き込みに必要な権限がないか、ドキュメントドメインテーブルの容量がいっぱいになっているか、ドキュメントドメインのあるシステムのディスク空き容量が不足していることが考えられます。

## 対処方法

次の操作を行います。

- ドキュメントドメインのあるディスクに対して読み取り権しか許可されていない場合は、Windows 管理者にフルコントロールのアクセス権を許可するよう依頼します。
- データベース管理者に、ドキュメントドメインテーブルの容量を増やすよう依頼します。
- ドキュメントドメインマシンの空き容量を確保してください。不要なファイルを削除し、[ごみ箱] を空にします。ユニバースを再度エクスポートします。

### 10.3.4.8 値の一覧ファイルからデータを取得できません。(UX0058)

#### 原因

値の一覧(LOV)はオブジェクトと関連付けられたデータ値を含むファイルで、ドキュメントドメインに保存されます。このメッセージは、LOV を持つユニバースを開こうとしたときに表示される場合があります。ドキュメントドメインテーブルが壊れている可能性があります。

## 対処方法

システムスーパーバイザに連絡してください。

### 10.3.4.9 RSS ファイルにアクセスできません。(UX0059)

#### 原因

使用するデータベースの種類別に.rss ファイルが設定されています。このファイルには必要な接続情報が含まれており、以下のデータベースサブフォルダに保存されています。

\$INSTALLDIR¥BusinessObjects 6.0¥dataAccess¥RDBMS¥legacy¥<データベース名>

このメッセージは、BusinessObjects がデータベースフォルダで.rss ファイルを検出できないため、データベースへの接続を確立できない場合に表示されます。

## 対処方法

.rss ファイルのバックアップをデータベースフォルダにコピーします。バックアップがない場合は、スーパーバイザが Supervisor で接続を再作成する必要があります。

## 10.3.5 UX0060 - UX0071

### 10.3.5.1 不正な SQL を使用しました。(UX0060)

#### 原因

値の一覧(LOV)はオブジェクトと関連付けられたデータ値を含むファイルで、ドキュメントドメインに保存されます。このメッセージは、SQL エディタに入力した SQL 文で定義された LOV を持つユニバースにアクセスしようとしたときに表示されることがあります。会社用データベースと互換性がない SQL を使用した可能性があります。

#### 対処方法

会社用データベースがサポートする SQL のバージョンをチェックします。

#### 原因

会社用データベースへのアクセス中に、BusinessObjects に例外エラーが発生しました。

#### 対処方法

BusinessObjects のカスタマサポートにお問い合わせください。

### 10.3.5.2 メモリが不足しています。(UX0061)

#### 原因

Windows に、設定されたさまざまなサーバシステムを実行する十分なメモリがありません。

#### 対処方法

システム要件を確認し、BusinessObjects に十分なメモリ容量があるかチェックします。他のアプリケーションを終了し、メモリを解放することもできます。不要なファイルを削除し、[ごみ箱]を空にします。



### 10.3.5.3 トランザクションを開始して<ユニバース>をエクスポートすることができません。セキュリティドメインに問題があります。(UX0062)

#### 原因

ユニバースをリポジトリにエクスポートしようとしたが、セキュリティドメインにアクセスできないか、セキュリティドメインが壊れています。

#### 対処方法

セキュリティドメインが異なるサーバ上にある場合、そのサーバに"ping"を実行し、ネットワーク接続を検証します。ネットワークが正常なら、データベース管理者がデータベースミドルウェア (Net8 for Oracle など) を使ってリポジトリデータベースが応答するかをチェックします。

問題を解決できない場合は、システムスーパーバイザに連絡してください。

### 10.3.5.4 トランザクションを開始して<ユニバース>をエクスポートすることができません。ドキュメントドメインに問題があります。(UX0063)

#### 原因

ユニバースをリポジトリにエクスポートしようとしたが、ドキュメントドメインにアクセスできないか、ドキュメントドメインが壊れています。

#### 対処方法

ドキュメントドメインが異なるサーバ上にある場合、そのサーバに"ping"を実行し、ネットワーク接続を検証します。ネットワークが正常に動作している場合は、データベース管理者がデータベースミドルウェア(Oracle 用 Net8 など)を使用して、リポジトリデータベースの応答をチェックする必要があります。

問題を解決できない場合は、システムスーパーバイザに連絡してください。

### 10.3.5.5 以前の<名前>の情報を取得できません。(UX0064)

#### 原因

リポジトリにユニバースを再エクスポートしようとしたときに、このメッセージが表示されることがあります。リポジトリにユニバースの古いバージョンがあるため、値の一覧(LOV)の古いバージョンもドキュメントドメインにあるはずですが、LOV はオブジェクトに関連付けられたデータ値が入っているファイルです。

ドキュメントドメイン内に古いバージョンの LOV を見つけることができない場合に、このメッセージが表示されます。スーパーバイザが LOV ファイルを移動、削除したか、名前を変更したためと考えられます。

#### 対処方法

ファイルの古いバージョンがドキュメントドメインにまだあるか確認します。

問題を解決できない場合は、システムスーパーバイザに連絡してください。

### 10.3.5.6 以前の<名前>を削除できません。(UX0065)

#### 原因

リポジトリにユニバースを再エクスポートしようとしたときに、このメッセージが表示されることがあります。リポジトリにユニバースの古いバージョンがあるため、値の一覧(LOV)の古いバージョンもドキュメントドメインにあるはずですが、LOV はオブジェクトに関連付けられたデータ値が入っているファイルです。

このファイルは新しい LOV をエクスポートする前に削除する必要がありますが、ドキュメントドメインから古いバージョンの LOV を削除できない場合に、このメッセージが表示されます。ドキュメントドメインのあるディスクへの書き込み権がないことが考えられます。

#### 対処方法

ドキュメントドメインのあるディスクに対して読み取り権しか許可されていない場合は、Windows 管理者にフルコントロールのアクセス権を許可するよう依頼します。

### 10.3.5.7 トランザクションを終了できないため、<ユニバース> をエクスポートできません。ドキュメントドメインに問題があります。(UX0066)

#### 原因

リポジトリにユニバースのエクスポートを開始しましたが、ドキュメントドメインにアクセスできないか、ドキュメントドメインが壊れているため、操作を完了できませんでした。

#### 対処方法

ドキュメントドメインが異なるサーバ上にある場合、そのサーバに"ping"を実行し、ネットワーク接続を検証します。ネットワークが正常なら、データベース管理者がデータベースミドルウェア (Net8 for Oracle など) を使ってリポジトリデータベースが応答するかをチェックします。

問題を解決できない場合は、システムスーパーバイザに連絡してください。

### 10.3.5.8 トランザクションを終了できないため、<ユニバース> をエクスポートできません。セキュリティドメインに問題があります。(UX0067)

#### 原因

リポジトリにユニバースのエクスポートを開始しましたが、セキュリティドメインにアクセスできないか、セキュリティドメインが壊れているため、操作を完了できませんでした。

#### 対処方法

セキュリティドメインが異なるサーバ上にある場合、そのサーバに"ping"を実行し、ネットワーク接続を検証します。ネットワークが正常に動作している場合は、データベース管理者がデータベースミドルウェア(Net8 など)を使用して、リポジトリデータベースの応答をチェックする必要があります。

問題を解決できない場合は、システムスーパーバイザに連絡してください。

### 10.3.5.9 値の一覧ファイルのエクスポート中にデータベースエラーが発生しました。(UX0068)

#### 原因

このメッセージは、BusObj.exe タスク(ドキュメント送信や更新のためのリポジトリへのアクセス)の終了時に表示されます。リポジトリデータベースのユーザアクセスの設定に問題があります。

## 対処方法

データベース管理者に、データベースに空きがあり、壊れていないことを確認してもらいます。

### 10.3.5.10 値の一覧のエクスポートを中断しました。(UX0069)

## 原因

値の一覧(LOV)はオブジェクトと関連付けられたデータ値を含むファイルで、ドキュメントドメインに保存されます。ユニバースのエクスポート中にドキュメントドメインとの接続が切断されると、このメッセージが表示されます。

## 対処方法

サーバに"ping"を実行し、ネットワーク接続を検証します。ネットワークが正常に動作している場合は、データベース管理者がデータベースミドルウェア(Oracle 用 Net8 など)を使用して、リポジトリのドキュメントドメインの応答をチェックする必要があります。

### 10.3.5.11 ユニバースは既にドメインに存在します。上書きしますか？(UX0071)

## 原因

エクスポートしようとしたユニバースと同じ名前のユニバースが、すでにユニバースドメインにエクスポートされていますB

## 対処方法

既存のユニバースを更新する場合は、ユニバースドメインにあるユニバースを上書きできます。エクスポートするユニバースが内容の異なる新しいユニバースの場合は、ユニバース名を一意的な名前に変更し、再エクスポートします。

# 11 Enterprise アプリケーション エラー

## 11.1 Enterprise アプリケーション - SAP (EAS) エラー

Enterprise アプリケーションの SAP エラーメッセージは、次のカテゴリに分類されます。

範囲	カテゴリ
EAS 10001 - EAS10010	セキュリティアクセスエラー
EAS 30001	その他のエラー

### 11.1.1 EAS 10001 ~ 10010

#### 11.1.1.1 メソッド CSecSAPR3Binding::GetUsersInternal() 内でクラス

CSecRfcRemoteUsersActGrp を使用したユーザー一覧の取得中に失敗しました。エラーコード: %1。説明: %2。(EAS 10001)

#### 原因

必要な転送が SAP システムにインポートされていません。

#### 対処方法

SAP システムに正しく対応したバージョン専用の転送をインポートします。

#### 11.1.1.2 メソッド CSecSAPR3Binding::GetParentsInternal() 内でクラス

CSecRfcBapiGetUserDetail を使用したユーザーロール一覧の取得中に失敗しました。エラーコード: %1。説明: %2。(EAS 10002)

#### 原因

必要な転送が SAP システムにインポートされていません。

## 対処方法

SAP システムに正しく対応したバージョン専用の転送をインポートします。

### 11.1.1.3 メソッド `CSecSAPR3Binding::GetChildrenInternal()` 内でクラス

`CSecRfcBapiUserGetlist` を使用したロールメンバー一覧の取得に失敗しました。エラー  
コード: %1。説明: %2。(EAS 10003)

## 原因

必要な転送が SAP システムにインポートされていません。

## 対処方法

SAP システムに正しく対応したバージョン専用の転送をインポートします。

### 11.1.1.4 メソッド `CSecSAPR3Binding::VerifyGroupMembership()` 内でクラス

`CSecRfcBapiGetUserDetail` を使用したロールメンバーシップの検証に失敗しました。エ  
ラーコード: %1。説明: %2。(EAS 10004)

## 原因

必要な転送が SAP システムにインポートされていません。

## 対処方法

SAP システムに正しく対応したバージョン専用の転送をインポートします。

#### **11.1.1.5** ユーザ %1 が必要なロールのいずれにも所属しないためログオンに失敗しました -- %2 (EAS 10005)

##### **原因**

必要な転送が SAP システムにインポートされていません。

##### **対処方法**

SAP システムに正しく対応したバージョン専用の転送をインポートします。

#### **11.1.1.6** ユーザ名の一部として SAP システムが渡されず、デフォルトのシステムが定義されていません。 ユーザ認証情報の検証を続行できません。(EAS 10006)

##### **原因**

セントラル管理コンソール (CMC) で secSAPR3 セキュリティプラグインのデフォルトシステムが設定されていません。

##### **対処方法**

CMC で secSAPR3 セキュリティプラグインのデフォルトシステムを設定します。

#### **11.1.1.7** SAP システム %1 で sac ライブラリが見つからないためログオンに失敗しました。(EAS 10007)

##### **原因**

セントラル管理コンソール (CMC) で指定されている場所に SNC ライブラリが見つかりませんでした。

##### **対処方法**

CMC で SNC ライブラリへの正しいパスが設定されていることを確認します。

### 11.1.1.8 要求されたログオンタイプに必要な SNC がいないため、ログオンに失敗しました。(EAS 10008) ¥n

#### 原因

セントラル管理コンソール (CMC) で secSAPR3 セキュリティプラグインの SNC が有効になっていますが、その他の設定が正しくありません。

#### 対処方法

CMC で SNC secSAPR3 セキュリティプラグインの設定を検証し、正しいことを確認します。

### 11.1.1.9 システム %1 で使用される SNC モードの取得中に例外を受け取りました。(EAS 10009)

#### 原因

セントラル管理コンソール (CMC) で secSAPR3 セキュリティプラグインの SNC 設定が正しく設定されていません。

#### 対処方法

CMC で secSAPR3 セキュリティプラグインの SNC 設定を再設定します。

### 11.1.1.10 システム %1 で使用される保護の SNC 品質値の取得中に例外を受け取りました。(EAS 10010)

#### 原因

セントラル管理コンソール (CMC) で secSAPR3 セキュリティプラグインの SNC 設定が正しく設定されていません。

#### 対処方法

CMC で secSAPR3 セキュリティプラグインの SNC 設定を再設定します。



## 11.1.2 EAS 30001

### 11.1.2.1 ロールのフォルダ階層の同期中にエラーが発生しました: %1 (EAS 30001)

#### 原因

ユーザはレポートを公開する権限を持っていません。

#### 対処方法

セントラル管理コンソール (CMC) で、レポートの公開を担当するユーザに正しい権限を割り当てます。権限の割り当ての詳細については、<http://help.sap.com/> から入手できる *SAP BusinessObjects Business Intelligence* プラットフォーム管理者ガイドを参照してください。

## 12 BI プラットフォームクライアントフレームワーク (FWC) に関するエラーメッセージ

ここでは、Java クライアントによって表示されるログインに関連するエラーの一覧を示します。

エラーコードの範囲	カテゴリ
FWC 00001 ~ FWC 00009	Java クライアントログインエラー

### 12.1 (FWC 00001) embedToken URL パラメータは無効か、または logon.embed.secret 設定と一致しないパスワードを使用して暗号化されています。

#### 原因

BOE.war で設定されている logon.embed.secret オプションの値が、ポータルで設定されている [秘密の埋め込み] パラメータと一致しないか、embedToken が破損しています。

#### 対処方法

ポータルで設定されている [秘密の埋め込み] パラメータの値が、BOE.war で設定されている logon.embed.secret オプションの値と一致することを確認します。

### 12.2 (FWC 00002) 必須オプション {0} が {1} で見つかりません。

#### 原因

指定されたオプションの値がありません。

#### 対処方法

エラーメッセージに示されているオプション名の値を指定します。

## 12.3 (FWC 00003) ファイル {1} で設定されたオプション {0} の値が無効です。

### 原因

指定されたオプションの値が無効です。

### 対処方法

エラーメッセージに示されているオプション名の有効な値を指定します。

## 12.4 (FWC 00004) <予約済み>

### 原因

<予約済み>

### 対処方法

<予約済み>

## 12.5 (FWC 00005) global.properties ファイルの設定 logon.embed.timeout オプションに従い、embedToken URL パラメータの期限が切れました。

### 原因

期限が切れている embedToken URL パラメータが使用されているか、ポータルサーバと BOE サーバ間のシステムクロックの時間差が logon.embed.timeout 設定よりも大きくなっています。

## 対処方法

ポータルサーバと BOE サーバのシステムクロックの時間が一致するように、これらのサーバでシステムクロックの時間を変更します。または、2 つのサーバの時間差を考慮して、global.properties ファイルの logon.embed.timeout 設定の値を大きくします。

**12.6** (FWC 00006) This page has expired. Please enter your user information and try again.

## 原因

ログオンページの表示から "ログオン" ボタンのクリックまでの許容時間 (通常は 20 分) が経過しました。"ログオン" のクリック時に、ログオン送信を完了できませんでした。

## アクション

認証情報 (通常はパスワード) を入力し、"ログオン" を再びクリックします。

**12.7** (FWC 00007) 必須の embedSecret パラメータが設定されていません。このパラメータは、BOE.war で設定された logon.embed.secret オプションと同じ値に設定する必要があります。

## 原因

ポートレット設定で、embedSecret パラメータが設定されていません。

## 対処方法

embedSecret パラメータを、BOE.war で設定されている logon.embed.secret オプションと同じ値に設定します。

## 12.8 (FWC 00008) embedToken の処理中にポータルで内部エラーが発生しました。

### 原因

embedToken 処理中にポータルサーバで発生する一般的なエラーです。

### 対処方法

SAP BusinessObjects Enterprise iViews Portal Archive を SAP NetWeaver Portal に再アップロードします。これに失敗する場合は、SAP テクニカルサポートに連絡してください。

## 12.9 (FWC 00009) エイリアス {0} のシステムで EmbedSecret プロパティが設定されていません。

### 原因

EmbedSecret プロパティがこの iView に関連付けられているシステムランドスケープで設定されていません。

### 対処方法

関連付けられているシステムランドスケープで、EmbedSecret プロパティを、BOE.war で設定されている logon.embed.secret オプションと同じ値に設定します。

## 13 公開（FBE）エラー

公開エラーメッセージは、次のカテゴリに分類されます。

範囲	カテゴリ
FBE 40000 - FBE 49999	公開エラー
FBE 60000 - FBE 69999	公開エラー

### 13.1 FBE 40000 - 49999

**13.1.1** メソッド {0} は NULL に設定されたパラメータ {1} で呼び出されました。このパラメータを初期化してください。(FBE42001)

#### 原因

これは内部エラーです。

#### 対処方法

SAP BusinessObjects のカスタマサポートにお問い合わせください。

**13.1.2** クラス {0} のポスト処理プラグインが見つかりませんでした。パブリケーションを適切に設定しましたか?(FBE42003)

#### 原因

ポスト処理プラグインモジュールをロードできませんでした。

#### 対処方法

パブリケーションが正しく設定されていることを確認します。

### 13.1.3 アーティファクトファイルをダウンロードできません。FRS がアクセス可能で、ファイルアクセス権限が適切に設定されていますか? (FBE42008)

#### 原因

一部のオブジェクトが削除されているか、そのセキュリティ権限が変更されているために、パブリケーションジョブがオブジェクトを取得できません。

#### 対処方法

すべての静的ドキュメントが存在し、適切なセキュリティ権限があることと、File Repository Server が実行中であることを確認します。

### 13.1.4 パブリケーションの OnPostProcessPersonalizedDocs プラグインがマージ形式 (CeMergedFormat) に対して定義されていません: {0}。パブリケーションを適切に設定しましたか? (FBE42009)

#### 原因

パブリケーションが正しく設定されていません。

#### 対処方法

パブリケーションの設定をチェックします。

### 13.1.5 アーティファクトを ZIP ファイル {0} にマージしようとして IO エラーが発生しました。ファイルアクセス権限が適切に設定されていますか? (FBE42014)

#### 原因

一部のオブジェクトが削除されているか、そのセキュリティ権限が変更されているために、パブリケーションジョブがオブジェクトを取得できません。

## 対処方法

すべての静的ドキュメントが存在し、適切なセキュリティー権限があることと、File Repository Server が実行中であることを確認します。

**13.1.6** ID {0} のパブリケーションインスタンスはすでに処理され、最初の実行が完了するまで再起動できません。(FBE42016)

## 原因

このエラーは、複数のパブリケーションジョブサービスがエラー後に同じジョブを再実行しようとするものの、ジョブを実行できるサービスが1つだけの場合に発生します。

## 対処方法

操作は必要ありません。パブリケーションジョブは別のサービスで実行中です。

**13.1.7** 空のグローバル配信ルール式が指定されています。パブリケーションを正しく設定していますか？  
(FBE42017)

## 原因

グローバル配信ルールの設定に使用されるドキュメントがスケジュールされていますが、公開処理を開始する時期を決定する式がドキュメントにありません。

## 対処方法

グローバル配信ルールの設定を確認します。



**13.1.8** CUID {0} のグローバル配信ルールドキュメントは無効です。パブリケーションを正しく設定して  
いますか? (FBE42018)

#### 原因

グローバル配信ルールの設定に使用されるドキュメントに問題がありました。

#### 対処方法

ドキュメントが有効で、File Repository Server が実行されていることを確認します。

**13.1.9** ID {0} のパブリケーションがソースドキュメントにアクセスできません。パブリケーションを適  
切に設定しましたか? (FBE42033)

#### 原因

パブリケーションのソースドキュメントがパブリケーションの実行中にパブリケーションから削除されたか、セ  
キュリティ設定が変更されアクセスできなくなりました。

#### 対処方法

パブリケーションのソースドキュメントをチェックします。

**13.1.10** ID {0} のドキュメントは IPublicationInfo インタフェースを使用せず、このパブリケーシ  
ョンと共に処理できません。(FBE42034)

#### 原因

これは内部エラーです。

#### 対処方法

SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォームを再インストールします。

**13.1.11** `BusinessObjects` レポートエンジンは指定されたレポートタイプ {0} を処理できませんでした。(FBE42042)

## 原因

パブリケーションの中に、サポートされていないタイプのソースドキュメントがあります。インストールに問題がある可能性があります。

## 対処方法

SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォームを再インストールします。

**13.1.12** 配布中に `CUID` {0} の静的ドキュメントが見つかりません。パブリケーションを適切に設定しましたか?(FBE42044)

## 原因

一部のオブジェクトが削除されているか、そのセキュリティ権限が変更されているために、パブリケーションジョブがオブジェクトを取得できません。

## 対処方法

すべての静的ドキュメントが存在し、適切なセキュリティ権限があることと、File Repository Server が実行中であることを確認します。

**13.1.13** 配布中に `ID` {0} のパブリケーション アーティファクトが見つかりません。(FBE42045)

## 原因

一部のオブジェクトが削除されているか、そのセキュリティ権限が変更されているために、パブリケーションジョブがオブジェクトを取得できません。

## 対処方法

すべての静的ドキュメントが存在し、適切なセキュリティー権限があることと、File Repository Server が実行中であることを確認します。

**13.1.14** prog ID {0} の出力先プラグインが見つかりません。パブリケーションを適切に設定しましたか? (FBE42046)

## 原因

出力先プラグインをロードできません。ファイルがインストールから削除されている可能性があります。

## 対処方法

SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォームを再インストールします。

**13.1.15** データプロバイダのデータに最後に処理された受信者 {0} が見つかりません。最後に実行されてからデータベースが変更された場合は、パブリケーションを再スケジュールしてください。  
(FBE42048)

## 原因

パブリケーション処理中にデータプロバイダからのデータが変更されました。

## 対処方法

データプロバイダの最新の更新を反映するようにパブリケーションを再スケジュールします。

**13.1.16** クラス {0} のポスト配布プラグインを実行できませんでした。プラグインを適切に設定しましたか? (FBE42049)

## 原因

配布は完了しましたが、配布後に実行したプラグインに問題があります。

## 対処方法

カスタムポスト配布プラグインを修正します。

### **13.1.17** MHTML ドキュメントをマージできません。(FBE42050)

## 原因

mHTML ドキュメントの作成時に問題が発生しました。

## 対処方法

mHTML 形式の設定を確認します。

### **13.1.18** MHTML ドキュメントの HTML 部分が見つかりません。(FBE42051)

## 原因

MHTML ドキュメントの作成時に問題が発生しました。

## 対処方法

mHTML 形式の設定を確認します。

### **13.1.19** ID {1} のプロファイルに対して ID {0} のプリンシパルから有効なプロファイル値を見つける ことができませんでした。(FBE42052)

## 原因

プロファイル値は、各受信者または受信者の各グループに対して指定できます。プロファイル値が指定されていない、またはオプションが正しく設定されていない場合は、受信者にフィルタが適用されていないデータのビューが表示されます。

## 対処方法

各受信者に対してプロファイル値を指定します。

### **13.1.20** グローバル配信ルールドキュメントのスケジューリングに失敗しました。(FBE42055)

## 原因

パブリケーションジョブの開始時に、グローバル配信ルールが TRUE かどうかをチェックするために、グローバル配信ルールの設定に使用されるドキュメントがスケジューリングされます。このスケジューリングジョブが失敗すると、パブリケーションは失敗します。

## 対処方法

パブリケーションログファイルを確認して、ジョブが失敗した理由を調べます。グローバル配信ルールの設定に使用されるドキュメントが、パブリケーションとは独立して正常にスケジューリングできることを確認します。

### **13.1.21** ソースドキュメントへのアクセス権限が不十分なため、ID {1} のパブリケーションの ID {0} のドキュメントをスケジューリングできません。(FBE42056)

## 原因

ソースドキュメントをスケジューリングするために必要な権限がユーザにありません。

## 対処方法

ソースドキュメントをスケジューリングする権限をユーザに付与します。

**13.1.22** ユーザまたはグループ ID {1} およびプロファイル ID {2} のドキュメントタイプ "{0}" のプロファイルフィルタ式が見つかりません。管理者がセントラル管理コンソールのプロファイルのドキュメントタイプ "{0}" のフィルタ式を設定していることを確認してください。

(FBE42057)

## 原因

パブリケーションで使用されるソースドキュメントタイプに定義されているフィルタ式がプロファイルにありません。

## 対処方法

セントラル管理コンソールの[[プロファイル](#)]エリアで、パブリケーションに使用されるプロファイルを選択します。ソースドキュメントタイプに対応するプロファイルのフィルタ式を入力します。

**13.1.23** MHTML ドキュメントをダウンロードできません。管理者に連絡して、Central Management Server と Input/Output File Repository Server サーバが正しく実行されていることを確認してください。(FBE42058)

## 原因

パブリケーションサービスがコンテンツのダウンロードと、電子メールインスタンスへの埋め込みに失敗しました。

## 対処方法

管理者は、Central Management Server と Input File Repository Server および Output File Repository Server が正常に動作していることを確認します。

**13.1.24** CMS に管理ログをアップロードできませんでした: {0} (FBE42059)

## 原因

システムによる CMS (Central Management Server) への管理ログファイルのアップロードが失敗しました。パブリケーションの実行中、2 分ごとにログファイルをアップロードしようとします。

## 対処方法

Adaptive Processing Server ログファイルをチェックして詳細なログエントリを確認します。

**13.1.25** Enterprise ユーザ名 "{1}" が動的受信者 "{0}" に指定されていましたが、このユーザ名の Enterprise ユーザは存在しません。(FBE42060)

## 原因

Enterprise ユーザ名が動的受信者に指定されましたが、そのユーザ名の Enterprise ユーザが存在しません。

## 対処方法

動的受信者ソースのユーザ名を修正します。

**13.1.26** ID "{0}" の動的受信者として複数の Enterprise ユーザ名が指定されていました。1 つの動的受信者に対しては、1 つの Enterprise ユーザ名しか指定できません。(FBE42061)

## 原因

動的受信者ソースに同じ受信者 ID の行が複数含まれますが、これらの行は異なる Enterprise ユーザ名を指定します。受信者 ID に関連付けられるのは、1 つの Enterprise ユーザ名のみです。

## 対処方法

動的受信者ソースの問題を修正します。

**13.1.27** ID {0} のパブリケーション処理の待機中に、予期せずタスクが中断されました。(FBE42062)

## 原因

処理を待っている間に想定外のタスクの中止が発生しました。

## 対処方法

パブリケーションに失敗した場合は、サーバが実行されていることを確認してパブリケーションを再試行します。

**13.1.28** ID "{0}"、名前 "{1}"、種類 "{2}" のドキュメントのプロセスに対するサービスインスタンスが見つかりませんでした。(FBE42063)

## 原因

パブリケーションの中のドキュメントの1つを処理するためのサービスインスタンスが見つかりません。

## 対処方法

適切なサービスがデプロイされているか、システム管理者にお問い合わせください。

**13.1.29** ID "{2}" のサーバでホストされる ID "{0}"、名前 "{1}" のサービスで、maxJobs プロパティが指定されません。(FBE42064)

## 原因

パブリケーションに必要なサーバのサービスコンテナが見つかりませんでした。

## 対処方法

パブリケーションに失敗した場合は、サーバが実行されていることを確認してパブリケーションを再試行します。

**13.1.30** ID "{0}"、名前 "{1}" のサービスのサービスホストが見つかりません。(FBE42066)

## 原因

パブリケーションで使用されるサービスのサービスホストが見つかりませんでした。



## 対処方法

パブリケーションに失敗した場合は、サーバが実行されていることを確認してパブリケーションを再試行します。

**13.1.31** ジョブステータスの `StatusMonitor` クエリは ID "{0}" のジョブの結果を返しません。オブジェクトは削除されていますか? (FBE42067)

## 原因

パブリケーションインスタンスまたは子オブジェクトが見つかりませんでした。削除された可能性があります。

## 対処方法

パブリケーションインスタンスを再スケジュールします。

## 13.2 FBE 60000 - 69999

**13.2.1** InfoStore サービスが見つかりません。CMS は実行され、正しく設定されていますか? (FBE 60002)

## 原因

Central Management Server の InfoStore サービスにアクセスできません。

## 対処方法

CMS に接続できることと、CMS が実行中であることを確認します。

### 13.2.2 SDKException がキャッチされました。CMS は実行され、正しく設定されていますか? (FBE 60003)

#### 原因

SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム SDK がエラーを返しました。

#### 対処方法

CMS に接続できることと、CMS が実行中であることを確認します。

### 13.2.3 パブリケーションインスタンス '{0}' のパブリケーション送信元 ID を決定できません (ID: {1}) - 処理を続行できません。パブリケーションを適切に設定しましたか? (FBE 60004)

#### 原因

パブリケーションがどのユーザ認証情報で実行されているか特定できませんでした。

#### 対処方法

パブリケーションが正しく設定されていることと、パブリケーションを実行する権限があることを確認します。

### 13.2.4 パブリケーションインスタンス '{0}' (ID: {1}) のパブリケーション所有者 ID を決定できません (ID: ¥{1¥}) - 処理を続行できません。パブリケーションを適切に設定しましたか? (FBE 60005)

#### 原因

パブリケーションがどのユーザ認証情報で実行されているか特定できませんでした。

#### アクション

パブリケーションが正しく設定されていることと、パブリケーションを実行する権限があることを確認します。

### 13.2.5 送信先 {0} への配布は失敗しました。受信者: {1}、ドキュメントスコープ: {2}。{3} (FBE 60013)

#### 原因

公開サービスは、パブリケーションを受信者に配布できませんでした。

#### 対処方法

パブリケーションで出力先が正しく設定されていることを確認します。受信者の電子メールアドレス、SMTP サーバ設定、FTP 設定、ディスク設定をチェックして、正しいことを確認します。

### 13.2.6 ID {0} のスコープバッチ内で配布可能なドキュメントが見つかりません。パブリケーションの設定をチェックし、CMS が実行されているか確認してください。(FBE 60016)

#### 原因

公開サービスは、受信者に配布するパブリケーションドキュメントを見つけることができませんでした。パブリケーション処理の中間結果が正しく生成されなかったか、パブリケーションが正しく設定されていない可能性があります。

#### 対処方法

パブリケーションが正しく設定されていることと、CMS が実行中であることを確認します。

### 13.2.7 サポートされない出力先の種類: {0}。パブリケーションを正しく設定していますか?(FBE 60019)

#### 原因

パブリケーションで不明な出力先が指定されました。

## 対処方法

パブリケーションの設定をチェックして、必要に応じて修正します。

### 13.2.8 `SI_ID {0}` のスコープバッチでポスト配布イベントハンドラを完了できませんでした。パブリケーションを正しく設定していますか? (FBE 60022)

## 原因

ポスト配信パブリケーション拡張の実行に失敗しました。

## 対処方法

パブリケーションの設定をチェックして、パブリケーション拡張が正しく設定されていることを確認します。

### 13.2.9 `SI_ID {1}`、スコープ `{2}` のスコープバッチの `ID {0}` の静的ドキュメントが見つかりません。(FBE 60025)

## 原因

パブリケーションの処理中、静的ソースドキュメントが見つかりませんでした。

## 対処方法

パブリケーションの設定をチェックして、参照されるすべてのドキュメントがCMSリポジトリ内に存在することを確認します。

### 13.2.10 `ID {2}` で、スコープ `{3}` のスコープバッチでソースドキュメント `SI_ID` が `{0}`、フォーマットが `{1}` のパブリケーションドキュメントは見つかりません。(FBE 60026)

## 原因

パブリケーションの処理中、ソースドキュメントが見つかりませんでした。

## アクション

パブリケーションの設定をチェックして、参照されるすべてのドキュメントがCMS リポジトリ内に存在することを確認します。

### 13.2.11 プラグイン {0} のプラグイン設定が無効です。パブリケーションを正しく設定していますか? (FBE 60027)

#### 原因

パブリケーションで指定されたパブリケーション拡張が正しく設定されていませんでした。

#### 対処方法

パブリケーションに使用されるパブリケーション拡張が正しく設定されていることを確認します。

### 13.2.12 スコープバッチ {1} のポスト配布プラグイン {0} が実行できませんでした。[受信者 "{2}" ～ "{3}"]。(FBE 60029)

#### 原因

ポスト配信パブリケーション拡張の実行が失敗しました。

#### 対処方法

パブリケーションの設定をチェックして、パブリケーション拡張が正しく設定されていることを確認します。

### 13.2.13 ID {1} のスコープバッチオブジェクトの ID {0} のアーティファクトには、View/ ViewInstance 権限を付与できません。すべて正しく設定されていますか?(FBE 60033)

#### 原因

公開サービスは、パブリケーションインスタンスにアクセス権を設定できませんでした。

## 対処方法

パブリケーションを実行しているユーザが、アクセス権を設定するための適切な権限を持っていることを確認します。

**13.2.14** ID {0} で、スコープ {1} のスコープバッチ内で配布ドキュメントは見つかりません。(FBE 60034)

## 原因

公開サービスは、配布するドキュメントを見つけられませんでした。

## 対処方法

パブリケーションが正しく設定されていることを確認します。

**13.2.15** Enterprise 受信者 "{0}¥" (ID {1}) にパブリケーションを購読する権限がないため、アーティファクトを配布できません。この権限が与えられるように、BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム管理者にお問い合わせください。(FBE 60036)

## 原因

公開者は、システムがパブリケーションインスタンスを配信できるよう、パブリケーションに指定されたすべての Enterprise 受信者に対し“別の出力先へスケジュールする”権限を持っている必要があります。

## 対処方法

公開者に、パブリケーションに指定されたすべての Enterprise 受信者に対する、“別の出力先へスケジュールする”権限を付与します。または、公開者は、この権限が付与されていない Enterprise 受信者を削除できます。

**13.2.16** 配布ジョブの完了を待機しています。ジョブ ID: %1、名前: %2、種類: %4 の状態の %3 (FBE 60037)

## 原因

パブリケーションジョブは現在インスタンスを配布中です。

## 対処方法

これはエラーではないので、操作は必要ありません。

**13.2.17** SMTP オプションの宛先アドレスと CC アドレスが指定されていません。アドレスを指定せずに電子メールを配信すると失敗します。宛先アドレスと CC アドレスには、電子メールアドレスまたは %SI\_EMAIL\_ADDRESS% プレースホルダのいずれかを含める必要があります。(FBE 60038)

## 原因

パブリケーションに定義されている電子メール出力先オプションに To または CC 電子メールアドレスが含まれていません。このため、電子メールの配信に失敗する可能性があります。

## 対処方法

パブリケーションの電子メール出力先オプションの設定時に、電子メールアドレスを追加するか、%SI\_EMAIL\_ADDRESS% プレースホルダを To または CC フィールドに追加します。

**13.2.18** %SI\_EMAIL\_ADDRESS% プレースホルダを置き換えようとしたが、ユーザ名が "{0}" の受信者の電子メールアドレスが空であるか見つかりません。(FBE 60039)

## 原因

出力先オプションフィールドで %SI\_EMAIL\_ADDRESS% プレースホルダが使用されていますが、受信者の 1 人に対して電子メールアドレスが提供されていませんでした。

## 対処方法

受信者が Enterprise 受信者の場合、CMC を使用してそのユーザの電子メールアドレスを入力します。受信者が動的受信者の場合、**[動的受信者]** セクションで **[電子メールアドレス]** が動的受信者ソースの列にマップされ、その列に空のエントリがないことを確認します。

**13.2.19** 監査が有効であるため、スコープバッチとアーティファクトのクリーンアップをスキップしています。(FBE 60040)

## 原因

監視が有効になっている場合は、インスタンスクリーンアップは機能しません。

## 対処方法

監査を無効化するか、パブリケーションのインスタンスクリーンアップを無効化します。

**13.2.20** MHTML ドキュメントをダウンロードできません。管理者に連絡して、Central Management Server と Input/Output File Repository Server サーバが正しく実行されていることを確認してください。(FBE 60041)

## 原因

パブリケーションサービスが、コンテンツのダウンロードと、電子メールインスタンスへの埋め込みに失敗しました。

## 対処方法

Central Management Server と Input File Repository Server および Output File Repository Server が動作していることを確認します。



**13.2.21** ID {1} のグローバル配信ルールドキュメントに指定された式 {0} が無効です。グローバル配信ルールチェックを続行できません。パブリケーションは正しく設定されていますか? (FBE 60100)

#### 原因

グローバル配信ルールの設定に使用されるドキュメントに無効な式が含まれています。

#### 対処方法

パブリケーションの設定を確認し、有効な配信ルール式をドキュメントに入力します。

**13.2.22** ID {0} のパブリケーショングローバル配信ルールドキュメントが無効です。パブリケーションは正しく設定されていますか? (FBE 60101)

#### 原因

公開サービスは、グローバル配信ルール設定に指定されたドキュメントを見つけることができませんでした。

#### 対処方法

指定されたドキュメントが CMS に存在することを確認します。

**13.2.23** ID {0} のグローバル配信ルールドキュメントをスケジュールできませんでした: {1} (FBE 60105)

#### 原因

公開サービスは、グローバル配信ルール設定に使用されるドキュメントをスケジュールできませんでした。

#### 対処方法

公開者のユーザアカウントに、ドキュメントのスケジュールに必要な権限があることを確認します。

### 13.2.24 ID {0} のグローバル配信ドキュメントをクエリできません。(FBE 60106)

#### 原因

公開サービスは、グローバル配信ルール設定に使用されるドキュメントを取得できませんでした。

#### 対処方法

ドキュメントの表示権限を持っていることを確認します。

### 13.2.25 グローバル配信ルールジョブの完了を待機しています。ジョブ ID: %1、名前: %2、種類: %4 の状態の %3 (FBE 60107)

#### 原因

パブリケーションジョブは、現在グローバル配信ルールを評価しています。

#### 対処方法

これはエラーではないので、操作は必要ありません。

### 13.2.26 ポスト処理プラグインでエラーが発生しました。プラグインクラス {0} をインスタンス化できません。(FBE 60208)

#### 原因

ポスト処理プラグインモジュールをロードできませんでした。

#### 対処方法

パブリケーションが正しく設定されていることを確認します。

## 13.2.27 公開サービスは開始されていないか、パブリケーションジョブの実行中に再開されています。

(FBE 60211)

### 原因

公開サービスが起動していないか、公開ジョブの実行中に再起動しました。公開サービスをホストするサーバが停止しているか、再起動されました。

### 対処方法

公開サービスをホストするサーバが実行されていることを確認します。サーバログに致命的なエラーがないかチェックします。パブリケーションインスタンスを再試行します。

## 13.2.28 WebI パブリケーションでは、“すべての受信者のデータベース フェッチ”および“受信者ごとのデータベース フェッチ”のバースト方法のみサポートされます。(FBE 60212)

### 原因

Interactive Analysis ドキュメントのパブリケーションで、サポートされていないレポートのバースト方法が使用されています。

### 対処方法

[[詳細設定](#)] セクションで、レポートのバースト方法を変更します。

## 13.2.29 このパブリケーションは、システムにはもう存在しない ID {0} のプロファイルオブジェクトを参照します。(FBE 60213)

### 原因

このパブリケーションは、システムにすでに存在していないプロファイルオブジェクトを参照しています。

## 対処方法

無効なプロファイルオブジェクトを使用しないよう、パブリケーションのパーソナライゼーション設定を編集します。

**13.2.30** ID {1}、スコープ {2} のスコープバッチの ID {0} の静的ドキュメントが見つかりません。  
(FBE 60216)

## 原因

パブリケーションの処理中に、パブリケーション内に指定されている静的ドキュメントのインスタンスが見つかりませんでした。

## 対処方法

パブリケーションのスケジュールを再試行するか、SAP BusinessObjects の技術サポートにお問い合わせください。

**13.2.31** ID {2} で、スコープ {3} のスコープバッチでソースドキュメント ID が {0}、フォーマットが {1} のパブリケーションドキュメントは見つかりません。(FBE 60217)

## 原因

パブリケーションの処理中に、ソースドキュメントのインスタンスが見つかりませんでした。

## 対処方法

パブリケーションを再試行するか、SAP BusinessObjects の技術サポートにお問い合わせください。

**13.2.32** ID {2} で、ID {1} のスコープバッチのプラグインアーティファクト {0} は、出力先を指定していません。(FBE 60218)

## 原因

パブリケーションの処理中に、出力先情報を含まないプラグインアーティファクトが生成されました。

## 対処方法

パブリケーションプラグインの開発者の場合、これがプラグインでのエラーの原因になることがあります。それ以外の場合は、内部処理エラーになります。ベンダまたは SAP Business Objects のサポートにお問い合わせください。

**13.2.33** ID {2} のスコープバッチに対する ID {1} のアーティファクト {0} には、配布するのに十分な情報が含まれていません。(FBE 60219)

## 原因

パブリケーションの処理中に、配信のための十分な情報がないまま、アーティファクトまたはプラグインアーティファクトが生成されました。

## 対処方法

パブリケーションプラグインの開発者の場合、これがプラグインでのエラーの原因になることがあります。それ以外の場合は、内部処理エラーになります。ベンダまたは SAP Business Objects のサポートにお問い合わせください。

**13.2.34** ID {0} のスコープバッチのドキュメントオブジェクトを取得中にエラーが発生しました。(FBE 60220)

## 原因

パブリケーションの処理で、配信のためのドキュメントの取得中にエラーが発生しました。

## 対処方法

これは内部処理エラーです。ベンダまたは SAP BusinessObjects のサポートにお問い合わせください。

### **13.2.35** このパブリケーションでサポートされていないバーストモードが選択されました。(FBE 60224)

#### 原因

このパブリケーションに選択されたレポートバーストモードはサポートされていません。

## 対処方法

パブリケーションのレポートバーストモードを変更します。

### **13.2.36** {0} パブリケーションは、"すべての受信者のデータベースフェッチ" バースト方法をサポートしていません。(FBE 60225)

#### 原因

[すべての受信者のデータベースフェッチ] レポートバーストモードはこのパブリケーションタイプではサポートされていません。

## 対処方法

パブリケーションのレポートバーストモードを変更します。

### **13.2.37** {0} パブリケーションは、"受信者のバッチごとのデータベースフェッチ" バースト方法をサポートしていません。(FBE 60226)

#### 原因

[受信者のバッチごとのデータベースフェッチ] レポートバーストモードはこのパブリケーションタイプではサポートされていません。

## 対処方法

パブリケーションのレポートバーストモードを変更します。

**13.2.38** {0} パブリケーションは、"受信者ごとのデータベースフェッチ" バースト方法をサポートしていません。(FBE 60227)

## 原因

[受信者ごとのデータベースフェッチ] レポートバーストモードはこのパブリケーションタイプではサポートされていません。

## 対処方法

パブリケーションのレポートバーストモードを変更します。

**13.2.39** {0} パブリケーションは、選択したバースト方法をサポートしていません。(FBE 60228)

## 原因

選択されたレポートバーストモードは、不明か、このパブリケーションタイプではサポートされていません。

## 対処方法

パブリケーションのレポートバーストモードを変更します。

**13.2.40** プリンシパル {0} の再配布を実行できません。このプリンシパルは元のパブリケーション受信者ではありません。(FBE 60314)

## 原因

パブリケーションジョブを再実行する前に、パブリケーションに新しい受信者が追加されました。

## 対処方法

新しい受信者に配信するための新しいパブリケーションジョブをスケジュールします。

**13.2.41** 動的受信者 {0} の再配布を実行できません。これらの受信者は元のパブリケーション受信者ではありません。(FBE 60315)

## 原因

パブリケーションジョブを再実行する前に、パブリケーションに新しい受信者が追加されました。

## 対処方法

新しい受信者に配信するための新しいパブリケーションジョブをスケジュールします。

**13.2.42** ユーザまたはグループ '{1}' (ID: {2}) とプロファイル '{3}' (ID: {4}) に対して、ドキュメントの種類 "{0}" のプロファイルフィルタ式が見つかりません。管理者がセントラル管理コンソールで、プロファイルのドキュメントの種類 "{0}" に対するフィルタ式を設定したか確認してください。(FBE 60317)

## 原因

パブリケーションのソースドキュメントタイプに定義されているフィルタ式がプロファイルにありません。たとえば、ユーザが Interactive Analysis ドキュメントを使用してパブリケーションを実行していますが、プロファイルには有効な Interactive Analysis フィルタ式が定義されていません。

## 対処方法

セントラル管理コンソールの [\[プロファイル\]](#) エリアで、パブリケーションが使用するプロファイルを選択し、ソースドキュメントタイプに対応する構文を使ってフィルタ式を入力します。



**13.2.43** パブリケーションをスケジュールしたユーザは、ID が {0} の Enterprise 受信者主体に対する表示権限がありません。(FBE 60318)

#### 原因

パブリケーションを実行するには、公開者は、パブリケーションに指定されたすべての Enterprise 受信者に対し表示権限を持っている必要があります。

#### 対処方法

公開者に、すべての Enterprise 受信者に対する表示権限を付与します。

**13.2.44** パブリケーションをスケジュールしたユーザには、ID が {0} の除外された Enterprise 受信者主体に対する表示権限がありません。(FBE 60319)

#### 原因

パブリケーションを実行するには、公開者は、除外されたすべての Enterprise 受信者に対する表示権限を持っている必要があります。

#### 対処方法

公開者に、除外されたすべての Enterprise 受信者に対する表示権限を付与します。

**13.2.45** パブリケーションをスケジュールしたユーザには、ID が {0} のプロフィールに対する表示権限がありません。(FBE 60320)

#### 原因

パブリケーションを実行するには、公開者は、パブリケーションによって使用されるすべてのプロフィールに対し表示権限を持っている必要があります。

## 対処方法

公開者に、パブリケーションによって使用されるすべてのプロファイルに対する表示権限を付与します。

**13.2.46** パブリケーションをスケジュールしたユーザには、主体 '{1}' (ID {2}) の親グループである、ID が {0} のグループに対する表示権限がありません。このグループおよびその親グループのプロファイル値は適用されません。(FBE 60321)

## 原因

公開者に、パブリケーション受信者が所属するグループの1つに対する表示権限がありません。このグループおよび親グループに適用されるプロファイル値は使用されません。

## 対処方法

公開者に、パブリケーション受信者が属するすべてのグループに対する表示権限を付与します。プロファイル値が、影響があるグループに適用されない場合は、この警告を無視できます。

**13.2.47** パブリケーションごとの受信者制限 {0} に達しました。ID {2} のユーザ {1} は処理されませんでした。(FBE 60322)

## 原因

パブリケーション当たりの受信者制限に達しました。制限を超えたユーザは処理されませんでした。

## 対処方法

パブリケーションの受信者数を減らすか、ライセンスを取得して受信者制限を増やします。

**13.2.48** アーティファクトがデフォルトの Enterprise の場所に配布されなかったため、ID {0} のパブリケーションインスタンスを再配布できません。(FBE 60323)

## 原因

パブリケーションに、出力先として設定されている、デフォルトの Enterprise の場所がありません。

## 対処方法

[[デフォルトの Enterprise の場所](#)] をパブリケーションの出力先として設定し、必要に応じて後でインスタンスを再配布できるようにパブリケーションの実行をスケジュールします。

**13.2.49** SI\_ID {0} の正確なパブリケーションまたは SI\_ID {1} の正確なスコープバッチ（あるいはその両方）が見つかりません。パブリケーションは正しく設定され、CMS は実行されていますか?(FBE 60400)

## 原因

一部のオブジェクトが削除されているか、セキュリティ権限が変更されているため、パブリケーションジョブがオブジェクトを取得できません。

## 対処方法

すべての静的ドキュメントが存在し、適切なセキュリティ権限があることと、File Repository Server が実行中であることを確認します。

**13.2.50** ポスト処理中に例外がキャッチされました。(FBE 60401)

## 原因

ポスト処理段階でエラーが発生しました。

## 対処方法

パブリケーションサービスと File Repository Server が実行中であることを確認します。

**13.2.51** ポスト処理パブリケーションイベントハンドラを取得できません。ポスト処理はスキップされません。(FBE 60402)

## 原因

パブリケーションには、PDF の照合またはインスタンスを ZIP ファイルとしてパッケージ化するなどのポスト処理ステップがある場合がありますが、このパブリケーションではポスト処理ステップが指定されていないか、無効です。

## 対処方法

ポスト処理ステップが必要ない場合は、これは操作の必要がない通常の状態である可能性があります。そうでない場合は、パブリケーションのプロパティ設定をチェックします。

**13.2.52** SI\_ID {0} のスコープバッチ内でスコープが見つかりません。すべて正しく設定されていますか?(FBE 60404)

## 原因

削除されているか、セキュリティ権限が変更されたため、パブリケーションジョブが特定のオブジェクトを取得できません。

## 対処方法

すべての静的ドキュメントが存在し、ユーザがそれらに対し必要な権限を持っていることを確認します。File Repository Server が実行されていることを確認します。

**13.2.53** ポスト処理プラグインでエラーが発生しました。プラグインクラス {0} は例外をスローしました。(FBE 60405)

## 原因

ポスト処理ステップでエラーが発生しました。

## 対処方法

カスタムのポスト処理プラグインをインストールして使用している場合、カスタムプラグインの例外を修正します。標準のポスト処理プラグインを使用している場合は、これが原因で例外は発生しません。カスタマサポートにお問い合わせください。

**13.2.54** ポスト処理プラグインクラス {0} は NULL またはゼロの info オブジェクトのセットを返しました。(FBE 60406)

## 原因

ポスト処理ステップで結果が生成されませんでした。

## 対処方法

カスタムのポスト処理プラグインをインストールして使用している場合、カスタムプラグインの問題を修正します。標準のポスト処理プラグインを使用された場合、これが原因で空の結果になることはありません。カスタマサポートにお問い合わせください。

**13.2.55** 指定されたクラス名 {0} と一致するポスト処理プラグインが見つかりません。(FBE 60408)

## 原因

パブリケーションでポスト処理プラグインが指定されていません。

## 対処方法

パブリケーションが正しく設定されていることを確認します。

**13.2.56** プラグイン生成のアーティファクトが作成されましたが、IPublicationInfo を実装していません。アーティファクトは適切に配布されない可能性があります: タイトル = '{0}'、種類 = '{1}' (FBE 60409)

## 原因

これは内部エラーです。

## 対処方法

SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォームを再インストールします。

**13.2.57** ポスト処理プラグインクラス {0} で作成されたプラグイン生成のアーティファクトをコミット中に例外がキャッチされました。(FBE 60410)

## 原因

パブリケーションジョブの結果を保存できませんでした。

## 対処方法

File Repository Server が実行されていることを確認します。

**13.2.58** ポスト処理プラグインクラス {1} の progID {0} のプラグインで生成したアーティファクトを作成中に例外がキャッチされました。(FBE 60411)

## 原因

このエラーメッセージは、インストールが破損していることが原因である可能性があります。

## アクション

SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォームを再インストールします。

### 13.2.59 次のコンテキストのアーティファクトと静的ドキュメントを取得中に例外が発生しました：

ScopeBatch = {0}、送信先 = {1}、プラグインクラス = {2} (FBE 60412)

## 原因

一部のオブジェクトが削除されたか、その権限が変更されたため、パブリケーションジョブはオブジェクトを取得できません。

## 対処方法

すべての静的ドキュメントが存在し、ユーザがそれらに対し適切な権限を持っていることを確認します。File Repository Server が実行されていることを確認します。

### 13.2.60 次のコンテキストでアーティファクトと静的ドキュメントをソースドキュメントの順序に従って並べ替えているときに例外が発生しました： ScopeBatch = {0}、出力先 = {1}、プラグインクラス = {2} (FBE 60413)

## 原因

パブリケーションが正しく設定されていません。

## アクション

パブリケーションが正しく設定されていることを確認します。

### 13.2.61 パブリケーションのソースドキュメントを取得しようとしたときに例外が発生しました。(FBE 60414)

#### 原因

一部のオブジェクトが削除されているか、そのセキュリティ権限が変更されているために、パブリケーションジョブがオブジェクトを取得できません。

#### 対処方法

すべての静的ドキュメントが存在し、ユーザがそれらに対し適切なセキュリティ権限を持っていることを確認します。File Repository Server が実行されていることを確認します。

### 13.2.62 パブリケーションのソースドキュメントとしてリストされていない、SI\_ID: {0} のスコープレベルのドキュメントをポスト処理はスキップしています。パブリケーションを正しく設定していますか?(FBE 60415)

#### 原因

これは内部エラーです。

#### 対処方法

SAP BusinessObjects のカスタマサポートにお問い合わせください。

### 13.2.63 ドキュメントジョブ "{2}" (ID: {0}) のスケジュールに失敗しました: {1} (FBE 60502)

#### 原因

パブリケーション内のドキュメントで処理が失敗しました。処理の失敗の原因には、未定義のパラメータ、不正な設定のデータベース接続、または一部のオブジェクトやフォルダに対するパブリケーションの権限が不十分であることなどがあります。



## 対処方法

ドキュメントを単独でスケジュールして、正常に実行されることを確認します。パブリケーション内のソースドキュメントに対して、同じ設定を適用します。

### **13.2.64** パブリケーション内にはスケジュール可能なドキュメントがありません。(FBE 60503)

## 原因

一部のオブジェクトが削除されているか、そのセキュリティ権限が変更されているために、パブリケーションジョブがオブジェクトを取得できません。

## 対処方法

すべての静的ドキュメントが存在し、適切なセキュリティ権限があることと、File Repository Server が実行中であることを確認します。

### **13.2.65** パブリケーションのドキュメントの一覧には空の値が含まれています。すべて正しく設定されていますか?(FBE 60504)

## 原因

一部のオブジェクトが削除されているか、そのセキュリティ権限が変更されているために、パブリケーションジョブがオブジェクトを取得できません。

## 対処方法

すべての静的ドキュメントが存在し、適切なセキュリティ権限があることと、File Repository Server が実行中であることを確認します。

**13.2.66** ドキュメント '{0}' は、無効なパブリケーションドキュメントなので公開できません。(FBE 60505)

## 原因

パブリケーションの一部でないドキュメントが、処理のためにパブリケーションサービスに送信されました。

## 対処方法

インストールが破損している可能性があります。SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォームを再インストールします。

**13.2.67** ドキュメントのフィールドマッピングをターゲットドキュメントに追加できません。すべて正しく設定されていますか?(FBE 60506)

## 原因

動的受信者のパーソナライゼーション設定の指定中に、動的受信者ソースの列が正しくマップされませんでした。

## 対処方法

動的受信者ソースにパーソナライゼーションに必要な情報が含まれ、データベース列が存在してスペルが正しく、セマンティックレイヤがデータソースから読み取れ、パーソナライゼーションに必要なデータがレポートに表示されていることを確認します。

**13.2.68** ドキュメント '{0}' には、状態情報を含む 1 つのインスタンスが含まれていません。インスタンスが 0 または 1 より大きい、インスタンスを取得できません。(FBE 60507)

## 原因

一部のオブジェクトが削除されているか、そのセキュリティ権限が変更されているために、パブリケーションジョブがオブジェクトを取得できません。

## 対処方法

すべての静的ドキュメントが存在し、適切なセキュリティー権限があることと、File Repository Server が実行中であることを確認します。

**13.2.69** スケジューリングジョブの完了を待機しています。ジョブ ID: %1、名前: %2、種類: %4 の状態の %3 (FBE 60509)

## 原因

パブリケーションジョブは現在レポートを処理しています。

## 対処方法

これはエラーではないので、操作は必要ありません。

**13.2.70** ドキュメントジョブ "{0}" (ID {1}) の実行中の警告: {2} (FBE 60510)

## 原因

ドキュメントジョブの実行中に警告が発生しました。

## 対処方法

特定の警告メッセージについては、ドキュメントを参照してください。

**13.2.71** ドキュメント "{0}" (ID {1}): {2} の処理中にエラーが発生しました (FBE 60512)

## 原因

ドキュメントジョブが完了しましたが、処理中にエラーが発生しました。

## 対処方法

ソースドキュメントがパブリケーションの外で正しく処理されているか確認します。

### **13.2.72** ドキュメント処理中の警告 "{0}" (ID {1}): {2} (FBE 60513)

## 原因

ドキュメントジョブが完了しましたが、処理中に警告が発生しました。

## 対処方法

ソースドキュメントがパブリケーションの外で正しく処理されているか確認します。

### **13.2.73** パラメータが無効なため、ドキュメント処理を開始できませんでした (FBE 60600)

## 原因

ドキュメント処理エンジン内の基本パラメータが NULL です。

## 対処方法

SAP BusinessObjects のカスタマサポートにお問い合わせください。

### **13.2.74** プラグインの種類 {0} はパブリケーションの処理を実行できませんでした。(FBE 60601)

## 原因

デスクトッププラグインにパブリケーション情報が含まれていません。

## 対処方法

パブリケーションが正しく設定されていることを確認します。

## 13.2.75 {0} 例外、メッセージ: {1} (FBE 60602)

### 原因

重大な例外が発生しました。プロセッサが停止しようとしているか、プロセッサに問題があるか、または SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォームインストールに問題がある可能性があります。

### 対処方法

SAP BusinessObjects のカスタマサポートにお問い合わせください。

## 14 GUI エラーメッセージ

その他のエラーメッセージは、次のカテゴリに分類されます。

- GUI (GUI) に関するエラーメッセージ
- GUI (USU) に関するエラーメッセージ

### 14.1 GUI (GUI) に関するエラーメッセージ

GUI エラーメッセージは、次のカテゴリに分類されます。

範囲	カテゴリ
GUI0003 - GUI0006	GUI

#### 14.1.1 ファイル名に使えない文字が含まれています。(GUI0003)

##### 原因

使用できない文字を含んだ名前を付けてユニバースを保存しようとしてしました。使用できる文字は、次の通りです。

- BusinessObjects リポジトリのあるデータベースで使用できる文字セット
- スーパーバイザが Supervisor モジュールでリポジトリに使用できる文字として設定した文字セット

##### 対処方法

名前を変更してユニバースを保存します。問題が解決しない場合は、BusinessObjects スーパーバイザに連絡し、ユニバースに使用できる文字セットを確認します。

#### 14.1.2 ファイルが見つかりません。ファイル名が正しいかどうか確認してください。(GUI0005)

##### 原因

存在しないファイル名を指定して、BusinessObjects レポートを開こうとしてしました。

## 対処方法

正しいファイル名を入力するか、[ファイルを開く]ダイアログボックスで[1 レベル上へ]ボタンを使って階層を移動してレポートを検索します。

### 14.1.3 <名前> パスが見つかりません。パス名が正しいかどうか確認してください。(GUI0006)

## 原因

不正なパス名を指定して BusinessObjects レポートを開こうとしました。レポートは指定した場所にありません。

## 対処方法

[ファイルを開く]ダイアログボックスで、[1 レベル上へ]ボタンを使って階層を移動してレポートを検索します。

## 14.2 GUI (GUI) に関するエラーメッセージ

GUI エラーメッセージは、次のカテゴリに分類されます。

範囲	カテゴリ
USU0001	GUI

### 14.2.1 <名前>が見つかりません。コンポーネントがすべて正しくインストールされているかどうか確認してください。(USU0001)

## 原因

BusinessObjects アプリケーションの[ヘルプ]メニューから[ユーザガイド]コマンドを選択しましたが、ガイドを表示できませんでした。Acrobat PDF 形式のオンラインガイドがハードディスクにインストールされていない可能性があります。

## 対処方法

BusinessObjects ファイルのオンラインマニュアルのフォルダの内容をチェックします。PDF ファイルがインストールされていない場合は、BusinessObjects インストーラプログラムを使用して、ファイルをインストールする必要があります。このインストーラプログラムでは、PDF ファイルの表示に必要な Acrobat Reader もインストールされます。



# 15 インフォメーションデザインツールのメッセージ

インフォメーションデザインツールのエラーは、次のカテゴリに分類されます。

- インフォメーションデザインツール (IDT) のエラーメッセージ
- 整合性のチェックのマッピング (CIM) エラーメッセージ
- チェックセキュリティマッピング (CSM) のエラーメッセージ

## 15.1 インフォメーションデザインツール (IDT) のエラーメッセージ

インフォメーションデザインツール (IDT) のエラーメッセージのカテゴリには以下のものがあります。

範囲	カテゴリ
IDT 09501 ~ IDT 019511	ユニバースの変換
IDT 15020 ~ IDT 15025	接続
IDT 022100 ~ IDT 022500	ユニバース管理

### 15.1.1 IDT095...ユニバースの変換

#### 15.1.1.1 ユニバースファイルは、より新しい製品バージョンを使用して生成する必要があります。ユニバースファイルパス: {0}。(IDT 09501)

#### 原因

変換しようとしているユニバースが、XI 3.0 よりも古いバージョンの BusinessObjects Suite によって生成されました。インフォメーションデザインツールでユニバースを変換できません。

#### 対処方法

ユニバースデザインツール (バージョン BI 4) でユニバースを開き、再保存します。インフォメーションデザインツールで変換を再実行します。

### **15.1.1.2** ユニバースファイルを開くことができません。このファイルが破損していないことを確認してください。(IDT 09502)

#### **原因**

ユニバースファイルが壊れている可能性があります。

#### **対処方法**

ユニバースデザインツールでユニバースを開いてユニバースが有効であることを確認し、再保存します。

### **15.1.1.3** OLAP ユニバースの変換はサポートされていません。(IDT 09503)

#### **原因**

ユニバースはOLAP ユニバースです。OLAP ユニバースはインフォメーションデザインツールで変換できません。

#### **対処方法**

インフォメーションデザインツールで OLAP ユニバースを再作成します。

### **15.1.1.4** ストアドプロシージャを使用するユニバースの変換はサポートされていません。(IDT 09504)

#### **原因**

ユニバースにストアドプロシージャが含まれています。ストアドプロシージャユニバースはインフォメーションデザインツールで変換できません。

#### **対処方法**

インフォメーションデザインツールでユニバースを再作成します。

**15.1.1.5** 保護されているユニバースのファイルからの変換はサポートされていません。リポジトリからの変換オプションを使用してください。(IDT 09505)

## 原因

保護されているユニバースのファイルからの変換はサポートされていません。

## 対処方法

代わりにリポジトリからユニバースを変換します。

**15.1.1.6** ユニバースを変換できません。ユニバースにはユニバースデザインツールで接続が割り当てられている必要があります。(IDT 09506)

## 原因

変換しようとしているユニバースに接続がありません。

## 対処方法

ユニバースデザインツールで有効な接続を設定し、ユニバースを保存します。変換を再実行します。

**15.1.1.7** Data Federator 接続を使用したユニバースの変換はサポートされていません。(IDT 09507)

## 原因

変換しようとしているユニバースは、データフェデレーションサービスのソースで定義されています。ユニバースはインフォメーションデザインツールを使用して変換できません。

## 対処方法

インフォメーションデザインツールでユニバースを再作成します。

### **15.1.1.8** リポジトリからコアユニバース %s を読み取れません。(IDT 09508)

#### **原因**

エラーが発生したためユニバースを読み取れませんでした。

#### **対処方法**

コアユニバースが正しくエクスポートされていることを確認します。

### **15.1.1.9** リポジトリからユニバースを読み取れません。(IDT 09509)

#### **原因**

エラーが発生したためユニバースを読み取れませんでした。

#### **対処方法**

ユニバースが正しくエクスポートされていることを確認します。

### **15.1.1.10** パスワードで保護されたユニバースの変換はサポートされていません。ユニバースデザインツールでパスワードを削除してください。(IDT 095010)

#### **原因**

パスワードで保護されたユニバースの変換はサポートされていません。

#### **対処方法**

ユニバースデザインツールでパスワードを削除してください。変換を再実行します。

#### **15.1.1.11** このユーザのプロファイルではユニバースを変換できません。(IDT 095011)

##### **原因**

このユーザのプロファイルではユニバースを変換できません。

##### **対処方法**

必要なリポジトリへのアクセス権をシステム管理者に確認します。

### **15.1.2 IDT15...接続**

#### **15.1.2.1** 接続 {0} を保存できません。(IDT 15020)

##### **原因**

接続を保存できません。

##### **対処方法**

接続がリポジトリにすでに存在しないか確認します。その場合は、保存する前に削除します。

#### **15.1.2.2** 接続 {0} を更新できません。(IDT 15021)

##### **原因**

接続を更新できません。

##### **対処方法**

リポジトリに更新する接続があるか確認します。

### **15.1.2.3** 無効なリポジトリクエリです。リポジトリに接続が存在するかどうかをチェックしてください。

(IDT 15022)

#### **原因**

リポジトリで接続が見つかりません。

#### **対処方法**

リポジトリに接続が存在するかどうかをチェックしてください。

### **15.1.2.4** サーバタイプ {0} が不明です。(IDT 15023)

#### **原因**

サーバの種類が不明です。

#### **対処方法**

現在使用されているサーバの種類がサポートされていません。

### **15.1.2.5** リポジトリサーバ {0} に接続できません。管理者に連絡してください。(IDT 15024)

#### **原因**

リポジトリに接続できません。

#### **対処方法**

管理者に連絡して、リポジトリにアクセスしてください。

### **15.1.2.6** リポジトリから接続を取得できません。リポジトリに接続が存在し、必要な権限があるかどうかを確認してください。(IDT 15025)

#### **原因**

リポジトリから接続を取得することができません。

#### **対処方法**

接続がリポジトリに存在し、その取得に必要な権限があるかどうか確認します。

## **15.1.3 IDT022...ユニバースの管理**

### **15.1.3.1** フォルダ {0} にファイルを作成できません (IDT 022101)

#### **原因**

このフォルダにファイルを作成できません。

#### **アクション**

このフォルダにファイルを作成するための適切な権限があることを確認します。フォルダがロックされていないことを確認します。

### **15.1.3.2** ルートフォルダ {0} のファイルシステムセッションを作成できませんでした (IDT 022102)

#### **原因**

宣言されたルートフォルダのファイルシステムセッションを作成できませんでした。

## アクション

このアクションに必要な権限があることを確認します。

### 15.1.3.3 フォルダ {1} でユニバース {0} を作成できません (IDT 022103)

## 原因

選択されたフォルダにユニバースを作成できません。

## アクション

選択したフォルダでこのアクションを実行するのに必要な権限があることを確認します。

フォルダがロックされていないことを確認します。

### 15.1.3.4 ID {0} のファイルを取得できません (IDT 022104)

## 原因

選択されたファイルを取得できませんでした。

## アクション

ファイルが存在することを確認します。ファイルがロックされていないことや、無効になっていないことを確認します。このアクションを実行するのに必要な権限があることを確認します。



### 15.1.3.5 ID {0} のユニバースファイルを取得できません (IDT 022105)

#### 原因

選択されたユニバースファイルを取得できませんでした。

#### アクション

ファイルが存在することを確認します。ファイルがロックされていないことや、無効になっていないことを確認します。このアクションを実行するのに必要な権限があることを確認します。

### 15.1.3.6 名前が {0} のデータセキュリティプロファイルを取得できません (IDT 022106)

#### 原因

宣言されたデータセキュリティプロファイルを取得できませんでした。

#### アクション

ソースファイルが破損していないことを確認します。

ファイルが削除されたり、ファイル名が変更されたりしていないことを確認します。

このアクションを実行するのに必要な権限があることを確認します。

### 15.1.3.7 ID {0} のセキュリティプロファイルを取得できません (IDT 022107)

#### 原因

選択された ID のセキュリティプロファイルを取得できません。

#### アクション

ID が存在することを確認します。

### 15.1.3.8 URI {0} をエンコードできません (IDT 022108)

#### 原因

URI をエンコードすることができませんでした。

#### アクション

このエラーの原因となったパラメータの詳細をエラーログで確認してください。

### 15.1.3.9 URI {0} をデコードできません (IDT 022109)

#### 原因

URI をデコードすることができませんでした。

## アクション

このエラーの原因となったパラメータの詳細をエラーログで確認してください。

### 15.1.3.10 ユニバース {0} をロードできません (IDT 022110)

#### 原因

ユニバースをロードできません。

## アクション

このアクションの実行に利用できるメモリが十分にあることを確認します。

このエラーの詳細をエラーログで確認してください。

### 15.1.4 IDT 022112-022130 セキュリティおよび権限

#### 15.1.4.1 フォルダ {0} にファイルを作成できません (IDT 022101)

#### 原因

ファイルを作成できません。

## アクション

ファイルを保存する権限があることを確認します。

#### **15.1.4.2** ルートフォルダ {0} のファイルシステムセッションを作成できませんでした (IDT 022102)

##### **原因**

ルートフォルダのセッションを作成することまたは開くことができません。

##### **アクション**

接続を確認します。エラーログを確認します。インフォメーションデザインツールを再起動します。

#### **15.1.4.3** フォルダ {1} でユニバース {0} を作成できません IDT 022103

##### **原因**

フォルダにユニバースを作成できません。

##### **アクション**

同名のユニバースがこのフォルダにすでに存在しているかどうかを確認してください。そのようなユニバースが存在する場合は、削除を検討してください。

#### **15.1.4.4** ID {0} のファイルを取得できません IDT 022104

##### **原因**

ファイルを取得できません。

## アクション

ファイルが存在し、そのファイルへのアクセス権限があることを確認します。

### **15.1.4.5** ID {0} のユニバースファイルを取得できません (IDT 022105)

## 原因

ユニバースファイルを取得できません。

## アクション

ファイルが存在し、アクセス権限があることを確認します。

### **15.1.4.6** 名前が {0} のデータセキュリティプロファイルを取得できません (IDT 022106)

## 原因

データセキュリティプロファイルを取得できません。

## アクション

適切な権限があることを確認します。

#### **15.1.4.7** ID {0} のセキュリティプロファイルを取得できません (IDT 022107)

##### **原因**

セキュリティプロファイルを取得できません。

##### **アクション**

適切な権限があることを確認します。

#### **15.1.4.8** URI {0} をエンコードできません (IDT 022108)

##### **原因**

URI をエンコードできません

##### **アクション**

URI がサポートされていることを確認します。URI に文字が不足していないこと、使用されている文字セットが適切であること、およびバックスラッシュまたはフォワードスラッシュが不適切に使用されていないことを確認します。

#### **15.1.4.9** URI {0} をデコードできません IDT (022109)

##### **原因**

URI をデコードできません。

## アクション

URI がサポートされていることを確認します。URI に文字が不足していないこと、使用されている文字セットが適切であること、およびバックスラッシュまたはフォワードスラッシュが不適切に使用されていないことを確認します。

### **15.1.4.10** ユニバース {0} をロードできません (IDT 022110)

#### 原因

ユニバースをロードできません。

## アクション

エラーログで詳細を確認してください。ユニバースの作成者に連絡してください。

### **15.1.4.11** データセキュリティプロファイル {0} には接続を割り当てられません (IDT 022112)

#### 原因

選択したデータセキュリティプロファイルに接続を割り当てることができません。

## アクション

サーバが実行されていることを確認します。インフォメーションデザインツールを再起動します。

#### **15.1.4.12** データセキュリティプロファイルの公開に失敗しました: {0} (IDT 022113)

##### **原因**

データセキュリティプロファイルを公開できません。

##### **アクション**

サーバが実行されていることを確認します。インフォメーションデザインツールを再起動します。詳細については、詳細ログを確認してください。

#### **15.1.4.13** データセキュリティオプションの公開に失敗しました {0} (IDT 022114)

##### **原因**

データセキュリティオプションを公開できません。

##### **アクション**

サーバが実行されていることを確認します。インフォメーションデザインツールを再起動します。詳細については、詳細ログを確認してください。

#### **15.1.4.14** データファンデーション ID {0} と一致するデータセキュリティプロファイルの取得に失敗しました (IDT 022115)

##### **原因**

定義されたデータファンデーションのデータセキュリティプロファイルを取得できません。



## アクション

データファンデーションが破損していないことを確認します。サーバが実行されていることを確認します。インフォメーションデザインツールを再起動します。詳細については、詳細ログを確認してください。

**15.1.4.15** データファンデーション ID {0} と一致するデータセキュリティオプションの取得に失敗しました (IDT 022116)

## 原因

定義されたデータファンデーションのデータセキュリティオプションを取得できません。

## アクション

データファンデーションが破損していないことを確認します。サーバが実行されていることを確認します。インフォメーションデザインツールを再起動します。詳細については、詳細ログを確認してください。

**15.1.4.16** セキュリティプロファイル ID {0} にはユーザ/グループを割り当てられません (IDT 022117)

## 原因

定義されたセキュリティプロファイルにユーザまたはグループを割り当てることができませんでした。

## アクション

サーバが実行されていることを確認します。インフォメーションデザインツールを再起動します。詳細については、詳細ログを確認してください。

#### **15.1.4.17** セキュリティプロファイル ID {0} に割り当てられたユーザ/グループを取得できません (IDT 022118)

##### 原因

選択したセキュリティプロファイルに割り当てられたユーザまたはグループを取得できません。

##### アクション

サーバが実行されていることを確認します。インフォメーションデザインツールを再起動します。詳細については、詳細ログを確認してください。

#### **15.1.4.18** ユニバース ID {0} のデータセキュリティプロファイルを取得できません (IDT 022119)

##### 原因

選択したユニバースのデータセキュリティプロファイルを取得できません。

##### アクション

サーバが実行されていることを確認します。インフォメーションデザインツールを再起動します。詳細については、詳細ログを確認してください。

#### **15.1.4.19** ユニバース ID {0} のビジネスセキュリティプロファイルを取得できません (IDT 022120)

##### 原因

選択したユニバースのビジネスセキュリティプロファイルを取得できません。

## アクション

サーバが実行されていることを確認します。インフォメーションデザインツールを再起動します。詳細については、詳細ログを確認してください。

### **15.1.4.20** ユニバース ID {0} のデータセキュリティオプションを取得できません (IDT 022121)

## 原因

選択したユニバースのデータセキュリティオプションを取得できません。

## アクション

サーバが実行されていることを確認します。インフォメーションデザインツールを再起動します。詳細については、詳細ログを確認してください。

### **15.1.4.21** ユニバース ID {0} のビジネスセキュリティオプションを取得できません (IDT 022122)

## 原因

選択したユニバースのビジネスセキュリティオプションを取得できません。

## アクション

サーバが実行されていることを確認します。インフォメーションデザインツールを再起動します。詳細については、詳細ログを確認してください。

#### **15.1.4.22** ユニバース ID {0} のセキュリティをロードできません (IDT 022123)

##### 原因

ユニバースのセキュリティをロードできませんでした。

##### アクション

サーバが実行されていることを確認します。インフォメーションデザインツールを再起動します。詳細については、詳細ログを確認してください。

#### **15.1.4.23** セキュリティプロファイル ID {0} の情報を取得できません (IDT 022124)

##### 原因

セキュリティプロファイルの情報を取得できません。

##### アクション

サーバが実行されていることを確認します。インフォメーションデザインツールを再起動します。詳細については、詳細ログを確認してください。

#### **15.1.4.24** 複数ソース有効接続 {0} を登録できません (IDT 022125)

##### 原因

複数ソース有効接続を登録できません。

## アクション

接続がソースに適合していることを確認します。サーバが実行されていることを確認します。インフォメーションデザインツールを再起動します。詳細については、詳細ログを確認してください。

### 15.1.4.25 ユニバースには接続を割り当てられません: {0} (IDT 022126)

## 原因

接続をユニバースに割り当てることができません。

## アクション

接続情報がユニバースに対して有効であること、または適合していることを確認します。

### 15.1.4.26 ユニバースにはコアユニバースを割り当てられません: {0} (IDT 022127)

## 原因

コアユニバースをユニバースに割り当てることができません。

## アクション

コアユニバースが以下に当てはまることを確認します。

- .unx ファイルバージョン 4.2 形式
- 1つのデータソースのみ
- リンクされたユニバースではない
- OLAP ユニバースではない

## 15.1.5 IDT 23100-23150 ファイル、フォルダ、およびリポジトリ

### 15.1.5.1 URI {0} は無効です (IDT 23100)

#### 原因

URI が有効ではないので、解析できませんでした。

#### アクション

URI に文字が不足していないこと、使用されている文字セットが適切であること、およびバックスラッシュまたはフォワードスラッシュが不適切に使用されていないことを確認します。

### 15.1.5.2 ファイルはすでに {0} によってロックされています (IDT 23101)

#### 原因

このファイルは別のユーザによって使用されています。

#### アクション

このファイルへのアクセス権限を持つ他のユーザを確認して、ファイルのロック解除を依頼します。

### 15.1.5.3 未指定のリポジトリルートフォルダです (IDT 23102)

#### 原因

リポジトリルートフォルダが未指定または無効です。

## アクション

リポジトリルートフォルダを確認および再指定します。

### **15.1.5.4** リポジトリを作成するためのセッションが見つかりませんでした (IDT 23103)

## 原因

実行中または利用可能なセッションがありません。ネットワーク問題またはセッションタイムアウト。

## アクション

セッションを作成して、インフォメーションデザインツールを再起動します。

### **15.1.5.5** リポジトリファイルタイプ {0} は不明です (IDT 23106)

## 原因

ツールでこのファイルを使用することはできません。

## アクション

インフォメーションデザインツールでサポートされているファイルタイプのみを使用できます。互換性のあるファイルタイプを選択してください。

### 15.1.5.6 フォルダ {0} を作成できません (IDT 23107)

#### 原因

フォルダを作成できませんでした

#### アクション

接続を確認して、再試行します。詳細については、ログ詳細を確認してください。インフォメーションデザインツールを再起動します。

### 15.1.5.7 {0} にフォルダが存在しません (IDT 23125)

#### 原因

フォルダが見つかりません。

#### アクション

フォルダが削除された場合は、フォルダの再作成が必要です。フォルダの検索場所が正しくない可能性があるので、アドレスを確認してください。フォルダ名が正しくない場合は、宣言内のフォルダ名を修正してください。

### 15.1.5.8 ファイル {0} はフォルダ {1} に存在しません IDT (23127)

#### 原因

指定されたファイルがそのフォルダに見つかりません。



## アクション

検索対象フォルダが適切であること、およびファイル名が正しいことを確認します。ファイルが削除された場合は、ファイルの再公開が必要です。

### 15.1.5.9 ユニバース {0} の接続を取得できません IDT (23131)

#### 原因

指定されたユニバースの接続を取得できません。

## アクション

サーバが実行されていることを確認します。インフォメーションデザインツールを再起動します。

### 15.1.5.10 ユニバース {0} のデータセキュリティプロファイルを取得できません (IDT 23132)

#### 原因

ユニバース {0} のデータセキュリティプロファイルを取得できません。

## アクション

サーバが実行されていることを確認します。インフォメーションデザインツールを再起動します。

### **15.1.5.11** ユニバース {0} のビジネスセキュリティプロファイルを取得できません (IDT 23133)

#### **原因**

ユニバース {0} のビジネスセキュリティプロファイルを取得できません。

#### **アクション**

サーバが実行されていることを確認します。インフォメーションデザインツールを再起動します。

### **15.1.5.12** ユニバース {0} のデータセキュリティプロファイルオプションを取得できません (IDT 23134)

#### **原因**

ユニバース {0} のデータセキュリティプロファイルオプションを取得できません。

#### **アクション**

サーバが実行されていることを確認します。インフォメーションデザインツールを再起動します。

### **15.1.5.13** ユニバース {0} のビジネスセキュリティプロファイルオプションを取得できません (IDT 23135)

#### **原因**

ユニバース {0} のビジネスセキュリティプロファイルオプションを取得できません。

## アクション

サーバが実行されていることを確認します。インフォメーションデザインツールを再起動します。

### **15.1.5.14** セキュリティプロファイル {0} とユーザおよびグループの間の関係を作成できません (IDT 23136)

## 原因

ユーザまたはグループに対するセキュリティプロファイルの決定または割り当てを行うことができませんでした。

## アクション

エラーログを確認します。インフォメーションデザインツールを再起動します。

### **15.1.5.15** データセキュリティプロファイル {0} の接続を取得できません (IDT 23137)

## 原因

接続を取得できませんでした。これはネットワークの問題またはセッションタイムアウトである可能性があります。

## アクション

接続を確認します。インフォメーションデザインツールを再起動します。エラーログを確認します。

### 15.1.5.16 データセキュリティプロファイル {0} と接続の間の関係を作成できません (IDT 23138)

#### 原因

接続を取得できませんでした。これはネットワークの問題またはセッションタイムアウトである可能性があります。

#### アクション

接続を確認します。インフォメーションデザインツールを再起動します。エラーログを確認します。

### 15.1.5.17 リポジトリモードを初期化できません IDT (23139)

#### 原因

これはネットワークの問題またはセッションタイムアウトである可能性があります。

#### アクション

接続を確認します。インフォメーションデザインツールを再起動します。エラーログを確認します。

### 15.1.5.18 ユニバース ({0}) は存在しないか、セキュリティプロファイルによってアクセスが許可されていません (IDT 23140)

#### 原因

ユニバースが見つからないか、ユニバースにアクセスできません。

## アクション

接続を確認します。インフォメーションデザインツールを再起動します。エラーログを確認します。管理者に連絡してアクセス権限を確認してください。

### **15.1.5.19** リソース {0} はリポジトリに存在しません (IDT 23141)

## 原因

リソースを適切に指定してあることを確認してください。

## アクション

エラーログを確認します。リソースがまだ利用できるかどうかをリソース作成者に確認してください。

### **15.1.5.20** リポジトリサービスを作成できません (IDT 23143)

## 原因

リポジトリサービスを作成できません。適切な権限がない可能性があります。あるいはネットワーク/接続問題がある可能性があります。

## アクション

接続を確認します。インフォメーションデザインツールを再起動します。エラーログを確認します。管理者に連絡して権限を確認します。

### **15.1.5.21** リポジトリセッション {0} を閉じることができません (IDT 23144)

#### **原因**

セッションを閉じることができません。

#### **アクション**

インフォメーションデザインツールを再起動します。

### **15.1.5.22** リポジトリでファイル {0} が見つかりません (IDT 23145)

#### **原因**

指定されたファイルがそのリポジトリに見つかりません。

#### **アクション**

検索対象フォルダが適切であること、およびファイル名が正しいことを確認します。ファイルが削除された場合は、ファイルの再公開が必要です。

### **15.1.5.23** リポジトリでセットファイルが見つかりません (IDT 23146)

#### **原因**

セットファイルがこのリポジトリに見つかりません。

## アクション

セットファイルが非表示または無効になっていないことを確認します。セットがまだ使用できることをセット作成者に確認します。

### **15.1.5.24** リポジトリにおける集合のファイルを取得できません (IDT 23147)

## 原因

これを実行するための適切な権限がないか、接続問題があります。

## アクション

インフォメーションデザインツールを再起動します。集合をまだ使用できるかどうかを集合の作成者に確認してください。

### **15.1.5.25** CMS {0} が停止しました (IDT 02500)

## 原因

CMS に接続できませんでした。

## アクション

接続を再確認します。エラーログを確認します。インフォメーションデザインツールを再起動します。システム管理者に連絡してください。

## 15.2 整合性のチェックのマッピング (CIM) エラーメッセージ

整合性のチェックメッセージ (CIM) のエラーメッセージには以下が含まれます。

範囲	カテゴリ
CIM01100 ～ CIM01117	テーブルと列
CIM 01120 ～ CIM 01123	変数
CIM 01140 ～ CIM 01145	入力列
CIM01200 ～ CIM01200	接続
CIM 01300 ～ CIM 01305	結合
CIM 01400 ～ CIM 01429	オブジェクト式
CIM 01500 ～ CIM 01514	コンテキスト
CIM 01601 ～ CIM 01620	パラメータおよび値の一覧
CIM01700 ～ CIM01705	クエリ定義
CIM 01800 ～ CIM 01800	リソースの依存関係

### 15.2.1 CIM 01100... テーブルと列

#### 15.2.1.1 テーブル {0} にはプライマリキーがありません。(CIM 01100)

##### 原因

テーブルにプライマリキーがありません。

##### 対処方法

自動キー検出機能を使用してテーブルを更新します。

#### 15.2.1.2 テーブル {0} はどのテーブルにもリンクしていません。(CIM 01101)

##### 原因

テーブルが他のテーブルにリンクされていません。



## 対処方法

データファンデーションで、テーブルと他のテーブル間に結合を挿入するか、必要ない場合はテーブルを削除します。

**15.2.1.3** データファンデーション {1} で参照されているテーブル {0} はデータベース内に存在しません。(CIM 01102)

## 原因

データソースにテーブルが存在しません。

## 対処方法

データソースにテーブルを追加するか、テーブル名が変更されていないかを確認します。

**15.2.1.4** 新しい列 {0} がデータベーステーブル {1} で検出されました。(CIM 01103)

## 原因

データソースのテーブルで新しい列が検出されました。

## 対処方法

データファンデーションをエディタで開き、[構造の最新表示] を実行します。

**15.2.1.5** テーブル {1} の列 {0} はデータベーステーブル内に存在しません。(CIM 01104)

## 原因

データソースのテーブルがデータファンデーションのテーブルと一致しません。

## 対処方法

データファンデーションをエディタで開き、[構造の最新表示] を実行します。

### **15.2.1.6** テーブル {1} の列 {0} に未決定のデータ型があります。(CIM 01105)

## 原因

列のデータ型が指定されていません。

## 対処方法

データファンデーションをエディタで開き、[構造の最新表示] を実行します。

### **15.2.1.7** テーブル {1} で参照されている列 {0} にはデータベーステーブルと同じデータ型がありません。(CIM 01106)

## 原因

データソースにおける列のデータ型がデータファンデーションのデータ型と異なります。

## 対処方法

データファンデーションをエディタで開き、[構造の最新表示] を実行します。

### **15.2.1.8** テーブル {1} で参照される計算列 {0} には、無効な SQL が含まれています。(CIM 01107)

## 原因

計算列の SQL 式が正常に解析されませんでした。

## 対処方法

データファンデーションで、計算列に対する式を編集および確認します。

**15.2.1.9** データファンデーション {1} における派生テーブル {0} の SQL 式が空です。(CIM 01110)

## 原因

派生テーブルに空の SQL 式が含まれています。

## 対処方法

データファンデーションで、派生テーブルを編集および確認します。

**15.2.1.10** データファンデーション {1} における派生テーブル {0} の SQL 式が無効です。(CIM 01111)

## 原因

派生テーブルの SQL 式が無効です。

## 対処方法

データファンデーションで、派生テーブルを編集および確認します。

**15.2.1.11** データファンデーション {1} のエイリアステーブル {0} はどのテーブルも参照しません。(CIM 01113)

## 原因

エイリアステーブルがテーブルを参照していません。

## 対処方法

データファンデーションで、既存のテーブルに基づいてエイリアステーブルを再挿入します。

**15.2.1.12** エイリアステーブル {1} に参照されているテーブル {0} はデータファンデーション {2} に存在しません。(CIM 01114)

## 原因

エイリアステーブルに参照されているテーブルは、データファンデーションに存在しません。

## 対処方法

データファンデーションで、エイリアステーブルを削除します。既存のテーブルに基づき、エイリアステーブルを再挿入できます。

**15.2.1.13** テーブル {1} の計算列 {0} の式が空です。(CIM 01116)

## 原因

計算列の式が空です。

## 対処方法

データファンデーションで、計算列に対する式を編集および確認します。

**15.2.1.14** テーブル {1} における計算列 {0} のデータ型が検出されたデータ型と異なります。(CIM 01116)

## 原因

計算列のデータ型が正しくありません。

## 対処方法

データファンデーションで、計算列のデータ型を更新します。

### **15.2.1.15** テーブル {1} における計算列 {0} の SQL 式が無効です。(CIM 01117)

## 原因

計算列の式が無効なため、正しく解析できませんでした。

## 対処方法

データファンデーションで、計算列に対する式を編集および確認します。

## **15.2.2 CIM 01120...変数**

### **15.2.2.1** テーブル {1} で参照されている変数 {0} はデータソース内に存在しません。(CIM01121)

## 原因

データソースに変数が存在しません。

## 対処方法

データファンデーションをエディタで開き、[構造の最新表示]を実行します。

### **15.2.2.2** テーブル {1} の新しい変数 {0} がデータソース内で見つかりました。(CIM01122)

## 原因

データソースのテーブルで新しい変数が検出されました。

## 対処方法

データファンデーションをエディタで開き、[構造の最新表示] を実行します。

**15.2.2.3** テーブル {1} の変数 {0} に、データソース内の変数と同じプロパティはありません。  
(CIM01123)

## 原因

データファンデーションの変数プロパティが、データソースの変数プロパティと異なります。

## 対処方法

データファンデーションをエディタで開き、[構造の最新表示] を実行します。

## 15.2.3 CIM 01140...入力列

**15.2.3.1** 入力列 ''{0}'' は必須ですが、値が割り当てられていません。(CIM01143)

## 原因

入力列が必須ですが、値が割り当てられていません。

## 対処方法

データファンデーションで入力列を編集し、値またはパラメータを入力します。

**15.2.3.2** 入力列 ''{0}'' は、この入力列と互換性のないデータ型の入力をプロンプトするパラメータ ''{1}'' を参照しています。(CIM01144)

## 原因

入力列とその関連パラメータのデータ型に互換性がありません。

## 対処方法

データファンデーションで、パラメータを編集してデータ型を変更するか、または入力列を編集してデータ型に互換性がある別のパラメータを入力します。

**15.2.3.3** 入力列 `'{0}'` は複数の値の入力をプロンプトするパラメータ `'{1}'` を参照していません。(CIM01145)

## 原因

この入力列に関連するパラメータで、複数の値が許可されています。単一値のプロンプトのみがサポートされています。

## 対処方法

データファンデーションで、パラメータを編集して単一値を許可するように変更するか、または入力列を編集して単一値のみを許可する別のパラメータを入力します。

## 15.2.4 CIM 01200...接続

**15.2.4.1** 接続 `{0}` は無効です: `{1}`。(CIM 01200)

## 原因

接続で参照されるデータソースにアクセスできません。

## 対処方法

データファンデーションで参照される接続が有効であることを確認します。必要に応じ、パラメータを更新します。

## 15.2.5 CIM 01300...結合

### 15.2.5.1 データファンデーション {1} 内の結合 {0} に有効なテーブルリンクがありません。(CIM 01300)

#### 原因

結合定義が無効です。

#### 対処方法

データファンデーションで結合を編集し、すべての参照テーブルおよび列が有効であることを確認します。

### 15.2.5.2 結合に含まれるテーブル {0} がデータファンデーション {1} に見つかりませんでした。(CIM 01301)

#### 原因

結合定義が無効です。

#### 対処方法

データファンデーションで結合を編集し、すべての参照テーブルおよび列が有効であることを確認します。

### 15.2.5.3 結合に含まれる列 {0} がデータファンデーション {1} に見つかりませんでした。(CIM 01302)

#### 原因

結合定義が無効です。



## 対処方法

データファンデーションで結合を編集し、すべての参照テーブルおよび列が有効であることを確認します。

### **15.2.5.4** データファンデーション {1} の結合 {0} のカーディナリティが未決定です。(CIM 01304)

## 原因

結合のカーディナリティが指定されていません。

## 対処方法

データファンデーションで結合を編集し、カーディナリティを検出するか、またはマニュアルで設定します。

### **15.2.5.5** データファンデーション {1} の結合 {0} には検出されたカーディナリティと異なるカーディナリティがあります。(CIM 01305)

## 原因

結合のカーディナリティが、検出されたカーディナリティと異なります。

## 対処方法

データファンデーションで結合を編集し、カーディナリティを検出します。

## **15.2.6 CIM 01400...オブジェクト式**

### **15.2.6.1** ビジネスオブジェクト ''{0}'' はユニバース内にはありません。(CIM 01400)

## 原因

ビジネスオブジェクトがユニバースによって所有されていません。

## 対処方法

ビジネスオブジェクトをユニバースに割り当てます。

### **15.2.6.2** ビジネスオブジェクト ''{0}'' の基になっているオブジェクトが無効です。(CIM 01401)

## 原因

ビジネスオブジェクトが、存在しないかまたは無効なソースオブジェクトに基づきます。

## 対処方法

ビジネスレイヤでオブジェクトを編集し、SQL または MDX 式を確認します。

### **15.2.6.3** ビジネスオブジェクト ''{0}'' の式を実行できませんでした。オブジェクトのプロパティを確認してください。(CIM 01403)

## 原因

ビジネスオブジェクトが、存在しないかまたは無効なソースオブジェクトに基づきます。

## 対処方法

ビジネスレイヤでオブジェクトを編集し、SQL または MDX 式を確認します。

### **15.2.6.4** ビジネスオブジェクト ''{0}'' は不正なデータ型を返しました。(CIM 01404)

## 原因

ビジネスオブジェクトに無効なデータ型が含まれています。

## 対処方法

ビジネスレイヤでオブジェクトを編集し、SQL または MDX 式を確認します。

### **15.2.6.5** ビジネスオブジェクト '{0}' が無効です。(CIM 01405)

#### 原因

ビジネスオブジェクトに名前が付いていないか、名前が無効です。

## 対処方法

ビジネスレイヤで、ビジネスオブジェクト名を編集します。

### **15.2.6.6** 解決順序の値は数字にする必要があります (CIM 01406)

#### 原因

メジャーの解決順序の値が無効です。

## 対処方法

ビジネスレイヤでメジャーを編集し、解決順序に対して数値を入力します。

### **15.2.6.7** 集計関数は空にできません。(CIM 01407)

#### 原因

集計関数が空です。

## 対処方法

ビジネスレイヤでメジャーの式を編集し、集計関数を追加します。

### 15.2.6.8 このメジャー名はビジネスレイヤですすでに使用されています。(CIM 01408)

#### 原因

名前が、ビジネスレイヤで定義済みの計算されたメジャーですすでに使用されています。

#### 対処方法

ビジネスレイヤでメジャーを編集し、メジャーの名前を変更します。

### 15.2.6.9 MDX 式はディメンション [MEASURES] を参照していません。(CIM 01409)

#### 原因

メジャーの MDX 式は、ディメンション [MEASURES] を参照していません。

#### 対処方法

ビジネスレイヤでメジャーを編集し、MDX 式を確認します。

### 15.2.6.10 階層が指定されていません。(CIM 01410)

#### 原因

計算メンバーに対して階層が定義されていません。

#### 対処方法

ビジネスレイヤで計算メンバーを編集し、階層を割り当てます。

### **15.2.6.11** この名前は同じ階層内で計算メンバーがすでに使用しています。(CIM 01411)

#### **原因**

計算されたメンバー名が、同じ階層内の他の計算されたメンバーによってすでに使用されています。

#### **対処方法**

ビジネスレイヤで計算メンバーを編集し、名前を変更します。

### **15.2.6.12** MDX 式は計算メンバーに割り当てられている階層を参照していません。(CIM 01412)

#### **原因**

計算メンバーの MDX 式に階層がありません。

#### **対処方法**

ビジネスレイヤで計算メンバーを編集し、階層を割り当てます。

### **15.2.6.13** 名前付きセットに階層が指定されていません。(CIM 01413)

#### **原因**

名前付きセットの MDX 式に階層がありません。

#### **対処方法**

ビジネスレイヤで名前付きセットを編集し、階層を割り当てます。

### 15.2.6.14 この名前は他の名前付きセットがすでに使用しています。(CIM 01414)

#### 原因

名前が、ビジネスレイヤで定義済みの名前付きセットですすでに使用されています。

#### 対処方法

ビジネスレイヤで名前付きセットを編集し、名前を変更します。

### 15.2.6.15 MDX 式には "crossjoin" 演算子が含まれます。名前付きセットはクエリ時に予期しない動作をする場合があります。(CIM 01415)

#### 原因

名前付きセットの MDX 式に crossjoin 演算子が含まれています。

#### 対処方法

ビジネスレイヤで名前付きセットを編集し、MDX 式を確認します。

### 15.2.6.16 MDX 式は名前付きセットに割り当てられている階層を参照していません。(CIM 01416)

#### 原因

名前付きセットの定義に階層がありません。

#### 対処方法

ビジネスレイヤで名前付きセットを編集し、階層を割り当てます。

### 15.2.6.17 言語の値は数字にする必要があります。(CIM 01417)

#### 原因

メジャーまたは計算メンバーの言語の値が無効です。

#### 対処方法

ビジネスレイヤでメジャーまたは計算メンバーの MDX 式を編集し、言語に対して数値を入力します。

### 15.2.6.18 ディメンション '{0}' は有効な OLAP 階層を参照していません。(CIM 01418)

#### 原因

ディメンションが OLAP 階層を参照していません。

#### 対処方法

ビジネスレイヤでディメンションを編集し、有効な階層の一意の名前を入力します。

### 15.2.6.19 関連付けられたディメンション '{0}' は有効な OLAP 階層を参照する必要があります。(CIM 01419)

#### 原因

関連付けられたディメンションは有効な OLAP 階層を参照していません。

#### 対処方法

ビジネスレイヤでディメンションを編集し、有効な階層の一意の名前を入力します。

**15.2.6.20** この名前は OLAP サーバで定義済みのメジャーがすでに使用しています (OLAP カタログで文字列 [Measures].[{0}] を検索)。(CIM 01420)

## 原因

メジャーの名前が、OLAP データソースで定義済みのメジャーですすでに使用されています。

## 対処方法

OLAP カタログで文字列 [Measures].[{0}] を検索します。ビジネスレイヤでメジャーを編集し、名前を変更します。

**15.2.6.21** この名前は OLAP サーバで定義済みの名前付きセットがすでに使用しています。(CIM 01421)

## 原因

名前付きセットの名前が、OLAP データソースで定義済みの名前付きセットですすでに使用されています。

## 対処方法

ビジネスレイヤで名前付きセットを編集し、名前を変更します。

**15.2.6.22** ビジネスオブジェクト "{0}" の式が空です。(CIM 01422)

## 原因

オブジェクトの SQL または MDX 式が空です。

## 対処方法

ビジネスレイヤでオブジェクトを編集し、有効な SQL または MDX 式を入力します。



**15.2.6.23** 無効な式です。ビジネスオブジェクト "{0}" の式の解析に失敗しました: {1} (CIM 01423)

#### 原因

ビジネスオブジェクトの SQL または MDX 式が無効です。

#### 対処方法

ビジネスレイヤでオブジェクトを編集し、有効な SQL または MDX 式を入力します。

**15.2.6.24** OLAP サーバへの接続に失敗しました。オブジェクト名をチェックできません。(CIM 01424)

#### 原因

アプリケーションで、OLAP データソースに接続し、メジャー名または名前付きセット名がすでに使用されていないかどうかをチェックすることができません。

#### 対処方法

接続が適切に動作することを確認します。

**15.2.6.25** ビジネスオブジェクト名を空にすることはできません。(親パス: {0})。(CIM 01425)

#### 原因

ビジネスオブジェクトの名前が空です。

#### 対処方法

ビジネスレイヤでビジネスオブジェクトを編集し、名前を入力します。

### 15.2.6.26 このビジネスオブジェクトには重複名があります。(親パス: {0})。(CIM 04126)

#### 原因

ビジネスレイヤの2つのオブジェクトに同じ名前が設定されています。

#### 対処方法

ビジネスレイヤでこれらのオブジェクトの1つを編集し、名前を変更します。

### 15.2.6.27 式を解析できません。パーサーでオブジェクト "{0}" が認識されません。(CIM 04127)

#### 原因

式にサポートされていないオブジェクトタイプが含まれています。

#### 対処方法

ビジネスレイヤでオブジェクトを編集し、式を変更して確認します。

### 15.2.6.28 メジャー '{0}' の SQL 式に集計関数が定義されていません。(CIM 01428)

#### 原因

メジャーに集計関数が設定されていません。

#### 対処方法

ビジネスレイヤでオブジェクトを編集し、SELEC 文で集計関数を定義します。

## 15.2.6.29 ビジネスオブジェクト名の末尾を空白文字にすることはできません。(CIM 01429)

### 原因

ビジネスオブジェクト名の末尾が空白文字です。

### 対処方法

ビジネスレイヤでオブジェクトを編集し、名前の末尾の空白を削除します。

## 15.2.7 CIM 01500...コンテキスト

### 15.2.7.1 データファンデーション "{1}" のコンテキスト "{0}" は無効です。(CIM 01501)

#### 原因

コンテキストのチェック中に結合バスのループが見つかりました。

#### 対処方法

データファンデーションの [エイリアスとコンテキスト] ペインでループビジュアライゼーションツールを使用し、ループを解決します。

### 15.2.7.2 データファンデーション "{1}" のチェック済みコンテキスト "{0}" には、デカルト積を生成する除外結合が含まれます。(CIM 01502)

#### 原因

コンテキストの除外結合で、デカルト積が生成されます。

#### 対処方法

データファンデーションでコンテキストを編集し、除外結合を確認します。

### 15.2.7.3 データファンデーション "{1}" のチェック済みコンテキスト "{0}" は不完全です。(CIM 01503)

#### 原因

コンテキストが無効です。

#### 対処方法

データファンデーションで、コンテキストを編集および確認します。

### 15.2.7.4 データファンデーション "{1}" のループ "{0}" はコンテキストによって完全には解決されていません (CIM 01511)

#### 原因

データファンデーションのループがコンテキストによって解決されていません。

#### 対処方法

データファンデーションエディタで、[エイリアスとコンテキスト] ペインを開き、[ループ] ペインのアイコンを使用してデータファンデーションのループを表示します。コンテキストを追加または確認して、未解決のループを解決します。

### 15.2.7.5 データファンデーション "{1}" のループ "{0}" は無効なコンテキストによって完全には解決されていません。(CIM 01512)

#### 原因

データファンデーションのループが、無効なコンテキストが原因で解決されていません。

## 対処方法

データファンデーションエディタで、[エイリアスとコンテキスト] ペインを開き、[ループ] ペインのアイコンを使用してデータファンデーションのループを表示します。コンテキストを確認して、未解決のループを解決します。

### 15.2.7.6 データファンデーション "{1}" のループ "{0}" に無効なコンテキストが含まれています。

(CIM 01513)

## 原因

データファンデーションのループに無効なコンテキストが含まれています。

## 対処方法

データファンデーションエディタで、[エイリアスとコンテキスト] ペインを開き、[ループ] ペインのアイコンを使用してデータファンデーションのループを表示します。ループの解決に使用されるコンテキストを確認します。

### 15.2.7.7 データファンデーション "{1}" のループ "{0}" はすべてのコンテキストによって解決されて

いません。(CIM 01514)

## 原因

データファンデーションのループがどのコンテキストによっても解決されていません。

## 対処方法

データファンデーションエディタで、[エイリアスとコンテキスト] ペインを開き、[ループ] ペインのアイコンを使用してデータファンデーションのループを表示します。コンテキストを追加して、未解決のループを解決します。

## 15.2.8 CIM 01600...パラメータおよび値の一覧

### 15.2.8.1 値の一覧 "{0}" にはデータテーブルに少なくとも列が 1 つが必要です。(CIM 01601)

#### 原因

値の一覧がテーブルの列を参照していません。

#### 対処方法

(データファンデーションまたはビジネスレイヤで) 値の一覧を編集し、少なくとも 1 つの列が参照されていることを確認します。

### 15.2.8.2 値の一覧 "{0}" では「使用前にフィルタを適用」オプションを False に設定してください。(CIM 01602)

#### 原因

[使用前にユーザに対して値のフィルタを強制] オプションが、値の一覧に対して無効です。

#### 対処方法

ビジネスレイヤで値の一覧を編集し、[使用前にユーザに対して値のフィルタを強制] オプションの選択を解除します。

### 15.2.8.3 値の一覧 "{0}" では「自動更新」オプションを True に設定してください。(CIM 01603)

#### 原因

[使用前に自動更新] オプションが正しく設定されていません。

## 対処方法

(ビジネスレイヤまたはデータファンデーションで) 値の一覧を編集し、[使用前に自動更新] オプションを選択します。

**15.2.8.4** 値の一覧 "{0}" では [ユーザにデータベースの値の検索を許可する] オプションを False に設定してください。(CIM 01604)

## 原因

[ユーザにデータベースの値の検索を許可する] オプションが正しく設定されていません。

## 対処方法

ビジネスレイヤで値の一覧を編集し、[ユーザにデータベースの値の検索を許可する] オプションの選択を解除します。

**15.2.8.5** 値の一覧 "{0}" では [クエリのタイムアウト] オプションを無効にしてください。(CIM 01605)

## 原因

[クエリ実行のタイムアウト] オプションが、値の一覧に対して無効です。

## 対処方法

(ビジネスレイヤまたはデータファンデーションで) 値の一覧を編集し、[クエリ実行のタイムアウト] オプションの選択を解除します。

**15.2.8.6** 値の一覧 "{0}" では [最大行数] オプションを無効にしてください。(CIM 01606)

## 原因

[最大行数] オプションが、値の一覧に対して無効です。

## 対処方法

(ビジネスレイヤまたはデータファンデーションで) 値の一覧を編集し、[最大行数] オプションの選択を解除します。

### **15.2.8.7** SQL スクリプトにエラーがあります。(CIM 01607)

#### 原因

値の一覧の SQL 式にエラーがありました。

## 対処方法

(データファンデーションまたはビジネスレイヤで) 値の一覧を編集し、SQL 式を入力および確認します。

### **15.2.8.8** 値の一覧で利用可能な接続が見つかりませんでした。(CIM 01608)

#### 原因

値の一覧で参照される接続が使用できません。

## 対処方法

データファンデーションまたはビジネスレイヤで参照される接続が使用できることを確認します。

### **15.2.8.9** 値の一覧で利用可能なデータ構造が見つかりませんでした。(CIM 01609)

#### 原因

値の一覧で参照されるデータ構造が見つかりませんでした。



## 対処方法

(データファンデーションまたはビジネスレイヤで) 値の一覧を編集し、参照データソースの有効性を確認します。

**15.2.8.10** 値の一覧 "{0}" では [ユーザにデータベースの値の検索を許可する] オプションを `False` に設定してください。(CIM 01610)

## 原因

[ユーザにデータベースの値の検索を許可する] オプションが正しく設定されていません。

## 対処方法

ビジネスレイヤで値の一覧を編集し、[ユーザにデータベースの値の検索を許可する] オプションの選択を解除します。

**15.2.8.11** パラメータ名が空です。(CIM 01611)

## 原因

パラメータに名前がありません。

## 対処方法

データファンデーションおよびビジネスレイヤのパラメータを確認し、それらに名前があることを確認します。

**15.2.8.12** パラメータ {0} のデータ型は、空であるか、不明であるか、値の一覧列のデータ型と異なっています。(CIM 01612)

## 原因

パラメータのデータ型が正しく設定されていません。

## 対処方法

(データファンデーションまたはビジネスレイヤで) パラメータを編集し、ソースデータ型との整合性があるデータ型を設定します。

### 15.2.8.13 プロンプト "{0}" にはプロンプト文が必要です。(CIM 01613)

## 原因

パラメータに関連するプロンプトテキストがありません。

## 対処方法

(データファンデーションまたはビジネスレイヤで) パラメータを編集し、プロンプトテキストを入力します。

### 15.2.8.14 「インデックス認識プロンプト」 オプションが選択されている場合、「一覧から選択」 オプションも選択される必要があります。(CIM 01614)

## 原因

[[一覧から選択](#)] オプションが、値の一覧に対して選択されていません。

## 対処方法

(データファンデーションまたはビジネスレイヤで) パラメータを編集し、関連する値の一覧に対して [[一覧から選択](#)] オプションを選択します。

### 15.2.8.15 プロンプトのデフォルト値が空です。(CIM 01615)

## 原因

パラメータに対してデフォルト値が定義されていません。

## 対処方法

(データファンデーションまたはビジネスレイヤで) パラメータを編集し、プロンプトのデフォルト値を入力します。

### **15.2.8.16** パラメータ "{0}" に関連付けられた値の一覧で選択された列が無効です。(CIM 01616)

## 原因

関連する値の一覧で選択された列が無効です。

## 対処方法

(データファンデーションまたはビジネスレイヤで) パラメータを編集し、関連する値の一覧に対して別の列を選択します。

### **15.2.8.17** 値の一覧に循環参照が含まれます。(CIM 01617)

## 原因

値の一覧に循環参照が含まれます。

## 対処方法

(データファンデーションまたはビジネスレイヤで) 値の一覧を編集し、式を確認します。

### **15.2.8.18** SQL 文の解析中にエラーが発生しました。SQL が正しいことを確認してください。(CIM 01618)

## 原因

値の一覧に解析できない無効な SQL が含まれています。

## 対処方法

(データファンデーションまたはビジネスレイヤで) 値の一覧を編集し、式を確認します。

**15.2.8.19** SQL 文の実行中にエラーが発生しました。SQL が正しいことを確認してください。(CIM 01619)

## 原因

値の一覧にデータベースで実行できない無効な SQL が含まれています。

## 対処方法

(データファンデーションまたはビジネスレイヤで) 値の一覧を編集し、式を確認します。

**15.2.8.20** @Execute 関数は、値の一覧の SQL 式ではサポートされていません。(CIM 01620)

## 原因

値の一覧の式に @Execute 関数が含まれています。@Execute 関数は値の一覧ではサポートされていません。

## 対処方法

(データファンデーションまたはビジネスレイヤで) 値の一覧を編集し、@Execute を式から削除します。

## 15.2.9 CIM 01700...クエリ定義

**15.2.9.1** "{0}" のクエリ定義が空です。(CIM 01700)

## 原因

クエリに定義がありません。

## 対処方法

クエリを編集し、有効性を確認します。

### **15.2.9.2** "{0}" のクエリ定義を解析できません。(CIM 01701)

## 原因

クエリ定義を解析できません。

## 対処方法

クエリを編集し、クエリ式を確認します。

### **15.2.9.3** クエリ "{0}" にクエリ式がありません。(CIM 01702)

## 原因

クエリに定義がありません。

## 対処方法

クエリを編集し、有効性を確認します。

### **15.2.9.4** クエリ "{0}" がユニバース内の見つからないオブジェクト ({1}) を参照しています。(CIM 01703)

## 原因

クエリが、ユニバースに含まれないオブジェクトを参照しています。

## 対処方法

別のオブジェクトを参照するようクエリを編集するか、または見つからないオブジェクトを取得するためにユニバースを最新表示します。

### **15.2.9.5** クエリ "{0}" には結果オブジェクトがありません。(CIM 01704)

#### 原因

クエリに結果オブジェクトがありません。

## 対処方法

クエリを編集し、オブジェクトが返されることを確認します。

### **15.2.9.6** クエリ "{0}" が結果オブジェクト数が一致しないクエリを結合しました。(CIM 01705)

#### 原因

クエリに、結果オブジェクト数が一致しない複合クエリがあります。

## 対処方法

クエリを編集し、複合クエリ式を確認します。

## **15.2.10 CIM 01800...リソースの依存関係**

### **15.2.10.1** リソース "{0}" が見つかりませんでした。(CIM 01800)

#### 原因

リソースが、見つからなかった他のリソースを参照しています。

## 対処方法

リソースの有効性を確認します。移動、削除、または名前変更されたリソースがないか確認します。

## 15.3 チェックセキュリティマッピング (CSM) のエラーメッセージ

チェックセキュリティマッピングのエラーメッセージカテゴリには、以下のものが含まれます。

CSM エラー	カテゴリ
CSM 00001 ~ CSM 00017	データセキュリティプロファイルエラー: テーブルおよび行制限、テーブルマッピング、および接続の上書き。
CSM 00100 ~ CSM 00118	ビジネスセキュリティプロファイルの整合性: クエリの作成、データの表示、およびフィルタ。

### 15.3.1 CSM 00001...データセキュリティプロファイル

**15.3.1.1** チェック済みデータセキュリティプロファイル "{0}" には、無効なデータファンデーションが含まれています。データファンデーションが存在するか、少なくともテーブルが 1 つ含まれていることを確認してください。(CSM 00001)

## 原因

参照データファンデーションが有効ではありません。

## 対処方法

データファンデーションの有効性を確認します。データファンデーションには、少なくともテーブルが1つ含まれている必要があります。データファンデーションで整合性のチェックを実行します。

**15.3.1.2** チェック済みデータセキュリティプロファイル "{0}" の行制限には、データファンデーションで定義されていない制限付きテーブルが含まれています。行制限の定義を修正してください。  
(CSM 00002)

#### 原因

行制限に定義されているテーブルがデータファンデーションにありません。

#### 対処方法

データセキュリティプロファイル行制限を編集し、参照テーブルを変更します。

**15.3.1.3** チェック済みデータセキュリティプロファイル "{0}" の行制限には、未定義の制限付きテーブルが含まれています。新しい制限付きテーブルを定義してください。(CSM 00003)

#### 原因

行制限に定義された制限付きテーブルが空です。

#### 対処方法

データセキュリティプロファイル行制限を編集し、参照テーブルを変更します。

**15.3.1.4** チェック済みデータセキュリティプロファイル "{0}" のテーブルマッピングには、データファンデーションで定義されていない元のテーブル "{1}" が含まれています。元のテーブルの定義を確認してください。(CSM 00004)

#### 原因

テーブル置換に定義されている元のテーブルがデータファンデーションにありません。



## 対処方法

データセキュリティプロファイルテーブル置換を編集し、元のテーブルへの参照を修正します。

**15.3.1.5** チェック済みデータセキュリティプロファイル "{0}" のテーブルマッピングには、未定義の置換テーブルが含まれています。元のテーブル "{1}" に対する新しい有効な置換テーブルを定義してください。(CSM 00005)

## 原因

テーブル置換に定義されているテーブルが、データファンデーションまたはデータソースにありません。

## 対処方法

データセキュリティプロファイルテーブル置換を編集し、置換テーブルへの参照を修正します。

**15.3.1.6** チェック済みデータセキュリティプロファイル "{0}" のテーブルマッピングには、エイリアスである置換テーブル "{1}" が含まれています。エイリアステーブルは、置換テーブルとしてサポートされていません。(CSM 00006)

## 原因

置換として定義されているテーブルが、データファンデーションのエイリアステーブルです。エイリアステーブルは、置換テーブルとして使用できません。

## 対処方法

データセキュリティプロファイルテーブル置換を編集し、データファンデーションで標準テーブルを定義するか、またはデータベーステーブルを置換テーブルとして定義します。

**15.3.1.7** チェック済みデータセキュリティプロファイル "{0}" のテーブルマッピングには、派生テーブルである置換テーブル "{1}" が含まれています。派生テーブルは、置換テーブルとしてサポートされていません。(CSM 00007)

## 原因

置換として定義されているテーブルが、データファンダーションの派生テーブルです。派生テーブルは、置換テーブルとして使用できません。

## 対処方法

データセキュリティプロファイルテーブル置換を編集し、データファンダーションで標準テーブルを定義するか、またはデータベーステーブルを置換テーブルとして定義します。

**15.3.1.8** チェック済みデータセキュリティプロファイル "{0}" の接続マッピングには、データファンダーションでデータソースとして定義されていない元の接続が含まれています。元の接続の定義を確認してください。(CSM 00008)

## 原因

接続置換で参照されている元の接続が、データファンダーションで接続として定義されていません。

## 対処方法

データファンダーションで定義された接続を確認してから、データセキュリティプロファイル接続置換を編集し、元の接続をデータファンダーションで定義された接続に変更します。

**15.3.1.9** チェック済みデータセキュリティプロファイル "{0}" の接続マッピングには、未定義の元の接続が含まれています。元の接続を再定義してください。(CSM 00009)

## 原因

接続置換で参照されている元の接続が無効です。

## 対処方法

データセキュリティプロファイル接続置換を編集し、元の接続を有効な接続に変更します。

**15.3.1.10** チェック済みデータセキュリティプロファイル "{0}" の接続マッピングには、未定義の置換接続が含まれています。元の接続 "{1}" に対する新しい有効な置換接続を定義してください。(CSM 00010)

## 原因

置換接続が無効です。

## 対処方法

データセキュリティプロファイル接続置換を編集し、置換接続を有効な接続に変更します。

**15.3.1.11** データセキュリティプロファイル "{0}" の行制限の SQL の WHERE 句が不完全です。行を制限する有効な SQL 文を入力してください。(CSM 00011)

## 原因

行制限のための SQL 式が無効です。

## 対処方法

データセキュリティプロファイル行制限を編集し、WHERE 式の有効性を確認します。

**15.3.1.12** データセキュリティプロファイル "{0}" の行制限条件の SQL の WHERE 句が有効ではありません。有効な SQL 文を入力してください。(CSM 00012)

## 原因

行制限のための SQL 式が無効です。

## 対処方法

データセキュリティプロファイル行制限を編集し、WHERE 式の有効性を確認します。

**15.3.1.13** チェック済みデータセキュリティプロファイル "{0}" のテーブルマッピングには、データファンデーションで定義されていない置換テーブル "{1}" が含まれています。(CSM 00015)

## 原因

テーブルマッピングに定義されている置換テーブルがデータファンデーションにありません。

## 対処方法

データセキュリティプロファイルの置換テーブルを編集して、有効なデータファンデーションテーブルを参照します。

**15.3.1.14** チェック済みデータセキュリティプロファイル "{0}" のテーブルマッピングには、データベースで定義されていない元のテーブル "{1}" が含まれています。(CSM 00016)

## 原因

テーブルマッピングに定義されている元のテーブルがデータベースにありません。

## 対処方法

データセキュリティプロファイルの元のテーブルを編集して、データベース内の有効なテーブルを参照します。

**15.3.1.15** データセキュリティプロファイル "{0}" のテーブルマッピングには、データベースで定義されていない置換テーブル "{1}" が含まれています。(CSM 00017)

## 原因

テーブルマッピングに定義されている置換テーブルがデータベースにありません。

## 対処方法

データセキュリティプロファイルの置換テーブルを編集して、データベース内の有効なテーブルを参照します。

## 15.3.2 CSM 00100...ビジネスセキュリティプロファイル

**15.3.2.1** ビジネスセキュリティプロファイル "{0}" には、無効なユニバース参照が含まれています。新しいユニバースにビジネスセキュリティプロファイル "{0}" を再定義してください。(CSM 00101)

### 原因

ユニバースが無効です。

## 対処方法

ビジネスセキュリティプロファイルで参照されているユニバースの有効性を確認します。

**15.3.2.2** ビジネスセキュリティプロファイル "{0}" は、ユニバース "{1}" から削除されている拒否されたオブジェクトを参照しています。ビジネスセキュリティプロファイルを編集して、[クエリの作成] パネルからオブジェクトを削除してください。(CSM 00102)

### 原因

[クエリの作成] 設定で拒否されたビジネスオブジェクトが、ユニバースにありません。

## 対処方法

ビジネスセキュリティプロファイルの [クエリの作成] 設定を編集し、拒否されたオブジェクトを削除または変更します。

**15.3.2.3** ビジネスセキュリティプロファイル "{0}" は、ユニバース "{1}" から削除されている許可されたオブジェクトを参照しています。ビジネスセキュリティプロファイルを編集して、[データの表示] パネルからオブジェクトを削除してください。(CSM 00103)

## 原因

[データの表示] 設定で許可されたビジネスオブジェクトが、ユニバースにありません。

## 対処方法

ビジネスセキュリティプロファイルの [データの表示] 設定を編集し、許可されたオブジェクトを削除または変更します。

**15.3.2.4** ビジネスセキュリティプロファイル "{0}" は、ユニバース "{1}" から削除されている拒否されたビューを参照しています。ビジネスセキュリティプロファイルを編集して、[クエリの作成] パネルからビューを削除してください。(CSM 00104)

## 原因

[クエリの作成] 設定で拒否されたビジネスレイヤビューが、ユニバースにありません。

## 対処方法

ビジネスセキュリティプロファイルの [クエリの作成] 設定を編集し、拒否されたビューを削除または変更します。

**15.3.2.5** ビジネスセキュリティプロファイル "{0}" は、ユニバース "{1}" から削除されている許可されたビューを参照しています。ビジネスセキュリティプロファイルを編集して、[クエリの作成] パネルからビューを削除してください。(CSM 00105)

## 原因

[クエリの作成] 設定で許可されたビジネスレイヤビューが、ユニバースにありません。

## 対処方法

ビジネスセキュリティプロファイルの [クエリの作成] 設定を編集し、許可されたビューを削除または変更します。

**15.3.2.6** ビジネスセキュリティプロファイル "{0}" は、ユニバース "{1}" から削除されている拒否されたオブジェクトを参照しています。ビジネスセキュリティプロファイルを編集して、[データの表示] 設定からオブジェクトを削除してください。(CSM 00106)

## 原因

[データの表示] 設定で拒否されたビジネスオブジェクトが、ユニバースにありません。

## 対処方法

ビジネスセキュリティプロファイルの [データの表示] 設定を編集し、拒否されたオブジェクトを削除または変更します。

**15.3.2.7** ビジネスセキュリティプロファイル "{0}" は、ユニバース "{1}" から削除されている許可されたオブジェクトを参照しています。ビジネスセキュリティプロファイルを編集して、[データの表示] パネルからオブジェクトを削除してください。(CSM 00107)

## 原因

[データの表示] 設定で許可されたビジネスオブジェクトが、ユニバースにありません。

## 対処方法

ビジネスセキュリティプロファイルの [データの表示] 設定を編集し、許可されたオブジェクトを削除または変更します。

**15.3.2.8** ビジネスセキュリティプロファイル "{0}" は、ユニバース "{1}" から削除されているフィルタを参照しています。ビジネスセキュリティプロファイルを編集して、[フィルタ] パネルからフィルタを削除してください。(CSM 00108)

#### 原因

ビジネスセキュリティプロファイルの [フィルタ] 設定で定義されているフィルタが、ユニバースにありません。

#### 対処方法

ビジネスセキュリティプロファイルの [フィルタ] 設定を編集し、参照フィルタを変更します。

**15.3.2.9** ビジネスセキュリティプロファイル "{0}" には、無効なクエリ定義のフィルタ "{1}" が含まれています。ビジネスセキュリティプロファイルで正しいクエリ定義のフィルタを再定義してください。(CSM 00109)

#### 原因

ビジネスセキュリティプロファイルの [フィルタ] 設定で定義されているフィルタが無効です。

#### 対処方法

ビジネスセキュリティプロファイルの [フィルタ] 設定を編集し、フィルタ定義を確認します。

**15.3.2.10** ビジネスセキュリティプロファイル "{0}" は、ユニバース "{1}" から削除されている名前付きセットを参照しています。ビジネスセキュリティプロファイルを編集して、[フィルタ] パネルから名前付きセットを削除してください。(CSM 00110)

#### 原因

ビジネスセキュリティプロファイルの [フィルタ] 設定で定義されている名前付きセットが、ユニバースにありません。



## 対処方法

ビジネスセキュリティプロファイルの [フィルタ] 設定を編集し、有効な名前付きセットを参照します。

**15.3.2.11** ビジネスセキュリティプロファイル "{0}" には、階層の割り当てがない名前付きセット "{1}" が含まれています。ビジネスセキュリティプロファイルで正しい階層の名前付きセットを再定義してください。(CSM 00111)

## 原因

ビジネスセキュリティプロファイルの [フィルタ] 設定で定義されている名前付きセットに、階層が定義されていません。

## 対処方法

ビジネスセキュリティプロファイルの [フィルタ] 設定を編集し、名前付きセット定義を確認します。

**15.3.2.12** ビジネスセキュリティプロファイル "{0}" には、ユニバース "{2}" から削除された階層の名前付きセット "{1}" が含まれています。ビジネスセキュリティプロファイルで正しい階層の名前付きセットを再定義してください。(CSM 00112)

## 原因

ビジネスセキュリティプロファイルの [フィルタ] 設定で定義されている名前付きセットが、存在しない階層で定義されています。

## 対処方法

ビジネスセキュリティプロファイルの [フィルタ] 設定を編集し、名前付きセット定義を確認します。

**15.3.2.13** ビジネスセキュリティプロファイル "{0}" の接続マッピングは無効です。元の接続 "{1}" がリポジトリに格納されていないか、この接続の表示権限が拒否されています。(CSM 00113)

#### 原因

元の接続がリポジトリに存在していません。

#### 対処方法

接続マッピングの元の接続がリポジトリに存在し、その表示権限があるかどうかを確認します。

**15.3.2.14** ビジネスセキュリティプロファイル "{0}" の接続マッピングは無効です。置換接続 "{1}" がリポジトリに格納されていないか、この接続の表示権限が拒否されています。(CSM 00114)

#### 原因

置換接続がリポジトリに存在していません。

#### 対処方法

接続マッピングの置換接続がリポジトリに存在し、その表示権限があるかどうかを確認します。

**15.3.2.15** ビジネスセキュリティプロファイル "{0}" の接続マッピングには、未定義の元の接続が含まれています。元の接続を再定義してください。(CSM 00115)

#### 原因

接続マッピングに元の接続が定義されていません。

#### 対処方法

ビジネスセキュリティプロファイルの接続設定を編集し、有効な元の接続を定義します。

**15.3.2.16** ビジネスセキュリティプロファイル "{0}" の接続マッピングには、未定義の置換接続が含まれています。元の接続 "{1}" に対する新しい有効な置換接続を定義してください。(CSM 00116)

#### 原因

接続マッピングに置換接続が定義されていません。

#### 対処方法

ビジネスセキュリティプロファイルの接続設定を編集し、有効な置換接続を定義します。

**15.3.2.17** キューブが存在しないか、置換接続 "{1}" で指定されていません。(CSM 00117)

#### 原因

置換接続のキューブが指定されていません。

#### 対処方法

置換接続として使用される接続を編集してキューブを指定するか、またはビジネスセキュリティプロファイルの接続設定を編集し、接続のキューブを指定する置換接続を定義します。

**15.3.2.18** 置換接続 "{2}" のプロバイダ "{4}" が、元の接続 "{1}" のプロバイダ "{3}" と異なります。(CSM 00118)

#### 原因

置換接続で定義されたインフォプロバイダが、元の接続で定義されたインフォプロバイダと異なります。

#### 対処方法

元の接続と置換接続で同じインフォプロバイダが定義されるよう、接続を編集します。

## 16 Information Engine Services (IES) のエラーメッセージ

Information Engine Services のエラーメッセージは、次のカテゴリに分類されます。

範囲	カテゴリ
IES 00001 ~ IES 01031	クエリ実行エラー
IES 01501 ~ IES 01513	グラフ実行エラー
IES 10001 ~ IES 10903	クエリ実行エラー (Web Intelligence 固有)

### 16.1 IES 00001 ~ IES 01031 クエリ実行エラー

#### 16.1.1 ユニバースで使用できなくなったオブジェクトがあります。(IES 00001)

##### 原因

ユニバース内の 1 つあるいは複数のオブジェクトがドキュメントで使用できなくなりました。

##### 対処方法

クエリの中のオブジェクトを使用可能なオブジェクトと比較して、クエリから不足しているオブジェクトを削除します。

#### 16.1.2 クエリを最新表示する権限がありません。現在のユーザプロファイルでは利用できないオブジェクトがあります。管理者に連絡して必要な権限を要求してください。(IES 00002)

##### 原因

クエリに含まれる 1 つ以上のオブジェクトのデータにアクセスするための正しいユーザ権限がないか、またはオブジェクトがプロファイル内で使用可能になっていません。このため、レポートを最新表示することができません。

## 対処方法

管理者に依頼し、これらのオブジェクトにアクセスできるようユーザプロファイルを変更してもらいます。

### 16.1.3 ユニバースで使用できなくなった定義済みのフィルタがあります。(IES 00003)

#### 原因

使用可能なユニバースオブジェクトとクエリオブジェクトを比較します。オブジェクトを使用できないか、権限を持っていない可能性があります。

## 対処方法

ユニバースオブジェクトをクエリオブジェクトと比較します。権限がない場合は、ユニバース作成者がシステム管理者に問い合わせてください。

### 16.1.4 ユニバースで使用できなくなったデータベーステーブルがあります。(IES 00004)

#### 原因

ユニバースの1つあるいは複数のデータベーステーブルが使用できなくなりました。テーブル名が変更されたか、データベースからテーブルが削除された可能性があります。

## 対処方法

ユニバース作成者に依頼して、ユニバースを最新表示し、存在しないテーブルを削除するか、テーブル名を更新します。

### 16.1.5 プロンプトの定義が無効です。(IES 00005)

#### 原因

プロンプトの構文が正しくないか、プロンプトがユニバースから削除されたオブジェクトを参照しています。

## 対処方法

ユニバース作成者にプロンプトを確認するよう依頼します。

### **16.1.6** アグリゲート認識の定義が無効です。(IES 00006)

## 原因

クエリ内の 1 つまたは複数のオブジェクトで集計認識が使用されていますが、ユニバース内の集計認識構文が無効です。

## 対処方法

ユニバース作成者に、集計認識構文を確認するよう依頼します。

### **16.1.7** フィルタに不正な値があるので、クエリを実行できません。(IES 00007)

## 原因

フィルタに不正なオペランドがあります。たとえば、空の定数が指定されたフィルタや数値を予想するフィルタに英数字の値が指定されている場合です。

## 対処方法

フィルタを修正します。

### **16.1.8** このクエリには互換性のないテーブルを参照するオブジェクトが含まれているため、実行できません。(IES 00008)

## 原因

ユニバースで各コンテキストまたはメジャーに複数の SQL 文が許可されないため、クエリに組み合わせ、または同期化できないデータセットを返すオブジェクトが含まれています。

## 対処方法

ユニバース作成者に以下を実行するよう依頼します。

- 各コンテキストおよびメジャーに複数の SQL 文を許可します。
- 非互換オブジェクトを含む新しいコンテキストを作成します。

**16.1.9** 詳細フィルタに互換性のないオブジェクトが含まれているので、クエリを実行できません。フィルタセットを簡略化してクエリをもう一度実行してください。(IES 00009)

## 原因

詳細フィルタで互換性のないオブジェクトが使用されています。

## 対処方法

互換性のあるオブジェクトのみ使用するよう詳細フィルタを変更します。

**16.1.10** ユニバースの GROUP BY 文に複雑な表現式を使用することができないので、このクエリを実行できません。(IES 00010)

## 原因

クエリに式あるいはエイリアスを使った GROUP BY 句が指定されています。ユニバースでは、GROUP BY 句にこのような表現式は指定できません。動作特性は次のパラメータによって決まります。

```
<Parameter Name="GROUPBY_EXCLUDE_COMPLEX">Y</Parameter>
```

使用する RDBMS の PRM ファイル

## 対処方法

- 式やエイリアスを使ったオブジェクトが含まれないようクエリを変更する。
- 使用している RDBMS で複雑な GROUP BY 式がサポートされている場合は、ユニバース作成者に GROUPBY\_EXCLUDE\_COMPLEX パラメータの値を N に変更するよう依頼します。

### 16.1.11 式 "{0}" に複数の属性が含まれています。この構文は、このバージョンではサポートされなくなりました。(IES 00011)

#### 原因

クエリに含まれる1つあるいは複数のオブジェクトの定義に連結演算子ではなく、カンマ(",")が使われています。この構文は、サポートされなくなりました。

#### 対処方法

ユニバース作成者に、以下のいずれかの対策を取るよう依頼します。

- 2つのオブジェクトのデータの連結にカンマを使っているオブジェクトを、RDBMSの標準連結演算子を使用して再度定義し直す。
- 以下の行をターゲット RDBMS の PRM ファイルに追加します。

```
<Parameter Name = "REPLACE_COMMA_BY_SEPARATOR"=Y>
```

これにより、オブジェクトの定義でカンマを連結構文で使えるようになります。

- ユニバースで、REPLACE\_COMMA\_BY\_CONCAT の値を Yes に設定する。

### 16.1.12 このクエリはデカルト積を作成するため実行することができません。(IES 00012)

#### 原因

このクエリはデカルト積を生成します。デカルト積は、クエリに含まれるオブジェクトが参照するテーブルから、可能なすべての行の組み合わせを返し、正しいことはまれです。

#### 対処方法

ユニバース作成者に、以下のいずれかの対策を取るよう依頼します。

- 適切な結合および制限を含めるようユニバーステーブルスキーマを変更して、デカルト積を予防します。
- 許容できる場合は、デカルト積を返すようユニバースを設定します。



### 16.1.13 クエリスクリプトの生成に失敗しました。管理者に連絡してください。{0} (IES 00013)

#### 原因

クエリ SQL の生成中にエラーが発生しました。

#### 対処方法

ユニバース作成者に SQL を確認するよう依頼します。

### 16.1.14 アグリゲート認識の解決に失敗しました。(IES 00014)

#### 原因

クエリオブジェクトで、Aggregate Aware 関数に必要な可能なすべての SQL が除外されました。

#### 対処方法

ユニバース作成者に、オブジェクト間の非互換性を取り除くよう依頼します。

### 16.1.15 同じテキストにもかかわらず、プロンプトは、異なる値のオペランド、または演算子の引数を使用しています。(IES 00015)

#### 原因

クエリに、同じメッセージを表示する複数のプロンプトが含まれています。通常、同じメッセージのプロンプトが組み合わせられますが、1つの値の入力を要求するものと、複数の値の入力を要求するものとが混在していると、組み合わせることができません。

#### 対処方法

すべてのプロンプトが1つの値を、または複数の値を要求するようプロンプトを変更します。

## 16.1.16 クエリにサポートされない @script() 関数が含まれています。(IES 00016)

### 原因

このドキュメント用のクエリが生成した SQL に @Script() 関数が含まれていますが、この関数はサポートされていません。

### 対処方法

ユニバース作成者に @Script() 関数を削除するよう依頼します。

## 16.1.17 次のオブジェクトを結果オブジェクトとして使用することはできません: {0}。管理者に連絡してください。(IES 00017)

### 原因

クエリに、クエリ内で結果オブジェクトとして使用できないオブジェクトが含まれています。

### 対処方法

オブジェクトを削除するか、ユニバース作成者に、クエリ内の結果オブジェクトとしてオブジェクトを含めることを許可するよう依頼します。

## 16.1.18 次のオブジェクトはクエリフィルタとして使用できません: {0}。管理者に連絡してください。(IES 00018)

### 原因

クエリに、クエリフィルタとして有効でないオブジェクトが、クエリフィルタとして使用するために含まれています。

### 対処方法

オブジェクトを削除するか、ユニバース作成者に、クエリフィルタとしての使用を許可するよう依頼します。

**16.1.19** クエリフィルタオブジェクトに含まれている、クエリフィルタで使用するオブジェクトの値が多すぎます。(IES 00019)

#### 原因

クエリフィルタに含まれている値の数が多すぎます。

#### 対処方法

最大値よりも小さい値を選択します。

**16.1.20** 唯一許可されている SQL 文は SELECT です。{0} (IES 00020)

#### 原因

クエリによって生成された SQL は無効です。

#### 対処方法

ユニバース作成者に SQL を確認するよう依頼します。

**16.1.21** クエリの 1 つに互換性のないオブジェクトが含まれているため、この複合クエリを実行することができません。(IES 00021)

#### 原因

複合クエリの中のクエリに、互換性のないオブジェクトが含まれています。

#### 対処方法

非互換オブジェクトを削除します。

## **16.1.22** クエリが WHERE 句を構築中にテーブルを参照していません。(IES 00022)

### 原因

生成された SQL の WHERE 句がテーブルを参照しません。

### 対処方法

クエリがテーブルを参照するように変更します。

## **16.1.23** サブクエリフィルタが無効です。データを取得できないか (null) または結果オブジェクトが定義されていません。(IES 00023)

### 原因

クエリに無効なサブクエリが含まれています。データを取得できないか、結果オブジェクトが定義されていません。

### 対処方法

サブクエリを変更します。

## **16.1.24** サブクエリフィルタのオブジェクトタイプに互換性がありません。(IES 00024)

### 原因

サブクエリに非互換オブジェクトが含まれています。

### 対処方法

互換性のないオブジェクトタイプを削除します。

**16.1.25** クエリは複雑すぎるため、サンプリング関数を適用できません。関数が適用されると、SQL が生成されないため、クエリは中止されます。クエリ（複合クエリ、または JOIN あるいは SYNCHRO 演算子を持つクエリなど）を単純化してください。（IES 00025）

#### 原因

クエリが複雑すぎるため、サンプリング関数を適用できません。

#### 対処方法

クエリを単純化してみます。

**16.1.26** オプションプロンプトの SQL を再生成できませんでした。次の必須プロンプトはスキップされました：{0}。（IES 00026）

#### 原因

オプションのプロンプトに関連する SQL が再生成できませんでした。

#### 対処方法

ユニバース作成者にお問い合わせください。

**16.1.27** クエリからオプションプロンプトを削除すると、新しいプロンプトが生成されます。これにより、サポートできない複雑さが生じます。（IES 00027）

#### 原因

オプションプロンプトが原因でクエリを処理できません。

#### 対処方法

オプションプロンプトをクエリから削除します。

## **16.1.28** キー日付パラメータに値が指定されていません。(IES 00028)

### 原因

キー日付パラメータに値が指定されていません。

### 対処方法

キー日付の値を指定します。

## **16.1.29** 書き込み権のあるユーザーがすでにこのユニバースを開いています。(IES 00029)

### 原因

書き込み権限を持つ別のユーザがすでにこのユニバースを開いているため、ユニバースを開けませんでした。

### 対処方法

管理者に連絡してください。

## **16.1.30** メジャーを含んでいないクエリはこのユニバースで実行することができません。(IES 00030)

### 原因

クエリはメジャーを含んでいないため、ユニバースで使用できません。

### 対処方法

クエリ定義が正しいことを確認し、必要に応じて関連するメジャーを追加します。

### 16.1.31 直接入力 SQL クエリに有効な実行可能命令が含まれていません: {detail\_message} (IES 00031)

#### 原因

禁止されている SQL キーが SQL に含まれているか、SQL 文またはストアードプロシージャに対する呼び出しが無効になっています。

#### アクション

禁止されている SQL キーを SQL から削除し、SQL 文を確認します。  
それでも問題が解決されない場合には、IT 管理者に相談してください。

### 16.1.32 ユニバースが見つかりませんでした。ユニバースがリポジトリから削除されたか、またはリポジトリのユニバースを照会するために十分な権限がありません。(IES 00501)

#### 原因

ユニバースが見つかりません。

#### 対処方法

管理者またはユニバース作成者に確認し、ユニバースを使用できない理由を明らかにします。

### 16.1.33 適切なユーザ権限が見つかりませんでした。 管理者に連絡してください。(IES 00502)

#### 原因

ユーザ権限が見つからないため、このアクションを実行できません。

#### アクション

正しいログオン認証情報を使用したことを確認してください。 使用したログオン認証情報が正しい場合、ユーザ権限が削除されていないことを IT 管理者に確認してください。

**16.1.34** ユニバース {0} にアクセスする権限がありません。適切な権限を申請するには、管理者に連絡してください。（IES 00503）

#### 原因

ユーザ権限により、このアクションが許可されません。

#### アクション

IT 管理者に対し、ユーザ認証情報が正しく定義されていることを確認するよう依頼します。

**16.1.35** このユニバースのデータにアクセスする権限がありません。適切な権限を申請するには、管理者に連絡してください。（IES 00504）

#### 原因

現在のユーザ権限では、データへのアクセスが許可されません。

#### アクション

IT 管理者に対し、ユーザ認証情報が正しく定義されていることを確認するよう依頼します。

**16.1.36** このユニバース接続のデータにアクセスする権限がありません。適切な権限を申請するには、管理者に連絡してください。（IES 00505）

#### 原因

現在のユーザ権限では、接続へのアクセスが許可されません。

#### アクション

IT 管理者に対し、ユーザ認証情報が正しく定義されていることを確認するよう依頼します。



**16.1.37** ユニバース {0} をリポジトリ {1} からダウンロードできませんでした。使用可能なメモリ容量が十分であることを確認し、再試行してください。(IES 00506)

#### 原因

ユニバースをダウンロードできません。

#### 対処方法

管理者に問い合わせ、問題をレポートします。

**16.1.38** このコアユニバースのデータにアクセスする権限がありません。適切な権限を申請するには、管理者に連絡してください。(IES 00507)

#### 原因

現在のユーザ権限では、データへのアクセスが許可されません。

#### アクション

IT 管理者に対し、ユーザ認証情報が正しく定義されていることを確認するよう依頼します。

**16.1.39** ユニバースデータ接続が見つかりませんでした。接続が削除されたか、その接続を使用する権限がありません。(IES 00509)

#### 原因

接続が失われました。

#### 対処方法

管理者に問い合わせ、問題をレポートします。

**16.1.40** オブジェクトのいずれかが定義にループを含む派生テーブル (table\_name) に基づいているため、このクエリの SQL を生成できません。(IES 00510)

#### 原因

派生テーブルにループが含まれる場合、SQL を生成できません。

#### 対処方法

クエリを再定義するか、派生テーブルにループを含めないようにします。

**16.1.41** オブジェクトのいずれかが不明な派生テーブル (table\_name) に基づいているため、このクエリの SQL を生成できません。(IES 00511)

#### 原因

この場合、SQL を生成できません。

#### 対処方法

派生テーブルが正しく定義されており、使用できることを確認します。クエリが正しいことを確認します。

**16.1.42** オブジェクトのいずれかが不正な定義を持つ派生テーブル (table\_name) に基づいているため、このクエリの SQL を生成できません。(IES 00512)

#### 原因

派生テーブルが正しく定義されていません。

#### 対処方法

派生テーブルの定義を確認し、必要に応じて修正します。

**16.1.43** 構文エラーが原因でクエリステートメントを生成できません。@Variable 関数を使用するステートメントの構文を確認してください。(IES 00513)

## 原因

クエリに1つ以上の構文エラーが含まれています。

## アクション

@Variable 関数を使用する SQL 文の構文を確認してください。Universe Designer ユーザマニュアル (PDF ドキュメントかオンラインヘルプ) の @ 関数のセクションを参照してください。

**16.1.44** SQL 生成パラメータのデータベースファイルをロードできませんでした ({database\_name}, {network\_layer})。(IES 00514)

## 原因

関連する SQL パラメータファイルが見つかりません。

## 対処方法

管理者にお問い合わせください。

**16.1.45** 予期しない列挙形 {0} です。(IES 01001)

## 原因

新しい列挙型が宣言されましたが、これがサポートされていません。

## 対処方法

管理者にお問い合わせください。

## 16.1.46 ネストされた @aggregate\_aware 関数はサポートされていません。(IES 01002)

### 原因

式にネストされた @aggregate\_aware 関数が含まれています。

### 対処方法

作成者はビジネスレイヤを編集し、ネストされた @aggregate\_aware 関数を削除することができます。

## 16.1.47 循環参照：式の中の他のビジネスレイヤオブジェクトへの参照を確認してください。(IES 01003)

### 原因

式に循環参照が含まれます。

### 対処方法

作成者はビジネスレイヤを編集し、ビジネスレイヤオブジェクト間の循環参照を確認することができます。

## 16.1.48 @Select 参照が無効です。@Select 宣言の定義を確認してください。(IES 01004)

### 原因

式に @Select 関数への無効な参照が含まれています。

### 対処方法

作成者はビジネスレイヤを編集し、オブジェクト式における @Select 関数の使用を確認することができます。

## **16.1.49** @Where 参照が無効です。@Where 宣言の定義を確認してください。(IES 01005)

### 原因

式に @Where 関数への無効な参照が含まれています。

### 対処方法

作成者はビジネスレイヤを編集し、オブジェクト式における @Where 関数の使用を確認することができます。

## **16.1.50** ユニバースで使用できなくなったプロンプトパラメータがあります。(IES 01006)

### 原因

式に @Prompt 関数への無効な参照が含まれています。

### 対処方法

作成者はクエリまたはビジネスレイヤを編集し、オブジェクト式における @Prompt 関数の使用を確認することができます。

## **16.1.51** 階層参照が正しくありません。(IES 01007)

### 原因

クエリ内で宣言された階層にエラーが含まれています。

### 対処方法

クエリ式にエラーがないか確認します。

**16.1.52** ソース "{0}" のカタログを取得できません。データファンダーションの接続を確認してください。(IES 01008)

#### 原因

ソース "{0}" のカタログを取得できません。

#### 対処方法

データファンダーションのデータソースへの接続を確認します。

**16.1.53** プロンプトは検証することはできませんが、正しい可能性があります。値の一覧または少なくとも 1 つのデフォルト値をプロンプトに関連付けてください。(IES 01010)

#### 原因

プロンプトは検証することはできませんが、正しい可能性があります。

#### 対処方法

値の一覧または少なくとも 1 つのデフォルト値をプロンプトに関連付けてください。

**16.1.54** 100 レベルを超えるネストされた派生テーブルはサポートされていません。(IES 01015)

#### 原因

100 レベルを超えるネストされた派生テーブルがあります。

#### 対処方法

@DerivedTable 式を編集して、ネストレベルの数を減らします。

## 16.1.55 値の一覧 {0} の定義は無効です。一覧または現在の列が非表示になります。(IES 01025)

### 原因

値の一覧か現在の列が非表示にされています。

### 対処方法

ユニバースまたはビジネスレイヤで非表示にされているオブジェクトがないか確認します。オブジェクトをアクティブにするか、値の一覧の式を再定義します。

## 16.2 IES 01501 ~ IES 01513 グラフ実行エラー

### 16.2.1 データファンデーションにサイクルが含まれているため、検出を実行できません。[ループの表示] コマンドを使用して、サイクルを表示してください。エイリアスまたはコンテキストを検出する前に、サイクルに関連する結合のカーディナリティを変更してください。(IES 01501)

### 原因

データファンデーションにループが含まれています。

### 対処方法

インフォメーションデザインツールで、データファンデーションを編集し、[ループの表示] コマンドを使用して、データファンデーションでループを特定します。エイリアスまたはコンテキストを検出する前に、ループに関連する結合のカーディナリティを変更してください。

### 16.2.2 一部のテーブルにカーディナリティが逆の結合が 2 つ以上含まれているため、検出を実行できません: {0}。これらのテーブル間の結合を変更してください。(IES 01502)

### 原因

データファンデーションの一部のテーブルに、カーディナリティが逆の結合が 2 つ以上含まれています。

## 対処方法

インフォメーションデザインツールで、データファンデーションを編集し、これらのテーブル間の結合を変更します。

### **16.2.3** すべての結合カーディナリティが設定されていないため、検出を実行できません。すべての結合カーディナリティを設定してください。(IES 01504)

## 原因

データファンデーションですべての結合カーディナリティが設定されていません。

## 対処方法

インフォメーションデザインツールで、データファンデーションを編集し、すべての結合のカーディナリティを検出または設定します。

### **16.2.4** 一部のカーディナリティが多対多のため、自動検出は失敗します。(IES 01505)

## 原因

データファンデーションの一部の結合のカーディナリティが、多対多です。

## 対処方法

インフォメーションデザインツールで、データファンデーションを編集し、これらの結合のカーディナリティを変更します。



**16.2.5** ファクトテーブルが検出されなかったため、検出を実行できません。ファクトテーブルは、結合の「多」の側がファクトテーブルに接続された「多対一」結合によって常に他のテーブルに結合されます... (IES 01510)

## 原因

ファクトテーブルが検出されませんでした。ファクトテーブルは、結合の「多」の側がファクトテーブルに接続された多対一カーディナリティ結合によってのみ、他のテーブルと関係します。

## アクション

インフォメーションデザインツールで、データファンデーションを編集し、結合のカーディナリティを確認します。データファンデーション結合で現在設定されているカーディナリティか、またはデータベーススキーマの構築方法に問題がある可能性があります。

**16.2.6** スキーマ内にループが存在するため、検出を実行できません。[エイリアスの検出] コマンドを使用して、ループを解決するエイリアステーブルを検出してください。(IES 01512)

## 原因

データファンデーションにループが含まれています。

## 対処方法

インフォメーションデザインツールでデータファンデーションを編集し、[エイリアスの検出] コマンドを使用して、ループを解決するエイリアステーブルを検出します。

## 16.3 IES 10001 ～ IES 10903 クエリ実行エラー (Web Intelligence のみ)

### 16.3.1 式 '%1%' (場所 %2%) で構文エラーが発生しました。(IES 10001)

#### 原因

数式の示された場所に構文エラーがあります。

#### 対処方法

式を訂正します。

### 16.3.2 関数辞書の初期化中にエラーが発生しました。(IES 10002)

#### 原因

関数の辞書を開始できませんでした。

#### 対処方法

管理者に連絡してください。

### 16.3.3 オブジェクト '%1%' (場所: '%2%') がレポート内で一意ではありません。(IES 10005)

#### 原因

オブジェクトの名前は、レポートにある他のオブジェクトにすでに使用されています。

#### 対処方法

オブジェクトに完全修飾オブジェクト名を使用します。

### 16.3.4 オブジェクト '%1%' (場所: '%2%') がレポートに存在しません。(IES 10006)

#### 原因

構文が、レポートにもう存在しないオブジェクトを参照しています。

#### 対処方法

このオブジェクトへの参照を構文から削除してください。

### 16.3.5 '=' の後に予期しない空の式があります。(IES 10009)

#### 原因

式が不完全である可能性があります。

#### 対処方法

式の構文を確認し、修正します。

### 16.3.6 整数 '%1%' (場所 '%2%') が長すぎます。(IES 10013)

#### 原因

式の整数が最大制限を超えています。

#### 対処方法

式を編集します。

### 16.3.7 数 '%1%' (場所 '%2%') に、使用している地域設定と互換性のない形式が含まれています。(IES 10014)

#### 原因

数値 {数値} の形式が、使用しているコンピュータの地域設定と一致しません。

#### 対処方法

使用しているコンピュータの地域設定が一致するように、数値の形式を変更してください。

### 16.3.8 '%1%' (場所 '%2%') の後に引用符がありません。(IES 10016)

#### 原因

式に閉じ引用符がありません。

#### 対処方法

閉じ引用符を追加してください。

### 16.3.9 入力または出力コンテキストでディメンションの一覧が空です。(IES 10032)

#### 原因

入出力コンテキスト内のディメンションのリストが空になっています。

#### 対処方法

ディメンションのリストを指定してください。

**16.3.10** 変数 '%1%' は、依存式または '%2%' にリンクされている変数を持っているため、削除できません。(IES 10033)

#### 原因

この変数は他の変数または式に参照されているため、削除できません。

#### 対処方法

変数を削除する前に、参照元の変数または式を削除してください。

**16.3.11** すでに存在する変数名を使用して、変数を作成、または変数名を更新しようとしてしました。(IES 10034)

#### 原因

新しい変数の名前、または変更する名前として、既に存在する変数名を使おうとしてしました。

#### 対処方法

まだ存在しない変数名を選択してください。

**16.3.12** 日付または時刻の形式 '%1%' (場所 '%2%') が有効ではありません。(IES 10035)

#### 原因

式に、無効な日付と時間の形式(例: "bb/MM/yyyy")が含まれています。

#### 対処方法

式に有効な日付/時間形式を指定します。

### 16.3.13 式、または部分式（場所 '%2%'）が有効ではありません。（IES 10036）

#### 原因

式に、無効な表現式または補助表現式が含まれています。

#### 対処方法

有効な表現式または補助表現式を指定します。

### 16.3.14 '%1%' 関数の式または部分式（場所 '%2%'）で、無効なデータ型が使用されています。（IES 10037）

#### 原因

式に、無効なデータ型が含まれています。（例えば、日付を要求する関数に文字列を渡そうとしました。）

#### 対処方法

式に有効なデータ型を使用します。

### 16.3.15 変数名に、無効な文字 '%1%'（場所： '%2%'）が見つかりました。（IES 10038）

#### 原因

変数名の文字{文字}が無効です。

#### 対処方法

変数名から{文字}を削除します。

### 16.3.16 変数 '%1%' の数式に、同じショート名を持つ変数への参照が含まれています。(IES 10040)

#### 原因

変数の式が、同じショートネームを持つ他の変数を参照しています。

#### アクション

この問題を解決するために、同じショートネームを持つ変数への参照を式から削除します。

### 16.3.17 場所 '%2%' に、誤った比較演算子 (<、>、<>、<=、>=、=) が複数使用されています。(IES 10041)

#### 原因

複数の比較演算子が正しく使用されていません。(例：if (1<2=3;0;-1))

#### 対処方法

比較演算子が正しく使用されるよう、式の構造を変更してください。

### 16.3.18 式が '%1%' を参照している変数をその変数 '%1%' 自体の式が参照しているため、循環参照が発生しています。(IES 10042)

#### 原因

式に循環参照が含まれています。

#### 対処方法

循環参照を削除してください。

### 16.3.19 関数 '%1%' (場所 %2%) の後に、開いた括弧がありません。(IES 10060)

#### 原因

エラーメッセージで指定された場所に、開き括弧がありません。

#### アクション

指定された場所に開き括弧を追加してください。

### 16.3.20 関数 '%1%' には引数がないか、または場所 %2% で閉じる括弧がありません。(IES 10061)

#### 原因

式に引数または閉じ括弧がありません。

#### 対処方法

引数または閉じ括弧を追加します。

### 16.3.21 関数 '%1%' (場所 %2%) の引数の前に ';' がありません。(IES 10062)

#### 原因

式の構文が正しくありません。

#### 対処方法

構文を確認し、式を修正します。



### 16.3.22 関数 '%1%' (場所 %2%) に ';' または閉じる括弧がありません。(IES 10063)

#### 原因

構文が正しくありません。

#### 対処方法

構文を確認し、式を修正します。

### 16.3.23 リスト '%1%' (場所 %2%) に ';' または閉じる括弧がありません。(IES 10064)

#### 原因

式にセミコロンまたは閉じ括弧がありません。

#### 対処方法

セミコロンまたは閉じ括弧を追加します。

### 16.3.24 関数 '%1%' (場所: %2%) に閉じる括弧がありません。(IES 10065)

#### 原因

構文が正しくありません。

#### 対処方法

式を確認し、構文を修正します。

### **16.3.25** 関数 '%1%' (場所 %2%) に集計演算子または閉じる括弧がありません。(IES 10066)

#### 原因

構文が正しくありません。

#### 対処方法

式を確認し、構文を修正します。

### **16.3.26** '%1%' (場所 %2%) に演算子または閉じる括弧がありません。(IES 10067)

#### 原因

構文が正しくありません。

#### 対処方法

式を確認し、構文を修正します。

### **16.3.27** '%1%' (場所 %2%) にリスト要素がありません。(IES 10068)

#### 原因

構文が正しくありません。要素がありません。

#### 対処方法

式を確認し、問題を解決します。

### 16.3.28 ' %1%' (場所 %2%) にオブジェクト識別子がありません。(IES 10069)

#### 原因

式にオブジェクト識別子がありません。

#### 対処方法

式を訂正します。

### 16.3.29 式 ' %1%' (場所 %2%) にオペランドがないか、または不適切なオペランドがあります。(IES 10070)

#### 原因

オペランドに互換性がないか、またはオペランドがありません。

#### 対処方法

構文を確認し、式を修正します。

### 16.3.30 場所 %2% の計算コンテキスト ' %1%' が正しくありません。(IES 10071)

#### 原因

計算コンテキストが正しくありません。

#### 対処方法

式の構文を確認し、修正します。

### **16.3.31** 場所 %2% のリセットコンテキストが正しくありません。(IES 10072)

#### **原因**

式には不正なリセットコンテキストが含まれます。

#### **対処方法**

リセットコンテキストを修正します。

### **16.3.32** 関数 '%1%' の Where 句が無効です: 場所 %2% にディメンションが見つかりません。(IES 10073)

#### **原因**

式が不完全です。

#### **対処方法**

式の構文をチェックし、必要なディメンションが存在することを確認します。

### **16.3.33** オブジェクト '%1%' (場所 %2%) に互換性がありません。(IES 10076)

#### **原因**

このタイプのオブジェクトは使用できません。

#### **対処方法**

正しいオブジェクトが宣言されていることを確認してください。

### **16.3.34** オブジェクト '%1%' (場所 %2%) に互換性がありません。(IES 10077)

#### **原因**

式に互換性のないオブジェクトが含まれています。

#### **対処方法**

式を訂正します。

### **16.3.35** 文字 '%1%' (場所 %2%) が無効です。(IES 10080)

#### **原因**

式に無効な文字があります。

#### **対処方法**

式の構文を確認します。

### **16.3.36** 文字列 '%1%' (場所 %2%) が無効です。(IES 10082)

#### **原因**

式に無効な文字列が含まれています。

#### **対処方法**

文字列を修正します。

### 16.3.37 変数 '%1%' の資格を変更できません。(IES 10083)

#### 原因

変数の資格を変更することはできません。たとえば、定義に集計が含まれている場合は、ディメンションに対するメジャーを変更できません。

#### 対処方法

適切な資格で新しい変数を作成します。

### 16.3.38 '%1%' (場所 %2%) にはオブジェクトメンバーが必要です。(IES 10084)

#### 原因

オブジェクトメンバーがありません。

#### 対処方法

式の構文を確認し、必要に応じて修正します。

### 16.3.39 メンバー '%1%' (場所 %2%) が無効です。(IES 10085)

#### 原因

このタイプのメンバーは、このコンテキストでは使用できません。

#### 対処方法

式を修正します。

### **16.3.40** 定義の設定が無効です。(IES 10086)

#### 原因

クエリに無効なセット定義が含まれています。

#### 対処方法

クエリを確認します。

### **16.3.41** カスタム関数をロードできませんでした。(IES 10100)

#### 原因

カスタム関数ライブラリは、適切に定義されていないためロードすることができませんでした。これは、無効な XML、重複関数名、または重複関数 ID が原因である可能性があります。

#### 対処方法

トレースログで詳細を調べて、その詳細を管理者に提供してください。

### **16.3.42** ソースドキュメントは使用できません。(IES 10501)

#### 原因

アプリケーションでドキュメントを取得できませんでした。

#### アクション

ドキュメントが移動または削除されていないことを確認します。

### **16.3.43 リポジトリからソースドキュメントを取得できません。 (IES 10502)**

#### **原因**

アプリケーションでドキュメントを取得できませんでした。

#### **アクション**

ドキュメントがまだリポジトリに存在することを確認します。

### **16.3.44 ドキュメントを読み取ることができません。アプリケーションではドキュメント形式を認識できません。(IES 10503)**

#### **原因**

アプリケーションで、ドキュメント形式を読み取ることができません。

#### **アクション**

ドキュメント形式のリセットを試行します。



### 16.3.45 ソースドキュメント '{DocName}' はソースとして使用できません。(IES 10510)

#### 原因

以下のいずれかの理由により、ドキュメントをソースとして使用することができません。

- ドキュメントがオンラインモードであるか、またはドキュメントに [起動時に最新表示] オプションがありません。
- 選択したドキュメントの "レポートのデータをエクスポートする" 権限が拒否されました。
- ドキュメントでループ依存関係が生じました。

#### アクション

考えられる原因を確認して、問題を修正するか、管理者に連絡してください。

### 16.3.46 ソースドキュメント '{DocName}' は '起動時に最新表示' されます。ソースとして使用できません。(IES 10511)

#### 原因

ドキュメントには [起動時に最新表示] プロパティがあります。

#### アクション

[起動時に最新表示] プロパティをオフにします。

### **16.3.47** ソースドキュメント '{DocName}' は 'オンライン' です。 ソースとして使用できません。 (IES 10512)

#### 原因

ドキュメントがオンラインモードです。

#### アクション

管理者にお問い合わせください。

### **16.3.48** ソースドキュメント '{DocName}' は無効です。循環依存 はサポートされていません。 (IES 10513)

#### 原因

この文書をソースとして選択すると、ループ依存関係が生じます。

#### アクション

別のドキュメントをソースとして選択します。

### **16.3.49** クエリオブジェクト '{ObjName}' はソースドキュメント にありません。 (IES 10520)

#### 原因

ソースドキュメントのオブジェクトが見つかりません。

## アクション

見つからないオブジェクトを探すか、クエリから削除します。

**16.3.50** 使用するデータベースサーバは Both および Except 演算子をサポートしていません。(IES 10701)

## 原因

このドキュメントのベースとなっているデータベースは Both および Except 演算子をサポートしていません。このため、クエリにフィルタを定義するときは、Both または Except 演算子は使用できません。

## 対処方法

クエリフィルタから演算子を削除してください。

**16.3.51** フィルタが結果オブジェクトと互換性のないオブジェクトで定義されています。(IES 10702)

## 原因

クエリフィルタの1つがオブジェクトで定義されましたが、このオブジェクトはクエリによって返されたすべての結果オブジェクトと互換性がありません。

## 対処方法

クエリフィルタまたは結果オブジェクトを削除してください。

**16.3.52** '{object}' に基づくクエリフィルタの数値が無効です。(IES 10703)

## 原因

クエリフィルタに無効な数値を指定しました。

## 対処方法

クエリフィルタを編集し、有効な数値を指定します。

### **16.3.53** プロンプト '{prompt}' のデータが無効です。(IES 1070) (IES 10704)

## 原因

クエリフィルタに無効な日付を指定しました。

## 対処方法

クエリフィルタを編集し、有効な日付を指定します。

### **16.3.54** プロンプト '{prompt}' には無効な数値が含まれています。(IES 10705)

## 原因

プロンプトに無効な数値を指定しました。

## 対処方法

有効な数値を指定します。

### **16.3.55** プロンプト '{prompt}' のデータが無効です。(IES 10706)

## 原因

プロンプトに無効な日付を指定しました。

## 対処方法

プロンプトを編集し、有効な日付を指定します。

### 16.3.56 サーバがクエリの SQL を構築できません。(IES 10707)

#### 原因

データベースに対して実行するようにクエリを SQL に変換できません。

#### 対処方法

クエリを再構築するか、管理者に連絡してください。

### 16.3.57 プロンプト '{PromptName}' のオブジェクト '{ObjName}' は値の一覧を表示できません。 クエリをプロンプトから削除するか、管理者に連絡して、オブジェクトのプロパティタブの「一覧 から選択」オプションをクリアしてください。(IES 10708)

#### 原因

プロンプト内のオブジェクトが、値の一覧を表示できなくなりました。

#### 対処方法

プロンプトを削除するか、管理者に一覧から選択されていない値のプロンプトでの受け入れを許可するよう依頼します。

### 16.3.58 この名前のクラスがすでに存在します: '{ClassName}'。(IES 10709)

#### 原因

同じ名前のクラスを 2 つ使用することはできません。

#### 対処方法

クラスに対して別の名前を使用します。

### 16.3.59 このドキュメントを最新表示する権限がありません。(IES 10801)

#### 原因

現在のユーザプロファイルでは、このドキュメントのクエリに含まれているオブジェクトのいずれかのデータを表示することができません。

#### アクション

最新表示をキャンセルするか、ドキュメントの最新表示に必要なセキュリティ権限を管理者に依頼してください。

### 16.3.60 このドキュメントのデータソースが更新されました。次回ドキュメントを最新表示するときのパフォーマンスを向上させるために、ドキュメントを保存することをお奨めします。(IES 10805)

#### 原因

このドキュメントで使用されるユニバースの1つが更新され、ドキュメントを変換する必要があります。

#### アクション

ドキュメントを保存して、変換を永続化します。

### 16.3.61 クエリ SQL には {nbWanted} 列ではなく {nbHaving} 列があります。(IES 10810)

#### 原因

クエリによって生成された SQL の列数が無効です

## 対処方法

管理者に連絡してください。

**16.3.62** クエリの列のデータ型が正しくありません。データ型を変更してからもう一度実行してください。  
(IES 10811)

## 原因

クエリ内の列のデータ型が無効です。

## アクション

管理者に連絡してください。

**16.3.63** カスタム SQL とオプションプロンプトの互換性がありません。オプションプロンプトを削除してからもう一度実行してください。(IES 10812)

## 原因

オプションプロンプトは、カスタム SQL ではサポートされていません。

## アクション

オプションプロンプトを削除します。

**16.3.64** 複合クエリでは互換性のないオブジェクトがサポートされていません。クエリから互換性のないオブジェクトを削除してください。(IES 10820)

## 原因

複合クエリに非互換オブジェクトが含まれています。

## アクション

複合クエリを編集し、非互換オブジェクトを削除します。

**16.3.65** '{dp\_name}' データプロバイダ内のサブクエリに、見つからないオブジェクトがあります。  
(IES 10830)

## 原因

{dp\_name} データプロバイダのサブクエリで、クエリ SQL の生成に必要なオブジェクトが見つかりません。

## 対処方法

サブクエリを編集し、欠落しているオブジェクトを追加します。

**16.3.66** {dp\_name}' データプロバイダ内の順位に、フィルタが適用されたオブジェクトが見つかりません。(IES 10831)

## 原因

順位で、フィルタが適用されたオブジェクトが見つかりません。

## 対処方法

順位を編集し、フィルタが適用されたオブジェクトを追加します。

**16.3.67** '{dp\_name}' データプロバイダ内の順位に、順位に基づくオブジェクトが見つかりません。  
(IES 10832)

## 原因

順位で、順位に基づくオブジェクトが見つかりません。



## 対処方法

順位を編集し、順位を基にしたオブジェクトを追加します。

### **16.3.68** ドキュメントをロードできません。(IES 10833)

#### 原因

Interactive Analysis ドキュメントをロードできませんでした。

## 対処方法

管理者に連絡してください。

### **16.3.69** 追加のコンテキスト解決はオプションのプロンプトでサポートされません。(IES 10834)

#### 原因

クエリ内のオプションプロンプトは、サポートされていない追加のクエリコンテキスト解決を生成します。

## 対処方法

オプションプロンプトを削除するか、必須にします。

### **16.3.70** 列 "{col\_name}" に無効なデータがあります。(IES 10840)

#### 原因

クエリが参照しているデータベース列に無効なデータが含まれています。

## 対処方法

管理者に連絡してください。

### 16.3.71 列 "{col\_name}" に無効な UTF-8 文字列があります。(IES 10841)

#### 原因

クエリが参照しているデータベース列に無効なデータが含まれています。

#### 対処方法

管理者に連絡してください。

### 16.3.72 データ最新表示アクションを完了することができません。これは、最大数の同時データ最新表示アクションがサーバ {nb\_thread} / {nb\_max\_thread} で処理中であるためです。後でもう一度実行してください。(IES 10845)

#### 原因

使用したデータ最新表示オプションが、許可されているデータ最新表示アクションの最大数を超過しています。

#### アクション

待機した後でもう一度データ最新表示アクションを実行してください。

### 16.3.73 DB エラー: {error\_db}。(IES 10846)

#### 原因

データベースがメッセージに表示されているエラーを返しました。

#### アクション

発生したエラーの詳細についてはシステム管理者にお問い合わせください。

### 16.3.74 クエリが固定時間制限を超過: {error\_db}。(IES 10847)

#### 原因

時間がかかりすぎたため、クエリがデータを返せませんでした。

#### アクション

クエリをもう一度実行します。問題が解決しない場合は、管理者に連絡してください。

### 16.3.75 クエリの作成や更新に必要なファイルがファイルシステムにありません。ファイル "{filename}" が見つかりません。(IES 10850)

#### 原因

システムでファイル {filename} が見つかりません。

#### 対処方法

{filename} の場所を確認するか、管理者に連絡してください。

### 16.3.76 クエリの最新表示に必要なファイルがファイルシステムにありません。ファイル "{filename}" が見つかりません。(IES 10851)

#### 原因

ファイルが存在しないか、削除されたか、または名前が変更された可能性があります。

#### 対処方法

管理者に確認してください。

**16.3.77** このファイルでクエリを最新表示できません。ファイルシステムにファイル "{filename}" がありません。(IES 10852)

## 原因

クエリの前回実行時以降にファイルが変更された可能性があります。

## 対処方法

管理者またはユニバース作成者に、ファイルが変更されていないかどうかを確認します。

**16.3.78** 個人用データプロバイダでエラーが発生しました: {message}。(IES 10853)

## 原因

個人用データプロバイダにデータを供給するファイルが壊れているか、ありません。

## 対処方法

ファイルが存在し、それにエラーがないことを確認します。

**16.3.79** クエリを最新表示できません。"{dpName}" の構造が一致しません。(IES 10854)

## 原因

データベースによって返された列がデータプロバイダオブジェクトの列と一致しません。

## 対処方法

Web Intelligence ドキュメントで、[クエリパネル]を開き、クエリのオブジェクトがデータベースと比較して適切であることを確認します。

### 16.3.80 Excel 個人用データプロバイダを作成したり、更新したりできません: ファイルパスが無効です。(IES 10870)

#### 原因

ファイルシステムで Excel ファイルが見つかりませんでした。

#### 対処方法

管理者に連絡してください。

### 16.3.81 Excel 個人用データプロバイダを作成したり、更新したりできません: 指定範囲を取得できません。(IES 10872) (IES 10871)

#### 原因

ワークブックが保護されているため、Excel 個人用データプロバイダを作成または更新することができませんでした。

#### 対処方法

Excel ワークブックの保護を解除するか、Excel ファイルにアクセスできない場合は管理者に連絡してください。

### 16.3.82 Excel 個人用データプロバイダを作成したり、更新したりできません: ワークブックを開くことができません。(IES 10872)

#### 原因

Excel ファイルを開くことができませんでした。

#### 対処方法

Excel ファイルを確認するか、管理者に連絡してください。

### **16.3.83** Excel 個人用データプロバイダを作成したり、更新したりできません：指定範囲を取得できません。(IES 10873)

#### 原因

指定したセルの範囲からデータを取得できませんでした。

#### 対処方法

Excel ファイルを確認するか、管理者に連絡してください。

### **16.3.84** Excel 個人用データプロバイダを作成したり、更新したりできません：ファイルからデータを取得できません。(IES 10874)

#### 原因

Excel ファイルからデータを取得できませんでした。

#### 対処方法

ファイルを確認するか、管理者に連絡してください。

### **16.3.85** Excel 個人用データプロバイダを作成したり、更新したりできません：ファイルからデータを取得できません。(IES 10875)

#### 原因

Excel ファイルからデータを取得できませんでした。

#### 対処方法

ファイルを確認するか、管理者に連絡してください。

### **16.3.86** Excel 個人用データプロバイダを作成したり、更新したりできません：データセットでの反復子を構築できません。(IES 10876)

#### 原因

Excel ファイルからのデータの取得中にエラーが発生しました。

#### 対処方法

ファイルを確認するか、管理者に連絡してください。

### **16.3.87** Excel 個人用データプロバイダを作成したり、更新したりできません：利用できるワークシートがありません。(IES 10877)

#### 原因

Excel ファイルでワークシートが見つかりませんでした。

#### 対処方法

ファイルを確認するか、管理者に連絡してください。

### **16.3.88** Excel 個人用データプロバイダを作成したり、更新したりできません：ワークシートのリストを取得できません。(IES 10878)

#### 原因

Excel ファイルからワークシートのリストを取得できませんでした。

#### 対処方法

ファイルを確認するか、管理者に連絡してください。

### **16.3.89** Excel 個人用データプロバイダを作成したり、更新したりできません：選択した範囲から無効なデータを取得しました。(IES 10879)

#### 原因

Excel ファイルの範囲から取得したデータが無効です。

#### 対処方法

ファイルを確認するか、管理者に連絡してください。

### **16.3.90** Excel 個人用データプロバイダを作成したり、更新したりできません：選択したワークシートが無効です。(IES 10880)

#### 原因

Excel ワークシートが無効です。

#### 対処方法

Excel ファイルを確認するか、管理者に連絡してください。

### **16.3.91** Excel 個人用データプロバイダを作成したり、更新したりできません：データサンプリングの取得中にエラーが発生しました。(IES 10881)

#### 原因

Excel ファイルからのデータの取得中にエラーが発生しました。

#### 対処方法

ファイルを確認するか、管理者に連絡してください。



### **16.3.92** Excel 個人用データプロバイダを作成したり、更新したりできません：データ反復子の作成中にエラーが発生しました。(IES 10882)

#### 原因

Excel ファイルからのデータの取得中にエラーが発生しました。

#### 対処方法

管理者に連絡してください。

### **16.3.93** Excel 個人用データプロバイダを作成したり、更新したりできません：データの取得中にエラーが発生しました。(IES 10883)

#### 原因

Excel ファイルからのデータの取得中にエラーが発生しました。

#### 対処方法

管理者に連絡してください。

### **16.3.94** Excel 個人用データプロバイダを作成したり、更新したりできません：内部エラーが発生しました。(IES 10884)

#### 原因

Excel ファイルからのデータの取得中にエラーが発生しました。

#### 対処方法

管理者に連絡してください。

### **16.3.95** Excel 個人用データプロバイダを作成したり、更新したりできません：範囲選択が無効です。 (IES 10885)

#### 原因

選択された範囲が無効であるため、Excel ファイルからのデータの取得中にエラーが発生しました。

#### 対処方法

ファイルを確認するか、管理者に連絡してください。

### **16.3.96** Excel 個人用データプロバイダを作成したり、更新したりできません：範囲選択がワークシートと一致していません。(IES 10886)

#### 原因

選択された範囲がワークシートと一致しないため、Excel ファイルからのデータの取得中にエラーが発生しました。

#### 対処方法

ファイルを確認するか、管理者に連絡してください。

### **16.3.97** 異なる種類を持つ別のクエリのオブジェクトを参照するオブジェクトの条件。(IES 10887)

#### 原因

別のクエリ内のオブジェクトのデータ型が、条件内のオブジェクトのデータ型と異なります。

#### 対処方法

条件を訂正してください。

### **16.3.98** 存在しない別のクエリのオブジェクトを参照するオブジェクトの条件。(IES 10888)

#### **原因**

条件によって参照されているオブジェクトまたはクエリが存在しません。

#### **対処方法**

条件を訂正してください。

### **16.3.99** クエリに循環依存があります。(IES 10889)

#### **原因**

クエリに循環依存関係があります。

#### **対処方法**

クエリを編集して循環依存関係を削除してください。

### **16.3.100** ユニバースが更新されています。ドキュメントを保存して同期してください。(IES 10901)

#### **原因**

データベースがメッセージに表示されているエラーを返しました。

#### **アクション**

発生したエラーの詳細についてはシステム管理者にお問い合わせください。

### **16.3.101** クエリが固定時間制限を超過: {error\_db}。(IES 10902)

#### **原因**

時間がかかりすぎたため、クエリがデータを返せませんでした。

#### **対処方法**

クエリをもう一度実行します。問題が解決しない場合は、管理者に連絡してください。

### **16.3.102** 無効なデータベースフィールドタイプ: {db\_fieldname}。(IES 10903)

#### **原因**

メッセージに表示されているデータベースフィールドに無効なデータタイプが含まれています。

#### **対処方法**

管理者に連絡してください。

## 17 インストール (INS) エラーメッセージ

インストール (INS) には、以下のエラーメッセージのカテゴリが含まれています。

範囲	カテゴリ
INS 00000 ～ 00002	インストール (INS)
INS 00286 ～ 00300	インストール (INS)
INS 00301 ～ 00305	インストール (INS)

### 17.1 INS 00000 ～ 00002

#### 17.1.1 管理権限を持つユーザアカウントを使用してください。(INS00001)

##### 原因

ユーザアカウントに十分な権限がありません。

##### 対処方法

管理者アカウントでログオンします。

### 17.2 INS 00286 ～ 00293

#### 17.2.1 この製品を BI プラットフォームサービスと同じマシンにインストールすることはできません。

INS000286 (INS00286)

##### 原因

このマシンには、情報プラットフォームサービスソフトウェアがインストールされています。

## 対処方法

SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォームをインストールする前に、情報プラットフォームサービスをアンインストールする必要があります。

### 17.2.2 管理権限を持つユーザアカウントを使用してください。INS00287

#### 原因

Windows ユーザアカウントに十分な権限がありません。

## 対処方法

管理者アカウントでログオンします。

### 17.2.3 この製品をルートユーザとしてインストールすることはできません。INS00288

#### 原因

UNIX ユーザアカウントにはルート権限があります。

## 対処方法

ルート権限のないユーザとしてログオンします。

### 17.2.4 前に実行したインストールを完了するには再起動が必要です。Windows を再起動してからインストールを再実行してください。INS00289

#### 原因

このインストールの前提条件では、次のレジストリキーの内容がチェックされます。

HKEY\_LOCAL\_MACHINE¥SYSTEM¥CurrentControlSet¥Control¥Session  
Manager¥PendingFileRenameOperations

このキーが設定されている場合は、保留されている、再起動が必要なファイルの変更があります。プログラムインストール中、またはバックグラウンド更新が実行されているときに、保留されている再起動がトリガされる可能性があります。

## 対処方法

インストールプログラムを実行する前にマシンを再起動します。この状況を解消するためには、複数回の再起動の試行が必要な場合があります。再起動しても問題が解決しない場合は、レジストリエントリの削除を試みてから、インストールを続行してください。

### 17.2.5 先に SAP Crystal Reports Server をアンインストールしてから、同じマシンに

#product.boe64\_name# をインストールしてください。INS00290

## 原因

このマシンには、Report Application Server (RAS) がインストールされています。

## 対処方法

SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォームをインストールする前に、RAS をアンインストールする必要があります。

### 17.2.6 このマシンには #product.boe64\_name# をインストールできません。 INS00291

## 原因

SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォームまたは SAP Crystal Server がすでにインストールされています。

## アクション

情報プラットフォームサービスをインストールする前に、SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォームまたは SAP Crystal Server をアンインストールする必要があります。

**17.2.7** この製品は、64 ビットオペレーティングシステム (OS) にインストールする必要があります。使用している OS がこの要件を満たしていることを確認してください。INS00292

#### 原因

このオペレーティングシステムは 64 ビットではありません。

#### 対処方法

インストールは、64 ビットオペレーティングシステムでのみ実行できます。

**17.2.8** localhost (127.0.0.1) またはマシンのホスト名が PING に応答しません。INS00293

#### 原因

localhost または 127.0.0.1 に接続できません。

#### 対処方法

hosts ファイルが有効で、ローカルホストと 127.0.0.1 に接続できることを確認します。

**17.2.9** /tmp フォルダに十分な空きディスク領域がありません。(INS00295)

#### 原因

/tmp に十分な空き領域がありません。

#### アクション

以下のガイドラインに従って、ディスクの空き領域を増やします。

プラットフォーム	必要なディスクの空き領域
Linux	100 MB



プラットフォーム	必要なディスクの空き領域
AIX	190 MB
Solaris	100 MB

## 17.2.10 UID および GID は 65536 以下である必要があります。INS000296 (INS00296)

### 原因

DB2 では、65536 を超える UID または GID によるインストールはサポートされていません。

### 対処方法

65536 未満の UID または GID を持つユーザがインストールを実行してください。

## 17.2.11 Microsoft .NET Framework 3.5 以上をインストールしてください。(INS00297)

### 原因

Microsoft .NET Framework 3.5 以降がインストールされていません。

### 対処方法

Microsoft .NET Framework 3.5 以降をインストールします。

## 17.2.12 Microsoft Visual Studio 2005 Tools for Office Second Edition Runtime が検出されませんでした。インストールしてください。(INS00299)

### 原因

Microsoft Visual Studio 2005 Tools for Office Second Edition Runtime がインストールされていません。

## 対処方法

Microsoft Visual Studio 2005 Tools for Office Second Edition Runtime をインストールします。

### **17.2.13** Microsoft Office 2003 以上をインストールしてください。(INS00300)

## 原因

Microsoft Office 2003 以降がインストールされていません。

## 対処方法

Microsoft Office 2003 以降をインストールします。

## **17.3 INS 00301 ～ 00340**

### **17.3.1** Microsoft SharePoint 2007 以上または Windows SharePoint Services 3.0 がありません (INS00301)

## 原因

Microsoft SharePoint 2007 以上または Windows SharePoint Services 3.0 がありません。

## アクション

Microsoft SharePoint 2007 以上または Windows SharePoint Services 3.0 をインストールする必要があります。

### **17.3.2** #productname# #product\_version# はこの更新より新しいバージョンのため適用できません。継続しないことを推奨します。(INS00302)

## 原因

Windows SharePoint Service Administration サービスが実行されていません。

## 対処方法

Windows SharePoint Service Administration サービスを起動します。

### **17.3.3** Microsoft Office 2007 以上のアップデート (KB907417) が見つかりません (INS00304)

#### 原因

Microsoft Office 2007 以上の必須のパッチアップデートがインストールされていません。

#### アクション

Microsoft Office 2003 以上の必須のパッチアップデートをインストールして、インストールを続行します。

### **17.3.4** この製品をインストールする前に、Microsoft Visual Studio 2010 をインストールしてください。 (INS00305)

#### 原因

Microsoft Visual Studio 2010 がインストールされていません。

## 対処方法

Microsoft Visual Studio 2010 をインストールします。

### 17.3.5 インストールを続行できません。インストールプログラムが、環境で定義された ODBC システム情報ファイルへの書き込みを実行できません: [OdbcIniPath]。バンドルされたデータベースに接続するには、インストールプログラムがこのファイルに DSN エントリを書き込む必要があります。 (INS00340)

#### 原因

UNIX における CMS および監査データベースのバンドルされた SQL Anywhere のインストール中に、インストールプログラムは新しい DSN エントリを検索し、既存の ODBC システム情報ファイルに書き込もうとします。このエラーは、次のうちのいずれかの状況が発生した場合に発生します。

- ODBC システム情報ファイルがインストールプログラムによって検出されたものの、書き込みができない。
- ODBC システム情報ファイルが \$ODBCINI または \$ODBC\_INI 環境変数で指定された場所で見つからない。

#### 対処方法

インストールプログラムを実行しているユーザアカウントに、マシン上の既存の ODBC システム情報ファイルに対する書き込み権限があることを確認してください。インストールプログラムによって、以下がチェックされます。

- \$ODBCINI によって指定されたファイル名およびパス
- \$ODBC\_INI によって指定されたファイル名およびパス
- \$ODBCHOME によって指定されたパスにある .odbc.ini という名前のファイル
- \$HOME によって指定されたパスまたはユーザアカウントのホームディレクトリにある .odbc.ini という名前のファイル
- \$PATH によって指定された各パスにある .odbc.ini という名前のファイル

また、\$ODBCINI または \$ODBC\_INI 変数が無効なファイル名およびパスに設定されている場合、変数を書き込み可能な有効ファイルに再設定するか、または単純に変数の設定を解除します。既存のファイルが検出または設定されていない場合、インストールプログラムにより、<<BIP\_INSTALL\_DIR>>/sap\_bobj/enterprise\_xi40/odbc.ini に新しい DSN エントリを含むファイルが作成されます。

問題が解決したら、インストールプログラムを再実行します。

## 18 プロモーションマネジメントコンソールのエラーメッセージ

ライフサイクルマネジメントコンソールのエラーメッセージは、次のカテゴリに分類されます。

範囲	カテゴリ
LMC00001 - LMC00008	プロモーションマネジメントのエラーメッセージ
LMS00001 - LMS00027	
LMS0022	
LMS00101 - LMS00109	
VDC00001 - VDC00010	Visual Difference のエラーメッセージ
VDS00001 - VDS00029	

### 18.1 ライフサイクルマネジメントのエラーメッセージ

#### 18.1.1 LCM CMS が NULL か、ログインされていません (LMC 00001)

##### 原因

LCM CMS の詳細が入力されていないか、ログインしていません。

##### 対処方法

LCM CMS の詳細を入力するか、LCM CMS にログインします。

#### 18.1.2 CMS が NULL か、ログインされていません。CMS はソースと出力先のどちらかになります (LMC 00002)

##### 原因

CMS (ソース/出力先) の詳細が入力されていないか、ログインしていません。

## 対処方法

CMS(ソース/出力先)の詳細を入力するか、ソース/出力先 CMS にログインします。

### **18.1.3** ユーザ名が NULL または空です (LMC 00003)

#### 原因

ユーザ名が入力されていません。

## 対処方法

有効なユーザ名を入力します。

### **18.1.4** パスワードが NULL または空です (LMC 00004)

#### 原因

パスワードが入力されていません。

## 対処方法

正しいパスワードを入力します。

### **18.1.5** エクスポートするリソースがありません (LMC 00005)

#### 原因

BIAR ファイルが見つからないか、空です。

## 対処方法

有効な BIAR ファイルを選択します。

### **18.1.6** ソース CMS が NULL か、ログインされていません (LMC 00006)

#### **原因**

ソース CMS の詳細が入力されていないか、ログインしていません。

#### **対処方法**

ソース CMS の詳細を入力するか、ソース CMS にログインします。

### **18.1.7** 出力先 CMS が NULL か、ログインされていません (LMC 00007)

#### **原因**

出力先 CMS の詳細が入力されていないか、ログインしていません。

#### **対処方法**

出力先 CMS の詳細を入力するか、出力先 CMS にログインします。

### **18.1.8** 出力先はソースと同じ場所にはできません。 (LMC 00008)

#### **原因**

ソース CMS が出力先 CMS と同じです。

#### **対処方法**

ソース CMS とは異なる出力先 CMS を選択します。

### **18.1.9** BusinessObjects LifeCycle Manager へのログインに失敗しました。(LMS 00001)

#### **原因**

ユーザ名とパスワードの両方またはいずれかが無効である可能性があります。

#### **対処方法**

有効なユーザ名/パスワードを入力します。

### **18.1.10** SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォームライフサイクルマネジメントコンソールからのログオフに失敗しました。(LMS 00002)

#### **原因**

CMS がダウンしている可能性があります。

#### **対処方法**

なし

### **18.1.11** ジョブにゼロより小さい親 ID が含まれています。このジョブは無効です。(LMS 00003)

#### **原因**

ジョブの親 ID が無効です。

#### **対処方法**

ジョブの有効な親 ID を入力します。



### **18.1.12** ジョブを作成できませんでした。スタックトレースを参照してください (LMS 00004)

#### **原因**

LCM CMS がダウンしている可能性があります。その他の原因については、スタックトレースを参照してください。

#### **対処方法**

LCM CMS を再起動するか、スタックトレースを参照してそれに従って修正します。

### **18.1.13** ジョブを保存できませんでした (LMS 00005)

#### **原因**

LCM CMS がダウンしている可能性があります。その他の原因については、スタックトレースを参照してください。

#### **対処方法**

LCM CMS を再起動するか、スタックトレースを参照してそれに従って修正します。

### **18.1.14** 既存のジョブからジョブを作成できませんでした (LMS 00006)

#### **原因**

ジョブが存在しない可能性があります。

#### **対処方法**

有効なジョブを選択します。

### **18.1.15** CMS（ソース/出力先）にログインできませんでした（LMS 00007）

#### 原因

ユーザ名とパスワードの両方またはいずれかが無効である可能性があります。

#### 対処方法

有効なユーザ名/パスワードを入力します。

### **18.1.16** CMS（ソース/出力先）からログオフできませんでした（LMS 00008）

#### 原因

CMS がダウンしている可能性があります。

#### 対処方法

なし

### **18.1.17** ジョブが正常に進行しませんでした（LMS 00009）

#### 原因

正確な原因については、スタックトレースを参照してください。

#### 対処方法

スタックトレースを参照し、適切な操作を実行します。

**18.1.18** ジョブが実行できなかった理由を特定するため、スタックトレースをチェックしてください (LMS 00010)

#### 原因

スケジュールプロセスがダウンしている可能性があります。

#### 対処方法

スケジュールプロセスを再起動します。

**18.1.19** ジョブをスケジュールできませんでした (LMS 00011)

#### 原因

スケジュールプロセスがダウンしている可能性があります。

#### 対処方法

スケジュールプロセスを再起動します。

**18.1.20** ジョブを取得できません。有効な LCM ジョブを選択してください。 (LMS 00012)

#### 原因

ジョブが存在しない可能性があります。

#### 対処方法

有効なジョブを選択します。

### **18.1.21** 名前でジョブを取得できません (LMS 00013)

#### **原因**

その名前のジョブが存在しない可能性があります。

#### **対処方法**

有効なジョブ名を入力します。

### **18.1.22** ジョブ履歴を取得できませんでした。(LMS 00014)

#### **原因**

ジョブ履歴が存在しない可能性があります。

#### **対処方法**

なし

### **18.1.23** 指定された一連の依存関係から一意のリソースを取得できません。(LMS 00015)

#### **原因**

一意のリソースが存在しないか、依存関係が無効である可能性があります。

#### **対処方法**

一意のリソースが存在することを確認するか、有効な依存関係を入力します。

### **18.1.24** CUID = {0} の InfoObject を取得できません。(LMS 00016)

#### 原因

InfoObject が存在しない可能性があります。

#### 対処方法

有効な InfoObject を選択します。

### **18.1.25** クエリ {0} が失敗しました。(VDS 00013) (LMS 00017)

#### 原因

ユーザに必要な権限がない可能性があります。その他の原因については、スタックトレースを参照してください。

#### 対処方法

必要な権限を持つユーザを入力するか、スタックトレースを参照してそれに従って修正します。

### **18.1.26** リソースの一覧をジョブから削除できません。(LMS 00018)

#### 原因

リソースが存在しない可能性があります。

#### 対処方法

有効なリソースを選択します。

**18.1.27** 有効なイベントの設定中にエラーが発生しました。スタックトレースを参照してください。(LMS 00019)

#### 原因

監査サービスがダウンしている可能性があります。

#### 対処方法

監査サービスを再起動します。

**18.1.28** サポートされている監査イベントを取得中にエラーが発生しました。スタックトレースを参照してください (LMS 00020)

#### 原因

サポートされている監査イベントが存在しないか、監査サービスがダウンしている可能性があります。

#### 対処方法

監査サービスを再起動します。

**18.1.29** 有効な監査イベントを取得中にエラーが発生しました。スタックトレースを参照してください (LMS 00021)

#### 原因

有効な監査イベントが存在しないか、監査サービスがダウンしている可能性があります。

#### 対処方法

監査サービスを再起動します。

**18.1.30** LCM アプリケーションで一般的な例外が発生しました。詳細については、スタックトレースを参照してください。(LMS 00022)

#### 原因

正確な原因については、スタックトレースを参照してください。

#### 対処方法

スタックトレースを参照し、適切な操作を実行します。

**18.1.31** 管理者によってユーザアクセスが拒否されたため、ソース CMS にログインできませんでした。  
(LMS 00023)

#### 原因

管理者によってシステムへのアクセスが拒否されました。

#### 対処方法

システム管理者に連絡してください。

**18.1.32** ユーザが管理者によってアクセスを拒否されたため、出力先 CMS にログインできませんでした  
(LMS 00024)

#### 原因

管理者によってシステムへのアクセスが拒否されました。

#### 対処方法

システム管理者に連絡してください。

**18.1.33** リソースをインポートするための LCMBIAR ファイルの場所が存在しないか無効です。(LMS 00025)

#### 原因

LCMBIAR ファイルの場所が無効です。

#### 対処方法

有効な LCMBIAR ファイルの場所を入力します。

**18.1.34** LCMBIAR ファイルへのリソースのエクスポート先が見つからないか無効です。(LMS 00026)

#### 原因

LCMBIAR ファイルのエクスポート先が無効です。

#### 対処方法

LCMBIAR ファイルの有効なエクスポート先を選択します。

**18.1.35** 選択したジョブは NULL または無効です。有効な LCM ジョブを選択してください。(LMS 00027)

#### 原因

選択されたジョブが無効です。

#### 対処方法

有効なジョブを選択します。



### **18.1.36** バージョン管理ツールにリソースを追加できませんでした (LMS 00101)

#### **原因**

LCM VMS サービスまたは VMS サービスがダウンしている可能性があります。

#### **対処方法**

LCM VMS サービスまたは VMS サービスを再起動します。

### **18.1.37** リソースのチェックアウトに失敗しました。(LMS 00103)

#### **原因**

LCM VMS サービスまたは VMS サービスがダウンしている可能性があります。

#### **対処方法**

LCM VMS サービスまたは VMS サービスを再起動します。

### **18.1.38** 改訂履歴を取得できませんでした。(LMS 00104)

#### **原因**

LCM VMS サービスまたは VMS サービスがダウンしている可能性があります。

#### **対処方法**

LCM VMS サービスまたは VMS サービスを再起動します。

### **18.1.39** バージョン管理から改訂を取得できませんでした。(LMS 00105)

#### **原因**

LCM VMS サービスまたは VMS サービスがダウンしている可能性があります。

#### **対処方法**

LCM VMS サービスまたは VMS サービスを再起動します。

### **18.1.40** 最新の改訂を取得できませんでした (LMS 00106)

#### **原因**

LCM VMS サービスまたは VMS サービスがダウンしている可能性があります。

#### **対処方法**

LCM VMS サービスまたは VMS サービスを再起動します。

### **18.1.41** ワークスペースの改訂を取得できませんでした。(LMS 00107)

#### **原因**

LCM VMS サービスまたは VMS サービスがダウンしている可能性があります。

#### **対処方法**

LCM VMS サービスまたは VMS サービスを再起動します。

**18.1.42** バージョン管理システムを取得できませんでした。スタックトレースを参照してください。(LMS 00108)

#### 原因

LCM CMS がダウンしている可能性があります。

#### 対処方法

LCM CMS を再起動します。

**18.1.43** リポジトリバージョンを取得できませんでした (LMS 00109)

#### 原因

LCM VMS サービスまたは VMS サービスがダウンしている可能性があります。

#### 対処方法

LCM VMS サービスまたは VMS サービスを再起動します。

**18.1.44** 有効な監査イベントをクリア中にエラーが発生しました。スタックトレースを参照してください。(LMS 0022)

#### 原因

LCM アプリケーションオブジェクト内に監査イベントのプロパティバッグが存在しない可能性があります。

#### 対処方法

なし

## 18.2 Visual Difference のエラーメッセージ

### 18.2.1 SAP BusinessObjects Visual Difference Server にログインできませんでした。(VDS 00001)

#### 原因

無効なユーザ名またはパスワードです。

#### 対処方法

有効なユーザ名またはパスワードを入力します。

### 18.2.2 BusinessObjects Visual Difference からログオフできませんでした。(VDS 00002)

#### 原因

CMS がダウンしている可能性があります。

#### 対処方法

しばらくしてから再試行してください。

### 18.2.3 CMS の一覧の取得中にエラーが発生しました。(VDS 00003)

#### 原因

CMS の一覧を保存しているファイルが壊れている可能性があります。

#### 対処方法

CMS の一覧を再作成します。

## **18.2.4** CMS（ソースまたは出力先）にログインできませんでした。（VDS 00004）

### 原因

無効なユーザ名またはパスワードです。

### 対処方法

有効なユーザ名またはパスワードを入力します。

## **18.2.5** CMS（ソースまたは出力先）からログオフできませんでした。（VDS 00005）

### 原因

CMS がダウンしている可能性があります。

### 対処方法

しばらくしてから再試行してください。

## **18.2.6** ジョブのスケジュール中にエラーが発生しました（VDS 00006）

### 原因

十分な権限がないため、ジョブを保存できませんでした。

### 対処方法

正しい権限を設定します。

**18.2.7** Visual Difference Server で一般的な例外が発生しました。詳細については、スタックトレースを参照してください。(VDS 00007)

## 原因

正確な原因については、スタックトレースを参照してください。

## 対処方法

スタックトレースを参照し、適切な操作を実行します。

**18.2.8** 比較アクションに失敗しました。(VDS 00008)

## 原因

Visual Difference サービスがダウンしている可能性があります。その他の原因については、ログを参照してください。

## 対処方法

Visual Difference サービスを再起動するか、ログを参照してそれに従って修正します。

**18.2.9** ファイル " {0} " の初期化に失敗しました。(VDS 00009)

## 原因

FRS がダウンしている可能性があります。

## 対処方法

FRS を再起動します。

### 18.2.10 ファイル " {0} " へのオブジェクト一覧の設定に失敗しました。(VDS 00010)

#### 原因

ファイルが無効か、書き込み権限がありません。

#### 対処方法

有効なファイルを選択するか、書き込み権限を設定します。

### 18.2.11 プログラム ID = {0} の Info オブジェクトの作成に失敗しました。(VDS 00012)

#### 原因

プログラム ID がすでに存在します。

#### 対処方法

なし

### 18.2.12 CUID = {0} の InfoObject を取得できません。(VDS 00013)

#### 原因

InfoObject が無効です。

#### 対処方法

有効な InfoObject を選択します。

### 18.2.13 `si_id = {0}` の Info オブジェクトの作成に失敗しました。(VDS 00014)

#### 原因

InfoObject を作成できませんでした。

#### 対処方法

なし

### 18.2.14 プロパティ `{0}` に値 `{1}` を設定できませんでした。(VDS 00015)

#### 原因

プロパティまたは値が無効です。

#### 対処方法

プロパティまたは値を確認します。

### 18.2.15 プロパティ `{0}` の値を取得できませんでした。(VDS 00016)

#### 原因

プロパティが存在しない可能性があります。

#### 対処方法

プロパティを確認します。



**18.2.16** 監査ハンドラを取得中にエラーが発生しました。スタックトレースを参照してください。(VDS 00017)

#### 原因

監査サービスがダウンしている可能性があります。

#### 対処方法

監査サービスを再起動します。

**18.2.17** 監査イベントを追加中にエラーが発生しました。スタックトレースを参照してください。(VDS 00018)

#### 原因

監査サービスがダウンしている可能性があります。

#### 対処方法

監査サービスを再起動します。

**18.2.18** 監査イベント詳細を追加中にエラーが発生しました。スタックトレースを参照してください。(VDS 00019)

#### 原因

監査サービスがダウンしている可能性があります。

#### 対処方法

監査サービスを再起動します。

## **18.2.19** 監査イベントのコミット中にエラーが発生しました。スタックトレースを参照してください。

(VDS 00020)

### 原因

監査サービスがダウンしている可能性があります。

### 対処方法

監査サービスを再起動します。

## **18.2.20** 有効なイベントの設定中にエラーが発生しました。スタックトレースを参照してください。(VDS 00021)

### 原因

監査サービスがダウンしている可能性があります。

### 対処方法

監査サービスを再起動します。

## **18.2.21** サポートされている監査イベントを取得中にエラーが発生しました。スタックトレースを参照してください。(VDS 00022)

### 原因

監査イベントが無効か、監査サービスがダウンしている可能性があります。

### 対処方法

監査サービスを再起動します。

## **18.2.22** 有効な監査イベントを取得中にエラーが発生しました。スタックトレースを参照してください。

(VDS 00023)

### 原因

有効な監査イベントが存在しないか、監査サービスがダウンしている可能性があります。

### 対処方法

監査サービスを再起動します。

## **18.2.23** 監視イベントの種類の確認中にエラーが発生しました。スタックトレースを参照してください

(VDS 00024)。

### 原因

監査サービスがダウンしている可能性があります。

### 対処方法

監査サービスを再起動します。

## **18.2.24** イベントオブジェクトを取得中にエラーが発生しました。スタックトレースを参照してください。

(VDS 00025)

### 原因

イベントオブジェクトが存在しないか、監査サービスがダウンしている可能性があります。

### 対処方法

監査サービスを再起動します。

**18.2.25** 有効な監査イベントをクリア中にエラーが発生しました。スタックトレースを参照してください。  
(VDS 00026)

#### 原因

LCM アプリケーションオブジェクト内に監査イベントのプロパティバッグが存在しない可能性があります。

#### 対処方法

なし

**18.2.26** ログオントークンの生成中にエラーが発生しました。スタックトレースを参照してください。  
(VDS 00027)

#### 原因

CMS がダウンしている可能性があります。

#### 対処方法

CMS を再起動します。

**18.2.27** 管理者がユーザへのアクセスを拒否したため、ソース CMS にログインできませんでした。(VDS 00028)

#### 原因

管理者によってシステムへのユーザアクセスが拒否されました。

#### 対処方法

システム管理者に連絡してください。

**18.2.28** 管理者がユーザへのアクセスを拒否したため、出力先 CMS にログインできませんでした。(VDS 00029)

#### 原因

管理者によってシステムへのユーザアクセスが拒否されました。

#### 対処方法

システム管理者に連絡してください。

**18.2.29** VisualDiff CMS が NULL か、ログインされていません。(VDC 00001)

#### 原因

VisualDiff CMS の詳細が入力されていないか、ユーザがログインしていません。

#### 対処方法

VisualDiff CMS の詳細を入力するか、VisualDiff CMS にログインします。

**18.2.30** ユーザ名が NULL または空です。(VDC 00002)

#### 原因

ユーザ名が無効です。

#### 対処方法

有効なユーザ名を入力します。

### **18.2.31** パスワードが NULL または空です。(VDC 00003)

#### **原因**

パスワードが無効です。

#### **対処方法**

有効なパスワードを入力します。

### **18.2.32** 認証が NULL または空です。(VDC 00004)

#### **原因**

認証が入力されていません。

#### **対処方法**

認証を入力します。

### **18.2.33** フォルダ名はすでに存在しています。(VDC 00005)

#### **原因**

フォルダ名がすでに存在します。

#### **対処方法**

一意のフォルダ名を入力します。

**18.2.34** CMS が NULL か、ログインされていません。CMS はソースと出力先のどちらかになります。  
(VDC 00007)

#### 原因

CMS (ソース/出力先) の詳細が入力されていないか、ログインしていません。

#### 対処方法

CMS (ソース/出力先) の詳細を入力するか、ソース CMS にログインします。

**18.2.35** ソース CMS が NULL か、ログインされていません。(VDC 00008)

#### 原因

ソース CMS の詳細が入力されていないか、ログインしていません。

#### 対処方法

ソース CMS の詳細を入力するか、ソース CMS にログインします。

**18.2.36** 出力先 CMS が NULL か、ログインされていません。(VDC 00009)

#### 原因

出力先 CMS の詳細が入力されていないか、ログインしていません。

#### 対処方法

出力先 CMS の詳細を入力するか、出力先 CMS にログインします。

## **18.2.37** 指定された形式ごとに日付を解析中にエラーが発生しました。(VDC 00010)

### 原因

スケジューラの日付セット書式が無効です。

### 対処方法

有効な書式で日付を設定します。



## 19 値の一覧に関するエラーメッセージ

### 19.1 値の一覧（LOV）に関するエラーメッセージ

値の一覧（LOV）エラーメッセージは、次のカテゴリに分類されます。

範囲	カテゴリ
LOV0001 - LOV0002	値の一覧(LOV)

#### 19.1.1 選択した値が多すぎます。(LOV0001)

##### 原因

[クエリパネル]の値の一覧で、使用できる数より多い値を選択しようとした。デフォルトでは、同時に選択できる値は 99 個までです。

##### 対処方法

選択する値の数を 99 個以下にします。

##### 原因

選択した値の数は 99 個以下ですが、上記のエラーメッセージが表示されました。これは、データベースに対応する prm ファイルに制限が設定されていることを意味します。この制限は、[MAX\\_INLIST\\_VALUES](#) パラメータとして表示されます。

##### 対処方法

このパラメータを削除するか、値を大きくします。

## 19.1.2 このユニバースを使用する権限がありません。(LOV0002)

### 原因

値の一覧が割り当てられているユニバースを使おうとしましたが、使用権がありませんでした。

### 対処方法

BusinessObjects スーパーバイザに連絡し、使用できるユニバースを確認します。

## 19.2 値の一覧 (VAR) に関するエラーメッセージ

値の一覧 (VAR) エラーメッセージは、次のカテゴリに分類されます。

範囲	カテゴリ
VAR0001	値の一覧(LOV)

### 19.2.1 構文エラー (VAR0001)

#### 原因

区切り記号を使って複数の値を入力する必要があるプロンプトを使用した条件を含んだクエリを実行しましたが、区切り記号の使い方が間違っています。区切り記号は、通常セミコロン(;)またはカンマ(,)です。区切り記号は、Windows [コントロールパネル]の[地域]のオプションで設定されています。

このエラーは、間違った区切り記号の使用によるものです。プロンプトの最初に区切り記号を入力したか、2つの値の間に誤って区切り記号を2回入力した可能性があります。

#### 対処方法

[値の入力または選択]ダイアログボックスで、それぞれの値を区切り記号で確実に区切り、値を再入力します。

## 20 Live Office (LO) エラー

Live Office エラーメッセージは、次のカテゴリに分類されます。

範囲	カテゴリ
LO 01001 - LO 26627	Live Office エラー

### 20.1 LO 01000 - LO 01999

#### 20.1.1 アプリケーションの準備ができていません。後でもう一度実行してください。(LO 01001)

##### 原因

Microsoft Office アプリケーションはデータを受け付ける準備ができていません。

##### アクション

Microsoft Office アプリケーションを終了してから、再起動します。

#### 20.1.2 最新表示時にエラーが発生しました。(LO 01003)

##### 原因

このエラーは、次の理由で発生した可能性があります。

- レポートが壊れている。
- Microsoft PowerPoint スライドマスタなどのサポートされていない領域に Live Office オブジェクトが挿入された。
- サーバにアクセスできない。

## アクション

- BI ラウンチパッドで、ドキュメントが有効であることを確認します。Live Office の [アプリケーションオプション] ダイアログボックスで、SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォームのログオフおよびログオンを実行します。Microsoft Office アプリケーションを再起動します。
- Live Office オブジェクトをサポートされない領域に挿入しないようにします。
- ネットワーク接続を修復するか、サーバを起動します。

### 20.1.3 このドキュメントをアップグレードできませんでした。(LO 01004)

## 原因

このエラーは、以前のバージョンの Live Office で作成した Office ドキュメントをアップグレードする場合に発生します。このエラーは、次の理由による可能性があります。

- レポートが壊れている。
- サーバにアクセスできない。

## アクション

- BI ラウンチパッドで、ドキュメントが有効であることを確認します。Live Office の [アプリケーションオプション] ダイアログボックスで、SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォームのログオフおよびログオンを実行します。Microsoft Office アプリケーションを再起動します。
- ネットワーク接続を修復するか、サーバを起動します。

### 20.1.4 データの損失を防ぐために、Microsoft Excel ではワークシートからコンテンツを含むセルをシフトできません。(LO 01005)

## 原因

考えられるデータの損失を防ぐために、Microsoft Office Excel は空白でないセルをワークシートからシフトできません。

## 対処方法

ワークシートからシフトできるセルにデータがない場合、Excel が空白でないのみなすセルをリセットできます。そのためには、**CTRL + End** キーを押してワークシート上の空白でない最後のセルを探します。このセル、およびこのセルと最後の行および列の間にあるすべてのセルを削除します。[\[保存\]](#) をクリックします。

## 20.2 LO 02000 - LO 02999

### 20.2.1 セッションの作成に失敗しました。Web サービス接続を確認してください。(LO 02001)

#### 原因

Live Office は SAP BusinessObjects Web サービスに接続することができません。ネットワーク接続が使用できないか、SAP BusinessObjects Web サービスが応答していません。

#### 対処方法

サーバに "ping" を実行してネットワーク接続を確認します。ネットワークが正常に動作している場合は、CMC にログオンして、Web サービスが正常に動作していることを確認します。

### 20.2.2 Web サービスに接続するときにエラーが発生しました。(LO 02002)

#### 原因

Live Office は SAP BusinessObjects Web サービスに接続することができません。ネットワーク接続が使用できないか、SAP BusinessObjects Web サービスが応答していません。

#### 対処方法

サーバに "ping" を実行してネットワーク接続を確認します。ネットワークが正常に動作している場合は、CMC にログオンして、Web サービスが正常に動作していることを確認します。

### 20.2.3 Web サービスに接続するときにエラーが発生しました。(LO 02003)

#### 原因

Live Office は SAP BusinessObjects Web サービスに接続することができません。ネットワーク接続が使用できないか、SAP BusinessObjects Web サービスが応答していません。

## 対処方法

サーバに "ping" を実行してネットワーク接続を確認します。ネットワークが正常に動作している場合は、CMC にログインして、Web サービスが正常に動作していることを確認します。

### **20.2.4** Web サービスに接続するときにエラーが発生しました。(LO 02004)

#### 原因

Live Office は SAP BusinessObjects Web サービスに接続することができません。ネットワーク接続が使用できないか、SAP BusinessObjects Web サービスが応答していません。

## 対処方法

サーバに "ping" を実行してネットワーク接続を確認します。ネットワークが正常に動作している場合は、CMC にログインして、Web サービスが正常に動作していることを確認します。

### **20.2.5** Web サービスに接続するときにエラーが発生しました。(LO 02005)

#### 原因

Live Office は SAP BusinessObjects Web サービスに接続することができません。ネットワーク接続が使用できないか、SAP BusinessObjects Web サービスが応答していません。

## 対処方法

サーバに "ping" を実行してネットワーク接続を確認します。ネットワークが正常に動作している場合は、CMC にログインして、Web サービスが正常に動作していることを確認します。

### **20.2.6** ファイルを開くときにエラーが発生しました。(LO 02006)

#### 原因

開いた Office ドキュメントが SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォームから削除されているか、CMS と Web サービスにアクセスできません。

## アクション

- Live Office の [アプリケーションオプション] ダイアログボックスで、SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォームからログオフしてから再度ログオンします。
- Microsoft Office アプリケーションを閉じてから、再起動します。
- BI ラウンチパッドで、ドキュメントが存在することを確認します。
- サーバに "ping" を実行して、ネットワーク接続が正常に動作していることを確認します。また、CMC にログオンして、CMS と Web サーバが稼働していることをチェックします。

## 20.2.7 ファイルを保存するときにエラーが発生しました。(LO 02007)

### 原因

このエラーは、次の理由による可能性があります。

- 保存先のフォルダ内でオブジェクトを変更するために必要な権限を持っていない。
- CMS と Web サービスにアクセスできない。
- 開いた Office ドキュメントが SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォームから削除されています。

## アクション

- Live Office の [アプリケーションオプション] ダイアログボックスで、SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォームからログオフおよびログオンしてから、保存を再試行します。
- Microsoft Office アプリケーションを再起動して、保存を再試行します。
- フォルダにアクセスするために必要な権限を持っていることを確認します。
- サーバに ping を実行し、ネットワーク接続を検証します。ネットワークが正常に動作している場合は、CMC にログオンして、CMS と Web サービスが稼働中であることを確認します。
- Office ドキュメントが BI ラウンチパッド内に存在することを確認します。

## 20.2.8 Crystal レポートのプロパティを探すときにエラーが発生しました。(LO 02008)

### 原因

Crystal レポートは使用できません。Crystal レポートは存在しないか、指定した場所から削除されたか、または SAP BusinessObjects Web サービスへの接続を使用できません。

## アクション

- サーバにアクセスでき、Web サービスが正常に実行されていることを確認します。
- BI ラウンチパッドで、ドキュメントが存在することを確認します。
- Live Office でオブジェクトを選択し、[Web でオブジェクト]をクリックして、そのオブジェクトが開けることを確認します。開けない場合は、Live Office の [アプリケーションオプション] ダイアログボックスで、SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォームからログオフしてから再度ログオンします。また、Office アプリケーションを閉じてから、再起動します。

### 20.2.9 サーバが使用できません。ネットワーク接続とサーバのステータスを確認してください。(LO 02009)

## 原因

Live Office は SAP BusinessObjects Web サービスに接続することができません。ネットワーク接続が使用できないか、SAP BusinessObjects Web サービスが応答していません。

## 対処方法

サーバに "ping" を実行してネットワーク接続を確認します。ネットワークが正常に動作している場合は、CMC にログオンして、Web サービスと CMS が正常に動作していることを確認します。

### 20.2.10 レポートを開いているときにエラーが発生しました。このレポートは存在していないか、ユーザがレポートを開くための十分な権限を持っていないか、または BusinessObjects Web サービスに接続できません。(LO 02010)

## 原因

Live Office キャッシュからドキュメントを開くことはできません。ドキュメントが存在しない、レポートに対して十分な権限を持っていない、あるいは SAP BusinessObjects Web サービスに接続できません。

## アクション

ドキュメントが存在し、BI ラウンチパッドで十分な権限を持っているかどうかを確認します。その場合は、Microsoft Office アプリケーションを閉じてから起動し、再試行します。



## 20.2.11 レポートを保存中にエラーが発生しました。レポートは存在しないか、BusinessObjects Web サービスに接続できません。(LO 02011)

### 原因

Live Office キャッシュにドキュメントを保存できません。ドキュメントが存在しないか、SAP BusinessObjects Web サービスに接続できません。

### アクション

ドキュメントが BI ラウンチパッド内に存在するかどうかを確認します。その場合は、Microsoft Office アプリケーションを閉じてから起動し、再試行します。

## 20.2.12 レポートの最新表示中にエラーが発生しました。(LO 02012)

### 原因

このエラーは、次のうちいずれかの理由で発生します。

- Microsoft PowerPoint スライドマスタなどのサポートされていない領域に Live Office オブジェクトが挿入されている。
- レポートが壊れている。
- サーバにアクセスできない。

### アクション

- Live Office オブジェクトをサポートされていない領域に描画しないようにします。
- BI ラウンチパッドで、ドキュメントが有効であることを確認します。
- ネットワーク接続を修正し、サーバーを起動します。

## 20.2.13 行セットデータを挿入したときにエラーが発生しました。(LO 02013)

### 原因

このエラーは、次のうちいずれかの理由で発生します。

- Microsoft PowerPoint スライドマスタなどのサポートされていない領域に Live Office オブジェクトが挿入されている。
- レポートが壊れている。
- サーバにアクセスできない。

## アクション

- Live Office オブジェクトをサポートされていない領域に描画しないようにします。
- BI ラウンチパッドで、ドキュメントが有効であることを確認します。
- ネットワーク接続を修正し、サーバーを起動します。

## 20.2.14 レポートパーツを挿入したときにエラーが発生しました。(LO 02014)

### 原因

このエラーは、次のうちいずれかの理由で発生します。

- Microsoft PowerPoint スライドマスタなどのサポートされていない領域に Live Office オブジェクトが挿入されている。
- レポートが壊れている。
- サーバにアクセスできない。

## アクション

- Live Office オブジェクトをサポートされていない領域に描画しないようにします。
- BI ラウンチパッドで、ドキュメントが有効であることを確認します。
- ネットワーク接続を修正し、サーバーを起動します。

## 20.2.15 ページセグメントを挿入したときにエラーが発生しました。(LO 02015)

### 原因

このエラーは、次のうちいずれかの理由で発生します。

- Microsoft PowerPoint スライドマスタなどのサポートされていない領域に Live Office オブジェクトが挿入されている。
- レポートが壊れている。

- サーバにアクセスできない。

## アクション

- Live Office オブジェクトをサポートされていない領域に描画しないようにします。
- BI ラウンチパッドで、ドキュメントが有効であることを確認します。
- ネットワーク接続を修正し、サーバーを起動します。

## 20.2.16 クロスタブを挿入したときにエラーが発生しました。(LO 02016)

### 原因

このエラーは、次のうちいずれかの理由で発生します。

- Microsoft PowerPoint スライドマスタなどのサポートされていない領域に Live Office オブジェクトが挿入されている。
- レポートが壊れている。
- サーバにアクセスできない。

## アクション

- Live Office オブジェクトをサポートされていない領域に描画しないようにします。
- BI ラウンチパッドで、ドキュメントが有効であることを確認します。
- ネットワーク接続を修正し、サーバーを起動します。

## 20.2.17 Microsoft Office ドキュメントでエラーが発生しました。(LO 02017)

### 原因

Office SDK でエラーが発生しました。

## 対処方法

Office アプリケーションを閉じて、再起動します。問題が解決しない場合は、Live Office のログファイルを保存して、SAP BusinessObjects カスタマサポートにお問い合わせください。

## 20.2.18 BusinessObjects Business Intelligence プラットフォームのクエリでエラーが発生しました。(LO 02018)

### 原因

ネットワーク接続がないか、SAP BusinessObjects Web サービスがダウンしているため、SAP BusinessObjects Web サービスに接続できません。

### 対処方法

サーバに "ping" を実行してネットワーク接続を確認します。ネットワークが正常に動作している場合は、CMC にログオンして、Web サービスが稼働しているかチェックします。

## 20.2.19 Web サービスに接続するときにエラーが発生しました。(LO 02019)

### 原因

ネットワーク接続がないか、SAP BusinessObjects Web サービスがダウンしているため、SAP BusinessObjects Web サービスに接続できません。

### 対処方法

サーバに "ping" を実行してネットワーク接続を確認します。ネットワークが正常に動作している場合は、CMC にログオンして、Web サービスが稼働しているかチェックします。

## 20.2.20 Web サービスに接続するときにエラーが発生しました。(LO 02020)

### 原因

ネットワーク接続がないか、SAP BusinessObjects Web サービスがダウンしているため、SAP BusinessObjects Web サービスに接続できません。

## 対処方法

サーバに "ping" を実行してネットワーク接続を確認します。ネットワークが正常に動作している場合は、CMC にログオンして、Web サービスが稼働しているかチェックします。

### **20.2.21** データソースが見つかりませんでした。(LO 02021)

#### 原因

Crystal レポートを使用できません。存在しないか、または削除されています。

## 対処方法

ドキュメントが BI ラウンチパッドに存在するかどうかを確認するか、または Live Office の [Web ブラウザでオブジェクトを表示] をクリックして存在を確認します。

### **20.2.22** データソースが見つかりませんでした。(LO 02022)

#### 原因

Web Intelligence ドキュメントが使用できません。存在しないか、または削除されています。

## 対処方法

ドキュメントが BI ラウンチパッドに存在するかどうかを確認するか、または Live Office の [Web ブラウザでオブジェクトを表示] をクリックして存在を確認します。

### **20.2.23** データソースが見つかりませんでした。(LO 02023)

#### 原因

変更または削除されたため、ユニバースが存在しません。

## 対処方法

同じユーザアカウントを使用して BI ラウンチパッドにログオンし、ユニバースが使用できるかチェックします。

### **20.2.24** レポートの最新のインスタンスが見つかりませんでした。(LO 02024)

## 原因

スケジュールされた有効なドキュメントを見つけることができません。

## 対処方法

BI ラウンチパッドにログオンし、レポートのインスタンスが正常にスケジュールされているかチェックします。インスタンスが適切なレポートタイプであることを確認します。

### **20.2.25** レポートパーツビューアを初期化したときにエラーが発生しました。(LO 02025)

## 原因

このエラーは、次のうちいずれかの理由によって発生します。

- レポートが壊れている。
- SAP BusinessObjects Web サービスへの接続が失敗した。
- ビューアファイルに不一致がある。

## 対処方法

BI ラウンチパッドで、ドキュメントが有効であることを確認します。Live Office の [オプション] ダイアログボックスを使用して、BOE のログオフおよびログオンを実行します。Office アプリケーションを閉じて、再起動します。サーバにアクセスでき、Web サービスがオンラインであることを確認してください。問題が解決しない場合は、Live Office を再インストールします。

## 20.2.26 レポートパーツビューアでオブジェクトを選択したときにエラーが発生しました。(LO 02026)

### 原因

このエラーは、次のうちいずれかの理由によって発生します。

- レポートが壊れている。
- SAP BusinessObjects Web サービスへの接続が失敗した。
- ビューアファイルに不一致がある。

### 対処方法

BI ラウンチパッドで、ドキュメントが有効であることを確認します。Live Office の [オプション] ダイアログボックスを使用して、BOE のログオフおよびログオンを実行します。Office アプリケーションを閉じて、再起動します。サーバにアクセスでき、Web サービスがオンラインであることを確認してください。問題が解決しない場合は、Live Office を再インストールします。

## 20.2.27 レポートパーツを選択してください。(LO 02027)

### 原因

ビューア内でオブジェクトを選択していません。

### 対処方法

Live Office オブジェクトを選択してから、この機能を使用します。

## 20.2.28 リポジトリエクスプローラを初期化したときにエラーが発生しました。(LO 02028)

### 原因

リポジトリエクスプローラのコントロールをロードできません。SAP BusinessObjects Web サービスに接続できないか、一部のファイルに不一致があります。

## 対処方法

Office アプリケーションを閉じて再起動してから再試行します。サーバに "ping" を実行してネットワーク接続を確認します。ネットワークが正常に動作している場合は、CMC にログインして、Web サービスが稼働しているかチェックします。問題が解決しない場合は、Live Office を再インストールします。

### 20.2.29 ビューアコントロールでエラーが発生しました。(LO 02029)

#### 原因

レポートパーツビューアでレポートを表示しようとしているときにエラーが発生しました。ドキュメントが使用できないか、一部のサーバがダウンしているか、または一部のファイルに不一致があります。

## 対処方法

- BI ラウンチパッドで、ドキュメントが有効であることを確認します。
- Live Office の [オプション] ダイアログボックスを使用して、BOE のログオフおよびログインを実行します。
- Office アプリケーションを閉じて、再起動します。
- サーバにアクセスでき、Web サービスがオンラインであることを確認してください。

問題が解決しない場合は、Live Office を再インストールします。

### 20.2.30 パラメータコントロールでエラーが発生しました。(LO 02030)

#### 原因

- ドキュメントが使用できないか、または破損している。
- サーバがダウンしている。
- ファイルに不一致がある。

## 対処方法

- BI ラウンチパッドで、ドキュメントが有効であることを確認します。
- Live Office の [オプション] ダイアログボックスを使用して、BOE のログオフおよびログインを実行します。
- Office アプリケーションを閉じて、再起動します。
- サーバにアクセスでき、Web サービスがオンラインであることを確認してください。



問題が解決しない場合は、Live Office を再インストールします。

## 20.2.31 プロンプトダイアログからエラーが発生しました。(LO 02031)

### 原因

ドキュメントが使用できない、または壊れている、あるいは一部のサーバがダウンしています。

### 対処方法

- BI ラUNCHパッドで、ドキュメントが有効であることを確認します。
- Live Office の [オプション] ダイアログボックスを使用して、BOE のログオフおよびログオンを実行します。
- Office アプリケーションを閉じて、再起動します。

## 20.2.32 クエリパネルの指定でエラーが発生しました。(LO 02032)

### 原因

ユニバースが使用できないまたは壊れているか、一部のサーバがダウンしています。

### 対処方法

BI ラUNCHパッドで、ユニバースが有効であることを確認します。Live Office の [オプション] ダイアログボックスを使用して BOE のログオフおよびログオンを実行するか、または Office アプリケーションを終了して再起動します。サーバにアクセスでき、Web サービスがオンラインであることを確認してください。問題が解決しない場合は、Live Office の QP ウィザードを使用して、クエリをもう一度作成します。

## 20.2.33 フィールドの値を参照するときにエラーが発生しました。(LO 02035)

### 原因

このフィールドの値を取得できません。Crystal レポートを使用できないか、Crystal レポートサービスが実行されていません。

## 対処方法

BI ランチパッドで、ドキュメントが存在することを確認します。サーバに "ping" を実行してネットワーク接続を確認します。ネットワークが正常に動作している場合、CMC にログオンして、Web サービスと Report Application Server が稼働しているかチェックします。

### 20.2.34 現在のドキュメントにオブジェクトがないため、Live Office オブジェクトのプロパティダイアログボックスを表示できません。(LO 02038)

## 原因

破損した Live Office オブジェクトの [プロパティ] ダイアログを表示しています。ユーザが Live Office オブジェクトを手動で変更したことが原因で、このエラーが発生した可能性があります。

## 対処方法

Live Office の [オブジェクトに移動] メニューの下にあるすべてのメニュー項目をクリックして、破損した Live Office オブジェクトを削除します。または、Live Office オブジェクトを手動で削除し、Live Office の [オブジェクトに移動] メニューの下にあるメニュー項目をクリックします。

### 20.2.35 Web Intelligence ドキュメントのクエリの指定が無効です。(LO 02039)

## 原因

Office ドキュメントが壊れているか、Live Office クライアントのバージョンと SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォームのバージョンに不一致があります。

## 対処方法

- BI ランチパッドで、ドキュメントが有効であることを確認します。
- Live Office の [オプション] ダイアログで、BOE のログオフおよびログオンを実行します。
- Office アプリケーションを閉じて、再起動します。
- Live Office クライアントのバージョンと SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォームのバージョンに互換性があることを確認します。

問題が解決しない場合は、Office ドキュメントを再作成します。

## 20.2.36 ログオン中にエラーが発生しました。(LO 02040)

### 原因

このエラーは、以下が原因で発生した可能性があります。

- ログオン情報が正しくない
- SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォームサーバが稼働していない
- Web サービスがダウンしている
- ローカルネットワーク接続を使用できない
- 下位バージョンの Web サービスに接続している

原因がこれらに該当しない場合は、エラー詳細を確認します。

### 対処方法

- 有効なログオン情報を入力します。
- サーバに "ping" を実行してネットワーク接続を確認します。ネットワークが正常に動作している場合は、CMC にログオンして、Web サービスが稼働しているかチェックします。問題があった場合は、ネットワーク接続を修正するか、サーバを起動します。
- 正しい Web サービス URL を入力します。

## 20.2.37 Live Office が正しくインストールされていません。AssemblyInfo.xml で {0} の定義が見つかりません。(LO 02041)

### 原因

Live Office のインストールが破損しています。

### 対処方法

Live Office を再インストールします。

**20.2.38** Live Office が正しくインストールされていません。{0} のデフォルトコンストラクタの反映中にエラーが発生しました。(LO 02042)

#### 原因

Live Office のインストールが破損しています。

#### 対処方法

Live Office を再インストールします。

**20.2.39** Live Office が正しくインストールされていません。クラス {0} のロード中にエラーが発生しました。(LO 02043)

#### 原因

Live Office のインストールが破損しています。

#### 対処方法

Live Office を再インストールします。

**20.2.40** 挿入ウィザードの初期化中にエラーが発生しました。Web サービス接続を確認してください。(LO 02044)

#### 原因

Office ドキュメントが読み取り専用であるか、レポートが破損しています。

#### 対処方法

Office ドキュメントが書き込み可能であることを確認します。古いオブジェクトを削除してから再インストールします。

## 20.2.41 パラメータの更新に失敗しました。(LO 02045)

### 原因

入力した値のタイプが、想定される値のタイプと一致していません。

### 対処方法

正しい値を入力します。

## 20.2.42 入力したパラメータは、必要なパラメータの種類と一致しません。(LO 02046)

### 原因

入力されたパラメータが、想定されるパラメータタイプと一致していません。

### 対処方法

必要なパラメータタイプと一致する値を入力します。

## 20.2.43 Live Office オブジェクトのレポートタイプに対応するインスタスが見つかりません。(LO 02047)

### 原因

BI ラウンチパッド内にインスタスが存在しません。

### 対処方法

対応するレポートタイプのインスタスがBI ラウンチパッドに存在するか確認してください。存在しない場合は、Live Office オブジェクトの対応するレポートタイプのインスタスを再スケジュールします。

## 20.2.44 REST サービスからのトークンのリクエスト時にエラーが発生しました (LO 02049)。

### 原因

ログインプロセス中にシステムからの REST トークンのリクエスト時に発生します。

### アクション

RESTful Web サービスをチェックして、再ログインします。

## 20.2.45 コンテキストがネストされているプロンプトはサポートされていません (LO 02050)。

### 原因

Web Intelligence レポートにおけるコンテキストのネストはサポートされていません。

### アクション

レポートを修正するか、別のレポートを選択します。

## 20.2.46 REST リクエストが BOE システムからのオブジェクト ID 抽出に失敗しました (LO 02052)。

### 原因

ネットワークの問題が発生しました/Web サーバがダウンしています/オブジェクトが削除されました。

### アクション

ネットワーク/BOE サーバ/レポートの有無/レポートオブジェクトをチェックします。

## 20.3 LO 26000 - LO 26999

### 20.3.1 `Live Office` でエラーが発生しました。(LO 26000)

#### 原因

SAP BusinessObjects Live Office Web サービスで予期しないエラーが発生しました。

#### 対処方法

再試行するか、Office アプリケーションを再起動してください。

### 20.3.2 SAP BusinessObjects Live Office を使用するための有効なライセンスがありません。SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォームのシステム管理者に連絡してください。(LO 26003)

#### 原因

SAP BusinessObjects Live Office Web サービスを使用するための有効なライセンスがありません。

#### 対処方法

システム管理者に連絡して、有効なキーコードが存在するかどうかを確認します。

### 20.3.3 正しくないバージョンの SAP BusinessObjects Web サービスに接続しているか、または Web サービスの展開が壊れている可能性があります。(LO 26002)

#### 原因

正しくないバージョンの SAP BusinessObjects Web サービスに接続しているか、または Web サービスの展開が壊れています。

## 対処方法

互換性のあるバージョンの Web サービスに接続していることを確認します。問題が解決しない場合は、SAP BusinessObjects 管理者に連絡してください。

### **20.3.4** SAP BusinessObjects Live Office Web サービスでエラーが発生しました。(LO 26004)

#### 原因

SAP BusinessObjects Live Office Web サービスで予期しないエラーが発生しました。

## 対処方法

再試行するか、Office アプリケーションを再起動します。

### **20.3.5** XML の解析に失敗しました。(LO 26005)

#### 原因

Live Office クライアントのバージョンが SAP BusinessObjects Web サービスより新しいバージョンです。

## 対処方法

互換性のあるバージョンの Live Office クライアントをインストールします。

### **20.3.6** クライアントの XML がサーバの XML よりも新しいバージョンです (LO 26006)

#### 原因

Live Office クライアントのバージョンが SAP BusinessObjects Web サービスより新しいバージョンです。



## 対処方法

互換性のあるバージョンの Live Office Web サービスを使用するか、前のバージョンの Live Office があればそれを有効にしてください。

**20.3.7** BusinessObjects Business Intelligence プラットフォームへの接続が失われました。もう一度ログオンしてください。(LO 26007)

## 原因

ネットワーク接続がないか、SAP BusinessObjects Web サービスがダウンしているため、SAP BusinessObjects Web サービスに接続できません。

## 対処方法

ネットワーク接続を修復して、再試行します。問題が解決しない場合は、SAP BusinessObjects 管理者に連絡して、サーバが稼働しているかチェックします。

**20.3.8** 現在の最新表示オプションには保存データが必要ですが、そのデータは存在しません。(LO 26008)

## 原因

現在の最新表示オプションには、存在しないレポートインスタンスが必要です。

## 対処方法

オブジェクトの最新表示オプションを変更するか、保存したデータを使用してレポートをもう一度公開します。

**20.3.9** Web サーバのメモリが不足しています。システム管理者に連絡してください。(LO 26009)

## 原因

Web サーバのメモリが足りません。

## 対処方法

システム管理者に連絡して、Web サーバの設定をチェックします。Web サーバを再起動して、再試行します。

### **20.3.10** 検索サービスで問題が発生しました。検索操作が間違っています。(LO 26010)

#### 原因

検索サービスが応答しませんでした。

#### 対処方法

検索サービスが停止していないか確認してください。

### **20.3.11** Live Office で問題が発生したため、要求されたアクションを完了できません。(LO 26300)

#### 原因

Live Office で問題が発生したため、要求されたアクションを実行できません。

#### 対処方法

SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォームサーバでログオフしてからもう一度ログインし、ドキュメントを再度開いてください。

### **20.3.12** 現在の最新表示オプションにはレポートインスタンスが必要ですが、インスタンスはありません。 (LO 26301)

#### 原因

現在の最新表示オプションには、存在しないレポートインスタンスが必要です。

## 対処方法

オブジェクトの最新表示オプションを変更するか、CMC を使用して新しいインスタンスをスケジュールします。

### **20.3.13** レポート接続 "{0}-{1}" が存在しません。(LO 26302)

#### 原因

Web Intelligence ドキュメントが使用できません。存在しないか、削除されています。

## 対処方法

ドキュメントが BI ラUNCHパッドに存在するかどうかを確認するか、Live Office で [保存場所の設定] を使用してレポートソースを再定義します。

### **20.3.14** Web Intelligence レポートエンジン Web サービスに接続できません (LO 26303)

#### 原因

ネットワーク接続がないか、SAP BusinessObjects Web サービスがダウンしているため、SAP BusinessObjects Web サービスに接続できません。

## 対処方法

SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォームサーバへのネットワーク接続がオンラインであることを確認します。ネットワークが正常に動作している場合は、CMC にログオンして、Web Intelligence Report Server が稼働しているかチェックします。

### **20.3.15** Web Intelligence レポートエンジン Web サービスに接続できません (LO 26304)

#### 原因

ネットワーク接続がないか、SAP BusinessObjects Web サービスがオフラインであるため、SAP BusinessObjects Web サービスに接続できません。

## 対処方法

サーバへのネットワーク接続がオンラインであることを確認します。ネットワークが正常に動作している場合は、CMC にログインして、Web サービスがオンラインであるかチェックします。

### **20.3.16** 永続化ビューをロードできませんでした。(LO 26307)

#### 原因

Office ドキュメントが壊れているか、Live Office クライアントのバージョンと SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォームのバージョンに不一致があります。

## 対処方法

最新バージョンの Live Office をインストールして、再試行します。Web サービスとクライアントのバージョン番号に整合性があるかチェックします。これは、バージョンの不一致が原因である可能性があります。

### **20.3.17** レポートパーツのタイプが {0} から {1} に変更されました。(LO 26310)

#### 原因

Web Intelligence ドキュメントが使用できないか、Web Intelligence ドキュメントの構造が変更されています。

## 対処方法

Web Intelligence ドキュメントを再び挿入します。

### **20.3.18** クエリデータを取得できませんでした (LO 26312)

#### 原因

Web Intelligence ドキュメントで使用されるユニバースが変更または削除されました。

## 対処方法

BI ラウンチパッドから、Web Intelligence ドキュメントのユニバースデータソースを確認します。

### **20.3.19** Web Intelligence レポートパーツ出力データを取得できなかったか、データが無効です (LO 26313)

#### 原因

ドキュメントが使用できないか、破損しているか、またはサーバがダウンしています。

#### 対処方法

- BI ラウンチパッドで、ドキュメントが有効であることを確認します。
- CMC で、サーバがオンラインであることを確認します。
- Live Office の [オプション] ダイアログで、BOE のログオフおよびログオンを実行します。
- Office アプリケーションを閉じて、再起動します。

### **20.3.20** 指定されたレポートからデータを最新表示するための十分な権限がありません。(LO 26314)

#### 原因

指定されたレポートからデータを最新表示するための十分な権限がありません。

#### 対処方法

レポートを最新表示できる権限を付与するよう、SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム管理者に連絡します。

### **20.3.21** ドキュメント情報を取得できませんでした。(LO 26315)

#### 原因

ドキュメント情報を取得できませんでした。詳細については、エラーメッセージ詳細を参照してください。

## 対処方法

レポートエンジンサービスが実行中であることを確認して、再試行します。

**20.3.22** Live Office オブジェクトを取得できませんでした。オンラインピクチャはサポートされていません。(LO 26318)

## 原因

インターネットから画像をダウンロードできませんでした。

## 対処方法

サポートされている画像に置き換えます。

**20.3.23** 指定されたレポートからデータを取得する権限がありません。(LO 26604)

## 原因

指定されたレポートからデータを取得するための十分な権限がありません。

## 対処方法

十分な権限が与えられるように、SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム管理者に問い合わせてください。

**20.3.24** Live Office ビューが破損しています。(LO 26605)

## 原因

Live Office ビューアが壊れています。

## 対処方法

Live Office の [オブジェクトに移動] メニューの下にあるすべての Live Office オブジェクトをクリックして、破損した Live Office オブジェクトを削除します。

### **20.3.25** 最新表示に失敗しました。ビューの最新表示オプションは存在しません。(LO 26606)

## 原因

現在の最新表示オプションには、存在しないレポートインスタンスが必要です。

## 対処方法

このレポートの最新表示オプションをチェックして、再試行します。または、Live Office ビューにスケジュールされたインスタンスが存在するかチェックします。

### **20.3.26** Crystal Reports Server にアクセスできません。Crystal Reports Server の接続を確認してください。(LO 26607)

## 原因

Crystal レポートサーバにアクセスできません。ネットワーク接続または Crystal レポートサーバがダウンしている可能性があります。

## 対処方法

Crystal レポートサーバへの接続を確認します。ネットワークが正常に動作している場合は、CMC にログオンして、Crystal レポートサーバがオンラインであるかチェックします。

## 20.3.27 SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォームのオブジェクトが見つかりません。(LO 26608)

### 原因

ドキュメントを使用できません。ドキュメントが存在しないか、または削除されています。

### 対処方法

CMS からのレポートパスをチェックし、Live Office の SetLocation を使用してレポートソースを再定義します。または、オブジェクトを表示するための十分な権限をユーザが持っているかチェックします。

## 20.3.28 レポート接続が存在しません。(LO 26610)

### 原因

Crystal レポートサーバにアクセスできません。ネットワーク接続がないか、Crystal レポートサービスを使用できない可能性があります。

### 対処方法

Crystal レポートサーバへの接続を確認します。ネットワークが正常に動作している場合は、CMC にログオンして、Web サービスがオンラインであるかチェックします。

## 20.3.29 パラメータ値“{0}”を“{2}”ロケール内の“{1}”に解析できませんでした。(LO 26611)

### 原因

この値は、このフィールドの必要な値のタイプと一致しません。

### 対処方法

値を必要なタイプに変更します。



### 20.3.30 Crystal レポートを解析できませんでした。(LO 26612)

#### 原因

ドキュメントが BI ラウンチパッド内に存在しないか、SAP BusinessObjects Web サービスに接続できません。

#### 対処方法

ドキュメントが BI ラウンチパッド内に存在するかどうかを確認します。存在する場合、Office アプリケーションを再起動してから再試行します。

### 20.3.31 お使いの Live Office クライアントのバージョンが、SAP BusinessObjects Web サービスのバージョンと一致していません。(LO 26613)

#### 原因

使用している Live Office クライアントのバージョンと SAP BusinessObjects Web サービスのインストール済みバージョンの間に互換性がありません。

#### 対処方法

互換性のあるバージョンの Live Office クライアントをインストールして、再試行します。

### 20.3.32 Crystal Reports Server にアクセスできません。Crystal Reports Server の接続を確認してください。(LO 26614)

#### 原因

Crystal レポートサーバにアクセスできません。ネットワーク接続または Crystal レポートサーバを使用できません。

## 対処方法

Crystal レポートサーバへの接続を確認します。ネットワークが正常に動作している場合は、CMC にログオンして、Crystal レポートサーバが稼働しているかチェックします。

### **20.3.33** ビューの表示に失敗しました。レポート CUID {0} が見つかりません。(LO 26615)

#### 原因

レポートが見つかりません。レポートが存在しない可能性があります。

## 対処方法

CMC を使用して、レポートが存在することを確認します。レポートインスタンスまたは保存されたデータがソースレポートから削除されていないことを確認します。

### **20.3.34** セルはすでに存在します。(LO 26616)

#### 原因

既存のオブジェクトを上書きしてしまうため、新しいビューは挿入できません。

## 対処方法

別のセルを選択して、再試行します。

### **20.3.35** 入力された値は必要なフィルタタイプではありません。(LO 26617)

#### 原因

フィルタが無効です。フィルタタイプが値のタイプと一致しません。

## 対処方法

CMC を使用してフィルタを変更するか、Live Office のフィルタ設定を変更します。

### **20.3.36** レポートを開けませんでした。(LO 26619)

#### 原因

Crystal レポートサーバにアクセスできません。ネットワーク接続または Crystal レポートサーバがダウンしているか、レポートが存在しない可能性があります。

## 対処方法

Crystal レポートサーバへの接続を確認します。ネットワークが正常に動作している場合は、CMC にログオンして、Crystal レポートサーバが稼働しているかチェックします。

### **20.3.37** 永続化ビューをロードできませんでした。(LO 26620)

#### 原因

Live Office クライアントのバージョンが SAP BusinessObjects Live Office Web サービスバージョンと一致しません。

## 対処方法

最新バージョンの Live Office Web サービスをインストールして、再試行します。SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム Web サービスおよびクライアントのバージョン番号を確認します。このエラーは、下位互換性の問題が原因で発生する可能性もあります。

### **20.3.38** この種類のレポートオブジェクトはサポートされていません。(LO 26621)

#### 原因

この種類のレポートオブジェクトはサポートされていません。

## 対処方法

別のレポートオブジェクトを挿入します。

**20.3.39** 指定されたレポートパーツを最新表示できませんでした。指定されたデータコンテキストが存在するか確認してください: {0}。(LO 26626)

## 原因

レポートの指定されたパーツを取得できませんでした。レポートのこのパーツは見つからない可能性があります。

## 対処方法

BI ランチパッドでレポートを表示して、レポートの指定されたパーツが見つからないかチェックします。

**20.3.40** 見つからないパーツ: (LO 26627)

## 原因

指定された TopN レポートパーツを取得できませんでした。レポートのこのパーツは見つからない可能性があります。

## 対処方法

BI ランチパッドでレポートを表示して、パーツが見つからないかチェックするか、レポートの別のパーツを選択して再試行します。

**20.3.41** 現在のバージョンは SAP KeyDate 機能をサポートしていません。(LO 26630)

## 原因

現在のバージョンは、SAP のキーマスター機能をサポートしていません。

## 対処方法

- 新しいバージョンにアップグレードする。
- キー日付ユニバースのある Web Intelligence レポートは使用しない。
- キー日付のないレポートに場所を設定する。

### **20.3.42** Crystal Reports Java 形式はサポートされていません。(LO 26631)

## 原因

Crystal Reports for Enterprise を使用して作成された Crystal レポートはサポートされていません。

## 対処方法

別のレポートを選択します。

## 21 SAP BusinessObjects Mobile (MOB) のエラーメッセージ

### 21.1 Mobile サーバのエラーメッセージ

#### 21.1.1 認証情報: {0} が無効です。ログイン情報が正しいことを確認してください。(MOB 00001)

##### 原因

認証情報が無効です。

##### 対処方法

接続設定を確認し、有効な情報を使用してログインします。

#### 21.1.2 {0} 認証により、ログオンできませんでした。ログイン情報が正しいことを確認してください。 (MOB 00002)

##### 原因

認証情報が無効です。

##### 対処方法

指定した認証の種類に対して有効なユーザ名とパスワードを入力します。

#### 21.1.3 {0} ドキュメントを開けませんでした。(MOB 00005)

##### 原因

ドキュメントトランスレータが見つかりません。Enterprise 管理者にお問い合わせください。

## 対処方法

指定したドキュメントの種類に対してドキュメントトランスレータが使用できることを確認します。

### **21.1.4** ドキュメントがサーバに存在しません。(MOB 00006)

#### 原因

すでにサーバ上で削除されたドキュメントを開こうとしています。

## 対処方法

ドキュメント一覧を最新表示し、サーバから最新のドキュメント一覧を取得します。

### **21.1.5** コマンドの作成中に内部サーバエラーが発生しました。管理者に連絡してください。(MOB 00009)

#### 原因

メッセージクラスの種類のカストが無効なため、コマンドを作成できません。

## 対処方法

管理者にお問い合わせください。

### **21.1.6** クライアントから受信した情報に基づいてセッションを作成できませんでした。(MOB 00010)

#### 原因

クライアントから受信した情報のセッションを作成できませんでした。

## 対処方法

再度ログインします。

### **21.1.7** ドキュメントのプロンプトが見つかりません。(MOB 00011)

#### **原因**

ドキュメントのプロンプトが見つかりません。

#### **対処方法**

詳細については、ドキュメント設計者に問い合わせてください。

### **21.1.8** Central Management Server からの情報の取得中に内部サーバエラーが発生しました。(MOB 00012)

#### **原因**

Central Management Server (CMS) からの情報の取得中に、内部サーバエラーが発生しました。

#### **対処方法**

管理者にお問い合わせください。

### **21.1.9** クライアント要求の処理中に内部サーバエラーが発生しました。(MOB 00014)

#### **原因**

クライアント要求でクラス情報が見つかりませんでした。

#### **対処方法**

管理者にお問い合わせください。



**21.1.10** ドキュメントを開く際に内部サーバエラーが発生しました。サーバでクラス {0} が見つかりませんでした。(MOB 00015)

#### 原因

WebIParser.jar 内にクラスが見つかりません。

#### 対処方法

管理者にお問い合わせください。

**21.1.11** 内部エラーが発生しました。 - {0} サービスが見つかりませんでした。(MOB 00018)

#### 原因

アクセスしようとしているサービスが見つかりません。

#### 対処方法

管理者にお問い合わせください。

**21.1.12** 内部エラーが発生しました。{0} サービスが見つかりませんでした。(MOB 10001)

#### 原因

このエラーは、要求されたアクションがサービスとして登録されていない場合に発生します。

#### 対処方法

管理者にお問い合わせください。

### **21.1.13** {0} サービスの作成中に内部エラーが発生しました。(MOB 00019)

#### **原因**

サービスの作成中に内部エラーが発生しました。

#### **対処方法**

管理者にお問い合わせください。

### **21.1.14** クライアント要求の処理中に内部サーバエラーが発生しました。(MOB 00020)

#### **原因**

リモートメソッドの呼び出しに失敗しました。引数のタイプと引数の名称の値が同じである必要があります。

#### **対処方法**

管理者にお問い合わせください。

### **21.1.15** クライアント要求の処理中に内部サーバエラーが発生しました。(MOB 00021)

#### **原因**

リモートメソッドの呼び出しに失敗しました。宣言されたメソッドで使用できる引数は、論理型、Int 型、Double 型、または java.lang.String 型のみです。それ以外のデータ型はサポートされていません。

#### **対処方法**

管理者にお問い合わせください。

### **21.1.16** クライアント要求の処理中に内部サーバエラーが発生しました。(MOB 00022)

#### 原因

MobiVaultusServer.jar 内の command\_factories.properties ファイルが壊れています。

#### 対処方法

管理者にお問い合わせください。

### **21.1.17** クライアント要求の処理中に内部サーバエラーが発生しました。(MOB 00023)

#### 原因

リモートメソッドの呼び出しに失敗しました。従来の型の 1 つに渡された引数を変換できません。

#### 対処方法

管理者にお問い合わせください。

### **21.1.18** ドキュメントアラートを購読する権限がありません。(MOB 00024)

#### 原因

ドキュメントアラートを購読する権限がありません。

#### 対処方法

管理者にお問い合わせください。

**21.1.19** デバイスのローカルストアにドキュメントを保存する権限がありません。[ローカルコピーの保存] オプションを選択せずに、アラートを購読することができます。(MOB 00026)

#### 原因

デバイスのローカルストアにドキュメントを保存する権限がありません。

#### 対処方法

管理者にお問い合わせください。

**21.1.20** デバイスのローカルストアにドキュメントを保存する権限がありません。(MOB 00027)

#### 原因

デバイスのローカルストアにドキュメントを保存する権限がありません。

#### 対処方法

管理者にお問い合わせください。

**21.1.21** 検索の実行中に内部サーバエラーが発生しました。(MOB 00028)

#### 原因

検索の実行中に内部サーバエラーが発生しました。

#### 対処方法

管理者にお問い合わせください。

### **21.1.22** クライアント要求の処理中に内部サーバエラーが発生しました。(MOB 00029)

#### 原因

要求されたメソッドは存在しません。詳細については、ログを参照してください。

#### 対処方法

管理者にお問い合わせください。

### **21.1.23** セッションの期限が切れています。再度ログインしてください。(MOB 00030)

#### 原因

クライアントからのログイン認証情報の受信中にセッションの有効期限が切れました。

#### 対処方法

アプリケーションを終了して、再度ログインします。

### **21.1.24** セッションの期限が切れています。再度ログインしてください。(MOB 00031)

#### 原因

クライアントからログイン認証情報の受信中に内部サーバエラーが発生しました。

#### 対処方法

アプリケーションを終了し、もう一度ログインします。

## **21.1.25** 受信したセッションデータの確認中に、メッセージプッシュが失敗しました。(MOB 00050)

### 原因

ネットワークを使用できないため、メッセージプッシュが失敗しました。

### 対処方法

受信したセッションデータの形式を確認します。

## **21.1.26** クライアント要求の処理中に内部サーバエラーが発生しました。(MOB 00060)

### 原因

要求されたアクションをサーバで公開できなかったため、内部サーバエラーが発生しました。

### 対処方法

管理者にお問い合わせください。

## **21.1.27** クライアント要求の処理中に内部サーバエラーが発生しました。(MOB 00080)

### 原因

内部エラーのため、コマンドの実行に失敗しました。

### 対処方法

管理者にお問い合わせください。

## **21.1.28** クラス {0} のインスタンスの作成中に内部サーバエラーが発生しました。(MOB 00110)

### 原因

無効な情報のため、クラスのリモート呼び出しに失敗しました。

### 対処方法

管理者にお問い合わせください。

## **21.1.29** クライアント要求の処理中に内部サーバエラーが発生しました。(MOB 00130)

### 原因

無効なメソッド情報のため、メソッドのリモート呼び出しに失敗しました。

### 対処方法

管理者にお問い合わせください。

## **21.1.30** 内部サーバエラーが発生しました。ファイル {0} が見つからないか、サーバでファイルが破損しています。(MOB 00300)

### 原因

要求されたファイルが見つからないか、ファイルが破損しています。

### 対処方法

管理者にお問い合わせください。

**21.1.31** セッションの期限が切れています。ドキュメントを開くには再ログインしてください。(MOB 02003)

#### 原因

セッションの有効期限が切れている。

#### 対処方法

setInfoObjects メソッドおよび setSession メソッドが openDocumentInstance の前に呼び出されているか確認し、再度ログインします。

**21.1.32** パラメータの範囲が無効であるため、プロンプトの実行が失敗しました。(MOB 02017)

#### 原因

プロンプト値のパラメータの範囲には 2 つのパラメータが含まれている必要があります。

#### 対処方法

有効な範囲値を入力してプロンプトを実行します。

**21.1.33** プロンプト値が無効です。適切な書式の日付を入力してください。(MOB 02100)

#### 原因

文字列を日付の書式に変換できませんでした。

#### 対処方法

プロンプトに入力した日付が有効な書式であることを確認します。



### **21.1.34** 無効な <href> タグの構文のため、要求されたアクションを実行できません。(MOB 02120)

#### 原因

HTML の <href> タグの構文が無効です。

#### 対処方法

ドキュメントのデザイナーにお問い合わせください。

### **21.1.35** Mobile サーバ名または IP アドレスを解決できません。(MOB 20007)

#### 原因

Mobile サーバ名または IP アドレスを解決できません。

#### 対処方法

有効な Mobile サーバ名または IP アドレスを指定します。

### **21.1.36** 設定を {0} ファイルに保存できませんでした。(MOB 20010)

#### 原因

プロパティファイルを編集できません。

#### 対処方法

ファイルに書き込み権限があるか確認します。

### **21.1.37 セッションの期限が切れています。 もう一度ログインしてください (MOB 00931)**

#### **原因**

セッションの期限が切れているか、またはセッションが強制終了されました。

#### **アクション**

アプリケーションを終了し、もう一度ログインします。

### **21.1.38 クラス {0} でメソッド 'getEnterpriseSession' の呼び出しに失敗しました。 (MOB 00929)**

#### **原因**

パラメータが無効です。

#### **アクション**

システム管理者に連絡してください。

### **21.1.39 メソッド 'getEnterpriseSession' の呼び出しに失敗しました。 (MOB 00930)**

#### **原因**

無効なパラメータが原因で、クラスでメソッド 'getEnterpriseSession' を呼び出すことができません。

#### **アクション**

システム管理者に連絡してください。

### **21.1.40** リモートアクションで内部サーバエラーが発生しました。 クラス名を入力してください。 **(MOB 00401)**

#### 原因

API でクラス名が提供されません。

#### アクション

クラス名を入力します。

### **21.1.41** リモートアクションで内部サーバエラーが発生しました。 **{0}** という名前のクラスが見つかりません。 **(MOB 00402)**

#### 原因

クラス名が無効です。

#### アクション

システム管理者に連絡してください。

### **21.1.42** リモートアクションで内部サーバエラーが発生しました。 引数が一致しません - タイプ **{0}**、値 **{1}** **(MOB 00403)**

#### 原因

引数が無効です。

#### アクション

システム管理者に連絡してください。

### **21.1.43 リモートアクションで内部サーバエラーが発生しました。 {0} という名前のメソッドは存在しません。(MOB 00405)**

#### **原因**

引数が無効です。

#### **アクション**

システム管理者に連絡してください。

### **21.1.44 InfoObject データを取得できませんでした。ID {0} のド キュメントが見つかりませんでした。(MOB 00801)**

#### **原因**

InfoObject データを取得できませんでした。

#### **アクション**

システム管理者に連絡してください。

### **21.1.45 ID {0} のドキュメントを見つけて開くことができません。 (MOB 00802)**

#### **原因**

ID {0} のドキュメントが見つかりませんでした。

#### **アクション**

システム管理者に連絡してください。

### **21.1.46 購読を変更できませんでした。ID {0} のドキュメントが見つかりません。 (MOB 00803)**

#### **原因**

ID {0} のドキュメントが見つかりませんでした。

#### **アクション**

システム管理者に連絡してください。

### **21.1.47 ドキュメントを購読できませんでした。ID {0} のドキュメントが見つかりません。 (MOB 00804)**

#### **原因**

ID {0} のドキュメントが見つかりませんでした。

#### **アクション**

システム管理者に連絡してください。

### **21.1.48 システムオブジェクトデータを取得できませんでした。ID {0} のオブジェクトが見つかりません。 (MOB 00805)**

#### **原因**

ID {0} のドキュメントが見つかりませんでした。

#### **アクション**

システム管理者に連絡してください。

**21.1.49** URL {0} に無効な文字が含まれているため、要求されたアクションを実行できません。(MOB 02090)

#### 原因

URL に無効な文字が含まれています。

#### 対処方法

ドキュメントのデザイナーにお問い合わせください。

**21.1.50** 実装クラス {0} をインスタンス化できません。システム管理者に連絡してください。(MOB 00901)

#### 原因

実装クラス {0} をインスタンス化できません。

#### アクション

システム管理者に連絡してください。

**21.1.51** 認証スキーマ {0} は無効です。システム管理者に連絡してください。(MOB 00902)

#### 原因

認証スキーマが無効です。

#### アクション

システム管理者に連絡してください。

### **21.1.52 ユーザアカウント ({0}) は現在無効です。 (MOB 00903)**

#### **原因**

ユーザアカウントが無効です。

#### **アクション**

システム管理者に連絡してください。

### **21.1.53 リクエストからユーザ名またはパスワードが見つかりません。 (MOB 00910)**

#### **原因**

ログイン時にユーザ名およびパスワードが入力されませんでした。

#### **アクション**

再ログイン時にユーザ名およびパスワードを入力します。

### **21.1.54 CMS アドレスの識別に失敗しました。 (MOB 00912)**

#### **原因**

CMS 値が入力されていないか、デフォルト接続が設定されていません。

#### **アクション**

CMS アドレスを入力するか、接続をデフォルト設定します。

## 21.1.55 認証の種類識別に失敗しました。(MOB 00913)

### 原因

認証の種類が選択されていないか、デフォルト接続が設定されていません。

### アクション

リクエストで認証の種類を入力するか、接続をデフォルト設定します。

## 21.1.56 認証 Cookie の識別に失敗しました。(MOB 00914)

### 原因

Cookie 名が選択されていないか、デフォルト接続が設定されていません。

### アクション

リクエストで Cookie 名を入力するか、接続をデフォルト設定します。

## 21.1.57 リクエストから {0} Cookie の取得に失敗しました。(MOB 00915)

### 原因

Cookie が無効です。

### アクション

リクエストで有効な Cookie が送信されることを確認します。



### **21.1.58 リクエストから SAP チケットの取得に失敗しました。 (MOB 00916)**

#### **原因**

リクエストの SAP チケットが無効です。

#### **アクション**

リクエストで有効な SAP チケットが送信されることを確認します。

### **21.1.59 SAP システムが見つかりませんでした。 (MOB 00917)**

#### **原因**

無効な SAP システムが設定されました。

#### **アクション**

有効な SAP システムを設定します。

### **21.1.60 リクエストからログオントークンの取得に失敗しました。 (MOB 00918)**

#### **原因**

BusinessObjects Enterprise ログオントークンがリクエストにありません。

#### **アクション**

リクエストとともにログオントークンを送信します。

### **21.1.61 無効なユーザパラメータ名が設定されました。(MOB 00919)**

#### **原因**

入力されたユーザ名が無効です。

#### **アクション**

有効なユーザパラメータ名が設定されていることを確認してください。

### **21.1.62 リクエストからヘッダとしてのユーザが見つかりません。(MOB 00920)**

#### **原因**

リクエストからヘッダとしてのユーザが見つかりません。

#### **アクション**

リクエストでヘッダとしてのユーザを送信します。

### **21.1.63 クエリにユーザパラメータがありません。(MOB 00921)**

#### **原因**

クエリにユーザパラメータがありません。

#### **アクション**

リクエストでヘッダとしてのユーザを送信します。

## **21.1.64 セッションにユーザ属性がありません。(MOB 00922)**

### **原因**

セッションにユーザ属性がありません。

### **アクション**

Web セッションでユーザ属性を追加します。

## **21.1.65 リクエストからユーザ X509 証明書が見つかりません。(MOB 00924)**

### **原因**

送信されたリクエストで、ユーザ X509 証明書が見つかりません。

### **アクション**

有効な X509 証明書をリクエストに追加します。

## **21.1.66 カスタム実装クラス {0} のロードに失敗しました。(MOB 00925)**

### **原因**

カスタム実装クラスをロードできませんでした。

### **アクション**

システム管理者に連絡してください。

### **21.1.67 クラス {0} で 'getUser' を探して呼び出すことに失敗しました。 (MOB 00926)**

#### **原因**

'getUser' メソッドが見つからず、呼び出すことができませんでした。

#### **アクション**

システム管理者に連絡してください。

### **21.1.68 ログオンエラー: パスワードが無効です。 (MOB 00927)**

#### **原因**

パスワードが無効です。

#### **アクション**

有効なパスワードを入力し、ログインを再試行してください。

## 22 マルチテナントエラーメッセージ

この節には、マルチテナント管理ツールで表示され、.csv ログファイルに記録される一般的なエラーの一覧が記載されています。

エラーコードの範囲	カテゴリ
MTM 00001 ~ MTM 00024	プロパティ設定ファイルエラー
MTM 00101 ~ MTM 10104	データの読み取りエラー
MTM 01001 ~ MTM 01009	データベース設定エラー
MTM 02000 ~ MTM 02002	ユーザグループおよび権限エラー
マルチテナント管理ツール	警告メッセージ

### 22.1 MTM 00001 ~ MTM 00024 プロパティ設定ファイルエラー

#### 22.1.1 (MTM 00001) アプリケーション設定ファイルが無効です。 エラー: {0}。 ログファイルを参照してください。

##### 原因

一部の設定オプションの指定にエラーがありました。

##### アクション

出力またはログファイルをチェックし、正しくないオプションを確認し、インストールされたサンプルテナントテンプレート定義ファイルの関連コメントに従って修正を行います。

#### 22.1.2 (MTM 00002) 予約済み

##### 原因 (MTM 00002 用に予約済み)

原因ブレースホルダテキスト

## アクション

対処方法プレースホルダテキスト

### **22.1.3** (MTM 00003) 予期しないエラーが発生しました。 ログファイルを参照してください。

## 原因

予期しない状況が発生しました。

## アクション

ログファイルで詳細なエラーメッセージを確認します。

### **22.1.4** (MTM 00004) 予約済み

## 原因

原因プレースホルダテキスト

## アクション

対処方法プレースホルダテキスト

### **22.1.5** (MTM 00005) 設定オプション "{3}" で指定された "{2}" のルートフォルダ "{1}" で、クエリ "{0}" を使用して一致するオブジェクトが見つかりませんでした。 指定したテンプレートパスが正しいことを設定オプションで確認してください。

## 原因

指定されたテンプレートパスに基づいて、テンプレートオブジェクトを取得することができません。

## アクション

設定オプションを使用し、指定されたテンプレートパスが正しいことを確認します。指定されたルートフォルダでは、テンプレートを使用できない可能性があります。

**22.1.6** (MTM 00006) MTM でクエリ {0} によるオブジェクトの取得に失敗しました。 ログファイルを参照してください。

## 原因

CMS またはオブジェクトマネージャからのオブジェクトの取得中に、エラーが発生しました。

## アクション

ログファイルで詳細な根本的原因を確認します。クエリ構文、CMS の利用可能性、およびオブジェクトへのアクセス可能性を確認します。

**22.1.7** (MTM 00007) MTM で、ルートフォルダ "{0}" において設定オプション "{2}" で指定された "{1}" からのテンプレートオブジェクトの取得に失敗しました。 ログファイルを参照してください。

## 原因

CMS またはオブジェクトマネージャからのテンプレートオブジェクトの取得中に、エラーが発生しました。

## アクション

ログファイルで詳細な根本的原因を確認します。クエリ構文、CMS の利用可能性、およびオブジェクトへのアクセス可能性を確認します。

## 22.1.8 (MTM 00008) MTM でテンプレートオブジェクトのテナントオブジェクトへのマッピングに失敗しました。 ログファイルを参照してください。

### 原因

テンプレートオブジェクトのテナントオブジェクトへのマッピング中に、エラーが発生しました。このエラーは、オブジェクトマネージャ関連の処理中か、BIAR ファイルの処理中における IO 処理が原因で発生した可能性があります。

### アクション

ログで実際の原因に関する詳細を確認します。使用されるテナントテンプレート定義ファイルで、テンプレートオブジェクトが適切に定義されているかどうかを確認します。また、ユーザが IO リソースにアクセスするのに十分なアクセス権を持っているのかも確認します。

## 22.1.9 (MTM 00009) MTM で以前にインポートされたテナントオブジェクトのバックアップの実行に失敗しました。 ログファイルを参照してください。

### 原因

既存テナントオブジェクトのバックアップ中に、例外が発生しました。このエラーは、オブジェクトマネージャ関連の処理中か、BIAR ファイルの処理中における IO 処理が原因で発生した可能性があります。

### アクション

ユーザのホームディレクトリに十分なディスク領域があり、CMS にアクセスできることを確認します。ログファイルで実際の原因に関する詳細を確認します。

## 22.1.10 (MTM 00010) MTM でバックアップテナントオブジェクトの復元に失敗しました。 ログファイルを参照してください。

### 原因

テナントオブジェクトの元の状態への復元中に、例外が発生しました。



## アクション

バックアップテナントオブジェクトの BIAR ファイルをユーザのホームディレクトリに格納でき、CMS にアクセスできることを確認します。ログファイルで詳細を確認します。

**22.1.11** (MTM 00011) MTM でテナントオブジェクトの最新表示または共有オブジェクトの更新に失敗しました。ログファイルを参照してください。

## 原因

データベース接続情報などのテナント固有データによるテナントオブジェクトの最新表示中に、例外が発生しました。

## アクション

ログファイルで、異なるオブジェクトタイプに関連する詳細な根本的原因を確認します。

**22.1.12** (MTM 00012) MTM で種類 {0} のドキュメント最新表示プラグインのロードに失敗しました。ドキュメント最新表示プラグイン jar が存在しアクセス可能かどうかを確認してください。

## 原因

ドキュメント最新表示プラグイン jar のロード中に、例外が発生しました。

## アクション

ドキュメント最新表示プラグイン jar が存在し、アクセス可能であることを確認します。最新表示プラグインは、`$installdir$¥SAP BusinessObjects Enterprise XI 4.0¥java¥apps¥multitenancyManager¥jars¥docRefreshPlugins` にあります。

## 22.1.13 (MTM 00013) 予約済み

### 原因

予約済み

### アクション

予約済み

## 22.1.14 (MTM 00014) MTM でテナントのインポートの準備に失敗しました。 ログファイルを参照してください。

### 原因

テナントのオブジェクトをインポート可能にする際に、例外が発生しました。通常、このエラーは特定のオブジェクトタイプのみで発生します。

### アクション

ログファイルで、異なるオブジェクトタイプに関連する詳細な根本的原因を確認します。

## 22.1.15 (MTM 00015) MTM はテナント {0} のテナントシステムオブジェクトの作成に失敗しました。 テナントシステムオブジェクトが MTM によって CMC にデプロイされたこと、および MTM ユーザにテナントシステムオブジェクトの表示権限があることを確認してください。

### 原因

作成された後に、特定のテナントのテナントシステムオブジェクトを取得できません。

### アクション

テナントシステムオブジェクトが正常にコミットされており、MTM ユーザがそれに対する表示権限を持っていることを確認します。

**22.1.16** (MTM 00016) MTM はテナント {0} のテナントシステムオブジェクトの取得に失敗しました。  
テナントシステムオブジェクトが存在していること、および MTM ユーザにテナントシステムオブジェクトの表示権限があることを確認してください。

## 原因

ユーザがオブジェクトに対する表示権限を持たないために、特定のテナントのテナントシステムオブジェクトを取得できない可能性があります。

## アクション

テナントシステムオブジェクトが存在し、MTM ユーザがそれに対する表示権限を持っていることを確認します。

**22.1.17** (MTM 00017) MTM はテナント - オブジェクト関係オブジェクトの取得に失敗しました。テナント - オブジェクト関係オブジェクトが存在していること、および MTM ユーザにテナント - オブジェクト関係オブジェクトの表示権限があることを確認してください。

## 原因

ユーザがオブジェクトに対する表示権限を持たないために、テナント - オブジェクト関係オブジェクトを取得できない可能性があります。

## アクション

テナント - オブジェクト関係オブジェクトが存在し、MTM ユーザがそれに対する表示権限を持っていることを確認します。

**22.1.18** (MTM 00018) 定義ファイルの `templateToken` プロパティの値が無効です。  
`templateToken` プロパティの有効な値を入力してください。

## 原因

定義ファイルで定義された `templateToken` プロパティ値に、(短すぎるなどの理由により) 無効な値が含まれています。

## アクション

より長い `templateToken` プロパティ値を入力し、既存の非テンプレート `InfoObject` 名の一部と一致していないことを確認します。

**22.1.19** (MTM 00019) 共有オブジェクト {0} では、非共有テンプレートオブジェクト {1} を使用しないでください。共有オブジェクトで非共有テンプレートオブジェクトが使用されていないことを確認してください。

## 原因

共有オブジェクトで非共有テンプレートオブジェクトが使用されています。正しく指定されなかったテンプレートか、またはテンプレートオブジェクトの不適切な設定が原因である可能性があります。

## アクション

エラーメッセージのテンプレートオブジェクトが、共有オブジェクトで使用されていないことを確認します。

**22.1.20** (MTM 00020) 共有ユニバースフォルダ {0} は無効です。 `optionUseSharedUniverses` を `true` に設定して、 `sharedUniverseFolder` を有効なフォルダに設定してください。

## 原因

設定ファイルの `sharedUniverseFolder` が、存在しないフォルダに設定されています。

## アクション

`optionUseSharedUniverses` が `true` に設定されている場合、 `sharedUniverseFolder` が有効なフォルダに設定されていることを確認します。

**22.1.21** (MTM 00021) MTM でクエリ {0} による MTM ツールアプリケーションオブジェクトの取得に失敗しました。 ユーザには MTM ツールアプリケーションオブジェクトに関する権限が必要です。

## 原因

MTM アプリケーションオブジェクトを CMS から取得できませんでした。

## アクション

これは、回復不可能なエラーです。システムをチェックし、ユーザにマルチテナント管理ツールアプリケーションオブジェクトに対する表示権限があることを確認します。

**22.1.22** (MTM 00022) MTM は CMS で MTM アプリケーションオブジェクトの編集に失敗しました。ユーザには MTM ツールアプリケーションオブジェクトでの編集権限が必要です。

## 原因

更新された MTM アプリケーションオブジェクトを CMS にコミットできませんでした。

## アクション

システムをチェックし、ユーザにマルチテナント管理ツールアプリケーションオブジェクトに対する編集権限があることを確認します。

**22.1.23** (MTM 00023) MTM でオブジェクトの一時保存に使用するオブジェクトマネージャデータベースの設定に失敗しました。 ログファイルを参照してください。

## 原因

オブジェクトの一時保存に使用するオブジェクトマネージャデータベースを作成できません。

## アクション

MTM ユーザに、オブジェクトマネージャデータベースを設定するのに十分な権限があることを確認します。ログファイルで実際の原因に関する詳細を確認します。

**22.1.24** (MTM 00024) MTM でファイルパス {0} を作成に失敗しました。 ユーザにはファイルパスを作成する完全な権限が必要です。

## 原因

ディレクトリアクセス制限が原因で、指定されたファイルパスを作成できなかった可能性があります。

## アクション

MTM ユーザに、指定されたファイルパスを作成するのに十分な権限があることを確認します。

## 22.2 MTM 00101 ～ MTM 00104

**22.2.1** (MTM 00101) 設定ファイルおよびコマンドラインパラメータの解析中にエラーが発生しました。  
無効なパラメータが検出されました: "{0}"

## 原因

設定オプションの指定に関して、エラーが検出されました。

## アクション

インストール済みのサンプルテナントテンプレート定義プロパティファイルで関連するコメントを確認し、オプションの指定方法に関する詳細を把握します。 定義ファイルまたはコマンドラインで、オプションを適宜修正します。

## 22.2.2 (MTM 00102) 設定ファイルの読み取り中にエラーが発生しました: "{0}"。

### 原因

テナントテンプレート定義ファイルの読み取りまたは解析中に、エラーが発生しました。IO エラーが原因である可能性が高いです。

### アクション

コマンドラインの "configFile" オプションでの指定に従ってテナントテンプレート定義ファイルが存在し、ユーザーがそれにアクセスできるかどうかを確認します。

## 22.2.3 (MTM 00103) テンプレートトークンが見つかりません

### 原因

テンプレートトークン設定オプション `templateToken` が適切に指定されていません。

### アクション

テンプレートトークンは、他のオブジェクトパス関連設定オプションでの指定に従ってテンプレートを識別するために使用されます。これがなければ、ツールが何をインポートまたはプロビジョニングすべきかを認識できません。テナントテンプレート定義ファイルまたはコマンドラインで、`templateToken` オプションが適切に設定されていることを確認してください。

## 22.2.4 (MTM 00103) テナント名が見つかりません

### 原因

テナント名設定オプション `tenantName` が適切に指定されていません。

## アクション

テナント名は、特定のテナントを識別するために使用される一意の名前です。これは、テンプレートオブジェクトパスのテンプレートトークンプレースホルダを置き換える文字列にもなります。テナントテンプレート定義ファイルまたはコマンドラインで、tenantName オプションが適切に設定されていることを確認してください。

## 22.3 MTM 01001 ~ MTM 01009 データベース設定エラー

### 22.3.1 (MTM 01001) テンプレートデータベース設定 {0} またはテナントデータベース設定 {1} がありません

#### 原因

テナントデータベースへのテンプレートのマッピングが正しく設定されていません。

## アクション

設定をチェックし、テナントデータベース情報に対して不適切なテンプレートがあるかどうかを確認してください。

### 22.3.2 (MTM 01002) テンプレートデータベース設定が無効です。{0} の解析中のエラー。

#### 原因

レポートオブジェクトによって参照されるテンプレートオブジェクトに、一致テナントオブジェクトがありません。

## アクション

接続やユニバースオブジェクトなどの一致テナントオブジェクトが、インポートから欠落しているかどうかを確認してください。



### 22.3.3 (MTM 01003) テナントデータベース設定が無効です。{0} の解析中のエラー。

#### 原因

テナントデータベース設定が正しい形式で指定されていません。

#### アクション

テナントテンプレート定義ファイルに記載されているテナントデータベース形式を確認してください。

### 22.3.4 (MTM 01004) データベースサーバタイプ {0} が無効です。

#### 原因

指定されたデータベースサーバタイプはサポートされていません。

#### アクション

データベースサーバタイプがサポートされていることを確認してください。サポートされているタイプのリストについては、弊社の文書を参照してください。

### 22.3.5 (MTM 01005) 予約済み

#### 原因

予約済み

#### アクション

予約済み

### 22.3.6 (MTM 01006) {0} と {1} のテーブルプレフィックスが一致しません。どちらかのプレフィックスが存在しないか、プレフィックスの数が一致しません

#### 原因

テンプレートテーブルプレフィックスの数と、テナントテーブルプレフィックスの数が一致しません。

#### アクション

問題を解決するには、テーブルプレフィックス設定を確認してください。

### 22.3.7 (MTM 01007) データベース設定が無効です。詳細は、前のアイテムを参照してください。

#### 原因

過去にデータベース設定エラーがレポートされました。

#### アクション

出力またはログファイルで、過去の設定エラーに関する詳細を確認してください。

### 22.3.8 (MTM 01008) CR ドキュメントの最新表示中に、予期しない例外が発生しました。

#### 原因

CR ドキュメントの最新表示中に、予期しない例外が発生しました。

#### アクション

ログファイルで詳細な根本的原因を確認してください。

## 22.3.9 (MTM 01009) オプション {1} によって指定されたテンプレート接続 {0} は、インポートされたテナント接続に対応していません

### 原因

指定されたテンプレート接続に対応するテナント接続がインポートされていません。正しく指定されなかったテンプレート接続、接続オブジェクトインポートの欠落、または接続インポートオプションの不適切な設定が原因である可能性があります。

### アクション

エラーメッセージで指定されたオプションのテンプレート接続設定をチェックし、テンプレート接続 CUID が正しいことを確認してください。また、optionIncludeConnections インポートオプションが true に設定されており、指定されたテンプレート接続オブジェクトが templateConnectionFolder オプションの指定によって適切に含まれていることも確認します。

## 22.4 MTM 02000 ～ MTM 02002 ユーザグループおよび権限

### 22.4.1 (MTM 02000) ユーザ '<username>' はテナント '<tenantname>' に対して十分な権限がありません

### 原因

SAP Crystal Reports 2011 のデータ直結接続のテナントマッピングのテンプレートがないか、正しく設定されていません。

### アクション

設定ファイル (tenant\_template\_def.properties) を開き、すべての crystalreport.template<n> オプションに、対応する crystalreport.tenantdb<n> オプションがあることを確認します。

トレースログファイル (multitenancymanager\_trace.00000<n>.glf) を確認して詳細を分析します。

## 22.4.2 (MTM 02001) データベース設定が無効です。詳細については、過去のエラーログを参照してください

### 原因

CCIS 日付接続に関連するデータベース設定オプションの指定に関して、エラーが検出されました。

### アクション

設定ファイル (tenant\_template\_def.properties) を開き、すべての `crystalreport.templatedb<n>` オプションに、対応する `crystalreport.tenantdb<n>` オプションがあることを確認します。

トレースログファイル (multitenancymanager\_trace.00000<n>.glf) を確認して詳細を分析します。

## 22.4.3 (MTM 02002) 主体は同じテナントに属するユーザグループのみを結合できます。 関連する主体が同じテナントに属していません: {type1} '{name1}'(id={id1}, tenant={tenant 1 name(tenant 1 id)}) and {type2} '{name2}'(id={id2}, tenant={tenant 2 name(tenant 2 id)})

### 原因

別のテナントに属するユーザグループに主体を追加しようとしています。

### アクション

CMC で、ユーザとグループを確認します。

### 例

```
Principals are only allowed to join user groups belonging to the same tenant.
Related principals are not in the same tenant: usergroup 'Administrators'
(id=33, tenant=shared(0)) and user 'George'(id=1234, tenant=TenantA(4567)).
```

## 22.5 MTM Tool 警告メッセージ

### 22.5.1 (MTM ツール 1) タイプカテゴリのオブジェクトを取得しています。テンプレートパス `templateCategoryFolder` が指定されていません

#### 原因

MTM プロパティ設定ファイル `optionIncludeCategories` が `true` に設定されており、`templateCategoryFolder` に対して有効なパスが指定されていません。

#### アクション

`optionIncludeCategories` を `false` に設定するか、または `templateCategoryFolder` に対して有効なパスを指定します。

### 22.5.2 (MTM ツール 2) 一致する種類 `CCIS.DataConnection` または `CommonConnection` の共有オブジェクトはありません

#### 原因

MTM プロパティ設定ファイル `optionUseSharedConnections` が指定されましたが、`sharedConnectionFolder` が指定されていないか、または指定で有効な接続オブジェクトがポイントされていません。

#### アクション

`optionUseSharedConnections` を `false` に設定するか、または `sharedConnectionFolder` に対して有効なパスを指定します。

### 22.5.3 (MTM ツール 3) プラグイン `CrystalReport` のプラグイン固有設定の確認中に、エラー/警告が発生しました。

#### 原因

1 つ以上の CR 固有設定 (テナント定義ファイルで "crystalreport." から始まる設定) が無効です。

## アクション

無効なオプションについて、ログに記録されるか、または表示されるエラーが存在します。テナント定義ファイルで、これらのオプションに関連するコメントに従ってエラーを修正します。

## 23 Query as a Web Service (QWS) エラーメッセージ

Query as a Web Service エラーメッセージは、次のカテゴリに分類されます。

範囲	カテゴリ
00001-00011	QWS
02718-02719	QWS

### 23.1 ヘルプファイルが見つかりません:¥n{0} (QWS 00001)

#### 原因

ヘルプファイルが想定される場所にインストールされていません。

#### アクション

QaaWS 製品を再インストールします。

### 23.2 サーバ名と証明書名が一致しません (QWS 00002)

#### 原因

エラーは、サーバ上の HTTPS の設定および証明書の有効性とリンクされています。

#### アクション

サーバ名と証明書の有効性をチェックします。

## 23.3 HTTPS 証明書の発行者は信頼できません (QWS 00003)

### 原因

エラーは、サーバ上の HTTPS の設定および証明書の有効性とリンクされています。

### アクション

サーバ名と HTTPS 証明書の有効性をチェックします。

## 23.4 指定した Web サービス URL は更新されていません。管理者に問い合わせるか、Query as a Web Service のマニュアルを参照してください。(QWS 00004)

### 原因

QaaWS Web サービスがサーバ上にインストールされていません。

### アクション

QaaWS Web サービスがサーバ上にインストールされていることをチェックします。

## 23.5 XML コンテンツのクエリの指定が無効です (QWS 00005)

### 原因

コンシューマアセンブリが壊れているか、互換性がないため、CMS に保存されているクエリをロードできません。

### アクション

Web Service DSWs ファイルまたは \*.dll ファイルが壊れていないことと、無効なバージョンでないことをチェックします。壊れている場合は、再インストールする必要があります。



## 23.6 結果オブジェクトのデータ型は認識されません: {0} (QWS 00006)

### 原因

Query as a Web Service がサポートするのは、時間、文字列、数値のデータ型のみです。

### アクション

データソースをチェックして、サポートされている上の一覧にデータ型が準拠していることを確認します。

## 23.7 サーバにログオンする必要があります (QWS 00007)

### 原因

Web サービスを呼び出そうとしていますが、ログインしていません。

### アクション

まず Query as a Web Service をホストしているサーバにログインする必要があります。

## 23.8 レポートエンジン Web サービスのプロキシが使用できません。Web サービスの呼び出しは成功していません。(QWS 00008)

### 原因

Query as a Web Service を呼び出そうとしていますが、サーバに接続していません。

### アクション

ネットワークに接続していることを確認し、少し待ってから、もう一度実行します。

## 23.9 プロンプト選択中のエラー (QWS 00009)

### 原因

Query as a Web Service の呼び出しに失敗しました。これは、レポートの値の一覧 (LOV) の取得時に発生する場合があります。次の原因が考えられます。

- サーバがダウンしている。
- サーバがタイムアウトした。
- 接続上の問題がある。

### アクション

サーバがアクティブであること、タイムアウトパラメータが十分な値であること、サーバが応答していることを確認します。

## 23.10 コンテキストの選択中に問題が発生しました (QWS 00010)

### 原因

Query as a Web Service の呼び出しに失敗しました。これは、ユニバースからのクエリコンテキストの取得時によく発生します。次の原因が考えられます。

- サーバがダウンしている。
- サーバがタイムアウトした。
- 接続上の問題がある。

### アクション

サーバがアクティブであること、タイムアウトパラメータが十分な値であること、サーバが応答していることを確認します。

## **23.11** データソースのリストをロードできません (QWS 00011)

### 原因

Query as a Web Service はデータソースの一覧にアクセスできません。

### アクション

アプリケーションを閉じて、再起動します。

## **23.12** クエリを設計または編集する権限がありません。管理者に連絡してください。(QWS 02718)

### 原因

ログインしようとしているユーザには、Query as a Web Service にアクセスする権限がありません。

### アクション

管理者に連絡して、CMC 内で対応する権限を付与してもらいます。

## 24 RESTful Web サービス (RWS) のエラーメッセージ

RESTful Web サービスのエラーメッセージは、次のカテゴリに分類されます。

範囲	カテゴリ
RWS 00002 - RWS 00010	RESTful Web サービス
RWS 000011 - RWS 000026	RESTful Web サービス
RWS 000031 - RWS 000051	RESTful Web サービス
RWS 00052 - RWS 00075	RESTful Web サービス
RWS 000076 - RWS 000079	RESTful Web サービス

### 24.1 RWS 00002 - RWS 00010

#### 24.1.1 一般サーバエラー。(RWS 00002)

##### 原因

BIP RESTful Web サービスで不明なエラーが発生しました。

##### 対処方法

サーバログで詳細を確認してください。

#### 24.1.2 クライアント入力エラー。(RWS 00003)

##### 原因

BIP RESTful Web サービスに対するクライアントの入力に不明のエラーがあります。

## 対処方法

呼び出そうとしているリソースのドキュメンテーションを参照して、入力の有効かどうか確認してください。

### **24.1.3** 禁止 (RWS 00004)

## 原因

このリソースはアクセスされない可能性があります。

## 対処方法

リソースにアクセスする権限があることを確認します。

### **24.1.4** 見つかりません (RWS 00005)

## 原因

特定のリソースが見つかりませんでした。リソースが存在していないか、リソースを表示する権限がありません。

## 対処方法

使用した URL が正しいことを確認します。InfoObject を表示しようとする場合は、セントラル管理コンソール (CMC) を使用して、そのオブジェクトを表示する権限があることを確認します。

### **24.1.5** サービスを作成できません。詳細については、サーバログを参照してください。(RWS 00006)

## 原因

BIP RESTful Web サービスは要求されたサービスを作成できませんでした。

## 対処方法

Constructor.newInstance について JavaDoc を検証します。この例外と Constructor.newInstance が生成する例外の原因をクロスチェックします。

**24.1.6** サービス呼び出し中に不明なエラーが発生しました。詳細については、サーバログを参照してください。(RWS 00007)

## 原因

サービス起動中に BIP RESTful Web サービスで不明なエラーが発生しました。

## 対処方法

BIP RESTful Web サービスを含む Web アプリケーションサーバのログで詳細を確認します。

**24.1.7** HTTP ヘッダには X-SAP-LogonToken 属性が含まれていません。(RWS 00008)

## 原因

要求されたリソースに対するアクセスでは、認証済みである必要があります。

## 対処方法

要求のヘッダに X-SAP-LogonToken を渡してください。ログオンリソースを使用してこれを生成します。

**24.1.8** リソースが見つかりません: {0} (RWS 00009)

## 原因

特定のリソースが見つかりませんでした。リソースが存在していないか、リソースを表示する権限がありません。

## 対処方法

使用した URL が正しいことを確認します。InfoObject を表示しようとする場合は、セントラル管理コンソール (CMC) を使用して、そのオブジェクトを表示する権限があることを確認します。

### **24.1.9** 要求されたオブジェクトに対してリソースがサポートされていません。(RWS 00010)

## 原因

サポートされていない InfoObject のリソースにアクセスしようとしてしました。たとえば、フォルダの Crystal Reports サービスにアクセスしようすると、この例外が発生します。

## 対処方法

サポートされていないオブジェクトでこのメソッドを呼び出さないでください。有効なリンクにのみアクセスしてください。

## **24.2 RWS 00011 ～ RWS 00026**

### **24.2.1** セッショントークンのタイムアウト値 {0} は無効です。(RWS 000011)

## 原因

BIP RESTful Web サービスの設定が無効なため、ログオントークンを作成できませんでした。

## 対処方法

システム管理者に連絡して、BIP RESTful Web サービスの適切なセッショントークンタイムアウト値をセントラル管理コンソール (CMC) で設定してください。

## 24.2.2 ID {0} の Info オブジェクトが見つかりません。(RWS 000012)

### 原因

InfoObject が見つかりませんでした。存在すると思われる場合は、表示権限があることを確認しましたか？

### 対処方法

セントラル管理コンソール (CMC) を使用して、InfoObject が存在し、それを表示する権限があることを確認します。

## 24.2.3 重複するオブジェクト (RWS 000013)

### 原因

重複したオブジェクトが検出されました。

### 対処方法

このエラーは、カスタマ環境では発生しません。インストールが適切で破損していないことを確認済みの場合は、この問題を解決するために SAP BusinessObjects サポートに問い合わせてください。

## 24.2.4 {0} という名前の関係はありません。(RWS 000015)

### 原因

InfoObject で関係が見つかりませんでした。

### 対処方法

ルートオブジェクトを参照して、使用されている URL が BIP RESTful WebService によって生成されたものであることを確認します。URL が本当に有効な場合、権限を確認して、関係を表示する適切な権限があることを検証しましたか？



## 24.2.5 サーバセッションは PJS Service Bean から使用できません。(RWS 000016)

### 原因

Adaptive Processing Server が BIP RESTful Web サービスにサーバセッションを渡していません。

### 対処方法

このエラーは、カスタマ環境では発生しません。インストールが適切で破損していないことを確認済みの場合は、この問題を解決するために SAP BusinessObjects サポートに問い合わせてください。

## 24.2.6 エンコードに失敗しました。(RWS 000017)

### 原因

BIP RESTful Web サービスは、オブジェクトをユーザが読み取り可能な形式 (XML など) にエンコードするコーデックを使用します。エンコーディングエラーが発生しました。

### 対処方法

このエラーの原因となったパラメータに関する詳細をログで確認してください。問題が解決しない場合は、SAP BusinessObjects サポートに問い合わせてください。

## 24.2.7 {0} が NULL です。(RWS 000018)

### 原因

BIP RESTful Web サービスは、オブジェクトをユーザが読み取り可能な形式 (XML など) にエンコードするコーデックを使用します。実行中に値を参照できませんでした。

### 対処方法

このエラーの原因となったパラメータに関する詳細をログで確認してください。問題が解決しない場合は、SAP BusinessObjects サポートに問い合わせてください。

## 24.2.8 不正な引数: {0} (RWS 000019)

### 原因

BIP RESTful Web サービスは、オブジェクトをユーザが読み取り可能な形式 (XML など) にエンコードするコーデックを使用します。実行中に不正な引数が検出されました。

### 対処方法

このエラーの原因となったパラメータに関する詳細をログで確認してください。問題が解決しない場合は、SAP BusinessObjects サポートに問い合わせてください。

## 24.2.9 {0} 型の値はシリアル化できません。 (RWS 000020)

### 原因

BIP RESTful Web サービスは、オブジェクトをユーザが読み取り可能な形式 (XML など) にエンコードするコーデックを使用します。値をシリアル化できませんでした。

### 対処方法

このエラーの原因となったパラメータに関する詳細をログで確認してください。問題が解決しない場合は、SAP BusinessObjects サポートに問い合わせてください。

## 24.2.10 終端がない文字列です。 (RWS 000021)

### 原因

BIP RESTful Web サービスは、オブジェクトをユーザが読み取り可能な形式 (XML など) にエンコードするコーデックを使用します。終端がない文字列が見つかりました。

### 対処方法

このエラーの原因となったパラメータに関する詳細をログで確認してください。問題が解決しない場合は、SAP BusinessObjects サポートに問い合わせてください。

## 24.2.11 不正な形式の日付: {0}。(RWS 000022)

### 原因

BIP RESTful Web サービスは渡された日付をエンコード/デコードできませんでした。

### 対処方法

このエラーの原因となったパラメータに関する詳細をログで確認してください。問題が解決しない場合は、SAP BusinessObjects サポートに問い合わせてください。

## 24.2.12 不正な形式の時間: {0}。(RWS 000023)

### 原因

BIP RESTful Web サービスは渡された時間をエンコード/デコードできませんでした。

### 対処方法

このエラーの原因となったパラメータに関する詳細をログで確認してください。問題が解決しない場合は、SAP BusinessObjects サポートに問い合わせてください。

## 24.2.13 不正な形式の日時: {0}。(RWS 000024)

### 原因

BIP RESTful Web サービスは渡された日時をエンコード/デコードできませんでした。

### 対処方法

日時が ATOM 標準で認識される形式 (RFC 4287) であることを確認してください。このエラーの原因となったパラメータに関する詳細をログで確認してください。問題が解決しない場合は、SAP BusinessObjects サポートに問い合わせてください。

## 24.2.14 {0} 型の値は非シリアル化できません。(RWS 000025)

### 原因

BIP RESTful Web サービスは、オブジェクトをユーザが読み取り可能な形式 (XML など) にエンコードするコーデックを使用します。デコーディングエラーが発生しました。

### 対処方法

このエラーの原因となったパラメータに関する詳細をログで確認してください。問題が解決しない場合は、SAP BusinessObjects サポートに問い合わせてください。

## 24.2.15 属性名を取得できません。名前が null または空です。(RWS 000026)

### 原因

BIP RESTful Web サービスは、オブジェクトをユーザが読み取り可能な形式 (XML など) にエンコードするコーデックを使用します。ユーザが読み取り可能な形式を読み取り/書き込み中に解析エラーが発生しました。

### 対処方法

このエラーの原因となったパラメータに関する詳細をログで確認してください。問題が解決しない場合は、SAP BusinessObjects サポートに問い合わせてください。

## 24.3 RWS 00031 ～ RWS 00051

### 24.3.1 モデルエラーです。(RWS 000031)

### 原因

BIP RESTful Web サービスのバイナリに無効なデータが含まれます。

## 対処方法

このエラーは、カスタマ環境では発生しません。インストールが適切で破損していないことを確認済みの場合は、この問題を解決するために SAP BusinessObjects サポートに問い合わせてください。

### 24.3.2 `setter` がありません。(RWS 000032)

#### 原因

BIP RESTful Web サービスのバイナリに無効なデータが含まれます。

## 対処方法

このエラーは、カスタマ環境では発生しません。インストールが適切で破損していないことを確認済みの場合は、この問題を解決するために SAP BusinessObjects サポートに問い合わせてください。

### 24.3.3 `getter` にはパラメータ {0} を使用できません。(RWS 000033)

#### 原因

BIP RESTful Web サービスのバイナリに無効なデータが含まれます。

## 対処方法

このエラーは、カスタマ環境では発生しません。インストールが適切で破損していないことを確認済みの場合は、この問題を解決するために SAP BusinessObjects サポートに問い合わせてください。

### 24.3.4 `setter` は 1 つのパラメータ {0} だけを持つ必要があります。(RWS 000034)

#### 原因

BIP RESTful Web サービスのバイナリに無効なデータが含まれます。

## 対処方法

このエラーは、カスタマ環境では発生しません。インストールが適切で破損していないことを確認済みの場合は、この問題を解決するために SAP BusinessObjects サポートに問い合わせてください。

### **24.3.5** setter {0} は getter {1} のタイプと異なります。(RWS 000035)

#### 原因

BIP RESTful Web サービスのバイナリに無効なデータが含まれます。

## 対処方法

このエラーは、カスタマ環境では発生しません。インストールが適切で破損していないことを確認済みの場合は、この問題を解決するために SAP BusinessObjects サポートに問い合わせてください。

### **24.3.6** ソース: {0} + 出力先: {1}。(RWS 000036)

#### 原因

BIP RESTful Web サービスのバイナリに無効なデータが含まれます。

## 対処方法

このエラーは、カスタマ環境では発生しません。インストールが適切で破損していないことを確認済みの場合は、この問題を解決するために SAP BusinessObjects サポートに問い合わせてください。

### **24.3.7** 参照型の等号は実装されていません。(RWS 000037)

#### 原因

BIP RESTful Web サービスのバイナリに無効なデータが含まれます。

## 対処方法

このエラーは、カスタマ環境では発生しません。インストールが適切で破損していないことを確認済みの場合は、この問題を解決するために SAP BusinessObjects サポートに問い合わせてください。

### **24.3.8** ハッシュベースのコレクション形式の使用は実装されていません。(RWS 000038)

#### 原因

BIP RESTful Web サービスのバイナリに無効なデータが含まれます。

## 対処方法

このエラーは、カスタマ環境では発生しません。インストールが適切で破損していないことを確認済みの場合は、この問題を解決するために SAP BusinessObjects サポートに問い合わせてください。

### **24.3.9** クラス {0} はモデルクラスではありません。(RWS 000039)

#### 原因

BIP RESTful Web サービスのバイナリに無効なデータが含まれます。

## 対処方法

このエラーは、カスタマ環境では発生しません。インストールが適切で破損していないことを確認済みの場合は、この問題を解決するために SAP BusinessObjects サポートに問い合わせてください。

### **24.3.10** プロパティ '{0}' は次の 2 つのフィールドにバインドできません: {1} および {2}。(RWS 000040)

#### 原因

BIP RESTful Web サービスのバイナリに無効なデータが含まれます。

## 対処方法

このエラーは、カスタマ環境では発生しません。インストールが適切で破損していないことを確認済みの場合は、この問題を解決するために SAP BusinessObjects サポートに問い合わせてください。

**24.3.11** 属性 '{0}' は 2 つの get (set) メソッドにバインドできません: {1} および {2}。  
(RWS 000041)

## 原因

BIP RESTful Web サービスのバイナリに無効なデータが含まれます。

## 対処方法

このエラーは、カスタマ環境では発生しません。インストールが適切で破損していないことを確認済みの場合は、この問題を解決するために SAP BusinessObjects サポートに問い合わせてください。

**24.3.12** モデルに少なくとも 1 つの書き込み専用属性が含まれています。名前: {0}、メソッド: {1}。  
(RWS 000042)

## 原因

BIP RESTful Web サービスのバイナリに無効なデータが含まれます。

## 対処方法

このエラーは、カスタマ環境では発生しません。インストールが適切で破損していないことを確認済みの場合は、この問題を解決するために SAP BusinessObjects サポートに問い合わせてください。



### 24.3.13 クラス {0} にはパラメータなしでアクセスできるコンストラクタはありません。(RWS 000043)

#### 原因

BIP RESTful Web サービスのバイナリに無効なデータが含まれます。

#### 対処方法

このエラーは、カスタマ環境では発生しません。インストールが適切で破損していないことを確認済みの場合は、この問題を解決するために SAP BusinessObjects サポートに問い合わせてください。

### 24.3.14 構成プロパティ {1} のオブジェクト {0} が null です。(RWS 000044)

#### 原因

BIP RESTful Web サービスのバイナリに無効なデータが含まれます。

#### 対処方法

このエラーは、カスタマ環境では発生しません。インストールが適切で破損していないことを確認済みの場合は、この問題を解決するために SAP BusinessObjects サポートに問い合わせてください。

### 24.3.15 プロパティ '{0}' を {2} 型のフィールド {1} に導入できませんでした。(RWS 000045)

#### 原因

BIP RESTful Web サービスのバイナリに無効なデータが含まれます。

#### 対処方法

このエラーは、カスタマ環境では発生しません。インストールが適切で破損していないことを確認済みの場合は、この問題を解決するために SAP BusinessObjects サポートに問い合わせてください。

### 24.3.16 プロパティ名はすでに存在します: {0} (RWS 000046)

#### 原因

BIP RESTful Web サービスのバイナリに無効なデータが含まれます。

#### 対処方法

このエラーは、カスタマ環境では発生しません。インストールが適切で破損していないことを確認済みの場合は、この問題を解決するために SAP BusinessObjects サポートに問い合わせてください。

### 24.3.17 GUID にパス区切り '/' を含めることはできません (RWS 000047)

#### 原因

BIP RESTful Web サービスのバイナリに無効なデータが含まれます。

#### 対処方法

このエラーは、カスタマ環境では発生しません。インストールが適切で破損していないことを確認済みの場合は、この問題を解決するために SAP BusinessObjects サポートに問い合わせてください。

### 24.3.18 クラス {0} に型がありません (RWS 000048)

#### 原因

BIP RESTful Web サービスのバイナリに無効なデータが含まれます。

#### 対処方法

このエラーは、カスタマ環境では発生しません。インストールが適切で破損していないことを確認済みの場合は、この問題を解決するために SAP BusinessObjects サポートに問い合わせてください。

## 24.3.19 空のフィルタ。(RWS 000049)

### 原因

BIP RESTful Web サービスのバイナリに無効なデータが含まれます。

### 対処方法

このエラーは、カスタマ環境では発生しません。インストールが適切で破損していないことを確認済みの場合は、この問題を解決するために SAP BusinessObjects サポートに問い合わせてください。

## 24.3.20 フィルタは他のフィルタ文字と共に '{0}' を使用できません。(RWS 000050)

### 原因

BIP RESTful Web サービスのバイナリに無効なデータが含まれます。

### 対処方法

このエラーは、カスタマ環境では発生しません。インストールが適切で破損していないことを確認済みの場合は、この問題を解決するために SAP BusinessObjects サポートに問い合わせてください。

## 24.3.21 重複する {0} インスタンスが作成されました。(RWS 000051)

### 原因

BIP RESTful Web サービスコードには、日常の操作を管理するためのシングルトンオブジェクトがあります。重複するシングルトンオブジェクトが作成されました。

### 対処方法

このエラーは、カスタマ環境では発生しません。インストールが適切で破損していないことを確認済みの場合は、この問題を解決するために SAP BusinessObjects サポートに問い合わせてください。

## 24.4 RWS 00052 - RWS 00075

### 24.4.1 リクエストを処理できません；構文が正しくないため、サーバでリクエストを処理できませんでした（RWS 00052）

#### 原因

これは、RFC 2616 に記述されている状況で BIP RESTful Web サービスが発行する汎用エラーメッセージです。

#### アクション

このエラーの解決に関する詳細については、RFC 2616 の 10.4 節を参照してください。

### 24.4.2 このリクエストを実行する権限がありません（RWS 00053）

#### 原因

これは、RFC 2616 に記述されている状況で BIP RESTful Web サービスが発行する汎用エラーメッセージです。

#### アクション

このエラーの解決に関する詳細については、RFC 2616 の 10.4 節を参照してください。

### 24.4.3 支払が必要です（RWS 00054）

#### 原因

これは、RFC 2616 に記述されている状況で BIP RESTful Web サービスが発行する汎用エラーメッセージです。

#### アクション

このエラーの解決に関する詳細については、RFC 2616 の 10.4 節を参照してください。

**24.4.4** リクエストの実行中にエラーが発生しました; サーバはこのリクエストを処理できません; このリクエストを繰り返さないでください (RWS 00055)

#### 原因

これは、RFC 2616 に記述されている状況で BIP RESTful Web サービスが発行する汎用エラーメッセージです。

#### アクション

このエラーの解決に関する詳細については、RFC 2616 の 10.4 節を参照してください。

**24.4.5** 要求の実行中にエラーが発生しました。サーバが要求 URI の一致を見つけられません (RWS 00056)

#### 原因

これは、RFC 2616 に記述されている状況で BIP RESTful Web サービスが発行する汎用エラーメッセージです。

#### アクション

このエラーの解決に関する詳細については、RFC 2616 の 10.4 節を参照してください。

**24.4.6** メソッドは使用できません; リクエスト行で指定されているメソッドは、リクエスト URI によって特定されるリソースで使用できません (RWS 00057)

#### 原因

これは、RFC 2616 に記述されている状況で BIP RESTful Web サービスが発行する汎用エラーメッセージです。

#### アクション

このエラーの解決に関する詳細については、RFC 2616 の 10.4 節を参照してください。

**24.4.7** 要求を処理できません。要求によって特定されるリソースは、要求で送信された `Accept` ヘッダに従うと許容されないコンテンツ特性を持つ応答エンティティしか生成できません。(RWS 00058)

#### 原因

これは、RFC 2616 に記述されている状況で BIP RESTful Web サービスが発行する汎用エラーメッセージです。

#### アクション

このエラーの解決に関する詳細については、RFC 2616 の 10.4 節を参照してください。

**24.4.8** プロキシ認証が必要です (RWS 00059)

#### 原因

これは、RFC 2616 に記述されている状況で BIP RESTful Web サービスが発行する汎用エラーメッセージです。

#### アクション

このエラーの解決に関する詳細については、RFC 2616 の 10.4 節を参照してください。

**24.4.9** リクエストタイムアウト； リクエストは、サーバが待機している間に送信されませんでした； もう一度リクエストしてください (RWS 00060)

#### 原因

これは、RFC 2616 に記述されている状況で BIP RESTful Web サービスが発行する汎用エラーメッセージです。

#### アクション

このエラーの解決に関する詳細については、RFC 2616 の 10.4 節を参照してください。

**24.4.10** リクエストは処理されませんでした; リソースの現在の状態に競合があるため、リクエストを完了できませんでした (RWS 00061)

#### 原因

これは、RFC 2616 に記述されている状況で BIP RESTful Web サービスが発行する汎用エラーメッセージです。

#### アクション

このエラーの解決に関する詳細については、RFC 2616 の 10.4 節を参照してください。

**24.4.11** リクエストは処理されませんでした; 要求されたリソースはサーバで利用できないため、転送先アドレスが不明です (RWS 00062)

#### 原因

これは、RFC 2616 に記述されている状況で BIP RESTful Web サービスが発行する汎用エラーメッセージです。

#### アクション

このエラーの解決に関する詳細については、RFC 2616 の 10.4 節を参照してください。

**24.4.12** 要求は処理されませんでした。要求に Content-Length ヘッダが含まれていません。要求のメッセージ本文の長さを含む有効な Content-Length ヘッダフィールドデータを追加して、要求を作成してください。(RWS 00063)

#### 原因

これは、RFC 2616 に記述されている状況で BIP RESTful Web サービスが発行する汎用エラーメッセージです。

#### アクション

このエラーの解決に関する詳細については、RFC 2616 の 10.4 節を参照してください。

**24.4.13** 要求は処理されませんでした。要求に Content-Length ヘッダが含まれていません。要求のメッセージ本文の長さを含む有効な Content-Length ヘッダフィールドデータを追加して、要求を作成してください。(RWS 00063)

#### 原因

これは、RFC 2616 に記述されている状況で BIP RESTful Web サービスが発行する汎用エラーメッセージです。

#### アクション

このエラーの解決に関する詳細については、RFC 2616 の 10.4 節を参照してください。

**24.4.14** 前提条件に失敗しました (RWS 00064)

#### 原因

これは、RFC 2616 に記述されている状況で BIP RESTful Web サービスが発行する汎用エラーメッセージです。

#### アクション

このエラーの解決に関する詳細については、RFC 2616 の 10.4 節を参照してください。

**24.4.15** 要求エンティティが大きすぎます (RWS 00065)

#### 原因

これは、RFC 2616 に記述されている状況で BIP RESTful Web サービスが発行する汎用エラーメッセージです。

#### アクション

このエラーの解決に関する詳細については、RFC 2616 の 10.4 節を参照してください。



## 24.4.16 要求 URI が長すぎます (RWS 00066)

### 原因

これは、RFC 2616 に記述されている状況で BIP RESTful Web サービスが発行する汎用エラーメッセージです。

### アクション

このエラーの解決に関する詳細については、RFC 2616 の 10.4 節を参照してください。

## 24.4.17 サポートされていないメディアタイプです (RWS 00067)

### 原因

これは、RFC 2616 に記述されている状況で BIP RESTful Web サービスが発行する汎用エラーメッセージです。

### アクション

このエラーの解決に関する詳細については、RFC 2616 の 10.4 節を参照してください。

## 24.4.18 要求された範囲が完全ではありません (RWS 00068)

### 原因

これは、RFC 2616 に記述されている状況で BIP RESTful Web サービスが発行する汎用エラーメッセージです。

### アクション

このエラーの解決に関する詳細については、RFC 2616 の 10.4 節を参照してください。

**24.4.19** 要求に失敗しました。サーバは `Expect` 要求ヘッダフィールドで指定された要求を処理できませんでした。または、サーバがプロキシサーバである場合は、要求が次のホップサーバで処理できることは保証されていません。(RWS 00069)

#### 原因

これは、RFC 2616 に記述されている状況で BIP RESTful Web サービスが発行する汎用エラーメッセージです。

#### アクション

このエラーの解決に関する詳細については、RFC 2616 の 10.4 節を参照してください。

**24.4.20** 内部サーバエラーです (RWS 00070)

#### 原因

これは、RFC 2616 に記述されている状況で BIP RESTful Web サービスが発行する汎用エラーメッセージです。

#### アクション

このエラーの解決に関する詳細については、RFC 2616 の 10.5 節を参照してください。

**24.4.21** リクエストは処理されませんでした。サーバは、このリクエストの完了に必要な機能をサポートしていません (RWS 00071)

#### 原因

これは、RFC 2616 に記述されている状況で BIP RESTful Web サービスが発行する汎用エラーメッセージです。

#### アクション

このエラーの解決に関する詳細については、RFC 2616 の 10.5 節を参照してください。

**24.4.22** 要求は処理されませんでした。サーバがゲートウェイとして実行中であるか、プロキシが無効な応答を受信しました (RWS 00072)

#### 原因

これは、RFC 2616 に記述されている状況で BIP RESTful Web サービスが発行する汎用エラーメッセージです。

#### アクション

このエラーの解決に関する詳細については、RFC 2616 の 10.5 節を参照してください。

**24.4.23** サービスは利用できません (RWS 00073)

#### 原因

これは、RFC 2616 に記述されている状況で BIP RESTful Web サービスが発行する汎用エラーメッセージです。

#### アクション

このエラーの解決に関する詳細については、RFC 2616 の 10.5 節を参照してください。

**24.4.24** ゲートウェイがタイムアウトしました (RWS 00074)

#### 原因

これは、RFC 2616 に記述されている状況で BIP RESTful Web サービスが発行する汎用エラーメッセージです。

#### アクション

このエラーの解決に関する詳細については、RFC 2616 の 10.5 節を参照してください。

## 24.4.25 サポートされていない HTTP バージョンです (RWS 00075)

### 原因

これは、RFC 2616 に記述されている状況で BIP RESTful Web サービスが発行する汎用エラーメッセージです。

### アクション

このエラーの解決に関する詳細については、RFC 2616 の 10.5 節を参照してください。

## 24.5 RWS 00076 ～ RWS 00080

### 24.5.1 セッションがすでにこのリクエストに関連付けられているためログインを続行できません。(RWS 000076)

### 原因

セッションがすでに要求に関連付けられているのに、BIP RESTful Web サービスにログインしようとしてしました。

### 対処方法

ログインリソースを使用するときは、BIP RESTful Web サービスにセッションを渡さないようにします。

### 24.5.2 選択した認証スキーマは現在サポートされていません。(RWS 000077)

### 原因

選択された認証スキーマは、BI プラットフォーム RESTful Web サービスではサポートされていません。

### 対処方法

X-SAP-LogonToken メカニズムを使用して認証情報を渡すか、HTTP BASIC 認証 (RFC 2617 参照) を使用します。

### 24.5.3 認証情報をデコードできませんでした。(RWS 000078)

#### 原因

BI プラットフォーム RESTful Web サービスに渡された認証情報をデコードできませんでした。

#### 対処方法

認証情報を使用する前に、それが正常にエンコードされていることを確認します。HTTP BASIC 認証を使用している場合は、RFC 2617 で指定された形式にエンコードされていることを確認します。

### 24.5.4 有効な入力値を入力してください (RWS 000079)

#### 原因

要求の内容が正しく書式設定され、必須フィールドがすべて含まれることを確認してください。

#### アクション

要求の内容が正しく書式設定されていることを確認した後で、要求を再送信します。通常は、GET を使用して要求に必要な書式を確認します。ドキュメントでこの情報を確認することもできます。

### 24.5.5 Cannot bind unknown attribute {0} to method {1}. (RWS00080)

#### 原因

BIP RESTful Web サービスのバイナリに無効なデータが含まれます。

#### 対処方法

このエラーメッセージはインストールが完全に実行された環境ではほとんど表示されないため、インストールのエラーまたは破損を示している可能性があります。インストールが適切で破損していないことを確認済みの場合は、この問題を解決するために SAP BusinessObjects サポートに問い合わせてください。

## 25 トランスレーションツールエラーメッセージ (TMT)

トランスレーションツールエラーメッセージは、次のカテゴリに分類されます。

- トランスレーションマネジメントツール (TMT) のエラーメッセージ

### 25.1 トランスレーションマネジメントツール (TMT) のエラー

トランスレーションマネジメントツールのエラーメッセージは、次のカテゴリに分類されます。

範囲	カテゴリ
TMT10000 - TMT20100	トランスレーションマネジメントツールのエラー

#### 25.1.1 このオブジェクトタイプで翻訳はできません (TMT10000)

##### 原因

このタイプのオブジェクトは翻訳できません。

##### アクション

そのオブジェクトの種類の翻訳可能プロパティを有効化し、対応するトランスレーションサーバプラグインをデプロイします。

#### 25.1.2 タイプ "{0}" で翻訳プラグインは使用できません (TMT10010)

##### 原因

トランスレーションサーバプラグインがそのオブジェクトの種類に対して定義されていません。

## アクション

オブジェクトの種類に対応するトランスレーションサーバプラグインをデプロイします。

### 25.1.3 タイプ "{0}" の翻訳プラグインをロードできません (TMT10020)

## 原因

プラグインコンポーネントのロード中にエラーが発生しました。

## アクション

オブジェクトの種類に対応するトランスレーションサーバプラグインをテストして再デプロイします。

### 25.1.4 タイプ "{0}" は読み取れません。読み取り専用オブジェクトです (TMT10030)

## 原因

オブジェクトは読み取り専用です (例: デフォルトのカスタムの役割)。

## アクション

読み取り専用オブジェクトは翻訳できません。

### 25.1.5 CMS URI、トランスレーションマネージャ、または翻訳にアクセス中に I/O 例外が発生しました (TMT10040)

## 原因

予期しないエラーが発生しました。

## アクション

操作を再度行います。

### **25.1.6** タイプ "{0}" を翻訳する権限がありません (TMT10050)

#### 原因

オブジェクトを翻訳する権限がありません。この操作を実行するには、編集または翻訳の権限を持つ必要があります。

## アクション

自分に編集または翻訳の権限を割り当てます。権限を割り当てない場合、このオブジェクトに読み取り専用モードでのみアクセスできます。

### **25.1.7** CMS セッションにアクセスする権限がありません (TMT 20050)

#### 原因

ドキュメントを表示、翻訳、または編集する権限を持っていません。

## アクション

CMC でユーザの権限を確認します。

### **25.1.8** このドキュメントを使用する権限がありません。ドキュメントのインポート元と同じ CMS に接続している場合を除いて、ドキュメントを開くことはできません (TMT 20070)

#### 原因

別の CMS で許可されているため、ドキュメントを開くことができません。



## アクション

正しいCMS にログインして再度実行します。

## 26 ユニバースエラーメッセージ

ユニバースエラーメッセージは、次のカテゴリに分類されます。

- ユニバース管理（UNM）に関するエラーメッセージ
- ユニバース（UNV）に関するエラーメッセージ

### 26.1 ユニバース管理（UNM）に関するエラーメッセージ

ユニバース管理エラーメッセージは、次のカテゴリに分類されます。

範囲	カテゴリ
UNM0001 - UNM0016	ユニバース管理エラー

#### 26.1.1 互換性のチェックが必要（UNM0001）

##### 原因

ユニバースに、次のような要素が含まれています。

- オブジェクト、条件、結合の SQL 定義の不正なシンタックス
- ループ
- 孤立テーブル
- 不足しているまたは不正なカーディナリティ

##### 対処方法

ユニバースに[整合性のチェック]を実行します。これでユニバースの構造が、対応するデータベースと一致しているかを確認できます。

## 26.1.2 数値書式が不正です (UNM0002)

### 原因

入力した SQL 式に構文エラーがあります。数値書式が不正です。

### 対処方法

数値を再入力し、式を再送信します。

## 26.1.3 クォーテーション "... " がありません (UNM0003)

### 原因

入力した SQL 式に構文エラーがあります。式にシングルクォーテーションマークがありません。

### 対処方法

シングルクォーテーションマークを入力し、式を再送信します。

## 26.1.4 ダブルクォーテーション "... " がありません (UNM0004)

### 原因

入力した SQL 式に構文エラーがあります。式にダブルクォーテーションマークがありません。

### 対処方法

ダブルクォーテーションマークを入力し、式を再送信します。

## 26.1.5 閉じ括弧 {...} がありません (UNM0005)

### 原因

入力した SQL 式に構文エラーがあります。式に右括弧がありません。

### 対処方法

右括弧を入力し、式を再送信します。

## 26.1.6 関数名の後に開き括弧がありません (UNM0006)

### 原因

入力した SQL 式に構文エラーがあります。式に左括弧がありません。

### 対処方法

左括弧を入力し、式を再送信します。

## 26.1.7 閉じ括弧がありません (UNM0007)

### 原因

入力した SQL 式に構文エラーがあります。式に右括弧がありません。

### 対処方法

右括弧を入力し、式を再送信します。

## 26.1.8 パラメータがありません (UNM0008)

### 原因

入力した SQL 式に構文エラーがあります。式に必要なパラメータがありません。

### 対処方法

パラメータを入力し、式を再送信します。

## 26.1.9 パラメータ数が不正です (UNM0009)

### 原因

入力した SQL 式に構文エラーがあります。式のパラメータが、不足しているか、多過ぎます。

### 対処方法

パラメータを正しく入力し、式を再送信します。

## 26.1.10 不正な文字です (UNM0010)

### 原因

入力した SQL 式に構文エラーがあります。フィールド文の 1 つに、使用できない文字が含まれています。

### 対処方法

構文をチェックし、修正した後、式を再送信します。

## 26.1.11 不正なインデントです (UNM0011)

### 原因

入力した SQL 式に構文エラーがあります。フィールド文の 1 つに、不正なインデントが使用されています。

### 対処方法

構文をチェックし、修正した後、式を再送信します。

## 26.1.12 使用できないオペランドです (UNM0012)

### 原因

入力した SQL 式に構文エラーがあります。現在の SQL 関数と互換性のないオペランドが使用されています。

### 対処方法

SQL をチェックし、修正した後、式を再送信します。

## 26.1.13 変数定義にループがあります (UNM0013)

### 原因

入力した SQL 式に構文エラーがあります。解決できないループが使用されています。

### 対処方法

構文をチェックし、修正した後、式を再送信します。

## 26.1.14 戻り値がユーザオブジェクトの型と対応しません。(UNM0014)

### 原因

入力した SQL 式に構文エラーがあります。ユーザオブジェクトの定義に整合性がありません。

### 対処方法

構文をチェックし、修正した後、式を再送信します。

## 26.1.15 構文エラー (UNM0015)

### 原因

オブジェクト名に次のような特殊文字が使用されていると、このエラーメッセージが表示されます。[ ] = & @ × \$ % , ; ! ß & ~ § µ + ' ( ) { } -

### 対処方法

オブジェクト名に含まれる特殊文字を削除します。

## 26.1.16 同じ名前のユーザオブジェクトは作成できません。(UNM0016)

### 原因

すでに他のユーザオブジェクトに付けられている名前で、ユーザオブジェクトを作成しようとした。

### 対処方法

ユーザオブジェクトに一意の名前を指定して、式を再送信します。

## 26.2 ユニバース（UNV）に関するエラーメッセージ

ユニバースエラーメッセージは、次のカテゴリに分類されます。

範囲	カテゴリ
UNV0017 - UNV0049	ユニバースエラー

### 26.2.1 サーバが応答しません。(UNV0017)

#### 原因

接続に対する "ping"、ユニバース構造の最新表示、ドキュメントの最新表示などのアクションを実行してデータベースにアクセスするときに、このメッセージが表示される場合があります。

#### アクション

サーバに "ping" を実行してネットワーク接続を確認します。ネットワークが正常なら、データベース管理者が SAP HANA 用の JDBC または ODBC などのデータベースミドルウェアを使用してリポジトリデータベースが応答するかどうかをチェックします。

### 26.2.2 サーバが応答しません。(UNV0018)

#### 原因

このエラーは、接続されていないデータベース (サーバがダウンしているか、接続が失われている) にアクセスしようとした場合、ユーザに SQL 文の実行権限がない場合、または構文が正しくない場合に発生することがあります。

#### アクション

サーバに "ping" を実行してネットワーク接続を確認します。ネットワークが正常なら、データベース管理者がデータベースミドルウェア (Net8 for Oracle など) を使ってリポジトリデータベースが応答するかをチェックします。



### 26.2.3 このエイリアス名はテーブルで使われています (UNV0031)

#### 原因

エイリアスとして使用する名前がテーブルの名前として既に使用されています。ユニバースで同一名は使用できません。

#### アクション

エイリアスに別の名前を使用し、再試行します。

### 26.2.4 関連付けられたテーブルがありません。 (UNV0032)

#### 原因

使用または作成するテーブルに関連付けられたテーブルが見つかりません。

#### アクション

ユニバースをインポートしたとき、または開いたときに、問題が発生した可能性があります。ユニバースデザインツールを再起動して、ユニバースをインポートするか開き、再試行してください。

### 26.2.5 このオブジェクトはすでに存在します (UNV0035)

#### 原因

作成しようとしているオブジェクトは、クラスにすでに存在します。同じクラス内のオブジェクトは一意的な名前を持つ必要があります。

#### アクション

既存のオブジェクトの名前を変更するか、新規オブジェクトに他の名前を付けます。既存オブジェクトの名前を変更すると、このオブジェクトを使用するドキュメントが正しく最新表示されない場合があります。

## 26.2.6 ストラテジー接続が見つかりません。(UNV0049)

### 原因

このメッセージは、データベースへの接続が外部ストラテジーで定義されている場合に表示されることがあります。

### アクション

.STG ファイルの [CONNECTION] セクションで参照する接続は、個人用接続として定義されている必要があります。セキュリティで保護された接続として定義されている場合には、動作しません。

#### ① 注記

外部ストラテジーの詳細については、『ユニバースデザインツールユーザガイド』の第 7.4.6 節を参照してください。

## 27 Web Intelligence エラー メッセージ

Web Intelligence エラー メッセージは、次のカテゴリに分類されます。

- Web Intelligence Java インタフェース (WIJ) に関するエラーメッセージ
- Web Intelligence HTML インタフェース (WIH) に関するエラーメッセージ
- Web Intelligence デスクトップ (WIO) に関するエラーメッセージ
- Web Intelligence サーバー (WIS) に関するエラー メッセージ
- Web Intelligence レポート エンジン (RWI) に関するエラー メッセージ

### 27.1 Web Intelligence (WIJ) に関するエラーメッセージ

Web Intelligence Java インタフェースエラーメッセージは、次のカテゴリに分類されます。

範囲	カテゴリ
WIJ 10000 - WIJ 77778	Web Intelligence Java インタフェース

#### 27.1.1 式エディタを使って式を作成する必要があります。(エラー: WIJ 10000)

##### 原因

[式エディタ]ではなく、[セルのプロパティ]を使ってセルに式を入力しました。

##### 対処方法

[式エディタ]を起動し、[式の定義] 枠に式を定義します。

**27.1.2** このレポートコンポーネントを基準に配置されているブロック、セル、またはセクションを基準として、このレポートコンポーネントを配置することはできません。ドロップダウンリストから別のブロック、セル、またはセクションを選択するか、[基準] オプションを選択解除してください。(WIJ 10500)

## 原因

選択したレポートコンポーネントを参照する他のレポートコンポーネントを基準にしてレポートコンポーネントを配置すると、循環状態を作成することになります。

## 対処方法

相対位置を削除するか、相対位置に対して別のブロック、セル、またはセクションを選択します。

**27.1.3** ドキュメントのデコード中にエラーが発生しました。BI ラウンチパッドでこのドキュメントを開いてみてください。開くことができない場合、詳細については管理者に連絡してください。(WIJ 20000)

## 原因

Web Intelligence は、ドキュメントをデコードして Java レポートパネルで開くことができませんでした。

## 対処方法

InfoView 会社用ドキュメントあるいは個人用ドキュメントの一覧から、そのドキュメントのタイトルをクリックして InfoView でドキュメントを開きます。

開くことができない場合は、管理者に連絡してください。

**27.1.4** ドキュメントを最新表示する際、および開く際に予期しない問題が発生しました。データソースが変更または削除されているか、ドキュメントのプロンプトの値が選択されていません。(WIJ20001)

## 原因

ドキュメントには [起動時に最新表示] オプションが設定されています。このエラーには、次のようないくつかの原因が考えられます。

- ドキュメントの作成時以降にデータソースが変更された。
- ドキュメントの作成時以降にデータソースが削除された。
- 1つあるいは複数のプロンプトで、値が選択されていない。

## 対処方法

管理者に連絡してください。

**27.1.5** 予期しないエラーです。サーバに再接続できない場合、セッションを閉じてから再び開始します。  
(WIJ 20002)

## 原因

サーバがダウンしたか、ユーザセッションが閉じられました。

## 対処方法

管理者に連絡してください。

**27.1.6** 現在のレポートの最初のページを取得できません。レポートの有効性を確認してください。(ERR  
WIJ 20003)。

## 原因

構造エラーが含まれているため、レポートを表示できません。

## 対処方法

次のいずれかを実行します。

- 構造表示のレポートを参照し、レポート構造を確認してください。例えば、レポートブロックが重複したり、均整のとれていないテーブル形式を作成するセルがテーブルの構造に含まれている場合にエラーが発生します。必要に応じてレポート構造を変更してください。
- レポート内の構造エラーを検出するよう管理者に依頼してください。

**27.1.7** 現在のクエリには解決不能なオブジェクトが含まれています。クエリは更新されます (WIJ 20004)。

## 原因

クエリで解決できないオブジェクトがあります。

## 対処方法

関連オブジェクトがデータソースから削除されていないことを確認します。

**27.1.8** 現在のリクエストが、破損したデータを返しました。詳細については管理者に連絡してください (WIJ 20005)。

## 原因

返されたデータが破損しています。データソースまたはネットワークの問題が原因である可能性があります。

## 対処方法

管理者にお問い合わせください。

**27.1.9** アプリケーションサーバにアクセスできません。追加情報については管理者に連絡してください (WIJ 20010)。

## 原因

アプリケーションサーバがダウンしているか、アドレスが間違っている可能性があります。

## 対処方法

管理者にお問い合わせください。

**27.1.10** コピーしようとしている {0,number} MB のレポート要素は大きすぎて外部アプリケーションにエクスポートできません。使用できる最大サイズは {1,number} MB です。(エラー: WIJ 30004)

#### 原因

コピーするレポート要素が大きすぎてコピーできません。

#### 対処方法

レポート要素のコピーを試みないようにします。

**27.1.11** 現在のユーザプロファイルでは、ドキュメントドメインにアクセスして会社用ドキュメントを保存することはできません。このドキュメントを個人用ドキュメントとして保存するか、管理者に連絡してください。(エラー: WIJ 40000)

#### 原因

会社のリポジトリにドキュメントを保存する権限がありません。

#### 対処方法

ドキュメントを個人用ドキュメントとして保存するか、リポジトリにドキュメントを保存するための権限を付与してもらうように管理者に依頼します。

**27.1.12** このドキュメントのクエリは空です。[クエリ] タブの [結果オブジェクト] 枠にオブジェクトがあることを確認してからクエリを実行してください。(エラー: WIJ 30000)

#### 原因

クエリに結果オブジェクトが含まれていません。

## 対処方法

クエリを編集して結果オブジェクトを追加します。

**27.1.13** このドキュメントに、空のクエリが少なくとも 1 つ存在します。クエリを実行する前に、各「クエリ」タブの「結果オブジェクト」枠にオブジェクトが含まれているかどうか確認してください。(エラー: WIJ 30001)

## 原因

クエリに結果オブジェクトが含まれていません。

## 対処方法

結果オブジェクトを空のクエリに追加します。

**27.1.14** メモリが不足しています。ブラウザ ウィンドウのサイズを小さくするか、レポート パネルを再起動してください。(WIJ 30003)

## 原因

コンピュータのメモリが不足しています。ブラウザウィンドウのサイズが大きすぎるためと思われます。

## 対処方法

次のいずれかを実行します。

- ブラウザウィンドウのサイズを小さくします。
- Java インタフェースを再起動します。



**27.1.15** ユーザプロファイルにより、個人または会社用のドキュメントを保存することはできません。詳細については、管理者に連絡してください。(WIJ 40001)

## 原因

管理者が定義したユーザプロファイルでは、個人用ドキュメントおよび会社用ドキュメントを保存することができません。

## 対処方法

InfoView で個人用ドキュメントおよび会社用ドキュメントを保存する必要がある場合は、管理者に連絡してユーザプロファイルを変更してもらいます。

**27.1.16** 予期しないエラーが発生しました。(WIJ 44444)

## 原因

予期しないエラーが発生しました。

## 対処方法

エラーが発生する前に行った操作を詳細に管理者へ報告してください。

**27.1.17** お使いのバージョンの Web Intelligence リッチクライアントは最新ではないので、このシステムに接続できません (ERR WIJ 50003)。<a href="{0}">ここ</a>をクリックして Web Intelligence リッチクライアントをアップグレードする必要があります。

## 原因

Web Intelligence リッチクライアントのバージョンが最新ではないため、リポジトリに接続できません。

## 対処方法

次のリンクに従って Web Intelligence リッチクライアントのバージョンをアップグレードします。

**27.1.18** サーバに送信された情報には無効な文字が含まれています。[元に戻す] ボタンで最新の変更内容を取り消してから、再試行してください。(エラー: WIJ 55555)

## 原因

アプリケーションからサーバに送信された XML にエラーがあります。

## 対処方法

[[元に戻す](#)] 機能を使ってドキュメントに最後に行った誤った変更を削除し、クエリを再実行するかまたはドキュメントを最新表示します。

**27.1.19** セッションがタイムアウトしました。ドキュメント {document\_name}.wid は、お気に入り ¥~WebIntelligence フォルダに自動保存されました。ドキュメントを取得するには、[復元] をクリックしてください。(WIJ 60001)

## 原因

サーバのタイムアウトにより、現在のドキュメントがお気に入り¥~WebIntelligence フォルダに自動保存されました。

## 対処方法

[[復元](#)] をクリックして、自動保存されたドキュメントを取得します。

ドキュメントが自動的に復元されない場合は、フォルダから手動で取得します。自動保存されたドキュメントの名前は、元のドキュメント名に自動生成されたプレフィックスとポストフィックスが付きます。

ドキュメントを自動保存フォルダからできるだけ早く取得してください。このフォルダは、自動保存されたドキュメントの永続的な保存場所ではありません。

**27.1.20** セッションはタイムアウトしましたが、次のセキュリティ権限が割り当てられていないため、ドキュメントを自動保存できませんでした。(WIJ 60002): {権限のリスト}

## 原因

次のセキュリティ権限の一部または全部がないため、ドキュメントを自動保存できませんでした。

- オブジェクトの編集
- オブジェクトの削除
- オブジェクトの追加

## 対処方法

適切なセキュリティ権限を割り当てるよう、管理者に依頼してください。

### **27.1.21** サーバの問題により、ドキュメントを受信できません (WIJ 77777)。

## 原因

サーバがダウンしているため、ドキュメントを取得できません。

## 対処方法

管理者に連絡してください。

### **27.1.22** セッションがタイムアウトしました。Java インタフェースを閉じて、再度ログオンしてください。 (WIJ 77778)

## 原因

システムで許可されている最大時間を超えて、Java インタフェースを使用しないで BI ラUNCHパッドにログインしたままです。

## 対処方法

ログアウトしてから再度 BI ラUNCHパッドにログインし、Java インタフェースの使用を続行します (タイムアウト以前の保存されていない変更はすべて失われます)。

BI ラUNCHパッドにログインできる時間を延長するには、管理者にセッションタイムアウトパラメータ値を増やすように依頼してください。

**27.1.23** Central Management Server (CMS) が機能していません。詳細については、管理者にお問い合わせください。(WIJ 77779)

## 原因

Central Management Server (CMS) が動作していません。

## 対処方法

管理者にお問い合わせください。

**27.1.24** このユーザプロファイルでは、直接入力 SQL に基づくドキュメントの編集または作成が許可されていません。この権限を付与するよう BI 管理者に連絡してください (WIJ 77780)。

## 原因

Web Intelligence に対してユーザに割り当てられた権限に、Web Intelligence で SQL/MDX クエリスクリプトを編集する権限が含まれていません。これは、直接入力 SQL に基づいてドキュメントを作成できるようにするために必要な権限です。

## アクション

直接入力 SQL 文に基づいて Web Intelligence ドキュメントを作成する必要がある場合は、BI 管理者に連絡して、Web Intelligence での SQL/MDX クエリスクリプトを編集する権限を依頼してください。

## 27.2 Web Intelligence デスクトップ (WIO) に関するエラーメッセージ

Web Intelligence デスクトップ (リッチクライアント) に関するエラーメッセージは、次のカテゴリに分類されます。

範囲	カテゴリ
WIO 00001 - WIS 30284	Web Intelligence デスクトップ

## 27.2.1 Web Intelligence デスクトップにログインできません。(WIO 00001)

### 原因

ブラウザのキャッシュは特定の状況で一杯になり、それが原因で Web Intelligence デスクトップにログインできない場合があります。

### 対処方法

ブラウザのキャッシュが一杯である場合は空にします。Web Intelligence デスクトップにログインできない場合は、管理者に連絡してください。

## 27.2.2 ハイパーリンクを開くことができません (WIO 00002)。

### 原因

- ハイパーリンクの URL が正しく構築されていません。
- このハイパーリンクはセントラル管理コンソール (CMC) のドキュメントを参照しています。CMC 内のドキュメントは、次の 2 つの理由により、Web Intelligence リッチクライアントから必ずしもアクセスできるわけではありません。
  - [完全な URL パスを使用して、ハイパーリンクを作成] 設定が選択されていないため、ドキュメントのホストとなるサーバの名前がハイパーリンクで指定されていません。不完全な URL を BI ラウンチパッドの外部で使用した場合、無効となります。
  - ハイパーリンクは完全な URL で構成されていますが、Web Intelligence リッチクライアントを実行しているコンピュータから、URL で指定されているサーバへアクセスできません。

### アクション

ハイパーリンクを修正するか、または IT 管理者に連絡してください。

## 27.2.3 使用できるメモリはこれ以上ありません。(WIS 30280) (WIO 30280)

### 原因

システムのメモリ不足です。

## 対処方法

開いているドキュメントを閉じて、メモリを解放します。

**27.2.4**   メモリが不足しているため続行できません。ドキュメントを閉じてメモリを解放してください。  
(WIO 30284)

## 原因

システムのメモリが少なくなっています。

## 対処方法

開いているドキュメントを閉じて、メモリを解放します。

## 27.3 Web Intelligence サーバー (WIS) に関するエラー メッセージ

Web Intelligence サーバー エラー メッセージは、次のカテゴリに分類されます。

範囲	カテゴリ
WIS 30000 - WIS 40000	Web Intelligence サーバー

**27.3.1**   このドキュメントのクエリは空です。(WIS30000)

## 原因

このドキュメントに定義されているデータがありません。

## 対処方法

結果オブジェクトをクエリに追加します。

## **27.3.2** ドキュメントに、空のクエリが少なくとも 1 つ存在します。(WIS 30001)

### 原因

このドキュメントにデータが定義されていないクエリがあります。

### 対処方法

結果オブジェクトをクエリに追加します。

## **27.3.3** セキュリティプロファイルに、クエリを編集する権限が含まれていません (WIS 30251)。

### 原因

クエリを編集する権限がありません。

### 対処方法

管理者に連絡し、ドキュメントのクエリの編集を許可するよう依頼します。

## **27.3.4** セキュリティプロファイルに、ドキュメントを編集する権限が含まれていません。(WIS 30252)

### 原因

ドキュメントを編集する権限がありません。

### 対処方法

管理者に連絡し、ドキュメントの編集を許可するよう依頼してください。

## **27.3.5** セキュリティプロファイルに、ドキュメントを最新表示する権限が含まれていません。(WIS 30253)

### 原因

ドキュメントを最新表示する権限がありません。

### 対処方法

管理者に連絡し、ドキュメントの最新表示を許可するよう依頼してください。

## **27.3.6** セキュリティプロファイルに、値の一覧を最新表示する権限が含まれていません。(WIS 30254)

### 原因

値一覧を最新表示する権限がありません。

### 対処方法

管理者に連絡し、ドキュメントの値一覧の最新表示を許可するよう依頼してください。

## **27.3.7** セキュリティプロファイルに、値の一覧を使用する権限が含まれていません。(WIS 30255)

### 原因

値一覧を使用する権限がありません。

### 対処方法

管理者に連絡し、ドキュメントの値一覧の使用を許可するよう依頼してください。



**27.3.8** セキュリティプロファイルに、クエリによって生成されたスクリプトを表示する権限が含まれていません。(WIS 30256)

#### 原因

クエリによって生成されたスクリプトを表示する権限がありません。

#### 対処方法

管理者に連絡し、クエリのスクリプトの表示を許可するよう依頼してください。

**27.3.9** セキュリティプロファイルに、式言語を使用する権限が含まれていません。(WIS 30257)

#### 原因

式言語を使用、または変数を作成する権限がありません。

#### 対処方法

管理者に連絡し、ドキュメントでの式言語の使用、および変数の作成を許可するよう依頼してください。

**27.3.10** セキュリティプロファイルに、ドリル分析を実行する権限が含まれていません。(WIS 30258)

#### 原因

ドリル分析を実行する権限がありません。

#### 対処方法

管理者に連絡し、レポートのドリル分析を許可するよう依頼してください。

## 27.3.11 セキュリティプロファイルに、分析範囲を拡張する権限が含まれていません。(WIS 30259)

### 原因

定義済み分析範囲を超えてドリル分析を実行しようとしたますが、分析範囲外でドリル分析する権限がありません。

### 対処方法

管理者にお問い合わせください。

## 27.3.12 {api\_name} API の呼び出し中に内部エラーが発生しました。(WIS 30270)

### 原因

該当ドキュメントあるいはデータに関する情報が無効、または使用できません。

### 対処方法

管理者は、追跡機能を有効にして API 関連のトレースを検出し、このエラーの発生原因を明らかにできます。

## 27.3.13 ドキュメントが大きすぎるため、サーバで処理できません。(WIS 30271)

### 原因

ドキュメントを PDF 形式または Microsoft Excel 形式で表示する場合は、サーバによってバイナリベースの出力が生成され、Web ブラウザによって解釈されます。このエラーは、バイナリ出力のサイズが、サーバ管理者によって指定された最大サイズより大きい場合に発生します。

### 対処方法

管理者に連絡し、最大サイズを増やすよう依頼してください。

## 27.3.14 ドキュメントが大きすぎるため、サーバで処理できません。(WIS 30272)

### 原因

ドキュメントを HTML 形式で表示する場合は、サーバによって文字ベースの出力が生成され、Web ブラウザによって解釈されます。このエラーは、文字出力のサイズが、サーバ管理者によって指定された最大サイズより大きい場合に発生します。

### 対処方法

管理者に最大ドキュメントサイズを大きくするよう依頼してください。

## 27.3.15 クエリまたはレポートを生成できませんでした。(WIS 30351)

### 原因

クエリの定義に必要な手順を 1 つ以上完了できなかったため、レポートを生成できませんでした。これは、次のいずれかの理由によります。

- ドキュメントが初期化されなかった。
- データソースが有効ではない。
- クエリが定義されなかった。
- クエリのコンテキストがユニバースレベルで定義されていない。
- プロンプトの値がユニバースレベルで指定されていない。

### 対処方法

管理者に連絡し、データソースへの接続を確認し、ユニバースに指定されていないコンテキストおよびプロンプト値が含まれていないことを確認するよう依頼してください。

## 27.3.16 この名前のクエリファイルは既に存在します。(WIS 30371)

### 原因

ドキュメント内に同じ名前のクエリが存在します。

## 対処方法

このクエリに別の名前を付けます。

**27.3.17** Web Intelligence サーバのメモリ不足です。ログオフしてから、もう 1 度接続を実行してください。問題が解決しない場合は、管理者に連絡してください。(エラー: ERR\_WIS\_30280) (WIS 30280)

## 原因

サーバのメモリがいっぱいです。

## 対処方法

後で再度実行してください。問題が解決しない場合は、管理者に連絡してください。

**27.3.18** Web Intelligence サーバは使用中です。変更を保存して、後でもう一度実行してください。問題が解決しない場合は、管理者に連絡してください。(エラー: ERR\_WIS\_30284) (WIS 30284)

## 原因

サーバはビジー状態です。

## 対処方法

変更を保存して、後で再度実行してください。問題が解決しない場合は、管理者に連絡してください。

**27.3.19** Web Intelligence サーバがメモリ不足で、ドキュメントが閉じられています。問題が解決しない場合は、管理者に連絡してください。(エラー: ERR\_WIS\_30285) (WIS 30285)

## 原因

サーバのメモリがいっぱいです。

## 対処方法

後で再度実行してください。問題が解決しない場合は、管理者に連絡してください。

**27.3.20** このドキュメントは移行されました。次回ドキュメントを開くときのパフォーマンスを向上させるために、ドキュメントを保存することをお奨めします。 **(WIS 30374)**

## 原因

このドキュメントは旧バージョンの Web Intelligence からのものであり、ドキュメントを変換する必要があります。

## アクション

ドキュメントを保存して、変換を永続化します。

**27.3.21** このドキュメントには、以前のバージョンの **Web Intelligence** からの地理修飾データが含まれています。このデータの地理修飾をチェックして潜在的な不一致を修正し、地理マップチャートで情報が失われないようにすることを強くお奨めします **(WIS 30375)**。

## 原因

Web Intelligence の地理データベースが更新され、一部の場所 ID が変更された可能性があります。

## アクション

地理修飾を名前別に再実行し、すべてのロケーションを更新します。

**27.3.22** このドキュメントを編集できません。これは、クエリのプロパティオプションである「ほかのユーザによるクエリ編集を許可」がこのドキュメントの作成時に有効になっていなかったためです。  
(WIS 30381)

## 原因

ドキュメントの作成者が、クエリのプロパティオプション「ほかのユーザによるクエリ編集を許可」を選択していませんでした。

## 対処方法

次のいずれかを実行します。

- ドキュメント作成者に対し、オプションを有効にしてドキュメントを保存し直すよう依頼します。
- 個人用ドキュメントとしてドキュメントのコピーを保存し、そのクエリを編集します。

**27.3.23** WIQT で内部エラーが発生しました (WIS 30551)。

## 原因

WIQT に予期せぬエラーが発生しました。

## 対処方法

管理者にお問い合わせください。

**27.3.24** WIQT セッションがタイムアウトになりました。ログアウトし、再度 BI ラウンチパッドにログインしてください。(WIS 30553)

## 原因

システムで許可されている最大時間を超えて、Web Intelligence を使用しないで BI ラウンチパッドにログインしたままです。

## 対処方法

ログアウトしてから、再度 BI ランチパッドにログインします (タイムアウト以前の保存されていない変更はすべて失われます)。

BI ランチパッドにログインできる時間を延長するには、管理者にセッションタイムアウトパラメータ値を増やすように依頼してください。

**27.3.25** 使用できる WIQT サーバはこれ以上ありません。同時にログインできるユーザの最大数に達しています。(WIS 30554)

## 原因

最大ユーザ数がすでにログインしています。

## 対処方法

後で、再試行するか、管理者に連絡して同時にログインできるユーザの最大数を増やすよう依頼してください。

**27.3.26** セキュリティプロファイルに、会社用ドキュメントとしてドキュメントを保存、または BI ランチパッドを使用してドキュメントを送信する権限が含まれていません。(WIS 30555)

## 原因

セキュリティプロファイルでは、ドキュメントを個人用または会社用として保存、またはドキュメントをスケジュールすることはできません。

## 対処方法

管理者に連絡し、以下を許可するよう依頼してください。

- 会社用ドキュメントの保存
- ドキュメントの自分のグループのユーザへの送信
- ドキュメントをほかのグループのユーザへ送信

**27.3.27** 同じ名前の会社用ドキュメントがすでに存在します。セキュリティプロファイルに、他のユーザが所有する会社用ドキュメントを削除できません。(WIS 30556)

## 原因

セキュリティプロファイルの設定では、既存の会社用ドキュメントを上書きすることは許されていません。

## 対処方法

管理者に連絡し、他のユーザが保存した会社用ドキュメントの削除を許可するよう依頼してください。

**27.3.28** リポジトリにこの名前のドキュメントはありません。ほかの名前を指定してください。(WIS 30557)

## 原因

以下のいずれかの理由により、リポジトリにこの名前のドキュメントはありません。

- 入力したドキュメント名が正しくない。
- この名前のドキュメントがリポジトリから削除された

## 対処方法

正しいドキュメント名かどうかを確認します。

### ① 注記

削除されたドキュメントを受信することはできません。

**27.3.29** このドキュメントには指定のアクションを実行できません。(WIS 30650)

## 原因

リソース不足またはアクセスの問題により、サーバが現在のタスクを完了できません。



## 対処方法

次のいずれかを実行します。

- セッションを終了し、BI ラウンチパッドからログアウトしてから、再度ログインしてください。
- 管理者に、セキュリティプロファイルによって、会社用リポジトリへのアクセスが許可されていることを確認するよう依頼してください。

### 27.3.30 サーバは XML ドキュメントをロードできませんでした。(WIS 30751)

#### 原因

BusinessObjects ドキュメントを Web Intelligence 6.x に移行する場合、Web Intelligence Report Server で開くことが可能な XML ファイルが作成されます。管理コンソール上の関連モジュールは WIReporServer と呼ばれます。この場合、ドキュメントを Web Intelligence 6.x へ移行中に、Web Intelligence Report Server に予期しないエラーが発生しました。

## 対処方法

管理者は、追跡機能を有効にして WIReporServer に関連するトレースを検出し、このエラーの発生理由を明らかにします。この情報を管理者に連絡します。

### 27.3.31 このドキュメントの XML ファイルを開くことができません。管理者に連絡してください。(WIS 30752)

#### 原因

Desktop Intelligence ドキュメントを Web Intelligence 6.x に移行する場合、サーバで開くことができる XML ファイルが作成されます。このエラーは、サーバが XML ファイルを開けないときに発生するため、移行は完了できません。これには、共通の原因が 2 つあります。

- XML が読み取り専用である。
- XML ファイルへのファイルパスが正しくない。

## 対処方法

この情報を管理者に連絡します。

**27.3.32** 現在のユーザプロフィールでは、ドキュメントのドメインにアクセスして会社用ドキュメントを保存することはできません。このドキュメントを個人用ドキュメントとして保存するか、管理者に連絡してください。(WIS 40000)

## 原因

ユーザプロフィールに、リポジトリの会社用ドキュメントのドメインにドキュメントを保存する権限は含まれていません。

## 対処方法

次のいずれかを実行します。

- ドキュメントを個人用ドキュメントとして保存してください。
- 管理者に連絡し、会社用ドキュメントのドメインへのアクセス権を依頼してください。

## 27.4 Web Intelligence デスクトップ HTML インタフェース (WIH) に関するエラーメッセージ

Web Intelligence デスクトップ HTML インタフェースに関するエラーメッセージには、以下が含まれます。

範囲	カテゴリ
WIH 00000 - WIH 00020	Web Intelligence デスクトップ HTML インタフェース

**27.4.1** 無効なセッションです。ブラウザを閉じてもう一度ログオンしてください。(WIH 00013)

## 原因

このエラーメッセージは、BI ランチパッドで複数のドキュメントを開いていて、セッション有効期限より長い間無効であったドキュメントで作業しようとしているときに発生します。

## アクション

BI ランチパッドからログアウトしてブラウザを閉じてから、BI ランチパッドに再ログインします。

## 27.4.2 ドキュメントを保存できませんでした (WIH 00014)

### 原因

ドキュメントをリポジトリに保存できませんでした。このエラーは、様々な理由で発生します。例: ドキュメントを保存しようとしたフォルダに対するセキュリティ権限がありません。

### アクション

管理者に連絡して、ドキュメントを保存できなかった理由を調べてください。

## 27.4.3 セッションがタイムアウトしました。ドキュメント {ドキュメント名}.wid は お気に入り ¥~WebIntelligence フォルダに自動保存されました。取得するには [復元] をクリックしてください。 (WIH 00015)

### 原因

サーバのタイムアウトにより、現在のドキュメントを Favorites¥~WebIntelligence フォルダに自動保存しました。

### 対処方法

[復元] をクリックして、自動保存されたドキュメントを取得します。

ドキュメントが自動的に復元されない場合は、フォルダから手動で取得します。自動保存されたドキュメントの名前は、元のドキュメント名に自動生成されたプレフィックスとポストフィックスが付きます。

ドキュメントを自動保存フォルダからできるだけ早く取得してください。このフォルダは、自動保存されたドキュメントの永続的な保存場所ではありません。

## 27.4.4 セッションはタイムアウトしましたが、次のセキュリティ権限が割り当てられていないため、ドキュメントを自動保存できませんでした。 (WIH 00016): {権限のリスト}

### 原因

次のセキュリティ権限の一部または全部がないため、ドキュメントを自動保存できませんでした。

- オブジェクトの編集

- オブジェクトの削除
- オブジェクトの追加

## 対処方法

適切なセキュリティ権限を割り当てるよう、管理者に依頼してください。

**27.4.5** 予期しないエラーが発生しました。 このエラーの詳細については、SAP Support Portal の SAP ナレッジベース記事 2054722 を参照してください (WIH 44444)。

## 原因

サーバが停止し、エラーの根本原因は特定できませんでした。

## アクション

ドキュメントを閉じてから再度開きます。

これで問題が解決しない場合は、BI 管理者にお問い合わせください。

BI 管理者であって、このエラーに関する詳細が必要な場合は、SAP Support Portal の SAP ナレッジベース記事 2054722 を参照してください。

## 27.5 ReportEngine Web Intelligence (RWI) エラーメッセージ

ReportEngine Web Intelligence エラーメッセージは、次のカテゴリに分類されます。

範囲	カテゴリ
RWI 00000 - RWI 00850	ReportEngine Web Intelligence

## 27.5.1 RWI 00000 - RWI 00314

### 27.5.1.1 クエリのプロンプトにユーザの入力が必要です。(RWI 00000)

#### 原因

サーバは、リクエストに応じるためにプロンプト値が必要です。

#### アクション

すべての必須プロンプトの値を入力します。

### 27.5.1.2 クエリ用のユニバースコンテキストを選択するため、ユーザの入力が必要です。(RWI 00001)

#### 原因

サーバは、リクエストに応じるためにコンテキストの選択が必要です。

#### アクション

コンテキストの選択を提供します。

### 27.5.1.3 引数を NULL にすることはできません。(RWI 00010)

#### 原因

指定された引数は "NULL" です。

#### アクション

引数に NULL でない値を入力します。

#### **27.5.1.4** 無効な値: {0}。(RWI 00011)

##### **原因**

指定された引数値が無効です。

##### **アクション**

引数に有効な値を入力します。

#### **27.5.1.5** 引数が範囲外です。(RWI 00012)

##### **原因**

指定された引数値が許容されている範囲内にありません。

##### **アクション**

許容されている範囲内にある値を指定します。

#### **27.5.1.6** 要求されたレポートパーツを取得できません。レポートパーツの参照先が無効か、対応するデータが存在しません。(RWI 00013)

##### **原因**

1つまたは複数のレポートパーツの参照が無効であるか、対応するデータが使用できません。

##### **アクション**

有効なレポートパーツの参照を使用していることを確認します。次に、ドキュメントのデータプロバイダが最新表示された後に、要求されたデータが使用できることを確認します。

### **27.5.1.7** DHTML 出力形式では同時に複数のレポートパーツを取得できません。(RWI 00014)

#### **原因**

複数のレポートパーツを DHTML 出力形式で同時に取得することはできません。

#### **アクション**

レポートパーツの参照を 1 つ入力します。

### **27.5.1.8** 依頼検索の検索モードをオフにできません。(RWI 00015)

#### **原因**

「委任」検索として定義された値の一覧は、検索モードを無効にできません。

#### **アクション**

検索モードを無効にする前に、値の一覧が「委任検索」として定義されていないかチェックします。

### **27.5.1.9** 指定された OutputCacheEntry インスタンスのいずれかが無効であるか、Web Intelligence サーバによってサポートされていません。(RWI 00016)

#### **原因**

サーバ出力キャッシュのプリロード中、指定された 1 つまたは複数の出力形式が無効であるか、サポートされていません。

#### **アクション**

要求された出力形式が有効でサポートされていることを確認します。

## **27.5.1.10** 指定されたストリームから {0} バイトを読み取れませんでした。(RWI 00017)

### 原因

ドキュメントにリソースをアップロードするときに、指定されたデータを読み取ることができません。

### アクション

指定されたパラメータが正しく一貫していることを確認します。

## **27.5.1.11** Web Intelligence サーバが無効な XML 出力を返しました。管理者に連絡してください。 (RWI 00200)

### 原因

サーバが無効または間違った XML 出力を返しました。

### アクション

Business Objects のカスタマ サポートに連絡してください。

## **27.5.1.12** ページ番号を取得できませんでした。(RWI 00223)

### 原因

要求されたページは、ページ番号が無効なため取得できませんでした。

### アクション

要求されたページ番号が有効であることを確認します。



## 27.5.1.13 レポートエンジンサーバを初期化できません。(RWI 00226)

### 原因

サーバとの通信を確立できませんでした。これは、ドキュメントを作成または開こうとしたときに発生する場合があります。

### アクション

サーバが正しくインストールされていることを確認します。また、サーバが起動して有効になっているかチェックします。

## 27.5.1.14 Web Intelligence セッションがタイムアウトしたので、無効になりました。(RWI 00235)

### 原因

特定のドキュメントに割り当てられているサーバセッションが、明示的またはタイムアウトのために閉じられています。

### アクション

ドキュメントが明示的に閉じられていないことを確認します。または、<[サーバセッションタイムアウト](#)>値を増やします。

サーバセッションタイムアウト値を変更する手順は、次のとおりです。

1. Business Intelligence プラットフォームセントラル管理コンソール (CMC) にログオンします。
2. サーバをクリックします。
3. サーバカテゴリを展開して、[Web Intelligence サービス] をクリックします。
4. サーバ名の下にある [WebIntelligenceProcessingServer] をダブルクリックします。[プロパティ] ウィンドウが表示されます。
5. [プロパティ] ウィンドウの [Web Intelligence コアサービス] で、[アイドル接続タイムアウト] の値を入力します。

## 27.5.1.15 Web Intelligence サーバに接続できません。管理者に連絡してください。(RWI 00236)

### 原因

サーバと通信しようとしているときにエラーが発生しました。

### アクション

管理者に連絡して、サーバが有効かつ実行中であることを確認します。また、ネットワークの問題もチェックします。

## 27.5.1.16 出力ストリームを書き込むことができません。管理者に連絡してください。(RWI 00237)

### 原因

表示リクエストへの応答としてデータを書き込んでいるときに I/O エラーが発生しました。

### アクション

管理者に連絡して、指定された出力先パラメータが有効であることを確認します。

## 27.5.1.17 接続に失敗しました。サーバは同時接続の最大数に達しています。(RWI 00239)

### 原因

許容されるサーバ接続の最大数に達しました。

### アクション

<最大接続数>サーバパラメータの値を増やすか、別のサーバインスタンスを追加します。

最大接続数の値を変更する手順は、次のとおりです。

1. Business Intelligence プラットフォームセントラル管理コンソール (CMC) にログオンします。
2. サーバをクリックします。

3. サーバカテゴリを展開して、[Web Intelligence] をクリックします。
4. サーバ名の下にある [WebIntelligenceProcessingServer] をダブルクリックします。 [プロパティ] ウィンドウが表示されます。
5. [プロパティ] ウィンドウの [Web Intelligence コアサービス] で、[最大接続数] の値を入力します。

**27.5.1.18** サーバのバージョンとクライアントのバージョンに互換性がありません。管理者に連絡してください。(RWI 00240)

## 原因

サーバは、この SDK のバージョンをサポートしていません。

## アクション

管理者に連絡して、サーバのバージョンが、クライアントのバージョンと互換性があることを確認します。

**27.5.1.19** XML 変換機能が見つかりません。(RWI 00301)

## 原因

XML を HTML に変換するために使用する XSLT 変換機能をインスタンス化できません。

## アクション

後で再度実行してください。

**27.5.1.20** トランスレットを作成できません。(RWI 00309)

## 原因

XML を HTML に変換するために使用する XSLT スタイルシートをコンパイルできません。

## アクション

後で再度実行してください。

### **27.5.1.21** ドキュメントの出力ファイルを取得できません。(RWI 00314)

## 原因

ドキュメントの状態をシリアル化しているときに、エラーが発生しました。これは、メモリ不足または I/O エラーが原因である可能性があります。

## アクション

十分なメモリ容量があることを確認します。また、`<webi.properties>` がカスタマイズされていないかチェックします。

## **27.5.2 RWI 00315 - RWI 00605**

### **27.5.2.1** XML パーサの ID を取得できません。(RWI 00316)

## 原因

XSLT 変換中にエラーが発生しました。これは、クライアントが指定したスタイルシートを使用して、出力を XML 形式で要求したためである可能性があります。

## アクション

指定された XSLT スタイルシートが正しいことを確認します。

### **27.5.2.2** XML を HTML に変換できません。(RWI 00317)

## 原因

XSLT の変換中に、出力を HTML で要求しているときにエラーが発生しました。

## アクション

後で再度実行してください。

### **27.5.2.3** Java Runtime Environment は UTF-8 エンコードをサポートしていません。(RWI 00321)

## 原因

JRE は UTF-8 エンコードをサポートしていません。

## アクション

UTF-8 エンコードをサポートする JRE に切り替えます。

### **27.5.2.4** 保存トークンからドキュメントを取得中にエラーが発生しました。(RWI 00322)

## 原因

ドキュメントの状態を非シリアル化しているときに、エラーが発生しました。これは、メモリ不足または I/O エラーが原因である可能性があります。

## アクション

十分なメモリ容量があることを確認します。また、`<webi.properties>` がカスタマイズされていないかチェックします。

### **27.5.2.5** 渡された古いトークンを持つドキュメントを取得できません。(RWI 00323)

## 原因

ドキュメントの状態を非シリアル化しているときに、エラーが発生しました。これは、ドキュメントの状態を識別するストレージトークンが、ストレージトークンスタック内で使用できなくなったことが原因である可能性があります。

## アクション

<webi.properties> ファイルで、<ストレージトークンのスタックサイズ>の値を増やします。また、ストレージトークンを使用する前に、有効であることを確認します。

### **27.5.2.6** 渡された不正なトークンを持つドキュメントを取得できません。(RWI 00324)

## 原因

ドキュメントの状態を非シリアル化しているときに、エラーが発生しました。これは、ストレージトークンが無効であることが原因である可能性があります。

## アクション

有効なストレージトークンを指定します。

### **27.5.2.7** 現在の演算子はオペランドが多すぎます。(RWI 00501)

## 原因

現在の演算子では、条件またはフィルタにオペランドが多すぎて新しいオペランドを追加できません。

## アクション

新しいオペランドを追加する前に、既存のオペランドを削除します。

### **27.5.2.8** 現在の演算子はオペランドが不足しています。(RWI 00502)

## 原因

条件またはフィルタには、現在の演算子に関して十分なオペランドがありません。

## アクション

条件またはフィルタにオペランドを追加します。

### **27.5.2.9** このレポートレベルで作成したフィルタではプロンプトを実行できません。(RWI 00503)

#### 原因

レポートフィルタがプロンプトをサポートしていません。プロンプトをサポートしているのは、クエリ条件だけです。

## アクション

レポートフィルタにはプロンプトを使用しないようにします。

### **27.5.2.10** 定義済みのフィルタでは演算子やオペランドを変更することができません。(RWI 00504)

#### 原因

定義済み条件を使用しているときは、条件またはフィルタに対して演算子を指定できません。

## アクション

定義済み条件内の演算子がフィルタまたは条件を持たないことを確認します。

### **27.5.2.11** `LIKE` 演算子と `NOT LIKE` 演算子は `ObjectType.TEXT` オブジェクトでのみ適用できます。 (RWI 00506)

#### 原因

文字型でないオブジェクトに `"LIKE"` または `"NOT LIKE"` 演算子を使用しようとしてしました。

## アクション

フィルタに使用されているオブジェクトが<文字>型でない場合は、"LIKE" と "NOT\_LIKE" 演算子を使用していないことを確認します。

### **27.5.2.12** 指定した演算子はドキュメントフィルタには適用できません。(RWI 00507)

## 原因

指定された演算子は、レポートフィルタと一緒に使用できません。これと一緒に使用できるのは、クエリ条件だけです。

## アクション

レポートフィルタを使って作業する場合は、この演算子を使用しないようにします。

### **27.5.2.13** 関連付けられているソースオブジェクトに LOV（値の一覧）がないため、Web Intelligence は LOV をプロンプトに添付できません。(RWI 00508)

## 原因

値の一覧は、定義されるプロンプトと一緒に使用できません。これは、この条件で使用されるオブジェクトに LOV は含まれないためです。

## アクション

値の一覧を使用するプロンプトを要求する前に、条件内で使用するオブジェクトが値の定義済み一覧を持つことを確認します。

### **27.5.2.14** フィルタ条件の比較に互換性のないデータソースオブジェクトがあります。(RWI 00509)

## 原因

条件内で異なるタイプの2つのオブジェクトを比較しようとしていました。



## アクション

同じタイプのオブジェクトを使用します。

### **27.5.2.15** 式にはレポートフィルタを作成できません。(RWI 00511)

## 原因

式はレポートフィルタとして使用できません。使用できるのは、データプロバイダと変数式だけです。

## アクション

レポートフィルタを定義するときは、データプロバイダまたは変数式を使用します。

### **27.5.2.16** パーセンテージランクは 100 を超える値を持つことはできません。(RWI 00512)

## 原因

パーセンテージのランクを定義したときに、100 を超えるランクサイズを選んでいます。

## アクション

ランクサイズが 100 未満であることを確認します。

### **27.5.2.17** 軸では式を使用できません。(RWI 00602)

## 原因

軸にない式を使用して、ブレイク、計算、並べ替えを作成しようとしてしました。

## アクション

軸で利用できる式を使用します。

## 27.5.2.18 Y 軸に含めることができるのは係数オブジェクトのみです。(RWI 00603)

### 原因

<メジャー> タイプでない式を軸に追加しようとした。

### アクション

<メジャー> タイプの式を指定します。

## 27.5.2.19 メジャーを基にセクションを作成することはできません。(RWI 00604)

### 原因

セクションは、<メジャー> タイプの式を基にすることはできません。

### アクション

<メジャー> タイプの式をセクションの基礎として使用しないようにします。

## 27.5.2.20 セクションの軸に複数の表現式を追加することはできません。(RWI 00605)

### 原因

セクション軸は複数の式をサポートしていません。

### アクション

セクション軸には複数の式を使用しないようにします。

## 27.5.3 RWI 00606 - RWI 00850

### 27.5.3.1 循環添付をファイルに含めることはできません。(RWI 00606)

#### 原因

循環添付の原因となるレポート添付を定義しようとした。

#### アクション

循環添付を作成しないレポートを定義します。

### 27.5.3.2 式がテーブルセルの式と異なります。(RWI 00607)

#### 原因

テーブルセルに含まれない式を指定して、テーブルセルに計算を作成しようとした。

#### アクション

テーブルセルに既に定義されている式を使用して計算テーブルを作成します。

### 27.5.3.3 異なる ReportElementContainer 内の要素に ReportElement オブジェクトをコピーすることはできません。(RWI 00608)

#### 原因

レポート添付は、同じコンテナに属するレポート要素間でのみ定義できます。

#### アクション

同じコンテナに属するレポート要素間でレポート添付を作成していることを確認します。

### **27.5.3.4** セクションに水平添付を作成することはできません。(RWI 00609)

#### **原因**

セクション内に水平添付を作成しようとしてしました。

#### **アクション**

セクションは最大許容幅を超えることはできないので、水平添付はセクション内に作成しないようにします。

### **27.5.3.5** テーブルボディからすべての行と列を削除することはできません。少なくとも 1 つの行と列を残す必要があります。(RWI 00610)

#### **原因**

テーブルボディの最終行または最終列を削除しようとしてしました。

#### **アクション**

テーブルに少なくとも 1 つの行と列があることを確認します。

### **27.5.3.6** この軸ではディメンションと詳細オブジェクトのみ使用できます。(RWI 00611)

#### **原因**

ディメンションおよび詳細式のタイプだけが許可されている軸に対して、使用できない型の式を追加しようとしてしました。

#### **アクション**

互換性のあるタイプの式を指定します。

### **27.5.3.7** ブロックの形状に基づいたブロック軸上にオブジェクトを追加することはできません。(RWI 00612)

#### **原因**

指定されたブロック軸にこれ以上式を追加できません。

#### **アクション**

これ以上式を追加しないようにします。

### **27.5.3.8** このレポート要素には、両面の添付ファイルを含めることができません。(RWI 00613)

#### **原因**

レポート要素は、2つの異なるレポート要素に水平および垂直に添付できません。

#### **アクション**

レポート要素が同じレポート要素に（水平および垂直に）添付されていることを確認します。

### **27.5.3.9** テーブルセルがテーブルから削除されました。(RWI 00614)

#### **原因**

テーブルから削除されたテーブルセルを使用しようとしてしました。

#### **アクション**

テーブルセルは、テーブルから削除された後は使用できません。

### **27.5.3.10** アラータは現在のドキュメント内に定義されていません。(RWI 00619)

#### **原因**

レポートで参照されているアラータは、ドキュメントのアラータ辞書に属していません。

#### **対処方法**

アラータを辞書に追加します。

### **27.5.3.11** データ変更の追跡アクションを実行するには、データ変更の追跡モードを有効化する必要があります。(RWI 00620)

#### **原因**

データの追跡が有効になっていないため、データ変更の追跡アクションを実行できません。

#### **対処方法**

Web Intelligence ドキュメントでデータ変更の追跡モードを有効化します。

### **27.5.3.12** ビジュアライゼーションフレームワークで例外が発生しました。(RWI 00621)

#### **原因**

ビジュアライゼーションフレームワークで例外が発生しました。

#### **対処方法**

内部例外を確認します。

### **27.5.3.13** ドリルアクションを実行するためにドリルモードを有効化する必要があります (RWI 00624)

#### **原因**

ドリルのステータスが原因でドリルアクションを実行できません。

#### **対処方法**

Web Intelligence ドキュメントでドリルモードを有効化します。

### **27.5.3.14** 空のクエリは実行できません。 (RWI 00701)

#### **原因**

空のクエリを実行しようとしてしました。

#### **アクション**

クエリを実行する前に、結果オブジェクトを追加します。

### **27.5.3.15** 最後のデータプロバイダを削除できません。 (RWI 00702)

#### **原因**

ドキュメント内の最後のデータプロバイダを削除しようとしてしました。

#### **アクション**

ドキュメントには少なくとも1つのデータプロバイダが必要です。

### **27.5.3.16** 指定した名前のデータプロバイダがすでに存在します。(RWI 00703)

#### **原因**

ドキュメントに既に存在する名前をデータプロバイダに付けようとした。

#### **アクション**

ドキュメント内のデータプロバイダの名前は一意である必要があります。

### **27.5.3.17** 標本抽出モードが有効になっていると、複合クエリの互換性がなくなります。(RWI 00706)

#### **原因**

標本抽出は複合クエリでは使用できません。

#### **アクション**

複合クエリでは標本抽出を使用しないようにします。

### **27.5.3.18** データソースオブジェクトを削除しようとしています、データソースの式が 2 つしかありません。(RWI 00800)

#### **原因**

2 つの式だけを含む同期化されたディメンションから 1 つの式を削除しようとした。

#### **アクション**

同期化されたディメンションが少なくとも 2 つの式を含んでいることを確認します。



### 27.5.3.19 既存の名前（{0}）でリンクを作成することはできません。（RWI 00801）

#### 原因

同期化されたディメンションを、既に存在する名前で作成しようとした。

#### アクション

同期化されたそれぞれのディメンションに対して、一意の名前を付けます。

### 27.5.3.20 新しい値の一覧が CustomSortLov でサポートされるサイズより大きい CustomSortLov は更新できません。（RWI 00825）

#### 原因

カスタム並べ替え定義の値の一覧を、許可された以上の値で更新しようとした。

#### 対処方法

一覧内の値の数が、指定されたカスタム並べ替えの範囲内であることを確認します。

### 27.5.3.21 レポート式の LOV のサイズが CustomSortLov のサポートサイズより大きい場合、CustomSortLov を作成できません。（RWI 00826）

#### 原因

カスタム並べ替え定義の値の一覧を、許可された以上の値で作成しようとした。

#### アクション

一覧内の値の数が、指定されたカスタム並べ替えの範囲内であることを確認します。

### 27.5.3.22 指定した式はフィールド制限の 1 つに違反します。(RWI 00830)

#### 原因

指定した式はフィールド制限の 1 つに違反します。

#### 対処方法

式にエラーがあります。フィールド制限を確認してから式を追加します。

### 27.5.3.23 {0} 機能はサポートされていません。(RWI 00850)

#### 原因

現在のコンテキストでサポートされていない特定の機能を使用しようとしてしました。

#### アクション

この機能を使用する前に、この機能がサポートされていることを確認します。

## 27.6 カスタムデータソース (CDS) フレームワークのエラーメッセージ

カスタムデータソース (CDS) フレームワークのエラーメッセージには、以下のカテゴリが含まれます。

範囲	カテゴリ
CDS 00001 ~ CDS 00013	カスタムデータソースユーザインタフェースフレームワークのエラーメッセージ
CDS 10100 ~ CDS 10400	Web サービスカスタムデータソースプラグインのエラーメッセージ
CDS 15102 ~ CDS 15122	カスタムデータソースフレームワークのエラーメッセージ

## 27.6.1 カスタムデータソースユーザインタフェースフレームワークのエラーメッセージ

### 27.6.1.1 選択されたファイル拡張子は正しくありません。(CDS 00001)

#### 原因

ファイルの拡張子が、予想外または以前に選択されたファイルと異なります。

#### 対処方法

正しいファイルが選択されているか確認します。

### 27.6.1.2 ファイルにアクセスできません。(CDS 00002)

#### 原因

不正なファイルパスが入力されました。

#### 対処方法

正しいパスが入力されているか確認します。

### 27.6.1.3 ファイルが存在しません。(CDS 00003)

#### 原因

指定されたパスにファイルが存在しません。

#### 対処方法

有効なパスとファイル名が指定されたか確認します。

#### **27.6.1.4** 選択されたファイルはディレクトリです。(CDS 00004)

##### **原因**

入力されたパスは、ファイルではなくディレクトリを指しています。

##### **対処方法**

正しいファイル名を入力します。

#### **27.6.1.5** データソースの処理中にエラーが発生しました。プラグインに無効な操作があります。(CDS 00005)

##### **原因**

プラグインがすべてのデータソースパラメータを取得できません。

##### **対処方法**

ログをチェックして、プラグインコードが正しく動作していることを確認します。

#### **27.6.1.6** プラグインのユーザインタフェースでエラーが発生しました。(CDS 00006)

##### **原因**

プラグインユーザインタフェースでエラーが発生しました。

##### **対処方法**

ログをチェックして、プラグインコードが正しく動作していることを確認します。

### **27.6.1.7** 更新済みの入力にアクセス中にエラーが発生しました。(CDS 00007)

#### **原因**

プラグインから取得されたデータソースパラメータへのアクセス中にエラーが発生しました。

#### **対処方法**

ログをチェックして、プラグインコードが正しく動作していることを確認します。

### **27.6.1.8** この名前のオブジェクトがすでに存在します。(CDS 00008)

#### **原因**

この名前を持つ別のオブジェクトが存在します。

#### **対処方法**

値が一意になるようオブジェクトの名前を変更します。

### **27.6.1.9** この名前のクエリがすでに存在します。(CDS 00009)

#### **原因**

この名前のクエリがもう 1 つ存在します。

#### **対処方法**

値が一意になるようクエリの名前を変更します。

### **27.6.1.10** インストールで問題が検出されました。確認して、もう一度実行してください。(CDS 00010)

#### 原因

インストール中に問題が検出されました。

#### 対処方法

インストール設定を確認します。詳細については、ドキュメンテーションを参照してください。

### **27.6.1.11** データソースの処理中にエラーが発生しました。(CDS 00011)

#### 原因

データソースの特定時に問題が検出されました。

#### 対処方法

ログを確認して、詳細エラーメッセージを取得します。

### **27.6.1.12** 要求されたアクションを完了できませんでした。(CDS 00012)

#### 原因

エラーが検出されました。

#### 対処方法

ログを確認して、詳細エラーメッセージを取得します。

### **27.6.1.13** プラグイン表示コンポーネントを取得できませんでした。(CDS 00013)

#### **原因**

プラグインコンポーネントの取得時にエラーが発生しました。

#### **対処方法**

ログを確認して、詳細エラーメッセージを取得します。プラグインコードが正しいことを確認します。

## **27.6.2 Web サービスカスタムデータソースプラグインのエラーメッセージ**

### **27.6.2.1** 要求されたアクションの処理中にエラーが発生しました。(CDS 10100)

#### **原因**

要求されたアクションの処理中に予想外のエラーが発生しました。

#### **対処方法**

エンタープライズ管理者にお問い合わせください。

### **27.6.2.2** 出力メッセージパネルで何も選択されていません。(CDS 10101)

#### **原因**

ユーザが、出力メッセージパネルからクエリ用のフィールドを選択していません。

#### **対処方法**

レポートに表示する必要のあるフィールドを、出力メッセージパネルから選択します。

### **27.6.2.3** Web サービスの呼び出し中にエラーが発生しました。{0} (CDS 10200)

#### **原因**

Web サービスの呼び出し中にエラーが発生しました。

#### **対処方法**

エンタープライズ管理者にお問い合わせください。

### **27.6.2.4** Web サービス "{0}" の実行エラー。(CDS 10201)

#### **原因**

入力パラメータが正しくないため、Web Service Endpoint を呼び出せませんでした。

#### **対処方法**

Web サービスの呼び出し中に正しい値を入力します。

### **27.6.2.5** Web サービスプラグインのインスタンス化中にエラーが発生しました。(CDS 10202)

#### **原因**

Web サービスプラグインの拡張記述子が、正しい dstype を返しませんでした。

#### **対処方法**

管理者に問い合わせ、問題を修正してください。



### **27.6.2.6** 解析の例外: 入力された WSDL の種類または構造がサポートされていません。(CDS 10203)

#### **原因**

WSDL の構造が、Web サービスのカスタムデータソースプラグインによってサポートされていません。

#### **対処方法**

サポートされている WSDL についてはドキュメンテーションを参照してください。

### **27.6.2.7** Microsoft タイプの名前空間を参照する WSDL はサポートされていません。(CDS 10204)

#### **原因**

<http://microsoft.com/wsdl/types/> 名前空間を参照する WSDL はサポートされていません。

#### **対処方法**

WSDL を変更するか、サポートされている WSDL を選択します。

### **27.6.2.8** 循環参照を含む WSDL はサポートされていません。(CDS 10205)

#### **原因**

WSDL タイプ定義に、循環参照が含まれています。

#### **対処方法**

WSDL を変更するか、サポートされている WSDL を選択します。

### **27.6.2.9** 種類の定義がない WSDL はサポートされていません。(CDS 10206)

#### 原因

WSDL の <types> タグにタイプ定義が含まれていません。

#### 対処方法

WSDL を変更するか、サポートされている WSDL を選択します。

### **27.6.2.10** ターゲット URL の形式が正しくないため、SOAP 要求を送信できません。(CDS 10207)

#### 原因

WSDL でこのサービスのために記述されている SOAP アクションターゲット URL の形式が正しくありません。

#### 対処方法

WSDL を変更するか、サポートされている他の WSDL を選択します。

### **27.6.2.11** エンコードされたメッセージを使用する WSDL はサポートされていません。(CDS 10208)

#### 原因

WSDL に、エンコードされたメッセージを予想する操作があります。

#### 対処方法

WSDL を変更するか、サポートされている他の WSDL を選択します。

### **27.6.2.12** 応答の解析中にエラーが検出されました。(CDS 10400 )

#### **原因**

サーバからの応答の解析中にエラーが検出されました。

#### **対処方法**

製品ログを確認して、エラーの実際の原因を入手します。

## **27.6.3 カスタムデータソースフレームワークのエラーメッセージ**

### **27.6.3.1** カスタムデータプロバイダを作成または更新できません: 指定されたソースから情報を取得できません。(CDS 15102)

#### **原因**

入力されたソースから情報の取得中に予想外のエラーが発生しました。

#### **対処方法**

管理者に問い合わせ、エラーを解決してください。

### **27.6.3.2** カスタムデータプロバイダを作成または更新できません: 指定されたソースから構造情報を取得できません。(CDS 15103)

#### **原因**

入力されたソースから構造情報の取得中に予想外のエラーが発生しました。

#### **対処方法**

プラグインのサポートに問い合わせ、プラグインが正しく動作しているか確認します。問題が解決しない場合は、SAP のサポートにお問い合わせください。

### 27.6.3.3 カスタムデータプロバイダを作成または更新できません: データセットで反復子を作成できません。(CDS 15104)

#### 原因

データセットでの反復子の構築中に予想外のエラーが発生しました。

#### 対処方法

プラグインのサポートに問い合わせ、プラグインが正しく動作しているか確認します。問題が解決しない場合は、サポートにお問い合わせください。

### 27.6.3.4 カスタムデータプロバイダを作成または更新できません: データソースプラグイン管理で問題が発生したため、要求されたアクションを完了できません。(CDS 15106)

#### 原因

予期せぬエラーが発生しました。

#### 対処方法

サポートに問い合わせ、エラーを解決してください。

### 27.6.3.5 このファイルでクエリを作成または更新できません: ファイルシステムにファイル "{filename}" がありません。(CDS 15107)

#### 原因

指定された場所にファイルがありません。

#### 対処方法

ソースファイルに指定されたファイルパスが正しいか確認します。

### 27.6.3.6 カスタムデータプロバイダを作成または更新できません: パスが無効です。(CDS 15108)

#### 原因

指定されたファイルパスが正しくありません。

#### 対処方法

ソースに指定されたパスが正しいか確認します。

### 27.6.3.7 カスタムデータプロバイダを作成または更新できません: 構造の取得中に無効な情報が取得されました。(CDS 15109)

#### 原因

データプロバイダから構造情報の取得中に予想外のエラーが発生しました。

#### 対処方法

プラグインのサポートに問い合わせ、プラグインが正しく動作しているか確認します。問題が解決しない場合は、サポートにお問い合わせください。

### 27.6.3.8 カスタムデータプロバイダを作成または更新できません: この要求に一致するデータソースプラグインが見つかりませんでした。(CDS 15110)

#### 原因

プラグイン情報の取得中にエラーが発生しました。

#### 対処方法

プラグイン実装が、必要なプラグイン情報を正しく返すか確認します。プラグインの設定方法については、ドキュメンテーションを参照してください。

### **27.6.3.9** カスタムデータプロバイダを作成または更新できません: この要求に一致するデータソースプラグインをインスタンス化できませんでした。(CDS 15111)

#### **原因**

プラグインのインスタンス化中にエラーが発生しました。

#### **対処方法**

プラグインの詳細情報および、プラグイン MANIFEST ファイルの モジュールパス が正しいことを確認します。プラグインの設定方法については、ドキュメンテーションを参照してください。

### **27.6.3.10** カスタムデータプロバイダを作成または更新できません: この要求のためのデータソースプラグインのデータプロバイダをインスタンス化できませんでした。(CDS 15112)

#### **原因**

プラグイン拡張のデータプロバイダコンポーネントのインスタンス化中にエラーが発生しました。

#### **対処方法**

プラグインのサポートに問い合わせ、プラグインが正しく動作しているか確認します。

### **27.6.3.11** カスタムデータプロバイダを作成または更新できません: データサンプルを取得中にエラーが発生しました。(CDS 15113)

#### **原因**

データプロバイダからのサンプルデータの取得中にプラグインでエラーが発生しました。

#### **対処方法**

プラグインのサポートに問い合わせ、プラグインが正しく動作しているか確認します。

### **27.6.3.12** カスタムデータプロバイダからデータを取得できません: データ反復子の作成中にエラーが発生しました。(CDS 15114)

#### 原因

データ反復子の取得中にプラグインでエラーが発生しました。

#### 対処方法

プラグインのサポートに問い合わせ、プラグインが正しく動作しているか確認します。

### **27.6.3.13** カスタムデータプロバイダからデータを取得できません: 反復子でデータを取得中にエラーが発生しました。(CDS 15115)

#### 原因

反復子でのデータの取得中にプラグインでエラーが発生しました。

#### 対処方法

プラグインのサポートに問い合わせ、プラグインが正しく動作しているか確認します。

### **27.6.3.14** カスタムデータプロバイダを作成または更新できません: 構造の取得中にデータソースプラグインによってサポートされないオブジェクトタイプが指定されました。(CDS 15116)

#### 原因

プラグインにサポートされていないデータタイプがあります。

#### 対処方法

サポートされているデータタイプの一覧のドキュメンテーションを参照してください。

### **27.6.3.15** カスタムデータプロバイダを作成または更新できません: セッションを開くときに内部エラーが発生しました。(CDS 15117)

#### 原因

セッションを開くときにプラグインでエラーが発生しました。

#### 対処方法

プラグインのサポートに問い合わせ、プラグインが正しく動作しているか確認します。

### **27.6.3.16** カスタムデータプロバイダを作成または更新できません: 指定されたパスのソースが保護されています。(CDS 15118)

#### 原因

入力されたソースファイルがパスワードで保護されているファイルのため、プラグインが続行できませんでした。

#### 対処方法

プラグインのドキュメンテーションを参照してください。

### **27.6.3.17** カスタムデータプロバイダを作成または更新できません: 指定された URL が無効です。(CDS 15119)

#### 原因

URL が無効なためプラグインが続行できませんでした。

#### 対処方法

プラグインのドキュメンテーションを参照してください。



### **27.6.3.18** カスタムデータプロバイダを作成または更新できません: 指定された URL が見つかりません。(CDS 15120)

#### 原因

入力された URL が見つからなかったため、プラグインが続行できませんでした。

#### 対処方法

プラグインのドキュメンテーションを参照してください。

### **27.6.3.19** 指定されたソースのカスタムデータプロバイダと通信できません。(CDS 15121)

#### 原因

予期せぬエラーが発生しました。

#### 対処方法

サポートに問い合わせ、エラーを解決してください。

### **27.6.3.20** 問題が発生しました。要求されたアクションを完了できません。(CDS 15122)

#### 原因

予期せぬエラーが発生しました。

#### 対処方法

サポートに問い合わせ、エラーを解決してください。

## 28 HTTP エラー

### 28.1 HTTP 404 エラーのトラブルシューティング

次のいずれかの理由で HTTP 404 エラーが発生する可能性があります。

- 要求したページがエラーで削除されている。Web アプリケーションのデプロイメントフォルダを確認して、要求したページが存在するか確認します。
- Web アプリケーションが正しく設定されていない。この Web アプリケーションの他のページにアクセスしてみてください。この Web アプリケーションにアクセスできない他のページがある場合は、Web アプリケーションの設定に問題があります。Web アプリケーションのデプロイメント手順を参照して設定ファイルが有効であることを確認するか、Web アプリケーションを再デプロイします。
- システム設定が正しくない。たとえば、メモリの制限に達していたり、ODBC DSN が正しく設定されていない場合があります。その結果、例外がスローされ、必要なページが生成されていません。Web サーバのログまたは Web アプリケーションのログでエラーや例外に関するレコードがないか確認してください。
- 環境変数が正しく設定されていない。この環境変数は、システム変数、または Web アプリケーションサーバで定義されている変数である可能性があります。その場合、必要なライブラリまたはクラスが見つかりません。Web サーバのログまたは Web アプリケーションのログでエラーや例外に関するレコードがないか確認してください。Web アプリケーションのデプロイメント手順を参照して、必要な手順をすべて実行しているか確認してください。
- Web アプリケーションが破損している。Web サーバを再起動してください。問題が解決しない場合は、Web アプリケーションを再デプロイします。
- 要求したリソースが、動的に生成された、特殊な拡張子名（.cwr など）を使用する Web ページである場合、対応するアプリケーションマッピングが正しく設定されていないために、Web サーバが要求を処理できない場合があります。Web サーバの設定を確認してください。
- 関連する Web アプリケーションがデプロイされていない、または正しく設定されていない可能性がある。Web アプリケーションのデプロイメント手順を参照して、Web アプリケーションの設定を確認してください。
- 以前は正常に機能していたページが機能しなくなった場合、Web サーバ側に加えた変更が、このページまたはその親 Web アプリケーションに悪影響を与えている場合があります。たとえば、アドオン Web アプリケーションを既存の Web アプリケーションの上に適用している場合、元の設定が破損する可能性があります。Web サーバに最近加えた変更を確認してください。

### 28.2 HTTP 500 エラーの解決

次のいずれかの理由で HTTP 500 エラーが発生する可能性があります。

- 必要なコンポーネントがインストールされていないか、正しく設定されていない。その結果、Web サーバ側で例外がスローされます。Web サーバのログまたは Web アプリケーションのログでエラーや例外に関するレコードがないか確認してください。Web アプリケーションのデプロイメント手順を参照して、必要なコンポーネントがすべてインストールされているか確認してください。

- 環境変数が正しく設定されていない。この環境変数は、システム変数、または Web アプリケーションサーバで定義されている変数である可能性があります。その場合、必要なライブラリまたはクラスが見つかりません。Web サーバのログまたは Web アプリケーションのログでエラーや例外に関するレコードがないか確認してください。Web アプリケーションのデプロイメント手順を確認して、必要な手順をすべて実行しているか確認してください。
- セキュリティ設定が正しく設定されていない。たとえば、必要なシステムユーザアカウントが設定されていない場合があります。Web サーバのログまたは Web アプリケーションのログでエラーや例外に関するレコードがないか確認してください。Web アプリケーションのデプロイメント手順を参照して、必要なセキュリティ設定がすべて有効であるか確認してください。
- Web アプリケーションが正しく設定されていないか、破損している可能性がある。Web サーバを再起動してください。問題が解決しない場合は、Web アプリケーションを再デプロイします。
- 以前は正常に機能していたページが機能しなくなった場合、Web サーバ側に加えた変更が、このページまたはその親 Web アプリケーションに悪影響を与えている場合があります。たとえば、アドオン Web アプリケーションを既存の Web アプリケーションの上に適用している場合、元の設定が破損する可能性があります。Web サーバに最近加えた変更を確認してください。
- 要求したリソースが、動的に生成された、特殊な拡張子名（.cwr など）を使用する Web ページである場合、対応するアプリケーションマッピングが正しく設定されていないために、Web サーバが要求を処理できない場合があります。Web サーバの設定を確認してください。
- Web サービスが Microsoft IIS である場合は、マイクロソフトサポート技術情報の次の記事を参照してください。<http://support.microsoft.com/kb/311766> ➡

## 29 プラットフォーム検索エラーメッセージ

プラットフォーム検索エラーメッセージは、次のカテゴリに分類されます。

範囲	カテゴリ
PSS 0001 - PSS 07002	プラットフォーム検索エラー

### 29.1 新しいドキュメント抽出バージョンは実装されていません。システム管理者に連絡してください (PSS 00002)。

#### 原因

内部クラス定義およびその実装と一致しないビルドに、バージョンが異なるバイナリが存在しています。このエラーは、バイナリが設定パラメータと一致しない、または設定パラメータがバックエンドで変更されたために発生した可能性があります。

#### アクション

管理者に連絡してください。

### 29.2 不明な理由のため {0} の抽出に失敗しました。システム管理者に連絡してください (PSS 00003)。

#### 原因

ドキュメントがサードパーティライブラリによってサポートされていないか、または捕捉されなかった例外により抽出に失敗しました。

#### アクション

スタックトレースとログファイルを用意して管理者に連絡してください。

## 29.3 `SI_ID {0}` のオブジェクトの抽出中に、メモリ不足エラーが発生しました。ドキュメントのサイズを確認してください。(PSS 00004)

### 原因

リポジトリにアップロードされたサードパーティのドキュメントサイズが、プラットフォーム検索設定の `LARGE_OBJECT_SIZE_CUTOFF` として定義された限度を超えています。

### 対処方法

ドキュメントのサイズを縮小、または分割してから再度アップロードしてください。または、管理者に連絡して設定パラメータを変更してください。

## 29.4 複数のインデックスエンジンが有効になっているため、インデックス化に失敗しました (PSS 01001)。

### 原因

プラットフォーム検索アプリケーションの CMC アプリケーションで、複数の検索エンジンが有効化されています。

### アクション

プラットフォーム検索アプリケーションの CMC アプリケーションでは、1つの検索エンジンのみを有効にしてください。

## 29.5 インデックス化に失敗しました。インデックスエンジンがすべて無効な可能性があります (PSS 01002)。

### 原因

プラットフォーム検索の CMC アプリケーションで、検索エンジンが有効化されていません。

## 対処方法

プラットフォーム検索アプリケーションの CMC アプリケーションでは、少なくとも 1 つの検索エンジンを有効にしてください。

## 29.6 インデックスの準備が完了していません。しばらくしてから実行してください (PSS 01004)。

### 原因

インデックスが生成されていません。

### アクション

インデックスが生成されるまで待機する必要があります。CMC のプラットフォーム検索アプリケーションのプロパティのページを参照し、インデックス化されたドキュメント数を調べることもできます。

## 29.7 文字列が一般的です。具体的な文字列を指定してください (PSS 02001)。

### 原因

このエラーは、唯一の検索キーワードとして "a"、"this"、"in"、ストップワード、または 1 文字などの一般文字列を使用したためと思われます。

### アクション

一般文字列を、"sales" などのより特定でき、完全な検索キーワードに置き換えてください。

#### ① 注記

フレーズ検索でこれらの一般文字列を使用すると、このエラーメッセージは生成されません。

## 29.8 検索文字列が空です。有効な空以外の検索文字列を入力してください (PSS 02003)。

### 原因

検索文字列が空または空白です。

### アクション

有効な検索文字列を入力してください。

## 29.9 検索文字列が無効です。有効な検索文字列を入力してください。有効な検索構文については、ユーザガイドを参照してください (PSS 02004)。

### 原因

検索文字列の構文が無効です。

### アクション

有効な検索文字列を入力してください。有効な検索構文については、*BI 起動パッド*ユーザガイドのプラットフォーム検索のテクニックのトピックを参照してください。

## 29.10 サーバはビジー状態です。後でもう一度実行してください (PSS 02005)。

### 原因

サーバに検索リクエストを処理する十分なシステムリソースがありません。

### アクション

後でもう一度検索してください。

## 29.11 {0} のサマリの抽出に失敗しました。(PSS 03002)

### 原因

ドキュメント集計内のプロパティ値を抽出できません。

### 対処方法

集計情報に抽出可能なコンテンツがあることを確認してください。

## 29.12 {0} のコンテンツの抽出に失敗しました。(PSS 03004)

### 原因

このエラーは、以下の問題が原因で発生した可能性があります。

- 構造化されたサードパーティのドキュメントのヘッダ、フッタ、またはセルなどのコンポーネントの一部に、抽出不可テキストまたはオブジェクトが含まれている場合。
- RTF および TXT ドキュメントに構造化されていないテキストが含まれている場合。

### 対処方法

ドキュメント内のすべてのコンポーネントに抽出可能テキストまたはオブジェクトが含まれているかどうかを確認してください。

## 29.13 ドキュメントがコメントなしの PPT である、パスワード保護されている、またはドキュメントに抽出不可能なコンテンツが含まれている可能性があるため、SI\_ID {0} のオブジェクトを抽出できません。(PSS 03007)

### 原因

ドキュメントに以下のいずれかの問題があるため、プラットフォーム検索で SI\_ID<ID> を含むオブジェクトを抽出できませんでした。



- 空のコメントの PPT である
- パスワードで保護されている
- 抽出できないテキストまたはオブジェクトが挿入されている
- サードパーティライブラリがドキュメントにアクセスできない

## 対処方法

ドキュメントに上記の問題がないことを確認してください。このような問題が発生した場合は、これらのコンポーネントを削除し、ドキュメントを再度アップロードしてください。

**29.14** PDF に抽出不可能なコンテンツが含まれている可能性があるため、SI\_ID {0} のオブジェクトを抽出できません。(PSS 03008)

## 原因

PDF ドキュメントに抽出できないテキストまたはオブジェクトが含まれています。

## 対処方法

ドキュメントに抽出できないテキストまたはオブジェクトが含まれていないことを確認します。

**29.15** ドキュメントに抽出不可能なコンテンツが含まれている、またはドキュメントが大きすぎる可能性があるため、SI\_ID {0} のオブジェクトを抽出できません。(PSS 03009)

## 原因

このエラーは、SI\_ID<ID>を含むドキュメントに抽出できないテキストまたはオブジェクトが含まれるか、またはドキュメントサイズが大きいために発生した可能性があります。

## 対処方法

ドキュメントに抽出できないテキストまたはオブジェクトが含まれず、ドキュメントサイズが非常に大きくないことを確認してください。

## 29.16 RASFactory サービスが返されませんでした。(PSS 04001)

### 原因

Report Application Server (RAS) がダウンしているか、または Crystal Reports を処理する SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォームに Crystal Report Server サービスを使用できません。

### 対処方法

Report Application Service (RAS) を実行中で、設定が正しく、Crystal Report 固有のサービスが正しく機能していることを確認してください。Crystal レポートを BI 起動パッドで開いてみて、RAS が使用できることを確認してください。

## 29.17 サポートされていない InfoObject {0} が Crystal Reports 抽出に送られました。(PSS 04003)

### 原因

InfoObject は、レポートとして InfoObject プロパティを含む非 Crystal レポートとして識別されます。

### 対処方法

ドキュメントを Crystal Report Designer で開き、再度保存します。

## 29.18 Crystal レポートドキュメント {0} を終了できませんでした (PSS 04005)。

### 原因

Report Application Server (RAS) がダウンしているか、またはレポートで使用する InfoObject が壊れています。

## アクション

RAS が継続して実行中であることを確認します。エラーが継続する場合は、抽出用にレポートを再送信するか、システム管理者に連絡してください。

### **29.19** RAS はドキュメント {0} を開くことができませんでした。(PSS 04006)

#### 原因

InfoObject が Crystal Report オブジェクトとして識別されていません。

#### 対処方法

適切な Crystal Report オブジェクトを、Crystal Report Designer および BI 起動パッドで開いて、表示できるリポ  
ジトリにアップロードします。

### **29.20** 例外のため、ユニバースのコンテキストを作成できませんでした: {0}。(PSS 05001)

#### 原因

Web Intelligence プロセッシングサーバがダウンしています。

#### 対処方法

Web Intelligence プロセッシングサーバが実行中であることを確認します。

### **29.21** DataSourceElement の値を取得できませんでした。DataSourceName が作成され、接続が利用 可能であることを確認してください (PSS 05002)。

#### 原因

最初は正常に接続設定された後の、データベース接続の失敗。

## アクション

データベース接続に問題がないことを確認してください。このデータソースに作成されたデータソース名 (DSN) の接続が正しく設定されたかどうかを確認します。

**29.22** ユニバース {0} のビジネスレイヤを作成できませんでした。コンテキストのエラーまたはコアサービスが使用できないことが原因である可能性があります。(PSS 05003)

## 原因

このエラーは、以下のいずれかの問題が原因で発生した可能性があります。

- データソース詳細が Web Intelligence プロセッシングサーバから受領されていません。
- データソース名 (DSN) が不正、またはデータベース接続が無効です。
- Web Intelligence プロセッシングサーバがダウンしています。

## 対処方法

Web Intelligence プロセッシングサーバが実行中であり、DSN 接続が正常に機能していることを確認します。

**29.23** Interactive Analysis 処理サーバがダウンしている可能性があります。ドキュメントインスタンスを作成できません。(PSS 06002)

## 原因

Web Intelligence プロセッシングサーバまたはサービスがダウンしています。

## 対処方法

Web Intelligence プロセッシングサーバが実行中で、Interactive Analysis ドキュメントを作成する権限があることを確認します。このドキュメントを BI 起動パッドで開いてみます。

**29.24** 新しいドキュメント抽出バージョンは実装されていません。システム管理者に連絡してください  
(PSS 06004)。

## 原因

プラットフォーム検索では、Interactive Analysis ドキュメントのサポートされていないバージョンで使用了コンテンツを含むドキュメントはサポートされていません。

## アクション

Interactive Analysis ドキュメントのサポートされていないバージョンのコンテンツを削除します。

**29.25** Web Intelligence ドキュメント {0} を終了できませんでした (PSS 06005)。

## 原因

このエラーは Web Intelligence Processing Server がダウンしているため発生した可能性があります。

## アクション

Web Intelligence Processing Server が実行中であることを確認します。このドキュメントを BI 起動パッドで開いてみます。

**29.26** Web Intelligence サーバがドキュメント {0} を開けませんでした。(PSS 06006)

## 原因

Web Intelligence プロセッシングサーバがダウンしています。

## アクション

Web Intelligence プロセッシングサーバが実行中で、Interactive Analysis ドキュメントを表示する権限があることを確認します。このドキュメントを BI 起動パッドで開いてみます。

### **29.27** Web Intelligence レポートに適切なユニバース/接続情報が含まれていません。(PSS 06007)

#### 原因

ユニバースまたはデータベース接続情報が不正、または使用できません。

## アクション

ユニバースまたはデータベース接続情報を使用できることを確認します。

### **29.28** Explorer 検索サーバがダウンしている可能性があります。結果を作成できません (PSS 07001)。

#### 原因

Explorer 検索サーバがダウンまたは無効化されています。

## アクション

Explorer 検索サーバを再起動し、実行中であることを確認します。

### **29.29** 情報スペースの取得中に内部エラーが発生しました。(PSS 07002)

#### 原因

このエラーは内部エラーが原因で発生した可能性があります。

## 対処方法

後でもう一度検索してください。

## 30 モニタリングエラーメッセージ

モニタリングエラーメッセージは、次のカテゴリに分類されます。

範囲	カテゴリ
MON00001- MON00057	モニタリングエラー

### 30.1 プローブの実行中にエラーが発生しました (MON00001)

#### 原因

プローブスケジュールサービスが実行されていないか、内部エラーの原因となる例外が発生している可能性があります。

#### 対処方法

プローブの履歴ページのスケジュールステータスリンクまたはログファイルで詳細を確認してください。

### 30.2 プローブの一覧表示中にエラーが発生しました (MON00002)

#### 原因

このエラーは、プローブの一覧を取得するクエリの失敗によって発生した可能性があります。

#### 対処方法

詳細については、Web サーバログを参照してください。



### 30.3 ID {0} のファイルからプローブ結果を読み込み中にエラーが発生しました (MON00003)

#### 原因

Input File Repository Server が実行されていない可能性があるため、プローブの実行結果レポートを取得できませんでした。

#### 対処方法

File Repository Server が実行されているか、および実行インスタンスが履歴ページから削除されていないかを確認してください。

### 30.4 プロパティ/スケジュール/履歴アクションの URL の取得中にエラーが発生しました (MON00004)

#### 原因

このエラーは、URL を取得するクエリの失敗によって発生した可能性があります。

#### 対処方法

Web サーバログで詳細を確認してください。

### 30.5 プローブの一覧のページ番号付け中にエラーが発生しました (MON00006)

#### 原因

このエラーは、ページ内の一連のプローブを取得するクエリの失敗によって発生した可能性があります。

#### 対処方法

Web サーバログで詳細を確認してください。

## 30.6 {0} は有効な {1} 値ではありません (MON00007)

### 原因

入力パラメータとして入力された値が、期待されるデータ型 (文字列値または論理値など) と異なります。

### 対処方法

入力パラメータとして期待されるタイプの値を入力してください。

## 30.7 リクエストの実行中に例外が発生しました (MON00008)

### 原因

このエラーは内部の問題が原因で発生した可能性があります。

### 対処方法

Web サーバログで詳細を確認してください。

## 30.8 データベースからトレンドデータの取得中にエラーが発生しました (MON00009)

### 原因

モニタリングサービスが実行されていないか、トレンドデータベースからのトレンドデータの取得中にエラーが発生した可能性があります。

### 対処方法

モニタリングサービスが実行中であることを確認してください。ログで詳細を確認してください。

## 30.9 監視の一覧作成中にエラーが発生しました (MON00010)

### 原因

このエラーは、監視の一覧を取得するクエリの失敗によって発生した可能性があります。

### 対処方法

Web サーバログで詳細を確認してください。

## 30.10 監視 {0} の詳細を取得中にエラーが発生しました (MON00011)

### 原因

このエラーは、監視の詳細を取得するクエリの失敗によって発生した可能性があります。

### 対処方法

Web サーバログで詳細を確認してください。

## 30.11 監視 {0} のステータスを取得中にエラーが発生しました。(MON00012)

### 原因

このエラーは、監視のステータスを取得するクエリの失敗によって発生した可能性があります。

### 対処方法

Web サーバログで詳細を確認してください。

## 30.12 監視 {0} の作成中にエラーが発生しました (MON00013)

### 原因

モニタリングサービスが実行されていないか、データベースへの監視のコミット中にクエリが失敗した可能性があります。

### 対処方法

モニタリングサービスを開始してください。サービスがすでに実行中である場合は、Web サーバログで詳細を確認してください。

## 30.13 監視 {0} の削除中にエラーが発生しました (MON00014)

### 原因

モニタリングサービスが実行されていないか、データベースからの監視の削除中にクエリが失敗した可能性があります。

### 対処方法

モニタリングサービスを開始してください。サービスがすでに実行中である場合は、Web サーバログで詳細を確認してください。

## 30.14 監視 {0} のコピーを作成中にエラーが発生しました (MON00015)

### 原因

モニタリングサービスが実行されていないか、データベースへのコピーされた監視のコミット中にクエリが失敗した可能性があります。

## 対処方法

モニタリングサービスを開始してください。サービスがすでに実行中である場合は、Web サーバログで詳細を確認してください。

### **30.15** 監視 {0} を編集中にエラーが発生しました (MON00016)

#### 原因

モニタリングサービスが実行されていないか、データベースへの修正された監視のコミット中にクエリが失敗した可能性があります。

## 対処方法

モニタリングサービスを開始してください。サービスがすでに実行中である場合は、Web サーバログで詳細を確認してください。

### **30.16** 監視の一覧のページ番号付け中にエラーが発生しました (MON00017)

#### 原因

このエラーは、ページ内の一連の監視を取得するクエリの失敗によって発生した可能性があります。

## 対処方法

Web サーバログで詳細を確認してください。

### **30.17** 監視 {0} をお気に入りとして登録中にエラーが発生しました (MON00018)

#### 原因

このエラーは、監視をお気に入りとして登録するクエリの失敗によって発生した可能性があります。

## 対処方法

Web サーバログで詳細を確認してください。

### **30.18** 最近のアラートを取得中にエラーが発生しました (MON00019)

#### 原因

モニタリングサービスが実行されていないか、実行中にエラーが発生した可能性があります。

## 対処方法

モニタリングサービスが実行中であることを確認してください。ログで詳細を確認してください。

### **30.19** 監視 {0} のアラートを取得中にエラーが発生しました (MON00020)

#### 原因

モニタリングサービスが実行されていないか、実行中にエラーが発生した可能性があります。ユーザにアラートを表示する権限がない可能性があります。

## 対処方法

モニタリングサービスが実行中であること、およびユーザに適切な権限があることを確認してください。詳細については、ログを確認してください。

### **30.20** アラートの削除中にエラーが発生しました (MON00021)

#### 原因

ユーザにアラートを削除する権限がないか、モニタリングサービスが実行されていないか、または実行中にエラーが発生した可能性があります。

## 対処方法

モニタリングサービスが実行中であること、およびユーザに適切な権限があることを確認してください。詳細については、ログを確認してください。

### **30.21** アラートの全ページ数を取得中にエラーが発生しました (MON00022)

#### 原因

モニタリングサービスが実行されていないか、実行中にエラーが発生した可能性があります。

#### 対処方法

モニタリングサービスが実行中であることを確認してください。詳細については、ログを確認してください。

### **30.22** アラート数と共に監視を取得中にエラーが発生しました (MON00023)

#### 原因

モニタリングサービスが実行されていないか、実行中にエラーが発生した可能性があります。

#### 対処方法

モニタリングサービスが実行中であることを確認してください。詳細については、ログを確認してください。

### **30.23** アラートが確認されたプロパティを設定中にエラーが発生しました (MON00024)

#### 原因

ユーザにアラートを確認済みとして登録する権限がないか、モニタリングサービスが実行されていないか、またはモニタリングサービスの実行中にエラーが発生した可能性があります。

## 対処方法

モニタリングサービスが実行中であること、およびユーザに適切な権限があることを確認してください。詳細については、ログを確認してください。

### **30.24** 既読に変更されたアラートの設定中にエラーが発生しました (MON00025)

#### 原因

ユーザにアラートを開封済みとして登録する権限がないか、モニタリングサービスが実行されていないか、または実行中にエラーが発生した可能性があります。

## 対処方法

モニタリングサービスが実行中であること、およびユーザに適切な権限があることを確認してください。詳細については、ログを確認してください。

### **30.25** サーバは起動していません (MON00026)

#### 原因

AdaptiveProcessingServer (またはモニタリングサービスをホストするサーバ) が実行されていません。

## 対処方法

サーバを再起動します。

### **30.26** 不明なエラーです (MON00027)

#### 原因

不明なエラーです。



## 対処方法

モニタリングサービスが実行中であることを確認してください。ログファイルで詳細を確認してください。

### **30.27** KPI の取得中にエラーが発生しました (MON00028)

#### 原因

このエラーは、リポジトリからの値の取得中にクエリが失敗したことによって発生した可能性があります。

## 対処方法

Web サーバログで詳細を確認してください。

### **30.28** マネージドエンティティの更新中にエラーが発生しました (MON00029)

#### 原因

管理エンティティの最新表示中にエラーが発生しました。

## 対処方法

Central Management Server (CMS) を再起動します。

### **30.29** 監視の有効化中にエラーが発生しました (MON00030)

#### 原因

モニタリングサービスが実行されていないか、実行中にエラーが発生した可能性があります。

## 対処方法

モニタリングサービスが実行中であることを確認してください。ログファイルで詳細を確認してください。

### **30.30** タイムアウト値をゼロまたは負の値にすることはできません (MON00031)

#### 原因

タイムアウト値としてゼロまたは負の値が入力されたため、プローブは実行されません。

## 対処方法

有効なタイムアウト値を入力してください。

### **30.31** タイムアウト値が正しくありません (MON00032)

#### 原因

タイムアウト値が正しくないため、プローブは実行されません。

## 対処方法

有効なタイムアウト値を入力してください。

### **30.32** 入力パラメータタイプ "{0}" が認識できません (MON00033)

#### 原因

入力パラメータタイプが無効です。

## 対処方法

有効な入力パラメータを指定してください。有効な入力タイプは、文字列値や論理値などです。

### **30.33** 入力パラメータが正しくありません: {0} (MON00034)

#### 原因

入力パラメータが正しくありません。

#### 対処方法

有効な入力パラメータを指定してください。

### **30.34** プロープ InfoObject の取得中にエラーが発生しました (MON00035)

#### 原因

プロープ InfoObject の取得中にエラーが発生しました。プロープオブジェクトが削除されたか、正しくないプロープ ID が渡された可能性があります。

#### 対処方法

適切なプロープ詳細を指定していることを確認してください。

### **30.35** プロープ InfoObject が見つかりませんでした (MON00036)

#### 原因

プロープ InfoObject が見つかりません。プロープオブジェクトが削除されたか、正しくないプロープ ID が渡された可能性があります。

## 対処方法

プローブが使用可能で、ユーザに適切な権限があることを確認してください。

### **30.36** 以下の引数には {0} がありません (MON00037)

#### 原因

必須の引数がありません。

## 対処方法

必須の引数を指定してください。

### **30.37** 監視 {0} の無効化または有効化中にエラーが発生しました (MON00039)

#### 原因

モニタリングサービスが実行されていないか、クエリの失敗によって内部エラーが発生している可能性があります。

## 対処方法

Web サーバログで詳細を確認してください。

### **30.38** モニタリングサービスが開始されていないか、開始に失敗した可能性があります。サービスステータスをチェックしてください (MON00041)。

#### 原因

モニタリングサーバまたはモニタリングサービスが実行されていない可能性があります。

## 対処方法

モニタリングサーバおよびモニタリングサービスが実行されていることを確認します。

### **30.39** プロープの実行中に例外が発生しました (MON00042)。

#### 原因

プロープの実行中にエラーが発生しました。入力パラメータの設定が正しくないことが原因である可能性があります。

## 対処方法

プロープパラメータが適切に設定されているかどうか確認してください。

### **30.40** 応答の書式設定中に例外が発生しました (MON00044)。

#### 原因

HTTP 要求によって表示用に返された応答の形式が正しくありません。これは、要求に対する応答の作成中に例外が発生したことが原因である可能性があります。

## 対処方法

Web サーバログで詳細を確認してください。

### **30.41** ユーザの一覧表示中にエラーが発生しました (MON00045)。

#### 原因

このエラーは、管理者とモニタリングユーザのリストを取得するクエリの失敗によって発生した可能性があります。

## 対処方法

Web サーバログで詳細を確認してください。

### **30.42** KPI の詳細の取得中にエラーが発生しました。(MON00046)

#### 原因

このエラーは、リポジトリからの値の取得中にクエリが失敗したことによって発生した可能性があります。

## 対処方法

Web サーバログで詳細を確認してください。

### **30.43** 同期されたライブデータの取得中にエラーが発生しました (MON00047)。

#### 原因

このエラーは内部の問題が原因で発生した可能性があります。

## 対処方法

モニタリングサービスをホストするサーバを再起動してください。

### **30.44** 監視ステータスの取得中にエラーが発生しました (MON00048)。

#### 原因

このエラーは、監視のステータスを取得するクエリの失敗によって発生した可能性があります。

## 対処方法

Web サーバログで詳細を確認してください。

### **30.45** プローブの実行結果レポートの取得中にエラーが発生しました (MON00049)

## 原因

File Repository Server が実行されていないか、実行結果 (インスタンス) が削除された可能性があります。

## 対処方法

File Repository Server が実行中であることを確認するか、履歴ページを最新表示して、実行結果が削除されていないかどうかを調べます。

### **30.46** プローブの保存中にエラーが発生しました (MON00050)

## 原因

このエラーは、プローブの保存中にクエリが失敗したか、プローブが削除されたことによって発生した可能性があります。

## 対処方法

プローブが削除されていないことを確認してください。Web サーバログで詳細を確認してください。

### **30.47** プローブのプロパティの表示中にエラーが発生しました (MON00051)

## 原因

このエラーは、プローブプロパティの取得中にクエリが失敗したことによって発生した可能性があります。

## 対処方法

プローブが削除されていないこと、および Web サーバが実行中であることを確認してください。Web サーバログで詳細を確認してください。

### **30.48** アプリケーションのプロパティの保存中にエラーが発生しました (MON00052)。

## 原因

このエラーメッセージは内部の問題が原因で発生した可能性があります。

## 対処方法

入力された値が正しいことを確認してください。エラーが解決されない場合は、Web サーバログを確認してください。

### **30.49** アプリケーションのプロパティを表示中にエラーが発生しました (MON00053)。

## 原因

このエラーは内部の問題が原因で発生した可能性があります。

## 対処方法

Web サーバログで詳細を確認してください。

### **30.50** データベースバックアップタスクの実行中にエラーが発生しました (MON00054)

## 原因

モニタリングサービスが実行されていないか、内部エラーが発生している可能性があります。



## 対処方法

モニタリングサービスが実行中であることを確認してください。ログで詳細を確認してください。

### **30.51** 派生メトリクスの詳細の取得中にエラーが発生しました (MON00055)

#### 原因

モニタリングサービスが実行されていないか、派生したメトリクス式が無効であるか、または内部エラーが発生している可能性があります。

## 対処方法

モニタリングサービスが実行中であることを確認してください。ログファイルで詳細を確認してください。

### **30.52** 派生メトリクスの編集中にエラーが発生しました (MON00056)

#### 原因

モニタリングサービスが実行されていないか、内部エラーが発生している可能性があります。

## 対処方法

モニタリングサービスが実行中であることを確認してください。詳細については、ログを確認してください。

### **30.53** 監視の無効化中にエラーが発生しました (MON00057)

#### 原因

このエラーは内部の問題が原因で発生した可能性があります。

## 対処方法

監視リストを最新表示して、監視がすでに無効になっているかどうかを確認してください。モニタリングサービスが実行されているかどうかを確認してください。モニタリングサービスをホストするサーバを再起動することもできます。

### **30.54** アラートの取得中にエラーが発生しました。(MON00058)

#### 原因

モニタリングサービスが実行されていないか、実行中にエラーが発生した可能性があります。

## 対処方法

モニタリングサービスが実行中であることを確認してください。詳細についてはログを確認してください。

### **30.55** 派生メトリクスの作成中にエラーが発生しました。(MON00059)

#### 原因

モニタリングサービスが実行されていないか、内部エラーの原因となる例外が発生している可能性があります。

## 対処方法

モニタリングサービスが実行中であることを確認してください。詳細についてはログを確認してください。

### **30.56** ダッシュボードに表示するため KPI を設定中にエラーが発生しました。(MON00060)

#### 原因

モニタリングアプリケーションオブジェクトに対する KPI の設定中にエラーが発生した可能性があります。クエリの失敗が原因である可能性があります。

## 対処方法

Web サーバログで詳細を確認してください。

### **30.57** メトリクスでドリルダウンを取得中にエラーが発生しました。(MON00061)

## 原因

内部エラーの原因となる例外が発生している可能性があります。この例外は、メトリクスに関連するインスタンスの取得に使用されるクエリの失敗によって発生した可能性があります。

## 対処方法

Web サーバログで詳細を確認してください。

### **30.58** 監視 {0} を KPI として登録中にエラーが発生しました。(MON00062)

## 原因

内部エラーの原因となる例外が発生している可能性があります。この例外は、監視を KPI として登録するために使用されるクエリの失敗によって発生した可能性があります。

## 対処方法

Web サーバログで詳細を確認してください。

### **30.59** スクリプトファイルをプローブにアップロード中にエラーが発生しました。(MON00063)

## 原因

内部エラーの原因となる例外が発生している可能性があります。この例外は、クエリの失敗か、またはプローブへのファイルのアップロード中における I/O 例外によって発生した可能性があります。

## 対処方法

Web サーバログで詳細を確認してください。

**30.60** `-scriptbased` 引数の入力として、コマンドラインまたはスクリプトファイルのどちらかを選択してください。両方のオプションを選択することはできません。(MON00064)

## 原因

スクリプトベースのプロープに対して渡されたパラメータが、CLI で正しく使用されていません。

## 対処方法

`-scriptbased` 引数の入力として、コマンドラインとスクリプトファイルの両方ではなく、そのどちらかを選択します。

**30.61** スクリプトベースプロープの引数: {0} が正しい形式で入力されていません (MON00065)

## 原因

スクリプトベースプロープの入力の書式が正しくありません。

## 対処方法

書式 `key1=value` を使用してください。

**30.62** スクリプトベースプロープの引数: {0} が見つかりません。(MON00066)

## 原因

スクリプトベースプロープの入力の書式が正しくありません。必要な入力の1つが見つかりません。

## 対処方法

CommandLine=<文字列のコマンド>|ScriptUpload=<絶対パスのファイル名>

### **30.63** 入力パラメータ {0} の値が見つかりません。(MON00067)

#### 原因

入力パラメータの必須値の1つが見つかりません。

#### 対処方法

必要なすべての入力パラメータを入力します。

### **30.64** マネージドエンティティのヘルスステータスを取得できません。(MON00068)

#### 原因

マネージドエンティティのヘルスステータスを取得できません。

#### 対処方法

モニタリングサービスをホストするサーバを再起動してください。

### **30.65** 階層を取得できません。(MON00069)

#### 原因

モニタリングサービスがダウンしている可能性があります。

## 対処方法

モニタリングサービスをホストするサーバを再起動してください。

### **30.66** プローブの作成中にエラーが発生しました。(MON00070)

#### 原因

内部エラーの原因となる例外が発生している可能性があります。この例外は、プローブの作成中におけるクエリの失敗によって発生した可能性があります。

## 対処方法

最新表示し、プローブが作成されているかどうかを確認します。作成されていない場合は、再試行します。Webサーバログで詳細を確認してください。

### **30.67** プローブの削除中にエラーが発生しました。(MON00071)

#### 原因

内部エラーの原因となる例外が発生している可能性があります。この例外は、プローブの作成中におけるクエリの失敗によって発生した可能性があります。

## 対処方法

最新表示し、プローブが削除されているかどうかを確認します。削除されていない場合は、再試行します。Webサーバログで詳細を確認してください。

## 30.68 トポロジーノードの監視を取得できません。(MON00072)

### 原因

監視が存在しない可能性があります。

### 対処方法

待機してから、モニタリングサービスをホストするサーバを再起動してください。

## 30.69 InfoStore の画像のクエリ中にエラーが発生しました (MON00073)

### 原因

内部エラーの原因となる例外が発生している可能性があります。この例外は、特定のプラグインの種類に対する画像の取得に使用されるクエリの失敗によって発生した可能性があります。

### 対処方法

Web サーバログで詳細を確認してください。

## 30.70 同じ名前の監視がすでにあります {0} (MON00074)

### 原因

指定された名前の監視がすでに存在します。



### 対処方法

監視に対して別の名前を使用します。

# 重要免責事項および法的情報

## ハイパーリンク

リンクの一部は、アイコンやマウスオーバーテキストで分類されています。これらのリンクから、追加の情報を得ることができます。アイコンについて。

-  このアイコンが付いたリンク: SAP がホストしているものではない Web サイトに移動します。これらのリンクを使用することで、お客様は (お客様と SAP との契約書に別段の明示的な記載がない限り) 以下のことに同意することになります。
  - リンク先のサイトのコンテンツが SAP のドキュメンテーションではないこと。お客様は、この情報に基づいて SAP に対する製品クレームを推断することはできません。
  - SAP が、リンク先のサイトのコンテンツについて同意することも反対することもなく、また SAP がその利用可能性や正確性について保証しないこと。SAP は、かかるコンテンツの使用により発生した損害が、SAP の重大な過失又は意図的な違法行為が原因で発生したものでない限り、その損害に対して一切責任を負いません。
-  このアイコンが付いたリンク: 当該の特定の SAP 製品又はサービスのドキュメンテーションから離れ、SAP がホストしている Web サイトに移動します。これらのリンクを使用することで、お客様は (お客様と SAP との契約書に別段の明示的な記載がない限り)、この情報に基づいて SAP に対する製品クレームを推断することはできないことに同意します。

## 外部プラットフォームでホストされているビデオ

一部のビデオは、サードパーティのビデオホスティングプラットフォームに置かれている場合があります。SAP では、これらのプラットフォームに保存されているビデオが将来にわたって利用できると保証することはできません。また、これらのプラットフォームにホストされている、いかなる広告またはその他のコンテンツ (関連ビデオまたは同じサイトでホストされている別のビデオに移動する場合など) については、SAP の管理外であり責任を負いません。

## ベータおよびその他の試験的機能

試験的機能は、SAP が将来のリリースを保証する正式に提供される機能の範囲外です。これは、試験的機能は、SAP により通知なく理由の如何を問わず随時変更される場合があることを意味します。試験的機能は、本稼働使用のためのものではありません。お客様は、試験的機能を実際の運用環境で、又は十分なバックアップがとられていないデータとともに、デモンストレーション、テスト、試験、評価その他の方法で使用してはなりません。

試験的機能の目的は、早期にフィードバックを得ることで、それに応じて顧客の皆様やパートナーが将来の製品に影響を与えることを可能にすることです。SAP コミュニティなどにおいてフィードバックを提供することで、お客様は、投稿物や二次的著作物の知的財産権が SAP の独占的所有物であり続けることを承認することになります。

## コード例

ソフトウェアのコーディングやコードスニペットはすべて、例です。それらは、本稼働使用のためのものではありません。コード例は、構文や表現規則を分かりやすく説明し視覚化することのみを目的としています。SAP は、コード例の正確性や完全性について保証しません。SAP は、コード例の使用により発生した過誤や損害が、SAP の重大な過失又は意図的な違法行為が原因で発生したものでない限り、損害に対して一切責任を負いません。

## 偏見のない表現

SAP は、ダイバーシティ & インクルージョンの文化を支持しています。SAP の文書では、可能な限り、文化、民族性、ジェンダー、および障がいの有無を問わず、すべての人々に対する偏見を伴わない表現を採用します。



© 2024 SAP SE or an SAP affiliate company. All rights reserved.

本書のいかなる部分も、SAP SE 又は SAP の関連会社の明示的な許可なくして、いかなる形式でも、いかなる目的にも複製又は伝送することはできません。本書に記載された情報は、予告なしに変更されることがあります。

SAP SE 及びその頒布業者によって販売される一部のソフトウェア製品には、他のソフトウェアベンダーの専有ソフトウェアコンポーネントが含まれています。製品仕様は、国ごとに変わる場合があります。

これらの文書は、いかなる種類の表明又は保証もなしで、情報提供のみを目的として、SAP SE 又はその関連会社によって提供され、SAP 又はその関連会社は、これら文書に関する誤記脱漏等の過失に対する責任を負うものではありません。SAP 又はその関連会社の製品及びサービスに対する唯一の保証は、当該製品及びサービスに伴う明示的保証がある場合に、これに規定されたものに限られます。本書のいかなる記述も、追加の保証となるものではありません。

本書に記載される SAP 及びその他の SAP の製品やサービス、並びにそれらの個々のロゴは、ドイツ及びその他の国における SAP SE（又は SAP の関連会社）の商標若しくは登録商標です。本書に記載されたその他のすべての製品およびサービス名は、それぞれの企業の商標です。

商標に関する詳細の情報や通知については、<https://www.sap.com/japan/about/legal/trademark.html> をご覧ください。